

# オニキシベ4遺跡

—厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 8—

2014.3

厚真町教育委員会

カラー図版1



1. 厚幌ダム湛水区域内空撮 (S→)

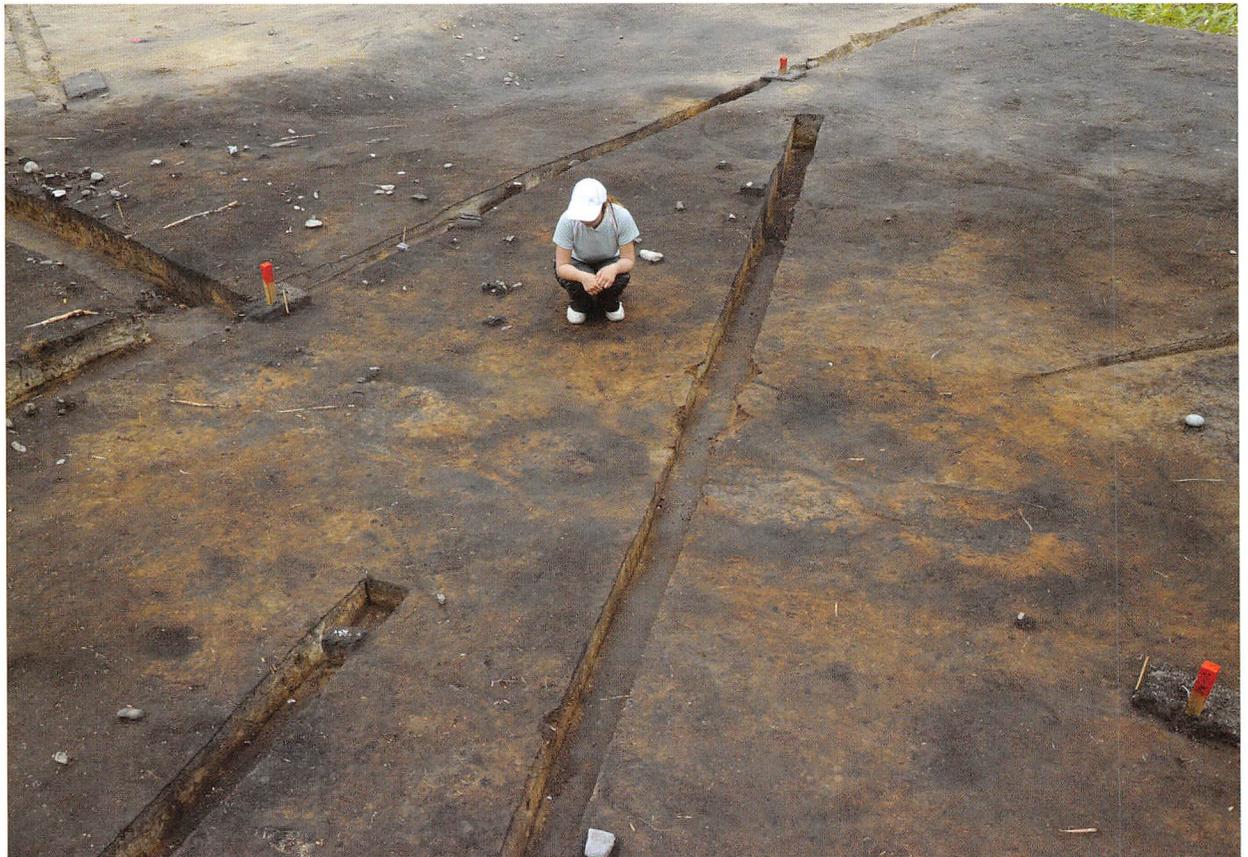


2. 調査区Ⅲ層上面検出 (W→)

## カラー図版2



1. ⅢH-01及び周辺遺物出土状態 (SE→)



2. ⅢF-12(右)~16(左)検出 (S→)

カラー図版3



1. ⅢH-02及び掘り上げ土検出(奥左からⅢH-01・ⅢB-01・ⅢBB-03) (SW→)



2. ⅢH-02遺物出土状態 (S→)

カラー図版4



1. 擦文土器集合



2. ⅢB-01石英質岩集合

## 序 文

厚真町は、胆振・日高地区屈指の豊かな水田地帯を有する大いなる田園都市であります。この穀倉地帯を潤す厚真川は夕張山地の南端を源として流れ、農作物への恩恵を授ける大切な河川でもあります。この豊かな厚真川と豊かな“ふるさと厚真”を更なる発展へと進めるため、農業用水確保と治水対策を主な柱とした多目的ダム「厚幌ダム」が平成7年度に本格着工されました。

さて本書はこの厚幌ダム建設に先駆けて沈み行く地域に残された埋蔵文化財の記録保存を目的として発掘調査されたオニキシベ4遺跡の調査報告書であります。本書は平成24年度の発掘成果を記載するもので、約4,300年前の縄文時代の竪穴式住居跡や約900年の住居跡など多数見つかっています。特に900年前の土器や石器、住居跡は北海道の歴史における「ミッシング・リンク」に迫るものであり、先住民族であるアイヌ民族の歴史を探るうえでも大変に貴重な資料とも思われます。

今後は、これらの貴重な埋蔵文化財を地域の教育的資源、文化的財産として広く普及、活用を推し進めてまいりたいと思う所存でございます。また本書が広く埋蔵文化財の保護並びに調査・研究の一助となれば幸いに存じます。

最後となりましたが、調査・整理・報告にあたり御指導、御支援を賜りました関係諸氏ならびに関係機関に、真に厚く、感謝申し上げる次第であります。

平成26年3月

厚真町教育委員会

教育長 兵頭 利彦

## 例 言

1. 本書は、平成 24 年度に行った厚幌ダム建設事業に伴い発掘調査されたオニキシベ4 遺跡（登載番号：J-13-89）の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、北海道胆振総合振興局室蘭建設管理部の委託を厚真町教育委員会が受託した。
3. 調査・整理（分担）は以下の体制で行った。  
調査担当者：荻野幸男・乾 哲也 調査補助員：松井 昭 事務員：今村陽子  
測量技能作業員：畑嶋朝江 整備技能作業員：松本 稔 写図工：海津孝之  
発掘作業員 24 名 整理作業員 22 名  
荻野：縄文土器復元・拓影、遺構図作成  
松井：遺構図作成、遺構写真図版作成、礫石器実測、剥片石器実測校正遺物写真図版作成  
荻野：編集  
乾：各調査遺構調査・図面等作成指導・渉外
4. 本書の編集は奈良智法、乾、岩橋由久、宮塚義人の協力を得て荻野が行い、執筆は荻野、松井を中心に乾、宮塚義人、奈良が分担し文末に記す。
5. 関連諸科学の同定分析については、以下の機関および個人に依頼した。
  - ・AMS 法 <sup>14</sup>C 年代測定：株式会社 加速器分析研究所
  - ・動物遺存体同定：千歳市埋蔵文化財センター 高橋 理
  - ・炭化種子同定：プロジェクト・シーズ 椿坂恭代
  - ・花粉分析：アースサイエンス 株式会社 岡 孝雄
  - ・胎土分析：株式会社 第四紀研究所 井上 巖
  - ・金属製品保存処理・分析：岩手県立博物館 赤沼英男
  - ・石器石材同定：アースサイエンス 株式会社 加藤孝幸 米島真由子
6. 出土遺物の写真撮影：有限会社 写真事務所クリーク 佐藤雅彦
7. 剥片石器実測・写真、復元土器実測の一部を株式会社 トラスト技研に委託。
8. 地形測量委託・礫石器実測委託写真撮影：株式会社 シン技術コンサルに委託。
9. 調査及び整理事業には厚真町教育委員会 宮塚 翔、宮崎美奈子、服部一雄らの協力を得た。
10. 本調査によって得られた資料等は、厚真町教育委員会で保管している。
11. 調査・報告にあたって下記の機関および個人より御指導御協力を頂き、記して感謝申し上げます。

北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課、北海道胆振支庁、胆振総合振興局室蘭建設管理部、厚幌ダム建設事務所、公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター、東海大学文学部、札幌学院大学人文学部、千歳市埋蔵文化財センター、苫小牧市美術博物館、苫小牧駒澤大学、平取町沙流川歴史館、平取町立二風谷アイヌ文化博物館、札幌市埋蔵文化財センター、恵庭市教育委員会、新ひだか町教育委員会、日高町教育委員会、伊達市噴火湾文化研究所、厚真町幌内自治会、(株) 佐藤組

青野友哉、赤石慎三、天野哲也、右代啓視、大沼忠春、小野寺聡、長田佳宏、柏木大延、川内谷修、菅野修宏、木村 高、工藤研治、熊谷仁志、小針太志、小山卓臣、斉藤大朋、斉藤利男、榊田朋広、佐藤一夫、瀬川拓郎、鈴木将太、鈴木琢也、鈴木 信、仙庭伸久、高橋和樹、高島孝宗、田口 尚、田才雅彦、田中哲朗、千葉英一、塚田直哉、角田隆志、鶴丸俊明、豊田宏良、中田裕香、長沼 孝、長町章弘、西脇対名夫、畑 宏明、広田良成、

福井淳一、藤原秀樹、松田淳子、松本建速、松田宏介、三浦正人、三谷智宏、蓑島栄紀、宮塚義人、宗像公司、森岡健治、八重樫忠郎、藪中剛司。

## 凡例

1. 本書の遺構・遺物等について下記の略号を用いた。なお、層位がこれらの略号に付加している。

〔遺構〕 住居跡・竪穴式住居跡：H 土坑：P Tピット：TP 杭穴・杭跡：KP 住居内柱穴・炉跡：HP・HF 土坑（馬の墓）：IP 焼土：F 杭列跡杭穴：KPX 近現代の柱穴：CPX

〔遺物〕 土器：P 擦文土器：SP 続縄文土器：ZP 縄文土器：JP 剥片石器：FT 礫石器：ST 剥片（黒曜石・頁岩製）：FC 剥片（緑色泥岩・片岩）：SFC 礫：S 石製品：SP 炭化種子：SD

〔遺物等集中〕 遺物集中：B 土器片集中：PB 礫集中：SB 剥片集中：FCB 炭化物集中：CB (Ⅲ層) 獣骨集中・(Ⅴ層) 焼骨片集中：BB

2. 地層等について下記の略号を用いた。

〔堆積土〕 樽前 a 砂質降下火山灰：Ta-a 駒ヶ岳 c2 砂質降下火山灰：Ko-c2 樽前 b 降下軽石：Ta-b 有珠 b 降下火山灰：Us-b 白頭山-苫小牧火山灰：B-Tm 樽前 c 砂質降下軽石：Ta-c 樽前 d1 細礫質降下スコリア：Ta-d1 樽前 d2 中礫質降下軽石：Ta-d2.p 恵庭岳 a 降下軽石：En-a 黄褐色粘土質シルト（いわゆるローム）：L 攪乱：KR

〔色調〕 小山・竹原編著（1994）『新版 標準土色帳』に従った。

〔注記〕 土層注記は下記の略号を用いて、左側より混合比率の順列をつけている。また、混入土については（ ）内に粒径（単位：mm）、状態を記載した。

混入土の比率

A + B：A と B が同量比混じる A-B：A を主体に B が多量に混じる

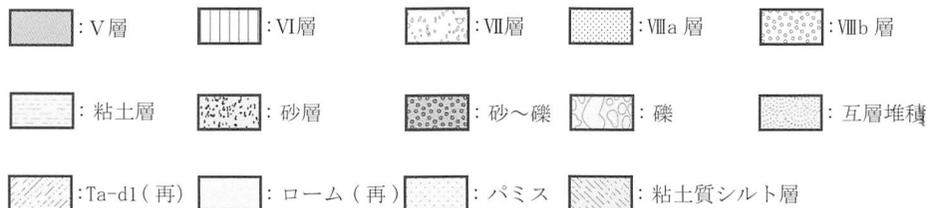
A = B：A を主体に B が少量 A≡B：A を主体に B が微量

φ：粒径（単位：mm） ↓：以下 （状態）：斑状に混じる・均一に混じる

〔層位〕 標準堆積層はローマ数字を用い、遺構覆土や風倒木攪乱などの二次的に堆積したものにはアラビア数字を用いた。また、一覧表中には下記の略号を用いている。

U：上位 M：中位 L：下位

〔Tピット〕 第Ⅱ章第2節のTピット堆積図には以下のトーンを用いた。



〔焼土・獣骨集中〕 被熱による土壌赤色化の度合い等の表現に以下のトーンを用いた。



3. 挿図は基本的に次のように縮尺を統一したが、異なるものについては図中スケールに縮尺を明記している。
- 基本土層：1/50、1/40 遺構周辺図：1/400、1/300、1/200 住居跡：1/60、1/40  
 住居跡に付属する柱穴その他の付属遺構：1/40、1/20 Tピット：1/40 集中区建物跡：1/50、1/40、1/20  
 土坑：1/40、1/20 杭列跡：1/250、1/50、1/20 焼土・灰集中：1/20 獣骨物集中：1/20、1/10  
 集中遺物出土状態：1/40、1/20、1/10 炭窯跡：1/100、1/60、1/40 コンクリート枡跡：1/60  
 土器実測図：1/3 土器拓影図：1/3 剥片石器・石斧・石製品・骨角器・金属製品実測図：1/2  
 礫石器実測図：1/3、1/4  
 遺構配置図：1/500、1/400 接合分布図：1/400、1/150、1/100、1/40、1/20
4. 遺構実測図中に以下の線種・トーンを用いている。
- 〔線種〕 ----- : オーバーハング — — — : トレンチ - - - - - : 推定線  
 〔柱穴〕 住居跡柱穴の断面図において、しまりの強い壁面に斜線を用いている。  
 〔断面〕  : 柱穴の壁面周辺が強くしまる部分
5. 土器・石器の挿図および写真図版の番号に後続する枝番号は同一個体表記である。
6. 遺物実測図中に以下の略号を用いている。
- 〔断面〕 V———V : たたき痕 |———| : 剥片石器 微細剥離 / 礫石器 擦り痕・滑沢面  
 〔平面〕  : 滑沢面範囲  : 被熱による赤色化/付着物範囲
7. 一覧表中の石材及びその他の材質については、下記の略号を用いる。下記の略号のうち石材は第VI章第7節で報告された石材同定結果の凡例と過年度の報告石材を合わせたものである。

Aga. : メノウ Amp. : 角閃岩 And. : 安山岩 Bl-Sch. : 青色片岩 Bs. : 玄武岩 Cha. : チャート  
 Con. : 礫岩 Da. : デイサイト Gbs. : 玄武岩 (緑色岩化) Gdo. : ドレライト (粗粒玄武岩、緑色岩化)  
 Gl-And. : ガラス質安山岩 Gra. : 花崗岩 Gr-Mud. : 緑色泥岩 Gr-Tu. : 緑色凝灰岩 Mud. : 泥岩  
 Me-Gab. : 変はんれい岩 Obs. : 黒曜石 Qu. : 石英岩 Qu-Sch. : 石英片岩 Sa. : 砂岩 Sch. : 片岩  
 Ser. : 蛇紋岩 Sh. : 頁岩 Si. : 珪化岩 Sl. : 粘板岩 Ssh. : 珪質頁岩 Tu. : 凝灰岩 Tu-Sa. : 凝灰質砂岩  
 Tul. : 滑石  
 Fe. : 鉄製品 Sn-Pb. : 錫鉛製品

## 本文目次

カラー	第6節 遺跡の位置と周辺の環境 …………… 14
1-1 厚幌ダム湛水区域内空撮	1. 厚真町の概要 …………… 14
1-2 調査区Ⅲ層上面検出	2. 遺跡の位置と周辺の環境 …………… 21
2-1 ⅢH-01 及び周辺遺物出土状態	3. 調査区内の地形と地質 …………… 24
2-2 ⅢF-12 (右) ～16 (左) 検出	
3-1 ⅢH-02 及び掘り上げ土検出	
3-2 ⅢH-02 遺物出土状態	
4-1 擦文土器集合	
4-2 ⅢB-01 石英質岩集合	
	<b>第Ⅱ章 擦文文化期の調査</b>
	第1節 住居跡と関連遺構 …………… 34
	第2節 集中区 …………… 81
	第3節 建物跡 …………… 93
	第4節 土坑 …………… 97
	第5節 焼土 …………… 98
	第6節 杭列跡 …………… 102
	第7節 集中出土遺物 …………… 113
	1. 土器 …………… 113
	2. 礫集中及び周辺の遺溝 …………… 116
	3. 礫集中 …………… 121
	第8節 擦文文化期包含層出土遺物 …………… 126
	1. 土器 …………… 126
	2. 礫石器 …………… 130
	3. 金属製品 …………… 130
	第9節 擦文文化期の調査成果と課題 …………… 135
	<b>第Ⅲ章 続縄文文化期の調査</b>
	第1節 続縄文文化期集中遺物及び 包含層出土遺物 …………… 137
	1. 土器集中 …………… 137
	2. 包含層出土遺物 …………… 137
	<b>第Ⅳ章 縄文時代の調査</b>
	第1節 竪穴住居跡 …………… 142
	第2節 集中区 …………… 150
	第3節 Tピット …………… 154
	第4節 土坑 …………… 163
	第5節 集中出土遺物 …………… 168
	1. 土器集中 …………… 168
序文	
例言	
凡例	
	<b>第Ⅰ章 調査の概要</b>
第1節 調査要項と体制 …………… 1	
1. 調査要項 …………… 1	
2. 調査体制 …………… 1	
第2節 調査に至る経緯 …………… 1	
1. 厚幌ダム建設事業 …………… 1	
2. 発掘調査までの経緯 …………… 2	
第3節 調査の方法 …………… 4	
1. 調査区の設定 …………… 4	
2. 準備工 …………… 5	
3. 包含層遺構の調査方法 …………… 6	
4. 整理作業 …………… 6	
第4節 遺物の分類 …………… 9	
1. 土器 …………… 9	
2. 剥片石器 …………… 10	
3. 礫石器 …………… 11	
第5節 調査結果の概要 …………… 12	
1. 擦文文化期 …………… 12	
2. 続縄文文化期 …………… 13	
3. 縄文時代 …………… 13	

2. 礫集中 ..... 175  
 3. 剥片集中 ..... 175  
 第6節 縄文時代包含層出土遺物 ..... 177  
 1. 土器 ..... 177  
 2. 剥片石器 ..... 184  
 3. 礫石器 ..... 186

第V章 近現代の調査

第1節 建物跡 ..... 201  
 第2節 土坑 ..... 201  
 第3節 炭窯跡 ..... 201  
 第4節 コンクリート枡 ..... 201

第VI章 自然科学的分析

第1節 オニキシベ4遺跡出土資料の  
 放射性炭素年代測定 ..... 207

第2節 オニキシベ4遺跡出土動物遺存体 ..... 212  
 第3節 オニキシベ4遺跡出土の植物種子 ..... 220  
 第4節 オニキシベ4遺跡における花粉分析 ..... 228  
 第5節 オニキシベ4遺跡出土土器の胎土分析 ..... 234  
 第6節 オニキシベ4遺跡出土環状金属製品の  
 自然科学的調査結果 ..... 245  
 第7節 オニキシベ4遺跡出土礫・石器の  
 石材同定 ..... 248

引用・参考文献 ..... 206  
 報告書抄録 ..... 321  
 奥付

写真図版

図版 ..... 255～319

挿 図 目 次

I 章

図 I-1 厚幌ダム建設事業関連  
 埋蔵文化財包蔵地位置図 ..... 3  
 図 I-2 試掘調査トレンチ位置図 ..... 5  
 図 I-3 グリッド網設定図 ..... 7  
 図 I-4 グリッド区分図 ..... 7  
 図 I-5 調査範囲・座標杭・包含層等断面実測  
 ・試掘杭位置図 ..... 8  
 図 I-6 厚真町内遺跡分布図 ..... 17  
 図 I-7 厚真川上流域と鶴川中流域の地形図 ..... 23  
 図 I-8 遺跡周辺地形図 ..... 25  
 図 I-9 基本土層柱状図 ..... 26  
 図 I-10 37 ライン断面図 ..... 27  
 図 I-11 V ライン断面図 ..... 29  
 図 I-12 30 ライン断面図 ..... 31  
 図 I-13 地滑り堆積層・洪水堆積層断面図 ..... 32

II 章

図 II-1 擦文文化期遺構配置図 ..... 35  
 図 II-2 III H-01 及び関連遺構配置図 ..... 37  
 図 II-3 III H-01 平面及び断面図 ..... 39  
 図 II-4 III P-03～05 断面図 ..... 41  
 図 II-5 III H-01 及び関連遺構接合分布図 ..... 42  
 図 II-6 III H-01 出土遺物 (1) ..... 43  
 図 II-7 III H-01 出土遺物 (2) ..... 44  
 図 II-8 III H-01 出土遺物 (3) ..... 45  
 図 II-9 III H-01 出土遺物 (4) ..... 46  
 図 II-10 III SB-07 出土石器 ..... 47  
 図 II-11 III B-01 平面図 ..... 54  
 図 II-12 III B-01 出土遺物 ..... 55  
 図 II-13 III BB-03・III KP-35～39  
 平面及び断面図 ..... 57  
 図 II-14 III BB-03 遺物出土状態微細図 ..... 59  
 図 II-15 III BB-03 出土遺物 ..... 60

図Ⅱ-16	ⅢSB-01 平面図	62	図Ⅱ-39	焼土平面及び断面図(2)	101
図Ⅱ-17	ⅢSB-01 出土遺物	63	図Ⅱ-40	杭列跡平面図	103
図Ⅱ-18	ⅢH-02 平面図	67	図Ⅱ-41	杭列跡平面及び断面図(1)	104
図Ⅱ-19	ⅢH-02 及び柱穴断面図	68	図Ⅱ-42	杭列跡平面及び断面図(2)	105
図Ⅱ-20	ⅢH-02 及び関連遺構配置図	69	図Ⅱ-43	杭列跡平面及び断面図(3)	106
図Ⅱ-21	ⅢH-02 及び関連遺構接合分布図	70	図Ⅱ-44	杭列跡平面及び断面図(4)	107
図Ⅱ-22	ⅢH-02 出土遺物(1)	71	図Ⅱ-45	杭列跡平面及び断面図(5)	108
図Ⅱ-23	ⅢH-02 出土遺物(2)	72	図Ⅱ-46	杭列跡平面及び断面図(6)	109
図Ⅱ-24	ⅢB-02 平面図	76	図Ⅱ-47	杭列跡平面及び断面図(7)	110
図Ⅱ-25	ⅢB-02 出土遺物	77	図Ⅱ-48	ⅢPB-01・02・08・10 平面図	115
図Ⅱ-26	ⅢSB-05 平面図	79	図Ⅱ-49	ⅢSB-02・ⅢPB-03 平面及び土器接合線図	117
図Ⅱ-27	ⅢBB-02 平面及び断面図	79	図Ⅱ-50	ⅢF-01・02・ⅢPB-03・ⅢSB-04 平面及び断面図	118
図Ⅱ-28	ⅢSB-05 出土遺物	79	図Ⅱ-51	ⅢSB-02 出土遺物(1)	119
図Ⅱ-29	集中区1 平面及び断面図 ・土器接合線図	83	図Ⅱ-52	ⅢSB-02 出土遺物(2)	120
図Ⅱ-30	ⅢPB-04・06 平面及び接合関係図	85	図Ⅱ-53	ⅢSB-04 出土遺物	124
図Ⅱ-31	集中区1 出土土器	86	図Ⅱ-54	擦文文化期包含層出土土器(1)	127
図Ⅱ-32	ⅢSB-03 平面及び出土礫石器	88	図Ⅱ-55	擦文文化期包含層出土土器(2)	128
図Ⅱ-33	ⅢSB-03 出土礫	89	図Ⅱ-56	擦文文化期土器接合線図	131
図Ⅱ-34	建物跡1 平面及び断面図	94	図Ⅱ-57	擦文文化期包含層出土礫石器(1)	133
図Ⅱ-35	建物跡2 平面及び断面図	95	図Ⅱ-58	擦文文化期包含層出土礫石器(2)	134
図Ⅱ-36	建物跡3 平面及び断面図	96	図Ⅱ-59	擦文文化期包含層出土金属製品	135
図Ⅱ-37	ⅢP-02 平面及び断面図	97			
図Ⅱ-38	焼土平面及び断面図(1)	100			

### Ⅲ章

図Ⅲ-1	続縄文文化期遺構配置図	138	図Ⅲ-3	続縄文文化期包含層出土遺物	140
図Ⅲ-2	ⅢPB-07・09 平面図	139			

### Ⅳ章

図Ⅳ-1	縄文時代遺構配置図	143	図Ⅳ-9	TP-12・13 平面及び断面図	159
図Ⅳ-2	VH-01 平面及び断面図	147	図Ⅳ-10	TP-14~16 平面及び断面図	160
図Ⅳ-3	VH-01 出土遺物	148	図Ⅳ-11	TP-17~19 平面及び断面図	161
図Ⅳ-4	集中区1 遺物接合分布及び断面図	151	図Ⅳ-12	VP-01~06 平面及び断面図	164
図Ⅳ-5	集中区1 出土遺物	152	図Ⅳ-13	VP-08~16 平面及び断面図	165
図Ⅳ-6	TP-01~04 平面及び断面図	156	図Ⅳ-14	VP-02~04 出土遺物	166
図Ⅳ-7	TP-05~08 平面及び断面図	157	図Ⅳ-15	VPB-02~05A・05B・09 平面図	169
図Ⅳ-8	TP-09・10 平面及び断面図	158	図Ⅳ-16	VPB-10・11 平面図	170

図IV-17 VPB-12・19・14 平面図 …………… 172  
 図IV-18 VPB-13・15 平面図 …………… 173  
 図IV-19 VPB-16～18 平面図 …………… 174  
 図IV-20 VPB-11・13・17 出土石器 …………… 175  
 図IV-21 VSB・VFCB 平面図 …………… 176  
 図IV-22 縄文時代包含層出土土器(1) …………… 178  
 図IV-23 縄文時代包含層出土土器(2) …………… 179  
 図IV-24 縄文時代包含層出土土器(3) …………… 180  
 図IV-25 縄文時代包含層出土土器(4) …………… 181  
 図IV-26 縄文時代包含層出土剥片石器 …………… 185  
 図IV-27 縄文時代包含層出土礫石器(1) …………… 188

図IV-28 縄文時代包含層出土礫石器(2) …………… 189  
 図IV-29 縄文時代包含層出土礫石器(3) …………… 190  
 図IV-30 縄文時代包含層出土礫石器(4) …………… 191  
 図IV-31 縄文時代包含層出土礫石器(5) …………… 192  
 図IV-32 縄文時代包含層出土礫石器(6) …………… 193  
 図IV-33 縄文時代包含層出土礫石器(7) …………… 194  
 図IV-34 縄文時代包含層出土礫石器(8) …………… 195  
 図IV-35 縄文時代包含層出土礫石器(9) …………… 196  
 図IV-36 縄文時代包含層出土礫石器(10) …………… 197  
 図IV-37 縄文時代土器接合線図 …………… 199

V章

図V-1 I層遺構配置図 …………… 202  
 図V-2 炭窯跡平面図 …………… 203

図V-3 炭窯跡断面図…………… 204  
 図V-4 コンクリート柁跡平面及び断面図・ 205

挿 表 目 次

I章

表 I-1 グリッド設定関係杭座標値一覧表 …… 7  
 表 I-2 オニキシベ4遺跡検出遺構一覧表 …… 13  
 表 I-3 オニキシベ4遺跡出土遺物一覧表 …… 13  
 表 I-4 厚真町内埋蔵文化財包蔵地一覧表(1)・ 18  
 表 I-5 厚真町内埋蔵文化財包蔵地一覧表(2)・ 19

II章

表 II-1 擦文文化期遺構群一覧表 …………… 33  
 表 II-2 IIIH-01 属性表 …………… 41  
 表 II-3 IIIH-01 付属炉属性表 …………… 41  
 表 II-4 III P-03～05 属性表 …………… 41  
 表 II-5 IIIH-01 柱穴属性表 …………… 41  
 表 II-6 IIISB-06・07 属性表 …………… 41  
 表 II-7 IIIH-01 出土土器属性表 …………… 48  
 表 II-8 IIIH-01・IIISB-07・III P-05  
 出土石器属性表 …………… 48  
 表 II-9 IIIH-01・IIISB-07 出土礫属性表 …… 49  
 表 II-10 III P-05・III F-13・15 出土礫属性表 … 50  
 表 II-11 IIISB-06 出土礫属性表 …………… 51  
 表 II-12 IIIB-01 属性表 …………… 55

表 II-13 IIIB-01 出土遺物属性表 …………… 56  
 表 II-14 IIIB-01 出土礫属性表 …………… 56  
 表 II-15 IIIBB-03 属性表 …………… 59  
 表 II-16 IIIKP-36～39 属性表 …………… 60  
 表 II-17 IIIBB-03 出土石器属性表 …………… 60  
 表 II-18 IIIBB-03 出土礫属性表 …………… 60  
 表 II-19 IIISB-01 属性表 …………… 62  
 表 II-20 IIISB-01 出土土器属性表 …………… 62  
 表 II-21 IIISB-01 出土礫属性表 …………… 64  
 表 II-22 IIIH-02 属性表 …………… 69  
 表 II-23 IIIH-02 付属炉属性表 …………… 69  
 表 II-24 III P-06～08 属性表 …………… 69  
 表 II-25 IIIH-02 柱穴属性表 …………… 69  
 表 II-26 IIIH-02 出土土器属性表 …………… 72  
 表 II-27 IIIH-02 出土石器属性表 …………… 72  
 表 II-28 IIIH-02 出土礫属性表 …………… 73  
 表 II-29 III P-06～08 礫属性表 …………… 75  
 表 II-30 IIIB-02 属性表 …………… 77  
 表 II-31 IIIB-02 出土土器属性表 …………… 77  
 表 II-32 IIIB-02 出土遺物属性表 …………… 77  
 表 II-33 IIIB-02 出土礫属性表 …………… 78

表II-34	ⅢSB-05・ⅢBB-02 属性表	79
表II-35	ⅢSB-05 出土土器属性表	79
表II-36	ⅢSB-05 出土礫属性表	80
表II-37	ⅢBB-02 出土礫属性表	80
表II-38	集中区1 土坑属性表	82
表II-39	集中区1 焼土属性表	82
表II-40	ⅢPB-06・ⅢSB-03 属性表	82
表II-41	集中区1 出土土器属性表	87
表II-42	ⅢF-08 出土礫属性表	87
表II-43	ⅢSB-03 出土石器属性表	87
表II-44	ⅢSB-03 出土礫属性表	90
表II-45	建物跡属性表	96
表II-46	建物跡柱穴属性表	97
表II-47	ⅢP-02 属性表	98
表II-48	ⅢP-02 出土礫属性表	98
表II-49	焼土属性表	101
表II-50	杭列跡属性表	111
表II-51	ⅢF-01・02 属性表	119
表II-52	ⅢPB・ⅢSB 属性表	121
表II-53	ⅢSB-02 出土土器属性表	121
表II-54	ⅢSB-02・04 出土石器属性表	121
表II-55	ⅢSB-02 出土礫属性表	122
表II-56	ⅢSB-04 出土礫属性表	125
表II-57	擦文文化期包含層出土土器属性表	129
表II-58	擦文文化期包含層出土遺物属性表	136

### Ⅲ章

表Ⅲ-1	土器集中属性表	137
------	---------	-----

表Ⅲ-2	統縄文文化期包含層出土土器属性表	141
表Ⅲ-3	統縄文文化期包含層出土石器 ・石製品属性表	141

### Ⅳ章

表IV-1	縄文時代遺構群一覧表	145
表IV-2	VH-01 属性表	149
表IV-3	VH-01 付属炉属性表	149
表IV-4	VH-01 柱穴属性表	149
表IV-5	VH-01 出土土器属性表	149
表IV-6	VH-01 出土石器属性表	149
表IV-7	集中区1 出土土器属性表	153
表IV-8	集中区1 出土遺物属性表	153
表IV-9	TP-01~10・12~19 属性表	162
表IV-10	VP-01~16 属性表	167
表IV-11	VP 出土土器属性表	167
表IV-12	VP 出土剥片石器属性表	167
表IV-13	土器集中属性表	171
表IV-14	VPB 出土石器属性表	175
表IV-15	VSB-01 属性表	176
表IV-16	VSB-01 出土礫属性表	176
表IV-17	剥片集中属性表	176
表IV-18	縄文時代包含層出土土器属性表	182
表IV-19	縄文時代包含層出土剥片石器属性表	186
表IV-20	縄文時代包含層出土石器属性表	198

### Ⅴ章

表V-1	近現代遺構群一覧表	201
------	-----------	-----

## 写真図版目次

図版 1-1	調査区Ⅲ層上面検出	255	図版 7-3	ⅢP-04 完掘	261
図版 1-2	調査区Ⅲ層完掘	255	図版 7-4	ⅢP-04 断面	261
図版 2-1	V層 25%調査完了	256	図版 7-5	ⅢP-05 完掘	261
図版 2-2	調査区東側V層完掘	256	図版 7-6	ⅢP-05 断面	261
図版 2-3	拡張区V層完掘	256	図版 7-7	ⅢH-01 北東側掘り上げ土断面	261
図版 3-1	V-45 区断面(Ⅲ~Ⅳ層)	257	図版 8-1	ⅢH-01 南西側掘り上げ土断面	262
図版 3-2	V-45 区断面(V~Ⅶ層)	257	図版 8-2	ⅢH-01・ⅢSB-06 検出	262
図版 3-3	AH-30 区断面(I~Ⅸ層)	257	図版 8-3	ⅢH-01・ⅢSB-07 検出	262
図版 3-4	AH-30 区断面(Ⅲ~Ⅳ層)	257	図版 8-4	礫石器出土状態	262
図版 3-5	Y-37 区断面(Ⅲ~Ⅳ層)	257	図版 8-5	ⅢH-01・ⅢB-01・ⅢBB-03 位置関係	262
図版 3-6	Y-37 区断面(V~Ⅶ層)	257	図版 9-1	ⅢSB-01 検出(1)	263
図版 4-1	AA・AB-43 区洪水堆積物断面	258	図版 9-2	ⅢSB-01 検出(2)	263
図版 4-2	AA-43 区洪水堆積物断面	258	図版 9-3	ⅢB-01 遺物出土状態(1)	263
図版 4-3	AG-37 区再堆積物断面	258	図版 9-4	ⅢB-01 遺物出土状態(2)	263
図版 4-4	AG-32 区地滑り堆積物検出	258	図版 9-5	ⅢB-01 遺物出土状態(3)	263
図版 4-5	AG-30 区周辺地滑り堆積物検出	258	図版 10-1	ⅢBB-03 検出	264
図版 4-6	AE・AF-32 区地滑り堆積物断面	258	図版 10-2	ⅢBB-03 鹿角・歯列出土状態	264
図版 4-7	AF-32 区地滑り堆積物断面	258	図版 10-3	ⅢBB-03 中手骨・中足骨 出土状態	264
図版 5-1	ⅢH-01 完掘及びⅢB-01 ・ⅢBB-03 位置関係	259	図版 10-4	ⅢBB-03 歯列出土状態(1)	264
図版 5-2	H P-03 断面	259	図版 10-5	ⅢBB-03 歯列出土状態(2)	264
図版 5-3	H P-15 断面	259	図版 11-1	ⅢKP-35~39 完掘	265
図版 5-4	H P-22 断面	259	図版 11-2	ⅢKP-35 断面	265
図版 5-5	H P-25 断面	259	図版 11-3	ⅢKP-36 断面	265
図版 5-6	H P-27 断面	259	図版 11-4	ⅢKP-37 断面	265
図版 5-7	H P-31 断面	259	図版 11-5	ⅢKP-38 断面	265
図版 5-8	H P-33(左)34(右) 断面	259	図版 11-6	ⅢKP-39 断面	265
図版 5-9	H P-35 断面	259	図版 12-1	ⅢH-02 完掘	266
図版 6-1	ⅢF-12(右)~16(左) 検出	260	図版 12-2	H P-01 断面	266
図版 6-2	ⅢF-12(右)~16(左) 断面	260	図版 12-3	H P-03 断面	266
図版 6-3	ⅢH-01 調査状況	260	図版 12-4	H P-04 断面	266
図版 6-4	ⅢF-16 燃焼面被覆黒色土層 (Ⅲbu)	260	図版 12-5	H P-06 断面	266
図版 6-5	ⅢF-15 断面	260	図版 12-6	H P-07 断面	266
図版 7-1	ⅢP-03 完掘	261	図版 12-7	H P-08 断面	266
図版 7-2	ⅢP-03 断面	261	図版 12-8	H P-09 断面	266
			図版 13-1	ⅢF-18・19 検出	267

図版 13-2	ⅢF-18・19 断面	267	図版 19-1	建物跡3完掘	273
図版 13-3	ⅢP-06 完掘	267	図版 19-2	ⅢKP-28 断面	273
図版 13-4	ⅢP-06 断面	267	図版 19-3	ⅢKP-29 断面	273
図版 13-5	ⅢP-07 完掘	267	図版 19-4	ⅢKP-30 断面	273
図版 13-6	ⅢP-07 断面	267	図版 19-5	ⅢKP-31 断面	273
図版 13-7	ⅢP-08 完掘	267	図版 19-6	ⅢKP-32 断面	273
図版 13-8	ⅢH-02 調査状況	267	図版 19-7	ⅢKP-34 断面	273
図版 14-1	ⅢH-02・ⅢSB-05・ⅢB-02 位置関係	268	図版 20-1	ⅢP-02 完掘	274
図版 14-2	ⅢSB-05 検出	268	図版 20-2	ⅢP-02 断面	274
図版 15-1	ⅢB-02 検出	269	図版 20-3	ⅢF-04 検出	274
図版 15-2	土器出土状態	269	図版 20-4	ⅢF-04 断面	274
図版 15-3	刀子出土状態	269	図版 20-5	ⅢF-05 検出	274
図版 15-4	シカ歯列出土状態	269	図版 20-6	ⅢF-05 断面	274
図版 15-5	ⅢB-02 調査状況	269	図版 20-7	ⅢF-06 検出	274
図版 16-1	ⅢF-08・ⅢSB-03 検出	270	図版 20-8	ⅢF-06 断面	274
図版 16-2	ⅢF-08 検出	270	図版 21-1	ⅢF-09 検出	275
図版 16-3	ⅢP-01(左)・ⅢF-08(右)断面	270	図版 21-2	ⅢF-09 断面	275
図版 16-4	ⅢSB-03 検出	270	図版 21-3	ⅢF-10 検出	275
図版 16-5	ⅢPB-06 検出	270	図版 21-4	ⅢF-10 断面	275
図版 16-5	ⅢPB-06 検出	270	図版 21-5	ⅢF-11A・B 検出	275
図版 17-1	建物跡1完掘	271	図版 21-6	ⅢF-11A・B 断面	275
図版 17-2	ⅢKP-01 断面	271	図版 21-7	ⅢF-17 検出	275
図版 17-3	ⅢKP-02 断面	271	図版 21-8	ⅢF-17 断面	275
図版 17-4	ⅢKP-03 断面	271	図版 22-1	ⅢF-20 検出	276
図版 17-5	ⅢKP-04 断面	271	図版 22-2	ⅢF-20 断面	276
図版 17-6	ⅢKP-05 断面	271	図版 22-3	ⅢF-21 検出	276
図版 17-7	ⅢKP-06 断面	271	図版 22-4	ⅢF-21 断面	276
図版 17-8	ⅢKP-07 断面	271	図版 22-5	ⅢF-22 検出	276
図版 17-9	ⅢKP-15 断面	271	図版 22-6	ⅢF-22 断面	276
図版 17-10	ⅢKP-16(右)・17(左)断面	271	図版 22-7	火打石出土状態	276
図版 18-1	建物跡2完掘	272	図版 22-8	環状錫製品出土状態	276
図版 18-2	ⅢKP-22 断面	272	図版 23-1	杭列跡A～C完掘(1)	277
図版 18-3	ⅢKP-23 断面	272	図版 23-2	杭列跡A～C完掘(2)	277
図版 18-4	ⅢKP-23 完掘	272	図版 24-1	杭列跡検出	278
図版 18-5	ⅢKP-24 断面	272	図版 24-2	ⅢKPX-248 断面	278
図版 18-6	ⅢKP-25 断面	272	図版 24-3	ⅢKPX-064～067 断面	278
図版 18-7	ⅢKP-26 断面	272	図版 24-4	ⅢKPX-076～079 断面	278
図版 18-8	ⅢKP-27 断面	272	図版 24-5	ⅢKPX-278・279 断面	278

図版 24-6	ⅢKPX-386～388・411 断面……………	278	図版 30-3	TP-03 完掘……………	284
図版 24-7	ⅢKPX-376～415 断面……………	278	図版 30-4	TP-03 断面……………	284
図版 24-8	杭列跡調査状況……………	278	図版 30-5	TP-04 断面……………	284
図版 25-1	ⅢPB-01 検出(1)……………	279	図版 30-6	TP-05 完掘……………	284
図版 25-2	ⅢPB-01 検出(2)……………	279	図版 30-7	TP-05 断面……………	284
図版 25-3	ⅢPB-02 検出(1)……………	279	図版 30-8	TP-06 完掘……………	284
図版 25-4	ⅢPB-02 検出(2)……………	279	図版 30-9	TP-06 断面……………	284
図版 25-5	ⅢPB-03 検出(1)……………	279	図版 31-1	TP-07 完掘……………	285
図版 25-6	ⅢPB-03 検出(2)……………	279	図版 31-2	TP-07 断面……………	285
図版 25-7	ⅢPB-08 検出……………	279	図版 31-3	TP-07. KP03 断面……………	285
図版 25-8	ⅢPB-10 検出……………	279	図版 31-4	TP-08 完掘……………	285
図版 26-1	ⅢF-01 断面……………	280	図版 31-5	TP-08 断面……………	285
図版 26-2	ⅢF-02 検出……………	280	図版 31-6	TP-09 完掘……………	285
図版 26-3	ⅢSB-02 検出(1)……………	280	図版 31-7	TP-09 断面……………	285
図版 26-4	ⅢSB-02 検出(2)……………	280	図版 31-8	TP-10 完掘……………	285
図版 26-5	ⅢSB-04 上層検出……………	280	図版 31-9	TP-10 断面……………	285
図版 26-6	ⅢSB-04 下層及びB-Tm 検出……………	280	図版 32-1	TP-12 完掘……………	286
図版 26-7	ⅢSB-02 調査状況……………	280	図版 32-2	TP-12 断面……………	286
図版 26-8	ⅢSB-04 調査状況……………	280	図版 32-3	TP-13 完掘……………	286
図版 27-1	VH-01 完掘……………	281	図版 32-4	TP-13 断面……………	286
図版 27-2	VH-01 床面土器出土状態……………	281	図版 32-5	TP-14 完掘……………	286
図版 27-3	VH-01 調査状況……………	281	図版 32-6	TP-14 断面……………	286
図版 27-4	VH-01 断面……………	281	図版 32-7	TP-15 完掘……………	286
図版 27-5	HP-01 断面……………	281	図版 32-8	TP-15 断面……………	286
図版 27-6	HP-02 断面……………	281	図版 33-1	TP-16 完掘……………	287
図版 27-7	HP-03 断面……………	281	図版 33-2	TP-16 断面……………	287
図版 28-1	集中区 1 検出……………	282	図版 33-3	TP-17 完掘……………	287
図版 28-2	VPB-01 検出……………	282	図版 33-4	TP-17 断面……………	287
図版 28-3	VPB-07 検出……………	282	図版 33-5	TP-18 完掘……………	287
図版 28-4	VBB-01 検出……………	282	図版 33-6	TP-18 断面……………	287
図版 28-5	VBB-01 断面……………	282	図版 33-7	TP-19 完掘……………	287
図版 29-1	低位面 T ピット群位置関係……………	283	図版 33-8	TP-19 断面……………	287
図版 29-2	TP-01 完掘……………	283	図版 34-1	VP-01 完掘……………	288
図版 29-3	TP-01 断面……………	283	図版 34-2	VP-01 断面……………	288
図版 29-4	TP-01. KP01 断面……………	283	図版 34-3	VP-02 土器出土状態……………	288
図版 29-5	TP-01. KP02 断面……………	283	図版 34-4	VP-02 断面……………	288
図版 30-1	TP-02 完掘……………	284	図版 34-5	VP-03(奥)・TP-02(手前) 検出……………	288
図版 30-2	TP-02 断面……………	284	図版 34-6	VP-03(左)・TP-02(右) 断面……………	288

図版 34-7	V P-05 完掘	288	図版 40-2	炭窯跡完掘(1)	294
図版 34-8	V P-05 断面	288	図版 40-3	炭窯跡完掘(2)	294
図版 35-1	V P-06 完掘	289	図版 40-4	炭窯跡断面	294
図版 35-2	V P-06 断面	289	図版 40-5	炭窯跡焚口断面	294
図版 35-3	V P-08 完掘	289	図版 40-6	炭窯跡煙道完掘	294
図版 35-4	V P-08 断面	289	図版 40-7	I P-01~07 馬骨出土状態	294
図版 35-5	V P-09 完掘	289	図版 40-8	コンクリート柵断面	294
図版 35-6	V P-09 断面	289	図版 41	III H-01 出土遺物	295
図版 35-7	V P-11 完掘	289	図版 42-1	III H-01 出土礫	296
図版 35-8	V P-11 断面	289	図版 42-2	III SB-06・07、III BB-03 出土遺物	296
図版 36-1	V P-12 完掘	290	図版 43-1	III B-01 出土遺物	297
図版 36-2	V P-12 断面	290	図版 43-2	III SB-01 出土遺物	297
図版 36-3	V P-14 完掘	290	図版 43-3	III H-02 出土遺物	297
図版 36-4	V P-14 断面	290	図版 44-1	III H-02 出土礫	298
図版 36-5	V P-15 完掘	290	図版 44-2	III B-02 出土遺物	298
図版 36-6	V P-15 断面	290	図版 44-3	III SB-05 出土遺物	298
図版 36-7	V P-16 完掘	290	図版 45	集中区 1 出土遺物	299
図版 36-8	V P-16 断面	290	図版 46-1	III SB-03 出土遺物	300
図版 37-1	V PB-02 検出(1)	291	図版 46-2	III SB-03 出土礫	300
図版 37-2	V PB-02 検出(2)	291	図版 47-1	III SB-02 出土遺物	301
図版 37-3	V PB-03 検出	291	図版 47-2	III SB-02 出土礫	301
図版 37-4	V PB-05A・B 検出	291	図版 47-3	III SB-04 出土礫石器	301
図版 37-5	V PB-05B 検出	291	図版 47-4	III SB-04 出土礫	301
図版 37-6	V PB-09 検出	291	図版 48	III PB 出土土器	302
図版 37-7	V PB-10 検出(1)	291	図版 49	擦文文化期包含層出土土器	303
図版 37-8	V PB-10 検出(2)	291	図版 50	擦文文化期包含層出土礫石器(1)	304
図版 38-1	V PB-11 検出	292	図版 51-1	擦文文化期包含層出土礫石器(2)	305
図版 38-2	V PB-12 検出	292	図版 51-2	擦文文化期包含層出土金属製品	305
図版 38-3	V PB-13 検出	292	図版 52	縄文文化期包含層出土遺物	306
図版 38-4	V PB-14 検出	292	図版 53-1	V H-01 出土遺物	307
図版 38-5	V PB-16 検出	292	図版 53-2	V P 出土遺物	307
図版 38-6	V PB-17 検出	292	図版 54	集中区 1 出土遺物	308
図版 38-7	V PB-18 検出(1)	292	図版 55-1	V PB 出土石器	309
図版 38-8	V PB-18 検出(2)	292	図版 55-2	縄文時代包含層出土土器(1)	309
図版 39-1	V SB-01 検出	293	図版 56	縄文時代包含層出土土器(2)	310
図版 39-2	V FCB-01 検出	293	図版 57	縄文時代包含層出土土器(3)	310
図版 39-3	V FCB-03 検出	293	図版 58	縄文時代包含層出土土器(4)	312
図版 40-1	掘立柱建物跡検出	294	図版 59	縄文時代包含層出土土器(5)	313

図版 60	縄文時代包含層出土剥片石器 …… 314	図版 64	縄文時代包含層出土礫石器(4) …… 318
図版 61	縄文時代包含層出土礫石器(1) …… 315	図版 65-1	炭窯跡出土配石 …… 319
図版 62	縄文時代包含層出土礫石器(2) …… 316	図版 65-2	炭窯跡出土金属製品 …… 319
図版 63	縄文時代包含層出土礫石器(3) …… 317		

## 第 I 章 調査の概要

### 第1節 調査要項と体制

#### 1. 調査要項

事業名：厚幌ダム建設事業 埋蔵文化財発掘調査 その2

委託者：北海道胆振総合振興局室蘭建設管理部

受託者：厚真町教育委員会

遺跡名：オニキシベ4遺跡（J-13-89）

調査面積：4,103 m<sup>2</sup>

所在地：北海道勇払郡厚真町字幌内 485 ほか

受託期間：平成24年4月9日～平成25年3月26日

発掘期間：平成24年5月9日～平成24年10月31日

整理期間：平成24年11月1日～平成25年3月15日

#### 2. 調査体制

厚真町教育委員会 教育長 兵頭利彦

生涯学習課 参事 佐藤照美（平成24年9月30日まで） 長谷川栄治（平成24年10月1日より）

主幹 上田敦子 主査 乾 哲也（発掘調査担当者 学芸員）主任 奈良智法（調査担当者 学芸員）

嘱託職員 調査担当者 荻野幸男 調査補助員 松井 昭 事務員 浅野愛子

臨時職員 測量技能作業員 畑嶋朝江 整備技能作業員 松本 稔

発掘作業員 24名 整理作業員 15名 (乾)

### 第2節 調査に至る経緯

#### 1. 厚幌ダム建設事業（図 I-1）

町内を縦貫する厚真川中下流域には約3,000haもの水田地帯が広がっている。このため春の灌漑用水の確保は勿論のこと、融雪や豪雨による洪水への治水対策が開拓期以来の課題とされていた。

昭和45（1970）年に現河口より38km地点に、農業用ダムである「厚真ダム」が完成した。しかし、このダムは洪水調整機能が不十分で、昭和45年には洪水と渇水、昭和48・50・56年にも洪水が発生し、近年においても、平成12年春の融雪期と平成13年秋に、家屋や農地に被害をおよぼす洪水、平成18・22年にも一部がオーバーフローする事態が発生している。また、昭和59・60・63年には深刻な水不足にも見舞われており、平成19年は、幼穂形成期の水不足により深水灌漑が行えなかったため低温障害を受け、作況指数が極端に低い年でもあった。特に田植え時期における農業用水の確保は農業者にとっては勿論、厚真町民にとっても関心事であり、厚真町の基幹産業である農業、豊かな穀倉地帯を築くうえで、治水や農業灌漑などを目的とする新たなダム建設が陳情されていた。また、市街地への人口集中の進行による住宅街や苫小牧東港への水道用水の需要が急増し、取水可能量は限界に達していることから、新たな上水道水源確保が急務となっている。

これらの状況の抜本的な治水等の改善策として、昭和52年に北海道土木現業所により厚幌ダム建

設事業の予備調査が着手されている。その後、昭和61年に「厚真川総合開発事業計画調査」の着手が決まり、平成7（1995）年に北海道と厚真町との間で「厚真川総合開発事業厚幌ダム建設工事に関する基本協定」が結ばれ、洪水調整、灌漑用水、水道水の確保、流水の正常な機能維持の多目的ダムとして、現厚真ダム下流に「厚幌ダム」の建設着工が決定された。また、同年には地元厚真町内に厚幌ダム建設事務所が開設され、その後、沿岸漁業団体への説明会や環境アセスメントも実施されている。近年ではダム事業に関連して、道道切替工事や町内各地区の農業経営体育成基盤整備事業、農業用水路再編対策事業（厚幌導水路建設）が展開され、営農の効率化が促進されている。厚幌ダムの本格着工として、平成14年度からの水没地域内用地買収とともに、一般道道上幌内早来停車場線の切替工事に着手し、北進平取線としてむかわ町穂別まで延長開通の計画である。厚幌ダム本体（堤体）は、平成20年に建設費節減のため最新工法での設計変更がなされ、堤体長516m、高さ47.2m、台形CSGダムでオニキシベ4遺跡より約200m下流に堤体を建設する計画である。貯水は常時湛水面標高85.4m、最深湛水面標高88.1mであり、総貯水量は47,400千 $\text{m}^3$ 、現在の厚真ダムのおおよそ4.7倍の貯水量となり、絶大な効果波及が想定され早期完成が望まれていた。

しかし道内複数のダム事業との関係からダム堤体着手の予算確保が困難な状況が続き、当初計画の平成24年完成から平成27年秋に試験湛水、28年春に供用を開始する工期延長となった。その後、平成20年11月に公共事業再評価を受け多目的ダムの必要においてA評価を受け事業継続となっていた。ところが、平成20年7月の政権交代によって全国の公共事業、とりわけダム事業の否定的見直しが進められ、厚幌ダムもその対象となった（苫小牧民報社2009.10.7）。平成23年8月に国土交通省は事業継続を決定し、平成24年度からは完成に向けて埋蔵文化財発掘調査費用も予算が配当され、公益財団法人北海道埋蔵文化財センター（以下、道埋文センター）も発掘調査に参入している。なお、厚幌ダムは国費54%、道費44.6%等のいわゆる「補助ダム」と称されるダムである。

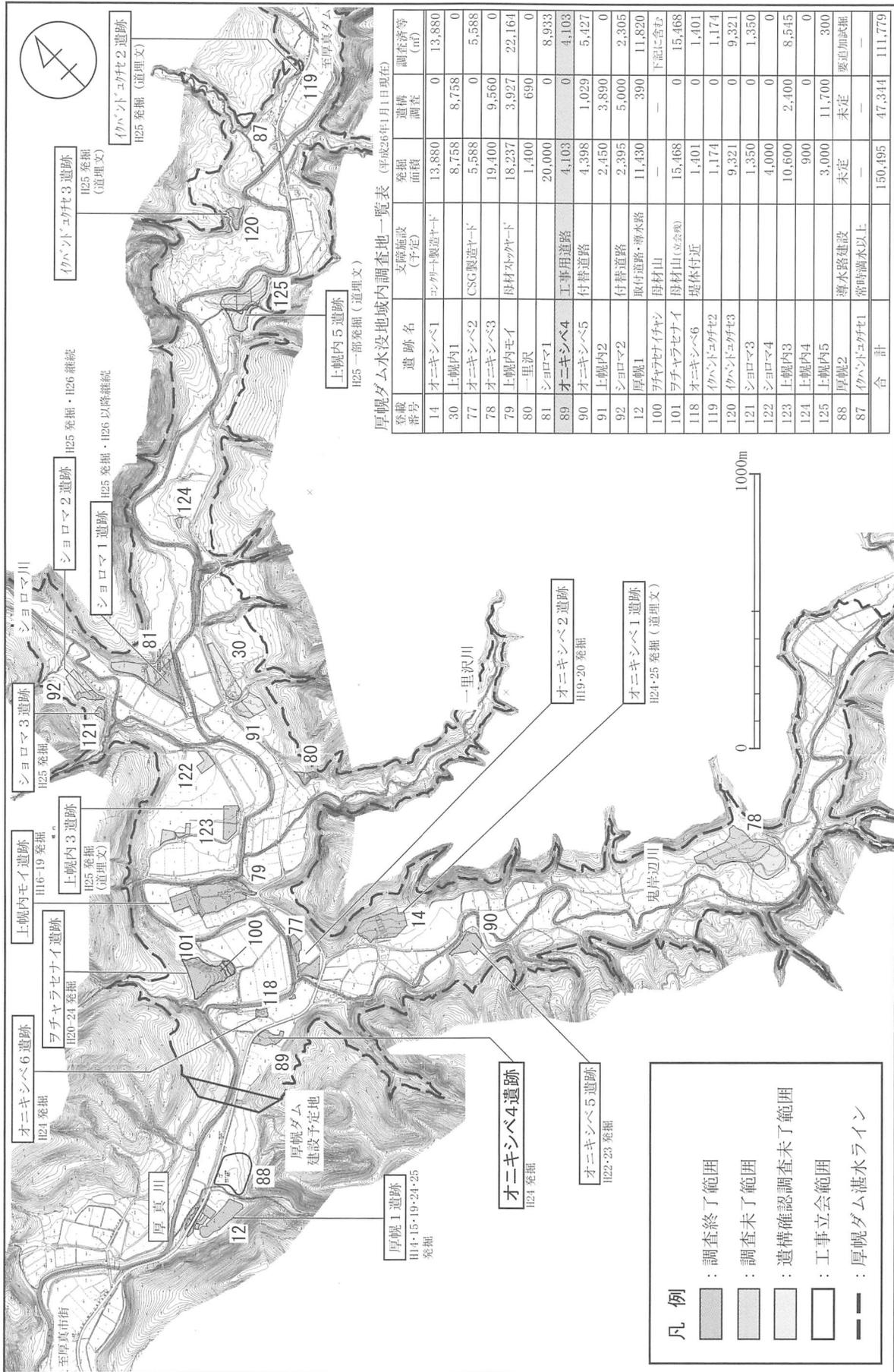
## 2. 発掘調査までの経緯

### A 厚幌ダム建設事業の埋蔵文化財事前調査（図I-1）

厚幌ダム建設事業の本格化を踏まえて、平成12年7月6日に北海道室蘭土木現業所厚幌ダム建設事務所（以下、ダム事務所）より、ダム事業全体に係わる埋蔵文化財事前協議書（室土厚幌第158号）が厚真町教育委員会（以下、町教委）を経て北海道教育委員会（以下、道教委）へ提出された。協議区域は最深湛水面標高88.1m以下の区域と道道上幌内早来停車場線（以下、道道）切替路線幅の合計約235,500 $\text{m}^2$ に及ぶ。まず、平成13年6月に道教委により試掘調査が行われ、約8,250 $\text{m}^2$ の「要発掘調査」面積となり、厚幌1遺跡（J-13-25）として新規登録された（平成13年7月18日付 教文第4265号）。これを受け、厚幌ダム関連の埋蔵文化財発掘調査について道教委と町教委で協議した結果、ダム関連の試掘調査までは道教委が行い、発掘調査は厚幌ダム建設に係わる受益者が厚真町1町であることから、町教委と北海道室蘭土木現業所で委託契約を結び、町教委が行うこととなった。翌平成14・15年度の2ヶ年で厚幌1遺跡の発掘調査を行った（厚真町教育委員会2004）。

湛水地域内は平成13年10月に所在確認調査（A調査）が行われ、周知の遺跡（オニキシベ1遺跡、上幌内1遺跡）を含め16ヶ所、面積235,500 $\text{m}^2$ の要試掘調査の回答がされた（平成13年11月16日付け教文第4532号）。以後、追加箇所や範囲拡張も含め平成19年度までに8回、18地点の試掘調査が実施され、14遺跡、約143,000 $\text{m}^2$ の要発掘・要遺構確認調査地点が確認されていた。

しかし、これまでの発掘調査成果から河岸段丘の低位面にも埋蔵文化財包蔵地が広がること等、



厚幌ダム水没地域内調査地一覧表 (平成26年1月1日現在)

発掘番号	遺跡名	支障施設 (予定)	発掘面積 (㎡)	調査済等
14	オニキシベ1	コンクリート製造ヤード	13,880	0
30	上幌内1		8,758	8,758
77	オニキシベ2	CSC製造ヤード	5,588	0
78	オニキシベ3		19,400	9,560
79	上幌内モイ	母材ストックヤード	18,237	3,927
80	一里沢		1,400	690
81	シヨロマ1		20,000	0
89	オニキシベ4	工事用道路	4,103	0
90	オニキシベ5	付替道路	4,398	1,029
91	上幌内2		2,450	3,890
92	シヨロマ2	付替道路	2,395	5,000
12	厚幌1	取付道路・湧水路	11,430	390
100	ヲチャヤセナイイナシ	母材山	—	—
101	ヲチャヤセナイ	母材山 (立会場)	15,468	0
118	オニキシベ6	掘体付瓦	1,401	0
119	イハントユカサ2		1,174	0
120	イハントユカサ3		9,321	0
121	シヨロマ3		1,350	0
122	シヨロマ4		4,000	0
123	上幌内3		10,600	2,400
124	上幌内4		900	0
125	上幌内5		3,000	11,700
88	厚幌2	湧水路建設	未定	未定
87	イハントユカサ1	常時満水以上	—	—
	合計		150,495	47,344
				111,779

図 I-1 厚幌ダム建設事業関連埋蔵文化財包蔵地位置図

この地区における遺跡の立地パターンが判明してきており、建設中工事の発見を避けるため新たな視点での再試掘調査の必要性が生じていた。これを受け道教委は平成21年5月に湛水地域内の所在確認踏査を行い、要試掘調査地点10ヶ所を回答した（平成21年6月11日付け教文ス第928号）。

このうち8地点については7、8月に試掘踏査が実施され、6ヶ所に包蔵地が確認された（平成21年9月10日付け教文ス第1940号）。更に平成21年12月にも試掘調査が実施され新たに1ヶ所が追加された（平成22年1月5日付け教文ス第3145号）。既に発掘調査が終了した面積と遺構確認調査を含め、平成24年12月現在の要発掘調査地点は24ヶ所に及び、要発掘面積が150,495㎡、要遺構確認調査47,344㎡で合計197,839㎡となった。平成25年12月現在で111,779㎡（56.4% 厚幌1遺跡導水路調査含む）となっている（図I-1）。

なお、本事業はダム常時満水以下の範囲内にある埋蔵文化財包蔵地の全域が対象となり、面的な発掘調査によって包蔵地範囲が広がる場合もある。この場合は調査面積の拡張も道教委やダム事務所と協議し、随時拡張している。これまでも上幌内モイ遺跡やオニキシベ2遺跡において範囲拡張があり、道教委限らず、町教委でも部分的に試掘調査を実施しているが、重機によるトレンチ掘開での範囲確定、内容確認の難しさを感じる。

## B オニキシベ4遺跡の発見経緯

オニキシベ4遺跡は、平成13年10月のダム事業所在確認調査において協議地No.1として20,900㎡の要試掘調査回答されたことが最初となる（平成13年11月16日付け教文第4532号）。試掘調査は平成15年7月と11月に道教委によって実施された。15年7月の試掘調査で25ヶ所のトレンチを掘開し、うち1ヶ所より遺物が出土した。15年11月に町教委によってオニキシベ4遺跡として埋蔵文化財包蔵地調査カードに新規登録された。一部調査未了範囲があったことから翌16年11月に残存範囲の試掘調査を行い、前年度試掘調査と合わせて計4ヶ所から樽前cテフラを挟む上下層より遺物が出土し、3,000㎡の要発掘調査の回答に至った（平成16年12月2日付け教文第4652号）。

## C 調査に至る経緯と範囲の拡張

平成24年度の発掘調査地点選定は、ダム事務所との協議で厚幌ダム堤体予定地に隣接する本遺跡の調査が優先された結果による。調査範囲は道教委回答によるもので、調査区の北東側境界となる段丘縁辺部より35～40m南西側に発掘区の境界ラインである（図I-2）。北側は道道の道路側溝までの範囲とし、南側は背後の段丘崖裾や微高地裾の微地形を読み取ったものである。

発掘調査中の7月に擦文文化期の遺物包含層が調査区西側へ続くことが判明し、ダム事務所、道教委と協議のもと範囲拡張を行っている。縄文時代の遺物包含層の調査中の9月に町教委が範囲確認の試掘トレンチを6ヶ所掘開し、うち4ヶ所から遺物が出土し1,103㎡の範囲拡張を行った。拡張トレンチからは下層黒色土V層の遺物が出土しなかったことから、上層黒色土III層のみが調査対象となっている。（乾）

## 第3節 調査の方法

### 1. 調査区の設定

調査区内のグリッド網は近接するオニキシベ6遺跡と合わせて公共座標（世界測地系 平成15年十勝沖地震対応）を用い、遺物包含層の堆積が想定される段丘面のほぼ全面を含む200×250mで設定し、5m四方のメッシュで区分した。グリッド網の起点（A-0区：X=-137240.000 Y=-

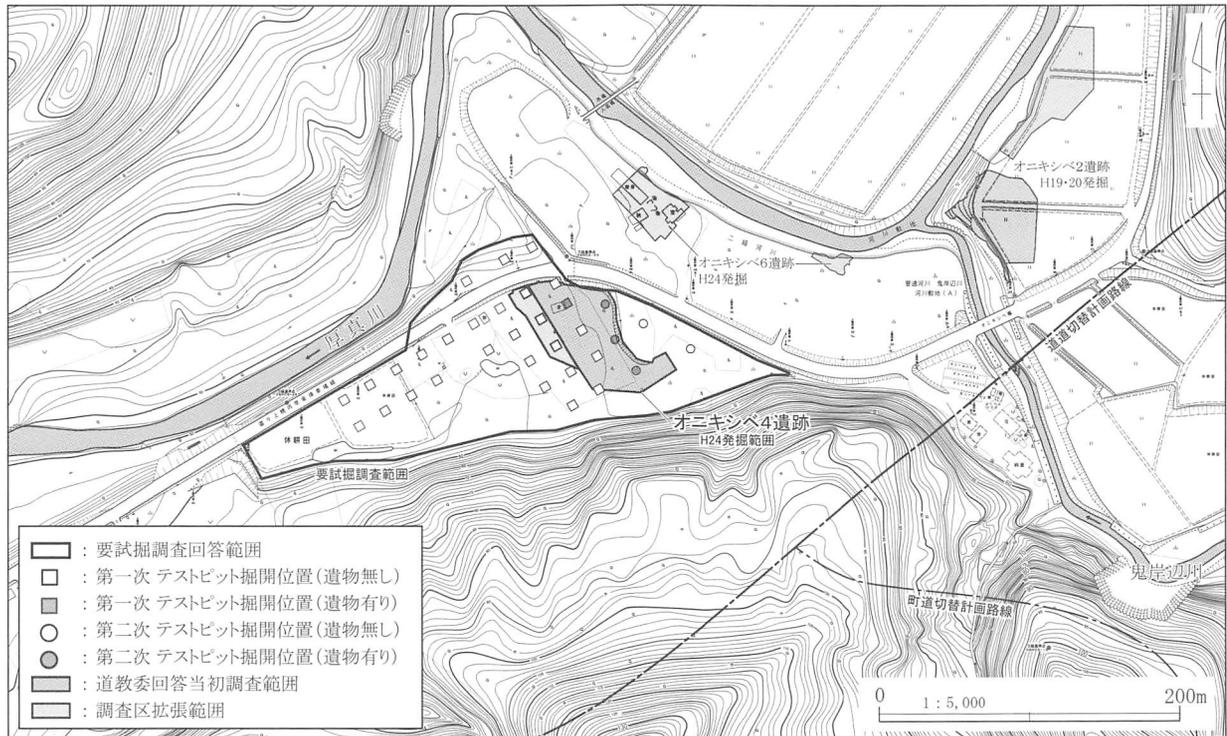


図 I-2 試掘調査トレンチ位置図

206.000) は北東コーナーとし、南北の X 軸を A・B・C・・・のアルファベット列で、東西の Y 軸ラインを 1・2・3・・・のアラビア数字列とした。各グリッドの呼称も北西コーナーの杭とし、A-1 区、A-2 区・・・とした。現地での杭打設は、道教委回答文書添付図面より作成した調査区範囲の境界杭とグリッド設定の基準となるグリッド杭を(有)幅田測量に委託した。オニキシベ4 遺跡では境界杭 5 点、グリッド杭 7 点を打設し、これらを元に表土火山灰除去と調査区内のグリッド設定を行っている。グリッド杭は調査補助員と測量技能作業員が光波式トータルステーションを用いて調査区全面のグリッド杭を設置した(図 I-3)。絶対高は、(有)幅田測量によって段丘縁に設定した TA1 杭より各グリッド杭へ移設した。絶対高算出の基準杭は他の遺跡と同一杭を用い、本遺跡調査区北端より北へ 20 m の位置にある厚幌ダム堤体建設予定地に所在する「3 級基準点 厚幌ダム H8 No.3-45 北海道室蘭土木現業所」である。

## 2. 準備工

本調査区は樹齢 40~45 年のカラマツが植林されており、平成 23 年度 3 月に事業費の各種入札減を利用して調査区範囲の他、プレハブ、調査排土置き場等の用地を含めた範囲の伐採業務を行った。一部については、予算不足により伐採不可能であった範囲もある。

24 年度は 4 月下旬より一部の伐採作業を行った後、バックホーにより笹根等の表土除去を実施している。未伐採範囲は表土及び樽前 b テフラが凍結しており、表土除去の一部分については 5 月中旬に行った。その後、調査開始の 5 月 9 日にこれらの準備工を完了させるため、調査員立会のもと耕作土や盛土、樽前 b テフラを除去し、Ⅲ層黒色腐植土の上面を検出した。この際、担当者と調査補助員がジョレンを用いて、Ⅲ層上面の検出精査を行い、調査開始の準備工の労力軽減に努めた。なお、火山灰除去において調査区内に存在する切株に関しては、遺物包含層の保全のため抜根作業は行っていない。また、発生材売り払いについては町教委で報告書を作成、厚幌ダム事務所が行っ

ている。同時に発生した枝葉等については、町教委が廃棄物処理委託業務を発注し、検収作業等も実施している。

表土・火山灰除去と同時進行で、現場事務所、作業員休憩等のプレハブ用地の整地作業を行った。この際、除去した一部の火山灰等を用地の整地盛土に利用している。その他、プレハブ設置準備や電力線と電話線引き込み工事やインターネット回線開設の発注も行った。なおプレハブ等の発掘現場施設は、近接する厚幌1遺跡、オニキシベ6遺跡の調査体制と共用し、5名の調査員と約50名の作業員が共用している。(乾)

### 3. 包含層遺構の調査方法

遺構は住居跡など包含層上面から窺みとして確認できたものは、先行トレンチや土層観察用のベルトを設定し、できるだけ遺構構築面の把握や構築面での調査を考慮した。焼土や炭化物集中区等については、燃焼面や形成面のほぼ全量をフローテーションサンプルとして採取した。処理は同事業のヲチャラセナイ遺跡に運搬し、ビニールハウス内で乾燥、計量を行った後、フローテーションマシンを用いて調査期間中に処理を行った。記録図化については光波式トータルステーションを用いて平面形およびエレベーションを記録し、堆積状態については調査担当者が分層と土層注記を行い、測量技能作業員が堆積図作成の実測を行った。各調査経過は35mm一眼レフカメラでデジタル画像とモノクロで写真記録撮影を行った。

遺物の取り上げについては調査員による層位確認と段丘堆積物中の自然礫とを認定区分したうえで、光波式トータルステーションによるXYZ座標(公共座標世界測地系)をデジタル記録している。この時、手簿(日付・グリッド・層位・遺物名等)の記載も行い、データ入力ミスの補完を行っている。

なお、調査終了後の現地については、Tピットなどの深い遺構のみ埋め戻し作業、伐採用地内にある池などの危険箇所への安全ロープ設置を行ったが、他はそのままの裸地状態で発掘調査を終了している。(乾)

### 4. 整理作業

一次整理は、乾が担当し、5名の整理作業員が発掘調査開始と共に町内南部地区の軽舞整理事務所(旧軽舞小学校)にて出土遺物の水洗、注記作業等を行った。出土遺物の台帳照合と分類作業も本事務所にて行い、Ⅲ層出土遺物の分類作業等を行っている。この際、出土状態等が曖昧なものについては、現地調査担当の荻野や松井に確認をとりながら進めた。11月の整理業務に入ってから、各担当の調査員が遺物の種別調査区遺構名や層位、種別、細分類、分類等の台帳確認作業を行った。また並行して、フローテーション作業と処理後の選別作業も行っている。

二次整理は、各種遺物の接合・復元・実測・拓本等の作業を行い、復元土器の一部や剥片石器の実測は(株)トラスト技研へ委託した。また、礫石器実測用写真撮影を(株)シン技術コンサルへ委託している。実測遺構図等の第2原図の作成やトレース作業・編集は、パソコン(0s Windows Adobe IllustratorCS)で行った。遺物の写真撮影は(有)写真事務所クリークの佐藤雅彦氏へ委託し、撮影データをパソコン(0s Windows Adobe Photoshop CS)で切り抜きやレイアウトを行っている。報告書掲載図や写真図版などの版組み、一覧表の編集も上記のソフトで行い、本文のWord文書と合わせて印刷所へデジタル入稿した。

遺物の保管は、報告書掲載のものは図版毎に行い、それ以外のものは、分類及び調査区毎にコンテナに収納し町内の廃校舎に収蔵している。(乾)

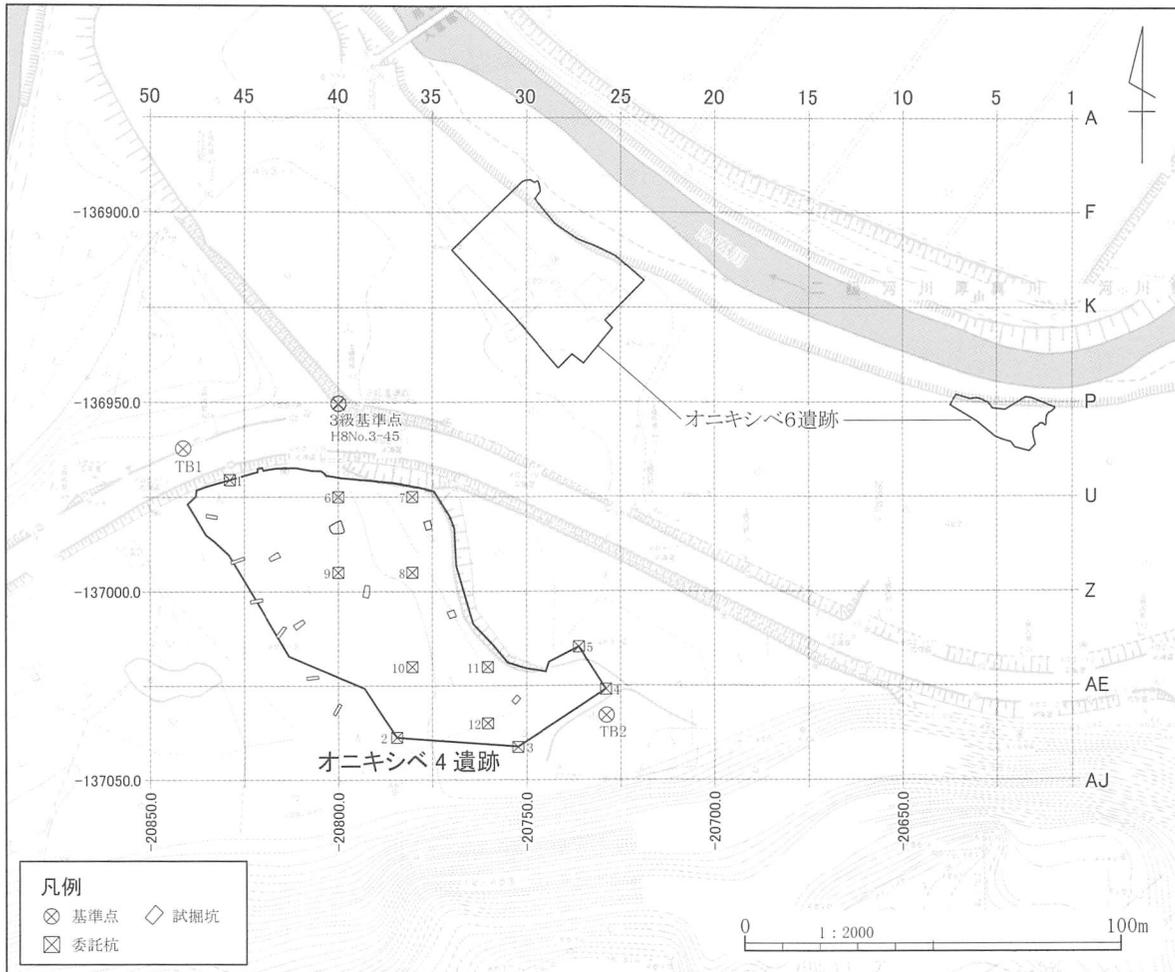


図 I-3 グリッド網設定図

表 I-1 グリッド設定関係杭座標値一覧表

杭名	X座標	Y座標	Z座標
H8 No.3-45	-136950.471	-20800.639	56.199
TB1	-136962.178	-20841.128	57.305
TB2	-137032.848	-20728.360	59.564
No.1	-136971.429	-20828.001	-
No.2	-137038.330	-20784.199	-
No.3	-137040.730	-20751.899	-
No.4	-137025.530	-20728.499	-
No.5	-137014.230	-20735.699	-
No.6	-136975.000	-20800.000	56.627
No.7	-136975.000	-20780.000	57.405
No.8	-136995.000	-20780.000	57.321
No.9	-136995.000	-20800.000	57.137
No.10	-137020.000	-20780.000	57.160
No.11	-137020.000	-20760.000	57.222
No.12	-137035.000	-20760.000	-

※世界測地系公共座標(平成15年度 十勝沖地震補正値済)

【大・中・小グリッド区分】

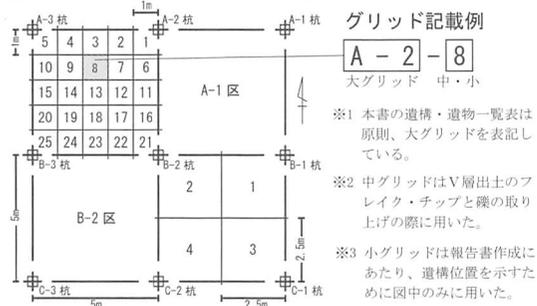


図 I-4 グリッド模式図

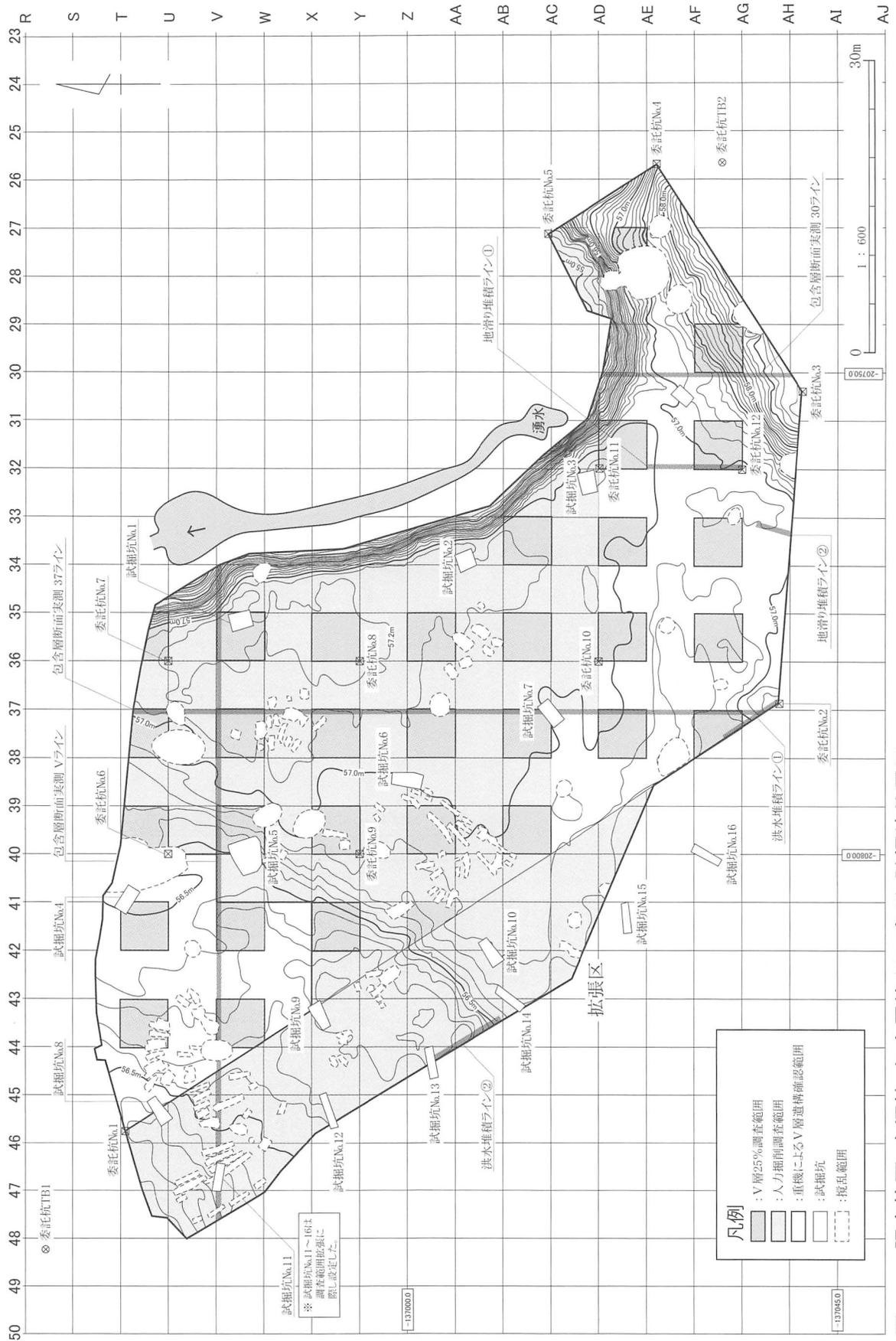


図 I-5 調査範囲・座標杭・包含層等断面実測・試掘坑位置図

## 第4節 遺物の分類

### 1. 土器

縄文時代早期から擦文文化期までの土器をローマ数字に群別し、アルファベットで型式、時期等の細分をした。

#### 第 I 群土器 縄文時代早期に属する土器。

A 類 貝殻文・条痕文土器。

B 類 早期後半の東釧路式土器群。絡条体圧痕文、組紐圧痕文などを施すもの。

B1 類 東釧路Ⅱ式に相当するもの。

B2 類 東釧路Ⅲ式、コッタロ式に相当するもの。

B3 類 中茶路式に相当するもの。

B4 類 東釧路Ⅳ式に相当するもの。

#### 第Ⅱ群土器 縄文時代前期に属する土器。

本遺跡では出土していない。

#### 第Ⅲ群土器 縄文時代中期に属する土器。

A 類 中期前半の円筒上層式系土器群。

A1 類 円筒上層 a 式または b 式に相当するもの。

A2 類 円筒上層 c 式または d 式、厚真 1 式に相当するもの。

B 類 中期後半から末葉の土器群。

B1 類 萩ヶ岡 1・2 式、天神山式に相当するもの。  
サイベ沢Ⅶa 式・サイベ沢Ⅶb 式・  
見晴町式に相当するもの。

B2 類 柏木川式に相当するもの。

B3 類 a 北筒式に相当するもの。

B3 類 b 煉瓦台式に相当するもの。

#### 第Ⅳ群土器 縄文時代後期に属する土器。

A 類 後期初頭の土器群。

A1 類 a 古手の余市式土器。円形刺突文の有無に関わらず、貼付帯や地文縄文が多段の羽状構成の土器。

A1 類 b IV 群 A1 類 a 土器に併存する沈線文系の土器。非在地系。

A1 類 c 天祐寺式に相当するもの。IV 群 A1 類 a 土器に併存する。非在地系。

A1 類 d 北筒Ⅲ式に相当するもの。肥厚帯が顕著で円形刺突文を有する土器。

A2 類 新しい段階の余市式。古手のタブコブ式。階段状の器表面や斜め下方からの刺突文や縄端圧痕文が施される土器。

B 類 後期前葉の土器群。

B1 類 新木のタブコブ式。縦位の棒状貼付帯縄

線文または地文縄文のみが施されているもの。

B2 類 手稲砂山式に相当するもの。

B3 類 入江式、大津 7 群、白坂 3 式土器。

C 類 後期中葉の土器群。

C1 類 ウサクマイ C 式に相当するもの。

C2 類 手稲式に相当するもの。

C3 類 鮎澗式に相当するもの。

D 類 後期後葉の土器群。

D1 類 堂林式、御殿山式に相当するもの。

#### 第Ⅴ群 縄文時代晩期に属する土器群。

A 類 晩期前葉の土器群。

A1 類 爪型文や刺突文を施すもの。

A2 類 大洞 B・BC 式土器に相当するもの。

B 類 晩期中葉の土器群

B1 類 縄線文や円弧文を施すもの。美々 3 式、  
ママチⅠ・Ⅱ群に相当する。

B2 類 大洞 C1・C2 式土器に相当するもの。

C 類 晩期後葉の土器群。

C1 類 ママチⅢ・Ⅳ・Ⅴ群に相当するもの。

C2 類 大洞 A・A<sup>~</sup> 式土器に相当するもの。

#### 第Ⅵ群土器 続縄文文化期に属する土器群。

A1 類 砂沢式・二枚橋式に並存する在地の土器。

a: 札幌市 H37 遺跡 丘珠空港地点相当のもの。

b: いわゆる汐見式相当。縄線文が施され、地文に帯縄文発達以前の土器。

A2 類 砂沢式・二枚橋式に並存する搬入系土器。

a: 砂沢式土器。 b: 二枚橋式土器。

B1 類 アヨロ 2 類土器並行の土器。

a: アヨロ 2 類 a 相当の土器。

b: アヨロ 2 類 b 相当の土器。

B2 類 アヨロ 3 類相当の土器。

C1 類 江別太 1~3 式土器。

C2 類 後北 B 式土器。

C3 類 後北 C<sub>1</sub> 式土器。

C4 類 後北 C<sub>2</sub>-D 式土器。

D1 類 宇津内Ⅱa 式土器。

D2 類 宇津内Ⅱb 式土器。

E1 類 北大Ⅰ式土器。

E2 類 北大Ⅱ式土器。

### 第Ⅶ群土器 擦文文化期に属する土器群。

A 北大Ⅲ式相当

B 擦文土器（甕形）

B1：擦文「前期」に相当するもの。

主として胴部上半に横走沈線のみを施す一群。

B1a：軽い段により頸部を形成した無文もしくはは数条の横走沈線を廻らすもの。

B1b：多条の横走沈線を施すものもの。

B2：擦文「中期」に相当するもの。

主として口縁部文様帯が未形成もしくは単調な刻みのみの一群。

B2a：横走沈線を地文とし、刻文を重ねるもの。

B2b：刻文のみのもの。

B2c：無文のもの。

B3：擦文「後期」に相当するもの。

主として口縁部文様帯を形成した一群。

B3a：横走沈線を地文とするもの。

B3b：綾杉文主体のもの。

B3c：斜位、あるいは縦位の沈線で鋸歯状文、「X」字状文等を施すもの。

B3d：胴部文様帯を3段以上に区画した上でⅦB3a～cの文様要素を施したもの。

B3e：無文のもの。

B3f：口縁部文様帯に数条の沈線を廻らせたもの。

C 擦文土器（坏形）

C1：台部を有さないもの。

C2：平底の低い台部を有するもの。

C3：平底の高台部を有するもの。

C4：上げ底の高台部を有するもの。

C4a：口縁部に沈線を有するもの。

C4b：体部に刻文を施すもの。

D 擦文土器（鉢形・壺形）

E ロクロ成形土器

E1：甕形

E2：壺形

E3：鉢形

E4：坏形

E4a：軟質で内面黒色処理を施さないもの。

E4b：軟質で内面黒色処理を施すもの。

E4c：硬質で酸化炎焼成のもの。

E4d：硬質で還元炎焼成のもの。

## 2. 剥片石器

### ポイント類

長軸4cmを境に石鏃と石槍・石銛とを区分した。

A 「石鏃」

1 細身で薄手のもの。

2 無茎のもの。

a 鏃身部が正三角形 b 鏃身部が二等辺三角形

3 明瞭な茎部をもつもの。

a 鏃身部が正三角形 b 鏃身部が二等辺三角形

4 不明瞭な茎部を持つもの。

5 欠損品・未成品

B 「石槍」・「石銛」

1 明瞭な茎部をもつもの。

a 茎部端が平ら。b 茎部端が尖る。c 抉りがある。

2 不明瞭な茎部をもつもの。

a 茎部端が平ら。b 茎部端が尖る。c 抉りがある。

3 欠損品・未成品

### 石 鏃

A 剥片の一部に機能部を作出したもの。

B 柄と機能部の区別が明瞭なもの。

C 柄と機能部の区別が不明瞭で幅広なもの。

D 柄と機能部の区別が不明瞭で棒状のもの。

E 他石器の転用品と思われるもの。

### ナイフ・スクレイパー類

縁辺に刃部が作出されたもののうち、素材の

1辺に対し半分以上の範囲で刃部が形成されているもの。

A 「つまみ付きナイフ」

1 素材の周縁にのみ加工を施したもの。

- 2 素材の片面全体に加工を施したもの。
- 3 素材の両面全体に加工を施したもの。
- B 素材端部に刃部が形成されているもの。
  - 1 「ラウンド・スクレイパー」
  - 2 「エンド・スクレイパー」
- C 素材端部に刃部が形成されていないもの。
  - 1 「サイド・スクレイパー」
    - a 原石・転石面無。 b 原石・転石面有。
  - 2 「コンケイブ・スクレイパー」
    - a 原石・転石面無。 b 原石・転石面有。
  - 3 「抉入石器」
- D 他石器の転用品と思われるもの
- E 欠損品
  - a 原石・転石面無。 b 原石・転石面有。

**RF・UF**

縁辺部に刃部が作出されたもののうち、素材の 1 辺に対し半分未満の連続的剥離のあるものを RF、使用によると思われる微細剥離のあるものを UF として扱っている。

**ピース・エスキュー****石核****火打石****3. 礫石器****石斧****A 磨製石斧**

## 1 撥形

a 断面楕円形。 b 断面方形。

## 2 短冊形

a 断面楕円形。 b 断面方形。

c 断面の一端が尖る。 d 断面の両端が尖る。

- B 未製品 1 : 剥離敲打により完成品に近い大きさまで整形されているもの。
- C 未製品 2 : 礫皮を残すが、擦り切り・剥離・敲打調整により素材礫形状が不明瞭なもの。
- D 未製品 3 : 剥離・敲打調整が部分的に施され、素材礫の形状を大きく残すもの。

**たたき石**

敲打痕が面状に形成されるもので、素材礫の形状で細分類を行った。

**I 平面形が縦長のもの。****A 扁平のもの。**

- 1 素材礫の平坦面に敲打痕を有するもの。
- 2 素材礫の側縁稜あるいは端部に敲打痕を有するもの。
- 3 1・2を並存するもの。

**B 棒状または角柱状のもの。**

- 1 素材礫の平坦面に敲打痕を有するもの。
- 2 素材礫の側縁稜あるいは端部に敲打痕を有するもの。
- 3 1・2が並存するもの。

**II 平面形が方形～不整形で幅広のもの。****A 扁平のもの。**

- 1 素材礫の平坦面に敲打痕を有するもの。
- 2 素材礫の側縁稜あるいは端部に敲打痕を有するもの。
- 3 1・2を並存するもの。

**B 厚さがあるもの。**

- 1 素材礫の平坦面に敲打痕を有するもの。
- 2 素材礫の側縁稜あるいは端部に敲打痕を有するもの。
- 3 1・2が並存するもの。

**III 平面形が円～楕円形のもの。****A 扁平のもの。****B 球形または棒状のもの。****IV 破片のため上記に分類不可のもの。****V 礫片を素材としているもの。****すり石**

- A 断面三角形の礫の稜に擦り面のあるもの。
- B 断面楕円形の礫の側縁に擦り面のあるもの。
- C 扁平礫の側縁にすり面があるもの。
  - 1 敲打による整形があるもの。
  - 2 敲打による整形がないもの。
- D 北海道式石冠
- E その他

#### 砥石

- A 砥面が片面のもの。
- B 砥面が複数面のもの。
- C 欠損品。

#### 滑沢面のある礫

素材礫の形状を変えず、平滑な面を有するもの。  
線条痕はほとんど観察できない。

#### 線条痕のある礫

肉眼観察において、明瞭な線条痕があるもの。

#### 鼠歯状痕のある礫

#### 石皿・台石

便宜的に素材礫の重量が 900 g 以上で、素材礫の平坦面に擦痕・敲打痕があるもの。

#### 滑沢面と敲打痕のある大型礫

- I 表裏面にそれぞれが単独で認められるもの。
- II 一面に両方の痕跡が認められるもの。

III 素材礫の形状が変形する研磨面を有するもの。

#### 加工痕のある礫

加工目的の剥離があるもので、剥離加圧（打点）部分に潰打面が形成されず側面観が稜線状となるもの。

#### 自然礫

加工痕や明瞭な使用痕が認められないもの。

- I 平面形が縦長のもの。
  - A : 扁平のもの。
  - B : 棒状または角柱状のもの。
- II 平面形が方形～不整形で幅広のもの。
  - A : 扁平のもの。
  - B : 棒状または角柱状のもの。
- III 平面形が円～楕円形のもの。
  - A : 扁平のもの。
  - B : 球形または棒状のもの。

(松井)

## 第5節 調査結果の概要

遺跡は厚真川左岸の標高約 56.5m から 58.0m の河岸段丘上に立地している。調査面積は 4,103 m<sup>2</sup> で、V と 37 ラインに東西、南北セクションを設定し、III層は樽前 b テフラ除去後 IIIa 層掘削から行った。西側拡張区の東西セクション延長もこれに合わせて行っている。V層は 25%調査を行い、遺構、遺物を検出した周辺は人力で、それ以外は重機併用で遺構確認を行っている（図 I-5）。

遺構、遺物が主体的に広がるのは上下層共に 31 から 41 ラインの標高 57.0m の平坦面である。擦文文化期においては段丘東側に住居跡が 2 軒と、更にその東側縁辺部に住居に関連すると思われる遺物集中、獣骨集中を検出している。調査区南側は山裾が迫りやや急勾配な地形を示し、地滑り跡も一部認められることから 57.0m より高い地点は縄文時代の Tピットと土坑を各 1 基検出したのみである。時期においては出土した土器の観察から擦文文化期後期から終末が主体であると思われる。続縄文文化期については、土器集中を 2ヶ所検出しているのみである。縄文時代については、竪穴住居跡や土器集中が段丘東側に分布し、北西側の標高 56.5m と一段低い面に Tピットの配列が認められる。また、本遺跡内には近現代の炭窯跡や家畜の墓等が認められたため、記録を行い第 V 章で掲載している。遺物総点数は 27,694 点（近現代 51 点含む）、内訳は土器 6,348 点、剥片石器 255 点、礫石器 407 点、土製品 16 点、石製品 10 点、骨角器 1 点、金属製品 33 点、剥片類 8,147 点、礫 12,467 点、その他 10 点である（表 I-3）。以下に各時期の概要を述べるが、各章に詳細を記載しているため、時期ごとの遺構数、遺物点数についてここでは記載しない。

### 1. 擦文文化期

今回調査した上で特筆されるものとしては、擦文文化期後期から終末に位置付けられる住居跡 2 軒を検出している。いずれも極浅く掘り込まれた窪みのほぼ中央部分に炉跡が複数見つかっている。掘り上げ土が柱穴の周囲に巡ることから、完全な平地ではなく浅く整地することがこの時期の特徴

と考えられた。また、こうした住居跡の位置から見て北東側（段丘縁辺部）には獣骨集中や遺物集中が認められ、同時期の空間利用の在り方が示唆される。住居跡以外には集石と焼土、土器集中、土坑がまとまって見つかる集中区1や集石と焼土が重複する地点など、柱穴が伴わない遺構群を検出している。これらは屋外の作業場的な空間と考えられる。この他、杭列跡を3条検出している。うち、杭列跡A、Bは北西-南東軸で北西に向かって開口する平面形を示しているが、同時に2条存在したか、時期を違えて1列の構築で建て替えがあったかなど性格についての課題が残る。

## 2. 縄文文化期

土器集中2ヶ所のみ検出で、伴う遺構はない。包含層からも礫石器、剥片石器が少量出土しているが、分布や出土状態から生活空間ではないと判断できる。

## 3. 縄文時代

樽前cテフラ下位のV層から縄文時代早期・中期・後期・晩期の土器が出土している。主体的な土器は後期初頭の余市式土器で、町内では後期後半から終末の出土例が少ない堂林式、三ツ谷式なども出土している。後期後半から終末にかけては道路を挟んで北側のオニキシベ6遺跡でまとまった資料が出土している（厚真町 印刷中）。その他、土器集中17で中期中葉の厚真1式土器が復元されている。遺構については中期後葉の柏木川式期に帰属する竪穴式住居跡1軒と土器集中2ヶ所とその周辺に獣骨集中が広がる集中区1のほか、土坑とTピットなどを検出している。土器集中や礫集中などの遺構についても平坦面に主な分布域を示すが、縄文時代では北西側の低位面にTピットの配列が2条認められている。（奈良）

表I-2 オニキシベ4遺跡検出遺構一覧表

遺構種別	Ⅲ層		V層	I層	関連遺構
	擦文文化期	縄文文化期	縄文時代	近現代	
住居跡	2	—	—	—	炉跡8・土坑6・礫集中3・遺物集中2・獣骨集中2
竪穴住居跡	—	—	1	—	炉跡2
建物跡	3	—	—	1	
集中区(Ⅲ層)	1	—	—	—	炉跡1・土器集中1・礫集中1
集中区(V層)	—	—	1	—	焼骨片集中1・土器集中2
Tピット	—	—	18	—	
土坑	1	—	16	8	I層の8基は馬の墓
焼土	22	—	—	—	
杭列跡	3	—	—	—	
土器集中	8	2	17	—	
礫集中	3	—	1	—	
剥片集中	—	—	3	—	
獣骨集中	—	—	1	—	
炭窯跡	—	—	—	1	
コンクリート樹	—	—	—	1	

※杭列跡は擦文文化期より新しい可能性が高い。

表I-3 オニキシベ4遺跡出土遺物一覧表

遺物種別	土器	剥片石器	礫石器	土製品	石製品	骨角器	金属製品	剥片類	礫	その他	合計
Ⅲ層(擦文文化期)	1942	22	114	0	0	1	7	316	8770	0	11172
Ⅲ層(縄文文化期)	199	6	6	0	1	0	0	18	211	0	441
V・VI層(縄文時代)	4207	227	287	16	0	0	0	7813	3472	8	16030
I層(近現代)	0	0	0	0	9	0	26	0	14	2	51
小計	6348	255	407	16	10	1	33	8147	12467	10	27694

## 第6節 遺跡の位置と周辺環境

### 1. 厚真町の概要

#### A 地理的環境

厚真町は、石狩低地帯南部の東縁、北海道胆振支庁の東部に位置し、夕張山地南部から太平洋に注ぐ二級河川厚真川水系に水田地帯が広がる、人口 4,739 人（平成 26 年 1 月末日現在）の農業の町である。町域の総面積は 404.56 千㎡で、流路 52.3km の二級河川厚真川流域に広がり南北 32.5km、東西 17.3km と細長く、南部は約 6.5km にわたって太平洋に面し、勇払平野の東端に位置している。北海道の空の玄関口である新千歳空港から車で 35 分、海上物流の拠点である苫小牧港からは 40 分と現代社会において利便性に恵まれた位置でもある。町域を縦貫する厚真川は源流部から河口までの 1 河川流域で厚真町域のみを流下し、全国において 1 河川流域を有する自治体は数少ない。行政区域の北部は夕張市や由仁町と接し、夕張山地南部の標高 200～600m の山地が続き、総面積の約 70% を山林が占める。東は夕張山地から続く低い山地を挟んで、むかわ町と接し、北西は標高 100 m 前後の山地性丘陵を挟んで安平町、西は厚真町域を含む苫小牧東部工業地帯（以下、苫東地区）内で苫小牧市と接している。厚真の語源は 3 説ほどあるが、最も有力な説として「アットマム」（at-to-mam「向こうの湿地帯」）で、南部に広がる湿地帯に付けられたものが転訛したという（厚真村 1956）。

町内は、大きく 4 つの地区に分かれ、厚真川沿いに下流域の浜厚真・上厚真地区、中流域の厚真市街地周辺、中流から上流域の幌内地区、むかわ町と接する入鹿別川流域の鹿沼地区がある。ここでは厚真川流域を中心に概略を述べる。

南部は砂浜が続き、明治期以前より地引網での鰯漁が盛んであったが、現在では、苫小牧沿岸にかけてホッキ貝（ウバガイ）の全国一の漁場となっている。かつては標高 10m 前後の砂丘列が発達し、背後には勇払原野の湿地帯が広がっていたが、現在は苫東地区の一部で、苫小牧東港や道内最大の火力発電所、石油備蓄タンク群等の工業用地となっている。また国道や高規格道路、鉄道があり、札幌圏から日高方面への主要幹線路ともなっている。地形的には、苫東地区の静川・源武台地と同じ様相を示し、樹枝状に開折された標高 10～20m 前後の支笏火山・樽前山の火山灰で構成される低平な台地と縄文海進期の海跡湖群、湿地が見られる。特に厚真川左岸から入鹿別川右岸にかけての厚和地区は静川台地と全く同じ地形・地質様相を呈している（仮称厚和台地・鯉沼台地）。中部には厚真町の中心市街があり、鶴川、平取・穂別、早来、浜厚真方面への道道交差点に官公署や住宅地が形成されている。かつては、町内の石油資源や林産資源、農産物の集散地として発展していた。地形的には厚真川本流と比較的大きな支流である知決辺川、ウクル川などの合流点に形成された平野部に位置し、夕張山地系と馬追山地南端部の山地性丘陵に挟まれた地域となる。中部以北では、厚真川は頗美宇川との合流点付近において流路方向を変え、左岸には河岸段丘が発達する。北部の幌内地区は、厚真川流域沿いの沖積地の最奥部で、本流とシュルク川、幌内川の 3 河川の合流点でもある。この地区は上流域の山間部より産出される豊富な林産資源の集積地として発展し、昭和 5 年から 24 年まで早来駅とを結ぶガソリン機関車軌道が敷設されていた。これより上流域は、新第三紀の堆積岩を基盤とする山地が続く（松野・石田 1960）。標高 400m 以上の頂部は少ないが、小河川の浸食により比較的急峻な山稜を呈している。厚真川は夕張市、由仁町との 1 市 2 町の境界線付近、標高 500m 付近の夕張山地南域に源流部がある。

## B 歴史的環境

### (1) 埋蔵文化財包蔵地の概要

厚真町内には平成 24 年 1 月現在で 136 ヶ所の埋蔵文化財包蔵地が確認されており、後期旧石器時代から近世アイヌ文化期に至るまでである（図 I-6、表 I-4・5）。遺跡の分布傾向として、開発行為の多寡に左右されるが、南部の苫東地区や厚真川下流域左岸から入鹿別川流域右岸にかけての仮称厚和台地や仮称鯉沼台地、厚真川中流域の支流河川沿い、北部の高丘地区及び幌内地区にやや集中する傾向がある。遺跡の立地は、南部において湿地と隣接する台地縁辺部や湧水地付近、中部では厚真川沿いや小河川との合流点付近の河岸段丘縁辺部に多い。北部の山間部では、頗美宇（はびう）川流域の高丘地区や厚幌ダム水没地域内に多く分布する。これらは安平町安平地区や夕張市滝之上地区、むかわ町穂別・豊田地区へ抜ける山越えのルート上の遺跡と考えられる。

時期的には、町内最古の遺跡として上幌内モイ遺跡で札滑型細石刃核を伴う石器集中が 1 ヶ所検出されており、AMS 法炭素年代測定の結果、補正年代 3 点の平均で 14,591.69±60yrB.P. が得られている（厚真町教育委員会 2006a）。縄文時代の最も古いものでは豊沢 4 遺跡の試掘調査で早期前半の物見台系貝殻土器片 1 点が出土し、時期が下って浜厚真 3 遺跡で東釧路Ⅱ式土器がややまとまって出土している（北海道埋蔵文化財センター 2003）。遺跡数の増加や規模の拡大は縄文時代前期前半の縄文尖底土器群の時期と考えられ、多量の被熱礫や哺乳網の焼骨片が出土する遺跡が厚真町南部から北部に至るまで多数確認されている。これ以降、漸移的に遺跡数が増加し、中期末葉から後期初頭の北筒・余市式期の遺跡数でピークを迎える。縄文時代後期中葉から後葉にかけて遺跡数が激減し、晩期前葉以降、続縄文文化期に再び増加し、擦文文化期前期は遺跡数が再び減少する。この様な各時期における遺跡数の偏りは苫小牧市の傾向と概ね一致している。苫小牧市との差異として擦文文化期中期から中世アイヌ文化期にかけては遺跡数が増加する傾向がある。

### (2) 町内における埋蔵文化財調査の概要

町内における埋蔵文化財調査・研究の、最初の記録は、大正 5（1916）年に現在の朝日遺跡から出土した縄文土器を教材として、学校に保管する許可書が発行されたことである（厚真村郷土研究会 1956）。遺物の多くは縄文晩期初頭の土器片と思われ、数点の土偶片も出土している（厚真村郷土研究会 1956、亀井 1956、古井 1961、北海道大学附属図書館 HP 北方資料データベース）。以後、厚真町での埋蔵文化財に係る流れは大きく 3 期に分けることが可能である。

#### a. 厚真村郷土研究会・埋蔵文化財の地域自主的研究（昭和 20 年代後半から 40 年代中頃）

元厚真村長で名誉町民の亀井喜久太郎氏の熱心な働きかけで昭和 27 年に八幡一郎氏、30 年に大場利夫氏等が来村し、町内の遺跡・遺物を実見している。また、亀井氏は昭和 28 年に厚真村郷土研究会を発足させ、遺物の収集や会報『郷土研究』で遺物の紹介を行い、昭和 31 年には『厚真村古代史』を刊行している（厚真村郷土研究会 1956）。現在、埋蔵文化財保護の基礎資料である埋蔵文化財包蔵地カードの「調査・文献」には「昭和 31 年 7 月 厚真村郷土研究会『厚真村古代史』」や「昭和 47 年 12 月 厚真町郷土研究会 踏査」の記載で始まるものが 32 遺跡もあり、厚真町の文化財保護・研究に大きな功績を残し、礎となっている。町内で初めての組織的な発掘調査は、昭和 37 年に厚真村郷土研究会によって朝日遺跡と共和遺跡で行われた。調査に関する詳細は不明だが、縄文時代晩期初頭の土器片を中心とした出土遺物がコンテナにして 5 箱分、厚真町教育委員会に保管されている。また、昭和 34 年に宇隆地区公民館建設工事現場からの遺物出土の連絡を受け、道内で初め

での出土となる愛知県常滑産と推定される12世紀中葉の広口壺を回収している。当初は、須恵器と判断されていたが、平成23年に常滑市民俗資料館 中野晴久氏によって確認された。

#### b. 苫小牧市埋蔵文化財調査センター・大規模な行政発掘「苫東調査」(昭和48年から昭和54年)

昭和48年から苫小牧市埋蔵文化財調査センターによる苫東地区の試掘・発掘調査が開始され、昭和59年までの12年間で厚真町域にかかるもので新規登載14遺跡、調査着手11遺跡があり、縄文時代早期～擦文文化期までの資料が得られている。調査成果として、昭和51年調査の厚真1遺跡(苫小牧市教育委員会1986)では、この地域で初めてのTピットが確認され、縄文時代中期中葉の「厚真1式土器」(赤石1999)の標識遺跡でもある。厚真7遺跡では縄文時代中期末葉と後期前葉の住居跡8軒の検出と、石狩川中流域で数多く出土する「丸のみ形石斧」も出土している(苫小牧市教育委員会1987)。また、共和遺跡では苫東地区内で唯一の擦文文化期前期の竪穴式住居跡2軒が調査されている(苫小牧市教育委員会1987)。これらの成果は苫小牧市教育委員会により『苫小牧東部工業地帯の遺跡群』として報告書が刊行されている(苫小牧市教育委員会1986・1987・1990・1992)。整理・報告後の出土遺物等は平成13年度に町教委へ返却・保管されている。

なお、厚真町域における町教委による「埋蔵文化財包蔵地資料整備の一般分布調査」は、昭和54年9月行われ、52遺跡の包蔵地カードが作成されている。

#### c. 開発に伴う調査の増加と厚幌ダム・厚幌導水路事業の開始(平成10年以降)

近年は火山灰採取などの開発に伴う試掘調査や工事立会調査が増加し、町教委による豊川1遺跡(厚真町教育委員会2001)、鯉沼2遺跡(厚真町教育委員会2001)、鯉沼3遺跡(厚真町教育委員会2005・2006b・2008)などの調査が行われた。高規格道路日高自動車道の建設に伴う(財)北海道埋蔵文化財センターによる浜厚真3遺跡の調査では、187基のTピットが検出されている(北海道埋蔵文化財センター2003)。これらの調査結果では、縄文時代中期後葉以前にTピットが数多く構築されていることが分かり、周囲には比較的規模の大きい集落跡の存在が想定できる。

平成12年には北海道室蘭土木現業所より厚幌ダム建設事業に係る埋蔵文化財保護の事前協議書が提出され所在踏査や試掘調査が開始された。発掘調査は平成14年から町教委により継続的に行われ、厚幌1遺跡(厚真町教育委員会2004)、上幌内モイ遺跡(厚真町教育委員会2006a・2007・2009)、オニキシベ2遺跡(厚真町教育委員会2011)、オニキシベ4遺跡(本書)、オニキシベ5遺跡(厚真町教育委員会2013b)、オニキシベ6遺跡(印刷中)、ヲチャラセナイ遺跡・ヲチャラセナイチャシ跡(厚真町教育委員会2013a)、ショロマ1遺跡(整理中)、ショロマ2遺跡(整理中)、ショロマ3遺跡(印刷中)の調査を行っている。また、北海道埋蔵文化財センターで平成24年度からオニキシベ1遺跡(整理中)、上幌内3遺跡(整理中)、イクバンドユクチセ2遺跡(整理中)、イクバンドユクチセ3遺跡(整理中)、上幌内5遺跡(整理中)の調査を行い、平成25年度までの12年間の調査終了面積は約111,779㎡である。

平成15年には総延長24.5kmに及ぶ厚幌導水路建設事業の事前協議書が提出され、所在確認踏査や試掘調査が行われている。試掘調査等は未了の箇所があるものの、現在11遺跡での要発掘・工事立会調査地点が確認され、平成19年度には厚真川中流域富里地区のニタツナイ遺跡(厚真町教育委員会2009・2010b)、20年度は厚幌1遺跡と幌内7遺跡(厚真町教育委員会2010a)、21年度は幌内5遺跡と富里2遺跡の発掘調査を行った(厚真町教育委員会2010b)。これらの大規模開発に伴う埋蔵文化財発掘調査は、平成27年度まで継続される予定であったが、平成22年度に厚幌ダム事業の

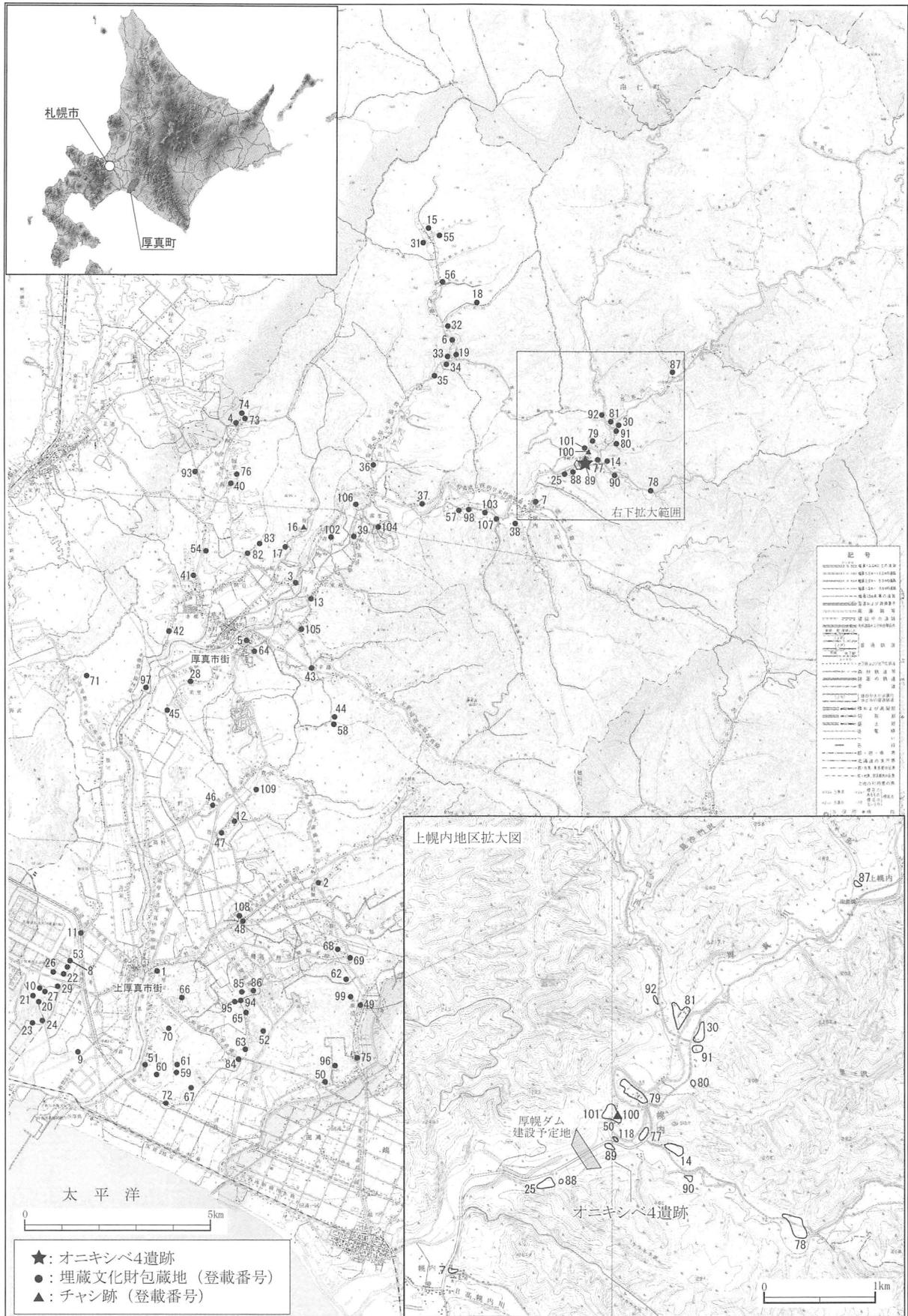


図 I-6 厚真町内遺跡分布図 (平成26年2月28日現在)

表 I-4 厚真町内埋蔵文化財包蔵地一覧表(1)

登録番号	種別	名称	時期	文献等
1	遺物包含地	上厚真遺跡	縄文中期、統縄文期、擦文期	1
2	遺物包含地	軽舞遺跡	縄文中期、統縄文期	1
3	遺物包含地	朝日遺跡	縄文中～晩期、統縄文期、擦文、近代	1,2,31
4	遺物包含地	幌里1遺跡	縄文早・中期、統縄文期	1
5	遺物包含地	新町遺跡	縄文早・中期、統縄文期、アイヌ期	1,4,6
6	遺物包含地	高丘1遺跡	縄文中期、統縄文期	1
7	遺物包含地	幌内1遺跡	縄文中・後期	1
8	集落跡	共和遺跡	縄文晩期、統縄文期、擦文期	1,8
9	遺物包含地	浜厚真遺跡	詳細不明	
10	溝穴遺構	厚真10遺跡	縄文中・晩期	3,8
11	遺物包含地	厚真11遺跡	縄文時代	
12	遺物包含地	豊沢1遺跡	統縄文期	1
13	遺物包含地	東和遺跡	縄文後期	1
14	集落跡	オニキシベ1遺跡	縄文中・後期	1
15	遺物包含地	高丘3遺跡	縄文中期	
16	チャシ跡	桜丘チャシ跡	中世アイヌ期	4,6
17	遺物包含地	桜丘1遺跡	縄文晩期	
18	遺物包含地	高丘2遺跡	詳細不明	
19	遺物包含地	高丘10遺跡	詳細不明	
20	集落跡	厚真1遺跡	縄文中期	8,13
21	溝穴遺構	厚真2遺跡	縄文時代	8
22	溝穴遺構	厚真3遺跡	縄文早～晩期、統縄文期、擦文期	10
23	集落跡	厚真4遺跡	縄文中・後期、統縄文期、近代	
24	溝穴遺構	厚真5遺跡	縄文期、統縄文	
25	集落跡	厚幌1遺跡	縄文早～晩期、統縄文期、中・近世アイヌ期	18,30
26	集落跡	厚真7遺跡	縄文早・中～晩期、統縄文期、擦文期	9
27	集落跡	厚真8遺跡	縄文早・中～晩期、統縄文期	8
28	溝穴遺構	美里2遺跡	縄文早・中期	
29	墳墓	厚真12遺跡	縄文早・後・晩期、擦文期	10
30	遺物包含地	上幌内1遺跡	縄文中期	
31	遺物包含地	高丘4遺跡	縄文時代	
32	遺物包含地	高丘5遺跡	縄文時代	
33	遺物包含地	高丘6遺跡	縄文時代	
34	遺物包含地	高丘7遺跡	縄文中期	
35	遺物包含地	高丘8遺跡	縄文時代	
36	遺物包含地	高丘9遺跡	統縄文期	
37	遺物包含地	富里1遺跡	縄文中・後期、アイヌ期	1
38	遺物包含地	幌内4遺跡	縄文中期?	
39	遺物包含地	チコマナイ遺跡	縄文時代	
40	遺物包含地	幌里2遺跡	縄文中期	
41	遺物包含地	本郷1遺跡	縄文中・晩期	
42	遺物包含地	本郷2遺跡	縄文後期	
43	遺物包含地	宇隆1遺跡	擦文期	16
44	遺物包含地	宇隆2遺跡	縄文後期	
45	遺物包含地	美里1遺跡	縄文中期	1

登録番号	種別	名称	時期	文献等
46	遺物包含地	豊沢2遺跡	擦文期	
47	遺物包含地	豊沢3遺跡	統縄文期	
48	遺物包含地	鯉沼1遺跡	詳細不明	1
49	遺物包含地	鹿沼2遺跡	縄文中期	5
50	遺物包含地	鹿沼1遺跡	縄文早期	5
51	遺物包含地	厚和1遺跡	縄文中期、アイヌ期	1,4,6
52	遺物包含地	鹿沼3遺跡	縄文中・晩期	
53	溝穴遺構	厚真13遺跡	縄文早期	10
54	遺物包含地	本郷3遺跡	縄文時代	
55	遺物包含地	高丘11遺跡	縄文晩期	
56	遺物包含地	高丘12遺跡	縄文時代	
57	墳墓	幌内5遺跡	縄文前期、近世アイヌ期	32
58	溝穴遺構	豊沢4遺跡	縄文早・後期	
59	遺物包含地	厚和2遺跡	縄文中期	
60	遺物包含地	厚和3遺跡	縄文後期	
61	遺物包含地	厚和4遺跡	縄文中期	
62	遺物包含地	鹿沼4遺跡	縄文時代	
63	遺物包含地	厚和5遺跡	縄文時代	
64	遺物包含地	新町2遺跡	縄文後期	
65	遺物包含地	鹿沼5遺跡	縄文後期	
66	遺物包含地	厚和6遺跡	縄文前期	
67	遺物包含地	浜厚真2遺跡	縄文早期	
68	溝穴遺構	鯉沼2遺跡	縄文時代	14
69	遺物包含地	豊丘遺跡	縄文前期	
70	集落跡	厚和7遺跡	縄文後期	
71	集落跡	豊川1遺跡	縄文中・後期	15
72	溝穴遺構	浜厚真3遺跡	縄文時代	17
73	遺物包含地	ニタツポロ沢遺跡	縄文後・晩期	
74	遺物包含地	幌里神社遺跡	縄文時代	
75	溝穴遺構	入鹿別沼遺跡	縄文中期	
76	溝穴遺構	幌里3遺跡	縄文時代	
77	遺物包含地	オニキシベ2遺跡	縄文中・後期、統縄文期、擦文期、中世アイヌ期	
78	遺物包含地	オニキシベ3遺跡	縄文後期	
79	集落跡・墳墓	上幌内モイ遺跡	旧石器、縄文早・中～晩期、統縄文期、擦文期、中世アイヌ期	19,21,22,24,26,27,28
80	遺物包含地	一里沢遺跡	縄文時代、アイヌ期	4,5,21
81	集落跡	シヨロマ1遺跡	縄文前・後期、アイヌ期	
82	遺物包含地	東ニタツポロ1遺跡	縄文中・晩期	
83	遺物包含地	東ニタツポロ2遺跡	縄文中・晩期	
84	遺物包含地	浜厚真4遺跡	縄文中期	
85	集落跡	鯉沼3遺跡	縄文前～後期	20,23,25
86	遺物包含地	鯉沼4遺跡	縄文後期	
87	遺物包含地	イクバンドユクチセ遺跡	縄文後期	
88	遺物包含地	厚幌2遺跡	縄文前期	
89	遺物包含地	オニキシベ4遺跡	縄文早・中～晩期	
90	遺物包含地	オニキシベ5遺跡	縄文中・後期	
91	溝穴遺構	上幌内2遺跡	縄文時代、擦文・アイヌ期	
92	遺物包含地	シヨロマ2遺跡	縄文前・中期	
93	溝穴遺構	幌里4遺跡	縄文時代	

表 I -5 厚真町内埋蔵文化財包蔵地一覽表(2)

登録番号	種別	名称	時期	文献等
94	集落跡	厚和8遺跡	縄文中・後期	
95	遺物包含地	厚和9遺跡	縄文中期	
96	遺物包含地	鹿沼6遺跡	縄文時代	
97	遺物包含地	豊川2遺跡	続縄文期、擦文期	
98	遺物包含地	幌内6遺跡	縄文後期	
99	集落跡	鹿沼7遺跡	縄文早～晩期	
100	チャン跡	ヲチャラセナイチャン跡	中世アイヌ期	
101	溝穴遺構	ヲチャラセナイ遺跡	縄文早～晩期、続縄文期、擦文期、中世アイヌ期	
102	遺物包含地	吉野1遺跡	縄文中・晩期	
103	遺物包含地	幌内7遺跡	縄文晩期、擦文期	
104	集落跡	ニタツナイ遺跡	縄文前～晩期、続縄文期、擦文期、近世アイヌ期	29,32
105	遺物包含地	宇隆3遺跡	縄文中期	
106	遺物包含地	富里2遺跡	縄文後・晩期、擦文期、近世アイヌ期	32
107	遺物包含地	オコッコ1遺跡	縄文前～後期、擦文期	
108	遺物包含地	軽舞2遺跡	縄文前期、続縄文期	
109	遺物包含地	豊沢5遺跡	縄文後期	
110	遺物包含地	厚和10遺跡	縄文早・中・後期	
111	遺物包含地	豊丘2遺跡	縄文早期	
112	遺物包含地	豊丘3遺跡	縄文中期	
113	遺物包含地	東和2遺跡	縄文晩期	
114	遺物包含地	浜厚真5遺跡	縄文後期	
115	遺物包含地	豊沢6遺跡	縄文早・中期・後期	

登録番号	種別	名称	時期	文献等
116	遺物包含地	東和3遺跡	縄文早期	
117	遺物包含地	桜丘2遺跡	縄文中期	
118	遺物包含地	オニキシベ6遺跡	縄文後・晩期、続縄文期、擦文期	
119	溝穴遺構	イクバンドユクチセ2遺跡	縄文後期	
120	遺物包含地	イクバンドユクチセ3遺跡	縄文中・後期、続縄文期	
121	遺物包含地	シヨロマ3遺跡	続縄文期	
122	遺物包含地	シヨロマ4遺跡	縄文時代	
123	遺物包含地	上幌内3遺跡	縄文中・後期、続縄文期？	
124	遺物包含地	上幌内4遺跡	縄文中期	
125	溝穴遺構	上幌内5遺跡	縄文時代	
126	遺物包含地	豊沢7遺跡	縄文中・後期	
127	遺物包含地	豊沢8遺跡	縄文後期	
128	遺物包含地	ライカルマイ遺跡	続縄文期、擦文期、中・近世アイヌ期、近代	
129	遺物包含地	長沼1遺跡	縄文早期	
130	遺物包含地	長沼2遺跡	縄文中期	
131	遺物包含地	高丘13遺跡	縄文前期、擦文期	
132	遺物包含地	上野1遺跡	縄文中期	
133	遺物包含地	富里3遺跡	縄文中・晩期	
134	遺物包含地	豊川3遺跡	縄文晩期	
135	遺物包含地	三ヶ月沼遺跡	縄文晩期	
136	遺物包含地	幌内8遺跡	縄文前・中期	

関連文献

1: 厚真村郷土研究会 1956『厚真村古代史』 2: 亀井喜久太郎 1957『厚真出土の土偶』『先史時代3』 3: 苫小牧市教育委員会 1974『苫小牧東部工業地帯内埋蔵文化財分布調査報告書』 4: 亀井喜久太郎・池田実 1976『厚真の旧地名を尋ねて』 5: 鶴川町教育委員会 1977『鶴川町遺跡分布報告』 6: 亀井喜久太郎・池田実 1978『続厚真の旧地名を尋ねて』 7: 松浦武四郎(高倉新一郎校訂) 1985『戊午東西蝦夷山川地理取調日誌』 8: 苫小牧市教育委員会 1986『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅰ』 9: 苫小牧市教育委員会 1987『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅱ』 10: 苫小牧市教育委員会 1990『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅲ』 11: 苫小牧市教育委員会 1992『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅳ』 12: 苫小牧市教育委員会 1995『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅴ』 13: 赤石慎三 1999『苫小牧地方の円筒上層式について』『苫小牧市埋蔵文化財調査センター所報1』 14: 厚真町教育委員会 2001『鯉沼2遺跡』 15: 厚真町教育委員会 2001『豊川1遺跡』 16: 鈴木 信 2001『IV-4 北海道の中世陶磁器』『千歳市ユカンプンC15遺跡(4)』(財)北海道埋蔵文化財センター159 17: (財)北海道埋蔵文化財センター 2003『厚真町浜厚真3遺跡』 18: 厚真町教育委員会 2004『上幌内1遺跡』 19: 厚真町教育委員会 2005『上幌内モイ遺跡発掘調査概要報告書』 20: 厚真町教育委員会 2005『鯉沼3遺跡』 21: 葦島栄紀 2005『松浦武四郎の旅程からみた胆振東部・日高西部の古交通路』『前近代アイヌ民族における交通路の研究(胆振・日高Ⅰ)』 22: 厚真町教育委員会 2006『上幌内モイ遺跡(1)』 23: 厚真町教育委員会 2006『鯉沼3遺跡(2)』 24: 厚真町教育委員会 2007『上幌内モイ遺跡(2)』 25: 厚真町教育委員会 2008『鯉沼3遺跡(3)』 26: 出穂雅実他 2008『論集忍路子Ⅱ』 27: 関根達人 2008『平泉文化と北方交易2-擦文期の銅鏡をめぐって-』『平泉文化研究年報8』 28: 厚真町教育委員会 2009『上幌内モイ遺跡』発掘調査報告書(3)』 29: 厚真町教育委員会 2009『ニタツナイ遺跡(1)』 30: 厚真町教育委員会 2010a『厚幌1遺跡(2)・幌内7遺跡(1)』 31: 北海道大学附属図書館HP北方資料データベース 32: 厚真町教育委員会 2010b『幌内5遺跡(1)・富里2遺跡・ニタツナイ遺跡(2)』 33: 厚真町教育委員会2011『オニキシベ2遺跡』 34: 苫小牧民報社2011.3.3 新聞記事

再検証が行われたため、厚幌導水路に係る発掘事業は一時中止となり当初計画からのずれ込みが危惧されている。

これらの厚幌ダム、導水路事業以外にも平成 22・23 年度には厚真川中流域において道道上幌内早来停車場線改良事業に伴うライカルマイ遺跡や町宅地造成事業での豊沢 6 遺跡、民間業者の火山灰採取に伴う東和 3 遺跡の発掘調査が実施された。近年の傾向として全町的に埋蔵文化財の発掘調査が進みつつあり、先史時代における厚真川流域の様相が解明されつつある。

### (3) 歴史時代

厚真周辺の記録として、1643年に編纂された北海道最古の文書とされる『新羅之記録』(松前 1643)によると、「松前以東は厩川西は奥依地迄人間往古する事、右大将頼朝卿進発して奥州の泰衡を追討し御ひし節、糠部津軽より人多く此国に逃げ渡って居住す。」とあり12世紀末葉には東北北部の和人が厚真周辺域まで進出していた可能性がある。厚真町とほぼ特定できる最初の記述は1692年に書かれた『蝦夷記』(野澤 1692)で、シャクシャインの戦い(1669年)に関連し「於多久見具印住處阿津摩ニテ討取ル」とある。厚真町中部に位置する桜丘チャシ跡との関連性が想定されていたが、平成21年度のトレンチ調査で樽前bテフラと生活硬化面との間に1～2cm程度黒色土が堆積し、より古い中世アイヌ文化期のチャシ跡であることが判明している。この時期の遺跡は厚真川上中流域のダムや導水路建設関連の発掘調査で多数の遺跡が確認されており、今後も増加するものと思われる。

これ以降の記録として、1700年の『松前家臣支配所持名前帳』には鳥屋支配所として「志古津ノ阿津満」と記され、2ヶ所の鷹打場が設けられている。シャクシャインの戦いに係わる『津軽一統志』(相坂兵右衛門 1731)の中で、「あつまへつ～川有、戸田義兵衛 商場」と記されているが、産物や周辺のコタンについての記述は見られない。1739年頃に成立した『蝦夷商賣聞書』には義経伝説を交えた記述の中に「右之山奥ニアツマト申所ニ城跡ト申而松柏之古木沢山ニ繁リテアリ～」や1785年の「三国通覧図説蝦夷国全図」に「アツマ」と記載があり、注記に「鬼ヒンノ出処」と記されている(林子平 1785)。しかし、寛政から文化年間(18世紀末～19世紀初)の『東蝦夷地道中記』(1791)や『蝦夷記行』(谷元旦 1799)、『拾遺北日本地図全図蝦夷地出産交通略図』などの紀行文や古地図では僅かな記述にすぎず、1800年に八王子千人同心等、数名の和人が浜厚真に移り住むが定住することはない。近世アツマ場所の産物として干鮭や椎茸、シナ縄、鹿皮が挙げられているが詳述はなく、以降の紀行文や測量日誌にも交通路であった勇払と鶴川間の厚真川河口周辺の簡単な記述に留まっている。なお本町の和人定住者としては明治3(1870)年に新潟県人の青木与八が厚真川河口に渡船場を開業したことが始めとされている(厚真村 1956)。

内陸部までの詳述は、松浦武四郎による『戊午安都麻日誌』(松浦・吉田 1962、松浦・秋葉他 1985)で、1857(安政5)年6月に苫小牧市勇払から厚真川河口を経てトンニカ(現富里)にて2泊している。蝦夷地探検の6回目で、町内には6ヶ所のコタンが記録されている。この中で比較的規模の大きいコタンでは、粟、稗、隠元、蕪などの畑作が盛んに行われているが、直前に襲った厚真川の洪水によって畑地のほとんどが冠水したことも記され、かつてより氾濫の多い河川であったことが伺える。宿泊したトンニカコタンのイカシユ(乙名板蔵)の家中について「西同所の土人等とは大に違ひ、凡行器の三十も有、耳盥の七ツ八ツ、筐の式ツ計、蝦夷太刀の二十五六振も懸、また此余短刀の七八本も有るよし語りけるなり。」(松浦・秋葉他 1985)とあり漆器や刀剣類の宝物が多く、その裕福さに驚いている。上流域に関しては聞き取りによる記述で、3穴の吊耳鉄鍋の残置伝承があるカニシユウ(現幌内・一里沢遺跡)も記述されている。苫小牧駒澤大学 蓑島栄紀氏は、これらの松浦武四郎の記録から古交通路について論じており、トンニカコタンの記述や上幌内モイ遺跡の搬入系遺物の出土量から鶴川水系や夕張水系へのルートが存在について述べている(蓑島 2005)。

これらの記録以前のアイヌ文化期については、厚幌ダム建設に係わる発掘調査で確認された厚幌1遺跡(厚真町教育委員会 2004)、上幌内モイ遺跡(厚真町教育委員会 2007a・2009a)、その他、試掘調査でも上幌内2遺跡、一里沢遺跡があり、厚幌導水路建設事業関連でのニタツプナイ遺跡(厚真

町教育委員会 2009b) や幌内 7 遺跡(厚真町教育委員会 2010a)、富里 2 遺跡(厚真町教育委員会 2010b)がある。その他、試掘調査で層位的確認がされた新町遺跡のほか、厚和 1 遺跡、幌内 5 遺跡では近世アイヌ墓が単独で発見されている。近年、発掘調査によってアイヌ文化期の遺跡が新たに発見されており、今後も資料の増加が期待される。

明治維新後、廃藩置県までは高知藩所管の時代があり、1873(明治 6)年以降に開拓使苫小牧出張所や勇払郡役所の所管となる。現在の厚真町が行政単位としての始まりは 1897(明治 30)年に苫小牧外 6ヶ村から分離独立し、厚真村戸長役場が桜丘地区(現専厚寺境内)に設置されたことによる。内陸部の和人開拓は明治 10 年代からで、手掘りによる石油掘削も始められ、明治 21 年には開拓使から農事指導員が派遣され西老軽舞(現吉野)へ集住させられたアイヌ民族への勸農政策も実施されている。1892(明治 25)年には鉄道室蘭線が開通し、近隣である厚真の内陸部も開拓移住者が増加した。これは明治 19 年の国有未開地の開放で北海道開拓の促進を図る「北海道土地払下規則」が制定されたことによる。以後、開拓移住者の増加が続き現在の農業の町厚真の礎が確立されていく。

(乾)

## 2. 遺跡の位置と周辺環境

### A 自然地理的環境

遺跡の周辺地域を厚幌ダム堤体建設予定地から厚真ダムまでの厚真川本流域とその支流域とした。この地域は標高約 150~400m の山地に囲まれ、その多くは 200~300m の浸食が進んだ山稜を呈している。厚真川及び支流域は浸食開折した谷状地形を呈し、“線状”の地域となっている。遺跡群はこれらの流域に形成された河岸段丘上に立地している。急峻な山稜や河岸段丘の発達は、この地域の基盤層が新第三紀に形成された砂岩泥岩層(松野・石田 1960)の比較的軟弱な岩相であることに起因すると思われる。

本遺跡は厚真川河口から約 30km 地点で、厚真川本流に注ぎ込む鬼岸辺川下流域に所在する。鬼岸辺川は流路延長約 9 km の小河川で、鶴川流域むかわ町穂別豊田地区との標高約 250~300m の山稜付近に源流部を有し、通年、流水があるものの水量は極めて少ない。上流域から中流域にかけては概ね西南西へ流下し、下流域は北西方向へ流下する。両岸は河川浸食による急傾斜地で、谷状地形となっており、下流域における谷底幅は約 250~280m を測る。また小規模な河岸段丘面が 3 面程度まで確認できるほか、背後の急傾斜地を開析する沢状地開口部には沖積錐地形も発達している。

厚真川との合流点よりやや下流左岸にはオニキシベ 4 遺跡、オニキシベ 6 遺跡、合流点右岸にオニキシベ 2 遺跡が存在し、その東には標高 150m の大きな山体が突出している。この地区のランドマーク的な存在であり、昭和 40 年代頃まで、竜神を祀る神社が山頂にあり、身近な信仰対象として古くまで遡る可能性もある。合流点より 280m 上流の右岸にはオニキシベ 1 遺跡が所在している。山体裾に形成されている河岸段丘面及び沖積錐地形上に立地し、平成 24 年度より公益財団法人北海道埋蔵文化財センターによって発掘調査が行われている。本遺跡はオニキシベ 1 遺跡よりさらに約 700m 上流の左岸に位置し、本遺跡より約 1,000m 上流の右岸に流域最奥部のオニキシベ 3 遺跡が立地している。

本遺跡は本流との合流点より東南東へ直線距離約 680m の鬼岸辺川左岸に位置する。北東方向へ台形状に突出した標高 65~67m、鬼岸辺川との比高差約 10m の河岸段丘先端部に立地し、直下には鬼岸辺川が流下している。段丘面全域は約 10,000 m<sup>2</sup>で、背後には比高差約 20m に及ぶ急傾斜の段

丘崖が存在し、上位には標高90m前後に存在する狭小な高位段丘面がある。調査区の南東側において半島状に突出し、この基部裾には湧水地点があり本段丘面の低位部分において湿地を形成していた。湧水の存在は本遺跡の立地選択条件の要因であったことが想定される。また谷状地形の中央部まで張り出した段丘先端部であるため、やや狭い沢あいでありながらも日照条件は良好である。さらに流域の谷状地形は概ね東西方向であることから、流域兩岸の南向き斜面（右岸）と北向き斜面（左岸）とで春の雪解け時期が異なり可食性植物の採取期間をやや長期間に及ぶ利点があるほか、冬期において積雪の少ない右岸の南西向き斜面では、エゾシカが給餌する地点ともなっている。

## B 歴史的環境

この地区には、後期旧石器時代から中近世アイヌ文化期までの時期にわたる22遺跡が所在する。最上流のイクバンドユクチセ2遺跡(J-13-119)は厚真川河口より約33kmの地点にあるが、地域住民の聞き取り調査から現在の厚真ダム堤体付近にも埋蔵文化財包蔵地が所在していたようである。遺跡群の時期的な特徴としては、縄文時代後期初頭の余市式土器群が各遺跡から出土しており、時期の偏りも見受けられる。多時期にわたって利用されている比較的規模の大きい遺跡は上幌内モイ・ヲチャラセナイ・ショロマ1・オニキシベ1遺跡で、これまでの発掘調査や試掘調査で住居跡などが検出されている。いずれも厚真川本流と規模の大きい支流との合流点付近で、河岸段丘面も13,000㎡以上の面積を有し、比較的広い段丘面である。

近現代については、林業や製炭業、稲作や畑作で本流域における開拓の歴史を伺うことができる。戦後以降、無人となっている流域であるがオニキシベ3遺跡の試掘調査において、鉄鍋や蹄鉄、ガラス瓶などが出土しており、山間部への開拓の歴史も残されている。

## C 松浦武四郎の記録と周辺のアイヌ語地名

この地区でのアイヌ文化に係る記録としては、江戸時代末期の安政5(1857)年に厚真を訪れた松浦武四郎の『戊午東西蝦夷山川地理取調日誌』(松浦・吉田1962、松浦・高倉・秋葉1985)が最も古い記録である。ヲチャラセナイやカニシユウ(現一里沢遺跡)、ヲニケレベ(現オニキシベ)、ショウロマ(現ショロマ)などが記載されている。厚真川下流からの左右岸の表記などからはほぼ全ての位置が判明している(亀井・池田1978)。厚真川上流域の厚幌地区には集落(コタン)、集落跡(フシココタン)の記述は無く、ヒグマやシカ、ワシタカ類の狩猟や植物採取に関わる記述に留まる。

本遺跡が所在する「ヲニケレベ」は、「右の方同じく小沢也。此川すじ楯皮多く有るよし。よって号とかや。此辺え来りしや兩岸峨々として本川すじは皆赤崩平のみ也。」と記されており、現在の地形とも符合している。オニキシベの語源として「入口で・木を・削り・つけている・もの」とあり、「シナの木(オヒョウニレ)より樹皮を剥き採る場所」を意味するという(厚真村1956)。

本遺跡の所在する鬼岸边川を遡り分水嶺を越えると鶴川水系のキナウス川筋(むかわ町豊田地区)に入る。この支流の1つに良樹ノ沢川がある。これは明治29年の地形図では「ルマキナウシ」(道・入る・キナウシ・蒲・群生する・ところ-)に相当する(扇谷2003)。この沢口となる豊田地区の鶴川対岸和泉地区にはルベシベ川(道・～沿って下る・もの)があり、分水嶺を越えると沙流川流域の平取町荷負・長知内地区に至る。この地区は沙流川流域で最大の支流である額平川との合流点で、さらには新冠美宇地区や新ひだか農屋地区などの日高中部への内陸ルートへと続くものと思われる。この他、大正年間に作成された「厚真村村道計画路線図」には、鬼岸边川流域にも村道計画路線があり、従来からの山越えルートが存在していたものと思われる。

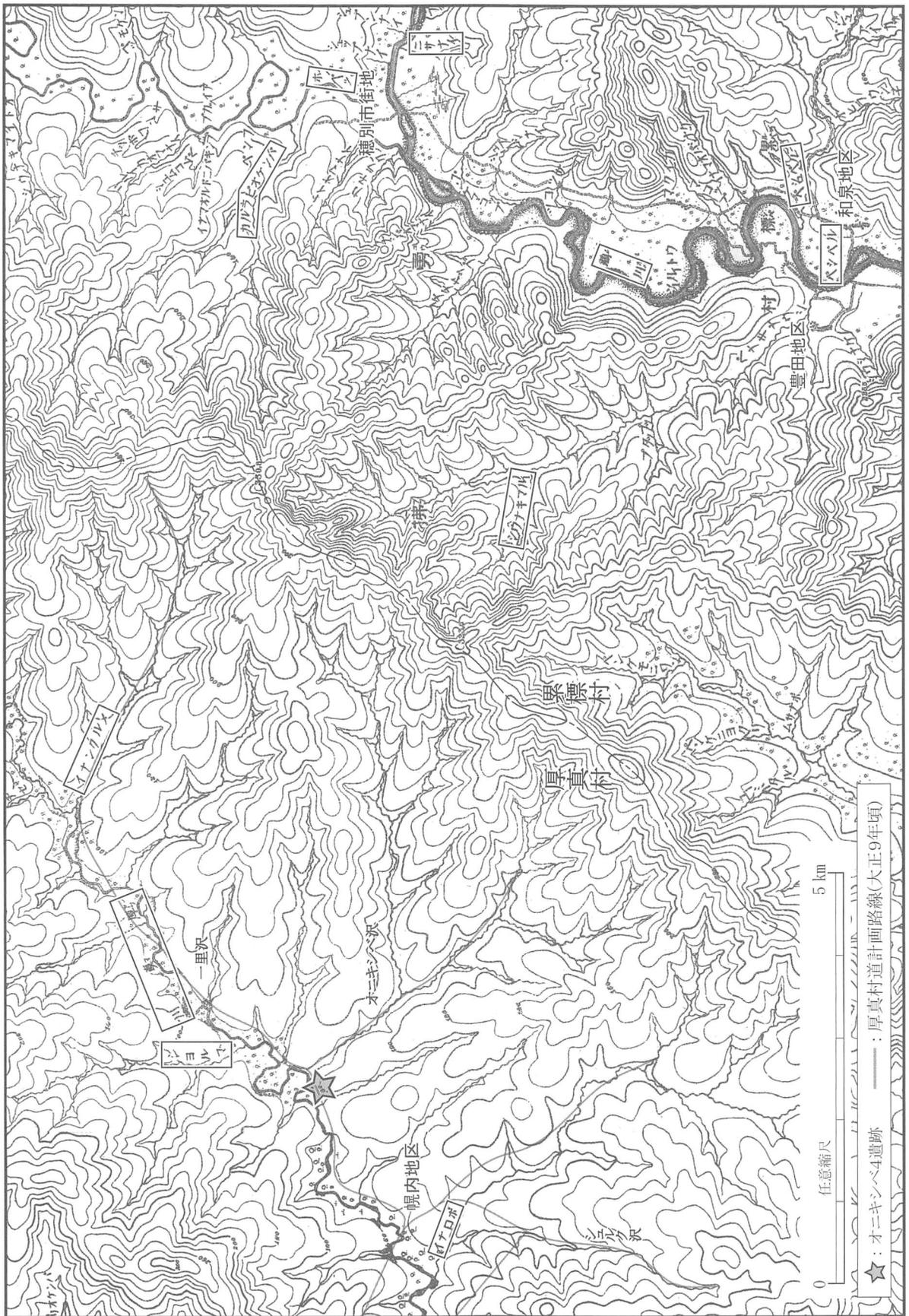


図 I-7 厚真川上流域と鶴川中流域の地形図 (明治29年発行 5万分の1「ライカルマイ」と「ルベシベ」の統合を50%縮小)

ほかにもこの地区には夕張川水系滝之上地区於兔牛沢川へ抜けるショロマ川や穂別本町地区パンケオビラルカ沢川へ抜けるメルクンナイ川、厚真川最上流域では穂別稲里地区パンケオビラルカ沢川へ通り抜ける複数の山越えルートがある。これらのルートの全てが鬼岸边川と厚真川本流との合流点で全て集約する。オニキシベの語源にある「入口」とは、低平な地形である石狩低地帯から、山間部におけるこれらの山越えルートのへ「入口」とも想像することもでき、ヒトやモノの流れにおいてこの地区が重要な位置にあったことも容易に想定される。合流点对岸に突出した河岸段丘上に立地するヲチャラセナイチャン跡の立地は必然的なものとも思える。(乾)

### 3. 調査区内の地形と地質

#### A. 地形

調査区の所在する河岸段丘は鬼岸边川左岸の標高約 56.5~58.0m で高低差は最大で約 1.5m ある。東側は厚真川による開析で弧状となり、現在は湾入した地点に湧水が認められ、北に流下して一部溜池となる。この湧水地点と遺跡が立地する平坦部の比高差は約 2m ある。厚真川本流域の河岸段丘については「上幌内モイ遺跡(1)」に報告されている(出穂 2006)。それによると T1 面に相当し、段丘面形成離水時期は樽前 d テフラ降下以降であることから、旧石器トレンチ調査を行っていない。

微地形については、北西側に 1 段低い低位面と標高 57.0m の高位面、南東側の山裾になる緩斜面の概ね 3 面に分けられる。

#### (1) 地滑り堆積

調査区南側の斜面に樽前 d テフラを基調とした地滑り堆積物が認められる。調査区境界から約 13m の範囲で広がり、調査区内での最大厚は 40cm を計る。この地滑り堆積物は全体の範囲を捉えたものではなく、4 本のセクションラインで堆積範囲を確認しているため、A-B ラインで堆積物が途切れるのは別方向からの移動が考えられる。地滑りによる地形の改変は AG-31 区で等高線間隔が狭くなること、30 ラインと比べて地滑り堆積の供給量が多いことから 31 ライン付近が中心であったと思われる。時期については IIIb 層を被覆し、平坦面では B-Tm より上位の堆積を確認していることから 10 世紀前葉のイベントであったことがわかる。

#### (2) 洪水堆積

調査区西側の壁面、樽前 b テフラの上下層に縞状の堆積層を確認した。これらの堆積は調査区境界で確認したため、遺跡内にどの程度広がりを示すのかは不明である。時期については樽前 b テフラを挟んで二時期に分かれるが、下層は IIIc 層上位に約 30cm 堆積しており、東側に認められた地滑り堆積物に関連すると思われる。上層は堆積から樽前 b テフラ直後に樽前 a・b テフラに砂・シルト層が混入する形で約 40cm の互層堆積を示している。下層はシルト主体で樽前 c・d テフラ、恵庭 a テフラが混入する互層堆積を成している。こうした堆積の起因としては、地滑りによる斜面堆積物の流出や、流路の変更が考えられる。樽前 b テフラで一度安定するが、上層の起因についてはより広範囲な調査が必要と思われる。また、AA-43 区付近では V 層下位に灰白色シルトを基調とした水成堆積物が確認されていることから、微地形区分の北西側低位面にかけて水の影響を受けやすい地点であったことが分かる。

## B. 地質

段丘堆積物より上層のテフラや遺物包含層の堆積状態について記述する。

調査区は笹根等の表土層 (I 層) があり、その下位に礫質降下軽石の樽前 b テフラ (II d 層、Ta-b、1667 年降下) が調査区内ほぼ全体に堆積している。町内のダム事業に係わる発掘事業では本来の基本土層として樽前 a テフラ (II a 層、Ta-a、1739 年降下) や駒ヶ岳 c2 テフラ (II c 層、Ko-c2、1694 年降下)、樽前 b テフラ直下の砂質降下火山灰の有珠 b テフラ (II b 層、Us-b、1663 年降下) については調査区壁面に部分的な確認しているのみである。縄文時代晩期後葉から近世アイヌ文化期にかけての遺物包含層である III 層は樽前 b テフラと樽前 c テフラに狭在する黒色腐植土層で平均層厚は約 15 cm、色調や土質によって a~c 層に細分可能である。III b 層はやや粘性を有し、III c 層は均質に IV 層を多量に含むことから色調が暗褐色を呈し、砂質土層である。本遺跡においてはこの層境に白頭山苦小牧火山灰 (B-Tm、10 世紀前半降下) は部分的に認められる。また、先述したように樽前 b テフラ降下直前、直後まで水成堆積物であるシルトを含む互層堆積物が 30~40 cm と厚く堆積する地点もある。IV 層の樽前 c テフラは均質で 1 つのフォールユニットから成る。

縄文時代前期から晩期中葉にかけての遺物包含層である V 層黒色腐植土は平均層厚約 20 cm で a~c 層に細分できる。Va 層は IV 層と斑状に堆積し、主体となる Vb 層は粘性が強い黒色土層である。Vc 層は高位面において VII または VIII 層起源の樽前 d テフラが均質に混じり、泥岩などの混入物も Vb 層に比べ多く混入する。本遺跡においては調査区西側に樽前 c テフラ下層 (Va 下層) においても水成堆積の粘土質シルトが約 10cm 堆積している。VI 層は V 層と VII 層が植物痕跡等により斑状に堆積する漸位層である。遺物出土層位は Va 層縄文時代晩期、Vb 層縄文時代中期・後期、VI 層は縄文時代早期の遺物包含層となり、これまでの町内発掘調査の結果と概ね一致する。(奈良)



図 I-8 遺跡周辺地形図

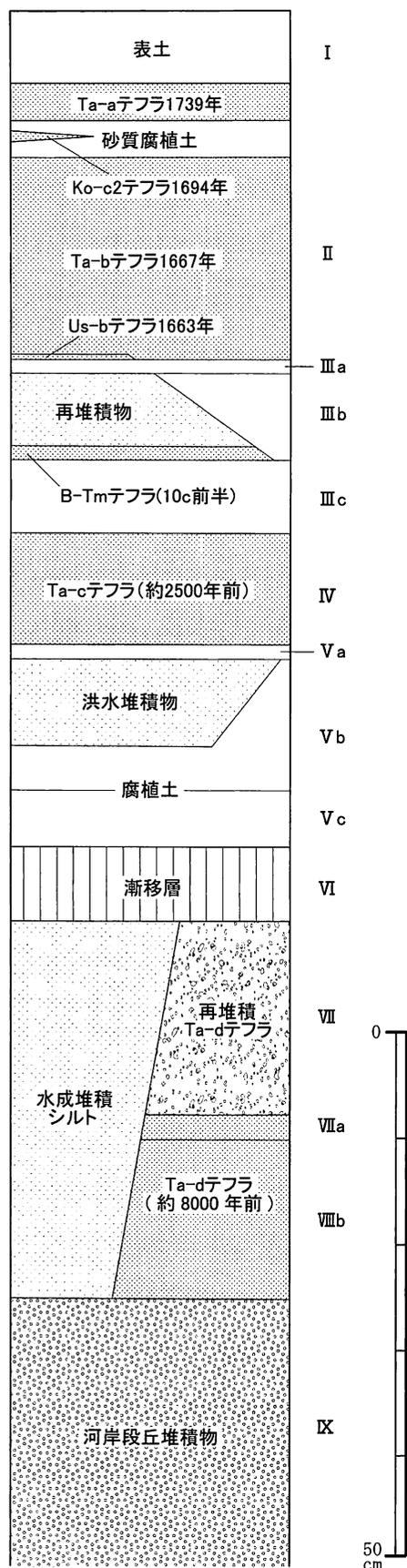


図 I-9 基本土層柱状図

- 0層：攪乱・耕作土
- I層：近現代表土 7.5YR3/1 黒褐色 砂質土
- II層：近世火山噴出物及び黒色砂質腐植土
- a；樽前 a テフラ (Ta-a) 10YR6/4 にぶい黄橙色 砂質降下火山灰 1739 年降下。耕作等により部分的に堆積。層厚 8cm 前後。
  - b；黒色砂質腐植土 10YR2/1 黒色 新千歳空港（美沢川流域の遺跡群）の調査における「0黒層」相当。
  - c；駒ヶ岳 c2 テフラ (Ko-c2) 10YR8/3 浅黄橙色 砂質降下火山灰 1694 年降下。II b 層中において部分的に堆積。
  - d；樽前 b テフラ (Ta-b) 7.5YR5/4 にぶい黄褐色 細礫質降下軽石 1667 年降下。層厚 20cm 前後。一部に南側急傾斜地からの流出再堆積物を確認している。
  - e；有珠 b テフラ (Us-b) 2.5Y6/2 灰黄色 シルト質降下火山灰 1663 年降下。層厚数 mm。III a 層上面に堆積。
- III層：黒色腐植土 新千歳空港（美沢川流域の遺跡群）「I黒層」相当
- a；砂質シルト 7.5YR2/1 黒色 II d・e 層を斑状に含む。層厚 1cm 前後。やや赤味あり。近世初頭遺物包含層。
  - b；シルト 10YR1.7/1 黒色 やや粘性あり。層厚 5cm 前後。上位から中位が中近世アイヌ文化期遺物包含層。下位が擦文文化期遺物包含層。III b 層と III c 層との層境に白頭山苦小牧火山灰 (B-Tm) シルト質降下火山灰 10c 前半降下) が部分的に堆積。上位を III bU、中位を III bM、下位を III bL として細分している。
  - c；砂質シルト 10YR2/3 黒褐色 層厚 7cm 前後。続縄文～縄文晩期後半の遺物包含層。
- 地滑り堆積物：隣接する急傾斜地からの堆積物
- IV層：樽前 c テフラ (Ta-c) 10YR6/6 明黄褐色 砂質降下軽石 B. P. 2,500 年 前後降下。層厚 10cm 前後。1 層のフォール・ユニット。
- V層：黒色腐植土 新千歳空港（美沢川流域の遺跡群）「II黒層」相当
- a；シルト 10YR3/2 黒褐色 層厚 2cm 前後。縄文晩期前半の遺物包含層。
  - b；シルト 10YR1.7/1 黒色 層厚 9cm 前後。縄文中・後期の遺物包含層。
  - c；シルト 10YR2/3 黒褐色 層厚 5cm 前後。縄文前・中期の遺物包含層。
- Vb 層上位に洪水堆積物のシルト層を確認。これらは縄文時代後期 初頭に発生した石狩低地縁活断層を発生原因とする地震による地すべり堆積層。
- VI層：漸移層 2.5YR4/6 赤褐色 暗褐色シルト。層厚 8cm 前後。縄文早期の 遺物包含層。
- VII層：沖積世河岸段丘堆積物。Ta-d 主体の再堆積層。
- a；Ta-d ローム主体 10YR5/6 黄褐色
  - b；Ta-d1 主体 2.5Y5/2 暗灰黄色
  - c；Ta-d2 主体 5YR4/8 赤褐色
  - d；段丘堆積砂主体 10Y6/1 灰色
  - e；亜角礫主体 2.5Y6/4 にぶい黄色
- VIII層：樽前 d テフラ B. P. 8,000 年前後降下。
- a；樽前 d1 テフラ (Ta-d1) 5G4/1 暗緑灰色 細礫質降下スコリア (φ5↓) 層厚 10cm 前後 (今回、当遺跡では検出されていない)
  - b；樽前 d2 テフラ (Ta-d2) 5YR4/8 赤褐色 中礫質降下スコリア層厚 150 cm 前後。部分的に風化による粘土化。
- IX層：河岸段丘堆積物（基盤層）

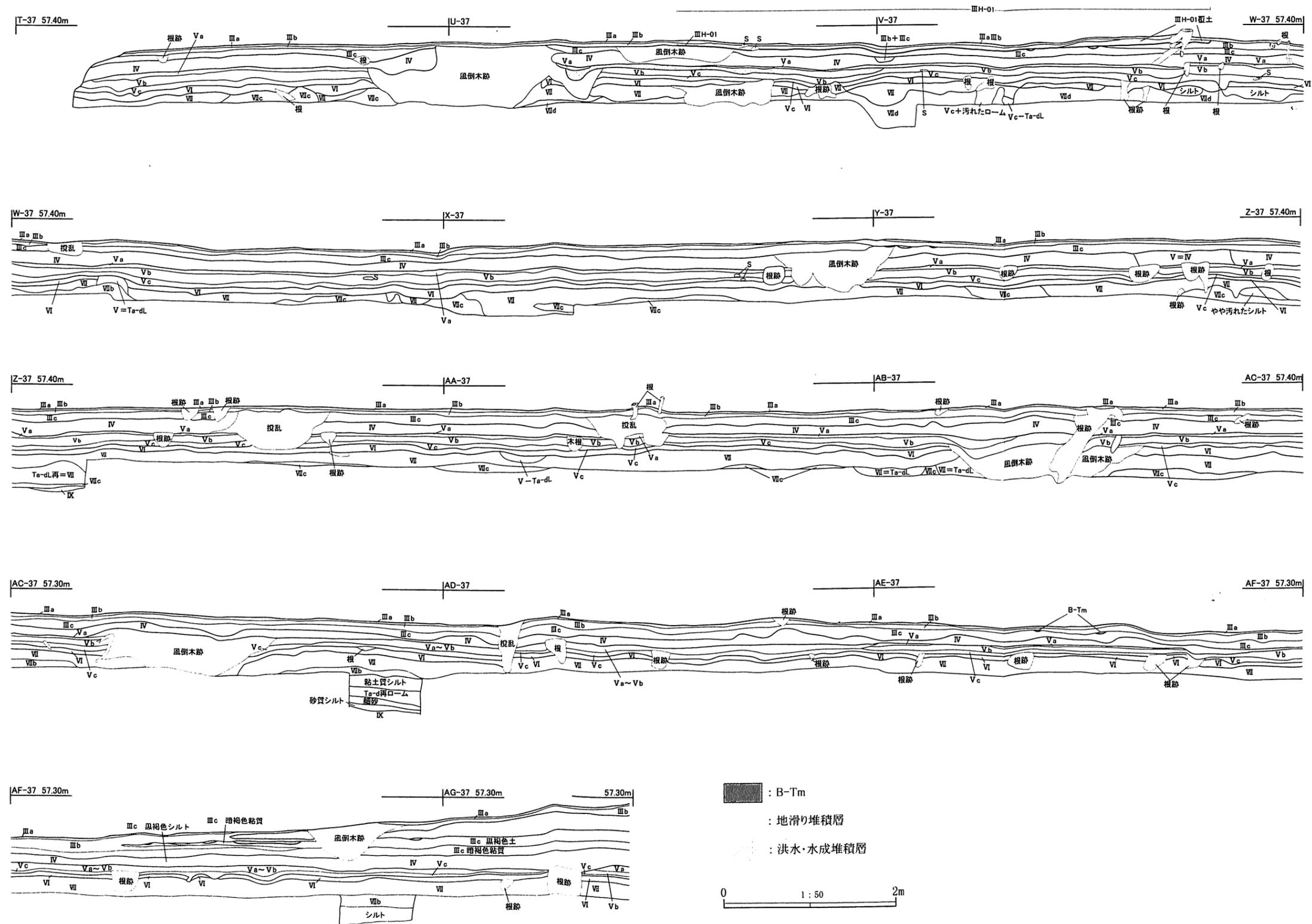
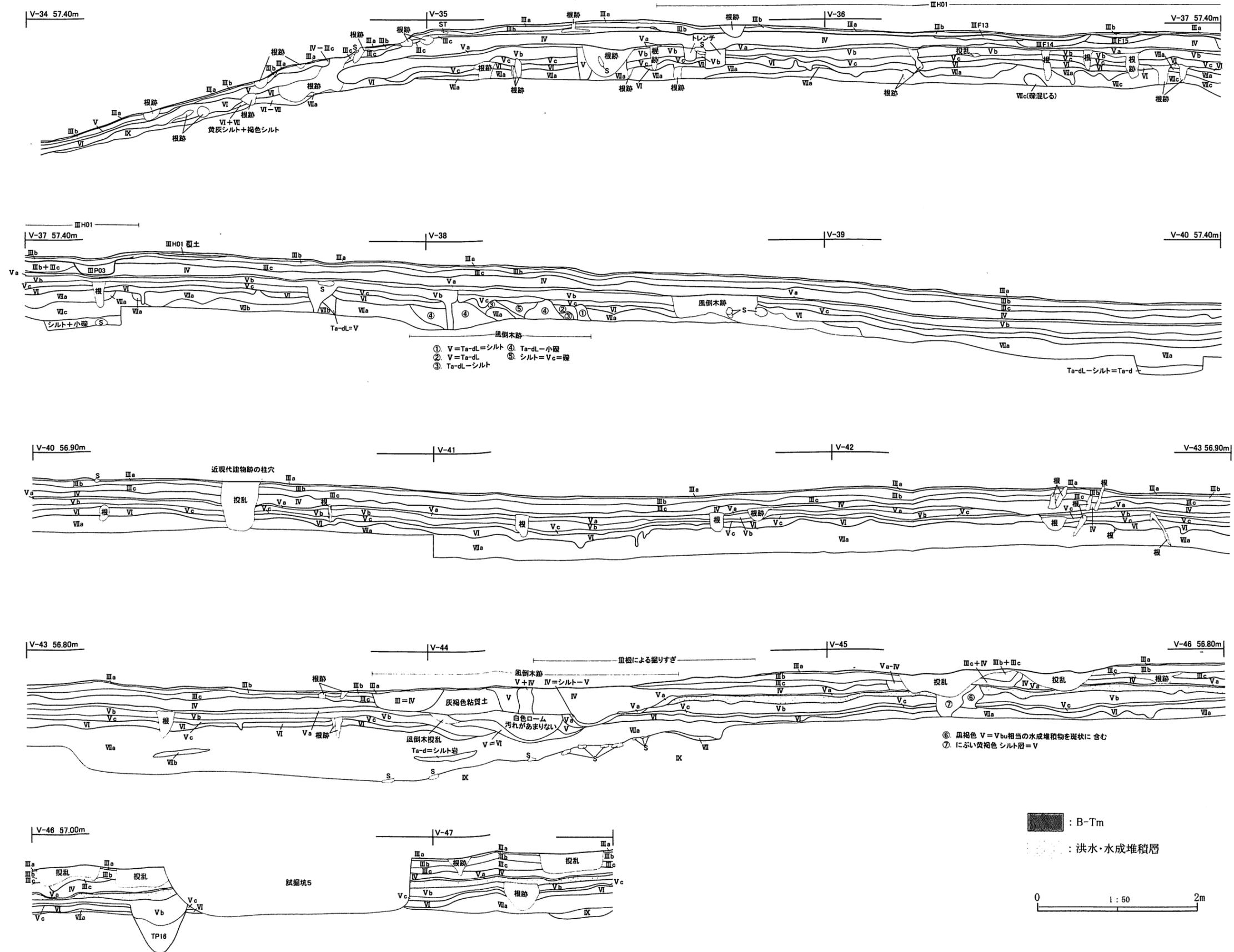


図 I-10 37 ライン断面図



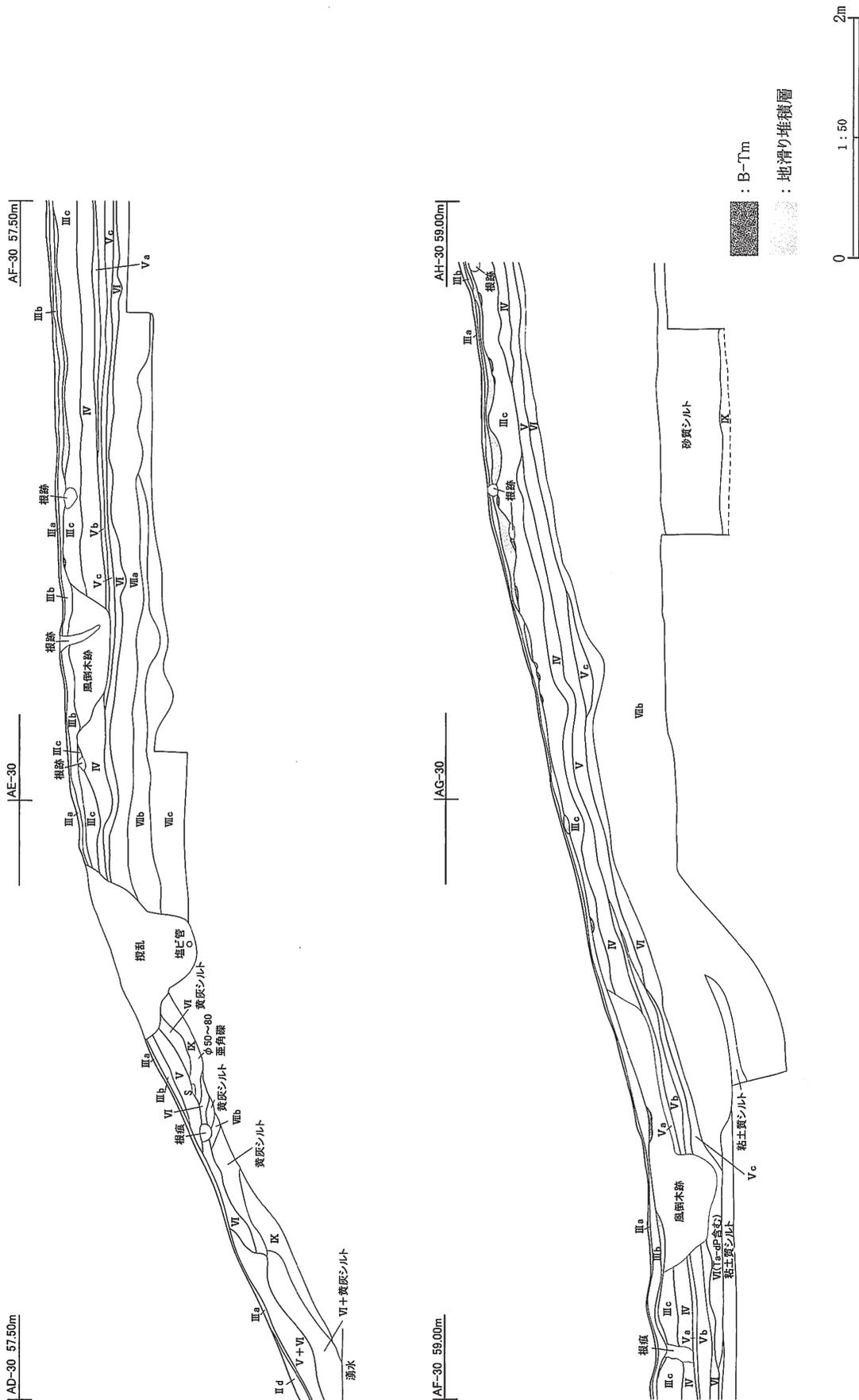
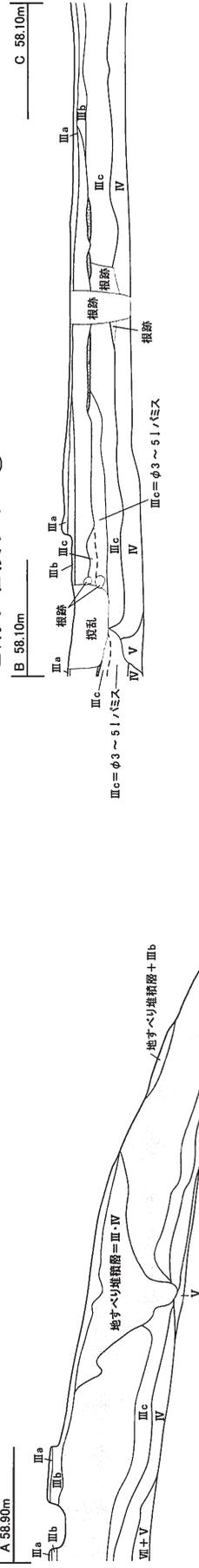
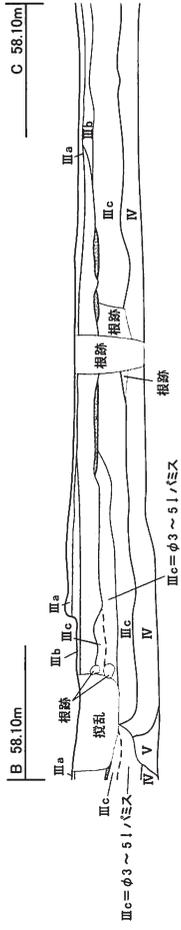


図 I-12 30ライン断面図

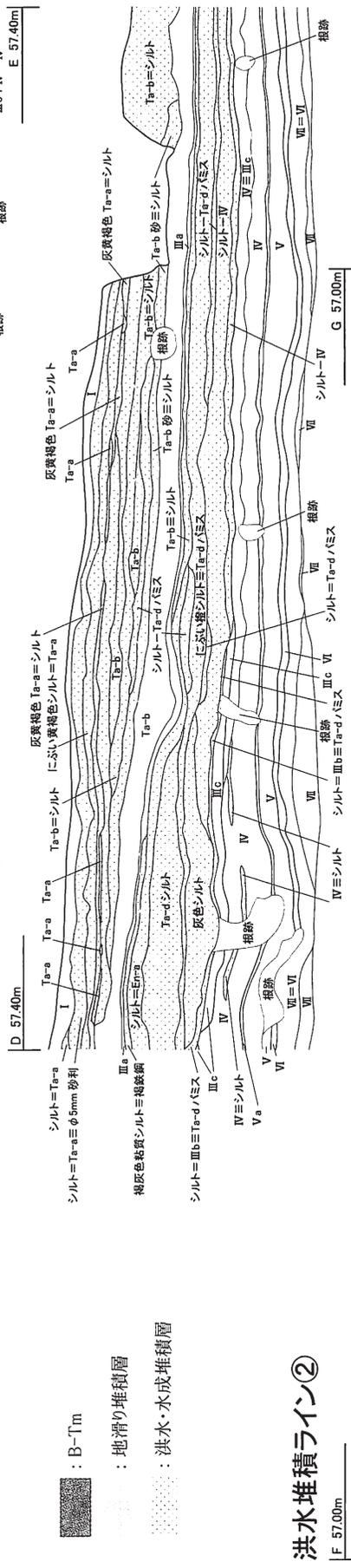
地滑り堆積ライン①



地滑り堆積ライン②



洪水堆積ライン①



洪水堆積ライン②

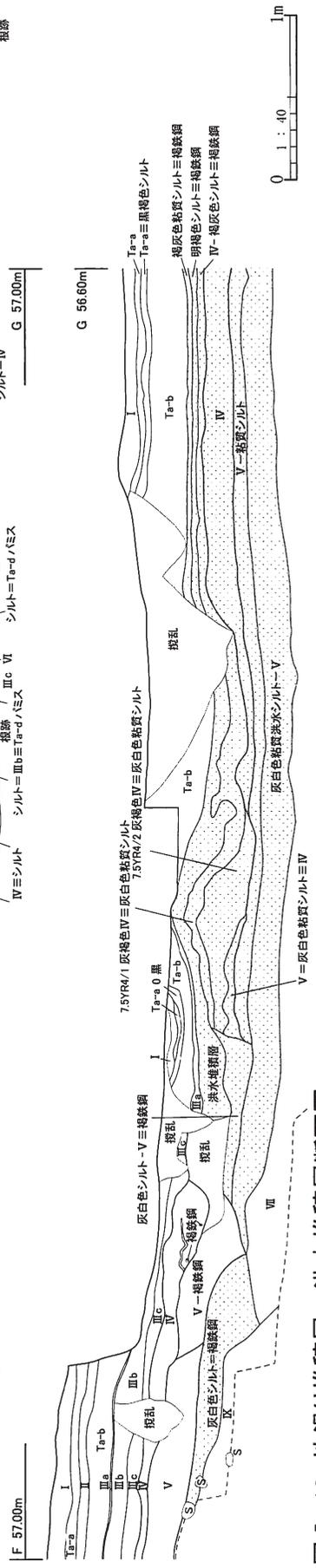


図 I-13 地滑り堆積層・洪水堆積層断面図

## 第II章 擦文文化期の調査

今回調査したⅢ層で主体を成すのはⅢb層中～下位にかけて検出した遺構及び遺物である。遺構は住居跡2軒、集中区1ヶ所(付属施設や関連遺構を含む)、建物跡3軒、土坑1基、焼土13ヶ所(住居跡、集中区除く)、杭列跡3条、土器集中5ヶ所(住居跡、集中区除く)、礫集中3ヶ所(住居跡、集中区除く)がある。遺物を伴わないため建物跡や杭列跡などについては明確な帰属時期は不明である。遺構は湧水の流れる調査区東側の段丘縁辺部と中央の平坦部、北西部の南東緩斜面に主体的な分布を示し、地滑り堆積物が見られる調査区南側の山裾部や洪水堆積物の見られる西側低地部には構築されていない。当遺跡の範囲については、調査区北側が現道により削平を受けており、すでに消失した遺構の存在も考えられるが、試掘調査によると現道の北西側に続くT1面には遺構・遺物の広がりがないことから、擦文文化期の遺構・遺物についてはひとつのまとまりとして捉えることができる。

Ⅲa～Ⅲb層下位にかけて出土した遺物は、土器1,942点、剥片石器22点、礫石器114点、骨角器1点、金属製品7点、剥片類316点、礫8,770点、総計11,172点である。遺物はⅢb層下位～中位にかけての擦文文化期後半期に相当するものが主体であり、調査区南側を除くほぼ全域から出土し遺構の分布域と重複している。

擦文土器は器形が把握可能な復元個体が6個体、概ね文様構成が把握できる個体は破片も含め5個体、その他、口縁部で確認できる個体数は21個体、全体で最小個体数32個体出土している。構成器種は甕形のみで杯、高坏は出土していない。詳しくは第7節で述べるが、文様構成は複段のものや文様帯下縁に馬蹄形圧痕文を施す貼付帯の付くものなど、後期の特徴を示す土器が主体を占める。石器は、たたき石や滑沢面のある礫のほか、石英片岩製の火打石が出土している。金属製品は刀剣類4点(刀子1点、刀子片1点、茎片2点)、器種不明1点の鉄製品が出土し、調査区南東部の焼土群(ⅢF-20・21)周辺で錫鉛の合金製の環状製品(直径25mm)が1点出土している(第VI章6節参照)。この他、獣骨集中からシカを主体とした未被熱獣骨423点が出土した。

また、Ⅲa～Ⅲb層上位で中世アイヌ文化期に属する可能性がある刀剣類1点や獣骨片、礫などが極少量出土しているが、本章で取り扱った。(荻野)

表Ⅱ-1 擦文文化期遺構群一覧表

遺構名	主体部規模(cm)		グリッド	層位	付属施設			関連遺構	備考
	長軸	短軸			焼土	土坑	礫集中		
ⅢH-01	768	618	U・V-35~37	ⅢbL	ⅢF-12~16	ⅢP-03~05	ⅢSB-06・07	ⅢSB-01 ⅢB-01 ⅢBB-03	
ⅢH-02	415	380	AB・AC-34・35	ⅢbL	ⅢF-18・19	ⅢP-06~08	ⅢSB-05	ⅢB-02 ⅢBB-02	
集中区1	870	870	X-40・41 Y-39~41 Z-41	ⅢbL	ⅢF-08	ⅢP-01	ⅢSB-03	ⅢPB-06	

## 第1節 住居跡と関連遺構

### 住居跡1と周辺の関連遺構の概況（図Ⅱ-2 図版5～11）

住居跡1は調査区の北東側段丘縁辺部近くの微高地に位置する。段丘縁辺部から湧水の流れる東斜面にかけて位置する遺物集中（ⅢB-01）と獣骨集中（ⅢBB-03）は住居跡の東側5～6mの位置に近接し、同一層位で検出している。また住居跡の北西緩斜面には礫集中（ⅢSB-01）が位置し、ⅢH-01の床面と掘り上げ土より出土した擦文土器との接合が確認されたため、これらに関連するものと考えここに掲載する。なお、これらの関連遺構からは灰層や焼土粒を伴う炉跡搔き出しに起因する遺構は検出されていない。

### 住居跡1〔ⅢH-01〕（図Ⅱ-2～10 図版5・6）

位置：U・V-35～37区 規模：768×618cm 長軸方向：N-73° E

付属遺構：炉跡：ⅢF-12・13・14・15・16A・16B 土坑：ⅢP-03・04・05 礫集中：ⅢSB-06・07

**確認・調査** 調査区東側段丘縁辺部のⅢ層上面で南北に並ぶ径4～5mの浅い皿状の窪みを2ヶ所確認し、竪穴住居跡の可能性を考え、堆積状態観察のためのベルトとトレンチを設定した。トレンチ調査の結果、南側の窪みは縄文時代の竪穴住居跡（VH-01）と判明した。北側の窪みは中央部Ⅲb層下位で焼土を検出し、さらに周辺を精査したところ、東西に並列する焼土を確認した。窪みの外側には掘り上げ土の堆積も確認できたことから住居跡と判断し調査を進めた。住居跡西側には基本土層記録用のベルトを十字に設定していたが、並列する焼土群の長軸上に再設定を行った。北側のトレンチ内に支柱穴と考えられるHP-27と深さ5cm程の壁面の立ち上がりを検出した。断面観察から浅い掘り込みをもつ住居と想定されたため、焼土を中心として床面及び壁面の立ち上がり、掘り上げ土の範囲確認を行った。

床面を精査中に西側の壁面付近に礫集中2ヶ所（ⅢSB-06・07）と床面から掘り込まれたと考えられる土坑3基を検出した（ⅢP-03・04・05）。壁面の立ち上がりは炉跡を中心として検出済みの柱穴から全体の配置を想定し柱穴の検出とともに行った。柱穴はⅢc～Ⅳ層上位で長方形に配置された支柱穴8本を検出した。これらの柱穴列をもとに、未検出の柱穴を確認するためⅣ層上面でジョレンによる精査を行い、Ⅴ層上面でも再精査したところ径5～7cmの柱穴3本を検出した。住居跡の立ち上がりについては断面で5cm程の浅い掘り込みを認める部分があるものの、全体を明確に捉えることは出来なかった。調査は並列する炉の写真撮影と平面形・土層断面の図化を行い、炉跡上面の土壌をフローテーションと微細遺物回収目的に採取した。個々の柱穴について断面写真撮影と図化を行い、最後に完掘写真を撮影し終了とした。

**堆積状態** トレンチをⅤ層上面まで掘り下げ断面を観察した結果、Ⅲc層が薄くなる部分や欠如する部分が認められるため、床面は3～5cm程度の深さで掘削整地していると考えられる。住居跡は緩い傾斜地に構築され、標高がやや高い北側から東側の壁面周辺にはコの字状に掘り上げ土を確認できた。掘り上げ土の基底面はⅢb層下位で、さらに黒色土を1cm程度挟在してB-Tmが堆積していた。周囲の包含層よりも残存状態が良好であることから、掘り上げ土の被覆による保全効果と思われる。南側から南東部にかけては断面で掘り上げ土の確認が出来たが、平面では明瞭に広がり捉えることができなかった部分があり、B-Tmの堆積範囲と微地形を考慮して範囲を推定している。なお、遺物取り上げの際の床面層位を2層としている。



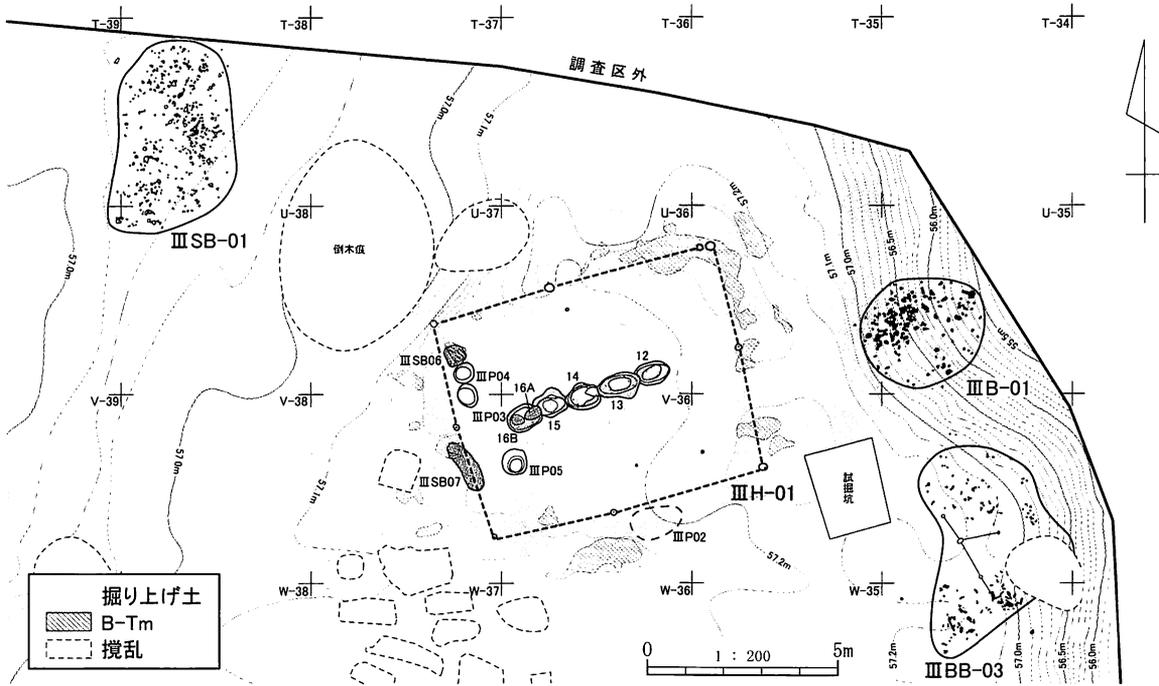


図 II-2 IIIH-01 及び関連遺構配置図

**付属炉** 住居跡長軸上中央部で検出した焼土を配置や検出層位から住居に付属する炉と認定した。炉跡は楕円形を呈する5ヶ所が直線上に並び、東から西へⅢF-12・13・14・15・16と付番したが、16は断面の観察でさらに切り合いが確認されたため新しい方を16A、古い方を16Bとし、炉跡は6ヶ所となる。ⅢF-12は上面が浅く窪み地山被熱層のみであることから灰層の掻き出しが行われていたと考えられる。ⅢF-13はやや土壌化した灰層を確認した。ⅢF-14はピット埋土上に焼土が形成され、埋土は炭化物と焼土粒が混じる埋め戻し土である。ⅢF-15は地山被熱層のみであった。ⅢF-16Bはほとんどが地山被熱層のみであったが、上位の16Aには燃烧面に焼骨片が残っていた。これら6ヶ所の焼土は平面や断面の切り合いによって新旧が確認できたものがあり、次のように整理され、最低3回の重複関係にあることを確認した。「古-15-14-13-新、古-15-16B-16A-新、古-12-13-新」。これまで厚真町で調査した中世アイヌ文化期の平地式住居跡には2から複数で1対を構成する炉跡が多く見られることから、これを参考として2ヶ所1対で3回の変遷を想定した場合、炉跡の新旧関係は次のようになる。「古-①12・15、②14・16B、③13・16A-新」。これらの焼土群は焼骨片や炭化物をやや多く混入する燃烧面の土壌について全量のサンプリングを行った。フローテーション処理の結果、シカの他にサケ科、サケ属、コイ科の魚類を確認している(第VI章第2節)。炭化種子は草木類のタデ科の他、ササ属・キハダ・ブドウ・モクレン科・コナラ属などの野生植物、また、ⅢF-14から栽培種であるキビ属が1点(第VI章第3節)、メノウの碎片が0.04g得られている。

**柱穴** 柱穴は全て端部が尖る打ち込み柱で12本検出し、このうち支柱穴は9本である。8本が長方形に配置され、HP-33・34の2本は近接するため補強や補修の可能性が考えられる。四隅の柱穴は全て「外踏ん張り」の僅かな傾斜(5~10°)を有している。長軸方向に位置するHP-15と22はほぼ垂直に打ち込まれている。北側と南側では壁際から1m程内側に径5~7cmの細い柱穴計3本を検出した。

**土坑** 土坑は西側の壁面付近の床面で3基検出し、検出順にⅢP-03・04・05と付番した。ⅢH-01の南壁際に接するⅢP-02は、断面観察により住居跡よりも古く構築されていることから付属遺構から除外している。土坑の規模は長短軸69～45cm前後の円形・楕円形、深さ15cm前後で皿状の掘り込みである。いずれも住居跡の西側に構築され、Ⅲb層及びⅢc層により埋め戻されている。ⅢP-03・04から礫各2点、ⅢP-05から欠損したたたき石1点と礫4点が出土している。

**礫集中** ⅢH-01内南西部に2ヶ所の礫集中を検出し、炉跡と同一層位であること、直線状に検出していることから住居跡に伴う遺構と判断し、これらをⅢSB-06・07とした。ⅢSB-06の範囲は住居跡の北西隅に位置し径約65cmの円形範囲内に出土した。泥岩・砂岩の完形礫が2点ある他は、破碎礫が120点出土し、4点の接合が確認された。材質は石英が主体で少量のメノウがある。石質は硬質であるため、自然に破碎するものではなく、意図的な破碎の後、西側の壁面付近床面へ分布する特異な出土状態である。覆土中からも石英やメノウの碎片がみられたが、ⅢSB-06の集中から遊離した破片であると思われる。ⅢSB-07は住居跡の西壁にかかるように156cm×55cmの長楕円形の範囲に出土した。礫19点と台石1点が出土した。完形は棒状7点・板状4点・不定形1点で、材質は砂岩と泥岩が多い。ⅢSB-01出土のものと1点接合している。

**出土遺物** (図Ⅱ-6～10) 1はⅦ群B3類の甕である。口縁部から胴下半部が残存する。口唇部断面形は丸状で、口縁部は僅かに開く。口縁部には矢羽根状文が施される。胴部文様帯は上下を2～3条1組みの横走沈線で区画した後、鋸歯状文を2段施している。2はⅦ群B3類に属する口縁部で、口唇部断面形は隅丸角状で口縁部はやや外傾している。文様はヘラ状工具で段状沈線文を巡らせた後、連続した刻みを2段施している。3は口縁部から胴部上半にかけての甕でⅦ群B3類に属する。口唇部断面形は丸状で、口縁部は「く」の字状に外反している。口縁部にはヘラ状工具での浅い平行沈線文上に矢羽根状の刻みが1段施される。胴部文様帯は横走沈線で区画した後、3～4本の縦位沈線とこれらを充填するように縦の鋸歯文が施されている。4・5は床面出土の火打石で、4は白色で縞の入るメノウであり、5は赤色を呈する石英片岩、珪質分を多く含有する石材の比較的大きな剥片を素材とし、縁辺部は2～10mmの連続した微細剥離で潰れている。石材・縁辺の潰れを根拠に火打石として分類したが、擦文文化期文化期に帰属する火打石の類例は、同町内では上幌内モイ遺跡(厚真町教育委員会2007)での出土例が挙げられる。住居炉跡であるⅢF-14で出土したメノウ碎片は4と同一の石質である。6～9はたたき石である。6は石英、8は花崗岩で、上面と下面と右側縁稜に顕著な敲打痕を有する。7は花崗岩で下縁の稜ほぼ全面に敲打痕が認められる。9は蛇紋岩で、3側縁に弱い敲打痕が認められ、表面中央部には滑沢面が形成されている。10は横断面形が三角を呈する凝灰岩の表面に敲打痕が見られ、狭小な面であるが台石として考えられる。11・12は加工痕のある礫。11は赤色を呈する石英片岩で4と同一の石質をもち、両端に剥離が見られる。12は砂岩で下端に連続した剥離が認められる。両石器は縁辺が鋭利な角度を成すことから利器としての使用も考えられるが、磨耗や使用痕と思われる細かな剥離はなく、用途は不明である。13～56は住居跡とⅢSB-07出土の礫で、接合関係も認められた。材質は砂岩と泥岩が大半を占め、小型の棒状礫が主体をなし、大型の扁平礫が客体的に含まれる。完形・略完形98点の礫の平均値は長軸67.5mm、短軸40.7mm、厚さ22.8mm、長短比は1.8である。ⅢSB-06出土礫は図示していない。57は花崗岩の台石で、厚みのある礫の表裏平坦面に敲打痕が希薄に見られる。

(1～3: 荻野 4～57: 松井)

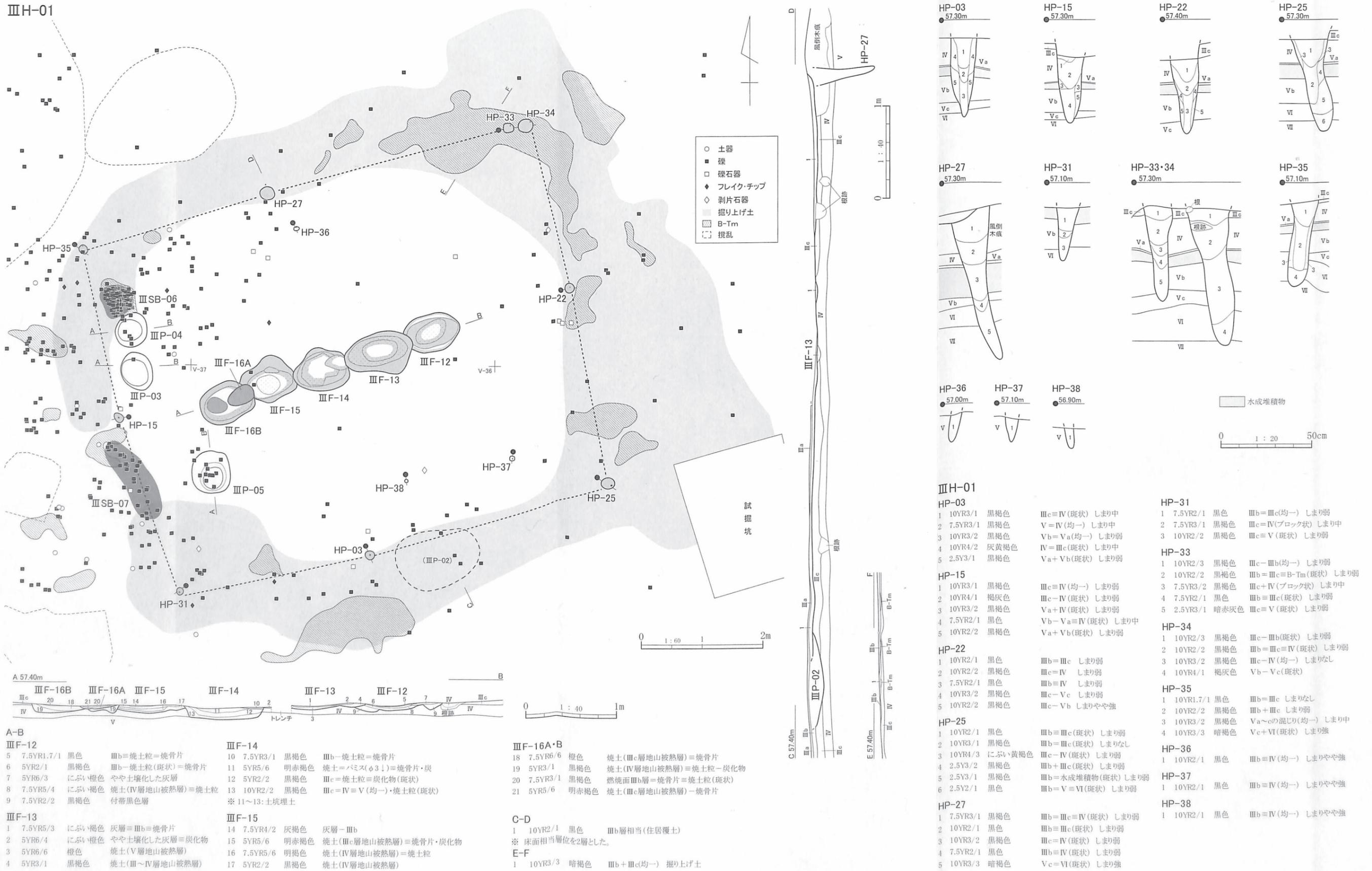
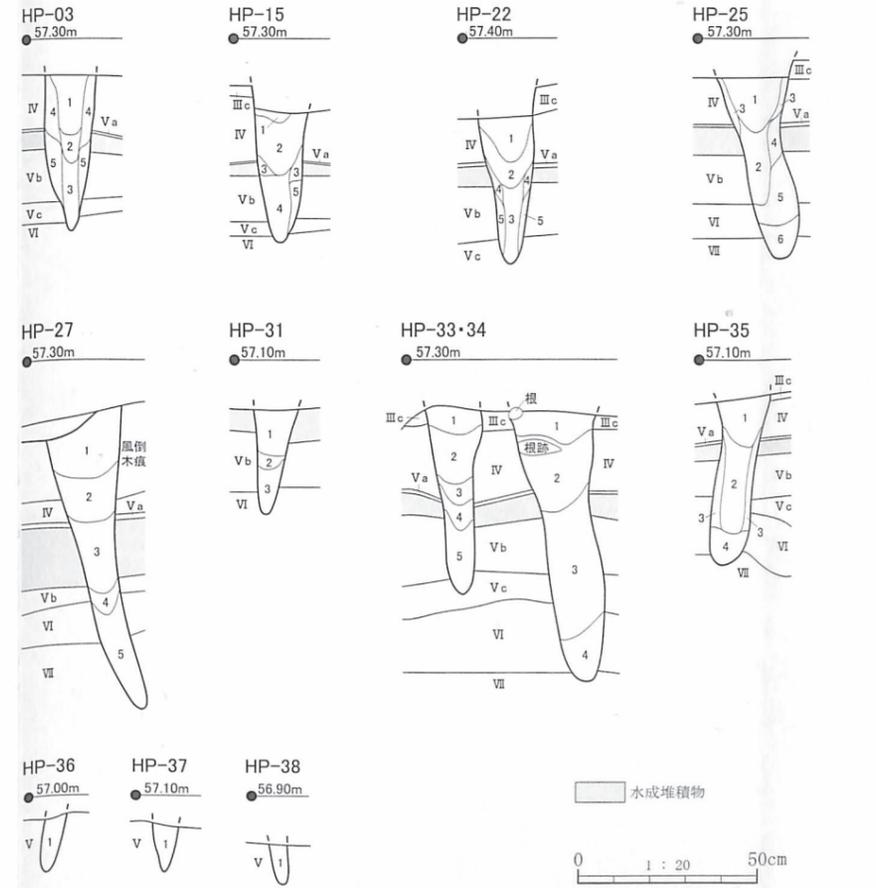


図 II-3 IIIH-01平面及び断面図

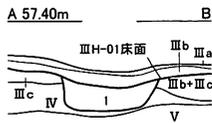
A-B		III F-12		III F-14	
5	7.5YR1.7/1 黒色	IIIb=焼土粒=焼骨片	10	7.5YR3/1 黒褐色	IIIb-焼土粒=焼骨片
6	5YR2/1 黒褐色	IIIb-焼土粒(斑状)=焼骨片	11	5YR5/6 明赤褐色	焼土(IIIc層地山被熱層)=焼骨片・炭
7	5YR6/3 にぶい褐色	やや土壌化した灰層	12	5YR2/2 黒褐色	IIIc=焼土粒=炭化物(斑状)
8	7.5YR5/4 にぶい褐色	焼土(IV層地山被熱層)=焼土粒	13	10YR2/2 黒褐色	IIIc=IV=V(均一)・焼土粒(斑状)
9	7.5YR2/2 黒褐色	付帯黒色層	※ 11~13: 土坑埋土		
III F-13		III F-15		III F-16A・B	
1	7.5YR5/3 にぶい褐色	灰層=IIIb=焼骨片	14	7.5YR4/2 灰褐色	灰層-IIIb
2	5YR6/4 にぶい褐色	やや土壌化した灰層=炭化物	15	5YR5/6 明赤褐色	焼土(IIIc層地山被熱層)=焼骨片・炭化物
3	5YR6/6 褐色	焼土(V層地山被熱層)	16	7.5YR5/6 明褐色	焼土(IV層地山被熱層)=焼土粒
4	5YR3/1 黒褐色	焼土(III~IV層地山被熱層)	17	5YR2/2 黒褐色	焼土(IV層地山被熱層)

C-D		E-F	
1	10YR2/1 黒色	IIIb層相当(住居覆土)	
※ 床面相当層位を2層とした。			
III F-16A・B			
18	7.5YR6/6 褐色	焼土(IIIc層地山被熱層)=焼骨片	
19	5YR3/1 黒褐色	焼土(IV層地山被熱層)=焼土粒・炭化物	
20	7.5YR3/1 黒褐色	燃焼面IIIb層=焼骨片=焼土粒(斑状)	
21	5YR5/6 明赤褐色	焼土(IIIc層地山被熱層)-焼骨片	
III P-02			
1	10YR3/3 暗褐色	IIIb+IIIc(均一) 掘り上げ土	



III H-01		HP-31	
HP-03		1	7.5YR2/1 黒色 IIIb=IIIc(均一) しまり弱
1	10YR3/1 黒褐色 IIIc=IV(斑状) しまり中	2	7.5YR3/1 黒褐色 IIIc=IV(ブロック状) しまり中
2	7.5YR3/1 黒褐色 V=IV(均一) しまり中	3	10YR2/2 黒褐色 IIIc=V(斑状) しまり弱
3	10YR3/2 黒褐色 Vb=Va(均一) しまり弱	HP-33	
4	10YR4/2 灰黄褐色 IV=IIIc(斑状) しまり中	1	10YR2/3 黒褐色 IIIc-IIIb(均一) しまり弱
5	2.5Y3/1 黒褐色 Va+Vb(斑状) しまり弱	2	10YR2/2 黒褐色 IIIb=IIIc=IIIb-Tm(斑状) しまり弱
HP-15		3	7.5YR3/2 黒褐色 IIIc+IV(ブロック状) しまり中
1	10YR3/1 黒褐色 IIIc=IV(均一) しまり弱	4	7.5YR2/1 黒色 IIIb=IIIc(斑状) しまり弱
2	10YR4/1 褐灰色 IIIc-IV(斑状) しまり弱	5	2.5YR3/1 暗赤灰色 IIIc=V(斑状) しまり弱
3	10YR3/2 黒褐色 Va+IV(斑状) しまり弱	HP-34	
4	7.5YR2/1 黒色 Vb-Va=IV(斑状) しまり中	1	10YR2/3 黒褐色 IIIc-IIIb(斑状) しまり弱
5	10YR2/2 黒褐色 Va+Vb(斑状) しまり弱	2	10YR2/2 黒褐色 IIIb=IIIc=IV(斑状) しまり弱
HP-22		3	10YR3/2 黒褐色 IIIc-IV(均一) しまりなし
1	10YR2/1 黒色 IIIb=IIIc しまり弱	4	10YR4/1 褐灰色 Vb-Vc(斑状)
2	10YR2/2 黒褐色 IIIc=IV しまり弱	HP-35	
3	7.5YR2/1 黒色 IIIb=IV しまり弱	1	10YR1.7/1 黒色 IIIb=IIIc しまりなし
4	10YR3/2 黒褐色 IIIc-Vc しまり弱	2	10YR2/2 黒褐色 IIIb+IIIc しまり弱
5	10YR2/2 黒褐色 IIIc-Vb しまりやや強	3	10YR3/2 黒褐色 Va~cの混じり(均一) しまり中
HP-25		4	10YR3/3 暗褐色 Vc+VI(斑状) しまり強
1	10YR2/1 黒色 IIIb=IIIc(斑状) しまり弱	HP-36	
2	10YR3/1 黒褐色 IIIb=IIIc(斑状) しまりなし	1	10YR2/1 黒色 IIIb=IV(均一) しまりやや強
3	10YR4/3 にぶい黄褐色 IIIc-IV(斑状) しまり弱	HP-37	
4	2.5Y3/2 黒褐色 IIIb+IIIc(斑状) しまり弱	1	10YR2/1 黒色 IIIb=IV(均一) しまりやや強
5	2.5Y3/1 黒褐色 IIIb=水成堆積物(斑状) しまり弱	HP-38	
6	2.5Y2/1 黒色 IIIb=V=VI(斑状) しまり弱	1	10YR2/1 黒色 IIIb=IV(均一) しまりやや強
HP-27			
1	7.5YR3/1 黒褐色 IIIb=IIIc=IV(斑状) しまり弱		
2	10YR2/1 黒色 IIIb=IIIc(斑状) しまり弱		
3	10YR3/2 黒褐色 IIIc=IV(斑状) しまり弱		
4	7.5YR2/1 黒色 IIIb=IV(斑状) しまり弱		
5	10YR3/3 暗褐色 Vc=VI(斑状) しまり強		

ⅢP-03



ⅢP-03

1 10YR5/2 灰褐色 Ⅲb+Ⅲc(均一)

ⅢP-04



ⅢP-04

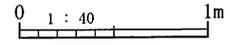
1 10YR3/3 暗褐色 Ⅲc≡Ⅳ  
(埋め戻し土)  
2 10YR3/1 黒褐色 Ⅲb-Ⅳ

ⅢP-05



ⅢP-05

1 7.5YR1.7/1 黒色 Ⅲb≡Ⅲc(均一)  
2 10YR3/3 暗褐色 Ⅲc-Ⅳ(均一)  
3 7.5YR3/1 黒褐色 Ⅲb=Ⅳ(均一)  
4 7.5YR2/1 黒色 Ⅲb=Ⅲc(均一)



図Ⅱ-4 ⅢP-03～05断面図

表Ⅱ-2 ⅢH-01属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	長軸方向	規模(cm)				柱穴			付属遺構
						主体部		付属部		本数			
						長軸	短軸	長軸	短軸	主柱	付属	他	
Ⅱ-3	5-1	ⅢH-01	U・V-35~37	ⅢbL	N-73° E	768	618	-	-	9	-	3	ⅢF-12~16・ⅢP-03~05 ⅢSB-06・07

表Ⅱ-3 ⅢH-01付属炉属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅱ-3	6-1・2	ⅢF-12	U-36	ⅢbL	楕円形	39	28	8	灰・骨片	新ⅢF-13 旧ⅢF-12
Ⅱ-3	6-1・2	ⅢF-13	U・V-36	ⅢbL	楕円形	114	72	4	灰・骨片	新ⅢF-13 旧ⅢF-12・14
Ⅱ-3	6-1・2	ⅢF-14	U・V-36	ⅢbL	楕円形	90	75	12	骨片	新ⅢF-13・14 旧ⅢF-13
Ⅱ-3	6-1・2・5	ⅢF-15	U・V-36	ⅢbL	楕円形	90	81	8	灰・骨片	新ⅢF-14・16A・16B 旧ⅢF-15
Ⅱ-3	6-1・2・4	ⅢF-16A	V-36	ⅢbL	楕円形	48	30	4	骨片	新ⅢF-16A 旧ⅢF-16B・ⅢF-15
Ⅱ-3	6-1・2・4	ⅢF-16B	V-36	ⅢbL	楕円形	36	27	8	骨片	新ⅢF-16A 旧ⅢF-16B・ⅢF-15

表Ⅱ-4 ⅢP-03~05属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形 調査面 /坑底面	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ (cm)	長軸 方向	調査面長 短比	坑底面長 短比	出土 遺物	備考
						長軸	短軸	長軸	短軸						
Ⅱ-4	7-1・2	ⅢP-03	U・V-37	ⅢbL	楕円形/円形	69	45	43	42	15	N-17° W	1.5	1.0	-	
Ⅱ-4	7-3・4	ⅢP-04	U-37	Ⅲc	円形/楕円形	57	51	40	34	16	N-87° E	1.1	1.2	-	
Ⅱ-4	7-5・6	ⅢP-05	V-36	Ⅲc	円形/円形	63	57	36	32	12	N-7° E	1.1	1.1	-	

表Ⅱ-5 ⅢH-01柱穴属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	規模(cm)			傾き (度)	タイプ	備考
			上端	下端	深さ			
Ⅱ-3	5-2	HP-03	15	2	43	0	打込み	
Ⅱ-3	5-3	HP-15	16	3	37	0	打込み	
Ⅱ-3	5-4	HP-22	16	3	41	0	打込み	
Ⅱ-3	5-5	HP-25	26	4	51	9	打込み	
Ⅱ-3	5-6	HP-27	21	2	84	10	打込み	
Ⅱ-3	5-7	HP-31	12	2	30	5	打込み	
Ⅱ-3	5-8	HP-33	15	2	33	2	打込み	
Ⅱ-3	5-8	HP-34	25	4	75	5	打込み	
Ⅱ-3	5-9	HP-35	15	4	37	6	打込み	
Ⅱ-3	-	HP-36	6	2	15	5	打込み	
Ⅱ-3	-	HP-37	7	1	13	1	打込み	
Ⅱ-3	-	HP-38	5	2	12	2	打込み	

表Ⅱ-6 ⅢSB-06・07属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			備考
						長軸	短軸	厚さ	
Ⅱ-5	8-2	ⅢSB-06	U-37	1L・2	楕円形	66	65	-	
Ⅱ-5	8-3	ⅢSB-07	V-37	1L・1U・2	長楕円形	156	55	-	

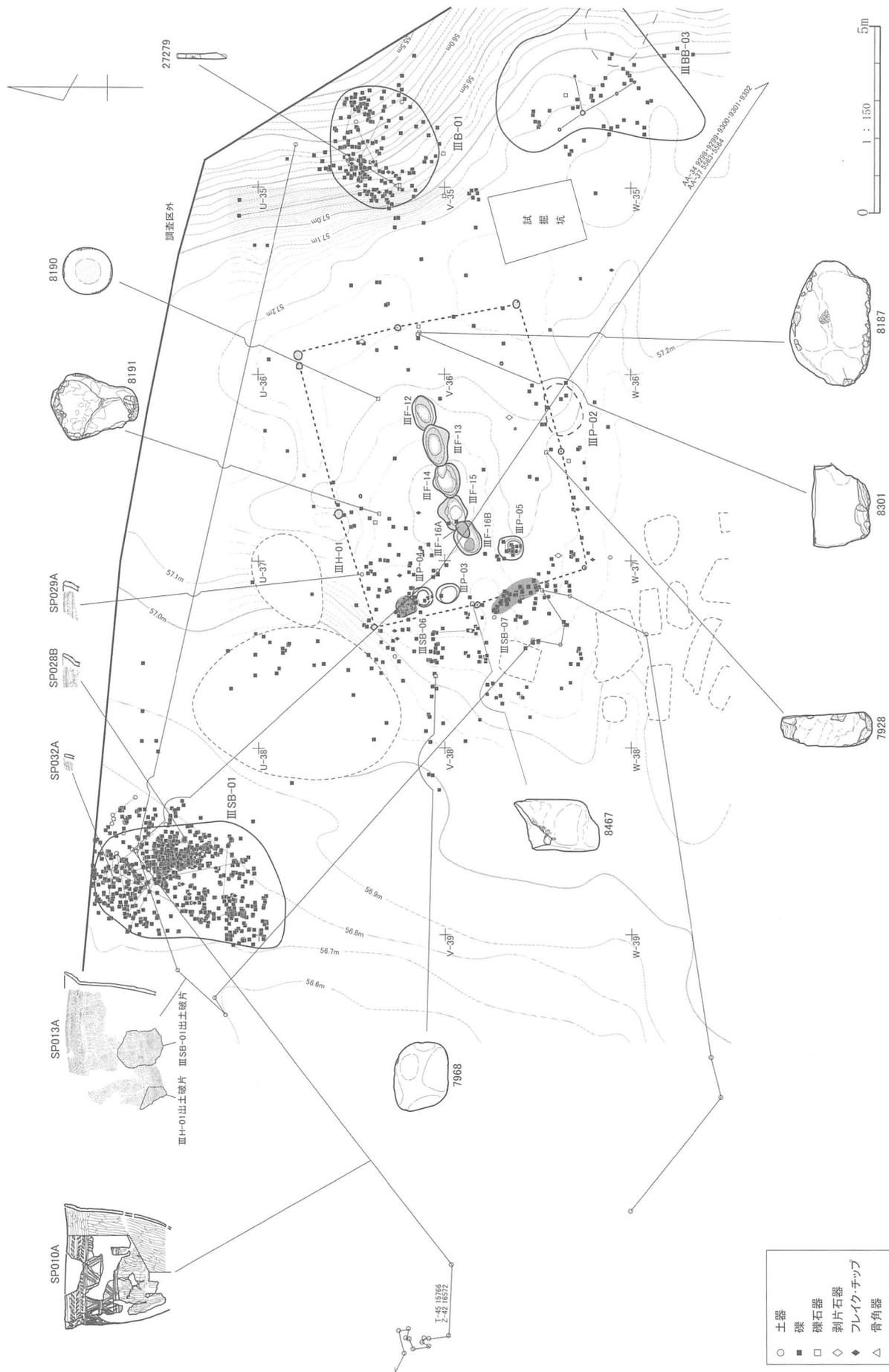
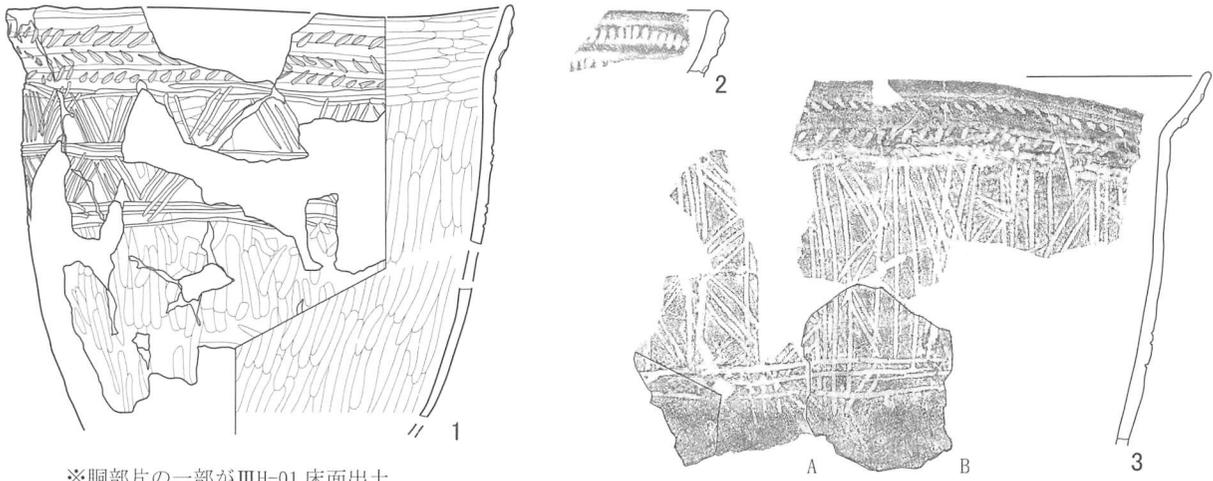
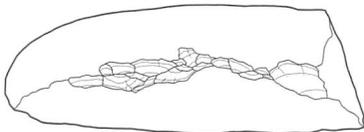
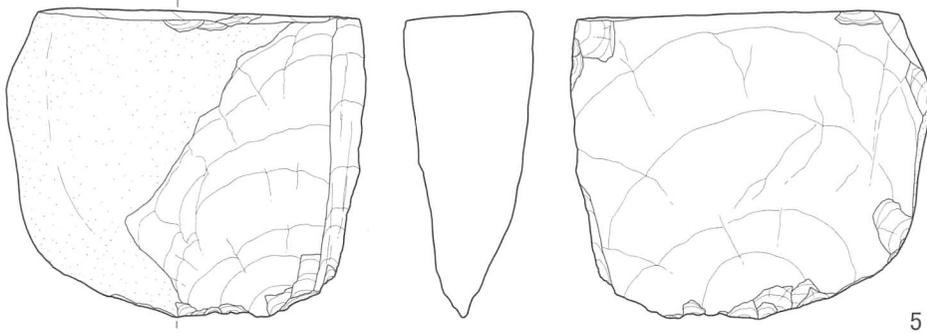
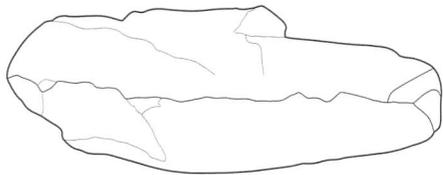
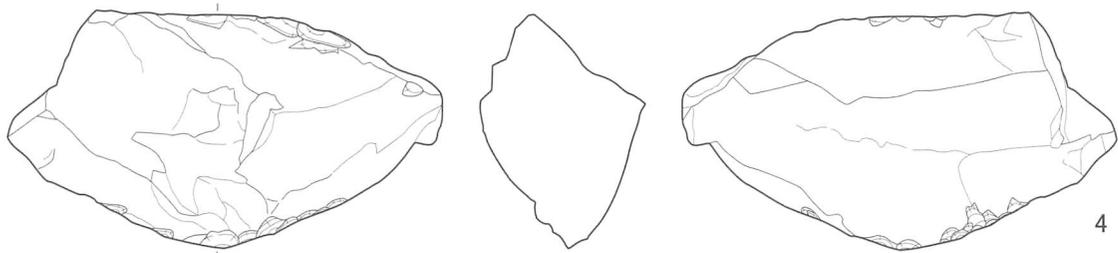


図 II-5 IIIH-01 及び関連遺構接合分布図

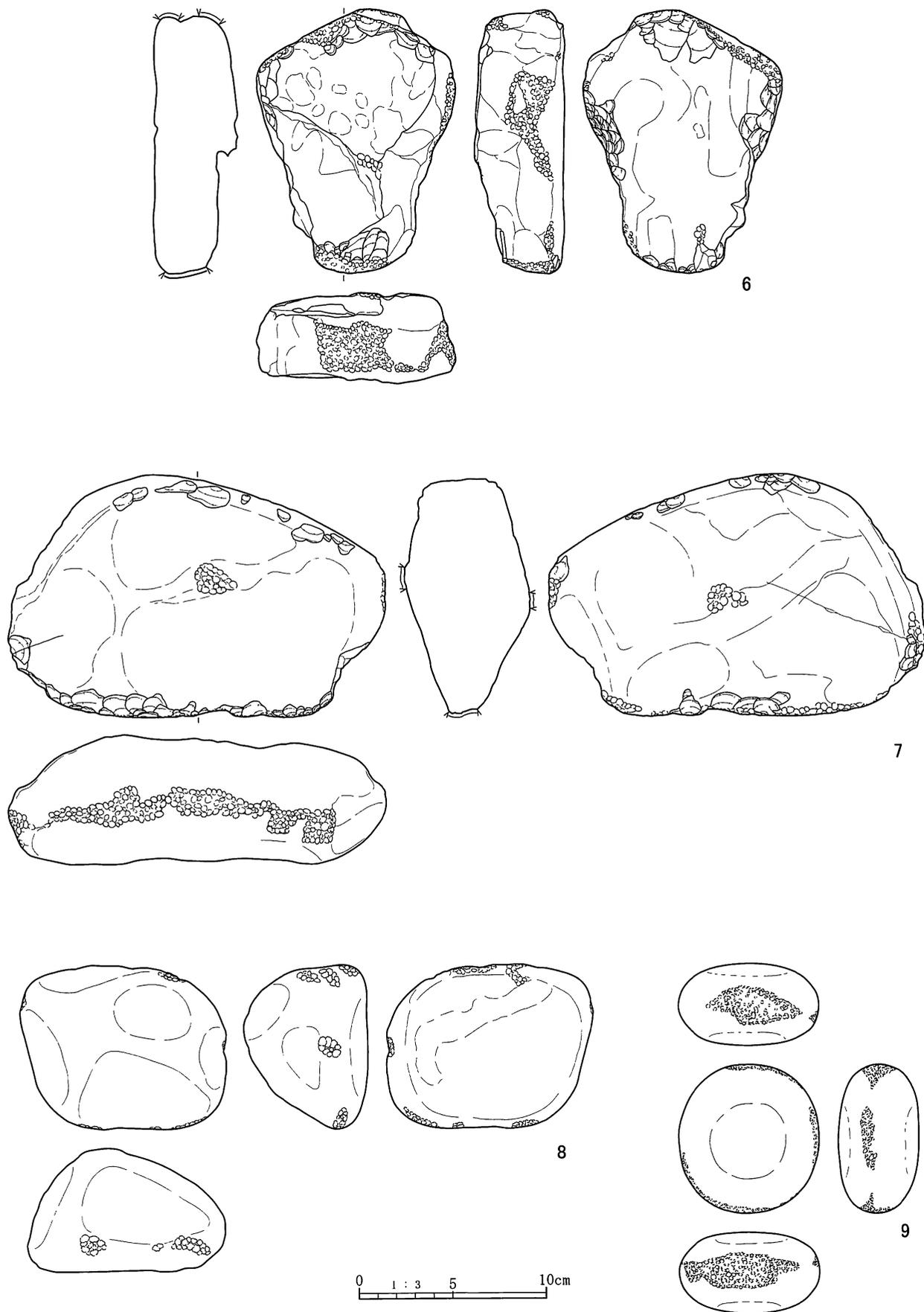


※胴部片の一部がⅢH-01 床面出土

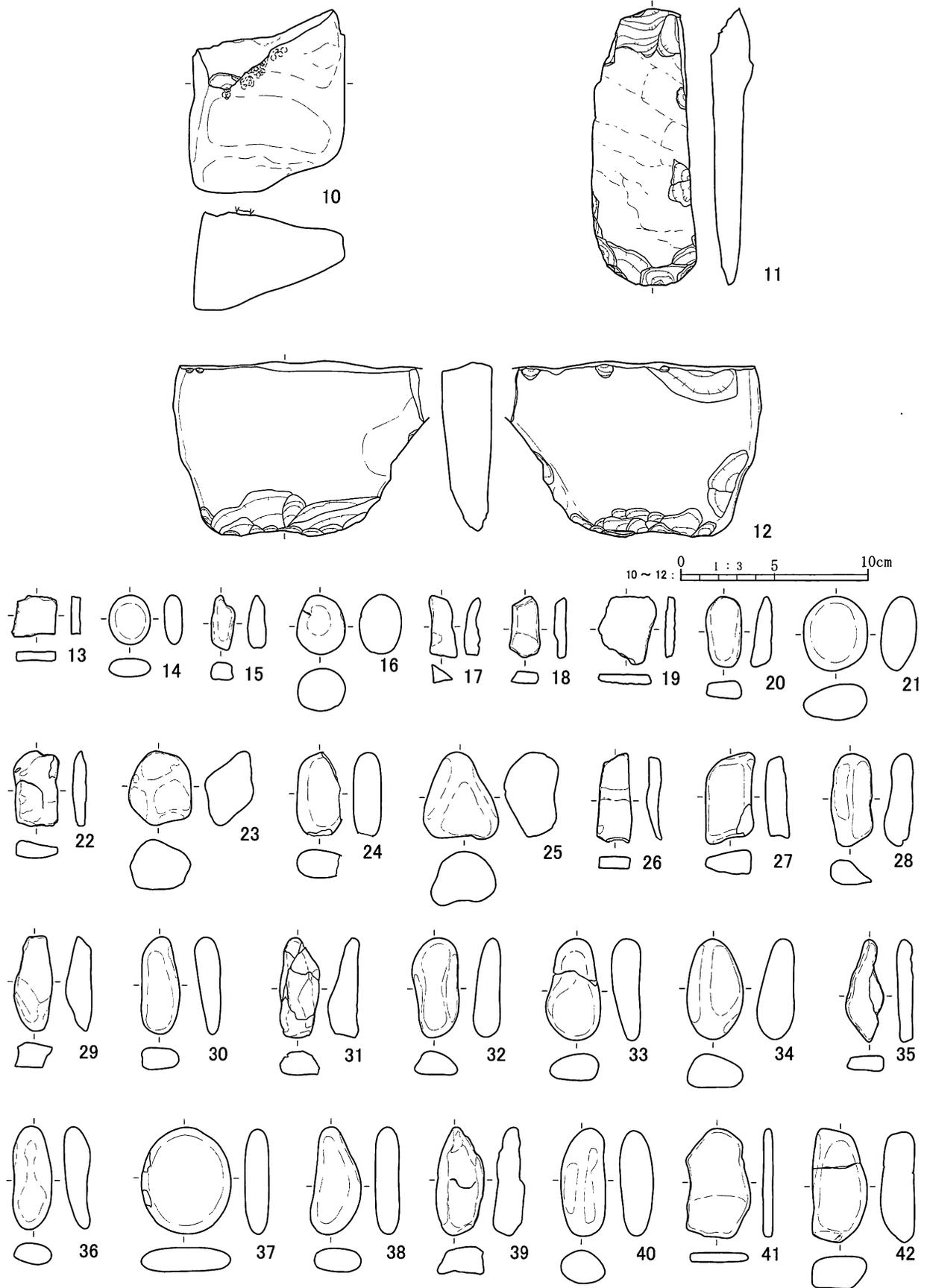
※ A:ⅢH-01 掘り上げ土上面出土  
B:ⅢSB-01 出土



図II-6 ⅢH-01 出土遺物 (1)



図Ⅱ-7 ⅢH-01 出土遺物 (2)



※ □ : III SB-07出土

図II-8 III H-01 出土遺物 (3)

13 ~ 42 : 0 1 : 4 10cm

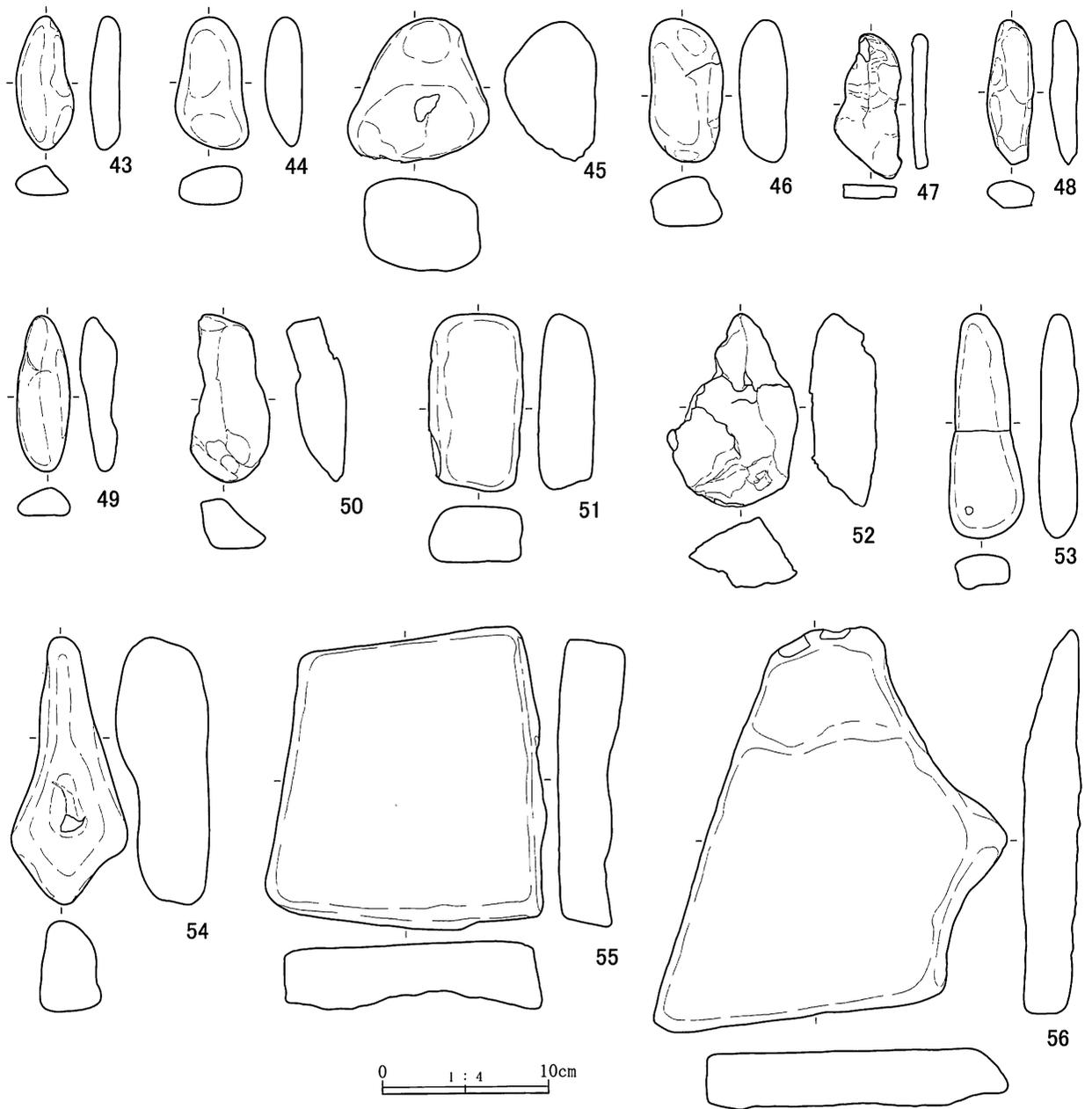
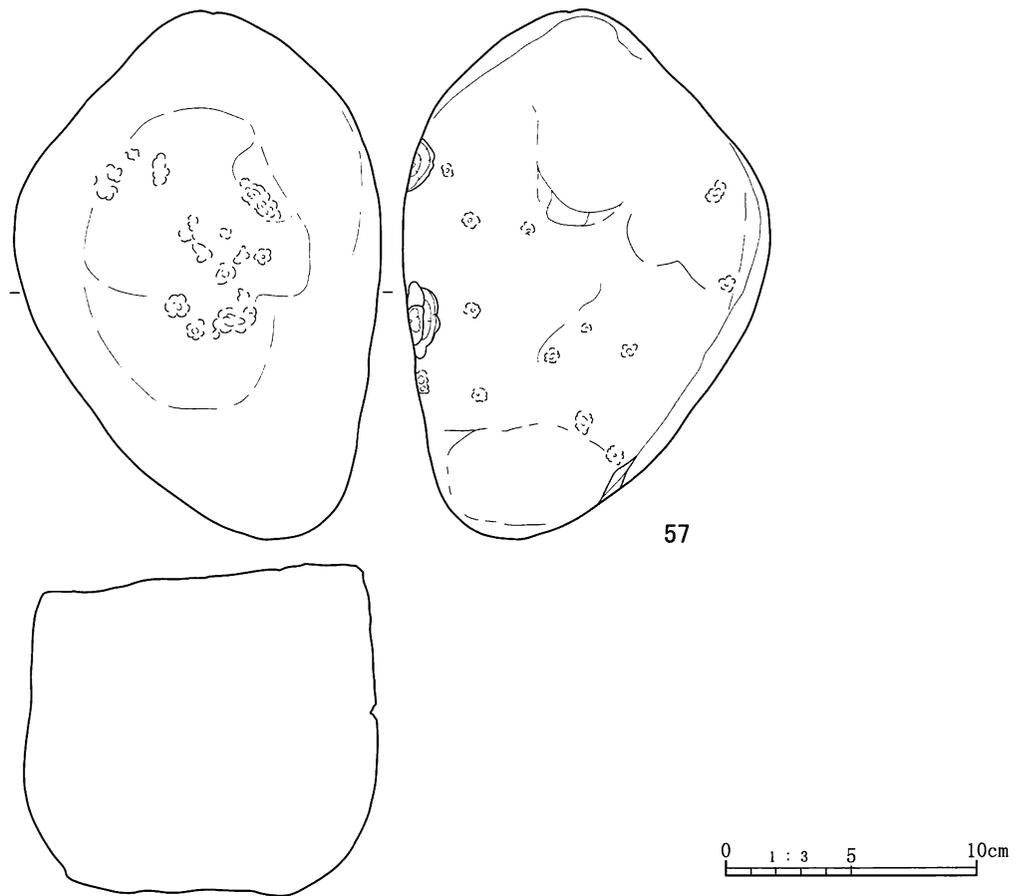


図 II-9 ⅢH-01出土遺物(4)



図II-10 III SB-07 出土石器

**時期** 一括土器などは出土していないが、III F-13 炉跡は樽前 b 火山灰直下から焼土燃焼面まで 4 cm の黒色土を被覆し、III b 層の厚さから擦文文化期の住居跡と判断した。また III F-13 と 16 の炉跡から出土したブドウ科の炭化種子 2 点について AMS 法 C14 年代測定を委託した (第 VI 章第 1 節)。暦年較正年代 (2 $\sigma$ ) で 11 世紀中葉から 13 世紀中葉の年代が得られ、擦文文化期後期から終末期の年代と矛盾しないと考えられる。形態や出土遺物から同時期と考えられる住居跡の検出例は、千歳市イヨマイ 7 遺跡 (千歳市教育委員会 2005)、祝梅川小野遺跡 (道埋文 2013)、恵庭市茂漁 4 遺跡 (恵庭市教育委員会 1997) が挙げられる。 (荻野)

表Ⅱ-7 ⅢH-01出土土器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点 数	器 種	部位	器面調整		文 様	備考
									外側	内側		
									口縁/頸部 /胴部/底側面	口縁/頸部 /胴部	口縁部/ 文様帯	
Ⅱ-6-1	41-1-1	SP10A	ⅦB3	ⅢH-01	2	1	甕	口縁部～ 胴部上半	ミガキ/ナデ/ ミガキ	ミガキ/ミガキ	矢羽根状文/ 横走沈線文+ 鋸歯状文2段	内面黒 色処理
				ⅢSB-01	ⅢbM	2						
				T-45	ⅢbL	1						
				U-41	ⅢbU ⅢbM	14						
				V-40・41	ⅢbM	4						
				Z-42	ⅢbL	1						
				AA-34	ⅢbL	5						
AA-37	ⅢbM	2										
Ⅱ-6-2	41-1-2	SP29A	ⅦB3	ⅢH-01	2	1	甕	口縁部	ナデ	ミガキ	刻み	
Ⅱ-6-3	41-1-3	SP13A	ⅦB3	ⅢH-01	掘り上 げ土 上位	1	甕	口縁部～ 胴部上半	ミガキ/ナデ/ ミガキ	ミガキ/ミガキ	矢羽根状文/ 横走沈線文+ 鋸歯状文	
				ⅢSB-01	ⅢbL	2						
				T-39	ⅢbM ⅢbL	3						
				U-34	ⅢbM	1						
				V-37	ⅢbL	4						
				V-40	ⅢbL	1						
				W-39	ⅢbM	2						

表Ⅱ-8 ⅢH-01・ⅢSB-07・ⅢP-05出土石器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	グリッド/ 遺構名	計測値(mm)			重量 (g)	材質	備考
								長軸	短軸	厚さ			
Ⅱ-6-4	41-1-4	-	8464	火打石	-	2	ⅢH-01	113.4	62.7	42.9	300.0	Aga.	
Ⅱ-6-5	41-1-5	-	8264	火打石	-	2U	ⅢH-01	95.5	80.5	34.7	382.0	Qu-Sch.	
Ⅱ-7-6	41-1-6	-	8191	たたき石	ⅡB2	2	ⅢH-01	137.0	105.4	43.4	905.0	Qu.	
Ⅱ-7-7	41-1-7	-	8187	たたき石	I A2	1	ⅢH-01	196.0	128.0	69.5	2220.0	Gra.	掘り上げ土 上面
Ⅱ-7-8	41-1-8	-	7968	たたき石	ⅢB2	1	ⅢH-01	108.0	85.0	68.0	856.0	Gra.	
Ⅱ-7-9	41-1-9	-	8190	たたき石	ⅢB	2	ⅢH-01	78.9	74.9	44.6	385.0	Ser.	滑沢面有り
Ⅱ-8-10	41-1-10	-	8467	台石	-	1	ⅢH-01	87.8	83.8	46.5	400.0	Tu.	
Ⅱ-8-11	41-1-11	-	7928	加工痕のある礫	B	2	ⅢH-01	145.5	53.0	19.5	206.0	Qu-Sch.	
Ⅱ-8-12	41-1-12	-	8301	加工痕のある礫	B	2	ⅢH-01	(123.2)	89.1	32.0	(437.0)	Sa.	
Ⅱ-10-57	42-2-2	-	8478	台石	-	2	ⅢSB-07	213.0	145.0	130.7	595.0	Gra.	
-	-	-	9048	たたき石	ⅡA2	1	ⅢP-05	(84.4)	81.5	(27.2)	(290.0)	Sa.	

表II-9 IIIH-01・IIISB-07出土礫属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)					長短比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被熱	材質	備考	
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ							標準 偏差
-	-	-	8279	2	完形	17.4	-50.1	8.8	-31.9	6.4	-16.4	2.0	0.2	0.8	-	Mud.	
-	-	-	8012	IIIbL	完形	22.5	-45.0	17.8	-22.9	14.8	-8.0	1.3	-0.5	7.1	-	Gra.	
-	-	-	8282	2	完形	24.3	-43.2	18.3	-22.4	14.1	-8.7	1.3	-0.5	7.3	-	Qu.	
-	-	-	8293	2	完形	24.8	-42.7	14.8	-25.9	12.0	-10.8	1.7	-0.1	4.9	-	Si.	
-	-	-	7952	IIIbL	完形	29.4	-38.1	25.9	-14.8	19.1	-3.7	1.1	-0.7	20.3	-	Gra.	
II-8-13	-	-	7983	IIIbL	完形	29.7	-37.8	28.5	-12.2	6.5	-16.3	1.0	-0.8	10.1	-	Qu.	
-	-	-	8297	2	完形	33.3	-34.2	30.8	-9.9	16.0	-6.8	1.1	-0.7	12.4	-	Tu.	
-	-	-	8468	2	完形	30.8	-36.7	24.7	-16.0	3.8	-19.0	1.2	-0.6	5.6	-	Sa.	
-	-	-	8047	IIIbM	完形	31.1	-36.4	20.7	-20.0	14.0	-8.8	1.5	-0.3	9.6	-	Sa.	
-	-	-	8029	IIIbL	完形	31.7	-35.8	31.0	-9.7	13.1	-9.7	1.0	-0.8	10.6	-	Mud.	
-	-	-	8303	1U	完形	31.7	-35.8	28.2	-12.5	10.2	-12.6	1.1	-0.7	11.5	-	Sa.	掘り上げ 土上位
-	-	-	8295	2	完形	32.4	-35.1	26.4	-14.3	25.4	2.6	1.2	-0.6	26.0	-	Sa.	
-	-	-	7915	IIIbM	完形	33.7	-33.8	32.3	-8.4	23.6	0.8	1.0	-0.8	32.3	-	Cha.	
-	-	-	7966	IIIbL	完形	34.2	-33.3	31.6	-9.1	17.5	-5.3	1.1	-0.7	23.0	-	Sa.	
II-8-14	-	-	7963	IIIbL	完形	34.4	-33.1	29.0	-11.7	12.8	-10.0	1.2	-0.6	16.3	-	Sa.	
-	-	-	7958	IIIbL	完形	36.4	-31.1	29.3	-11.4	22.9	0.1	1.2	-0.6	34.4	-	Gra.	
-	-	-	8020	IIIbL	完形	37.3	-30.2	31.4	-9.3	17.8	-5.0	1.2	-0.6	29.5	-	Sa.	
-	-	-	9006	2	完形	37.8	-29.7	34.5	-6.2	19.7	-3.1	1.1	-0.7	30.0	-	Sa.	
II-8-15	-	-	8294	2	完形	38.2	-29.3	16.6	-24.1	13.0	-9.8	2.3	0.5	7.9	-	Mud.	
-	-	-	8426	1L	完形	38.2	-29.3	25.5	-15.2	15.4	-7.4	1.5	-0.3	22.1	-	Cha.	IIISB-07
-	-	-	8306	1L	完形	38.2	-29.3	32.3	-8.4	8.9	-13.9	1.2	-0.6	10.2	-	Sa.	掘り上げ 土上位
-	-	-	7990	IIIbL	完形	39.0	-28.5	28.7	-12.0	15.7	-7.1	1.4	-0.4	19.3	-	Mud.	
II-8-16	-	-	8460	2	完形	41.4	-26.1	34.0	-6.7	30.6	7.8	1.2	-0.6	59.4	-	Cha.	
II-8-17	-	-	8292	2	完形	42.9	-24.6	19.8	-20.9	14.0	-8.8	2.2	0.4	8.4	-	Mud.	
II-8-18	-	-	7938	IIIbL	完形	43.0	-24.5	21.1	-19.6	8.2	-14.6	2.0	0.2	8.6	-	Mud.	
-	-	-	7646	1	完形	43.2	-24.3	18.4	-22.3	10.2	-12.6	2.3	0.5	9.5	-	Mud.	
-	-	-	8044	IIIbL	完形	43.2	-24.3	29.5	-11.2	16.2	-6.6	1.5	-0.3	32.5	-	Gra.	
-	-	-	8474	2	完形	45.2	-22.3	17.2	-23.5	15.1	-7.7	2.6	0.8	10.5	-	Mud.	
-	42-1	-	8017	IIIbL	完形	45.4	-22.1	27.0	-13.7	13.6	-9.2	1.7	-0.1	11.5	-	Mud.	
-	42-2-	-	8278	2	完形	46.8	-20.7	33.4	-7.3	28.5	5.7	1.4	-0.4	69.8	-	Ssh.	
-	2	-	8283	2	完形	46.8	-20.7	38.3	-2.4	9.9	-12.9	1.2	-0.6	21.0	-	Sa.	
-	-	-	7956	IIIbL	完形	47.5	-20.0	42.8	2.1	11.8	-11.0	1.1	-0.7	25.5	-	Sa.	
II-8-19	-	-	8280	2	完形	48.8	-18.7	37.9	-2.8	6.3	-16.5	1.3	-0.5	17.5	-	Qu.	
II-8-20	-	-	9011	2	完形	50.2	-17.3	25.2	-15.5	14.8	-8.0	2.0	0.2	24.0	-	Sa.	
-	-	-	8018	IIIbL	完形	52.3	-15.2	32.0	-8.7	32.9	10.1	1.6	-0.2	63.5	-	Sa.	
-	-	-	8011	IIIbL	完形	52.4	-15.1	35.1	-5.6	13.1	-9.7	1.5	-0.3	35.0	-	Sa.	
II-8-21	-	-	8456	2	完形	52.5	-15.0	45.9	5.2	24.9	2.1	1.1	-0.7	68.5	-	Sa.	
-	-	-	8001	IIIbL	完形	52.7	-14.8	28.6	-12.1	23.8	1.0	1.8	0.0	38.0	-	Sa.	
II-8-22	-	-	7957	IIIbL	完形	53.2	-14.3	30.1	-10.6	11.5	-11.3	1.8	0.0	20.8	-	Sh.	
-	-	-	9004	2	完形	54.6	-12.9	26.4	-14.3	16.8	-6.0	2.1	0.3	29.0	-	Sa.	
-	-	-	9003	2	完形	54.7	-12.8	29.4	-11.3	18.7	-4.1	1.9	0.1	39.1	-	Sa.	
II-8-23	-	-	8274	2	完形	54.8	-12.7	44.0	3.3	35.8	13.0	1.2	-0.6	94.8	-	Db.	
-	-	-	7999	IIIbL	完形	56.0	-11.5	38.0	-2.7	31.7	8.9	1.5	-0.3	90.0	-	Gra.	
-	-	-	8427	1L	完形	57.8	-9.7	32.1	-8.6	27.9	5.1	1.8	0.0	58.2	-	Sa.	IIISB-07
-	-	-	8014	IIIbL	完形	58.9	-8.6	53.9	13.2	43.7	20.9	1.1	-0.7	186.7	-	Qu.	
II-8-24	-	-	7964	IIIbL	完形	59.2	-8.3	31.5	-9.2	19.7	-3.1	1.9	0.1	51.0	-	Sa.	
II-8-25	-	-	7895	IIIbM	完形	59.4	-8.1	52.8	12.1	36.2	13.4	1.1	-0.7	150.4	-	Gra.	
-	-	-	7973	IIIbL	完形	59.9	-7.6	33.4	-7.3	23.7	0.9	1.8	0.0	40.0	-	Mud.	
II-8-26	-	-	7940	IIIbL	完形	62.2	-5.3	23.2	-17.5	18.3	-4.5	2.7	0.9	15.7	-	Mud.	
-	-	-	8253	2	完形	63.0	-4.5	35.9	-4.8	12.0	-10.8	1.8	0.0	37.5	-	Sa.	
II-8-27	-	-	8262	2	完形	64.0	-3.5	35.0	-5.7	18.8	-4.0	1.8	0.0	51.4	-	Sa.	
-	-	-	8019	IIIbL	完形	64.1	-3.4	33.8	-6.9	18.0	-4.8	1.9	0.1	52.0	-	Sa.	
-	-	-	7909	IIIbM	完形	64.8	-2.7	32.6	-8.1	21.6	-1.2	2.0	0.2	38.0	-	Sa.	
-	-	-	8463	2	完形	65.0	-2.5	56.0	15.3	47.0	24.2	1.2	-0.6	232.5	-	Gra.	
II-8-28	-	-	7910	IIIbM	完形	66.5	-1.0	32.1	-8.6	19.1	-3.7	2.1	0.3	42.8	-	Qu.	
-	-	-	7933	IIIbL	完形	66.8	-0.7	38.8	-1.9	23.4	0.6	1.7	-0.1	67.5	-	Sa.	
II-8-29	-	-	8465	2	完形	67.0	-0.5	24.8	-15.9	18.4	-4.4	2.7	0.9	28.5	-	Mud.	
-	-	-	8479	2	完形	67.6	0.1	30.8	-9.9	19.8	-3.0	2.2	0.4	54.5	-	Sa.	IIISB-07
II-8-30	-	-	7947	IIIbL	完形	69.3	1.8	26.1	-14.6	17.5	-5.3	2.7	0.9	40.9	-	Sa.	
II-8-31	-	-	8309	2	完形	69.8	2.3	23.0	-17.7	20.2	-2.6	3.0	1.2	38.8	-	Mud.	

表Ⅱ-9 ⅢH-01・ⅢSB-07出土礫属性表(続き)

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
						長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差						
-	-	-	8462	2	完形	70.0	2.5	52.4	11.7	25.0	2.2	1.3	-0.5	56.0	-	Mud.	
Ⅱ-8-32	-	-	7971	ⅢbL	完形	70.7	3.2	31.9	-8.8	29.6	6.8	2.2	0.4	52.4	-	Sa.	
Ⅱ-8-33	S010	7988	ⅢbL	完形	71.7	4.2	37.8	-2.9	21.1	-1.7	1.9	0.1	67.4	-	Sa.	ⅢH-01	
		8480														ⅢSB-07	
-	-	-	8013	ⅢbL	完形	71.7	4.2	47.1	6.4	25.3	2.5	1.5	-0.3	80.0	-	Qu.	
Ⅱ-8-34	-	-	7905	ⅢbM	完形	71.8	4.3	40.8	0.1	26.9	4.1	1.8	0.0	83.6	-	Sa.	
Ⅱ-8-35	-	-	8273	2	完形	71.8	4.3	26.5	-14.2	11.0	-11.8	2.7	0.9	20.7	-	Sa.	
-	-	-	7902	ⅢbM	完形	72.1	4.6	39.2	-1.5	14.9	-7.9	1.8	0.0	62.5	-	Sa.	
Ⅱ-8-36	-	-	8284	2	完形	73.8	6.3	26.7	-14.0	18.1	-4.7	2.8	1.0	36.8	-	Mud.	
-	-	-	8259	2	完形	74.9	7.4	33.7	-7.0	31.9	9.1	2.2	0.4	95.0	-	Sa.	
Ⅱ-8-37	-	-	7980	ⅢbL	完形	75.4	7.9	62.4	21.7	17.5	-5.3	1.2	-0.6	113.6	-	Sa.	
-	-	-	7950	ⅢbL	完形	75.9	8.4	21.0	-19.7	16.4	-6.4	3.6	1.8	21.5	-	Mud.	
-	-	-	8015	ⅢbL	完形	75.9	8.4	31.8	-8.9	19.5	-3.3	2.4	0.6	64.5	-	Sa.	
-	-	-	8254	2	完形	76.0	8.5	39.6	-1.1	26.0	3.2	1.9	0.1	57.5	-	Mud.	
Ⅱ-8-38	-	-	7951	ⅢbL	完形	76.3	8.8	33.2	-7.5	17.1	-5.7	2.3	0.5	57.3	-	Sa.	
Ⅱ-8-39	-	-	9005	2	完形	76.4	8.9	32.2	-8.5	28.6	5.8	2.4	0.6	55.4	-	Mud.	
Ⅱ-8-40	-	-	7959	ⅢbL	完形	76.5	9.0	21.2	-19.5	22.4	-0.4	3.6	1.8	72.0	-	Sa.	
Ⅱ-8-41	-	-	7978	ⅢbL	完形	77.6	10.1	44.6	3.9	7.4	-15.4	1.7	-0.1	38.8	-	Sa.	
Ⅱ-8-42	S008	7899	ⅢbM	完形	78.9	11.4	37.4	-3.3	23.8	1.0	2.1	0.3	100.7	-	Sa.	ⅢH-01	
		9027														V-35	
Ⅱ-9-43	42-2-	-	7984	ⅢbL	完形	79.3	11.8	32.5	-8.2	20.1	-2.7	2.4	0.6	47.1	-	Sa.	
Ⅱ-9-44	2	-	7986	ⅢbL	完形	79.5	12.0	41.3	0.6	23.3	0.5	1.9	0.1	93.3	-	Sa.	
-	-	-	8260	2	完形	84.1	16.6	33.8	-6.9	15.2	-7.6	2.5	0.7	41.0	-	Sa.	
Ⅱ-9-45	-	-	7907	ⅢbM	略完形	86.0	18.5	80.2	39.5	54.5	31.7	1.1	-0.7	(483.5)	-	Gra.	
Ⅱ-9-46	-	-	8263	2	完形	86.1	18.6	43.3	2.6	28.6	5.8	2.0	0.2	154.7	-	Sa.	
-	-	-	8477	2	略完形	86.6	19.1	27.7	-13.0	19.3	-3.5	3.1	1.3	(55.0)	-	Sa.	
Ⅱ-9-47	-	-	7991	ⅢbL	完形	87.1	19.6	40.7	0.0	10.0	-12.8	2.1	0.3	31.4	-	Sh.	
Ⅱ-9-48	-	-	7979	ⅢbL	略完形	89.7	22.2	(27.3)	-68.0	17.0	-5.8	-3.3	-5.1	(47.8)	-	Mud.	
Ⅱ-9-49	-	-	8032	ⅢbL	完形	92.4	24.9	30.7	-10.0	21.8	-1.0	3.0	1.2	65.6	-	Sa.	
Ⅱ-9-50	-	-	7975	ⅢbL	完形	102.3	34.8	46.9	6.2	29.4	6.6	2.2	0.4	143.9	-	Mud.	
Ⅱ-9-51	-	-	8192	2	略完形	105.3	37.8	55.9	15.2	33.9	11.1	1.9	0.1	(345.5)	-	Sa.	
Ⅱ-9-52	-	-	8258	2	略完形	(117.0)	-184.5	80.6	39.9	42.5	19.7	-1.5	-3.3	(349.5)	-	Qu.	
-	-	-	8021	ⅢbL	略完形	122.0	54.5	73.0	32.3	48.0	25.2	1.7	-0.1	(480.5)	-	Qu.	
Ⅱ-9-53	S001	8469	2	完形	132.0	64.5	44.9	4.2	26.1	3.3	2.9	1.1	174.9	-	Sa.	ⅢH-01	
		1432														V-37	
-	-	-	7977	ⅢbL	略完形	138.0	70.5	87.0	46.3	66.0	43.2	1.6	-0.2	(692.5)	-	Sa.	
Ⅱ-9-54	-	-	8189	2	略完形	158.0	90.5	72.0	31.3	56.0	33.2	2.2	0.4	(555.5)	-	Sa.	
Ⅱ-9-55	-	-	7995	ⅢbL	完形	178.0	110.5	172.0	131.3	48.0	25.2	1.0	-0.8	2071.0	-	Sa.	
Ⅱ-9-56	-	-	8435	2	略完形	230.0	162.5	180.0	139.3	34.1	11.3	1.3	-0.5	(2050.0)	-	Sa.	ⅢSB-07
-	-	-	8188	2	完形	235.0	167.5	177.0	136.3	41.0	18.2	1.3	-0.5	2268.0	-	Sa.	
-	-	-	8268	2	略完形	176.0	108.5	175.0	134.3	105.0	82.2	1.0	-0.8	(3997.0)	-	Sa.	床根押込
						67.5		40.7		22.8		1.8		178.2	※98点		

表Ⅱ-10 ⅢP-05・ⅢF-13・15 出土礫属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺構名	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
							長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差						
-	-	-	9014	ⅢP-05	1	完形	33.8	-15.6	19.9	-19.7	12.2	-13.2	1.7	0.3	8.8	-	Mud.	-
-	-	-	9049		1	完形	64.9	15.5	59.3	19.7	38.5	13.1	1.1	-0.3	116.7	-	Mud.	-
							49.4		39.6		25.4				62.8			
-	-	-	9867	ⅢF-13	1	完形	36.1	-	26.7	-	8.2	-	-	-	10.2	-	Sa.	-
-	-	-	10180	ⅢF-15	1	完形	21.3	-	16.3	-	13.0	-	-	-	5.8	-	Qu.	-

表II-11 III SB-06出土礫属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被熱	材質	備考
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
-	-	-	8256	1L	完形	80.7	23.8	24.5	-2.1	17.6	4.8	3.3	1.0	32.6	-	Mud.	
-	-	-	8360	2	完形	33.1	-23.8	28.6	2.0	7.9	-4.9	1.2	-1.1	10.2	-	Sa.	
-	-	-	8255	1L	欠損	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Sa.	
-	-	-	8257	2	欠損	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Sa.	
-	-	-	8312	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8313	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8314	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8315	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Sa.	
-	-	-	8316	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8317	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Aga.	
-	-	-	8318	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8319	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8320	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Si.	
-	-	-	8321	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8322	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Aga.	
-	-	-	8323	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8324	2	欠損	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8325	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8326	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8327	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8328	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8329	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8330	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8331	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8332	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8333	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8334	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Aga.	
-	-	-	8335	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8336	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8337	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8338	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Si.	
-	-	-	8339	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8340	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Si.	
-	-	-	8341	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Sa.	
-	-	-	8342	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Aga.	
-	-	-	8343	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8344	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8345	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8346	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8347	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8348	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8349	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8350	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8351	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8352	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8353	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8354	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8357	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8358	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8359	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8361	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8362	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8363	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Aga.	
-	-	-	8364	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Aga.	
-	-	-	8365	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8366	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Aga.	
-	-	-	8367	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8368	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8369	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Aga.	
-	-	-	8370	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Mud.	
-	-	-	8371	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Mud.	
-	-	-	8372	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8373	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8374	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8375	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8376	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	

表Ⅱ-11 ⅢSB-06出土礫属性表(続き)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被熱	材質	備考
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
-	-	-	8377	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8378	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8379	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8380	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8381	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8382	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8383	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8384	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8385	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Aga.	
-	-	-	8386	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8387	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8388	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8389	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8390	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8391	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8392	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Si.	
-	-	-	8393	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8394	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Aga.	
-	-	-	8395	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8396	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8397	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8398	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8399	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Aga.	
-	-	-	8400	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Si.	
-	-	-	8401	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8402	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Si.	
-	-	-	8403	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Aga.	
-	-	-	8404	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8405	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8406	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8407	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8408	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8409	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8410	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8411	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8412	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8413	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Si.	
-	-	-	8414	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Aga.	
-	-	-	8415	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8416	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8417	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8418	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Aga.	
-	-	-	8419	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8420	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8423	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
-	-	-	8424	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Si.	
-	-	-	8425	2	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Qu.	
						33.1		26.6		12.8				21.4			

※完形2点

## ⅢH-01 関連遺構

遺物集中1〔ⅢB-01〕(図Ⅱ-11・12 図版8-5・9-3~5)

位置：U-34・35区 規模 408×344 cm

立地：北東側斜面

**確認・調査** ⅢH-01の東側3 mに位置する斜面部分のⅢb層を除去した段階で、礫がやや多く出土したため、周辺を精査したところ、Ⅲb層下位で棒状礫・擦文土器・未被熱の動物骨や骨角器などの面的な広がりを確認した。小流路へ続く斜面下へ遺物集中範囲が広がる可能性があったため、人力で表土を除去し東側へ最大1 m程調査区を拡張した。集中部分全体の遺物を検出したところで写真撮影、平面図作成、遺物の取り上げを行った。さらにV層調査時に重機により小流路の縁辺まで表土を除去し、人力でⅢ層の調査を行ったが、小流路への遺物の広がりは見られなかったため調査を終了した。

**出土遺物** (図Ⅱ-12) 1はⅢb層中位から出土した台石で、表裏面に滑沢面と敲打痕が認められる。2~24はⅢB-01範囲内から出土した主に砂岩・泥岩製の礫で、形状は棒状・板状・円盤状・球状・不定形のものが見られる。完形・略完形55点の礫の平均値は長軸62.3mm、短軸38.3mm、厚さ19.5mmで棒状礫が多く出土している。25はシカの中手中足骨を素材とする中柄もしくは骨鏃茎部で、両端を欠損している。中央付近の穿孔は調査時に誤って欠損したものである。

**性格** ⅢH-01の北東側に位置し、斜面にまとまって出土することから、南に位置するⅢBB-03と合わせて廃棄もしくは物送りの可能性が考えられる。(荻野)

## 獣骨集中3〔ⅢBB-03〕(図Ⅱ-13~15 図版10)

位置：V・W-34区 検出層位：Ⅲb層下位 規模：495×453 cm

立地：岬状に突出する段丘縁辺部から斜面

主要動物・部位：シカ頭蓋骨・上顎遊離歯・鹿角・下顎遊離歯・破碎された四肢骨

**確認・調査** ⅢH-01南東側約5 mのⅢb層下位を調査中に未被熱の鹿角・歯冠片・四肢骨の広がりを見出したことからⅢBB-03と付番した。範囲内にはシカ頭蓋骨に由来する上顎遊離歯や鹿角、下顎遊離歯の他、破碎された四肢骨で構成されている。このうち、1.0×0.8mの範囲から縦位に裁断された中手中足骨前面部分6本(最小個体数)が整然と配置された状態で出土している(図Ⅱ-14上段右側)。獣骨集中全体の範囲を確認したところで、写真撮影を行い、獣骨の出土状況は微細図を作成して記録した。微細図作成後、現場での所見を台帳に記載している。個々について写真撮影後、崩弱なものについては酢酸ビニル樹脂(木工用ボンド)を希釈して塗布し補強したうえで遺物の取り上げを行った。この後、IV層を重機で除去しV層上面を精査したところ5本の杭跡を検出した。径は6~15 cmで、すべて打ち込み杭である。覆土はⅢb層主体で構成されることから構築面はⅢ層中で、本来の深さは30~40 cm程度と推測する。出土位置から獣骨集中に伴うものと判断し、杭跡の調査を行った。

**出土遺物** (図Ⅱ-15) 1は扁平礫の一面に敲打痕が見られる台石である。2~6は礫で完形・略完形礫は17点で、被熱したものが1点ある。棒状礫は少なく円盤状・球状のものが多い。その他、未被熱の鹿角・歯冠片・四肢骨が取り上げ観測点数で240点出土した。

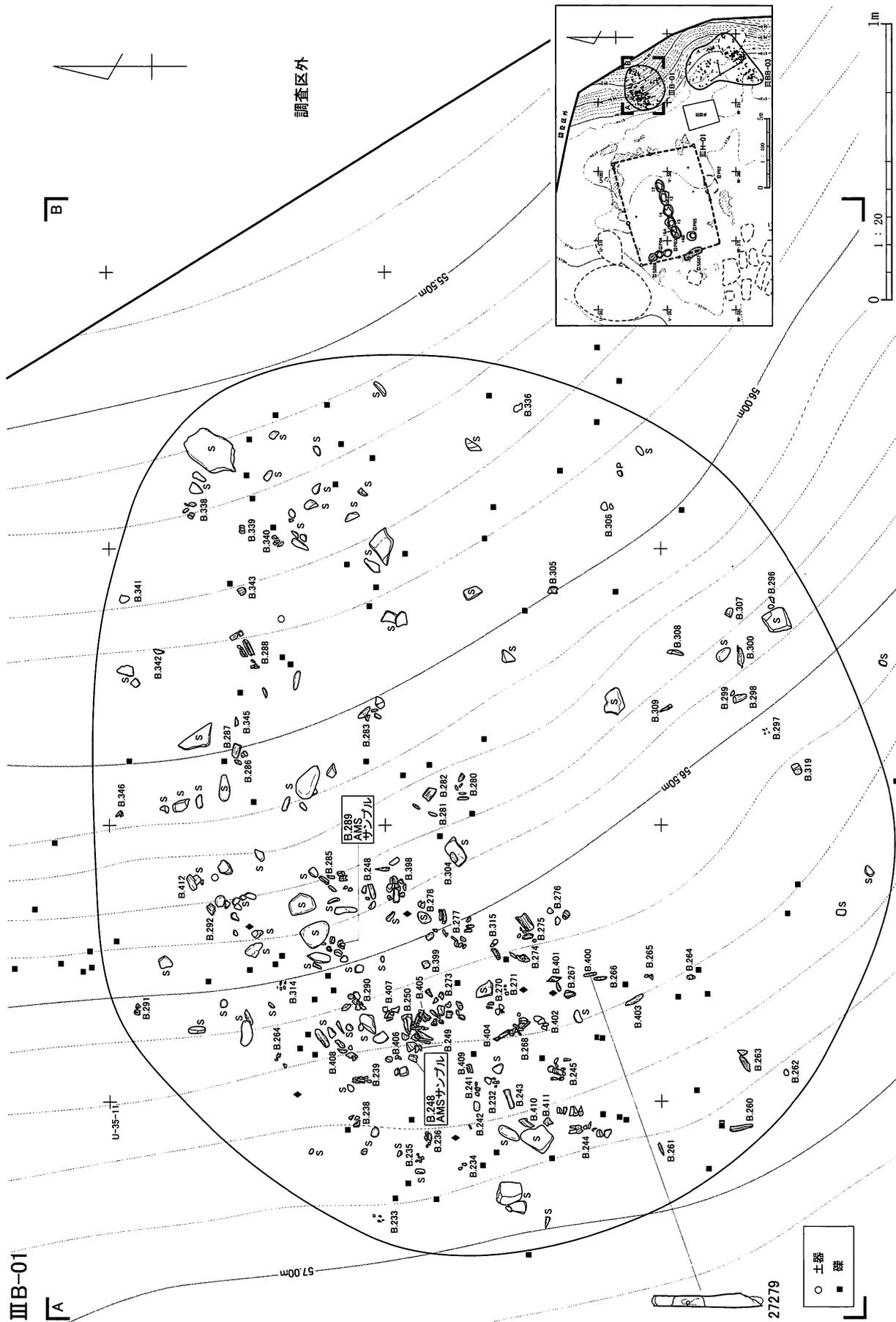
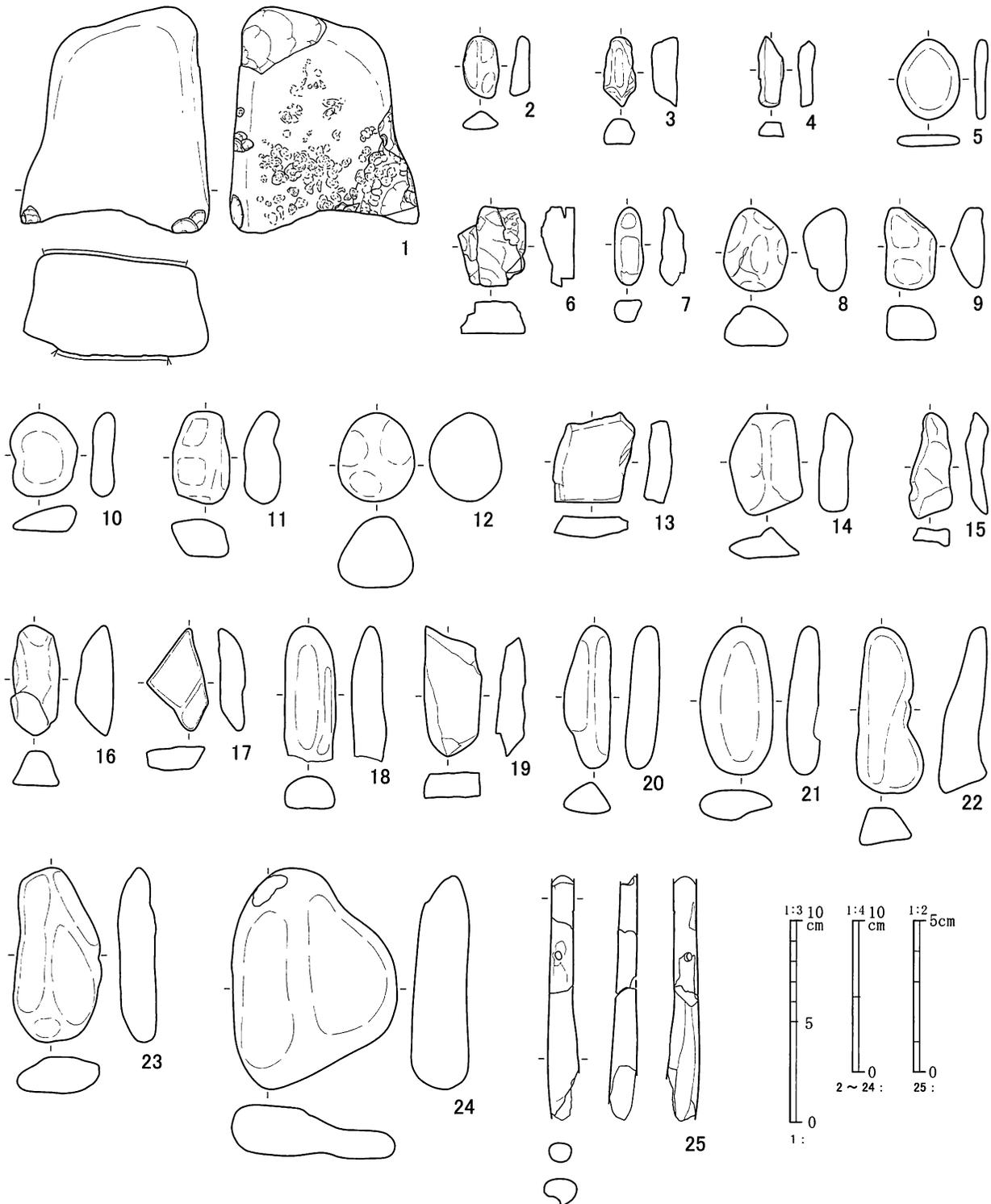


図 II-11 III B-01 平面図

表II-12 ⅢB-01属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			備考
						長軸	短軸	厚さ	
II-11	8-5 9-3~5	ⅢB-01	U-34・35	ⅢbL	楕円形	408	344	-	



図II-12 ⅢB-01 出土遺物

表Ⅱ-13 ⅢB-01出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	グリッド	計測値(mm)			重量 (g)	材質	備考
								長軸	短軸	厚さ			
Ⅱ-12-1	43-1-1	-	8877	台石	-	ⅢbM	U-34	116.0	81.0	52.5	760.0	Sa.	滑沢面有り
Ⅱ-12-25	43-1-2	-	27279	中柄	-	ⅢbL	U-34	(80.6)	11.0	8.0	(2.9)	B	B.266・B.400 箸による穿孔欠損

表Ⅱ-14 ⅢB-01出土礫属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被熱	材質	備考
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
-	-	-	8797	ⅢbM	完形	25.5	-36.8	24.5	-13.8	16.8	-2.7	1.0	-0.8	10.8	-	Mud.	
-	-	-	8833	ⅢbM	完形	29.6	-32.7	18.3	-20.0	16.4	-3.1	1.6	-0.2	12.0	-	Gra.	
-	-	-	8827	ⅢbM	完形	31.5	-30.8	24.8	-13.5	15.4	-4.1	1.3	-0.5	11.3	-	Mud.	
-	-	-	8859	ⅢbM	完形	37.6	-24.7	31.0	-7.3	12.4	-7.1	1.2	-0.6	19.0	-	Sa.	
-	-	-	8110	ⅢbU	完形	38.6	-23.7	36.2	-2.1	10.1	-9.4	1.1	-0.7	16.5	-	Sa.	
Ⅱ-12-2	-	-	8878	ⅢbM	完形	39.0	-23.3	23.1	-15.2	12.9	-6.6	1.7	-0.1	13.0	-	Sa.	
-	-	-	8158	ⅢbM	完形	39.0	-23.3	20.9	-17.4	8.7	-10.8	1.9	0.1	6.0	-	Mud.	
-	-	-	8852	ⅢbM	完形	39.2	-23.1	17.7	-20.6	6.9	-12.6	2.2	0.4	5.1	○	Mud.	
-	-	-	8122	ⅢbM	略完形	40.0	-22.3	36.1	-2.2	25.6	6.1	1.1	-0.7	(40.5)	-	Sa.	
-	-	-	8840	ⅢbM	完形	40.4	-21.9	27.4	-10.9	11.5	-8.0	1.5	-0.3	116.0	-	Mud.	
-	-	-	8858	ⅢbM	略完形	41.1	-21.2	26.0	-12.3	22.9	3.4	1.6	-0.2	(23.8)	-	Mud.	
-	-	-	8810	ⅢbM	完形	41.5	-20.8	30.9	-7.4	16.5	-3.0	1.3	-0.5	27.5	-	Mud.	
Ⅱ-12-3	-	-	8128	ⅢbM	略完形	41.7	-20.6	18.6	-19.7	15.2	-4.3	2.2	0.4	(12.1)	-	Sa.	
-	-	-	8150	ⅢbM	完形	44.0	-18.3	42.7	4.4	12.9	-6.6	1.0	-0.8	36.0	-	Sa.	
-	-	-	8850	ⅢbM	完形	45.0	-17.3	29.0	-9.3	12.9	-6.6	1.6	-0.2	19.5	-	Mud.	
Ⅱ-12-4	-	-	8808	ⅢbM	完形	45.9	-16.4	15.9	-22.4	10.7	-8.8	2.9	1.1	9.7	-	Mud.	
Ⅱ-12-5	-	-	8844	ⅢbM	完形	47.7	-14.6	37.4	-0.9	7.4	-12.1	1.3	-0.5	17.3	-	Sa.	
Ⅱ-12-6	-	-	8837	ⅢbM	完形	48.0	-14.3	40.5	2.2	21.9	2.4	1.2	-0.6	44.0	-	Qu.	
Ⅱ-12-7	-	-	8829	ⅢbM	完形	48.3	-14.0	18.5	-19.8	14.6	-4.9	2.6	0.8	(13.4)	-	Mud.	
-	-	-	8115	ⅢbU	完形	49.3	-13.0	30.0	-8.3	29.0	9.5	1.6	-0.2	31.5	-	Mud.	
Ⅱ-12-8	-	-	8114	ⅢbU	完形	49.3	-13.0	37.2	-1.1	30.2	10.7	1.3	-0.5	66.2	-	Sa.	
Ⅱ-12-9	-	-	8161	ⅢbM	完形	49.5	-12.8	30.4	-7.9	20.8	1.3	1.6	-0.2	40.9	-	Sa.	
-	-	-	8791	ⅢbM	完形	50.0	-12.3	36.3	-2.0	15.0	-4.5	1.4	-0.4	21.2	-	Sa.	
Ⅱ-12-10	-	-	8876	ⅢbM	完形	50.7	-11.6	41.8	3.5	15.4	-4.1	1.2	-0.6	38.1	-	Sa.	
-	-	-	8781	ⅢbM	完形	54.8	-7.5	33.5	-4.8	28.4	8.9	1.6	-0.2	63.2	-	Gra.	
Ⅱ-12-11	-	-	8862	ⅢbM	完形	55.1	-7.2	30.5	-7.8	22.3	2.8	1.8	0.0	54.4	-	Mud.	
-	-	-	8814	ⅢbM	完形	55.1	-7.2	22.6	-15.7	9.7	-9.8	2.4	0.6	10.3	-	Mud.	
-	43-1	-	8875	ⅢbM	完形	56.2	-6.1	34.3	-4.0	16.4	-3.1	1.6	-0.2	43.8	-	Sa.	
Ⅱ-12-12	-	-	8803	ⅢbM	完形	56.3	-6.0	46.5	8.2	45.8	26.3	1.2	-0.6	160.4	-	Gra.	
Ⅱ-12-13	-	-	8785	ⅢbM	完形	58.3	-4.0	46.0	7.7	15.8	-3.7	1.3	-0.5	71.6	-	Qu.	
-	-	-	8133	ⅢbM	完形	59.3	-3.0	47.5	9.2	16.6	-2.9	1.2	-0.6	55.0	-	Sa.	
-	-	-	8138	ⅢbM	略完形	60.3	-2.0	17.5	-20.8	15.6	-3.9	3.4	1.6	(29.4)	-	Mud.	
Ⅱ-12-14	-	-	8157	ⅢbM	完形	62.1	-0.2	41.9	3.6	22.9	3.4	1.5	-0.3	55.3	-	Mud.	
-	-	-	8821	ⅢbM	完形	63.9	1.6	38.5	0.2	15.8	-3.7	1.7	-0.1	26.2	-	Mud.	
Ⅱ-12-15	-	-	8822	ⅢbM	完形	64.6	2.3	25.8	-12.5	11.6	-7.9	2.5	0.7	17.1	-	Mud.	
-	-	-	8825	ⅢbM	完形	65.7	3.4	51.9	13.6	38.9	19.4	1.3	-0.5	175.7	-	Gra.	
Ⅱ-12-16	-	-	8800	ⅢbM	完形	66.6	4.3	28.4	-9.9	23.2	3.7	2.3	0.5	51.8	-	Sa.	
Ⅱ-12-17	-	-	8145	ⅢbM	完形	67.1	4.8	37.2	-1.1	16.1	-3.4	1.8	0.0	31.2	-	Mud.	
-	-	-	8121	ⅢbM	完形	68.0	5.7	36.4	-1.9	21.7	2.2	1.9	0.1	73.1	-	Sa.	
-	-	-	8813	ⅢbM	完形	68.2	5.9	35.5	-2.8	22.0	2.5	1.9	0.1	40.0	-	Mud.	
-	-	-	8789	ⅢbM	完形	70.6	8.3	35.2	-3.1	26.4	6.9	2.0	0.2	39.5	-	Mud.	
-	-	-	8147	ⅢbM	完形	73.3	11.0	54.5	16.2	20.6	1.1	1.3	-0.5	72.5	-	Mud.	
-	-	-	8854	ⅢbM	完形	77.2	14.9	55.2	16.9	11.9	-7.6	1.4	-0.4	54.5	-	Mud.	
Ⅱ-12-18	-	-	8107	ⅢbU	略完形	(83.1)	20.8	31.4	-6.9	20.3	0.8	2.6	0.8	(78.9)	-	Sa.	
Ⅱ-12-19	-	-	8100	ⅢbU	完形	83.4	21.1	35.5	-2.8	20.0	0.5	2.3	0.5	62.1	-	Mud.	
Ⅱ-12-20	-	-	8807	ⅢbM	完形	85.6	23.3	26.9	-11.4	19.5	0.0	3.2	1.4	53.6	-	Sa.	
Ⅱ-12-21	-	-	8866	ⅢbM	略完形	90.6	28.3	44.1	5.8	(18.4)	-37.9	2.1	0.3	(94.7)	-	Sa.	
-	-	-	8795	ⅢbM	完形	95.8	33.5	46.8	8.5	21.2	1.7	2.0	0.2	106.2	-	Qu-Sch.	
-	-	-	8127	ⅢbM	完形	97.9	35.6	42.5	4.2	23.2	3.7	2.3	0.5	73.0	-	Mud.	
Ⅱ-12-22	-	-	8831	ⅢbM	完形	99.1	36.8	41.0	2.7	29.8	10.3	2.4	0.6	116.8	-	Sa.	
-	-	-	8794	ⅢbM	完形	99.1	36.8	45.0	6.7	21.6	2.1	2.2	0.4	107.3	-	Sa.	
Ⅱ-12-23	-	-	8843	ⅢbM	完形	107.7	45.4	55.8	17.5	25.7	6.2	1.9	0.1	149.7	-	Tu-Sa.	
-	-	-	8879	ⅢbM	完形	108.0	45.7	105.0	66.7	46.0	26.5	1.0	-0.8	616.0	-	Qu.	
-	-	-	8868	ⅢbM	完形	116.0	53.7	115.0	76.7	20.6	1.1	1.0	-0.8	271.5	-	Mud.	
Ⅱ-12-24	-	-	8832	ⅢbM	完形	145.0	82.7	104.0	65.7	25.0	5.5	1.4	-0.4	540.0	-	Sa.	
						62.3	38.3	19.5			72.3						

※ 55点

III BB-03

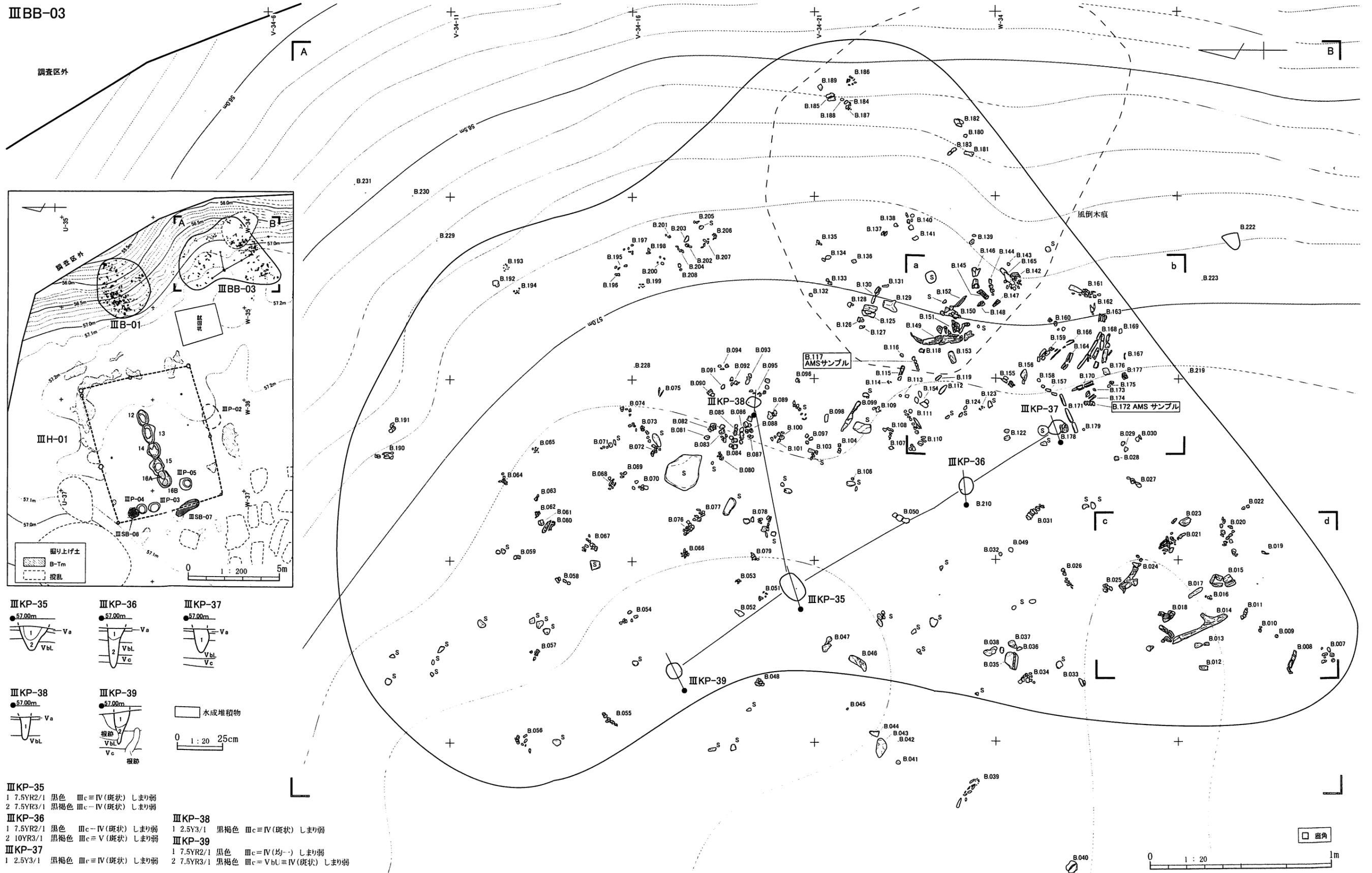
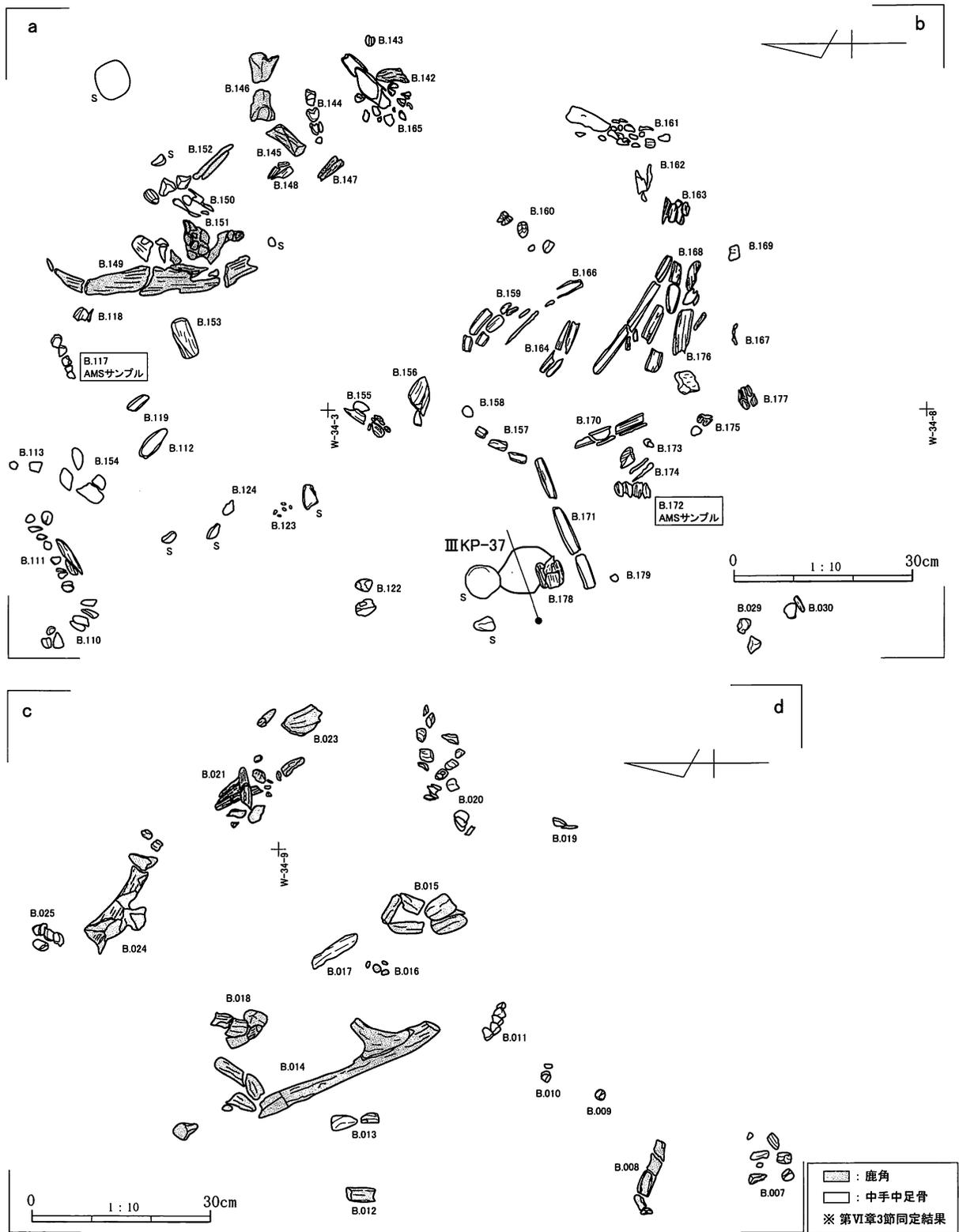


図 II-13 III BB-03・III KP-35~39平面及び断面図

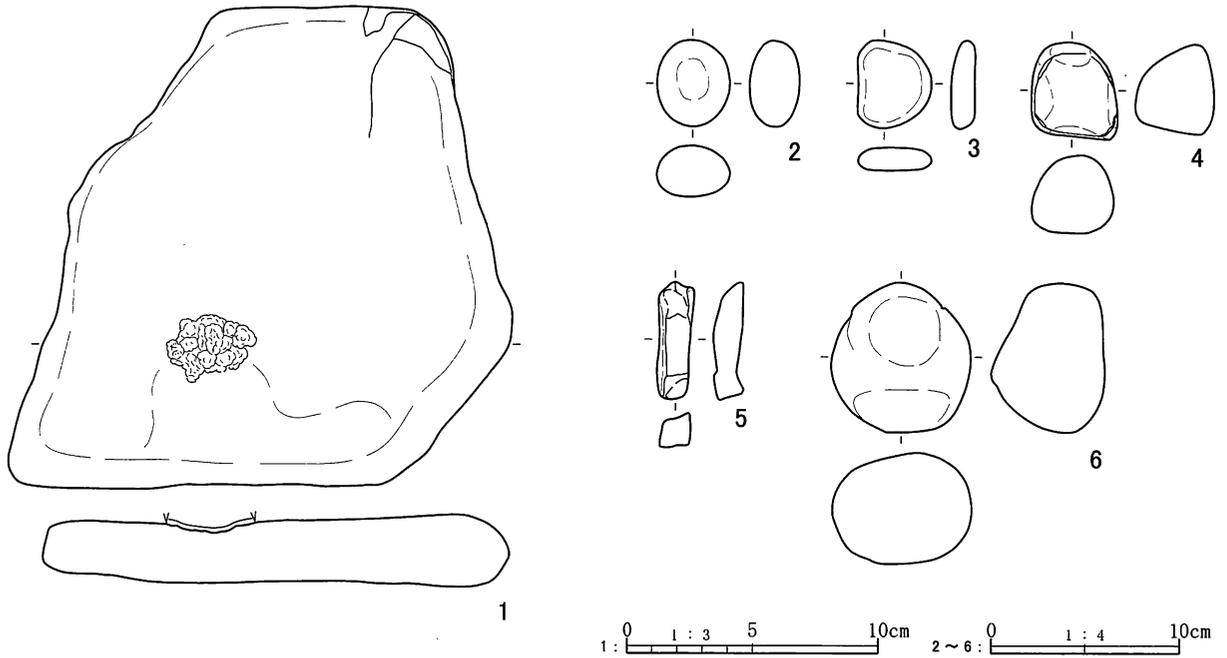
III BB-03



図II-14 III BB-03 遺物出土状態微細図

表II-15 III BB-03属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			備考
						長軸	短軸	厚さ	
II-13	10-1~5	III BB-03	V・W-34	III bL	楕円形	495	453	-	



図Ⅱ-15 ⅢBB-03 出土遺物

表Ⅱ-16 ⅢKP-35~39属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	規模 (cm)			傾き (度)	タイプ	備考
			上端	下端	深さ			
Ⅱ-13	11-2	ⅢKP-35	15	2	12	0°	打込み	Va層で検出
Ⅱ-13	11-3	ⅢKP-36	9	0	20	0°	打込み	Va層で検出
Ⅱ-13	11-4	ⅢKP-37	8	0	12	0°	打込み	Va層で検出
Ⅱ-13	11-5	ⅢKP-38	6	1	12	0°	打込み	Va層で検出
Ⅱ-13	11-6	ⅢKP-39	9	0	17	9°	打込み	Va層で検出

表Ⅱ-17 ⅢBB-03出土石器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
								長軸	短軸	厚さ			
Ⅱ-15-1	42-2-3	-	8205	台石	-	ⅢbM	V-34	255.0	185.0	19.9	1400.0	Sa.	

表Ⅱ-18 ⅢBB-03出土礫属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
						長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差						
-	-	-	8453	ⅢbM	完形	30.0	-19.5	23.0	-14.2	19.0	-2.8	1.3	-0.1	16.1	-	Sa.	
-	-	-	8232	ⅢbM	完形	33.0	-16.5	33.0	-4.2	9.0	-12.8	1.0	-0.4	15.0	-	Sa.	
-	-	-	8451	ⅢbM	完形	37.0	-12.5	25.0	-12.2	22.0	0.2	1.5	0.1	22.7	-	Sa.	
-	-	-	8208	ⅢbM	完形	39.0	-10.5	33.0	-4.2	14.0	-7.8	1.2	-0.2	17.0	-	Sa.	
-	-	-	8218	ⅢbM	完形	43.0	-6.5	28.0	-9.2	22.0	0.2	1.5	0.1	23.9	-	Mud.	
Ⅱ-15-2	-	-	8203	ⅢbM	完形	43.9	-5.6	36.7	-0.5	25.1	3.3	1.2	-0.2	49.4	-	Sa.	
Ⅱ-15-3	-	-	8207	ⅢbM	完形	44.2	-5.3	34.8	-2.4	12.7	-9.1	1.3	-0.1	29.0	-	Sa.	
Ⅱ-15-4	-	-	8450	ⅢbM	完形	47.4	-2.1	44.7	7.5	42.4	20.6	1.1	-0.3	123.5	-	Sa.	
-	42-2-4	-	8231	ⅢbM	完形	48.2	-1.3	34.7	-2.5	14.1	-7.7	1.4	0.0	34.9	-	Sa.	
-	-	-	8230	ⅢbM	完形	48.4	-1.1	33.3	-3.9	22.4	0.6	1.5	0.1	45.6	-	Sa.	
-	-	-	50.9	ⅢbM	完形	50.9	1.4	34.5	-2.7	13.7	-8.1	1.5	0.1	26.8	-	Sa.	
-	-	-	8199	ⅢbM	完形	52.0	2.5	49.0	11.8	18.0	-3.8	1.1	-0.3	42.3	-	Mud.	
-	-	-	8448	ⅢbM	完形	52.8	3.3	46.0	8.8	16.6	-5.2	1.1	-0.3	34.9	○	Mud.	
-	-	-	8237	ⅢbM	完形	54.0	4.5	52.0	14.8	13.0	-8.8	1.0	-0.4	46.1	-	Sa.	
Ⅱ-15-5	-	-	8209	ⅢbM	完形	61.2	11.7	17.7	-19.5	15.4	-6.4	3.5	2.1	17.8	-	Mud.	
Ⅱ-15-6	-	-	8220	ⅢbM	完形	76.8	27.3	72.8	35.6	61.2	39.4	1.1	-0.3	490.0	-	Gra.	タール付着痕
-	-	-	8235	ⅢbM	略完形	79.4	29.9	34.0	-3.2	29.5	7.7	2.3	0.9	(45.2)	-	Mud.	
						49.5		37.2		21.8				63.5			

※17点

**性格** IIIB-01 同様、住居跡の南東側斜面に分布し、その内容が獣骨に特化したものであることから、意図的に獣骨だけが置かれたと考えることができ、送りの可能性も指摘できる。また、範囲内から検出した柱穴は5本で一部列状に並ぶが関連は不明。類例は北東へ約200mに位置するヲチヤラセナイ遺跡1号平地式住居跡に伴う柱穴群1で、中世アイヌ文化期平地式住居の長軸方向北西側に検出している（厚真町教育委員会 2013a）。なお、シカの歯冠2点のAMS法C14年代測定を委託した結果、暦年較正年代（ $2\sigma$ ）は13世紀中葉から14世紀末の年代が得られた。想定したよりも新しい年代が示されたが、コラーゲンの回収率が低く試料に問題があった可能性が指摘されている（第VI章第1節）。  
（荻野）

**礫集中1**〔III SB-01〕（図II-16・17 図版9-1・2 43-2）

位置：T・U-38・39区 規模：518×282 cm

立地：段丘北西側の緩斜面

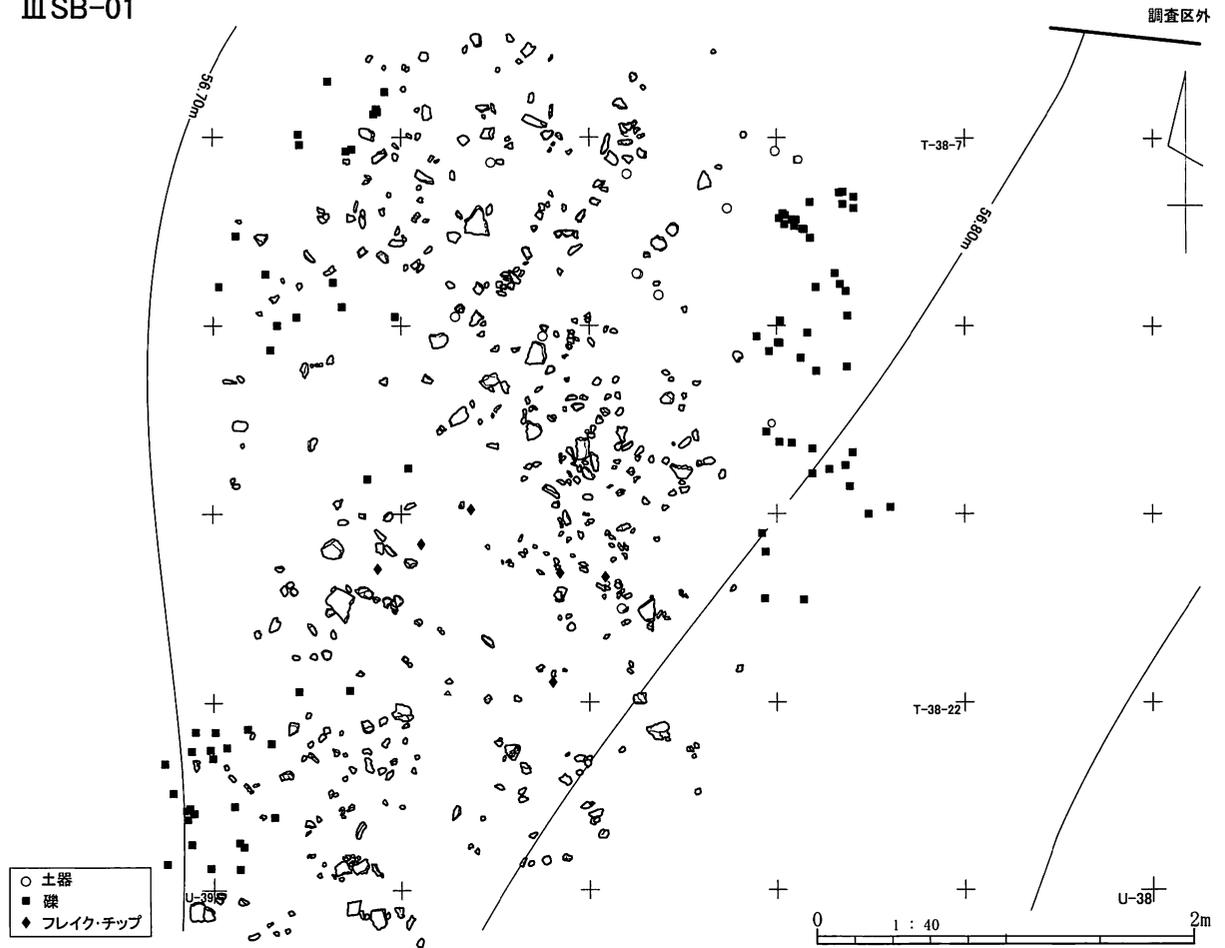
**確認・調査** IIIb層上位から礫が多く出土していたことから東西にベルトを設定し、周辺の掘り下げを行った。IIIb層上位には南東側斜面上方の風倒木痕から流れ込んだと考えられる長軸1cm以下の不定形の垂角礫が多数出土していたが、本集中はIIIb層中位から下位まで連続して出土したため、倒木痕に関連しない礫であると判断し、III SB-01と付番した。調査は概ね集中する範囲を検出した時点で写真撮影を行い、遺物の出土状態を微細図で記録し、取り上げて終了とした。遺物は集中域周辺にも広く散在することから、整理の段階で平面図と垂直分図から倒木痕揚土の小礫を検討し、より集中する部分を範囲として掲載している。

**出土遺物**（図II-17）1・2はVII群B3類の口縁部片で、1は浅い平行沈線文後に矢羽根状構成の刻み、2は刺突列が2段認められ、その下位に僅かではあるが斜位沈線文が認められる。この他、III SB-01とIII H-01出土の土器が接合している（図II-5・II-6-3）。3～41は主に砂岩・泥岩の礫で、棒状・円盤状・球状のものがある。完形・略完形の礫は100点出土し、計測値の平均値は長軸62.7mm、短軸33.2mm、厚さ19.6mmで棒状礫が多く出土している。

**性格** III H-01床面出土の土器片と接合しており、同時期の可能性がある。接合関係や検出層位、住居跡との位置関係からこれらの礫をまとめて廃棄する場所であった可能性もある。

（荻野）

ⅢSB-01



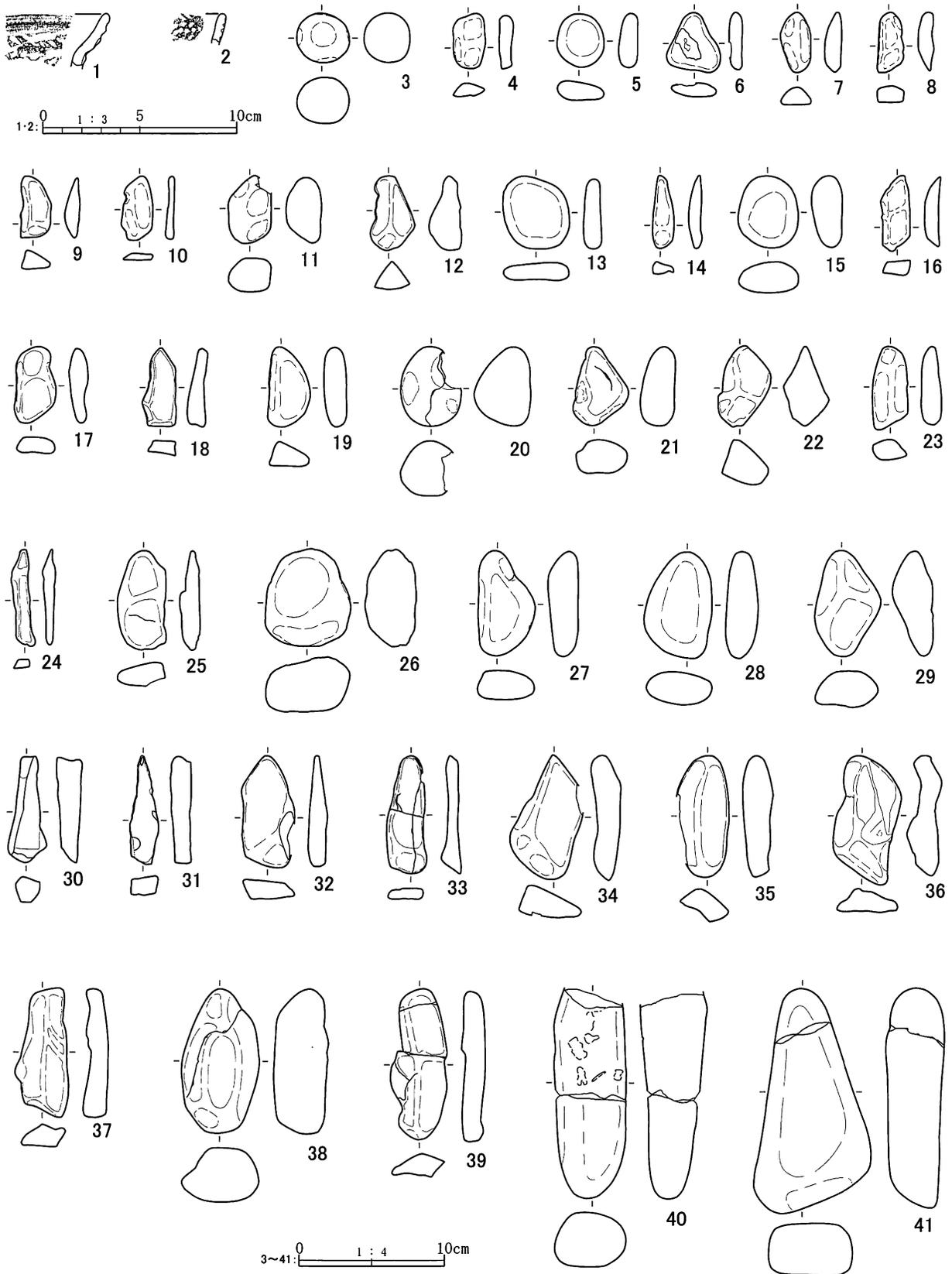
図Ⅱ-16 ⅢSB-01平面図

表Ⅱ-19 ⅢSB-01属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			備考
						長軸	短軸	厚さ	
Ⅱ-16	9-1・2	ⅢSB-01	T-38・39 U-38・39	ⅢbL	楕円形	518	282	-	

表Ⅱ-20 ⅢSB-01出土土器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点数	器種	部位	器面調整		文様	備考
									外側	内側		
									口縁/頸部/ 胴部/底側面	口縁/頸部/ 胴部	口縁部/ 文様帯	
Ⅱ-17-1	43-2-1	SP28B	VIB3	T-38	ⅢbM	1	甕	口縁～ 頸部	ナデ/ ミガキ	ミガキ/ ミガキ	矢羽根状文	
Ⅱ-17-2	43-2-2	SP32A	VIB3	T-38	ⅢbM	1	甕	口縁部	ナデ	ミガキ	刺突・沈線文	



図II-17 III SB-01 出土遺物

表Ⅱ-21 ⅢSB-01出土礫属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被熱	材質	備考
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
-	-	-	207	ⅢbU	略完形	28.0	-34.7	12.9	-20.3	(9.5)	-10.1	2.2	-1.9	(3.4)	-	Mud.	
-	-	-	3973	ⅢbM	完形	29.8	-32.9	23.4	-9.8	15.6	-4.0	1.3	-2.8	14.4	-	Cha.	
-	-	-	4814	ⅢbM	完形	34.2	-28.5	13.5	-19.7	8.2	-11.4	2.5	-1.6	3.5	-	Mud.	
-	-	-	4649	ⅢbM	略完形	(35.7)	-27.0	20.2	-13.0	15.8	-3.8	1.8	-2.3	(11.4)	-	Sa.	
Ⅱ-17-3	-	-	7059	ⅢbL	完形	36.0	-26.7	33.8	0.6	32.0	12.4	1.1	-3.0	48.3	-	Sa.	
-	-	-	4947	ⅢbM	完形	36.0	-26.7	16.3	-16.9	13.3	-6.3	2.2	-1.9	6.9	-	Mud.	
-	-	-	4549	ⅢbM	完形	36.1	-26.6	29.0	-4.2	9.1	-10.5	1.2	-2.9	13.4	-	Sa.	
Ⅱ-17-4	-	-	4973	ⅢbM	完形	36.6	-26.1	21.3	-11.9	8.3	-11.3	1.7	-2.4	7.0	-	Mud.	
Ⅱ-17-5	-	-	4550	ⅢbM	完形	37.1	-25.6	32.7	-0.5	33.2	13.6	1.1	-3.0	20.7	-	Sa.	
-	-	-	4517	ⅢbM	完形	38.1	-24.6	32.0	-1.2	20.8	1.2	1.2	-2.9	24.7	-	Sa.	
Ⅱ-17-6	-	-	4911	ⅢbM	完形	38.5	-24.2	36.2	3.0	9.2	-10.4	1.1	-3.0	(15.9)	-	Sa.	
-	-	-	4740	ⅢbM	完形	38.5	-24.2	18.4	-14.8	8.5	-11.1	2.1	-2.0	6.3	-	Mud.	
-	-	-	4997	ⅢbM	完形	39.1	-23.6	16.5	-16.7	11.6	-8.0	2.4	-1.7	6.7	-	Mud.	
-	-	-	4545	ⅢbM	完形	39.7	-23.0	32.0	-1.2	19.0	-0.6	1.2	-2.9	28.8	-	Sh.	
Ⅱ-17-7	-	-	4578	ⅢbM	完形	39.8	-22.9	19.8	-13.4	12.8	-6.8	2.0	-2.1	11.5	-	Sa.	
-	-	-	4810	ⅢbM	完形	40.4	-22.3	38.7	5.5	21.4	1.8	1.0	-3.1	53.9	-	Gra.	
Ⅱ-17-8	-	-	4631	ⅢbM	完形	40.7	-22.0	16.7	-16.5	10.1	-9.5	2.4	-1.7	7.5	-	Mud.	
-	-	S163	4943 4944	ⅢbM	完形	40.7	-22.0	15.9	-17.3	7.3	-12.3	2.6	-1.5	4.0	-	Mud.	
-	-	-	4999	ⅢbM	完形	41.0	-21.7	35.3	2.1	9.2	-10.4	1.2	-2.9	17.7	-	Sa.	
-	-	-	4823	ⅢbM	完形	41.3	-21.4	27.4	-5.8	14.8	-4.8	1.5	-2.6	22.4	-	Mud.	
Ⅱ-17-9	-	-	4932	ⅢbM	完形	41.7	-21.0	20.3	-12.9	12.7	-6.9	2.1	-2.0	9.3	-	Mud.	
Ⅱ-17-10	-	-	4645	ⅢbM	完形	42.3	-20.4	20.1	-13.1	5.3	-14.3	2.1	-2.0	58.6	-	Mud.	
-	-	-	4926	ⅢbM	完形	42.5	-20.2	15.2	-18.0	11.1	-8.5	2.8	-1.3	5.8	-	Mud.	
-	-	-	4536	ⅢbM	完形	43.1	-19.6	29.2	-4.0	13.1	-6.5	1.5	-2.6	23.3	-	Sa.	
-	-	-	4910	ⅢbM	略完形	43.1	-19.6	22.4	-10.8	9.7	-9.9	1.9	-2.2	(11.1)	-	Sa.	
-	-	-	4789	ⅢbM	完形	44.2	-18.5	20.0	-13.2	17.5	-2.1	2.2	-1.9	17.8	-	Sh.	
-	-	S157	4867 4868	ⅢbM	完形	46.5	-16.2	31.7	-1.5	24.9	5.3	1.5	-2.6	44.9	-	Sa.	
-	-	-	4543	ⅢbM	完形	46.6	-16.1	27.9	-5.3	19.7	0.1	1.7	-2.4	30.3	○	Mud.	
Ⅱ-17-11	-	-	4828	ⅢbM	略完形	46.8	-15.9	29.1	-4.1	24.2	4.6	1.6	-2.5	(47.4)	-	Sh.	
Ⅱ-17-12	-	-	6103	ⅢbL	完形	47.6	-15.1	28.6	-4.6	22.8	3.2	1.7	-2.4	32.2	-	Qu.	
-	-	-	4813	ⅢbM	略完形	48.3	-14.4	46.5	13.3	31.3	11.7	1.0	-3.1	(68.7)	-	Ser.	
Ⅱ-17-13	-	43-2	4746	ⅢbM	完形	48.4	-14.3	45.2	12.0	12.3	-7.3	1.1	-3.0	41.1	-	Sa.	
-	-	-	4576	ⅢbM	完形	48.4	-14.3	26.6	-6.6	10.6	-9.0	1.8	-2.3	12.6	-	Mud.	
Ⅱ-17-14	-	-	4920	ⅢbM	完形	49.0	-13.7	14.8	-18.4	8.9	-10.7	3.3	-0.8	6.3	-	Mud.	
Ⅱ-17-15	-	-	4871	ⅢbM	完形	49.2	-13.5	41.7	8.5	21.6	2.0	1.2	-2.9	56.9	-	Sa.	
-	-	-	4977	ⅢbM	完形	49.2	-13.5	28.7	-4.5	11.0	-8.6	1.7	-2.4	21.8	-	Sa.	
-	-	-	6005	ⅢbM	完形	49.4	-13.3	37.0	3.8	16.2	-3.4	1.3	-2.8	26.8	-	Mud.	
Ⅱ-17-16	-	-	4987	ⅢbM	完形	51.0	-11.7	18.5	-14.7	9.6	-10.0	2.8	-1.3	9.8	-	Mud.	
Ⅱ-17-17	-	-	4854	ⅢbM	完形	51.7	-11.0	27.7	-5.5	16.5	-3.1	1.9	-2.2	32.3	-	Sa.	
-	-	-	4924	ⅢbM	完形	52.3	-10.4	27.8	-5.4	17.4	-2.2	1.9	-2.2	22.2	-	Mud.	
-	-	-	4532	ⅢbM	完形	52.6	-10.1	36.6	3.4	16.8	-2.8	1.4	-2.7	41.2	-	Sa.	
Ⅱ-17-18	-	-	4903	ⅢbM	完形	52.9	-9.8	22.7	-10.5	13.2	-6.4	2.3	-1.8	16.1	-	Mud.	
Ⅱ-17-19	-	-	7052	ⅢbM	完形	54.0	-8.7	27.6	-5.6	16.0	-3.6	2.0	-2.1	28.6	-	Sa.	
Ⅱ-17-20	-	-	4859 4860	ⅢbM	略完形	54.4	-8.3	(40.8)	7.6	36.9	17.3	1.3	-2.8	(81.7)	-	Mud.	
Ⅱ-17-21	-	-	4907	ⅢbM	完形	54.5	-8.2	53.9	20.7	24.1	4.5	1.0	-3.1	53.9	-	Sa.	
Ⅱ-17-22	-	-	4540	ⅢbM	完形	55.0	-7.7	28.9	-4.3	24.2	4.6	1.9	-2.2	51.4	-	Sh.	
Ⅱ-17-23	-	-	3278	ⅢbM	完形	55.8	-6.9	21.0	-12.2	13.1	-6.5	2.7	-1.4	19.8	-	Sa.	
-	-	-	6067	ⅢbU	完形	56.4	-6.3	54.5	21.3	15.3	-4.3	1.0	-3.1	52.6	-	Sa.	
-	-	-	6038	ⅢbM	完形	57.1	-5.6	24.8	-8.4	20.7	1.1	2.3	-1.8	40.4	○	Sa.	
-	-	-	4499	ⅢbM	完形	58.0	-4.7	22.3	-10.9	11.8	-7.8	2.6	-1.5	14.7	-	Mud.	
-	-	-	4552	ⅢbM	完形	58.5	-4.2	55.2	22.0	20.3	0.7	1.1	-3.0	84.3	-	Mud.	
-	-	-	3280	ⅢbM	完形	60.4	-2.3	44.9	11.7	28.5	8.9	1.3	-2.8	111.3	-	Gra.	
-	-	-	4935	ⅢbM	完形	61.3	-1.4	24.1	-9.1	10.6	-9.0	2.5	-1.6	12.5	-	Mud.	
-	-	S144	4547 4985	ⅢbM	完形	61.9	-0.8	52.2	19.0	13.4	-6.2	1.2	-2.9	62.3	-	Sa.	
-	-	-	4830	ⅢbM	完形	62.3	-0.4	23.8	-9.4	15.2	-4.4	2.6	-1.5	26.1	-	Mud.	
-	-	-	4571	ⅢbM	完形	64.9	2.2	27.3	-5.9	22.9	3.3	2.4	-1.7	44.0	-	Sa.	
Ⅱ-17-24	-	-	4994	ⅢbM	完形	65.8	3.1	13.0	-20.2	8.9	-10.7	5.1	1.0	6.0	-	Sa.	
-	-	-	4954	ⅢbM	略完形	66.3	3.6	(48.6)	15.4	19.3	-0.3	1.4	-2.7	(78.0)	-	Sa.	
Ⅱ-17-25	-	-	4955	ⅢbM	略完形	66.3	3.6	31.7	-1.5	(44.8)	-64.4	2.1	-2.0	(37.9)	-	Sa.	
Ⅱ-17-26	-	-	4611	ⅢbM	完形	67.0	4.3	57.8	24.6	36.6	17.0	1.2	-2.9	205.0	-	Gra.	
-	-	-	4537	ⅢbM	完形	67.6	4.9	25.1	-8.1	16.7	-2.9	2.7	-1.4	25.2	○	Sa.	
-	-	-	3970	ⅢbM	完形	67.9	5.2	26.0	-7.2	18.9	-0.7	2.6	-1.5	39.5	-	Mud.	

表II-21 III SB-01出土礫属性表(続き)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
II-17-27	-	4834	IIIbM	完形	69.1	6.4	39.5	6.3	21.1	1.5	1.7	-2.4	67.8	○	Sa.		
II-17-28	-	4869	IIIbM	完形	69.9	7.2	37.5	4.3	21.4	1.8	1.9	-2.2	65.7	-	Sa.		
II-17-29	-	4906	IIIbM	完形	70.6	7.9	45.0	11.8	23.4	3.8	1.6	-2.5	93.1	-	Sa.		
-	-	4533	IIIbM	完形	70.9	8.2	33.1	-0.1	17.5	-2.1	2.1	-2.0	50.4	-	Sa.		
II-17-30	-	4936	IIIbM	完形	71.2	8.5	45.0	11.8	26.7	7.1	1.6	-2.5	98.4	-	Gra.		
II-17-31	-	6083	IIIbU	完形	72.2	9.5	25.4	-7.8	18.8	-0.8	2.8	-1.3	33.3	-	Qu.		
-	-	4984	IIIbM	完形	72.4	9.7	28.5	-4.7	12.1	-7.5	2.5	-1.6	24.6	-	Mud.		
-	-	S150	4765 4766	IIIbM	完形	73.2	10.5	41.8	8.6	22.0	2.4	1.8	-2.3	83.8	-	Sa.	
II-17-32	-	4602	IIIbM	完形	74.3	11.6	18.8	-14.4	12.6	-7.0	4.0	-0.1	26.2	-	Qu.		
II-17-33	-	4957	IIIbM	略完形	75.9	13.2	36.6	3.4	13.2	-6.4	2.1	-2.0	(34.7)	-	Mud.		
-	-	6108	IIIbM	略完形	76.8	14.1	(45.2)	12.0	12.2	-7.4	1.7	-2.4	(66.5)	-	Sa.		
-	-	6023	IIIbM	完形	77.1	14.4	28.8	-4.4	17.0	-2.6	2.7	-1.4	49.7	-	Mud.		
-	-	4897	IIIbM	完形	77.7	15.0	32.7	-0.5	26.0	6.4	2.4	-1.7	85.8	-	Sa.		
-	-	4749	IIIbM	完形	78.1	15.4	32.8	-0.4	10.5	-9.1	2.4	-1.7	26.8	-	Mud.		
-	-	S066	71 4878 4879 4880 4881 8828	IIIa	略完形	78.4	15.7	(68.0)	34.8	51.1	31.5	1.2	-2.9	(255.0)	-	Sa.	III B-01
-	-	6089	IIIbU	完形	78.6	15.9	37.4	4.2	26.0	6.4	2.1	-2.0	98.1	-	Sa.		
II-17-34	-	4889	IIIbM	完形	78.8	16.1	25.4	-7.8	14.0	-5.6	3.1	-1.0	28.6	-	Mud.		
-	-	3969	IIIbM	完形	80.2	17.5	29.5	-3.7	18.0	-1.6	2.7	-1.4	29.3	-	Mud.		
II-17-35	43-2	4998	IIIbM	略完形	80.6	17.9	44.1	10.9	20.9	1.3	1.8	-2.3	(80.4)	-	Sa.		
-	-	4928	IIIbM	完形	82.3	19.6	23.0	-10.2	20.5	0.9	3.6	-0.5	48.3	-	Mud.		
II-17-36	-	4824	IIIbM	略完形	82.6	19.9	(30.3)	-2.9	(25.5)	5.9	2.7	-1.4	(63.2)	-	Sa.		
-	-	4531	IIIbM	完形	82.7	20.0	34.5	1.3	23.7	4.1	2.4	-1.7	73.5	-	Sa.		
-	-	6010	IIIbM	完形	82.8	20.1	25.1	-8.1	20.6	1.0	3.3	-0.8	54.0	-	Sa.		
-	-	2977	IIIbU	完形	82.8	20.1	43.5	10.3	25.6	6.0	1.9	-2.2	103.1	-	Mud.		
-	-	S160	4904 6016	IIIbM	完形	83.4	20.7	31.2	-2.0	18.9	-0.7	2.7	-1.4	61.2	-	Sa.	
-	-	4913	IIIbM	完形	83.9	21.2	81.2	48.0	40.4	20.8	1.0	-3.1	400.0	-	Sa.		
-	-	4639	IIIbM	完形	86.6	23.9	23.9	-9.3	16.8	-2.8	3.6	-0.5	43.9	-	Sa.		
II-17-37	-	4888	IIIbM	完形	87.2	24.5	35.0	1.8	16.4	-3.2	2.5	-1.6	45.8	-	Mud.		
-	-	4908	IIIbM	完形	87.3	24.6	42.6	9.4	30.0	10.4	2.0	-2.1	104.2	-	Sa.		
-	-	4931	IIIbM	完形	88.4	25.7	82.7	49.5	56.8	37.2	1.1	-3.0	560.0	-	Gra.		
-	-	6090	IIIbU	完形	89.0	26.3	32.7	-0.5	17.5	-2.1	2.7	-1.4	59.8	-	Sa.		
-	-	S156	4864 4865	IIIbM	完形	90.7	28.0	30.9	-2.3	21.8	2.2	2.9	-1.2	60.4	-	Sa.	
-	-	6003	IIIbM	完形	91.0	28.3	34.0	0.8	24.3	4.7	2.7	-1.4	89.8	-	Sa.		
-	-	4734	IIIbM	完形	95.0	32.3	34.1	0.9	15.5	-4.1	2.8	-1.3	67.3	-	Mud.		
II-17-38	-	4548	IIIbM	完形	97.0	34.3	51.5	18.3	36.7	17.1	1.9	-2.2	260.0	-	Cha.		
-	-	3279	IIIbM	完形	99.5	36.8	38.4	5.2	30.1	10.5	2.6	-1.5	128.9	-	Sa.		
II-17-39	-	S158	4886 4995	IIIbM	略完形	102.3	39.6	34.3	1.1	16.0	-3.6	3.0	-1.1	(55.4)	-	Mud.	
II-17-40	-	S164	4945 6004	IIIbM	略完形	(144.0)	81.3	48.1	14.9	46.8	27.2	3.0	-1.1	(430.0)	-	Sa.	
II-17-41	-	S161	4915 4916	IIIbM	略完形	154.2	91.5	84.8	51.6	35.0	15.4	1.8	-2.3	(595.0)	-	Sa.	
						62.7		33.2		19.6			65.8				
												※100点					

### 住居跡2と周辺の関連遺構の概況（図Ⅱ-18～28 図版12～15 44-1）

ⅢH-02は調査区の南東側の段丘縁辺部近くのほぼ平坦面に位置する。住居跡の東約20mの段丘下には湧水地点がある。ⅢH-02の東側4mには、段丘縁辺部に位置する遺物集中（ⅢB-02）と、南東側に約15m離れた段丘縁辺部には獣骨集中（ⅢBB-02）を検出している。また、礫集中（ⅢSB-05）はⅢH-02の南側6mに検出し、住居内・掘り上げ土・本礫集中にかけて同一面に多数の礫の広がりが見られたことから関連遺構と考えた。ⅢB-02とⅢSB-05の検出層位はⅢb層下位で、住居跡の炉の検出層位と同一面である。ⅢBB-02はⅢb層中位であるが、ⅢH-01とその周辺の関連遺構の配置状況と類似していることから関連遺構と考え、ここに掲載する。

### 住居跡2〔ⅢH-02〕（図Ⅱ-18～23 図版12）

位置：AB・AC-34・35区 規模：415×380 cm 長軸方向：N-69° E

付属遺構：炉跡：ⅢF-18・19 土坑：ⅢP-06・07・08

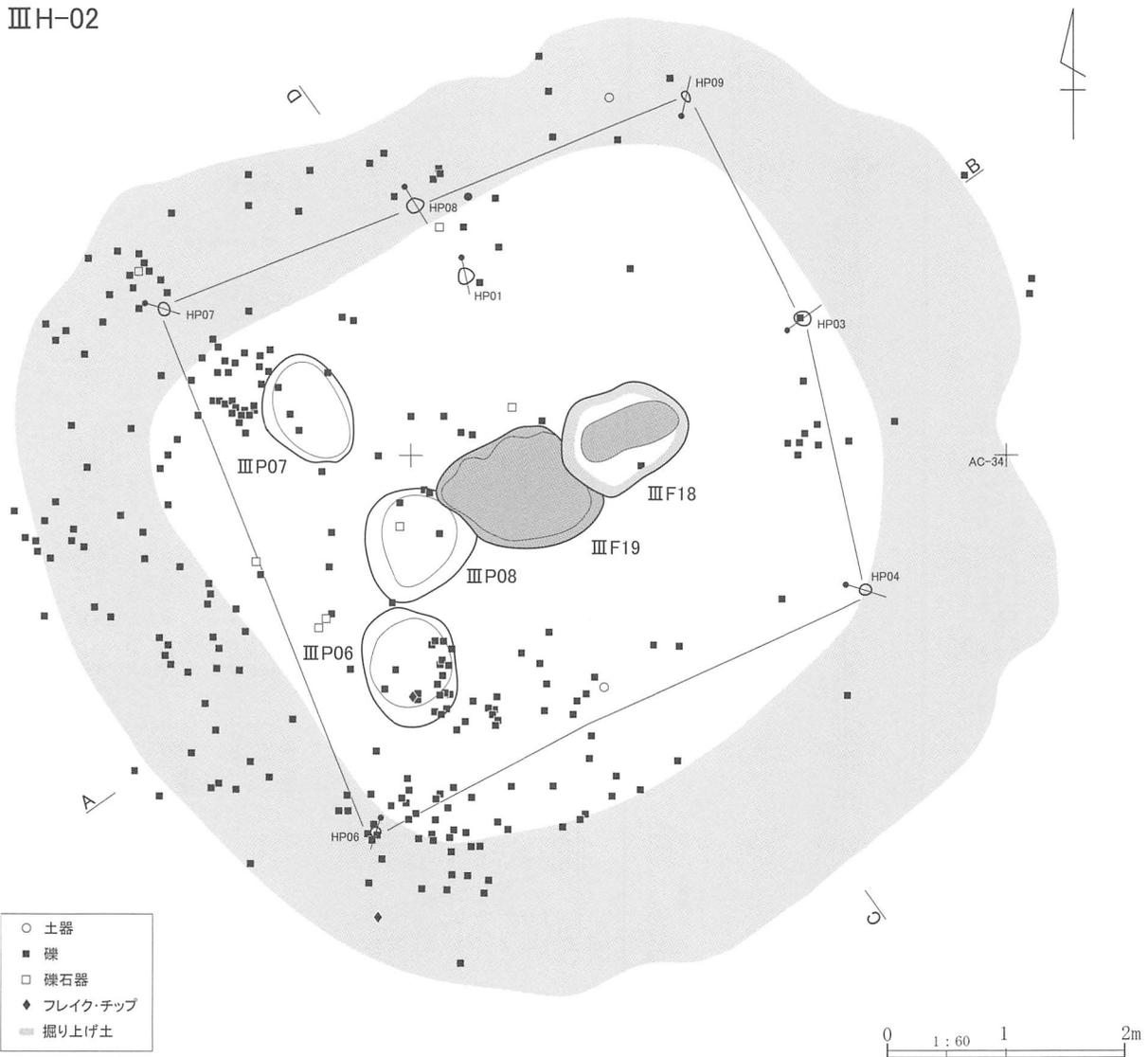
**確認・調査** 調査区の南東側、段丘縁辺部近くのⅢ層上面で直径5m程の浅い皿状の窪みを確認した（図Ⅱ-18）。住居跡の可能性を考え窪みの中央に十字にベルト及びトレンチを設定した。トレンチを掘り下げたところ、窪みのほぼ中央部で焼土を検出し周辺に掘り上げ土と考えられる堆積も確認できたことから、浅い掘り込みをもつ住居跡を想定し調査を進めた。掘り上げ土は幅1.5～2m程でドーナツ状に住居跡を取り囲んでいる。掘り上げ土の基底面はⅢb層下位で、一部B-Tmの堆積も確認されたが、範囲を捉えられる程のまとまった分布は見られなかった。東西に設定したベルト中で検出した焼土は、住居炉跡と考えられⅢb層を4cm程被覆していた。炉跡は長軸上に2ヶ所並列して検出され、断面で切り合いが確認されたため新しい方をⅢF-18、古い方を19と付番した。炉跡は写真撮影と平面形・土層断面の図化を行い、炉跡上面の土壌をフローテーションと微細遺物回収目的に採取した。壁面はⅢb層～Ⅲc層を緩やかな角度で最大10cm程掘り込まれ、床面はほとんどがⅣ層上面となっている。壁際を精査したところ配列となる柱穴を確認した。ただし長軸西側の柱穴については検出できなかった。床面を精査中に西壁際で土坑を2基、また炉跡と重複して西側に1基検出した。遺物は住居跡床面と周囲の掘り上げ土上面、さらに住居跡南側のⅢb層下位から礫が多く出土した。特に集中する部分をⅢSB-05とし微細図を実測した。柱穴断面の写真撮影と図化を行い、最後に完掘写真を撮影し調査終了とした。

**付属炉** 住居跡の長軸中央部に東西方向に並列して2ヶ所検出。切り合いが確認でき、住居跡中央のⅢF-19が古く、東寄りの18が新しい。平面形はいずれも楕円形である。燃焼面は平坦で灰層も認められず、掻き出しの痕跡も確認できなかった。ⅢF-18・19の焼土中にはシカの四肢骨などとともにサケ属、サケ科、コイ科、イトウ？の魚類も出土した（第Ⅵ章第2節）。また、植物種子ではヒユ属、キビ、シソ属の栽培種炭化種子が出土している（第Ⅵ章第3節）。

**柱穴** 柱穴は7本検出し長方形に配置される。長軸上に位置する西側の1本は精査したが見つかっていない。HP01はⅤ層上面を精査した段階で検出した。全て打ち込み柱で、「外踏ん張り」の僅かな傾斜（4～11°）を有している。

**土坑** ⅢP-06・07・08が住居内西壁際に位置する。規模は100×80cm前後の楕円形で、深さは12～35cmで、全て埋め戻されている。ⅢH-01の土坑群と同様の規格性が考えられる。

IIIH-02



図II-18 IIIH-02 平面図

**出土遺物** (図II-22・23) 1は床面出土の擦文土器口縁部である。内外面にミガキが認められる。無文であるため時期決定資料と認定できない。2～5はたたき石。2は砂岩の板状礫で下側縁張り出し部に数回の敲打痕及び剥離が認められる。3は拳大の石英を素材として下端、右側面に敲打痕を有する。4は厚みのある歪角礫を用いて、正面両側縁に集中的な敲打痕が認められる。5は風化した敲打痕を切る形で新しい敲打痕が観察でき、出土層位と合わせて縄文時代のたたき石を転用したものと考えられる。6は台石で断面方形の歪角礫の平坦面に敲打痕が多く見られる。7～27は主に住居の西壁際床面で出土した礫群で、材質は砂岩と泥岩が大半である。形状は棒状・円盤状・板状のものがあり、完形・略完形の礫は106点出土した。礫の平均値は長軸71.7mm、短軸39.5mm、厚さ20.0mm、長短比は1.9で棒状礫が多い。

**時期** 一括土器出土していないが、炉跡燃焼面より上層に堆積したIIIb層の厚さから擦文文化の住居跡と判断した。また、III F-18と19の炉跡から出土した炭化したクルミ片とコナラ属の炭化種子についてAMS法C14年代測定を委託した(第VI章第1節)。暦年較正年代(2σ)で11世紀中葉から13世紀中葉の年代が得られ、擦文文化期後期から終末期の年代と矛盾しないと考えられる。

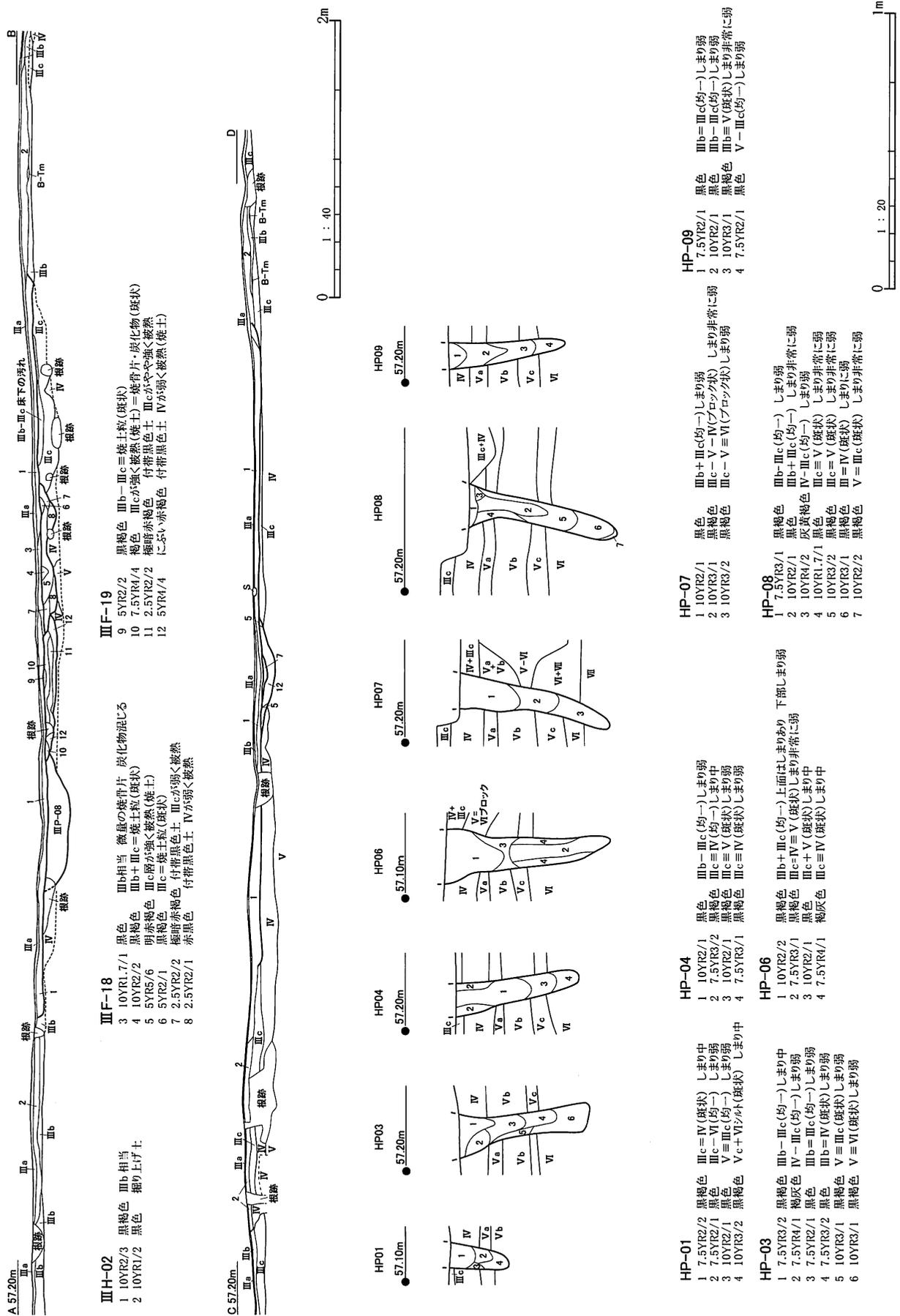


図 II-19 III H-02 及び柱穴断面図

表II-22 IIIH-02属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	長軸方向	規模(cm)				柱穴本数			付属遺構
						主体部		付属部		本数			
						長軸	短軸	長軸	短軸	主柱	付属	他	
II-18	12-1	IIIH-02	AB・AC-34・35	IIIbL	N-69° E	415	380	-	-	7	-	1	III F-18・19・ III P-06~08・III SB-05

表II-23 IIIH-02付属炉属性表

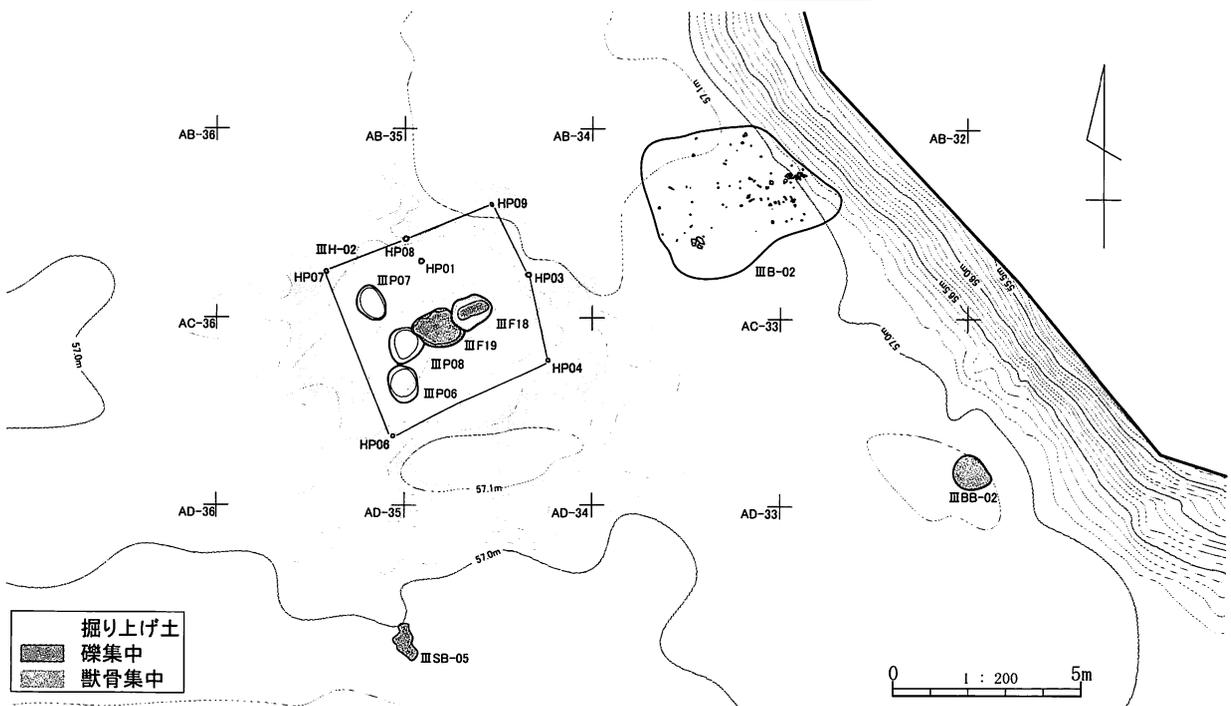
挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片	備考
						長軸	短軸	高さ		
II-19	13-1・2	III F-18	AB・AC-34	IIIbL	楕円形	93	73	10	骨片	
II-19	13-1・2	III F-19	AB・AC-34	IIIbL	楕円形	118	88	8	骨片	

表II-24 III P-06~08属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形 調査面/坑底面	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ(cm)	長軸方向	調査面長短比	坑底面長短比	出土遺物	備考
						長軸	短軸	長軸	短軸						
II-18	13-3・4	III P-06	AC-34・35	IIIbL	楕円形	102	72	72	68	35	N-11° W	1.4	1.1	-	
II-18	13-5・6	III P-07	AB・AC-35	IIIbL	楕円形	99	78	82	54	12	N-26° W	1.3	1.5	-	
II-18	13-7	III P-08	AC-34・35	IIIc	楕円形	100	94	74	64	16	N-19° E	1.1	1.2	-	

表II-25 IIIH-02柱穴属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	規模(cm)			傾き(度)	タイプ	備考
			上端	下端	深さ			
II-19	12-2	HP01	10	3	22	9	打込み	
II-19	12-3	HP03	15	11	47	4	打込み	
II-19	12-4	HP04	12	4	45	5	打込み	
II-19	12-5	HP06	20	2	60	5	打込み	
II-19	12-6	HP07	13	3	54	11	打込み	
II-19	12-7	HP08	16	3	54	8	打込み	
II-19	12-8	HP09	10	2	42	4	打込み	



図II-20 IIIH-02及び関連遺構配置図

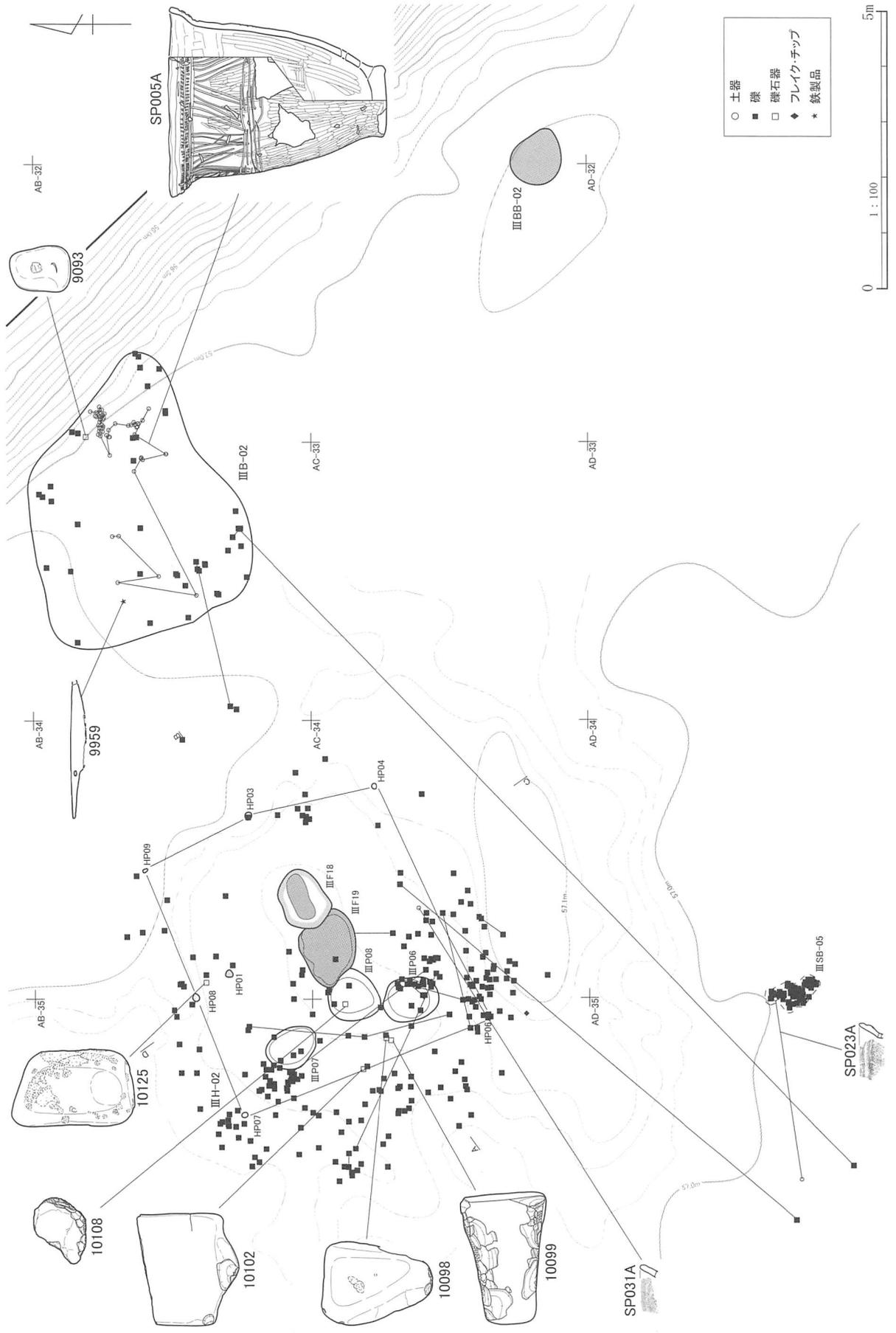
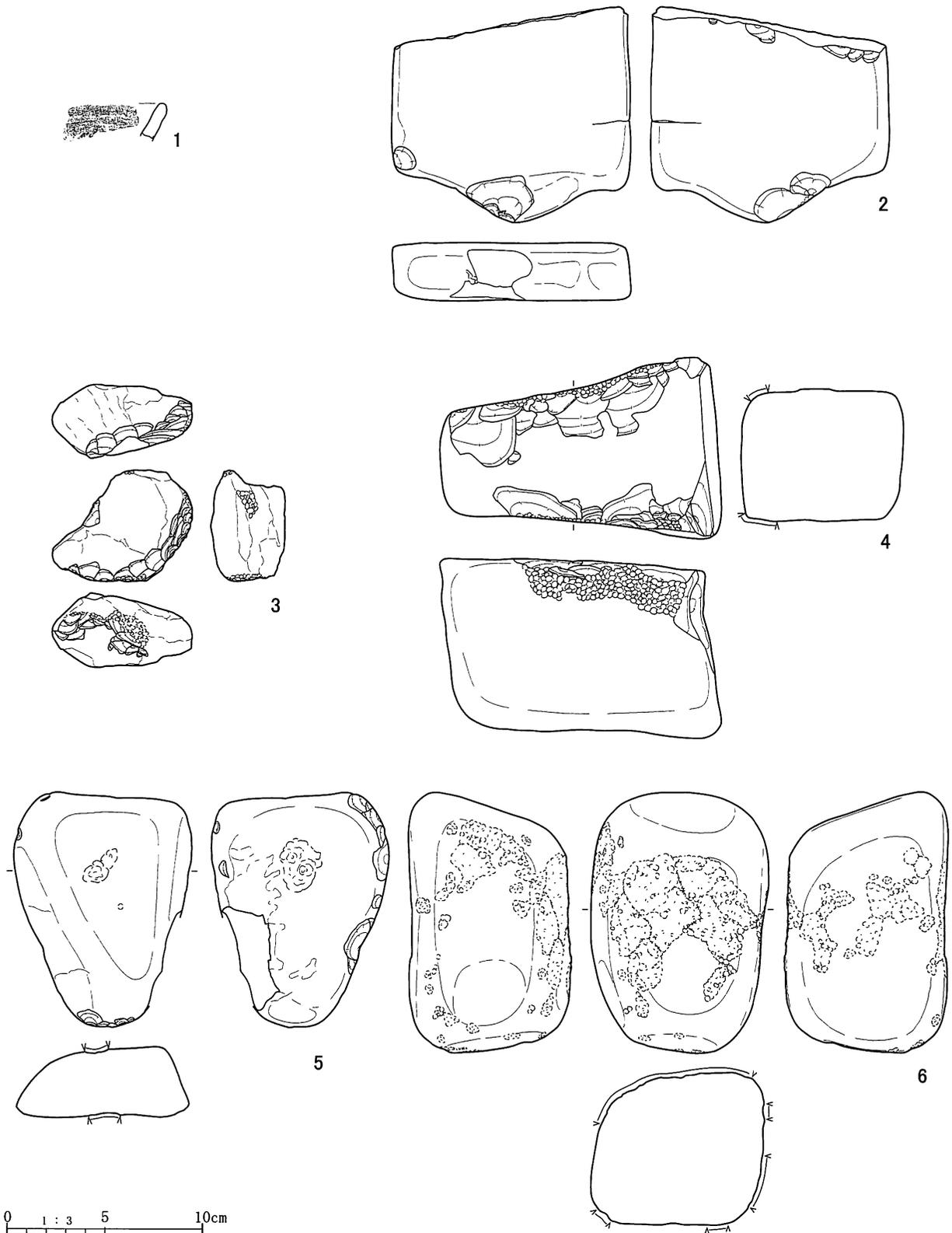
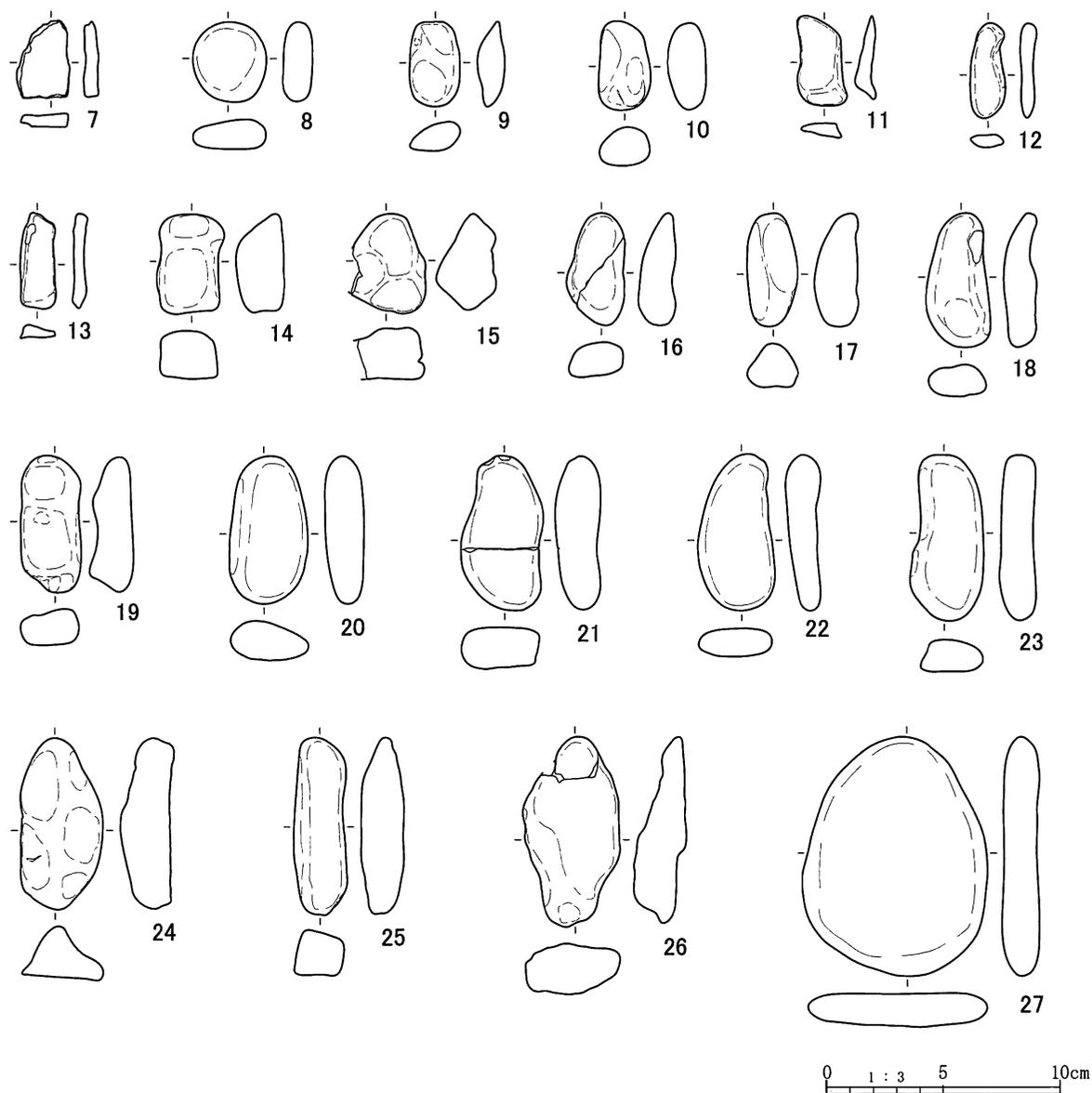


図 II -21 ⅢH-02及び関連遺構接合分布図



図II-22 IIIH-02 出土遺物(1)



図Ⅱ-23 ⅢH-02 出土遺物 (2)

表Ⅱ-26 ⅢH-02出土土器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点 数	器 種	部位	器面調整		文 様	備考
									外側	内側		
									口縁/頸部 /胴部/底側面	口縁/頸部 /胴部	口縁部/ 文様帯	
Ⅱ-22-1	43-3-1	SP31A	VII B3	AC-34	2	1	甕	口縁部	ミガキ	ミガキ	無文	

表Ⅱ-27 ⅢH-02出土石器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	グリッド	計測値(mm)			重量 (g)	材質	備考
								長軸	短軸	厚さ			
Ⅱ-22-2	43-3-2	-	10102	たたき石	ⅡA2	2	AC-35	120.9	97.8	30.1	614.0	Sa.	
Ⅱ-22-3	43-3-3	-	10108	たたき石	ⅡB2	2	AC-35	72.5	57.5	41.0	154.0	Qu.	
Ⅱ-22-4	43-3-4	-	10098	たたき石	ⅡB3	2	AC-35	139.0	95.0	84.4	1665.0	Sa.	
Ⅱ-22-5	43-3-5	-	10099	たたき石	ⅡB3	2	AC-35	120.5	90.6	36.9	(436.0)	Sa.	
Ⅱ-22-6	43-3-6	-	10125	台石	-	2	AB-34	134.5	91.0	81.0	1550.0	Sa.	被熱

表II-28 IIIH-02出土礫属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被熱	材質	備考
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
-	-	-	9999	1	完形	21.0	-50.7	20.0	-19.5	8.0	-12.0	1.1	-0.9	4.5	-	Sa.	
-	-	-	10083	2	完形	21.8	-49.9	20.0	-19.5	9.1	-10.9	1.1	-0.8	3.6	-	Sa.	
-	-	-	10036	2	完形	25.3	-46.4	22.4	-17.1	10.9	-9.1	1.1	-0.8	7.9	-	Sa.	
-	-	-	10050	2	完形	26.3	-45.4	25.7	-13.8	8.9	-11.1	1.0	-0.9	7.4	-	Mud.	
-	-	-	10219	1	完形	27.0	-44.7	27.0	-12.5	6.0	-14.0	1.0	-0.9	5.8	-	Sa.	
-	-	-	10224-1	1	完形	27.0	-44.7	25.0	-14.5	11.0	-9.0	1.1	-0.8	6.9	-	Mud.	
-	-	-	10160	2	完形	28.3	-43.4	15.4	-24.1	12.2	-7.8	1.8	-0.1	6.0	-	Gra.	
-	-	-	10159	2	完形	28.8	-42.9	27.4	-12.1	11.9	-8.1	1.1	-0.8	11.1	-	Sa.	
-	-	-	10101	2	完形	30.0	-41.7	25.0	-14.5	11.8	-8.2	1.2	-0.7	12.9	-	Sa.	
-	-	-	10010	1	完形	31.0	-40.7	25.0	-14.5	7.0	-13.0	1.2	-0.7	7.8	-	Sa.	
-	-	-	10031	2	完形	32.0	-39.7	24.5	-15.0	11.8	-8.2	1.3	-0.6	12.5	-	Mud.	
-	-	-	10020	1	完形	33.0	-38.7	18.0	-21.5	9.0	-11.0	1.8	-0.1	7.0	-	Gra.	
-	-	-	10012	1	完形	34.0	-37.7	22.0	-17.5	9.0	-11.0	1.5	-0.4	6.6	-	Sa.	
-	-	-	10030	2	完形	34.5	-37.2	27.9	-11.6	16.1	-3.9	1.2	-0.7	10.1	-	Sa.	
-	-	-	9983	1	完形	35.0	-36.7	22.0	-17.5	14.0	-6.0	1.6	-0.3	10.6	-	Sa.	
-	-	-	10003	1	完形	41.0	-30.7	29.0	-10.5	16.0	-4.0	1.4	-0.5	20.3	-	Sa.	
-	-	-	10171	2	完形	43.3	-28.4	22.3	-17.2	20.9	0.9	1.9	0.0	12.5	-	Mud.	
II-23-7	-	-	10211	2	完形	43.3	-28.4	29.5	-10.0	8.7	-11.3	1.5	-0.4	16.8	-	Qu.	
II-23-8	-	-	10023	1	完形	45.8	-25.9	41.6	2.1	17.6	-2.4	1.1	-0.8	43.4	-	Sa.	
-	-	-	10018	1	完形	46.0	-25.7	33.0	-6.5	16.0	-4.0	1.4	-0.5	24.2	-	Mud.	
-	-	-	10236	1	完形	48.0	-23.7	38.0	-1.5	35.5	15.5	1.3	-0.6	83.0	-	Sa.	
-	-	-	10214	1	完形	48.0	-23.7	35.0	-4.5	20.0	0.0	1.4	-0.5	35.8	-	Sa.	
II-23-9	-	-	10215	1	完形	48.8	-22.9	30.6	-8.9	16.4	-3.6	1.6	-0.3	21.6	-	Mud.	
-	-	-	10029	2	完形	49.5	-22.2	22.5	-17.0	16.9	-3.1	2.2	0.3	15.0	-	Mud.	
II-23-10	-	-	10035	2	完形	49.9	-21.8	29.9	-9.6	22.7	2.7	1.7	-0.2	50.7	-	Cha.	
-	-	-	10088	2	完形	50.2	-21.5	27.7	-11.8	13.6	-6.4	1.8	-0.1	15.0	-	Mud.	
II-23-11	-	-	10221	1	完形	51.5	-20.2	26.7	-12.8	11.0	-9.0	1.9	0.0	14.5	-	Mud.	
-	-	-	10057	2	完形	51.5	-20.2	23.3	-16.2	11.2	-8.8	2.2	0.3	13.0	-	Mud.	
-	-	-	10092	2	完形	51.7	-20.0	20.8	-18.7	11.6	-8.4	2.5	0.6	13.7	-	Sa.	
-	-	-	10038	2	略完形	(53.8)	-17.9	30.1	-9.4	17.5	-2.5	1.8	-0.1	(21.8)	-	Mud.	
-	-	-	10161	2	完形	54.4	-17.3	24.8	-14.7	14.9	-5.1	2.2	0.3	22.1	-	Qu.	
-	-	-	10085	2	完形	54.4	-17.3	33.3	-6.2	23.5	3.5	1.6	-0.3	72.8	-	Sa.	
-	-	-	10055	2	完形	54.5	-17.2	18.8	-20.7	13.0	-7.0	2.9	1.0	15.0	-	Mud.	
II-23-12	44-1	-	10082	2	完形	54.5	-17.2	19.8	-19.7	8.5	-11.5	2.8	0.9	10.5	-	Mud.	
-	-	-	10173	2	完形	54.6	-17.1	20.1	-19.4	11.2	-8.8	2.7	0.8	16.0	-	Mud.	
II-23-13	-	-	10005	1	完形	55.0	-16.7	21.0	-18.5	10.0	-10.0	2.6	0.7	9.5	-	Mud.	
II-23-14	-	-	10175	2	完形	56.5	-15.2	43.3	3.8	34.9	14.9	1.3	-0.6	96.0	-	Gra.	
II-23-15	-	-	10066	2	略完形	56.5	-15.2	36.4	-3.1	28.1	8.1	1.6	-0.3	(88.5)	-	Sa.	
-	-	-	10245	1	完形	57.0	-14.7	21.0	-18.5	19.0	-1.0	2.7	0.8	15.5	-	Mud.	
-	-	-	10084	2	完形	57.9	-13.8	21.1	-18.4	18.5	-1.5	2.7	0.8	21.5	-	Sa.	
-	-	-	10244	1	完形	58.0	-13.7	36.0	-3.5	13.0	-7.0	1.6	-0.3	27.5	-	Mud.	
-	-	-	10090	2	完形	58.0	-13.7	31.3	-8.2	22.0	2.0	1.9	0.0	22.6	-	Mud.	
-	-	-	9987	1	完形	58.0	-13.7	13.0	-26.5	10.0	-10.0	4.5	2.6	7.0	-	Mud.	
-	-	-	10042	2	完形	59.4	-12.3	22.6	-16.9	12.5	-7.5	2.6	0.7	13.5	-	Mud.	
-	-	-	9975	1	略完形	60.3	-11.4	17.0	-22.5	8.7	-11.3	3.5	1.6	(10.0)	-	Mud.	
-	-	-	10016														
-	-	S052	10227	1	完形	60.8	-10.9	41.7	2.2	26.6	6.6	1.5	-0.4	67.0	-	Mud.	
-	-		10228														
-	-	-	10119	2	完形	62.1	-9.6	46.4	6.9	33.0	13.0	1.3	-0.6	128.4	-	Qu.	
-	-	-	10076	2	完形	62.1	-9.6	30.1	-9.4	23.2	3.2	2.1	0.2	45.4	-	Sa.	
-	-	-	10237	1	略完形	(62.2)	-9.5	27.7	-11.8	19.7	-0.3	2.2	0.3	(50.0)	-	Sa.	
-	-	-	10230	2	完形	62.5	-9.2	43.3	3.8	21.7	1.7	1.4	-0.5	80.3	-	Sa.	
-	-	-	10096	2	完形	62.5	-9.2	36.2	-3.3	18.2	-1.8	1.7	-0.2	41.4	-	Mud.	
II-23-16	-	S054	10068	2	完形	63.6	-8.1	33.1	-6.4	21.0	1.0	1.9	0.0	45.9	-	Mud.	
-	-		10091														
-	-	-	10009	1	完形	64.0	-7.7	34.0	-5.5	23.0	3.0	1.9	0.0	77.0	-	Sa.	
II-23-17	-	-	10093	2	完形	64.8	-6.9	28.4	-11.1	26.5	6.5	2.3	0.4	52.0	-	Sa.	
-	-	-	10130	2	完形	65.0	-6.7	42.9	3.4	9.1	-10.9	1.5	-0.4	34.0	-	Sa.	
-	-	-	9988	1	完形	65.0	-6.7	29.0	-10.5	16.0	-4.0	2.2	0.3	31.3	-	Mud.	
-	-	-	10241	1	完形	65.8	-5.9	45.6	6.1	14.8	-5.2	1.4	-0.5	60.4	-	Sa.	
-	-	-	10065	2	完形	67.0	-4.7	36.7	-2.8	15.5	-4.5	1.8	-0.1	39.0	-	Mud.	
-	-	-	10077	2	完形	67.1	-4.6	39.7	0.2	31.0	11.0	1.7	-0.2	102.0	-	Sa.	
-	-	-	10178	2	完形	67.4	-4.3	18.9	-20.6	9.1	-10.9	3.6	1.7	12.2	-	Mud.	
-	-	-	9976	1	完形	67.8	-3.9	46.0	6.5	26.0	6.0	1.5	-0.4	70.0	-	Mud.	
-	-	-	9964	1	完形	68.0	-3.7	36.0	-3.5	25.8	5.8	1.9	0.0	65.9	-	Mud.	
-	-	-	10225	1	完形	68.0	-3.7	53.0	13.5	24.0	4.0	1.3	-0.6	129.9	-	Sa.	

表Ⅱ-28 ⅢH-02出土礫属性表(続き)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短 比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被熱	材質	備考
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
-	-	-	10207	1	完形	69.0	-2.7	45.2	5.7	30.3	10.3	1.5	-0.4	100.7	-	Sa.	
-	-	-	10158	2	完形	70.4	-1.3	42.1	2.6	23.1	3.1	1.7	-0.2	79.5	-	Sa.	
-	-	-	10128	2	完形	70.5	-1.2	41.6	2.1	20.5	0.5	1.7	-0.2	74.0	-	Sa.	
-	-	-	9979	1	完形	73.0	1.3	47.0	7.5	24.0	4.0	1.6	-0.3	74.5	-	Sa.	
-	-	-	10135	2	完形	73.1	1.4	39.4	-0.1	23.6	3.6	1.9	0.0	85.0	-	Sa.	
-	-	-	10123	2	完形	73.3	1.6	43.2	3.7	28.0	8.0	1.7	-0.2	114.7	-	Gra.	
-	-	-	9980	1	完形	75.0	3.3	26.0	-13.5	17.0	-3.0	2.9	1.0	33.5	-	Mud.	
-	-	-	10033	2	完形	75.1	3.4	33.8	-5.7	27.2	7.2	2.2	0.3	58.8	-	Sh.	
Ⅱ-23-18	-	-	10138	2	完形	76.6	4.9	35.1	-4.4	18.0	-2.0	2.2	0.3	67.0	-	Sa.	
-	-	-	10153	2	完形	76.6	4.9	52.0	12.5	15.3	-4.7	1.5	-0.4	90.5	-	Sa.	
-	-	-	10203	2	完形	77.0	5.3	43.5	4.0	21.1	1.1	1.8	-0.1	99.4	-	Sa.	
Ⅱ-23-19	-	-	10059	2	完形	77.2	5.5	34.1	-5.4	22.8	2.8	2.3	0.4	84.5	-	Sa.	
-	-	S057	10104 10109 10110 10111	2	完形	77.8	6.1	45.8	6.3	28.4	8.4	1.7	-0.2	157.6	-	Sa.	
-	-	S004	10032 1617	2	完形	78.0	6.3	37.1	-2.4	20.1	0.1	2.1	0.2	62.7	-	Mud.	
-	-	-	10118	2	完形	78.3	6.6	42.3	2.8	13.5	-6.5	1.9	0.0	45.7	-	Sa.	
-	-	-	10144	2	完形	79.9	8.2	59.7	20.2	16.4	-3.6	1.3	-0.6	107.5	-	Sa.	
-	-	-	10134	2	略完形	83.8	12.1	32.6	-6.9	20.9	0.9	2.6	0.7	(69.8)	-	Sa.	
-	-	S055	10078 10155	2	完形	83.9	12.2	33.0	-6.5	28.8	8.8	2.5	0.6	81.2	-	Mud.	
Ⅱ-23-20	-	-	9992	1	完形	84.0	12.3	44.7	5.2	22.4	2.4	1.9	0.0	106.5	-	Sa.	
-	-	-	10064	2	完形	84.7	13.0	33.2	-6.3	26.9	6.9	2.6	0.7	91.5	-	Sa.	
-	-	-	10145	2	完形	85.1	13.4	42.3	2.8	29.8	9.8	2.0	0.1	88.0	-	Mud.	
-	44-1	-	10239	1	完形	87.0	15.3	42.0	2.5	27.0	7.0	2.1	0.2	99.2	-	Sa.	
Ⅱ-23-21	-	-	10140	2	完形	88.8	17.1	44.4	4.9	19.5	-0.5	2.0	0.1	88.5	-	Sa.	
Ⅱ-23-22	-	S340	10114 10242	1	完形	88.8	17.1	50.9	11.4	25.8	5.8	1.7	-0.2	138.5	-	Sa.	
-	-	-	10120	2	完形	90.4	18.7	48.9	9.4	28.5	8.5	1.8	-0.1	143.0	-	Sa.	
-	-	S026	10043 9238	2	完形	90.9	19.2	49.2	9.7	13.8	-6.2	1.8	-0.1	80.5	-	Sa.	
Ⅱ-23-23	-	-	9997	1	完形	93.7	22.0	40.9	1.4	21.9	1.9	2.3	0.4	109.5	-	Sa.	
-	-	-	10115	2	完形	94.8	23.1	48.3	8.8	22.8	2.8	2.0	0.1	137.0	-	Sa.	
Ⅱ-23-24	-	-	10132	2	完形	96.7	25.0	48.9	9.4	29.2	9.2	2.0	0.1	144.5	-	Sa.	
-	-	-	10142	2	完形	97.7	26.0	50.7	11.2	19.5	-0.5	1.9	0.0	121.5	-	Sa.	
-	-	-	10107	2	完形	98.6	26.9	51.5	12.0	25.3	5.3	1.9	0.0	131.0	-	Sa.	
-	-	-	10157	2	完形	99.4	27.7	52.4	12.9	16.4	-3.6	1.9	0.0	112.5	-	Sa.	
-	-	-	10141	2	完形	99.9	28.2	45.3	5.8	28.1	8.1	2.2	0.3	142.5	-	Sa.	
Ⅱ-23-25	-	-	10133	2	完形	100.4	28.7	27.0	-12.5	25.2	5.2	3.7	1.8	104.5	○	Sa.	
-	-	-	10113	2	略完形	(103.0)	31.3	69.1	29.6	21.9	1.9	1.5	-0.4	(181.5)	-	Sa.	
-	-	-	10080	2	完形	104.1	32.4	59.3	19.8	18.3	-1.7	1.8	-0.1	130.5	-	Sa.	
Ⅱ-23-26	-	S051	9991 9993	1	略完形	108.0	36.3	52.0	12.5	32.0	12.0	2.1	0.2	(175.5)	-	Sa.	
Ⅱ-23-27	-	-	10095	2	完形	130.0	58.3	106.0	66.5	24.0	4.0	1.2	-0.7	424.5	-	Sa.	
-	-	-	10116	2	完形	133.9	62.2	79.6	40.1	43.3	23.3	1.7	-0.2	510.0	-	Sa.	
-	-	-	10112	2	完形	143.0	71.3	50.0	10.5	48.0	28.0	2.9	1.0	259.4	-	Sa.	
-	-	-	10117	2	完形	157.0	85.3	96.0	56.5	33.0	13.0	1.6	-0.3	555.0	-	Sa.	
-	-	S062	10162 10317	2	完形	184.0	112.3	122.0	82.5	35.0	15.0	1.5	-0.4	1042.0	-	Sa.	
-	-	-	10028	2	完形	511.2	439.5	260.0	220.5	35.9	15.9	2.0	0.1	5600.0	-	Sa.	
						71.7		39.5		20.0		1.9		135.0			

※106点

表Ⅱ-29 ⅢP-06～08礫属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺構 名	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被熱	材質	備考
							長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
-	-	-	10229	ⅢP-06	1	完形	30.1	-15.7	21.3	-5.8	15.0	-5.4	1.4	-0.2	10.9	-	Gra.	
-	-	-	10297	ⅢP-06	1	完形	61.5	15.7	32.9	5.8	25.7	5.3	1.9	0.3	64.2	-	Sa.	
							45.8		27.1		20.4				37.6			
-	-	-	10310	ⅢP-07	1	完形	57.6	-2.7	36.7	-3.5	15.2	-4.3	1.6	0.0	35.8	-	Sa.	
-	-	-	10311	ⅢP-07	1	完形	58.1	-2.2	46.5	6.3	16.2	-3.3	1.2	-0.4	66.1	-	Sa.	
-	-	-	10313	ⅢP-07	1	完形	58.3	-2.0	47.1	6.9	18.2	-1.3	1.2	-0.4	72.0	-	Sa.	
-	-	-	10304	ⅢP-07	1	完形	59.8	-0.5	40.2	0.0	19.5	0.0	1.5	-0.1	53.7	-	Sa.	
-	-	-	10307	ⅢP-07	1	完形	59.9	-0.4	25.0	-15.2	23.7	4.2	2.4	0.8	46.0	-	Sa.	
-	-	-	10305	ⅢP-07	1	完形	60.7	0.4	36.2	-4.0	18.1	-1.4	1.7	0.1	46.4	-	Sa.	
-	-	-	10309	ⅢP-07	1	完形	61.6	1.3	47.0	6.8	15.4	-4.1	1.3	-0.3	55.5	-	Sa.	
-	-	-	10306	ⅢP-07	1	完形	66.5	6.2	42.8	2.6	30.0	10.5	1.6	0.0	94.4	-	Sa.	
							60.3		40.2		19.5				58.7			
※ 8点																		
-	-	-	12933	ⅢP-08	1	略完形	46.2	-14.3	35.4	-1.7	28.8	8.0	1.3	-0.3	(34.3)	-	Mud.	
-	-	-	12931	ⅢP-08	1	完形	74.7	14.2	38.7	1.6	12.8	-8.0	1.9	0.3	55.0	-	Sa.	
							60.5		37.1		20.8				44.7			

ⅢH-02 関連遺構

遺物集中2〔ⅢB-02〕(図Ⅱ-24・25 図版14・15 44-2)

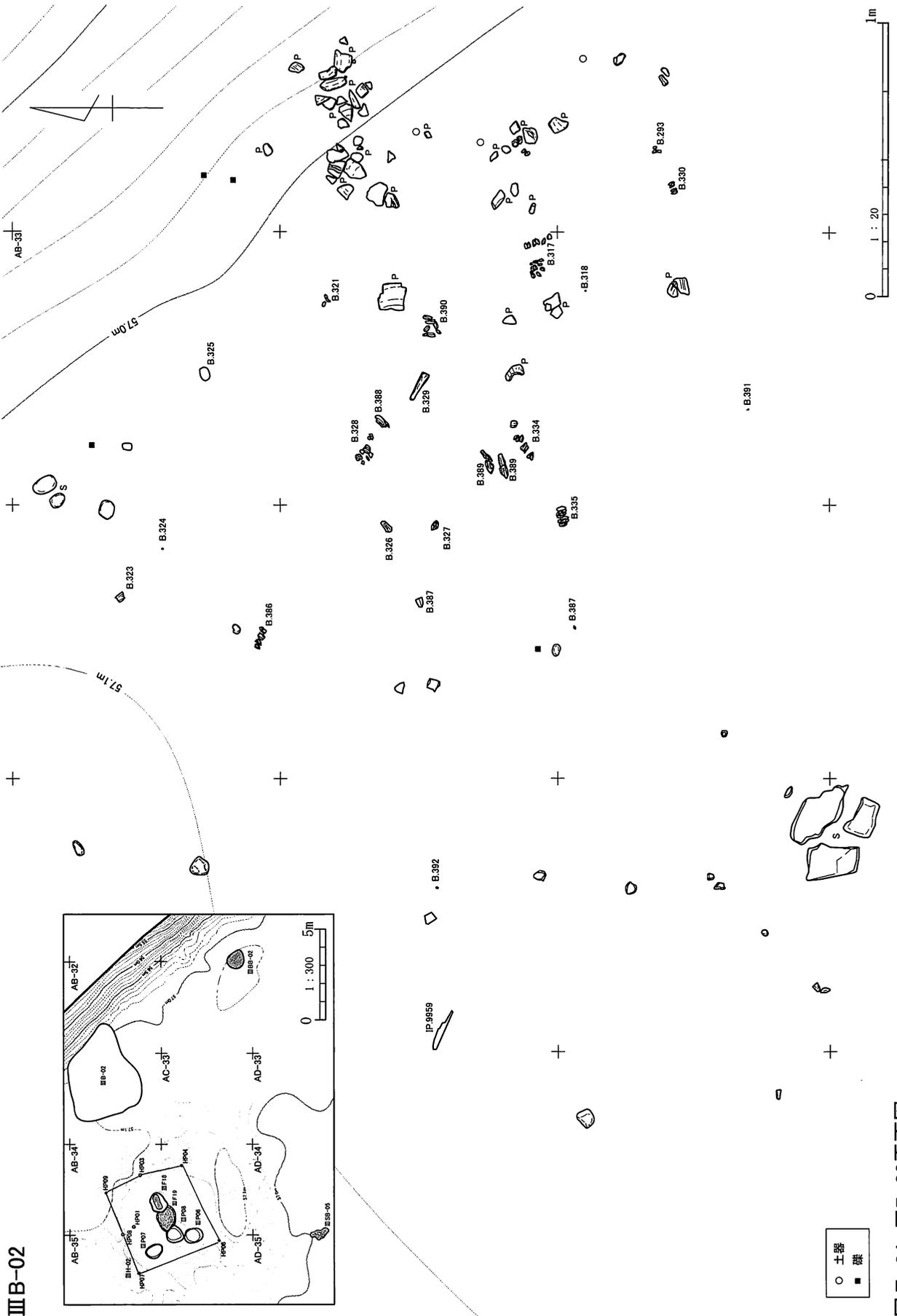
位置：AB-32・33区 検出層位：Ⅲb層下位 規模：405×270cm

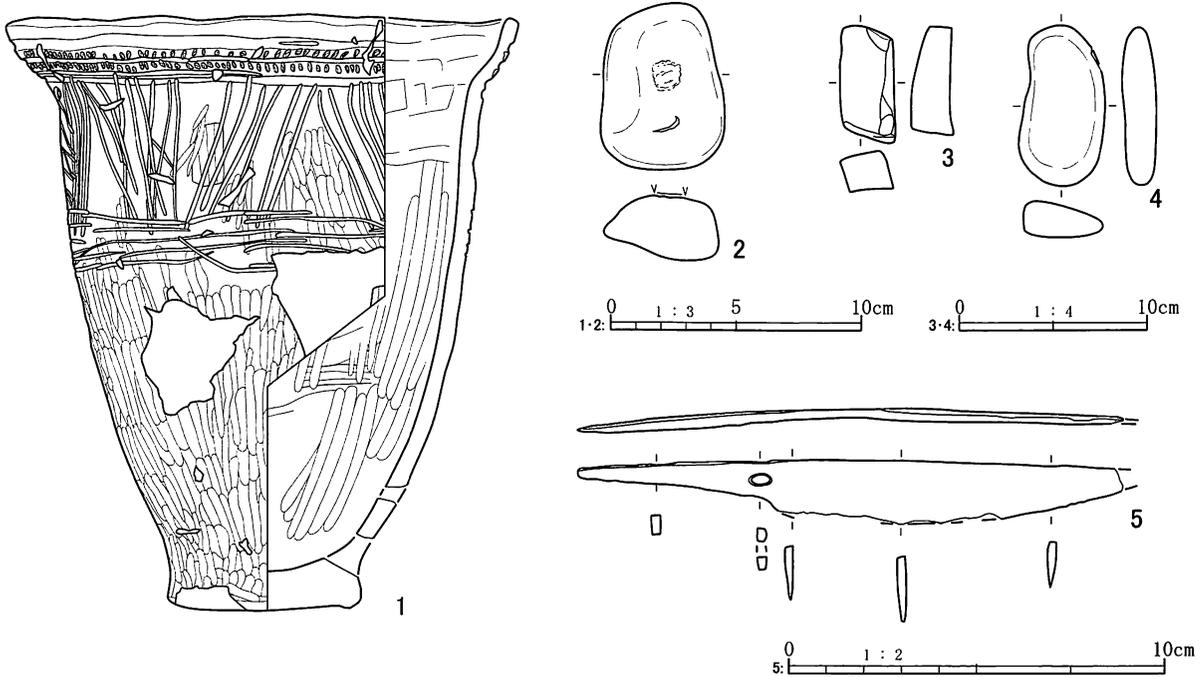
主要遺物：一括土器、礫石器、刀子

立地：調査区東側の台地縁辺部に位置し、小流路に隣接している。

**確認・調査** ⅢH-02の北東側5mの台地縁辺部で、Ⅲb層掘り下げ中に土器片が複数出土した。遺物の広がりを確認するために斜面と直交する方向にベルトを残し、周辺の掘り下げを行った。最初に検出した土器は1個体がⅢb層下位で面的に広がり、周辺の同一層位でシカの歯列が出土した。遺物集中を想定し範囲を確認するため更に周辺の精査を行ったところシカの歯は散在し、礫やたたき石、小刀も出土した。掘り込みをもつ遺構などは確認されなかったため、設定したベルトは除去し、遺物全体の出土状況の写真撮影後、遺物を取り上げて調査を終了した。

**出土遺物** (図Ⅱ-25) 1はⅦ群B3類に属し、胴部の一部を欠くほぼ完形の甕形土器である。口縁部は緩やかに開き僅かな立ち上がりをもつ。口縁部には刻みが2段施される。胴部文様帯には2条と5条の不連続な横走沈線で区画した間に6～8本単位の大柄な鋸歯状文が施されている。沈線は直線状ではなく非常に粗雑である。図示していないが胴部横走沈線文の下に鋸歯状文が部分的に施されている。2はたたき石で中央部に敲打痕が見られる。3・4は砂岩の棒状礫である。5は区が不明瞭な刀子で、茎断面形は長方形で目釘穴が1ヶ所ある。刃部の一部と切先が欠損し、刀身が僅かに湾曲するが意図的な加工ではないと考えられる。(荻野)





図II-25 III B-02出土遺物

表II-30 III B-02属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			備考
						長軸	短軸	厚さ	
II-24	15-1	III B-02	AB-32・33	III bL	楕円形	405	270	-	

表II-31 III B-02出土土器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点数	器種	部位	器面調整		文様	備考
									外側	内側		
									口縁/頸部/ 胴部/底側面	口縁/頸部/ 胴部	口縁部/ 文様帯	
II-25-1	44-2-1	SP005A	VII B3	AB-32 AB-33	III bL	34 12	甕	完形	ミガキ	ミガキ	横走沈線文・刻 み/鋸歯状沈線 文・横走沈線文	

表II-32 III B-02出土遺物属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	グリッド	計測値(cm)			重量(g)	材質	備考
								長軸	短軸	厚さ			
II-25-2	44-2-2	-	9303	たたき石	II A3	III bL	AB-32	6.9	4.9	2.3	106.0	Sa.	
II-25-5	44-2-3	-	9959	刀子	-	III bL	AB-33	(14.6)	(1.6)	-	(18.5)	Fe.	目釘穴有り

表Ⅱ-33 ⅢB-02出土礫属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被熱	材質	備考
						長軸	標準偏 差	短軸	標準偏 差	厚さ	標準偏 差						
-		-	9325	ⅢbL	完形	31.7	-23.5	22.5	-15.7	13.4	-8.0	1.4	-0.1	8.7	-	Mud.	
-		-	9386	ⅢbL	完形	32.4	-22.8	18.0	-20.2	16.6	-4.8	1.8	0.3	11.6	-	Qu.	
-		-	9393	ⅢbL	略完形	35.8	-19.4	32.1	-6.1	17.1	-4.3	1.1	-0.4	(16.9)	-	Sa.	
-		-	9312	ⅢbL	完形	37.4	-17.8	32.9	-5.3	7.3	-14.1	1.1	-0.4	13.9	-	Sa.	
-		-	9317	ⅢbL	完形	39.6	-15.6	32.7	-5.5	14.2	-7.2	1.2	-0.3	23.2	-	Sa.	
-		S028	9304 9305	ⅢbL	完形	41.9	-13.3	24.3	-13.9	14.4	-7.0	1.7	0.2	15.0	-	Mud.	
-		-	9321	ⅢbL	完形	43.1	-12.1	31.4	-6.8	22.9	1.5	1.4	-0.1	30.3	-	Sa.	
-		-	9308	ⅢbL	完形	44.0	-11.2	32.7	-5.5	23.6	2.2	1.3	-0.2	32.9	-	Gra.	
Ⅱ-25-3	44-2	-	9307	ⅢbL	完形	57.8	2.6	23.3	-14.9	23.2	1.8	2.5	1.0	44.3	-	Sa.	
-		-	9382	ⅢbL	完形	57.8	2.6	43.5	5.3	20.4	-1.0	1.3	-0.2	62.3	-	Mud.	
-		-	9323	ⅢbL	完形	58.3	3.1	43.8	5.6	23.8	2.4	1.3	-0.2	80.0	-	Sa.	
-		-	9384	ⅢbL	完形	64.1	8.9	29.3	-8.9	10.1	-11.3	2.2	0.7	30.5	-	Sa.	
-		-	9381	ⅢbL	完形	66.8	11.6	55.0	16.8	25.5	4.1	1.2	-0.3	77.0	-	Mud.	
-		-	9319	ⅢbL	完形	67.0	11.8	55.0	16.8	50.0	28.6	1.2	-0.3	24.3	-	Gra.	
-		-	9383	ⅢbL	完形	67.4	12.2	52.0	13.8	11.4	-10.0	1.3	-0.2	51.0	-	Sa.	
-		-	9322	ⅢbL	完形	79.0	23.8	48.0	9.8	30.0	8.6	1.6	0.1	111.0	-	Sa.	
Ⅱ-25-4		-	9395	ⅢbL	完形	83.5	28.3	42.4	4.2	19.3	-2.1	2.0	0.5	92.7	-	Sa.	
-		-	9324	ⅢbL	完形	85.9	30.7	68.9	30.7	42.5	21.1	1.2	-0.3	410.0	-	Sa.	
						55.2		38.2		21.4				63.1			

※18点

## 礫集中5〔ⅢSB-05〕(図Ⅱ-26 図版14 44-3)

位置：AD-34・35区 規模：115×52cmの不整形を呈する。

立地：段丘中央部の平坦面に位置する。

ⅢSB-05はⅢH-02の南側約6mに位置する。完形・略完形の礫が37点出土した。大半が泥岩の棒状礫で、平均値は長軸53.4mm、短軸24.1mm、厚さ12.5mmである。ⅢH-02出土礫と比較してやや小型である。

出土遺物(図Ⅱ-28)1はⅦ群B3類の口縁部片で、口唇部は尖状。文様は浅い沈線文を施し、その下位に縦位または斜位に細い沈線文が施されている。2～14は棒状礫で、石材は泥岩が殆どである。(荻野)

## 獣骨集中2〔ⅢBB-02〕(図Ⅱ-27)

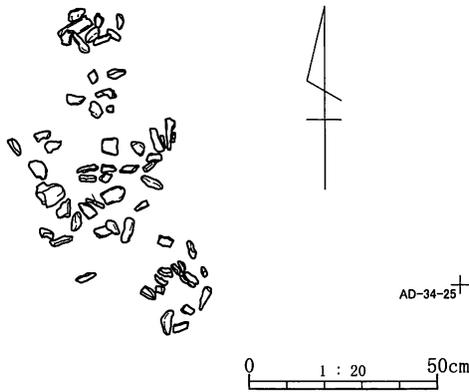
位置：AC-31・32区 検出層位：Ⅲb層下位 規模：110×90cm

立地：調査区東側の台地縁辺部に位置し、湧水地点に隣接している。

確認・調査 Ⅲb層中位を調査中に焼骨片の広がりを検出した。範囲を確認するために周辺を掘り下げたが、ベルトを設定していなかったためにⅢb層の被覆層厚を記録することができなかった。

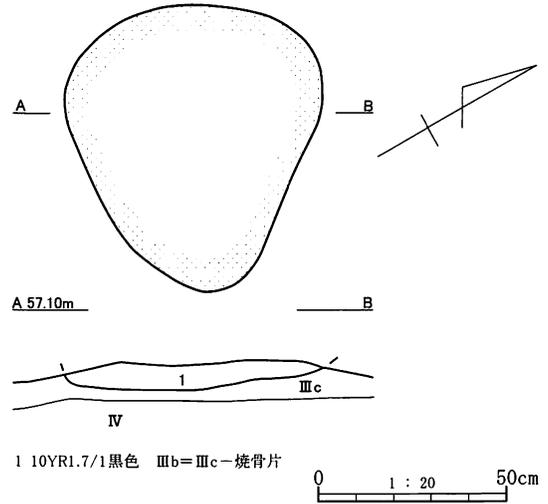
出土遺物 フローテーションサンプルから哺乳網の微細片11点を検出したが、種の同定には至っていない。(第Ⅵ章第2節)。(荻野)

III SB-05

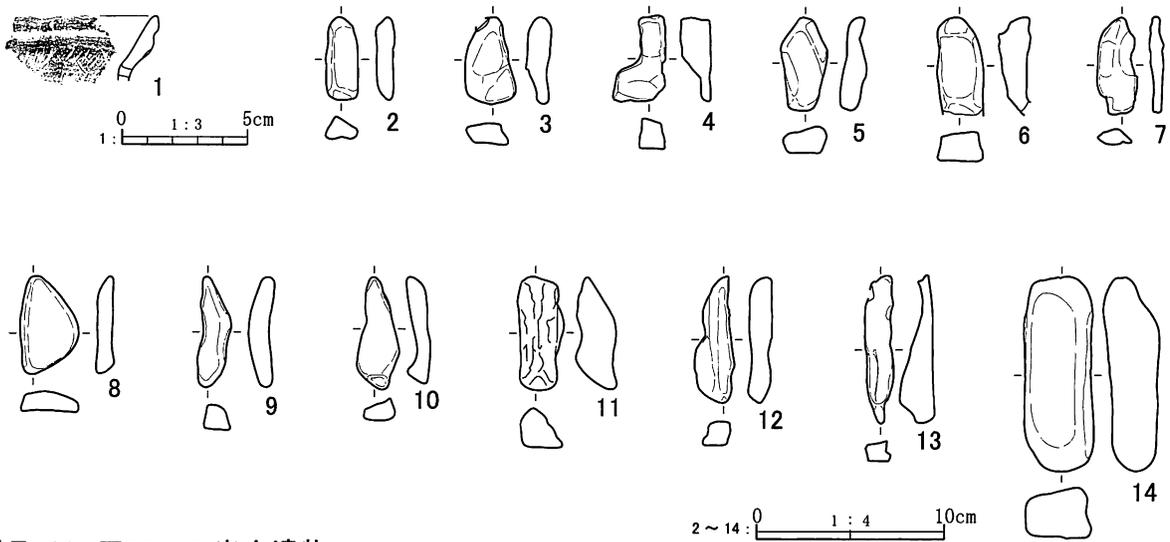


図II-26 III SB-05平面図

III BB-02



図II-27 III BB-02平面及び断面図



図II-28 III SB-05 出土遺物

表II-34 III SB-05・III BB-02属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			備考
						長軸	短軸	厚さ	
II-26	14-2	III SB-05	AD-34・35	III bL	楕円形	115	52	-	
II-27	-	III BB-02	AC-31・32	III bL	楕円形	110	90	9	

表II-35 III SB-05出土土器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺構名/グリッド	層位	点数	器種	部位	器面調整		文様	備考
									外側	内側		
									口縁/頸部/胴部/底側面	口縁/頸部/胴部	口縁部/文様帯	
II-28-1	44-3-1	SP023A	VII B3	AD-35	III bL	2	甕	口縁部	ミガキ	ミガキ	沈線文	

表 II-36 III SB-05出土礫属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被熱	材質	備考
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
-	-	-	9870	III bL	完形	38.3	-15.1	28.4	4.3	8.7	-3.8	1.3	-1.1	10.0	-	Mud.	
-	-	-	9912	III bL	完形	40.2	-13.2	18.5	-5.6	7.4	-5.1	2.2	-0.2	8.5	-	Sa.	
-	-	-	9875	III bL	完形	41.2	-12.2	17.7	-6.4	12.0	-0.5	2.3	-0.1	14.0	-	Mud.	
-	-	-	9869	III bL	完形	41.6	-11.8	19.6	-4.5	10.2	-2.3	2.1	-0.3	8.5	-	Mud.	
-	-	-	9886	III bL	完形	41.8	-11.6	23.7	-0.4	6.8	-5.7	1.8	-0.6	8.0	-	Mud.	
-	-	-	9905	III bL	完形	42.0	-11.4	20.2	-3.9	8.9	-3.6	2.1	-0.3	6.0	-	Mud.	
II-28-2	-	-	9908	III bL	完形	42.1	-11.3	15.5	-8.6	12.0	-0.5	2.7	0.3	9.2	-	Mud.	
II-28-3	-	-	9914	III bL	完形	44.6	-8.8	25.0	0.9	10.5	-2.0	1.8	-0.6	12.5	-	Mud.	
-	-	-	9891	III bL	完形	44.8	-8.6	27.8	3.7	12.3	-0.2	1.6	-0.8	13.0	-	Mud.	
-	-	-	9879	III bL	完形	45.2	-8.2	19.4	-4.7	16.9	4.4	2.3	-0.1	17.0	-	Mud.	
II-28-4	-	-	9917	III bL	完形	45.5	-7.9	24.3	0.2	15.3	2.8	1.9	-0.5	13.0	-	Mud.	
-	-	-	9900	III bL	完形	45.6	-7.8	22.8	-1.3	7.7	-4.8	2.0	-0.4	7.5	-	Mud.	
-	-	-	9874	III bL	完形	48.3	-5.1	18.6	-5.5	14.2	1.7	2.6	0.2	9.5	-	Mud.	
II-28-5	-	-	9918	III bL	完形	48.6	-4.8	23.8	-0.3	24.0	11.5	2.0	-0.4	13.7	-	Mud.	
II-28-6	-	-	9887	III bL	完形	49.6	-3.8	23.2	-0.9	14.6	2.1	2.1	-0.3	19.6	-	Mud.	
II-28-7	-	-	9907	III bL	完形	49.9	-3.5	19.7	-4.4	8.2	-4.3	2.5	0.1	7.4	-	Mud.	
-	-	-	9901	III bL	完形	50.1	-3.3	26.8	2.7	11.6	-0.9	1.9	-0.5	12.0	-	Mud.	
-	-	S044	9881	III bL	完形	50.6	-2.8	20.0	-4.1	23.7	11.2	2.5	0.1	28.5	-	Mud.	
II-28-8	-	-	9882	III bL	完形	50.6	-2.8	20.0	-4.1	23.7	11.2	2.5	0.1	28.5	-	Mud.	
-	-	-	9902	III bL	完形	50.7	-2.7	30.0	5.9	9.5	-3.0	1.7	-0.7	14.6	-	Mud.	
-	-	-	9925	III bL	完形	50.8	-2.6	33.6	9.5	2.4	-10.1	1.5	-0.9	34.0	-	Mud.	
-	-	-	9915	III bL	完形	52.3	-1.1	32.0	7.9	12.4	-0.1	1.6	-0.8	20.0	-	Mud.	
-	-	-	9876	III bL	完形	53.4	0.0	23.7	-0.4	7.0	-5.5	2.3	-0.1	8.0	-	Mud.	
-	-	-	9889	III bL	完形	54.8	1.4	27.9	3.8	16.8	4.3	2.0	-0.4	19.0	-	Mud.	
-	-	-	9904	III bL	完形	55.4	2.0	22.3	-1.8	11.9	-0.6	2.5	0.1	12.0	-	Mud.	
-	-	-	9920	III bL	完形	56.2	2.8	18.1	-6.0	11.7	-0.8	3.1	0.7	11.0	-	Mud.	
-	-	-	9921	III bL	完形	56.3	2.9	20.3	-3.8	11.1	-1.4	2.8	0.4	11.0	-	Mud.	
II-28-9	-	-	9895	III bL	完形	58.2	4.8	17.6	-6.5	10.4	-2.1	3.3	0.9	10.4	-	Mud.	
II-28-10	-	-	9871	III bL	完形	58.7	5.3	21.4	-2.7	13.3	0.8	2.7	0.3	15.2	-	Mud.	
-	-	-	9868	III bL	完形	59.7	6.3	24.8	0.7	17.9	5.4	2.4	0.0	28.0	-	Mud.	
-	-	-	9911	III bL	完形	59.7	6.3	24.6	0.5	13.7	1.2	2.4	0.0	18.5	-	Mud.	
-	-	-	9910	III bL	完形	60.3	6.9	44.3	20.2	13.8	1.3	1.4	-1.0	50.0	-	Sa.	
-	-	-	9890	III bL	完形	60.5	7.1	35.4	11.3	8.3	-4.2	1.7	-0.7	14.0	-	Mud.	
II-28-11	-	-	9884	III bL	完形	60.7	7.3	27.2	3.1	16.3	3.8	2.2	-0.2	25.5	-	Mud.	
II-28-12	-	-	9926	III bL	完形	66.1	12.7	21.9	-2.2	13.1	0.6	3.0	0.6	14.6	-	Mud.	
-	-	-	9899	III bL	完形	69.8	16.4	22.2	-1.9	21.1	8.6	3.1	0.7	30.5	-	Mud.	
II-28-13	-	S045	9896	III bL	略完形	78.1	24.7	10.8	-13.3	1.4	-11.1	7.2	4.8	(15.2)	-	Mud.	
II-28-14	-	-	9897	III bL	完形	78.1	24.7	10.8	-13.3	1.4	-11.1	7.2	4.8	(15.2)	-	Mud.	
-	-	-	9898	III bL	完形	78.1	24.7	10.8	-13.3	1.4	-11.1	7.2	4.8	(15.2)	-	Mud.	
-	-	-	9928	III bL	完形	103.7	50.3	38.3	14.2	26.7	14.2	2.7	0.3	157.2	-	Sa.	
						53.4	24.1			12.5			19.6				

※37点

表 II-37 III BB-02出土礫属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被熱	材質	備考
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
-	-	-	9865	2	完形	54.0	-3.0	39.0	-7.0	32.0	5.5	1.4	0.1	95.4	-	Sa.	
-	-	-	9866	1	完形	60.0	3.0	53.0	7.0	21.0	-5.5	1.1	-0.2	94.6	○	Sa.	
						57.0	46.0			26.5			95.0				

※2点

## 第2節 集中区

集中区1(図II-29・30 図版16・45・46)

位置：Y-40・41・Z-41区 規模：870×870cm

関連遺構：土坑：ⅢP-01 焼土：ⅢF-08 土器集中：ⅢPB-06 礫集中：ⅢSB-03

**確認・調査** Y-40・41区のⅢb層下位を調査中、多数の棒状礫が密度高く出土したため、これをⅢSB-03として設定した。続いて周囲を精査しⅢP-01とⅢF-08、南西側Z-41区でⅢPB-06を検出した。集中区の主体となる遺物密度の高い地点は標高56.8～56.9mの平坦面である。焼土や礫集中の組み合わせから住居跡であることも想定し、十字にトレンチを入れ堆積状態を確認したが掘り込みは確認できなかった。また遺物取り上げ後にはジョレンによる柱穴の検出精査を実施したが、確認することができなかったため、住居跡ではないと判断し調査を終了した。但し、これらの遺構は検出層位や位置関係より同時期のものであると考え、整理業務にて集中区1とした。集中区1を構成する遺構は土坑、焼土、土器集中、礫集中で、2軒の住居跡の関連遺構と共通している。一方で上記の遺構以外に獣骨集中あるいは遺物集中が関連遺構として挙げられ、特に獣骨集中を伴うことが本遺跡の住居跡の特徴となっている。しかし、集中区1に伴う獣骨集中はなく住居跡との差異が見られる。

**土坑**(図II-29) ⅢP-01は焼土に隣接し埋土に炭化物・焼土粒を含む土坑である。埋土に壁面の崩落土を含まないこと、坑底面や壁面に被熱の痕跡がないことから、土坑内の埋土は掻き出した灰の埋土で、土坑構築後短期間で埋め戻されたと考えられる。同様の堆積過程はⅢH-01傍のⅢP-02でも確認された。フローテーションの結果では、部位不明の魚骨、哺乳綱の焼骨片、キハダ属の果実片、石英のフレイク・チップが得られている。

**焼土**(図II-29) ⅢF-08被熱層は若干窪んでおり、灰の掻き出しが行われている。焼土のすぐ西側には土坑が位置しており、焼土粒や炭化物を多量に含む埋土が検出されたので、両者はセット関係をなすものと考えられる。このようなセット関係は上幌内モイ遺跡での一連の調査で指摘されており、焼土で掻き出した灰を土坑に廃棄する行動が想定されている。今回の調査ではこの考えを追認することができた。灰層が検出されているものの、土壌化が進んでいる点から比較的古いものであり、擦文文化期に属するものと考えている。フローテーションの結果、オオムギ、キハダ属の果実・種子片、モクレン科の炭化種子が得られている。

**ⅢPB-04・06**(図II-29～31) ⅢSB-03の南西側3m地点に比較的大きな破片で土器片が散在している。同一レベルで検出しているため関連する遺構として集中区1で掲載する。本集中の中からは2個体の擦文土器が復元され、うち1個体の破片はすべて集中区内から出土したもので(図II-31-1)、もう1個体については口縁部片2点が約20m南側に検出したⅢPB-04と接合したため本節で掲載する(図II-30・31)。

**出土遺物** 1は口縁部から底部まで接合復元できた資料である。底部側面が張り出し、底面がやや凸状に不安定な形態となっている。胴部へは膨らみをもって立ち上がり、胴部上半から頸部変換点へ緩く内湾する。頸部は明瞭に屈曲し、口縁部は直線的に外反し、口唇部直下でやや内湾気味に立ち上がる。口唇部は隅丸角状で、口縁部は深い平行沈線文を施し、棒状工具を押し当てた刻みが3～4段認められる。刻みの幅や大きさが不均一で粗雑な印象を受ける。胴部文様帯は「く」字状に沈線文を施した後、変換点に横走沈線文、下位に不連続の横走沈線文がみられる。その後、「く」

字状と逆方向の沈線文を施し、「X」字状のモチーフになる。器内外面ともに入念なミガキ調整が施されている。2～4は同一個体片で2の口縁部直下はナデ調整で、頸部変換点に矢羽根状文、胴部文様帯には3の資料に見られるように縦位の沈線文とその側縁に連続した刻みが施される。5は甕底部で、変換点にあまり括れは認められない。6はⅢPB-04に主体がある復元個体である。口唇部は角状、口縁部は比較的直線的に開き、胴部も張り出しは見られない器形である。口縁部は刻みを矢羽根状に配し、胴部文様帯は複段構成で、横走沈線文の区画帯内に2～3条1対の縦位もしくは斜位の沈線文を充填している。

ⅢSB-03(図Ⅱ-32-33) 棒状礫と大型の不定形礫とで構成される。棒状礫が集中する地点から約80cm離れて大型の礫が位置する。

**出土遺物** 1は鼠歯状痕のある泥岩棒状礫である。礫の表面に細かな線条痕が密集している。2は線条痕のある棒状礫で、先端付近に幅1mm未満、長さ約2～3mmの条痕が確認される。2は棒状の形態を呈する点と大きさの点に関して、他の礫と酷似している。(松井)

表Ⅱ-38 集中区1土坑属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形 調査面 /坑底面	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ (cm)	長軸 方向	調査 面長 短比	坑底 面長 短比	出土 遺物	備考
						長軸	短軸	長軸	短軸						
Ⅱ-29	16-3	ⅢP-01	Y-40	ⅢbL	楕円形	68	54	48	43	14	N-27° E	1.3	1.1	-	

表Ⅱ-39 集中区1焼土属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模 (cm)			灰・ 骨片	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅱ-29	16-1・2	ⅢF-08	Y-40	ⅢbL	楕円形	95	62	7	灰・ 骨片	

表Ⅱ-40 ⅢPB-06・ⅢSB-03属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模 (cm)			備考
						長軸	短軸	厚さ	
Ⅱ-29・30	16-5	ⅢPB-06	Y・Z-41	ⅢbL	不整形	200	160	-	
Ⅱ-32	16-4	ⅢSB-03	Y-40	ⅢbL	楕円形	287	159	-	

集中区1

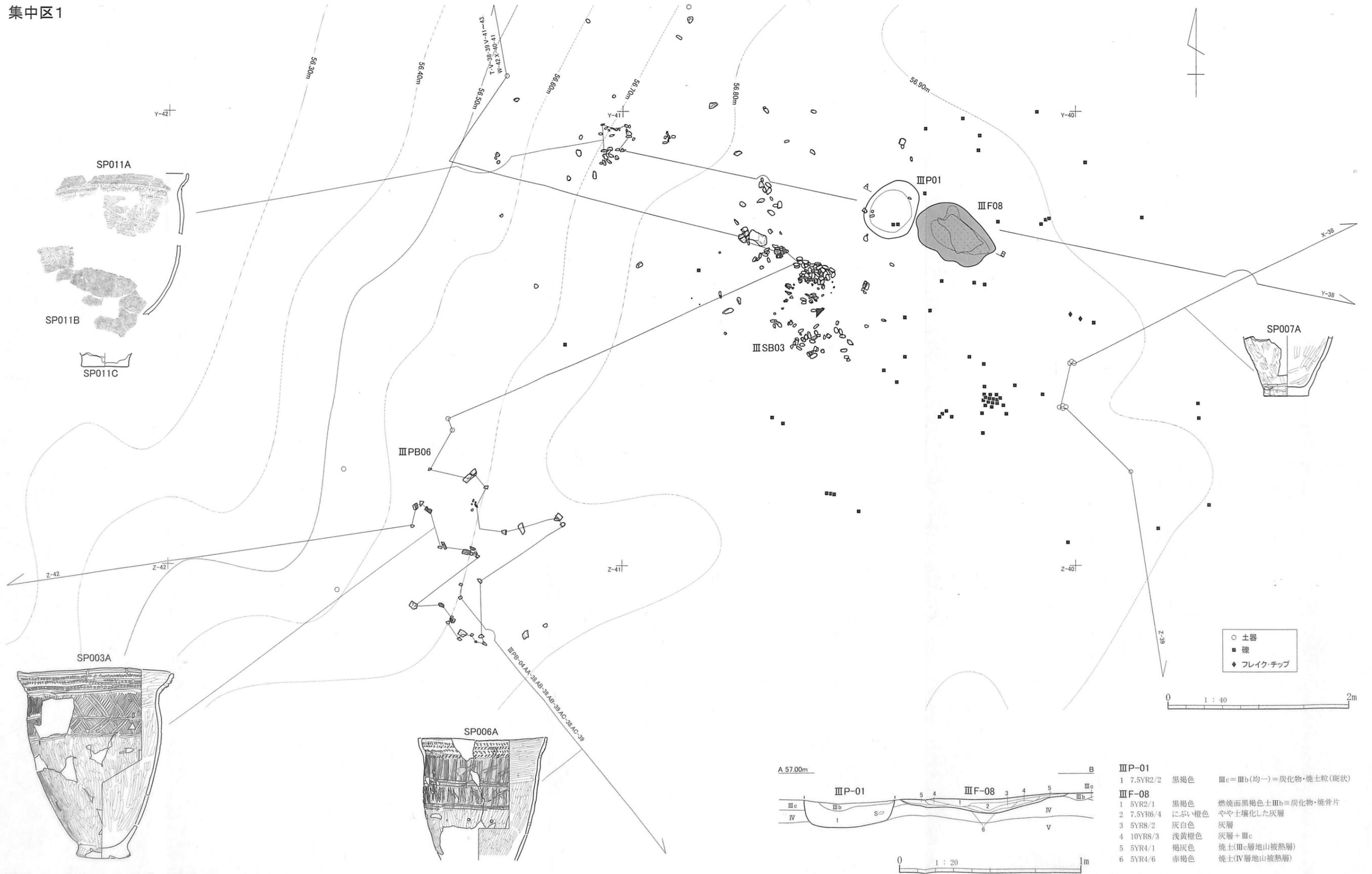
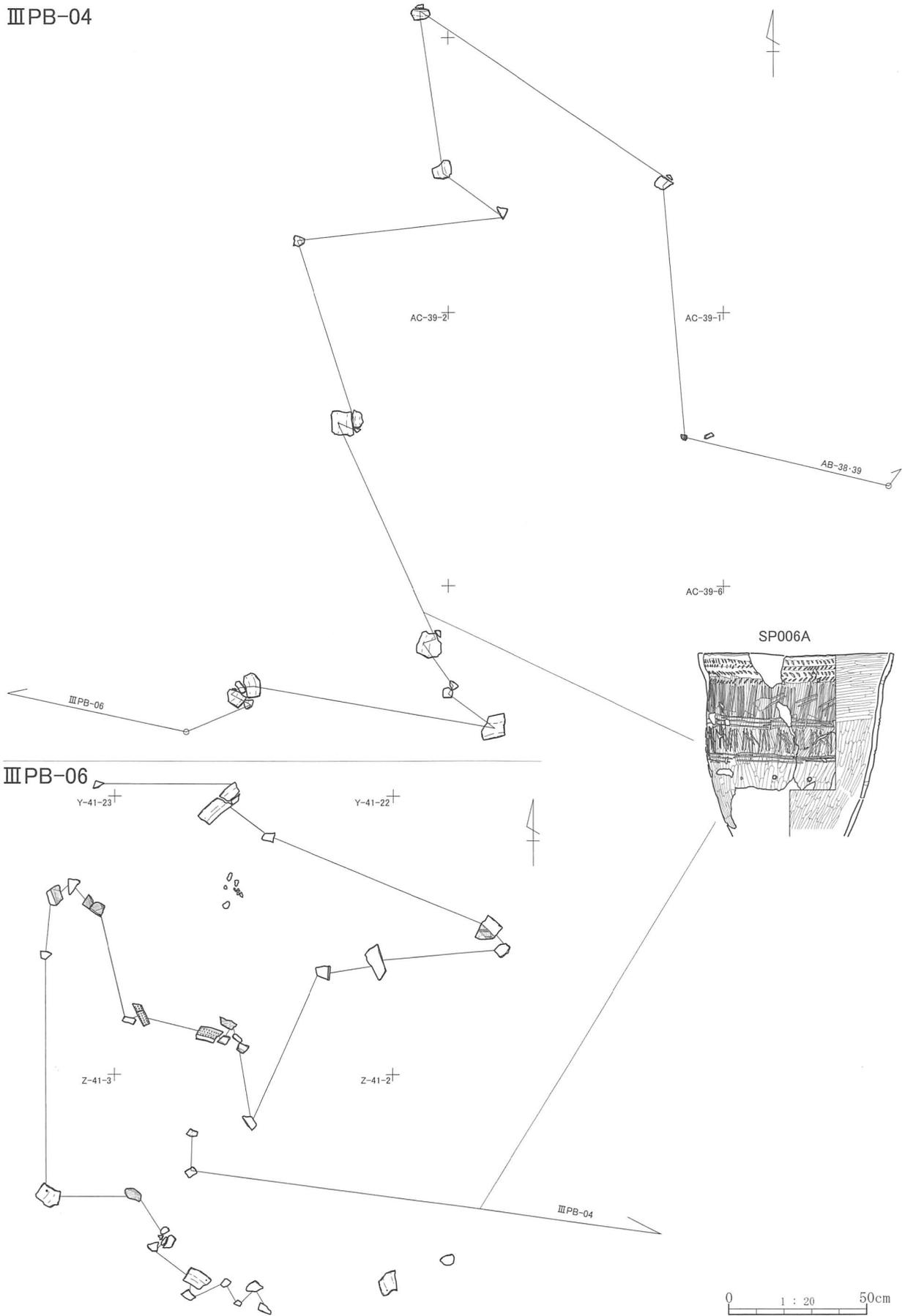


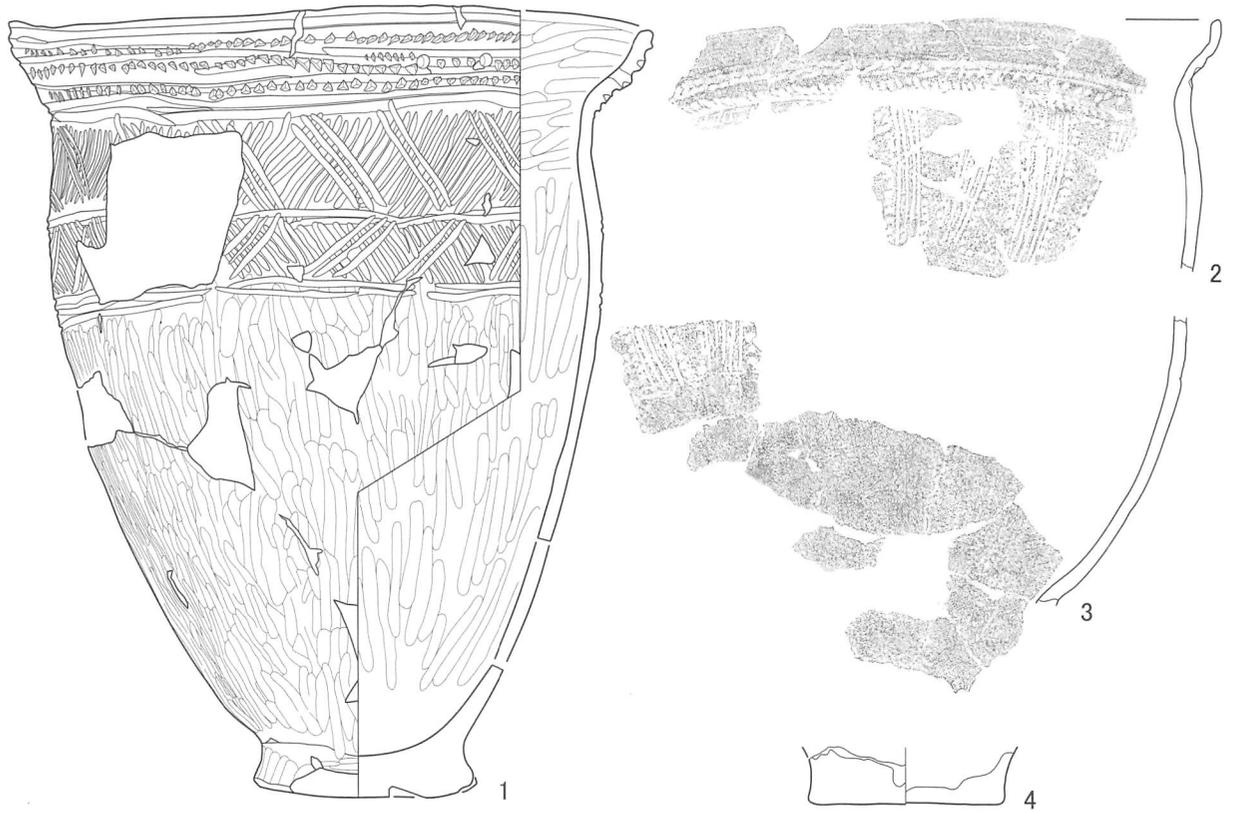
図 II-29 集中区1平面及び断面図・土器接合線図

ⅢPB-04

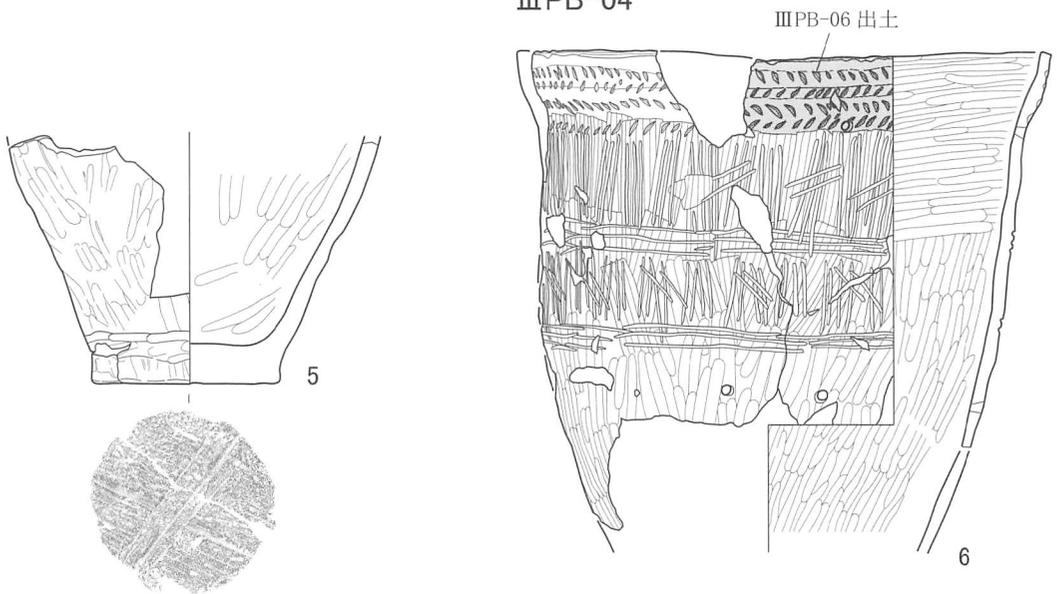


図Ⅱ-30 ⅢPB-04・06 平面及び接合関係図

ⅢPB-06



ⅢPB-04



0 1 3 5 10cm

図Ⅱ-31 集中区1出土土器

表II-41 集中区1出土土器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点数	器 種	部位	器面調整		文 様	備 考
									外側	内側		
									口縁/頸部 /胴部/底側面	口縁/頸部 / 胴部	口縁部/ 文様帯	
II-31-1	45-1-1	SP003A	VII B3	III SB-03	III bL	13	甕	口縁～ 底部	ミガキ	ミガキ	刻み/矢羽根状 文/沈線文	
				III PB-06	III bL III bM	40						
				V-41	III bM	1						
				V-42	III bM	4						
				W-42	III bM	2						
				X-40	III bM	1						
				X-41	III bL III bM	5						
				Y-41	III bL	1						
				Y-42	III bL	1						
Z-42	III bL	1										
II-31-2	45-1-2	SP011A	VII B3	III SB-03	III bL	12	甕	口縁～ 底部	ミガキ	ミガキ	矢羽根状文/ 沈線文・刻み	
				III PB-08	III bM	1						
				Y-37	III bM	4						
II-31-3	45-1-3	SP011B	VII B3	III PB-03	III bM	9	甕	胴部	ミガキ	ミガキ	沈線文・刻み	
				III PB-08	III bM	1						
II-31-4	45-1-4	SP011C	VII B3	III PB-08	III bM	5	甕	底部	ミガキ	ミガキ	—	
II-31-5	45-1-5	SP007A	VII B3	III SB-03	III bL	8	甕	胴部～ 底部	ミガキ	ミガキ	—	
				X-38	III bM	4						
				Y-39	III bM	1						
				Z-39	III c	1						
II-31-6	45-1-6	SP006A	VII B3	III PB-04	III bL	21	甕	口縁～ 胴部上半	ナデ/ハケメ /ミガキ	ミガキ/ミガキ	矢羽根状文/ 沈線文	内面黒色処理
				III PB-06	III bL	2						
				AA-38	III bL ～bM	11						
				AA-39	III bL ～bM	6						
				AB-38	III bM	4						
				AB-39	III bM	1						
				AC-39	III bL ～bM	3						

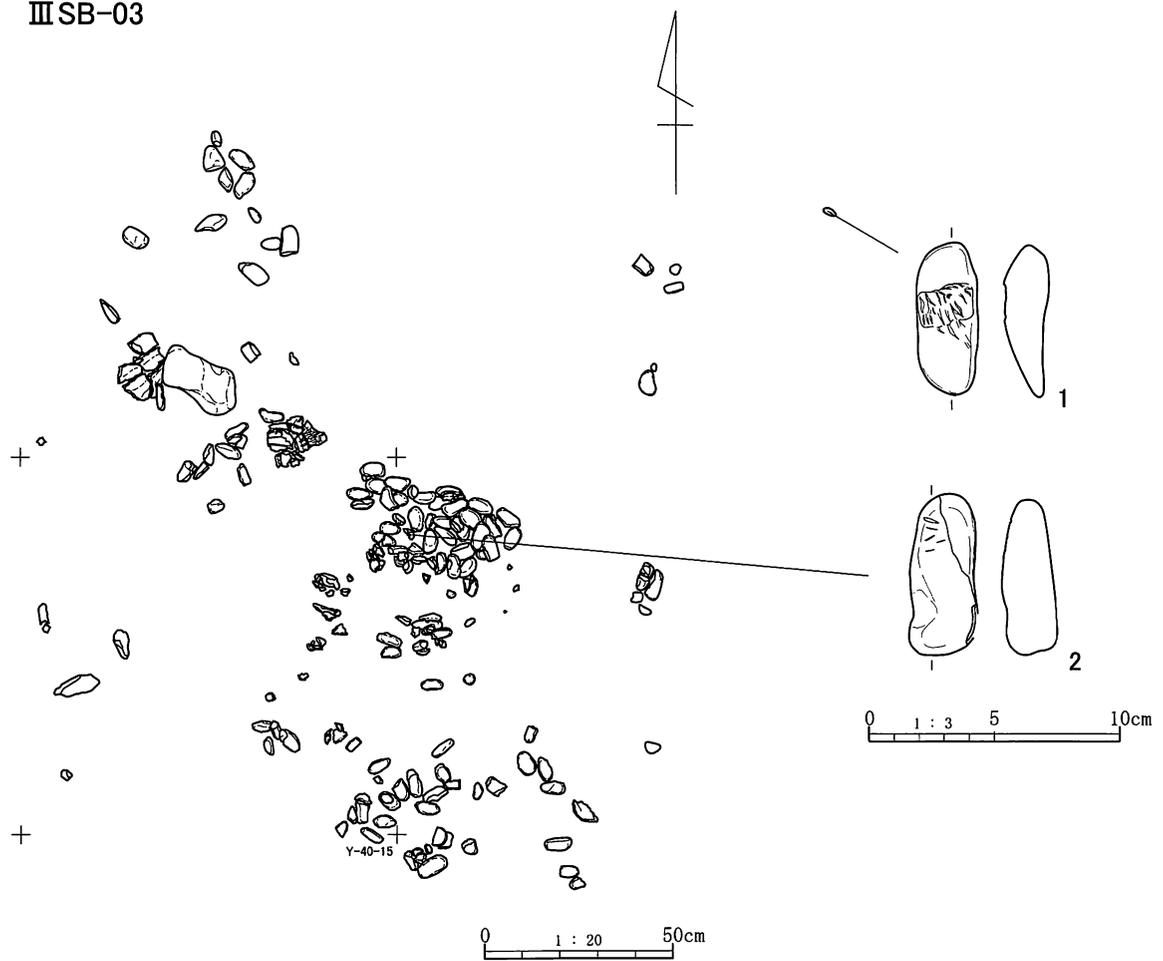
表II-42 III F-08 出土礫属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比 標準 偏差	重量(g)	被熱	材質	備 考
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差					
-	-	-	6317	1	略完形	72.2	-	31.0	-	26.9	-	-	(79.2)	-	Sa.	-

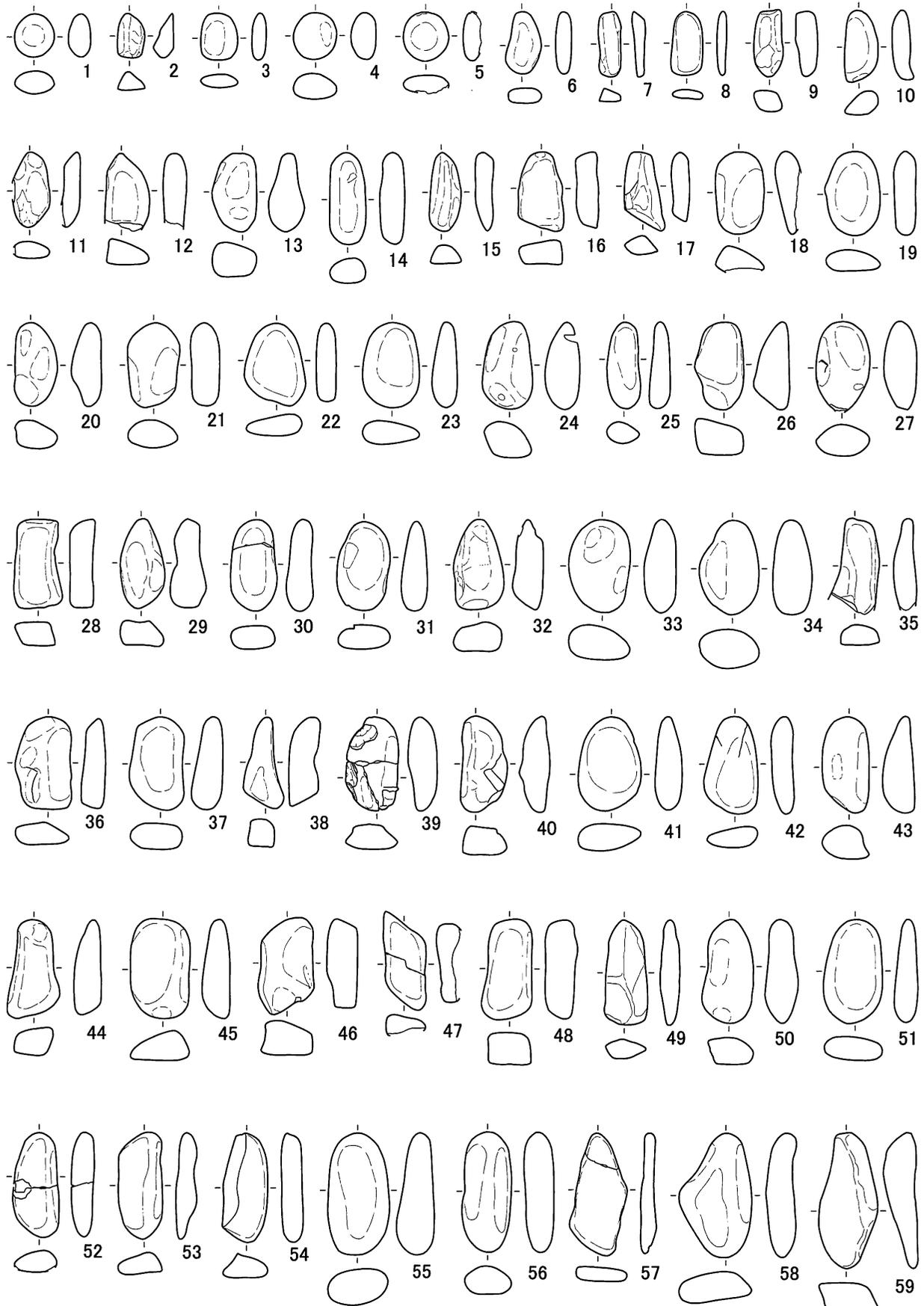
表II-43 III SB-03出土石器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	グリッド	計測値(mm)			重量 (g)	材質	備 考
								長軸	短軸	厚さ			
II-32-1	46-1-1	-	7375	鼠歯状痕のある礫	-	III bL	Y-40	60.5	24.8	18.3	18.7	Mud.	
II-32-2	46-1-2	ST027	7546	線条痕のある礫	-	III bL	Y-40	63.6	(25.4)	23.5	(51.6)	Mud.	
			7772										

ⅢSB-03



図Ⅱ-32 ⅢSB-03平面図及び出土礫石器



0 1 : 4 10cm

図II-33 III SB-03 出土礫

表Ⅱ-44 ⅢSB-03出土礫属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)					長短比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被熱	材質	備考	
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ							標準 偏差
-	-	-	7496	ⅢbL	完形	25.7	-34.3	14.0	-17.8	10.3	-8.5	1.8	-0.1	4.1	-	Sa.	
-	-	-	7767	ⅢbL	完形	28.4	-31.6	22.9	-8.9	10.7	-8.1	1.2	-0.7	8.1	-	Mud.	
Ⅱ-33-1	-	-	7494	ⅢbL	完形	29.5	-30.5	26.8	-5.0	16.6	-2.2	1.1	-0.8	15.3	-	Sa.	
-	-	-	7366	ⅢbL	完形	30.3	-29.7	23.2	-8.6	17.5	-1.3	1.3	-0.6	14.0	-	Sa.	
-	-	-	7356	ⅢbL	完形	30.7	-29.3	25.7	-6.1	18.5	-0.3	1.2	-0.7	18.2	-	Sa.	
Ⅱ-33-2	-	-	7316	ⅢbL	完形	31.4	-28.6	17.1	-14.7	15.9	-2.9	1.8	-0.1	7.6	-	Mud.	
Ⅱ-33-3	-	-	7318	ⅢbL	完形	32.0	-28.0	25.5	-6.3	10.4	-8.4	1.3	-0.6	11.2	-	Sa.	
Ⅱ-33-4	-	-	7762	ⅢbL	完形	32.4	-27.6	30.4	-1.4	18.3	-0.5	1.1	-0.8	23.3	-	Sa.	
Ⅱ-33-5	-	-	7373	ⅢbL	略完形	33.7	-26.3	30.9	-0.9	(13.1)	-31.9	1.1	-0.8	(17.2)	-	Sa.	
-	-	-	7402	ⅢbL	完形	35.5	-24.5	26.5	-5.3	18.4	-0.4	1.3	-0.6	23.0	-	Sa.	
-	-	-	7392	ⅢbL	完形	38.1	-21.9	22.1	-9.7	13.0	-5.8	1.7	-0.2	14.3	-	Mud.	
-	-	-	7766	ⅢbL	完形	39.6	-20.4	30.5	-1.3	19.2	0.4	1.3	-0.6	30.6	-	Sa.	
Ⅱ-33-6	-	-	7302	ⅢbL	完形	42.4	-17.6	23.2	-8.6	10.6	-8.2	1.8	-0.1	14.5	-	Sa.	
-	-	-	7355	ⅢbL	完形	43.0	-17.0	40.3	8.5	13.3	-5.5	1.1	-0.8	24.5	-	Sa.	
-	-	-	7565	ⅢbL	完形	44.1	-15.9	24.3	-7.5	17.5	-1.3	1.8	-0.1	21.5	-	Mud.	
-	-	-	7325	ⅢbL	完形	44.4	-15.6	24.3	-7.5	10.4	-8.4	1.8	-0.1	14.3	-	Sa.	
-	-	S224	7323 7329	ⅢbL	完形	44.6	-15.4	22.5	-9.3	13.4	-5.4	2.0	0.1	16.9	-	Sa.	
Ⅱ-33-7	-	-	7403	ⅢbL	完形	44.6	-15.4	15.8	-16.0	10.6	-8.2	2.8	0.9	7.4	○	Mud.	
Ⅱ-33-8	-	-	7381	ⅢbL	完形	44.7	-15.3	23.8	-8.0	6.7	-12.1	1.9	0.0	9.0	-	Mud.	
Ⅱ-33-9	-	-	7333	ⅢbL	完形	45.3	-14.7	18.8	-13.0	16.4	-2.4	2.4	0.5	18.6	-	Sa.	
-	-	-	7538	ⅢbL	完形	45.7	-14.3	23.0	-8.8	15.5	-3.3	2.0	0.1	21.4	-	Sa.	
-	-	-	7353	ⅢbL	完形	46.3	-13.7	21.7	-10.1	13.1	-5.7	2.1	0.2	17.5	-	Sa.	
-	-	-	7470	ⅢbL	完形	46.7	-13.3	31.4	-0.4	16.6	-2.2	1.5	-0.4	41.6	-	Sa.	
-	-	-	7331	ⅢbL	完形	48.5	-11.5	25.3	-6.5	13.4	-5.4	1.9	0.0	18.7	-	Sa.	
-	-	-	7564	ⅢbL	完形	49.0	-11.0	20.1	-11.7	14.4	-4.4	2.4	0.5	16.8	-	Mud.	
Ⅱ-33-10	-	-	7327	ⅢbL	完形	49.1	-10.9	24.7	-7.1	15.0	-3.8	2.0	0.1	21.0	-	Sh.	
-	-	-	7464	ⅢbL	完形	49.6	-10.4	41.4	9.6	18.0	-0.8	1.2	-0.7	50.5	-	Sa.	
-	-	-	7561	ⅢbL	完形	50.0	-10.0	17.9	-13.9	16.0	-2.8	2.8	0.9	11.9	-	Mud.	
-	-	-	7370	ⅢbL	完形	50.4	-9.6	23.9	-7.9	10.8	-8.0	2.1	0.2	16.6	-	Sa.	
-	-	-	7335	ⅢbL	完形	51.0	-9.0	27.5	-4.3	13.3	-5.5	1.9	0.0	27.2	-	Sa.	
-	-	-	7341	ⅢbL	完形	51.6	-8.4	24.8	-7.0	15.3	-3.5	2.1	0.2	17.5	-	Mud.	
-	-	-	7376	ⅢbL	完形	51.6	-8.4	33.0	1.2	8.9	-9.9	1.6	-0.3	23.5	-	Mud.	
-	-	-	7336	ⅢbL	完形	52.2	-7.8	18.5	-13.3	11.8	-7.0	2.8	0.9	14.6	-	Sa.	
Ⅱ-33-11	-	-	7337	ⅢbL	略完形	52.7	-7.3	(24.9)	-56.7	12.4	-6.4	-2.1	-4.0	(16.5)	-	Sa.	
Ⅱ-33-12	-	-	7764	ⅢbL	略完形	(52.9)	(112.9)	30.2	-1.6	17.2	-1.6	-1.8	-3.7	(34.7)	-	Sa.	
Ⅱ-33-13	-	-	7536	ⅢbL	完形	53.1	-6.9	32.0	0.2	25.3	6.5	1.7	-0.2	51.7	-	Sa.	
-	-	-	7396	ⅢbL	完形	53.4	-6.6	28.5	-3.3	22.9	4.1	1.9	0.0	30.9	-	Mud.	
-	-	-	7334	ⅢbL	完形	53.7	-6.3	23.7	-8.1	13.9	-4.9	2.3	0.4	14.0	○	Mud.	
Ⅱ-33-14	-	-	7483	ⅢbL	完形	54.0	-6.0	26.3	-5.5	19.3	0.5	2.1	0.2	49.5	-	Sa.	
Ⅱ-33-15	-	-	7313	ⅢbL	完形	54.3	-5.7	20.7	-11.1	15.0	-3.8	2.6	0.7	20.4	-	Sa.	
-	-	-	7298	ⅢbL	完形	54.4	-5.6	44.8	13.0	19.5	0.7	1.2	-0.7	62.7	-	Qu.	
-	-	-	7344	ⅢbL	略完形	54.4	-5.6	34.2	2.4	16.8	-2.0	1.6	-0.3	(31.2)	-	Sa.	
-	-	-	7368	ⅢbL	完形	54.6	-5.4	30.7	-1.1	24.8	6.0	1.8	-0.1	44.3	-	Sa.	
Ⅱ-33-16	-	-	7497	ⅢbL	完形	54.9	-5.1	31.7	-0.1	17.0	-1.8	1.7	-0.2	43.6	-	Sa.	
-	-	-	7408	ⅢbL	略完形	(55.1)	-4.9	23.8	-8.0	11.0	-7.8	2.3	0.4	(18.8)	-	Sa.	
Ⅱ-33-17	-	-	7770	ⅢbL	完形	55.3	-4.7	25.3	-6.5	13.5	-5.3	2.2	0.3	16.1	-	Mud.	
-	-	-	7567	ⅢbL	完形	56.3	-3.7	22.7	-9.1	19.0	0.2	2.5	0.6	32.9	-	Mud.	
Ⅱ-33-18	-	-	7476	ⅢbL	略完形	56.4	-3.6	32.4	0.6	(17.8)	-1.0	1.7	-0.2	(38.4)	-	Sa.	
-	-	-	7363	ⅢbL	完形	56.5	-3.5	33.6	1.8	14.2	-4.6	1.7	-0.2	31.8	-	Mud.	
-	-	-	7332	ⅢbL	完形	56.6	-3.4	32.7	0.9	16.0	-2.8	1.7	-0.2	27.0	-	Mud.	
-	-	-	7326	ⅢbL	完形	57.0	-3.0	27.5	-4.3	15.8	-3.0	2.1	0.2	34.2	-	Sa.	
-	-	-	7489	ⅢbL	完形	57.0	-3.0	30.2	-1.6	24.7	5.9	1.9	0.0	56.2	-	Sa.	
Ⅱ-33-19	-	-	7471	ⅢbL	完形	57.3	-2.7	36.7	4.9	15.0	-3.8	1.6	-0.3	44.8	-	Sa.	
Ⅱ-33-20	-	-	7477	ⅢbL	完形	57.3	-2.7	27.8	-4.0	21.0	2.2	2.1	0.2	38.2	-	Sa.	
-	-	-	7549	ⅢbL	完形	57.3	-2.7	29.9	-1.9	28.7	9.9	1.9	0.0	52.2	-	Sa.	
-	-	-	7569	ⅢbL	略完形	(57.3)	-2.7	32.5	0.7	16.8	-2.0	1.8	-0.1	(37.3)	-	Tu.	
-	-	-	7410	ⅢbL	略完形	(57.4)	-2.6	25.5	-6.3	20.3	1.5	2.3	0.4	(31.4)	-	Mud.	
-	-	-	7340	ⅢbL	完形	57.8	-2.2	30.1	-1.7	22.9	4.1	1.9	0.0	42.6	-	Sa.	
-	-	-	7495	ⅢbL	完形	57.9	-2.1	28.2	-3.6	14.3	-4.5	2.1	0.2	33.6	-	Sa.	
Ⅱ-33-21	-	-	7321	ⅢbL	完形	58.1	-1.9	36.6	4.8	20.8	2.0	1.6	-0.3	59.2	-	Sa.	
-	-	-	7763	ⅢbL	完形	58.1	-1.9	31.7	-0.1	18.8	0.0	1.8	-0.1	50.1	-	Sa.	
-	-	-	7571	ⅢbL	完形	58.2	-1.8	45.4	13.6	26.9	8.1	1.3	-0.6	62.0	-	Mud.	
-	-	-	7412	ⅢbL	完形	58.5	-1.5	30.4	-1.4	19.4	0.6	1.9	0.0	40.0	-	Sa.	
Ⅱ-33-22	-	-	7407	ⅢbL	完形	58.6	-1.4	41.0	9.2	15.8	-3.0	1.4	-0.5	46.5	-	Sa.	
-	-	-	7535	ⅢbL	略完形	58.8	-1.2	38.5	6.7	18.7	-0.1	1.5	-0.4	(48.7)	-	Sa.	

表II-44 III SB-03出土礫属性表(続き)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被熱	材質	備考
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
-		-	7491	IIIbL	完形	58.9	-1.1	33.3	1.5	24.2	5.4	1.8	-0.1	61.8	-	Sa.	
-		-	7557	IIIbL	完形	58.9	-1.1	35.9	4.1	20.5	1.7	1.6	-0.3	55.5	-	Sa.	
II-33-23		-	7457	IIIbL	略完形	59.1	-0.9	(38.6)	6.8	18.8	0.0	1.5	0.4	(57.3)	-	Sa.	
-		S223	7314 7462	IIIbL	完形	59.3	-0.7	26.4	-5.4	18.8	0.0	2.2	0.3	34.7	-	Sa.	
-		-	7472	IIIbL	完形	59.5	-0.5	33.9	2.1	29.7	10.9	1.8	-0.1	64.6	-	Sa.	
-		-	8083	IIIbL	完形	59.6	-0.4	36.3	4.5	15.4	-3.4	1.6	-0.3	43.6	-	Sa.	
-		-	7391	IIIbL	完形	59.8	-0.2	36.8	5.0	24.0	5.2	1.6	-0.3	65.9	-	Sa.	
-		-	7310	IIIbL	完形	60.1	0.1	34.3	2.5	20.0	1.2	1.8	-0.1	56.5	-	Sa.	
-		-	7367	IIIbL	完形	60.5	0.5	31.0	-0.8	30.2	11.4	2.0	0.1	80.3	-	Sa.	
II-33-24		-	7499	IIIbL	略完形	60.6	0.6	32.6	0.8	26.7	7.9	1.9	0.0	(59.1)	-	Sa.	
II-33-25		-	7563	IIIbL	完形	60.7	0.7	23.6	-8.2	14.7	-4.1	2.6	0.7	23.7	-	Mud.	
II-33-26		-	7456	IIIbL	完形	60.8	0.8	29.9	-1.9	27.0	8.2	2.0	0.1	58.0	-	Sa.	
-		S230	7490 7492	IIIbL	略完形	(60.8)	0.8	29.9	-1.9	22.5	3.7	2.0	0.1	(51.5)	-	Sa.	
II-33-27		-	7473	IIIbL	略完形	(61.0)	(121.0)	36.0	4.2	23.2	4.4	-1.7	-3.6	(60.0)	-	Sa.	
II-33-28		-	7479	IIIbL	完形	61.1	1.1	30.0	-1.8	17.2	-1.6	2.0	0.1	57.0	-	Sa.	
-		-	7540	IIIbL	完形	61.3	1.3	34.5	2.7	17.6	-1.2	1.8	-0.1	48.6	-	Sa.	
-		-	8082	IIIbL	完形	61.5	1.5	21.9	-9.9	17.3	-1.5	2.8	0.9	32.4	-	Sa.	
-		-	7570	IIIbL	完形	61.7	1.7	43.8	12.0	18.2	-0.6	1.4	-0.5	44.6	-	Mud.	
II-33-29		-	7484	IIIbL	完形	61.9	1.9	29.0	-2.8	23.2	4.4	2.1	0.2	46.9	-	Sa.	
II-33-30		S226	7452 7453	IIIbL	完形	62.2	2.2	30.9	-0.9	19.8	1.0	2.0	0.1	51.9	-	Sa.	
-		S232	7514 7542	IIIbL	完形	62.2	2.2	32.0	0.2	23.5	4.7	1.9	0.0	58.1	-	Sa.	
II-33-31	46-2	-	7520	IIIbL	完形	62.4	2.4	37.1	5.3	21.3	2.5	1.7	-0.2	62.8	-	Sa.	
-		-	7343	IIIbL	完形	62.9	2.9	41.3	9.5	23.6	4.8	1.5	-0.4	75.5	-	Sa.	
II-33-32		-	7389	IIIbL	略完形	62.9	2.9	34.9	3.1	22.7	3.9	1.8	-0.1	(64.7)	-	Con.	
-		-	7532	IIIbL	完形	63.2	3.2	33.8	2.0	22.4	3.6	1.9	0.0	56.2	-	Sa.	
II-33-33		-	7529	IIIbL	完形	63.7	3.7	41.7	9.9	24.2	5.4	1.5	-0.4	83.3	-	Sa.	
-		-	7519	IIIbL	完形	63.8	3.8	34.9	3.1	19.1	0.3	1.8	-0.1	56.5	-	Sa.	
-		-	7324	IIIbL	完形	63.9	3.9	28.3	-3.5	13.4	-5.4	2.3	0.4	30.6	-	Mud.	
-		-	7543	IIIbL	完形	64.0	4.0	38.0	6.2	21.5	2.7	1.7	-0.2	66.9	-	Sa.	
-		-	7523	IIIbL	完形	64.1	4.1	38.1	6.3	18.5	-0.3	1.7	-0.2	61.2	-	Sa.	
-		-	7382	IIIbL	完形	64.3	4.3	27.4	-4.4	19.1	0.3	2.3	0.4	38.4	-	Mud.	
-		-	7400	IIIbL	完形	64.3	4.3	37.1	5.3	18.5	-0.3	1.7	-0.2	57.4	-	Sa.	
-		-	7478	IIIbL	完形	64.5	4.5	22.8	-9.0	20.1	1.3	2.8	0.9	43.0	-	Sa.	
-		-	7558	IIIbL	完形	64.6	4.6	35.2	3.4	21.6	2.8	1.8	-0.1	70.2	-	Sa.	
II-33-34		-	7771	IIIbL	完形	64.6	4.6	40.5	8.7	28.0	9.2	1.6	-0.3	95.3	-	Sa.	
II-33-35		-	7300	IIIbL	略完形	(64.7)	(124.7)	29.4	-2.4	15.4	-3.4	-2.2	-4.1	(31.9)	○	Mud.	
-		-	7414	IIIbL	完形	64.7	4.7	23.4	-8.4	21.5	2.7	2.8	0.9	22.0	-	Mud.	
II-33-36		-	7541	IIIbL	完形	64.7	4.7	38.2	6.4	17.3	-1.5	1.7	-0.2	60.2	-	Sa.	
II-33-37		-	7555	IIIbL	完形	65.2	5.2	41.3	9.5	22.6	3.8	1.6	-0.3	73.2	-	Sa.	
II-33-38		-	7562	IIIbL	完形	65.3	5.3	29.8	-2.0	24.5	5.7	2.2	0.3	47.2	-	Sa.	
-		-	7398	IIIbL	完形	65.4	5.4	33.3	1.5	19.6	0.8	2.0	0.1	53.2	-	Sa.	
-		S235	7556 7774	IIIbL	略完形	(65.4)	5.4	34.2	2.4	26.0	7.2	1.9	0.0	(70.5)	-	Sa.	
-		S225	7383 7384 7385	IIIbL	完形	65.7	5.7	26.0	-5.8	30.4	11.6	2.5	0.6	72.1	-	Sa.	
-		-	7387	IIIbL	完形	65.7	5.7	34.6	2.8	20.5	1.7	1.9	0.0	42.2	-	Mud.	

表Ⅱ-44 ⅢSB-03出土礫属性表(続き)

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
						長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差						
Ⅱ-33-39		S236	7505	ⅢbL	略完形	(65.9)	5.9	36.3	4.5	20.4	1.6	1.8	-0.1	(55.3)	-	Sa.	
			7509														
			7593														
-	-	7518	ⅢbL	略完形	(66.0)	6.0	36.6	4.8	19.2	0.4	1.8	-0.1	(54.5)	-	Sa.		
-	-	7301	ⅢbL	完形	66.1	6.1	59.5	27.7	13.3	-5.5	1.1	-0.8	65.4	-	Sa.		
Ⅱ-33-40	-	7498	ⅢbL	完形	66.1	6.1	29.6	-2.2	21.5	2.7	2.2	0.3	45.0	-	Sa.		
Ⅱ-33-41	-	7458	ⅢbL	完形	66.3	6.3	45.7	13.9	18.8	0.0	1.5	-0.4	70.2	-	Sa.		
-	-	7530	ⅢbL	完形	66.3	6.3	41.1	9.3	21.9	3.1	1.6	-0.3	69.4	-	Sa.		
-	-	7379	ⅢbL	完形	66.5	6.5	40.1	8.3	15.8	-3.0	1.7	-0.2	54.9	-	Sa.		
-	-	7521	ⅢbL	完形	66.5	6.5	35.7	3.9	23.9	5.1	1.9	0.0	91.3	-	Sa.		
-	-	7395	ⅢbL	完形	66.6	6.6	38.4	6.6	27.6	8.8	1.7	-0.2	80.5	-	Sa.		
-	-	7773	ⅢbL	完形	67.0	7.0	32.2	0.4	17.0	-1.8	2.1	0.2	32.1	-	Sa.		
-	-	7525	ⅢbL	完形	67.1	7.1	35.9	4.1	15.7	-3.1	1.9	0.0	53.7	-	Sa.		
Ⅱ-33-42	-	7547	ⅢbL	完形	67.1	7.1	37.8	6.0	15.6	-3.2	1.8	-0.1	53.7	-	Sa.		
-	-	7401	ⅢbL	略完形	67.3	7.3	27.6	-4.2	(15.6)	-3.2	2.4	0.5	(32.1)	-	Mud.		
-	-	7319	ⅢbL	完形	67.7	7.7	38.5	6.7	28.2	9.4	1.8	-0.1	83.7	-	Sa.		
-	-	7572	ⅢbL	完形	67.9	7.9	24.4	-7.4	19.9	1.1	2.8	0.9	39.0	-	Sa.		
-	-	7345	ⅢbL	完形	68.5	8.5	40.8	9.0	40.0	21.2	1.7	-0.2	161.1	-	Gra.		
Ⅱ-33-43	-	7454	ⅢbL	完形	68.7	8.7	30.1	-1.7	23.6	4.8	2.3	0.4	66.7	-	Sa.		
-	-	7544	ⅢbL	完形	69.0	9.0	31.7	-0.1	19.0	0.2	2.2	0.3	55.8	-	Sa.		
Ⅱ-33-44	-	8080	ⅢbL	完形	69.3	9.3	37.0	5.2	20.9	2.1	1.9	0.0	59.5	-	Sa.		
Ⅱ-33-45	-	7528	ⅢbL	完形	69.6	9.6	41.9	10.1	20.8	2.0	1.7	-0.2	80.9	-	Sa.		
-	-	7539	ⅢbL	完形	69.6	9.6	38.4	6.6	22.3	3.5	1.8	-0.1	73.4	-	Sa.		
Ⅱ-33-46	-	7551	ⅢbL	完形	69.8	9.8	36.4	4.6	23.9	5.1	1.9	0.0	69.0	-	Sa.		
-	-	7566	ⅢbL	完形	70.1	10.1	30.2	-1.6	17.0	-1.8	2.3	0.4	39.6	-	Sa.		
-	-	7768	ⅢbL	完形	70.1	10.1	28.9	-2.9	16.6	-2.2	2.4	0.5	33.3	-	Mud.		
-	-	7488	ⅢbL	略完形	(70.3)	10.3	39.0	7.2	13.2	-5.6	1.8	-0.1	(46.6)	-	Sa.		
Ⅱ-33-47	46-2	S234	7306	ⅢbL	略完形	72.0	12.0	32.1	0.3	(17.8)	-1.0	2.2	0.3	(32.4)	○	Mud.	
-			7552														
-	-	7553	ⅢbL	完形	72.0	12.0	33.0	1.2	19.5	0.7	2.2	0.3	59.9	-	Sa.		
Ⅱ-33-48	-	7533	ⅢbL	完形	72.2	12.2	36.0	4.2	23.3	4.5	2.0	0.1	97.4	-	Sa.		
Ⅱ-33-49	-	7354	ⅢbL	完形	72.7	12.7	29.4	-2.4	15.0	-3.8	2.5	0.6	30.5	-	Sa.		
-	-	7397	ⅢbL	完形	72.9	12.9	32.8	1.0	14.9	-3.9	2.2	0.3	40.0	-	Mud.		
Ⅱ-33-50	-	7597	ⅢbL	完形	73.1	13.1	35.5	3.7	21.2	2.4	2.1	0.2	71.5	-	Sa.		
Ⅱ-33-51	-	7527	ⅢbL	完形	73.3	13.3	43.7	11.9	16.8	-2.0	1.7	-0.2	68.7	-	Sa.		
Ⅱ-33-52	-	S228	7460	ⅢbL	略完形	74.1	14.1	33.1	1.3	14.4	-4.4	2.2	0.3	(49.2)	-	Sa.	
-	7482																
-	-	7548	ⅢbL	完形	74.2	14.2	40.6	8.8	27.6	8.8	1.8	-0.1	95.2	○	Sa.		
-	-	7304	ⅢbL	完形	74.7	14.7	37.2	5.4	22.8	4.0	2.0	0.1	80.9	-	Sa.		
-	-	7524	ⅢbL	完形	74.7	14.7	39.6	7.8	15.6	-3.2	1.9	0.0	62.1	-	Sa.		
-	-	7534	ⅢbL	略完形	74.9	14.9	35.8	4.0	20.6	1.8	2.1	0.2	(63.1)	-	Sa.		
Ⅱ-33-53	-	7297	ⅢbL	完形	75.2	15.2	30.2	-1.6	12.1	-6.7	2.5	0.6	27.0	-	Mud.		
-	-	7531	ⅢbL	完形	75.2	15.2	29.9	-1.9	21.8	3.0	2.5	0.6	69.4	-	Sa.		
-	-	7474	ⅢbL	完形	75.3	15.3	34.9	3.1	21.9	3.1	2.2	0.3	76.7	-	Sa.		
-	-	7504	ⅢbL	略完形	(75.8)	15.8	36.4	4.6	24.8	6.0	2.1	0.2	(80.7)	-	Sa.		
Ⅱ-33-54	-	7568	ⅢbL	完形	75.8	15.8	28.4	-3.4	17.3	-1.5	2.7	0.8	52.0	-	Sa.		
-	-	7393	ⅢbL	完形	78.5	18.5	24.6	-7.2	16.7	-2.1	3.2	1.3	30.9	-	Mud.		
-	-	7455	ⅢbL	略完形	79.6	19.6	34.6	2.8	17.5	-1.3	2.3	0.4	(40.1)	-	Con.		
-	-	7303	ⅢbL	完形	79.8	19.8	34.9	3.1	32.9	14.1	2.3	0.4	86.5	-	Sa.		
-	-	7307	ⅢbL	完形	79.9	19.9	37.1	5.3	22.0	3.2	2.2	0.3	74.9	-	Sa.		
-	-	7522	ⅢbL	完形	80.6	20.6	40.6	8.8	19.5	0.7	2.0	0.1	86.5	-	Sa.		
Ⅱ-33-55	-	7463	ⅢbL	完形	85.4	25.4	40.7	8.9	30.2	11.4	2.1	0.2	137.0	-	Sa.		
Ⅱ-33-56	-	7500	ⅢbL	完形	85.6	25.6	33.0	1.2	20.0	1.2	2.6	0.7	84.5	-	Sa.		
Ⅱ-33-57	-	7769	ⅢbL	完形	86.3	26.3	41.4	9.6	12.7	-6.1	2.1	0.2	38.4	-	Mud.		
Ⅱ-33-58	-	7320	ⅢbL	完形	88.2	28.2	51.2	19.4	20.5	1.7	1.7	-0.2	96.7	-	Sa.		
Ⅱ-33-59	-	7598	ⅢbL	完形	96.6	36.6	39.6	7.8	24.2	5.4	2.4	0.5	86.7	-	Mud.		
-	-	7322	ⅢbL	完形	47.6	-12.4	19.2	-12.6	6.8	-12.0	2.5	0.6	8.1	-	Sa.		
-	-	7338	ⅢbL	完形	45.2	-14.8	23.1	-8.7	16.0	-2.8	2.0	0.1	21.4	-	Sa.		
-	-	7352	ⅢbL	完形	31.6	-28.4	24.6	-7.2	10.4	-8.4	1.3	-0.6	11.4	-	Sa.		
						31.4			18.2			36.3					

※ 163点

### 第3節 建物跡

建物跡は東側段丘縁辺部に2軒（建物跡1・2）と西側低位面に1軒（建物跡3）の合計3軒を検出した。全て掘立柱で構成されており、柱穴は6～9本が長形状に配されている。「田」字状の配列は認められない。以下に詳細を記す。

#### 建物跡1(図II-34 図版17)

位置：X-34・35、Y-35区 規模：325×280cm

構成：支柱穴10本(ⅢKP-1～7・15～17)

**確認・調査** X-35区のⅢSB-04取り上げ後、柱穴確認の為、周囲のⅢc層をジョレンで精査したところ、直径約20cmの黒色の円形プランを検出した。同規模のプランを列状に確認したため、これらを建物跡1と想定し、スタッフを用いて柱穴の間隔を測りながら建物跡を構成する柱穴の検出精査を行った。ⅢSB-04は建物跡1の中心に分布するが、建物跡1が同一時期に属するのかわ不明である。柱穴の構成については、01・03・04・15の組み合わせと02・04・05・06・07・16・17の組み合わせが考えられ、建物の拡張もしくは建替えを想定するような図示をしたが、堆積状態では埋め戻しは認められなく、不規則に配された建物跡の柱穴もしくは構築時期がやや異なるものと考えられる。

**柱穴** 覆土はⅢc層が主体となりⅣ層が混入する。開口面は直径20～30cmでほぼ円形、坑底面は直径10～20cmで平坦になるものとやや丸くなるものがある。坑底面からほぼ垂直に立ち上がる。傾きは0度～7度となり、ⅢKP-06・07・17は若干傾きが大きい。柱穴の坑底面は平坦で締まりがあり、ほぼ直線状に立ち上がる円筒状を呈していることから、掘立柱と判断した。ⅢKP-07・17は比較的細く、打ち込みと判断した。

#### 建物跡2(図II-35 図版18)

位置：Z-35区 規模：313×290cm

構成：支柱穴6本(ⅢKP-22～27)

**確認・調査** Z-35区のV層25%調査時にVb層上位でⅢ層黒色土を基調とする直径約20cmの円形プランを検出した。周囲をジョレンで精査したところ、間隔が一定で、長方形の構成を呈したため、建物跡2と設定して調査を開始した。柱が外踏ん張りである可能性を想定し、対角線上にセクションラインを設定した。柱穴の間隔は長軸で150cm前後、短軸で300cmと等間隔に配列される。建物跡1とは近接しているが、長軸方向が異なるため共通性は認められない。

**柱穴** 覆土はⅢc層が主体となりⅣ層が混入する。柱痕が確認できた柱はⅢKP-23・26の2ヶ所だけである。柱穴はほぼ垂直に立ち上がり、建物跡1同様坑底面の形態や締まりと壁面がほぼ垂直に立ち上がる形態から掘立柱であると判断した。

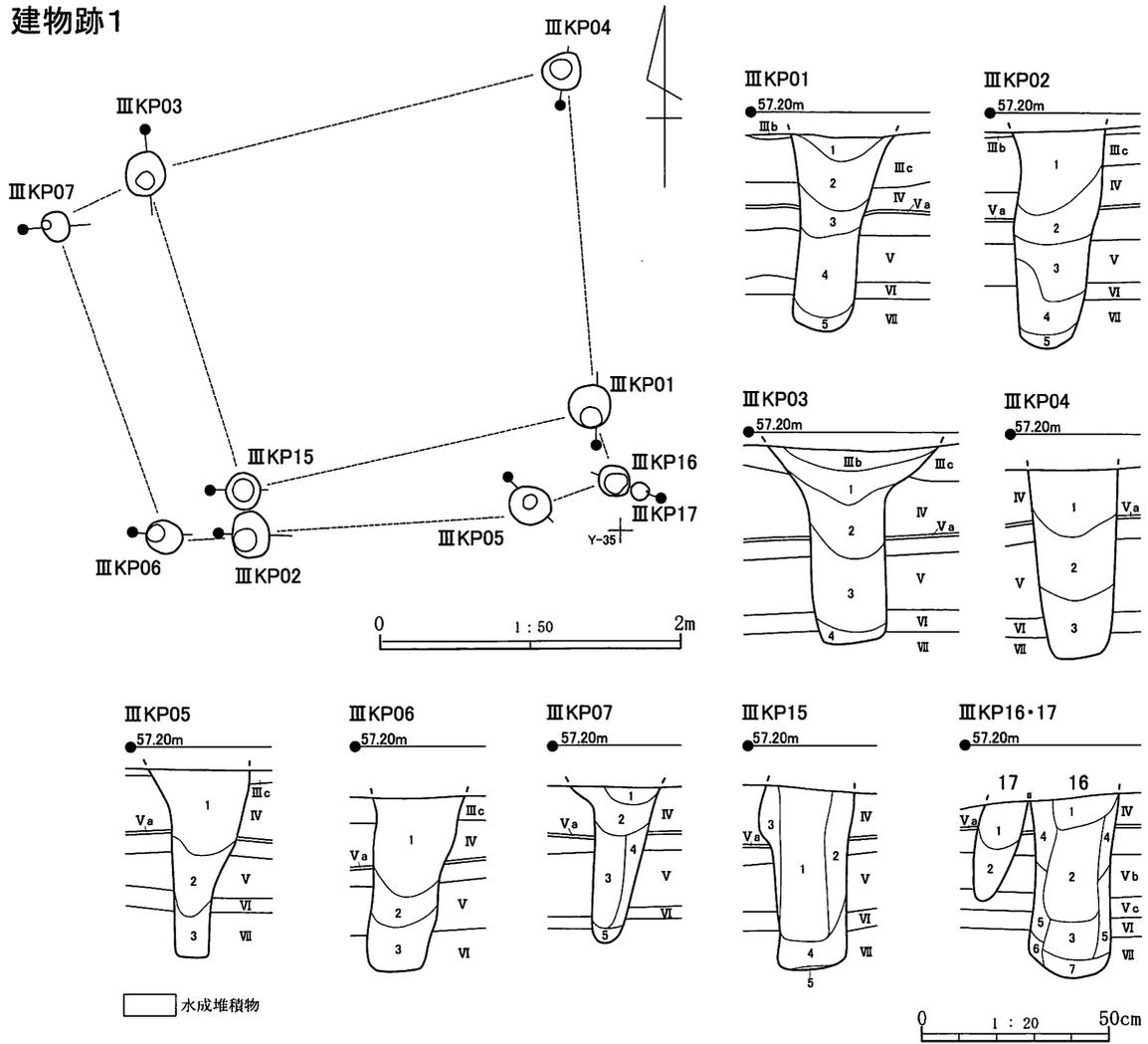
#### 建物跡3(図II-36 図版19)

位置：T-44・U-43・44区 規模：363×270cm

構成：支柱穴6本(ⅢKP-28～32・34)

**確認・調査** Ⅳ層火山灰除去後、調査区北西側を精査していたところ、Vb層上位に相当する水成

建物跡1

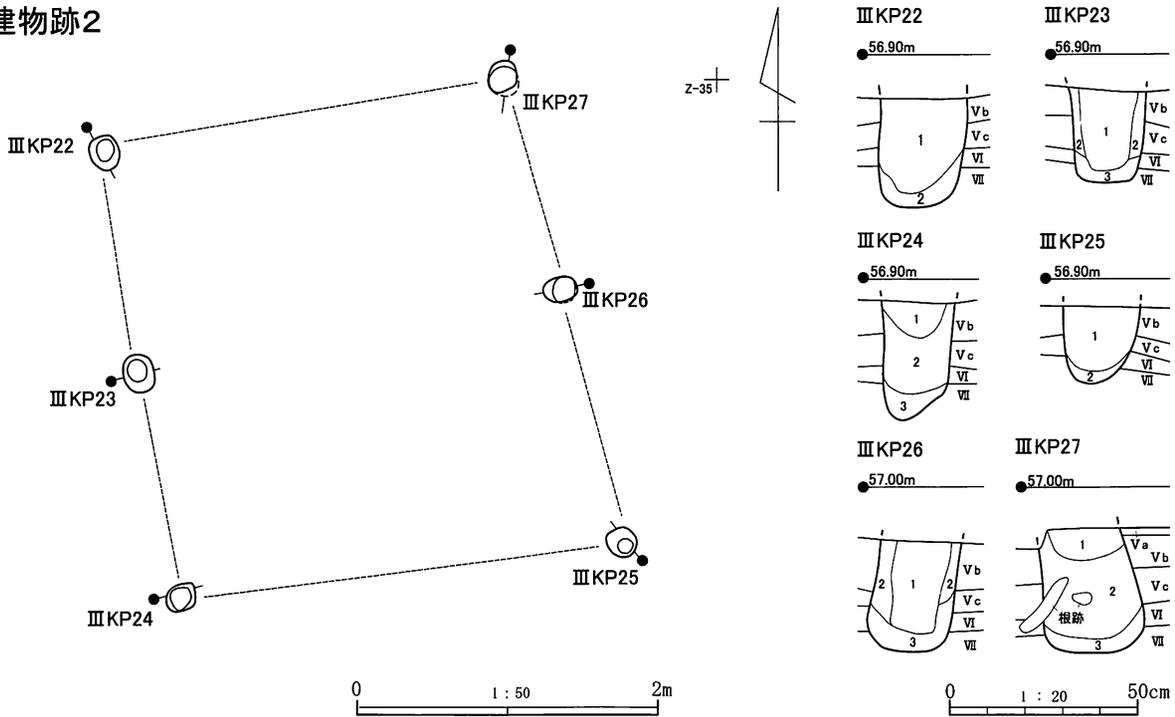


- III KP01**  
 1 10YR2/1 黒色 IIIb≡IIIc(斑状)  
 2 10YR3/1 黒褐色 IIIc=IIIb≡B-Tm(斑状)  
 3 10YR3/2 黒褐色 IIIc-IV(斑状)  
 4 7.5YR2/1 黒褐色 V+IV(斑状) しまり弱  
 5 7.5YR2/1 黒色 V-VI(斑状) しまり強
- III KP02**  
 1 10YR2/1 黒色 IIIb=IIIc(斑状)  
 2 10YR3/1 黒褐色 IIIc-IV(斑状)  
 3 2.5Y3/1 黒褐色 V≡IV(斑状)  
 4 10YR2/1 黒色 V≡IIIc(斑状)  
 5 10YR4/1 褐色 VI+V(斑状)
- III KP03**  
 1 10YR2/1 黒色 IIIb-IIIc(均一) しまり中  
 2 10YR3/1 黒褐色 IIIb-IV(均一) しまり中  
 3 10YR2/2 黒褐色 V=IV(均一) しまり弱  
 4 10YR5/2 灰黄褐色 VI-V(斑状) しまり強
- III KP04**  
 1 10YR2/1 黒色 IIIb+IIIc(均一) しまり弱  
 2 10YR3/2 黒褐色 IIIc-IV=V(斑状) しまり弱  
 3 7.5YR3/1 黒褐色 V=VII(斑状) しまり弱
- III KP05**  
 1 10YR3/1 黒褐色 IIIb-IIIc・炭化物・B-Tm(斑状) しまり中  
 2 10YR2/1 黒色 V≡IV しまり中  
 3 10YR3/3 暗褐色 V+VI(斑状) しまり弱

- III KP06**  
 1 10YR2/1 黒色 IIIb+IIIc(均一) しまり弱  
 2 10YR3/2 黒褐色 V+IV(斑状) しまり弱  
 3 10YR3/1 黒褐色 V-VI(斑状) しまり弱
- III KP07**  
 1 10YR2/1 黒色 IIIb+IIIc(均一) しまり弱  
 2 10YR3/1 黒褐色 IIIc=IV(均一) しまり弱  
 3 10YR3/2 黒褐色 IIIc+IV(均一) しまり弱  
 4 2.5Y3/1 黒褐色 V≡IV(斑状) しまり弱  
 5 2.5Y3/2 黒褐色 V+VI(斑状) しまり弱
- III KP15**  
 1 7.5YR3/1 黒褐色 V=VI≡IV(斑状) しまり弱  
 2 10YR2/2 黒褐色 V=IV(均一) しまり弱(掘り方埋土)  
 3 10YR2/1 黒色 IIIc=IV(均一) しまり弱(掘り方埋土)  
 4 2.5Y3/1 黒褐色 V=VI=IV(斑状) しまり弱  
 5 10YR1.7/1 黒色 V層ブロック しまり強(柱の底の層)
- III KP16**  
 1 10YR3/1 黒褐色 IIIc+IIIb≡B-Tmブロック(斑状) しまり中  
 2 10YR2/2 黒褐色 IIIc=IV(斑状) しまり極めて弱  
 3 10YR2/3 黒褐色 IIIc+IV(斑状) しまり極めて弱  
 4 2.5Y3/1 黒褐色 IIIc-IV(斑状) しまり弱  
 5 10YR2/1 黒色 Vb+Vc=IIIc(斑状) しまり弱  
 6 2.5Y3/2 黒褐色 VIブロック(斑状) しまり弱  
 7 7.5YR3/1 黒褐色 Vc-VI≡IIIc(斑状) しまり弱
- III KP17**  
 1 10YR3/1 黒褐色 IIIc=IV(均一) しまり中  
 2 10YR3/2 黒褐色 IIIc+V(斑状) しまり弱

図 II-34 建物跡1平面及び断面図

建物跡2



<b>III KP-22</b>			
1	7.5YR3/1	黒褐色	IIIc-IV(斑状) しまり極めて弱
2	10YR4/2	灰黄褐色	Vb+VI(斑状) しまり強
<b>III KP-23</b>			
1	7.5YR2/2	黒褐色	IIIc=IV(均一) しまり極めて弱
2	10YR2/1	黒色	IIIb=Vb(斑状) しまり弱
3	10YR4/2	灰黄褐色	Vb-VI(斑状) しまり強
<b>III KP-24</b>			
1	10YR2/1	黒色	IIIb=IV(斑状) しまり弱
2	10YR1.7/1	黒色	IIIb=IV=Vb(斑状) しまり弱
3	10YR3/1	黒褐色	Vb-VI(斑状) しまり強

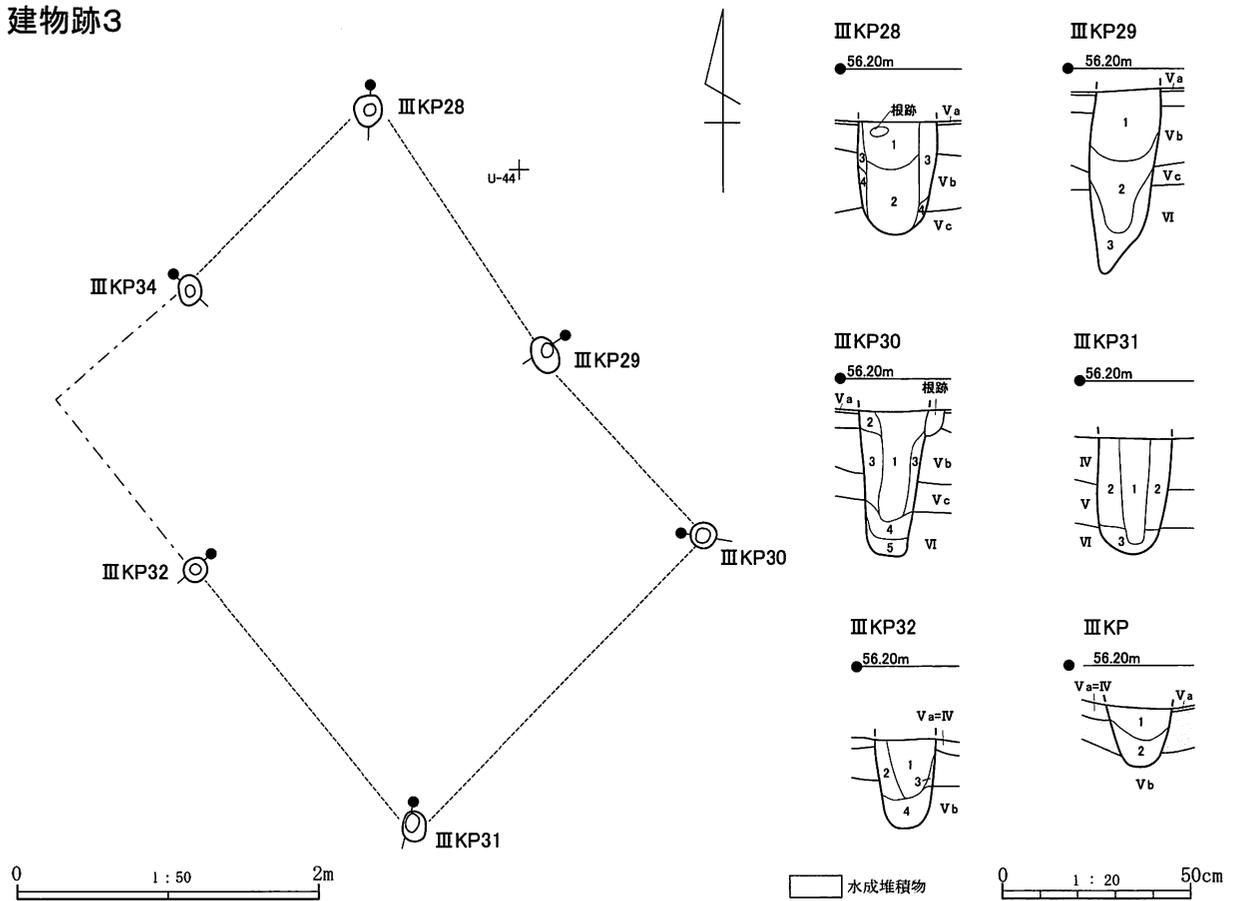
<b>III KP-25</b>			
1	7.5YR2/1	黒色	IIIb=IV(斑状) しまり弱
2	10YR4/2	灰黄褐色	Vb-VI(斑状) しまり強
<b>III KP-26</b>			
1	7.5YR2/1	黒色	IIIb=IV(斑状) しまり弱
2	7.5YR2/2	黒褐色	IIIc-Vb(斑状) しまり弱
3	7.5YR3/1	黒褐色	Vb+Vc=VI(斑状) しまり強
<b>III KP-27</b>			
1	10YR2/2	黒褐色	IIIc-IV(斑状) しまり弱
2	10YR2/1	黒色	IIIb=V=IV(斑状) しまり極めて弱
3	10YR3/1	黒褐色	Vb=Vc(斑状) しまり強

図II-35 建物跡2平面及び断面図

堆積物に直径約20cmのIII層黒色土を基調とする円形プランを複数検出した。構成が長方形を呈したため建物跡3として調査を行った。建物跡3は標高56.3mの調査区内において最も低地に位置し、確認面であるVb層上位の水成堆積物は乾燥すると非常に硬く締まり、ジョレンでも精査が困難であったため、ホースで散水しながら精査を行った。柱穴が外踏ん張りであることを想定して対角線上にセクションラインを設定し、断面の記録を行った。建物の構成上、北西隅に柱穴が想定され、精査を繰り返したが、検出することはできなかった。

**柱穴** 覆土はIIIc層が主体となりIV層が混入する。柱痕を確認できたのはIIIKP-28・30・31であり、掘方埋土が確認できる。他の建物跡同様、坑底面からほぼ垂直に立ち上がり、坑底面の締まり具合などから掘立柱と判断した。(松井)

建物跡3



III KP-28

- 1 2.5Y2/1 黒色 IIIb = Va = IV (斑状) しまり弱
- 2 2.5Y3/1 黒褐色 IIIc = Va = Vc (斑状) しまり弱
- 3 10YR3/1 黒褐色 Va + Vb = IV (斑状) ややしまりあり
- 4 10YR2/1 黒色 Vb = VI (斑状) しまり強

III KP-29

- 1 10YR5/2 灰黄褐色 IIIc = Va = IV (斑状) しまり弱
- 2 2.5Y4/1 黄灰色 IIIc - Va = Vb (斑状) しまり弱
- 3 10YR2/1 黒色 Vb = Vc = VI (斑状) しまり強

III KP-30

- 1 7.5YR2/1 黒色 IIIb = IV (斑状) しまり弱
- 2 7.5YR3/2 黒褐色 IIIc - IV = Va (斑状) しまり弱
- 3 7.5YR3/1 黒褐色 IIIc = Vb (斑状) しまり弱
- 4 10YR2/1 黒色 Vb - VI (斑状) しまり中
- 5 10YR3/1 黒褐色 Vc - VI (斑状) しまり強

III KP-31

- 1 10YR3/1 黒褐色 IIIc + V (斑状) しまり弱
- 2 2.5Y3/2 黒褐色 VI = V (斑状) しまり中
- 3 2.5Y3/1 黒褐色 V = VI (斑状) しまり強

III KP-32

- 1 10YR1.7/1 黒色 IIIb = IV (均一) しまり弱
- 2 10YR2/1 黒色 IIIb = IV = Va (斑状) しまり弱
- 3 2.5Y3/1 黒褐色 Va = IIIc (斑状) しまり中
- 4 2.5Y2/1 黒色 IIIb = Vb (斑状) しまり強

III KP-34

- 1 10YR3/1 黒褐色 IIIc - IV (均一) = Va (斑状) しまり弱
- 2 2.5Y3/1 黒褐色 IIIc = IV = Va (斑状) しまり弱

図 II-36 建物跡3平面及び断面図

表 II-45 建物跡属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	検出層位	長軸方向	規模 (cm)		柱穴本数		付属遺構
						長軸	短軸	主柱穴	他	
II-34	17-1	建物跡1	X-34・35 ・Y-35	IIIbL	N-77° E	325	280	9	1	
II-35	18-1	建物跡2	Z-35	Va	N-12° W	313	290	6	—	
II-36	19-1	建物跡3	T-44 U-43・44	Va	N-50° W	363	270	6	—	

表II-46 建物跡柱穴属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	規模(cm)			傾き(度)	タイプ	備考	
			上端	下端	深さ				
II-34	17-2	建物跡1	IIIKP-01	27	15	56	6	掘立	
II-34	17-3		IIIKP-02	25	14	53	4	掘立	
II-34	17-4		IIIKP-03	45	17	50	0	掘立	
II-34	17-5		IIIKP-04	24	14	50	0	掘立	
II-34	17-6		IIIKP-05	27	9	54	2	掘立	
II-34	17-7		IIIKP-06	25	15	46	7	掘立	
II-34	17-8		IIIKP-07	24	5	41	7	打込み	
II-34	17-9		IIIKP-15	13	17	49	0	掘立	
II-34	17-10		IIIKP-16	24	22	48	6	掘立	
II-34	17-10		IIIKP-17	7	3	27	1	打込み	
II-35	18-2	建物跡2	IIIKP-22	23	17	29	1	掘立	
II-35	18-3・4		IIIKP-23	12	15	24	2	掘立	
II-35	18-5		IIIKP-24	20	4	32	7	掘立	
II-35	18-6		IIIKP-25	20	10	21	8	掘立	
II-35	18-7		IIIKP-26	22	20	29	4	掘立	
II-35	18-8		IIIKP-27	22	25	34	3	掘立	
II-36	19-2	建物跡3	IIIKP-28	21	15	30	0	掘立	
II-36	19-3		IIIKP-29	17	3	50	9	掘立	
II-36	19-4		IIIKP-30	17	10	38	2	掘立	
II-36	19-5		IIIKP-31	20	14	30	0	掘立	
II-36	19-6		IIIKP-32	17	10	23	0	掘立	
II-36	19-7		IIIKP-34	17	9	16	2	掘立	

第4節 土坑(図II-37 図版20)

III P-02(図II-37 図版20-1・2)

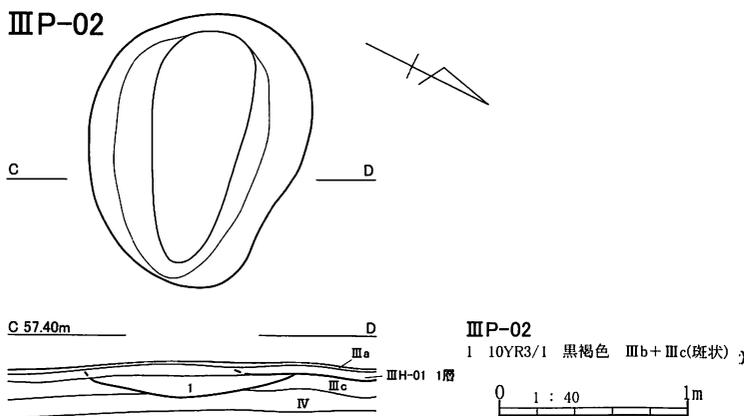
位置: V-36区 規模: 141×110×11cm 平面形: 楕円形

**確認・調査** IIIH-01の南北トレンチ調査中、南側でIIIc層上面においてIIIb層主体の黒褐色土の落ち込みを確認した。土層断面に浅い落ち込みと緩やかな立ち上がりを確認できたことから土坑と判断し調査を行った。また、断面観察によりIIIH-01とは時期が異なると判断し、現場段階で単独遺構として調査している。

**形態** 平面形は楕円形でIIIc層とIV層の一部を浅く皿状に掘り込んでいる。

**堆積状態** 構築面はIIIb層下位である。土坑の北側はIIIH-01と切り合い、覆土上面が床面となっている。このことから、IIIH-01構築以前の土坑と考えられる。覆土の堆積は1層で、IIIb層を主体にIIIc層が斑状に混じることから人為的に埋め戻されたものと考えられる。

**出土遺物** 覆土から泥岩の棒状礫が1点出土している。(荻野)



図II-37 III P-02 平面及び断面図

表Ⅱ-47 ⅢP-02属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ (cm)	長軸 方向	調査 面長 短比	坑底 面長 短比	出土 遺物	備考
					調査面 /坑底面	長軸	短軸	長軸	短軸						
Ⅱ-38	20-1・2	ⅢP-02	V-36	ⅢbL	楕円形/楕円形	146	111	124	48	11	N-75° W	1.3	2.6	-	

表Ⅱ-48 ⅢP-02出土礫属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被熱	材質	備考
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
-	-	-	8184	1	完形	39.3	-	28.2	-	14.2	-	-	-	12.3	-	Mud.	

## 第5節 焼土

包含層の焼土は単独で10ヵ所検出し、多くは調査区東側に分布している。今回の調査では、Ⅲb層下位で確認された焼土が主体を占め、層位的に擦文文化期に属すると考えられる。Ⅲc層で確認した焼土はⅢF-11a・bであるが、燃焼面を大幅に掘り下げてしまい、本来の確認面はより上層にあったと推測される。調査方法は、包含層調査中に焼骨片や炭化物を検出した時点でベルトを設定し、面的に燃焼面または地山被熱層を確認した後に平面の記録を行っている。その後、ベルトに沿ってトレンチを掘り下げ断面の記録をして調査終了としている。なお、平面形で焼土と判断に迷う遺構についてはトレンチで断面観察を行い認定判断した。フローテーションを目的とした土壌サンプルについては、燃焼面の全量の採取を行い、乾燥後フローテーション処理、選別を行い同定作業を委託した(第Ⅵ章第2節・3節)。以下に各焼土の詳細について記す。(松井)

### ⅢF-04 (図Ⅱ-38 図版20-3・4)

Y-36区のⅢb層掘り下げ時に、炭化物を含む黒色土を検出したため下位に焼土があることが想定された。更に掘り下げたところ、焼骨片を含む燃焼面を確認したため平面の記録後、トレンチで焼土断面観察を行った。2層地山被熱層に焼骨片が微量に含まれることから、部分的な攪拌を行っていた可能性が考えられる。フローテーションの結果、不明の炭化種子が1点得られている。

### ⅢF-05 (図Ⅱ-38 図版20-5・6)

X-34区のⅢb層掘り下げ時に、Ⅲb地山被熱層を検出した。これをⅢF-05と設定し調査を開始した。焼土は調査区の近傍を流れる沢に面した斜面に位置し、トレンチを設定し断面を観察したところ、上部黒色土層の全体及び地山被熱層の一部が斜面下方に向かって流れ込んでいるのが確認された。3層に焼骨片が少量含まれるのは、燃焼面の一部が流出したものであると思われる。フローテーションの結果、哺乳網に由来する部位不明の多数の焼骨片及び不明の炭化種子が1片得られている。

### ⅢF-06 (図Ⅱ-38 図版20-7・8)

U-41区のⅢb層掘り下げ時に、Ⅲ層黒色土に焼骨片を含む層を確認した。北側にも焼骨片の広がり認められ、一連の焼土と想定できたためⅢF-06として調査を開始した。1層には多量に焼骨片が含まれ、北側の4層は下位に被熱層が認められないことから、本体焼土からの流出であると考えられる。フローテーションの結果、哺乳網の部位不明の焼骨片が得られている。

## ⅢF-09 (図Ⅱ-38 図版 21-1・2)

AA-38 区のⅢb 層掘り下げ時に、焼骨片を含む焼土を検出したため、ⅢF-09 として調査を開始した。断面観察では 1 層に微量な焼骨片が認められるのみであった。平面形は楕円形で、断面は燃焼面が皿状に窪み、地山被熱層が約 6 cm の層厚で比較的規模の大きな焼土である。フローテーションの結果、哺乳網の部位不明の焼骨片が得られている。

## ⅢF-10 (図Ⅱ-38 図版 21-3・4)

AA-39 区のⅢb 層掘り下げ時に、焼骨片を含む焼土を検出したため、ⅢF-10 として調査を開始した。ⅢF-09 同様、1 層に微量の焼骨片を含むのみであった。フローテーションの結果、炭化したクルミ片とサケ科の椎骨、部位不明の哺乳網の焼骨片が得られている。

## ⅢF-11A・B (図Ⅱ-38 図版 21-5・6)

AA・AB-40 区のⅢ層掘り下げ時、不整形な焼土を検出した。平面形から 2ヶ所の重複が考えられ、トレンチで断面を観察した結果、新旧の切り合いがありⅢF-11A・Bとして調査を開始した。両焼土ともに付帯黒色土も認められ、断面観察からⅢF-11AがⅢF-11Bを切る関係にある。

## ⅢF-17 (図Ⅱ-39 図版 21-7・8)

X-35 区のⅢ層掘り下げ後に W-35 区の東西ライン壁面に焼土が確認されたため、ⅢF-17 として調査を開始した。なお X-35 区に広がる平面は東西トレンチの掘削で遺失しており記録することができなかった。1 層に焼土粒が認められるため、一部焼土の攪拌等を行った可能性も考えられる。フローテーションの結果、不明の炭化種子片が得られている。

## ⅢF-20 (図Ⅱ-39 図版 22-1・2)

AD・AE-31 区のⅢb 層掘り下げ時に炭化物・焼骨片が散在する範囲を検出したため、ⅢF-20 として調査を開始した。2・3 層は B-Tm を含むが、5・6 層に焼土粒や焼骨片が認められることから、掻き出しもしくは攪拌の可能性も考えられ、この B-Tm はプライマリーな堆積であるかは不明である。フローテーションの結果、炭化した冬芽及び魚網、哺乳網の焼骨片が得られている。

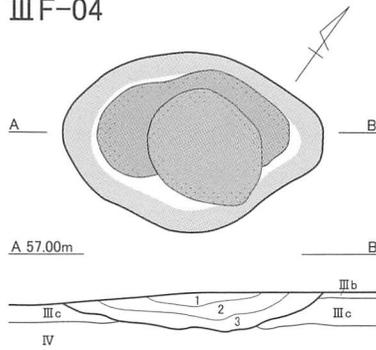
## ⅢF-21 (図Ⅱ-39 図版 22-3・4)

AD-30 区でⅢc 層掘り下げ時に明赤褐色を呈するⅢc～Ⅳ層の地山被熱層を検出したため、ⅢF-21 として調査を開始した。確認時には、既に上部が掘り下げられており、本来の検出層位はⅢb 層であったと思われる。なお、隣接する AE-31 区のⅢb 層下位より、環状錫鉛製品が出土している。

## ⅢF-22 (図Ⅱ-39 図版 22-5・6)

AD-33 区のⅢb 層掘り下げ時に、焼骨を含むⅢb 地山被熱層を検出したため、ⅢF-22 として調査を開始した。楕円形のプランで、1 m を超える長大な焼土となる。1・2 層にも焼骨片が混入し、他の焼土より内容物割合が多い。断面観察により、B-Tm より上位に燃焼面が形成されており、擦文文化期後期と推定した層位面の時期に概ね合致する。本遺構はⅢH-02 の南側に位置するが、軸方向が異なることや周囲に礫集中、柱穴といった遺構が認められないことから単独焼土として掲載している。フローテーションの結果、モクレン科の炭化種子が 4 点得られている。(松井)

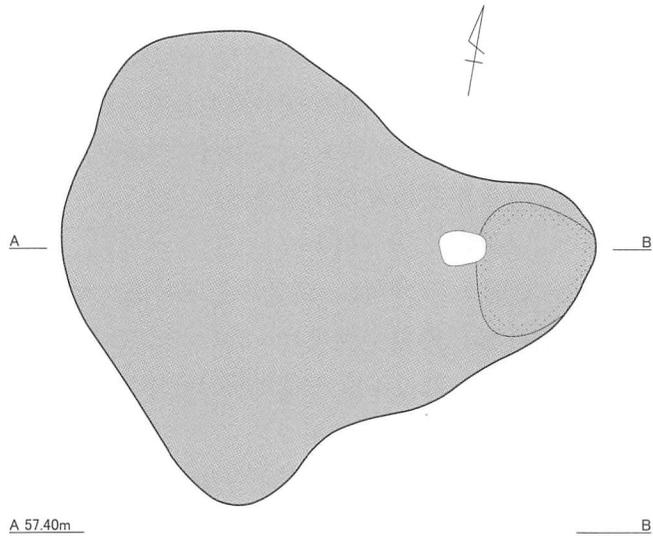
ⅢF-04



ⅢF-04

- 1 10YR 3/1 黒褐色 燃焼面黒褐色土≒焼土粒・焼骨片
- 2 7.5YR 5/6 明褐色 焼土(Ⅲb・Ⅲc層地山被熱層)≒焼骨片
- 3 10YR 3/2 黒褐色 付帯黒色土層≒焼土粒(斑状)

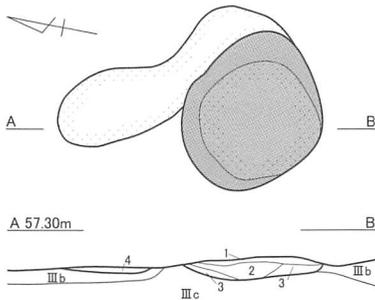
ⅢF-05



ⅢF-05

- 1 5YR 4/4 にぶい赤褐色 焼土 Ⅲbが被熱したもの
- 2 7.5YR 3/2 黒褐色 B-Tmの上層 ⅢbL相当 焼土粒少量斑状に交じる
- 3 7.5YR 3/1 黒褐色 ⅢbL相当 焼骨片少量含む

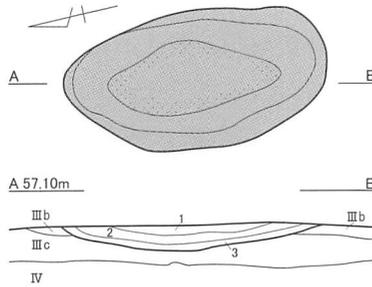
ⅢF-06



ⅢF-06

- 1 5YR 2/2 黒褐色 焼土燃焼面黒褐色土-焼骨片
- 2 5YR 5/8 明赤褐色 焼土(Ⅲb層地山被熱層)
- 3 5YR 3/4 暗赤褐色 Ⅲb-焼土(斑状)
- 4 10YR 3/1 黒褐色 Ⅲb≒焼骨片(斑状)

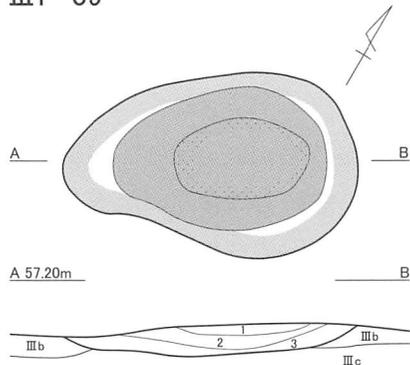
ⅢF-10



ⅢF-10

- 1 5YR 2/3 極暗赤褐色 焼土(Ⅲb層地山被熱層)≒焼骨片
- 2 7.5YR 6/6 橙色 焼土(Ⅲb層地山被熱層)
- 3 7.5YR 4/6 褐色 焼土(Ⅲb・Ⅲc層地山被熱層)

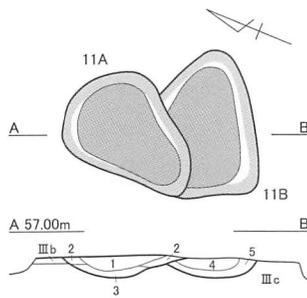
ⅢF-09



ⅢF-09

- 1 5YR 3/2 暗赤褐色 焼土(Ⅲb層地山被熱層)≒焼骨片
- 2 7.5YR 5/8 明褐色 焼土(Ⅲb層地山被熱層)
- 3 7.5YR 3/2 黒褐色 付帯黒色土層

ⅢF-11A・11B



ⅢF-11A

- 1 5YR5/4 にぶい赤褐色 焼土(Ⅲb層地山被熱層)
- 2 10YR3/1 黒褐色 Ⅲb層付帯黒色土層≒焼土粒(斑状)
- 3 7.5YR3/1 黒褐色 Ⅲc層付帯黒色土層≒焼土粒(斑状)

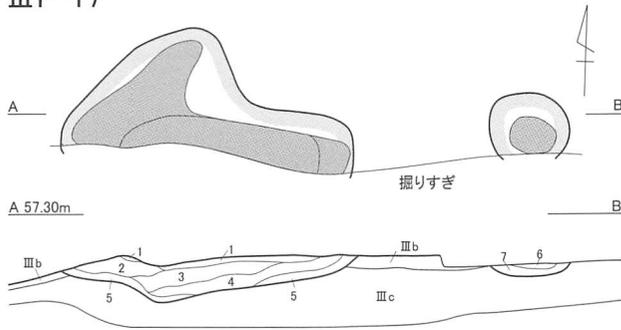
ⅢF-11B

- 4 5YR5/4 にぶい赤褐色 焼土(Ⅲb層地山被熱層)
- 5 7.5YR3/1 黒褐色 Ⅲc層地山被熱層≒焼土粒(斑状)



図Ⅱ-38 焼土平面及び断面図(1)

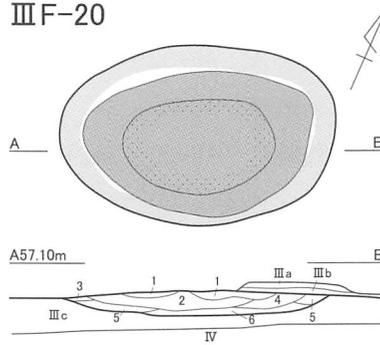
ⅢF-17



ⅢF-17

- 1 7.5YR 2/1 黒色 燃焼面黒色土=焼土粒・炭化物
- 2 5YR 6/6 橙色 焼土(Ⅲb層地山被熱層)
- 3 5YR 3/2 暗赤褐色 焼土(Ⅲb~Ⅲc層地山被熱層)
- 4 5YR 5/4 にぶい赤褐色 焼土(Ⅲc層地山被熱層)
- 5 5YR 2/1 黒褐色 付帯黒色土層
- 6 7.5YR 6/4 にぶい橙色 焼土(Ⅲb層地山被熱層)
- 7 7.5YR 3/1 黒褐色 付帯黒色土層

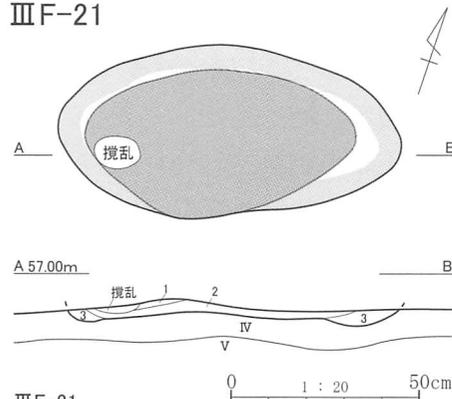
ⅢF-20



ⅢF-20

- 1 2.5 YR2/2 赤黒色 燃焼面黒褐色土=焼土粒=炭化物・焼骨片
- 2 5YR 5/6 明赤褐色 焼土(Ⅲb~Ⅲc地山被熱層)=B-Tm(斑状)
- 3 5YR 2/1 黒褐色 付帯黒色土層 B-Tm含む
- 4 2.5YR 3/1 暗赤灰色 Ⅲc+焼土(斑状)
- 5 2.5YR 2/2 極暗赤褐色 付帯黒色土層+焼骨片
- 6 5YR 3/1 黒褐色 Ⅲc+焼土粒(斑状)

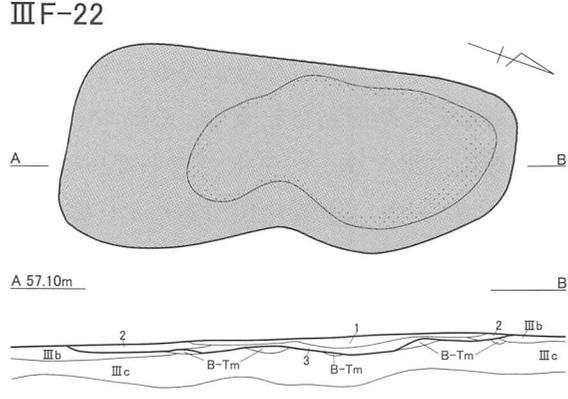
ⅢF-21



ⅢF-21

- 1 5YR5/6 明赤褐色 焼土(Ⅲc層地山被熱層)
- 2 7.5YR5/6 明褐色 焼土(Ⅲc~Ⅳ層地山被熱層)
- 3 2.5YR2/1 赤黒色 付帯黒色土 Ⅲc~Ⅳ層主体

ⅢF-22



ⅢF-22

- 1 7.5YR 5/6 明褐色 焼土(Ⅲb層地山被熱層)=焼骨片
- 2 2.5YR 3/1 暗赤灰色 焼土(Ⅲb層地山被熱層)=焼骨片
- 3 5YR 3/1 黒褐色 付帯黒色土=焼土粒

図II-39 焼土平面及び断面図(2)

表II-49 焼土属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅱ-38	20-3・4	ⅢF-04	Y-36	ⅢbL	楕円形	70.6	48.6	10.0	骨片	
Ⅱ-38	20-5・6	ⅢF-05	X-34	ⅢbL	不整形	142.4	115.9	6.0	骨片	
Ⅱ-38	20-7・8	ⅢF-06	U-41	ⅢbL	楕円形	70.2	49.2	5.8	骨片	
Ⅱ-38	21-1・2	ⅢF-09	AA-38	ⅢbL	楕円形	78.0	50.0	8.0	骨片	
Ⅱ-38	21-3・4	ⅢF-10	AA-39	ⅢbL	楕円形	70.0	37.2	6.8	骨片	
Ⅱ-38	21-5・6	ⅢF-11A・B	AA-40 AB-40	Ⅲc	楕円形	51.6	39.0	5.8	骨片	
Ⅱ-39	21-7・8	ⅢF-17	W-35 X-35	ⅢbL	楕円形	(76.0) 21.0	(31.4) (15.0)	8.6 4.2	-	
Ⅱ-39	22-1・2	ⅢF-20	AD-31 AE-31	ⅢbL	楕円形	74.0	47.6	7.0	骨片	
Ⅱ-39	22-3・4	ⅢF-21	AD-30	ⅢbL	楕円形	89.7	47.3	4.0	骨片	
Ⅱ-39	22-5・6	ⅢF-22	AD-33	ⅢbL	楕円形	119.4	44.6	5.6	骨片	

## 第6節 杭列跡（杭列跡A・B・C）

位置：杭列跡A AE-32～34、AD-35、AC-36・37、AB-37～40、AA-40・41

杭列跡B AE-33・34、AD-34、AC-35、AB-36、AA-36・37、Z-38、Y-39

杭列跡C AE-33・34、AD-34

規模・本数：杭列跡A 50.8m（222本）、杭列跡B 43.0m（136本）、杭列跡C 4.2m（14本）

長軸方向：杭列跡A N-58° W（東側）・N-69° W（西側）杭列跡B N-44° W 杭列跡C N-45° W

**規模・形態等** 調査区中央部の平坦面で広範囲に伸びる杭列跡3条を検出した。一部途切れる部分があるものの杭列跡Aは延長50.8mに222本、Bは延長43.0mに136本、Cは延長4.2mに14本の杭跡を検出した。列の方向は概ね北西-南東軸であるが、杭列跡Aは中央部付近で西へ11°列の方向が変換する。B・Cについては概ね直線的な配列である。A・Bは北西に幅約15mで「V」字状に開口し、南東側へ向かうにつれて徐々に狭くなりAE-33区で統合する。A・Bの南東側交点の付近にCが位置している。杭列跡を検出した時点でAD-35区の北側はⅢc層中位まで掘り下げていたため杭跡が消失した可能性が高いが、その他の部分では小規模な攪乱等を除き周辺と同一層位でありながら検出出来なかったため、元々配列が無かったと思われる。Aの西端は調査区拡張の結果、拡張区の西5.9mの地点まで伸びた。杭列跡は検出面での写真撮影と平面図実測後、半截し断面の写真撮影と断面図を記録し、最後に全景写真を撮影し調査を終了した。

検出層位はⅢc層上～中位が大半である。杭の打ち込み面を断面で確認できたのは1ヶ所（ⅢKPX-248）のみで、Ⅲb層中位であった。確認面での直径は3条とも5cm前後である。杭間の距離はA・Bで約20cm Cで約30cmの間隔でほぼ直線状に並び、検出面からの深さは5～15cmの打ち込み杭である。覆土は何れもⅢb層を主体とするものであった。土層断面実測ラインは列と直交または平行する方向で半截し、杭跡の傾きを把握するように注意した。杭の傾きは直立するものから30°前後であるが傾きは10°以内のものが主体を占めほぼ直立に近い。杭跡が重複するのは1例のみ確認した（ⅢKPX-014・363）。

**時期と性格** 杭列跡A・B・Cの3条が同一時期に存在していたか断定できないが、杭列跡は重複がほとんど無く杭の太さや間隔、打ち込まれた深さがほぼ一定であること、覆土がⅢb層主体で共通することなどの状況から同時期性は高いと考えられる。集中区1でA・Bの杭列跡がV字状開口することから、後述する「エゾシカの追い込み猟」に利用されたとしたならば、遺物の散乱が認められるのではないかと考え、そのような状況がⅢPB-06に看取でき、集中区1形成後に構築された可能性がある。覆土は全てⅢb層主体であることから、擦文文化期後期以降の所産と考えられ、層位的な矛盾もない。3条の杭列跡が同時期に機能していたと仮定するならば、エゾシカを対象とした追い込み猟の施設の可能性が想定できる。杭列の間隔が約20cmであることから小動物はすり抜けてしまうが、V字状の開口部から追い込まれた大型獣のエゾシカは南東部の杭列跡C付近で身動きが取れなくなり、捕獲施設として有効と考えられる。この地区の遺跡から出土する動物遺体もシカが圧倒的に多いことから捕獲対象動物はエゾシカであった可能性が高い。今後の検出例に期待する。

（荻野）

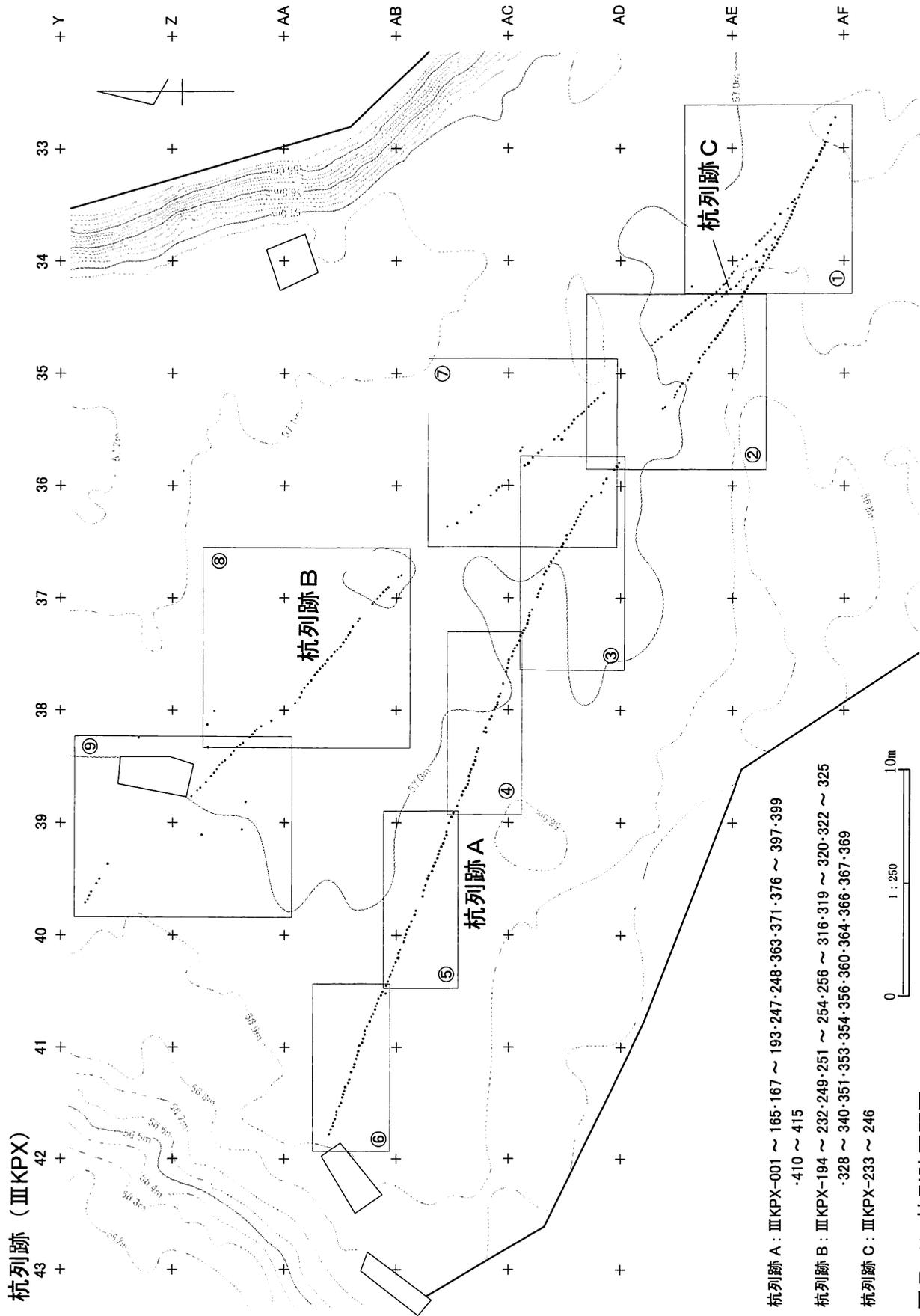
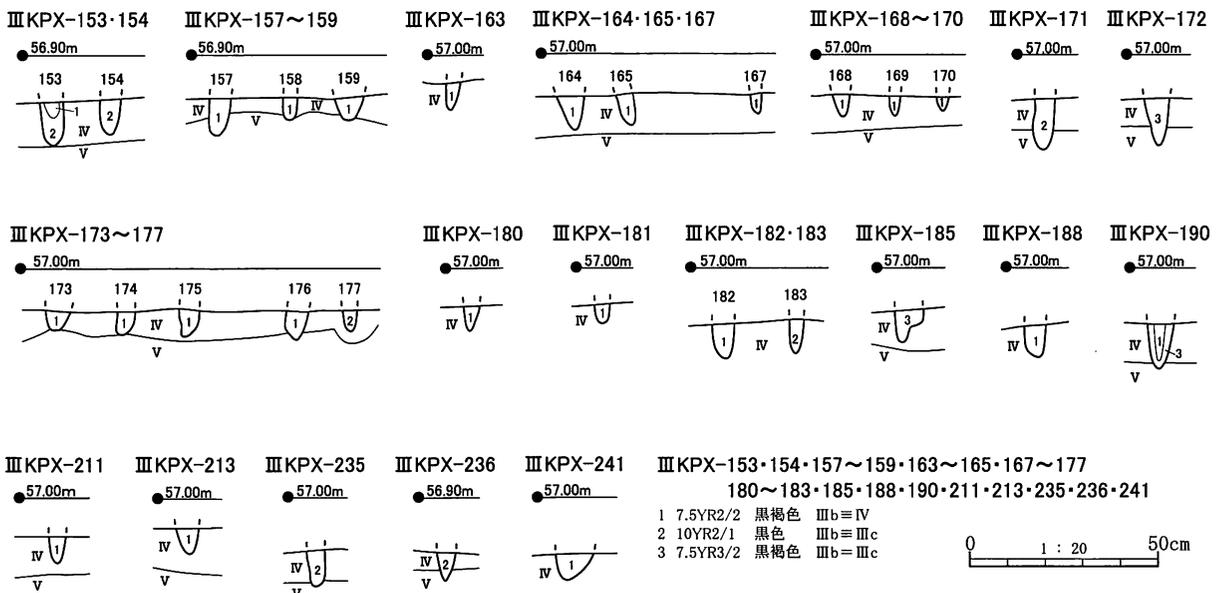
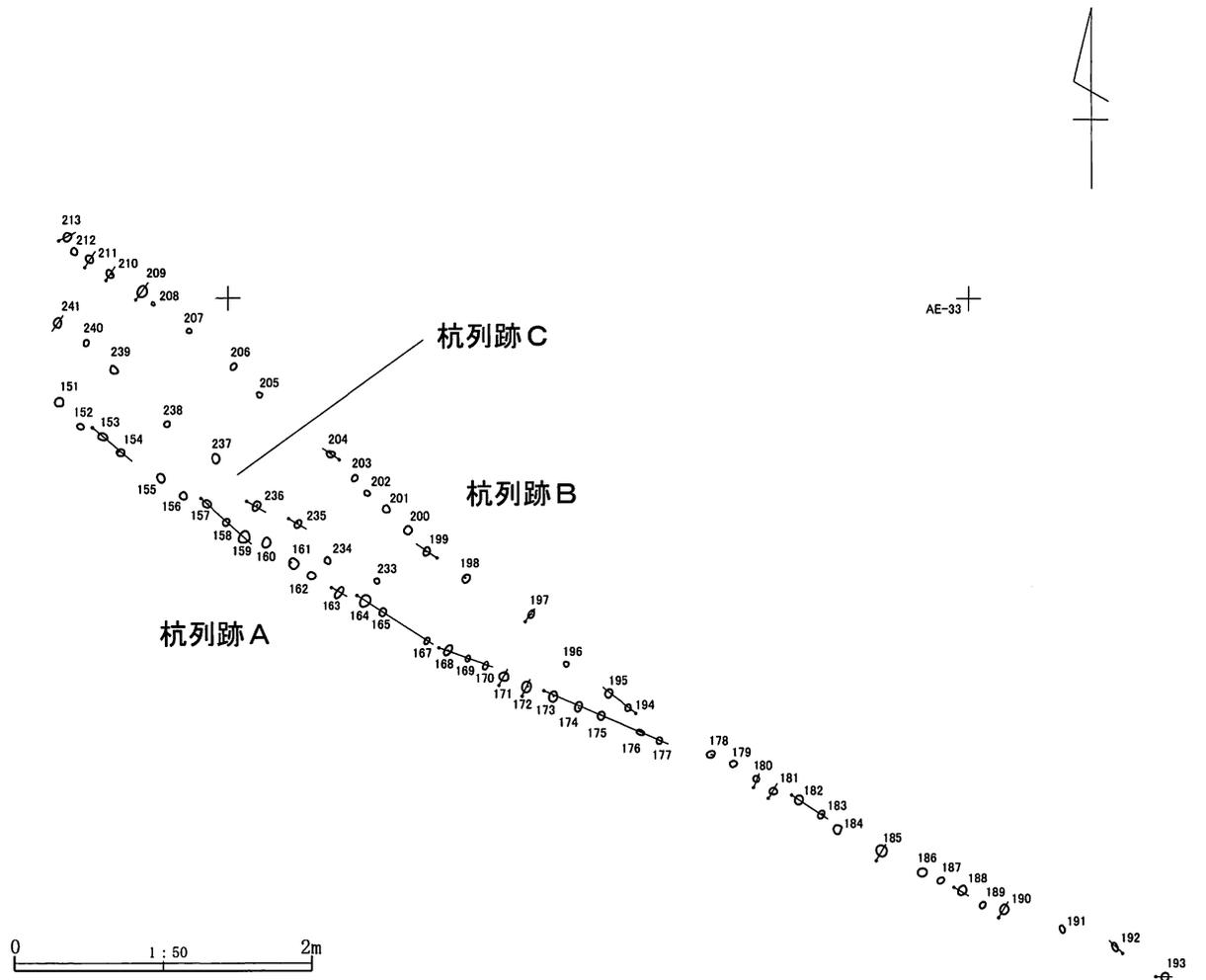


図 II-40 杭列跡平面図

ⅢKPX-151~165・167~213・233~241

①



図Ⅱ-41 杭列跡平面及び断面図(1)

Ⅲ KPX-120~150・214~232・242~246・249~254・375

②

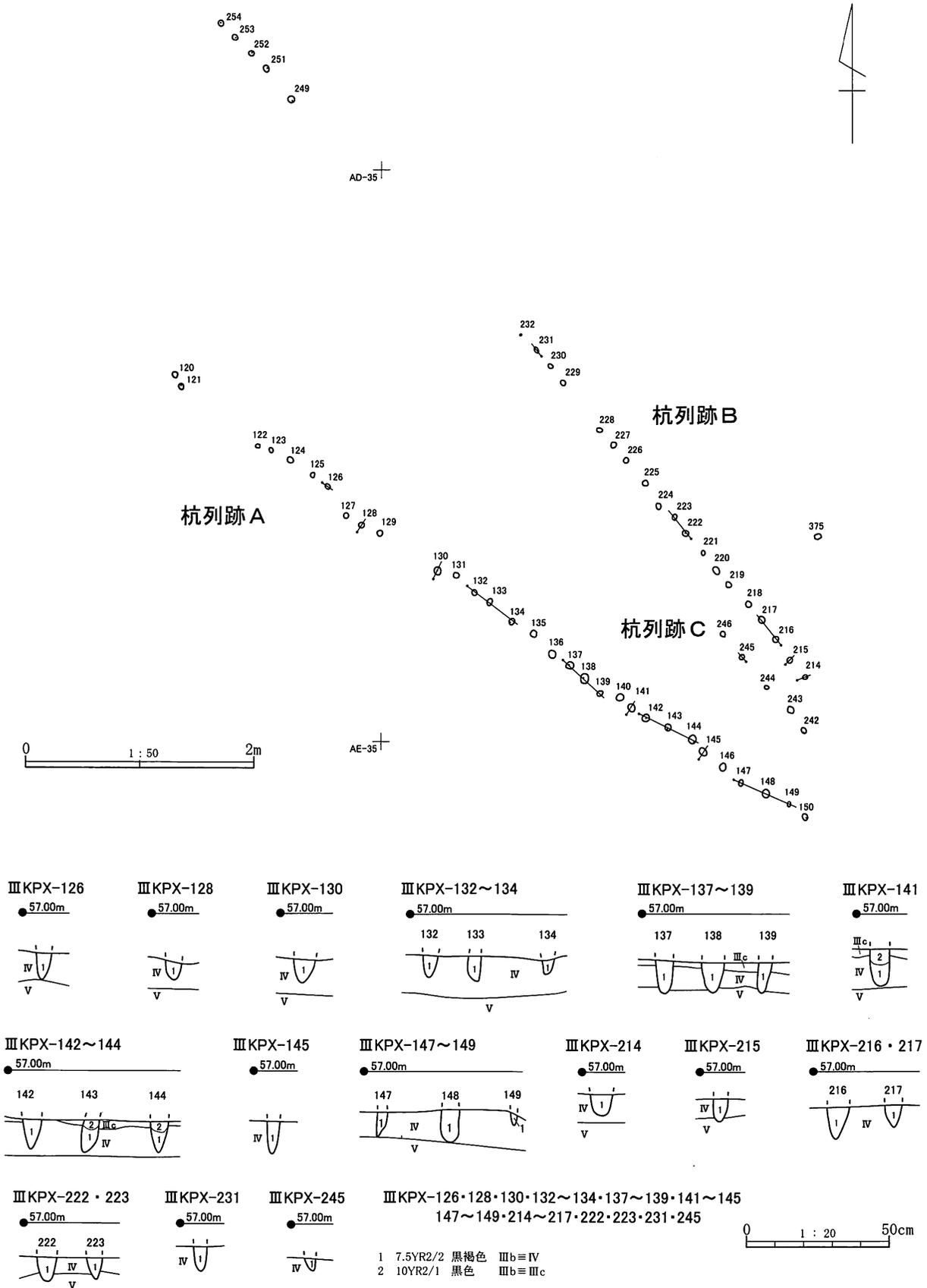
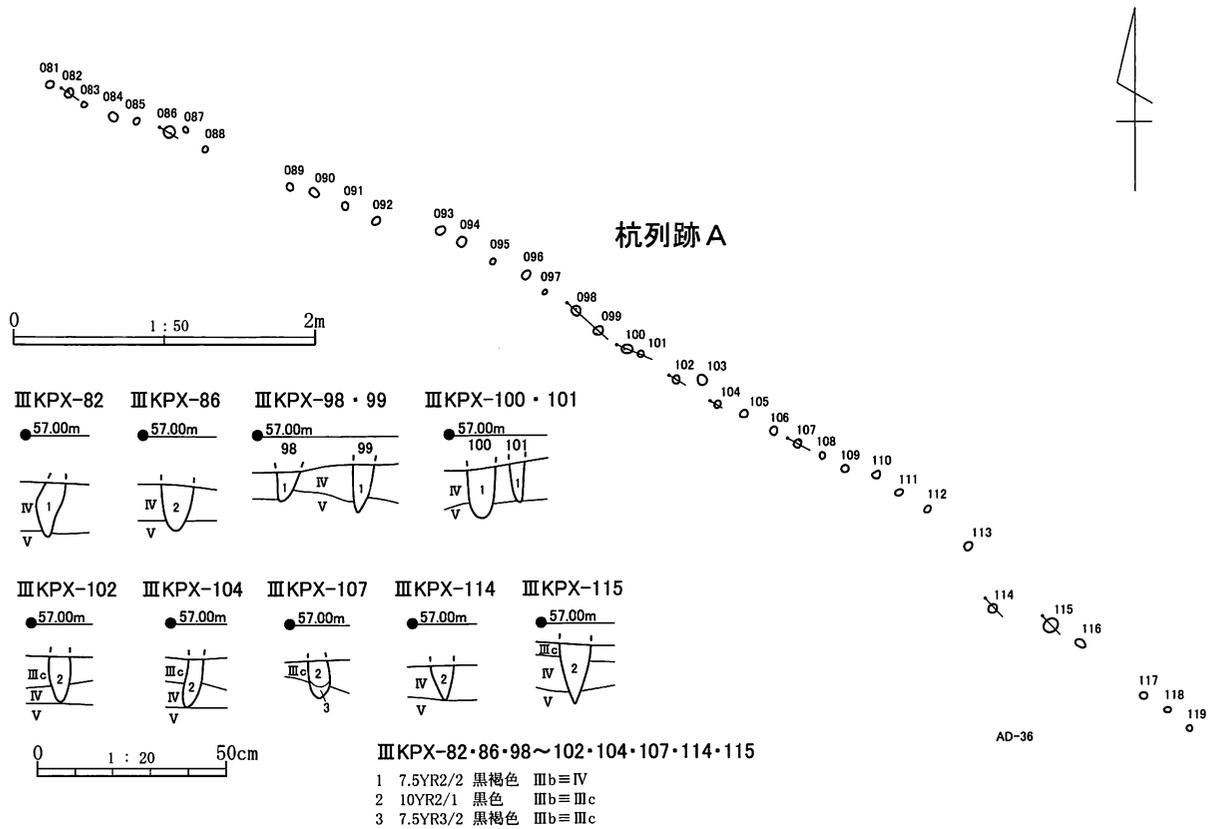


図 II-42 杭列跡平面及び断面図(2)

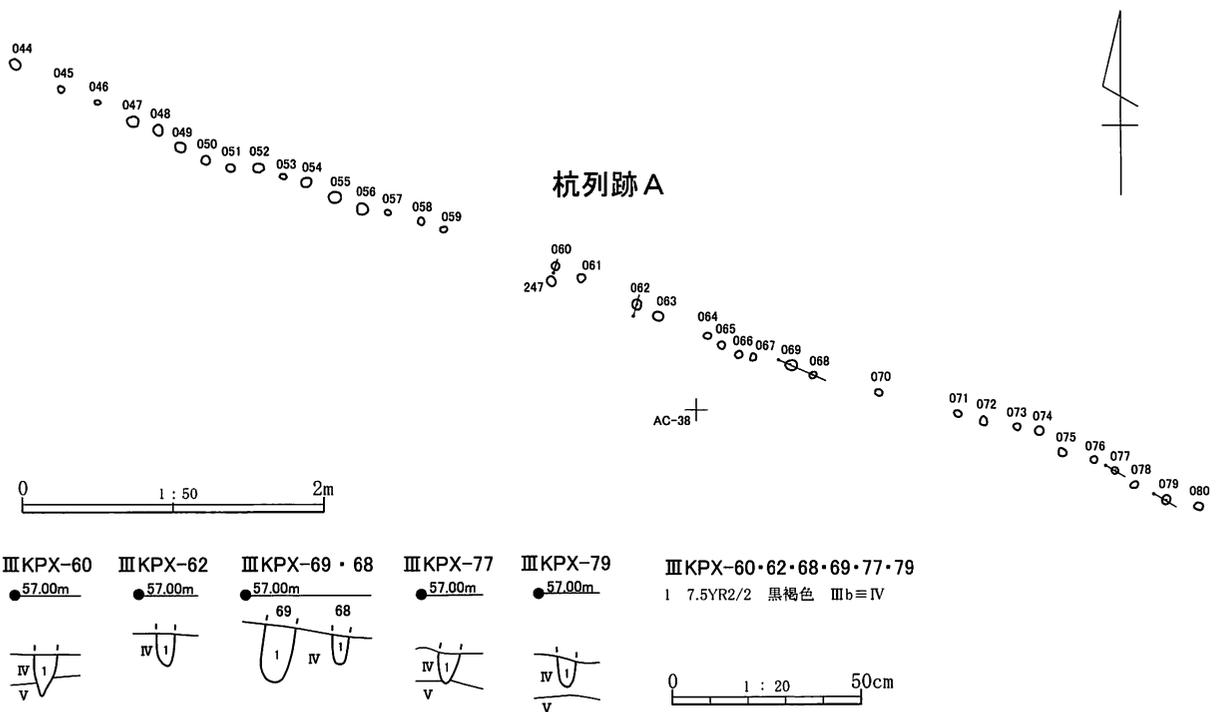
ⅢKPX-080~119

③



ⅢKPX-044~080・247

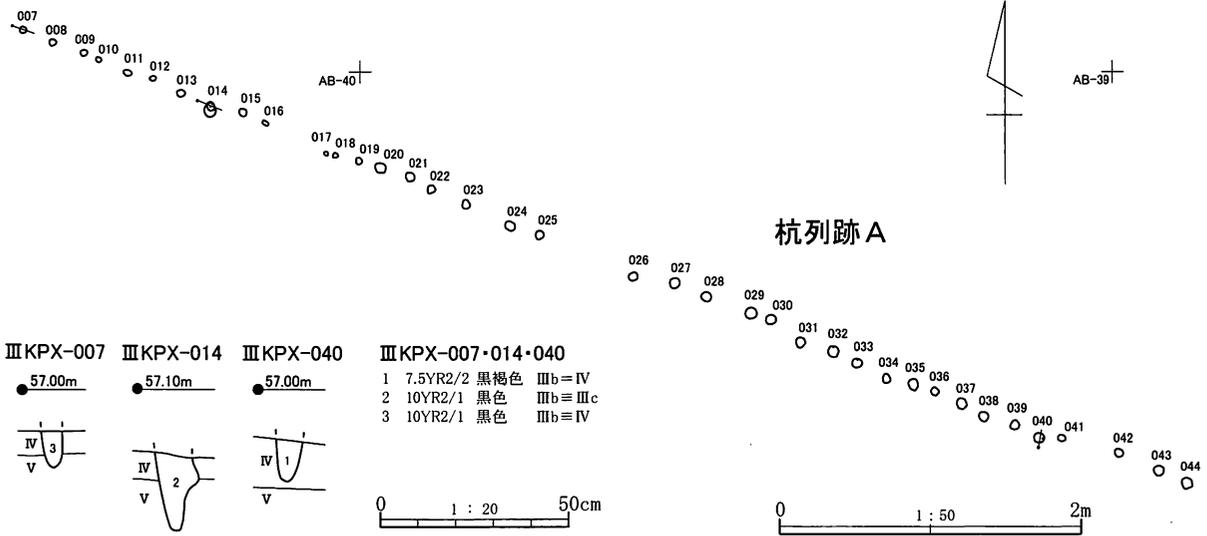
④



図Ⅱ-43 杭列跡平面及び断面図(3)

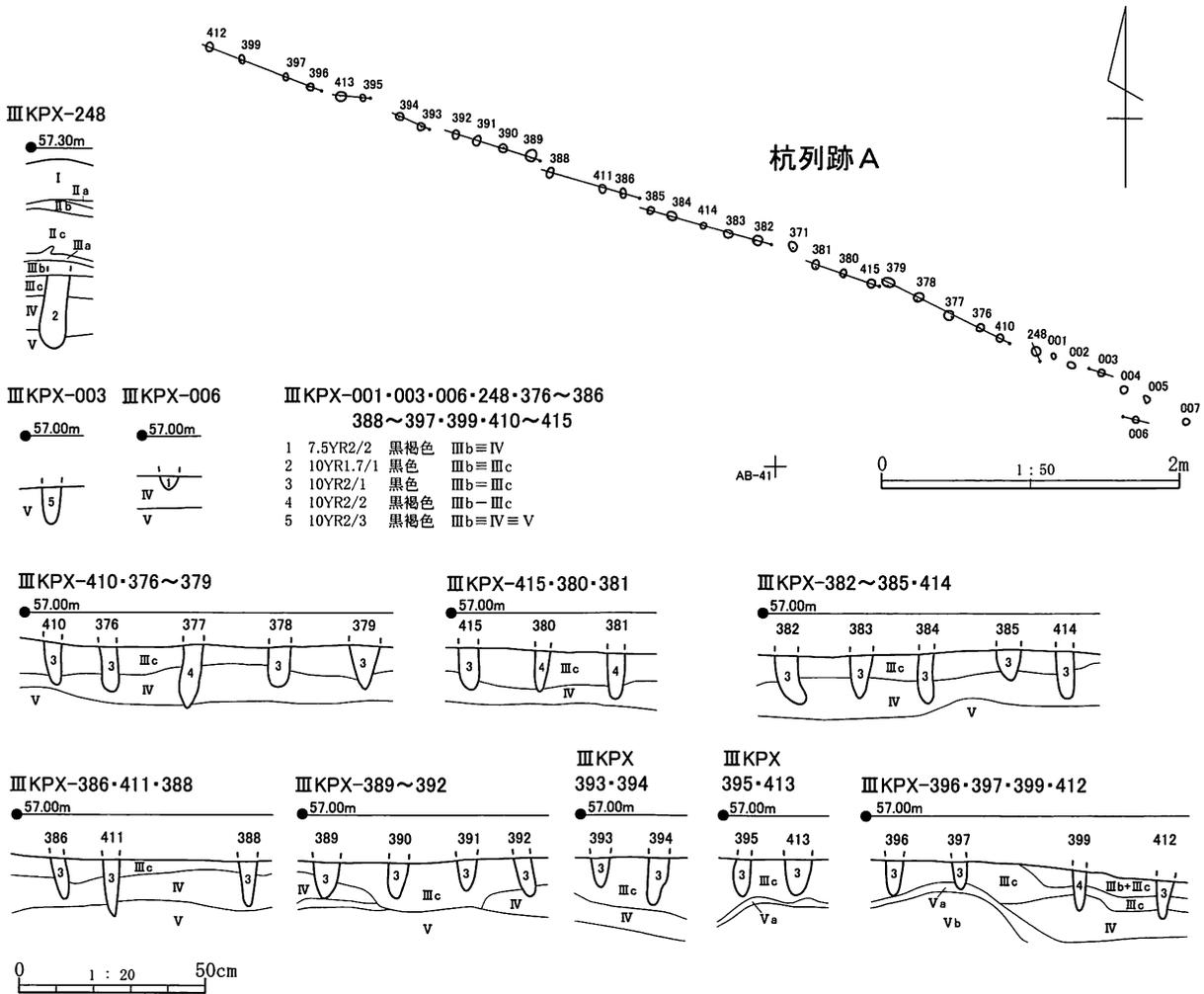
Ⅲ KPX-007~044

⑤



Ⅲ KPX-001~007・248・371・376~386・388~397・399・410~415

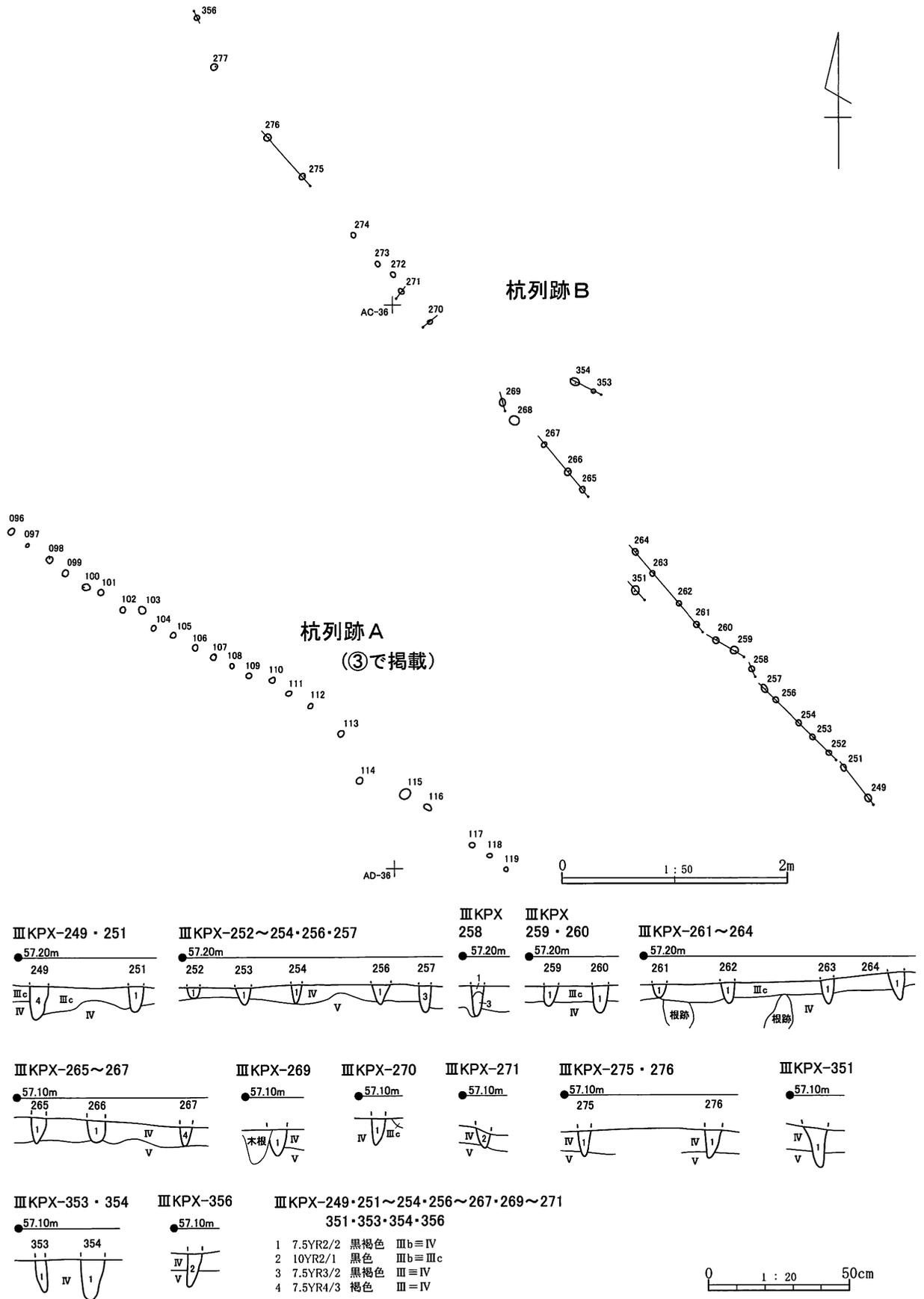
⑥



図Ⅱ-44 杭列跡平面及び断面図(4)

ⅢKPX-249・251～254・256～277・351・353・354・356

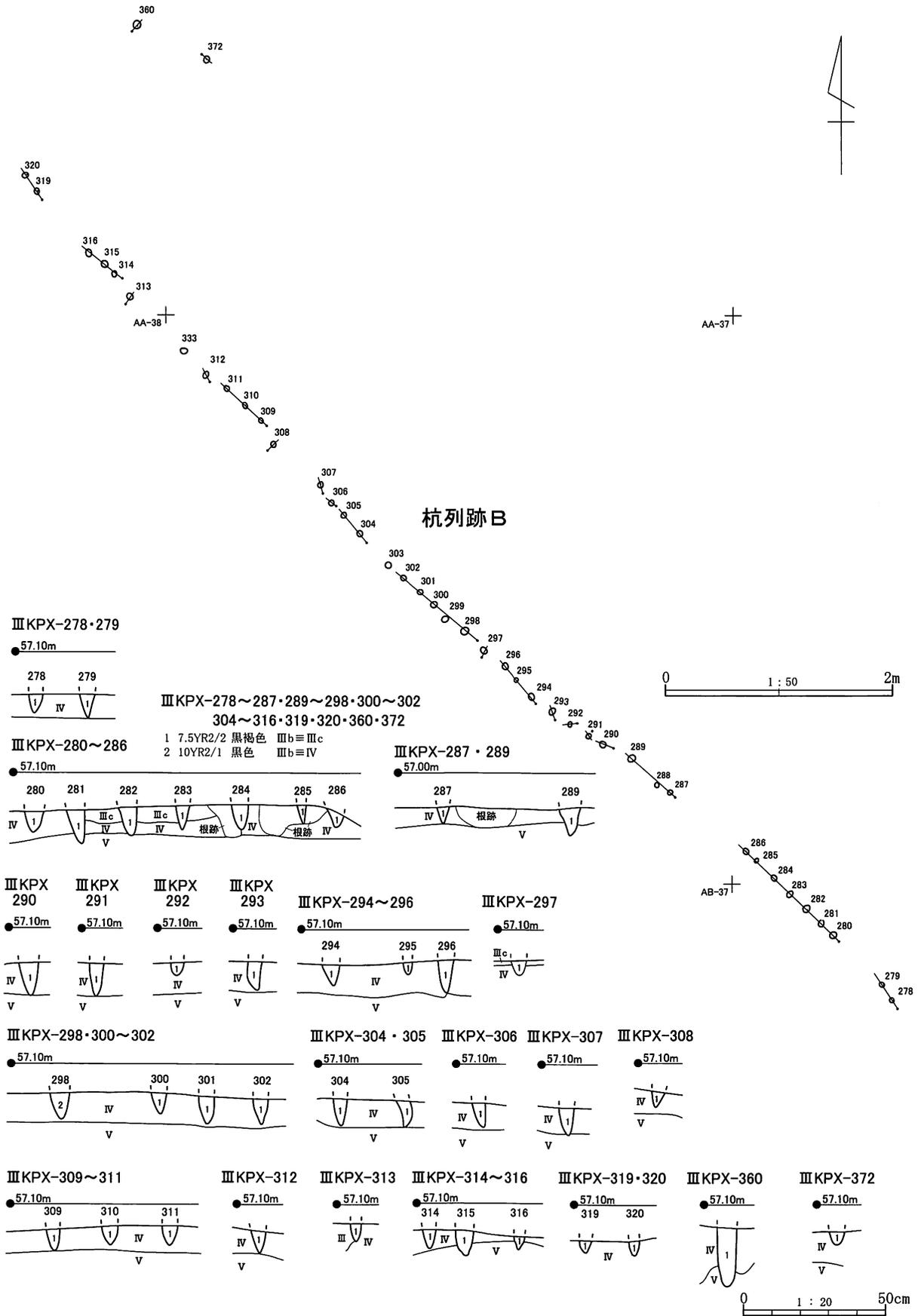
⑦



図Ⅱ-45 杭列跡平面及び断面図(5)

ⅢKPX-278~316・319・320・333・360・372

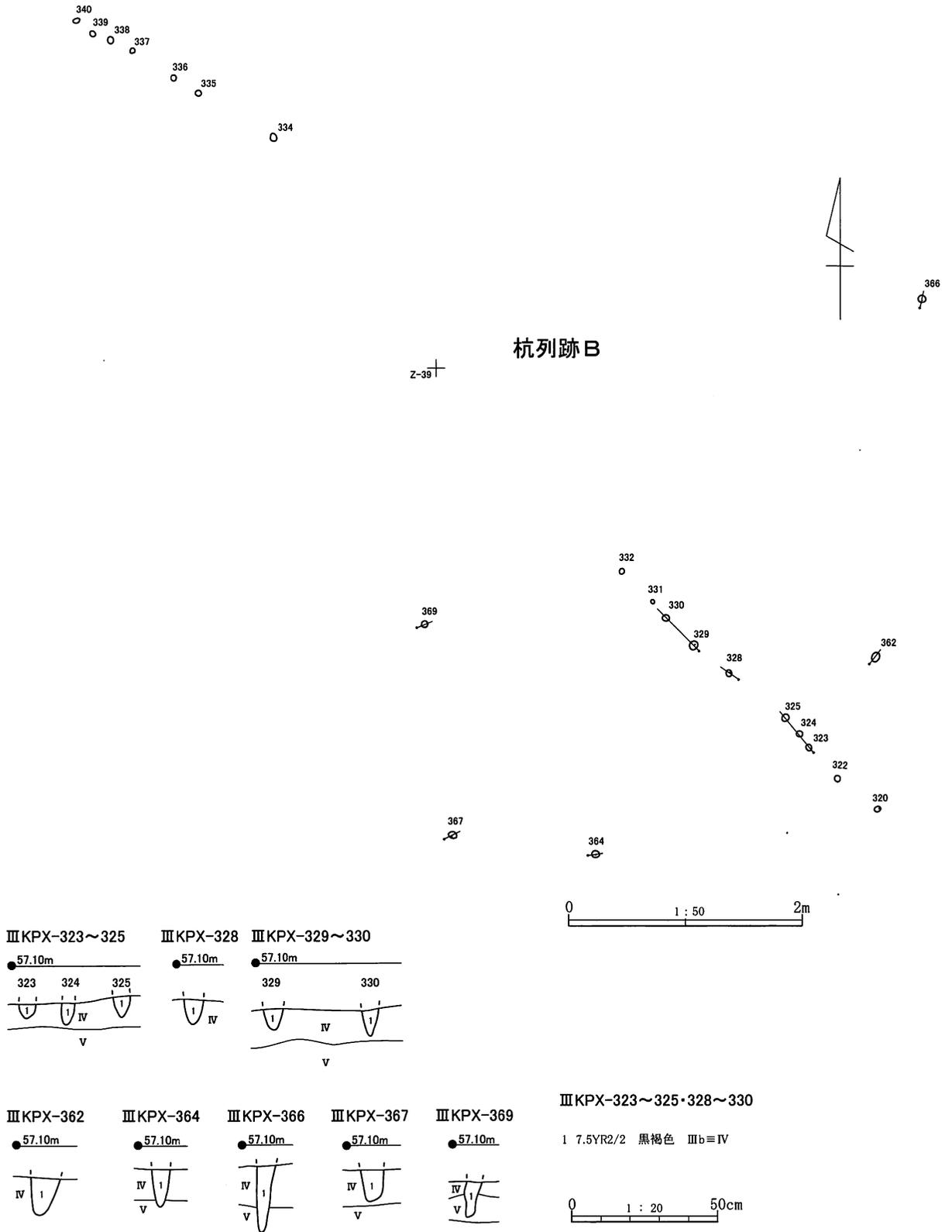
⑧



図II-46 杭列跡平面及び断面図(6)

Ⅲ KPX-320・322~325・328~332・334~340・362・364・366・367・369

⑨



図Ⅱ-47 杭列跡平面及び断面図(7)

表II-50 杭列跡属性表

挿図 番号	図版 番号	列	遺構名	グリッド	規模 (cm)			傾き (度)	タイプ	備考	挿図 番号	図版 番号	列	遺構名	グリッド	規模 (cm)			傾き (度)	タイプ	備考
					上端	下端	深さ									上端	下端	深さ			
II-44	23-1-2	A	III KPX001	AA-40	4	-	-	-	打込み		II-43	24-4	A	III KPX079	AD-37	7	2	7	0	打込み	
II-44	23-1-2	A	III KPX002	AA-40	6	-	-	-	打込み		II-43	23-1-2	A	III KPX080	AD-37	6	-	-	-	打込み	
II-44	23-1-2	A	III KPX003	AA-40	5	2	10	0	打込み		II-43	23-1-2	A	III KPX081	AD-37	6	-	-	-	打込み	
II-44	23-1-2	A	III KPX004	AA-40	6	-	-	-	打込み		II-43	23-1-2	A	III KPX082	AD-37	7	2	14	3	打込み	
II-44	23-1-2	A	III KPX005	AA-40	6	-	-	-	打込み		II-43	23-1-2	A	III KPX083	AD-37	5	-	-	-	打込み	
II-44	23-1-2	A	III KPX006	AA-40	4	2	3	0	打込み		II-43	23-1-2	A	III KPX084	AD-37	6	-	-	-	打込み	
II-44	23-1-2	A	III KPX007	AA-40	5	2	9	17	打込み		II-43	23-1-2	A	III KPX085	AD-37	5	-	-	-	打込み	
II-44	23-1-2	A	III KPX008	AA-40	5	-	-	-	打込み		II-43	23-1-2	A	III KPX086	AD-37	6	3	12	14	打込み	
II-44	23-1-2	A	III KPX009	AA-40	5	1	10	6	打込み		II-43	23-1-2	A	III KPX087	AD-37	3	-	-	-	打込み	
II-44	23-1-2	A	III KPX010	AA-40	4	-	-	-	打込み		II-43	23-1-2	A	III KPX088	AD-37	5	-	-	-	打込み	
II-44	23-1-2	A	III KPX011	AA-40	5	-	-	-	打込み		II-43	23-1-2	A	III KPX089	AC-36	6	-	-	-	打込み	
II-44	23-1-2	A	III KPX012	AB-40	5	-	-	-	打込み		II-43	23-1-2	A	III KPX090	AC-36	10	-	-	-	打込み	
II-44	23-1-2	A	III KPX013	AB-40	6	-	-	-	打込み		II-43	23-1-2	A	III KPX091	AC-36	6	-	-	-	打込み	
II-44	23-1-2	A	III KPX014	AB-40	10	-	-	-	打込み		II-43	23-1-2	A	III KPX092	AC-36	6	-	-	-	打込み	
II-44	23-1-2	A	III KPX015	AB-40	7	-	-	-	打込み		II-43	23-1-2	A	III KPX093	AC-36	7	-	-	-	打込み	
II-44	23-1-2	A	III KPX016	AB-40	5	-	-	-	打込み		II-43	23-1-2	A	III KPX094	AC-36	7	-	-	-	打込み	
II-44	23-1-2	A	III KPX017	AB-40	3	-	-	-	打込み		II-43	23-1-2	A	III KPX095	AC-36	4	-	-	-	打込み	
II-44	23-1-2	A	III KPX018	AB-40	4	-	-	-	打込み		II-43	23-1-2	A	III KPX096	AC-36	7	-	-	-	打込み	
II-44	23-1-2	A	III KPX019	AB-39	5	-	-	-	打込み		II-43	23-1-2	A	III KPX097	AC-36	4	-	-	-	打込み	
II-44	23-1-2	A	III KPX020	AB-39	9	-	-	-	打込み		II-43	23-1-2	A	III KPX098	AC-36	6	2	8	3	打込み	
II-44	23-1-2	A	III KPX021	AB-39	7	-	-	-	打込み		II-43	23-1-2	A	III KPX099	AC-36	5	1	13	6	打込み	
II-44	23-1-2	A	III KPX022	AB-39	6	1	6	3	打込み		II-43	23-1-2	A	III KPX100	AC-36	5	3	13	8	打込み	
II-44	23-1-2	A	III KPX023	AB-39	7	-	-	-	打込み		II-43	23-1-2	A	III KPX101	AC-36	6	2	10	0	打込み	
II-44	23-1-2	A	III KPX024	AB-39	8	-	-	-	打込み		II-43	23-1-2	A	III KPX102	AC-36	6	2	12	5	打込み	
II-44	23-1-2	A	III KPX025	AB-39	7	-	-	-	打込み		II-43	23-1-2	A	III KPX103	AC-36	7	-	-	-	打込み	
II-44	23-1-2	A	III KPX026	AB-39	6	-	-	-	打込み		II-43	23-1-2	A	III KPX104	AC-36	6	2	13	12	打込み	
II-44	23-1-2	A	III KPX027	AB-39	8	-	-	-	打込み		II-43	23-1-2	A	III KPX105	AC-36	6	-	-	-	打込み	
II-44	23-1-2	A	III KPX028	AB-39	7	-	-	-	打込み		II-43	23-1-2	A	III KPX106	AC-36	6	-	-	-	打込み	
II-44	23-1-2	A	III KPX029	AB-39	9	-	-	-	打込み		II-43	23-1-2	A	III KPX107	AC-36	6	3	10	8	打込み	
II-44	23-1-2	A	III KPX030	AB-39	7	-	-	-	打込み		II-43	23-1-2	A	III KPX108	AC-36	4	-	-	-	打込み	
II-44	23-1-2	A	III KPX031	AB-39	8	-	-	-	打込み		II-43	23-1-2	A	III KPX109	AC-36	6	-	-	-	打込み	
II-44	23-1-2	A	III KPX032	AB-39	8	2	7	12	打込み		II-43	23-1-2	A	III KPX110	AC-36	6	-	-	-	打込み	
II-44	23-1-2	A	III KPX033	AB-39	8	1	9	4	打込み		II-43	23-1-2	A	III KPX111	AC-36	4	-	-	-	打込み	
II-44	23-1-2	A	III KPX034	AB-39	7	-	-	-	打込み		II-43	23-1-2	A	III KPX112	AC-36	6	-	-	-	打込み	
II-44	23-1-2	A	III KPX035	AB-39	9	-	-	-	打込み		II-43	23-1-2	A	III KPX113	AC-36	7	-	-	-	打込み	
II-44	23-1-2	A	III KPX036	AB-39	6	-	-	-	打込み		II-43	23-1-2	A	III KPX114	AC-36	7	1	9	2	打込み	
II-44	23-1-2	A	III KPX037	AB-39	8	-	-	-	打込み		II-43	23-1-2	A	III KPX115	AC-35	8	1	15	2	打込み	
II-44	23-1-2	A	III KPX038	AB-39	6	-	-	-	打込み		II-43	23-1-2	A	III KPX116	AC-35	7	-	-	-	打込み	
II-44	23-1-2	A	III KPX039	AB-39	7	-	-	-	打込み		II-43	23-1-2	A	III KPX117	AC-35	5	-	-	-	打込み	
II-44	23-1-2	A	III KPX040	AB-39	7	3	10	14	打込み		II-42・43	23-1-2	A	III KPX118	AC-35	4	-	-	-	打込み	
II-44	23-1-2	A	III KPX041	AB-39	5	-	-	-	打込み												
II-44	23-1-2	A	III KPX042	AB-38	7	-	-	-	打込み												
II-44	23-1-2	A	III KPX043	AB-38	7	-	-	-	打込み												
II-43・44	23-1-2	A	III KPX044	AB-38	9	-	-	-	打込み		II-42	23-1-2	A	III KPX119	AD-35	4	-	-	-	打込み	
II-43	23-1-2	A	III KPX045	AB-38	4	-	-	-	打込み		II-42	23-1-2	A	III KPX120	AD-35	5	-	-	-	打込み	
II-43	23-1-2	A	III KPX046	AB-38	4	-	-	-	打込み		II-42	23-1-2	A	III KPX121	AD-35	5	1	11	-	打込み	
II-43	23-1-2	A	III KPX047	AB-38	8	-	-	-	打込み		II-42	23-1-2	A	III KPX122	AD-35	4	-	-	-	打込み	
II-43	23-1-2	A	III KPX048	AB-38	8	-	-	-	打込み		II-42	23-1-2	A	III KPX123	AD-35	3	1	6	5	打込み	
II-43	23-1-2	A	III KPX049	AB-38	8	-	-	-	打込み		II-42	23-1-2	A	III KPX124	AD-35	3	1	10	-	打込み	
II-43	23-1-2	A	III KPX050	AB-38	7	-	-	-	打込み		II-42	23-1-2	A	III KPX125	AD-35	5	1	9	7	打込み	
II-43	23-1-2	A	III KPX051	AB-38	6	-	-	-	打込み		II-42	23-1-2	A	III KPX126	AD-35	6	2	9	-	打込み	
II-43	23-1-2	A	III KPX052	AB-38	7	-	-	-	打込み		II-42	23-1-2	A	III KPX127	AD-35	6	-	-	-	打込み	
II-43	23-1-2	A	III KPX053	AB-38	5	-	-	-	打込み		II-42	23-1-2	A	III KPX128	AD-35	5	3	6	5	打込み	
II-43	23-1-2	A	III KPX054	AB-38	8	-	-	-	打込み		II-42	23-1-2	A	III KPX129	AD-34	5	1	8	2	打込み	
II-43	23-1-2	A	III KPX055	AB-38	9	-	-	-	打込み		II-42	23-1-2	A	III KPX130	AD-34	7	3	12	9	打込み	
II-43	23-1-2	A	III KPX056	AB-38	8	-	-	-	打込み		II-42	23-1-2	A	III KPX131	AD-34	7	-	-	-	打込み	
II-43	23-1-2	A	III KPX057	AB-38	4	-	-	-	打込み		II-42	23-1-2	A	III KPX132	AD-34	6	2	8	15	打込み	
II-43	23-1-2	A	III KPX058	AB-38	5	-	-	-	打込み		II-42	23-1-2	A	III KPX133	AD-34	7	2	9	4	打込み	
II-43	23-1-2	A	III KPX059	AB-38	5	-	-	-	打込み		II-42	23-1-2	A	III KPX134	AD-34	4	2	5	25	打込み	
II-43	23-1-2	A	III KPX060	AB-38	7	1	11	8	打込み		II-42	23-1-2	A	III KPX136	AD-34	7	2	8	7	打込み	
II-43	23-1-2	A	III KPX061	AB-38	6	-	-	-	打込み		II-42	23-1-2	A	III KPX137	AD-34	7	3	12	6	打込み	
II-43	23-1-2	A	III KPX062	AB-38	8	2	9	15	打込み		II-42	23-1-2	A	III KPX138	AD-34	7	3	11	0	打込み	
II-43	23-1-2	A	III KPX063	AB-38	7	-	-	-	打込み		II-42	23-1-2	A	III KPX139	AD-34	6	2	11	13	打込み	
II-43	24-3	A	III KPX064	AB-37	5	-	-	-	打込み		II-42	23-1-2	A	III KPX140	AD-34	6	1	6	0	打込み	
II-43	24-3	A	III KPX065	AB-37	6	-	-	-	打込み		II-42	23-1-2	A	III KPX141	AD-34	7	4	13	10	打込み	
II-43	24-3	A	III KPX066	AB-37	5	-	-	-	打込み		II-42	23-1-2	A	III KPX142	AD-34	7	2	11	0	打込み	
II-43	24-3	A	III KPX067	AB-37	6	-	-	-	打込み		II-42	23-1-2	A	III KPX143	AD-34	7	2	12	11	打込み	
II-43	23-1-2	A	III KPX068	AB-37	6	2	7	2	打込み		II-42	23-1-2	A	III KPX144	AD-34	8	2	11	9	打込み	
II-43	23-1-2	A	III KPX069	AB-37	5	4	15	7	打込み		II-42	23-1-2	A	III KPX145	AD-34	8	2	11	2	打込み	
II-43	23-1-2	A	III KPX070	AB-37	5	-	-	-	打込み		II-42	23-1-2	A	III KPX146	AD-34	7	1	5	8	打込み	
II-43	23-1-2	A	III KPX071	AD-37	5	-	-	-	打込み		II-42	23-1-2	A	III KPX147	AD-34	7	1	8	14	打込み	
II-43	23-1-2	A	III KPX072	AD-37	6	-	-	-	打込み		II-42	23-1-2	A	III KPX148	AD-34	8	3	11	5	打込み	
II-43	23-1-2	A	III KPX073	AD-37	6	-	-	-	打込み		II-42	23-1-2	A	III KPX149	AD-34	8	2	4	22	打込み	
II-43	23-1-2	A	III KPX074	AD-37	7	-	-	-	打込み		II-42	23-1-2	A	III KPX150	AD-34	6	1	8	8	打込み	
II-43	23-1-2	A	III KPX075	AD-37	7	-	-	-	打込み		II-41	23-1-2	A	III KPX151	AD						

表Ⅱ-50 杭列跡属性表(続き)

挿図番号	図版番号	列	遺構名	グリッド	規模(cm)			傾き(度)	タイプ	備考	挿図番号	図版番号	列	遺構名	グリッド	規模(cm)			傾き(度)	タイプ	備考
					上端	下端	深さ									上端	下端	深さ			
Ⅱ-41	23-1・2	A	ⅢKPX156	AD-34	6	-	-	-	打込み		Ⅱ-41	23-1・2	C	ⅢKPX235	AE-33	6	3	10	11	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	A	ⅢKPX157	AD-34	5	3	10	4	打込み		Ⅱ-41	23-1・2	C	ⅢKPX236	AE-33	7	2	7	4	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	A	ⅢKPX158	AD-34	5	2	6	2	打込み		Ⅱ-41	23-1・2	C	ⅢKPX237	AE-34	7	-	-	-	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	A	ⅢKPX159	AE-33	7	3	6	20	打込み		Ⅱ-41	23-1・2	C	ⅢKPX238	AE-34	5	-	-	-	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	A	ⅢKPX160	AE-33	8	2	12	2	打込み		Ⅱ-41	23-1・2	C	ⅢKPX239	AE-34	5	-	-	-	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	A	ⅢKPX161	AE-33	8	2	12	17	打込み		Ⅱ-41	23-1・2	C	ⅢKPX240	AE-34	5	-	-	-	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	A	ⅢKPX162	AE-33	6	-	-	-	打込み		Ⅱ-41	23-1・2	C	ⅢKPX241	AE-34	7	4	7	7	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	A	ⅢKPX163	AE-33	8	2	7	6	打込み		Ⅱ-41・42	23-1・2	C	ⅢKPX242	AD-34	5	1	9	15	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	A	ⅢKPX164	AE-33	8	2	9	9	打込み		Ⅱ-41・42	23-1・2	C	ⅢKPX243	AD-34	7	-	-	-	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	A	ⅢKPX165	AE-33	5	2	8	3	打込み		Ⅱ-42	23-1・2	C	ⅢKPX244	AD-34	5	-	-	-	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	A	ⅢKPX167	AE-33	6	1	5	9	打込み		Ⅱ-42	23-1・2	C	ⅢKPX245	AD-34	4	2	4	7	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	A	ⅢKPX168	AE-33	5	2	6	1	打込み		Ⅱ-42	23-1・2	C	ⅢKPX246	AD-34	6	-	-	-	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	A	ⅢKPX169	AE-33	5	2	5	6	打込み		Ⅱ-43	23-1・2	A	ⅢKPX247	AB-38	7	-	-	-	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	A	ⅢKPX170	AE-33	4	2	3	25	打込み		Ⅱ-44	24-2	A	ⅢKPX248	AA-40	6	5	19	5	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	A	ⅢKPX171	AE-33	6	3	14	9	打込み		Ⅱ-42・45	23-1・2	B	ⅢKPX249	AC-35	6	3	12	9	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	A	ⅢKPX172	AE-33	7	2	13	2	打込み		Ⅱ-42・45	23-1・2	B	ⅢKPX250	AC-35	6	3	9	19	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	A	ⅢKPX173	AE-33	7	3	5	5	打込み		Ⅱ-42・45	23-1・2	B	ⅢKPX252	AC-35	5	3	4	1	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	A	ⅢKPX174	AE-33	5	3	6	10	打込み		Ⅱ-42・45	23-1・2	B	ⅢKPX253	AC-35	5	3	6	14	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	A	ⅢKPX175	AE-33	5	2	7	0	打込み		Ⅱ-42・45	23-1・2	B	ⅢKPX254	AC-35	5	2	6	19	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	A	ⅢKPX176	AE-33	5	3	7	3	打込み		Ⅱ-45	23-1・2	B	ⅢKPX256	AC-35	6	2	7	12	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	A	ⅢKPX177	AE-33	4	3	5	3	打込み		Ⅱ-45	23-1・2	B	ⅢKPX257	AC-35	7	2	9	13	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	A	ⅢKPX178	AE-33	6	2	10	1	打込み		Ⅱ-45	23-1・2	B	ⅢKPX258	AC-35	6	2	11	13	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	A	ⅢKPX179	AE-33	6	-	-	-	打込み		Ⅱ-45	23-1・2	B	ⅢKPX259	AC-35	7	2	7	17	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	A	ⅢKPX180	AE-33	7	2	6	9	打込み		Ⅱ-45	23-1・2	B	ⅢKPX260	AC-35	6	3	10	6	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	A	ⅢKPX181	AE-33	6	2	5	10	打込み		Ⅱ-45	23-1・2	B	ⅢKPX261	AC-35	7	2	5	13	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	A	ⅢKPX182	AE-33	6	3	9	7	打込み		Ⅱ-45	23-1・2	B	ⅢKPX262	AC-35	5	2	7	19	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	A	ⅢKPX183	AE-33	7	2	9	3	打込み		Ⅱ-45	23-1・2	B	ⅢKPX263	AC-35	6	2	9	14	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	A	ⅢKPX184	AE-33	6	-	-	-	打込み		Ⅱ-45	23-1・2	B	ⅢKPX264	AC-35	6	2	10	7	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	A	ⅢKPX185	AE-33	8	3	9	13	打込み		Ⅱ-45	23-1・2	B	ⅢKPX265	AC-35	6	2	9	10	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	A	ⅢKPX186	AE-33	6	-	-	-	打込み		Ⅱ-45	23-1・2	B	ⅢKPX266	AC-35	5	5	8	0	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	A	ⅢKPX187	AE-33	5	-	-	-	打込み		Ⅱ-45	23-1・2	B	ⅢKPX267	AC-35	5	2	7	1	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	A	ⅢKPX188	AE-33	8	3	8	2	打込み		Ⅱ-45	23-1・2	B	ⅢKPX268	AC-35	9	-	-	-	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	A	ⅢKPX189	AE-32	6	-	-	-	打込み		Ⅱ-45	23-1・2	B	ⅢKPX269	AC-35	5	3	10	15	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	A	ⅢKPX190	AE-32	7	2	11	3	打込み		Ⅱ-45	23-1・2	B	ⅢKPX270	AC-35	6	2	9	7	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	A	ⅢKPX191	AE-32	7	1	17	14	打込み		Ⅱ-45	23-1・2	B	ⅢKPX271	AB-35	6	2	6	0	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	A	ⅢKPX192	AE-32	4	1	17	9	打込み		Ⅱ-45	23-1・2	B	ⅢKPX272	AB-35	6	-	-	-	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	A	ⅢKPX193	AE-33	6	2	9	3	打込み		Ⅱ-45	23-1・2	B	ⅢKPX273	AB-36	6	-	-	-	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	B	ⅢKPX194	AE-33	6	1	7	5	打込み		Ⅱ-45	23-1・2	B	ⅢKPX274	AB-36	5	-	-	-	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	B	ⅢKPX195	AE-33	6	2	10	3	打込み		Ⅱ-45	23-1・2	B	ⅢKPX275	AB-36	7	2	9	17	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	B	ⅢKPX196	AE-33	4	-	-	-	打込み		Ⅱ-45	23-1・2	B	ⅢKPX276	AB-36	7	2	10	1	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	B	ⅢKPX197	AE-33	4	1	12	35	打込み		Ⅱ-46	23-1・2	B	ⅢKPX277	AB-36	6	2	4	16	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	B	ⅢKPX198	AE-33	7	1	11	9	打込み		Ⅱ-46	24-5	B	ⅢKPX278	AB-36	5	2	7	17	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	B	ⅢKPX199	AE-33	7	1	10	0	打込み		Ⅱ-46	24-5	B	ⅢKPX279	AB-36	7	1	8	16	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	B	ⅢKPX200	AE-33	6	-	-	-	打込み		Ⅱ-46	23-1・2	B	ⅢKPX280	AB-36	9	3	7	12	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	B	ⅢKPX201	AE-33	6	-	-	-	打込み		Ⅱ-46	23-1・2	B	ⅢKPX281	AB-36	6	2	7	12	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	B	ⅢKPX202	AE-33	6	-	-	-	打込み		Ⅱ-46	23-1・2	B	ⅢKPX282	AB-36	8	2	10	11	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	B	ⅢKPX203	AE-33	7	-	-	-	打込み		Ⅱ-46	23-1・2	B	ⅢKPX283	AB-36	7	2	9	11	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	B	ⅢKPX204	AE-33	7	1	6	2	打込み		Ⅱ-46	23-1・2	B	ⅢKPX284	AA-36	6	3	9	25	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	B	ⅢKPX205	AE-33	4	-	-	-	打込み		Ⅱ-46	23-1・2	B	ⅢKPX285	AA-36	6	1	6	21	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	B	ⅢKPX206	AE-33	5	-	-	-	打込み		Ⅱ-46	23-1・2	B	ⅢKPX286	AA-36	6	3	5	31	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	B	ⅢKPX207	AE-34	4	-	-	-	打込み		Ⅱ-46	23-1・2	B	ⅢKPX287	AA-37	6	2	6	13	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	B	ⅢKPX208	AE-34	4	-	-	-	打込み		Ⅱ-46	23-1・2	B	ⅢKPX288	AA-37	4	-	-	-	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	B	ⅢKPX209	AD-34	5	2	10	10	打込み		Ⅱ-46	23-1・2	B	ⅢKPX289	AA-37	8	3	10	14	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	B	ⅢKPX210	AD-34	6	1	8	7	打込み		Ⅱ-46	23-1・2	B	ⅢKPX290	AA-37	8	2	12	8	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	B	ⅢKPX211	AD-34	6	2	7	15	打込み		Ⅱ-46	23-1・2	B	ⅢKPX291	AA-37	7	2	11	15	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	B	ⅢKPX212	AD-34	5	-	-	-	打込み		Ⅱ-46	23-1・2	B	ⅢKPX292	AA-37	4	3	4	14	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	B	ⅢKPX213	AD-34	7	2	6	6	打込み		Ⅱ-46	23-1・2	B	ⅢKPX293	AA-37	6	2	10	15	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	B	ⅢKPX214	AD-34	5	4	8	22	打込み		Ⅱ-46	23-1・2	B	ⅢKPX294	AA-37	6	2	7	22	打込み	
Ⅱ-41	23-1・2	B	ⅢKPX215	AD-34	6	-	-	-	打込み		Ⅱ-46	23-1・2	B	ⅢKPX295	AA-37	4	2	4	0	打込み	
Ⅱ-42	23-1・2	B	ⅢKPX216	AD-34	6	2	11	5	打込み		Ⅱ-46	23-1・2	B	ⅢKPX296	AA-37	7	2	7	14	打込み	
Ⅱ-42	23-1・2	B	ⅢKPX217	AD-34	6	2	8	16	打込み		Ⅱ-46	23-1・2	B	ⅢKPX297	AA-37	7	3	5	15	打込み	
Ⅱ-42	23-1・2	B	ⅢKPX218	AD-34	6	1	9	1	打込み		Ⅱ-46	23-1・2	B	ⅢKPX298	AA-37	6	2	12	10	打込み	
Ⅱ-42	23-1・2	B	ⅢKPX219	AD-34	5	-	-	-	打込み		Ⅱ-46	23-1・2	B	ⅢKPX299	AA-37	8	-	-	-	打込み	
Ⅱ-42	23-1・2	B	ⅢKPX220	AD-34	8	-	-	-	打込み		Ⅱ-46	23-1・2	B	ⅢKPX300	AA-37	5	2	7	3	打込み	
Ⅱ-42	23-1・2	B	ⅢKPX221	AD-34	6	-	-	-	打込み		Ⅱ-46	23-1・2	B	ⅢKPX301	AA-37	6	2	10	3	打込み	
Ⅱ-42	23-1・2	B	ⅢKPX222	AD-34	6	3	8	4	打込み		Ⅱ-46	23-1・2	B	ⅢKPX302	AA-37	8	2	9	6	打込み	
Ⅱ-42	23-1・2	B	ⅢKPX223	AD-34	6	2	8	16	打込み		Ⅱ-46	23-1・2	B	ⅢKPX303	AA-37	6	-	-	-	打込み	
Ⅱ-42	23-1・2	B	ⅢKPX224	AD-34	6	-	-	-	打込み		Ⅱ-46	23-1・2	B	ⅢKPX304	AA-37	6	2	9	21	打込み	
Ⅱ-42	23-1・2	B	ⅢKPX225	AD-34	6	-	-	-	打込み		Ⅱ-46	23-1・2	B	ⅢKPX305	AA-37	6	2	9	9	打込み	
Ⅱ-42	23-1・2	B	ⅢKPX226	AD-34	5	1	8	30	打込み		Ⅱ-46	23-1・2	B	ⅢKPX306	AA-37	5	2	9	0	打込み	
Ⅱ-42	23-1・2	B	ⅢKPX227	AD-34	6	-	-	-	打込み		Ⅱ-46	23-1・2	B	ⅢKPX307	AA-37	7	2	9	3	打込み	

表Ⅱ-50 杭列跡属性表(続き)

挿図 番号	図版 番号	列	遺構名	グリッド	規模(cm)			傾き (度)	タイプ	備考	挿図 番号	図版 番号	列	遺構名	グリッド	規模(cm)			傾き (度)	タイプ	備考
					上端	下端	深さ									上端	下端	深さ			
Ⅱ-46	23-1・2	B	ⅢKPX315	Z-38	6	3	9	14	打込み		Ⅱ-44	23-1・2	A	ⅢKPX371	AA-40	7	2	16	3	打込み	
Ⅱ-46	23-1・2	B	ⅢKPX316	Z-38	7	2	6	2	打込み		Ⅱ-46	23-1・2	B	ⅢKPX372	Z-37	7	3	5	10	打込み	
Ⅱ-46	23-1・2	B	ⅢKPX319	Z-38	5	2	4	29	打込み		Ⅱ-42	23-1・2	B	ⅢKPX375	AD-34	6	2	14	6	打込み	
Ⅱ-46・47	23-1・2	B	ⅢKPX320	Z-38	7	2	5	1	打込み		Ⅱ-44	24-7	A	ⅢKPX376	AA-40	5	4	12	0	打込み	
Ⅱ-47	23-1・2	B	ⅢKPX322	Z-38	5	2	7	9	打込み		Ⅱ-44	24-7	A	ⅢKPX377	AA-40	5	3	17	1	打込み	
Ⅱ-47	23-1・2	B	ⅢKPX323	Z-38	5	3	5	20	打込み		Ⅱ-44	24-7	A	ⅢKPX378	AA-40	6	5	10	14	打込み	
Ⅱ-47	23-1・2	B	ⅢKPX324	Z-38	5	2	7	4	打込み		Ⅱ-44	24-7	A	ⅢKPX379	AA-40	5	2	11	3	打込み	
Ⅱ-47	23-1・2	B	ⅢKPX325	Z-38	7	2	7	10	打込み		Ⅱ-44	24-7	A	ⅢKPX380	AA-40	7	2	10	5	打込み	
Ⅱ-47	23-1・2	B	ⅢKPX328	Z-38	6	3	8	0	打込み		Ⅱ-44	24-7	A	ⅢKPX381	AA-40	5	3	12	4	打込み	
Ⅱ-47	23-1・2	B	ⅢKPX329	Z-38	7	3	7	8	打込み		Ⅱ-44	24-7	A	ⅢKPX382	AA-41	6	4	13	7	打込み	
Ⅱ-47	23-1・2	B	ⅢKPX330	Z-38	5	2	9	5	打込み		Ⅱ-44	24-7	A	ⅢKPX383	AA-41	6	2	11	0	打込み	
Ⅱ-47	23-1・2	B	ⅢKPX331	Z-38	4	-	-	-	打込み		Ⅱ-44	24-7	A	ⅢKPX384	AA-41	6	3	13	13	打込み	
Ⅱ-47	23-1・2	B	ⅢKPX332	Z-38	6	-	-	-	打込み		Ⅱ-44	24-7	A	ⅢKPX385	AA-41	5	3	8	7	打込み	
Ⅱ-47	23-1・2	B	ⅢKPX333	AA-37	6	-	-	-	打込み		Ⅱ-44	24-6	A	ⅢKPX386	AA-41	7	2	11	8	打込み	
Ⅱ-47	23-1・2	B	ⅢKPX334	Y-39	6	-	-	-	打込み		Ⅱ-44	24-6	A	ⅢKPX388	AA-41	8	2	12	25	打込み	
Ⅱ-47	23-1・2	B	ⅢKPX335	Y-39	6	2	10	6	打込み		Ⅱ-44	24-7	A	ⅢKPX389	AA-41	8	3	9	6	打込み	
Ⅱ-47	23-1・2	B	ⅢKPX336	Y-39	5	-	-	-	打込み		Ⅱ-44	24-7	A	ⅢKPX390	AA-41	6	2	9	6	打込み	
Ⅱ-47	23-1・2	B	ⅢKPX337	Y-39	5	2	6	16	打込み		Ⅱ-44	24-7	A	ⅢKPX391	AA-41	7	2	8	2	打込み	
Ⅱ-47	23-1・2	B	ⅢKPX338	Y-39	6	3	9	10	打込み		Ⅱ-44	24-7	A	ⅢKPX392	AA-41	6	3	10	18	打込み	
Ⅱ-47	23-1・2	B	ⅢKPX339	Y-39	5	-	-	-	打込み		Ⅱ-44	24-7	A	ⅢKPX393	AA-41	5	2	8	10	打込み	
Ⅱ-47	23-1・2	B	ⅢKPX340	Y-39	6	-	-	-	打込み		Ⅱ-44	24-7	A	ⅢKPX394	AA-41	7	3	12	5	打込み	
Ⅱ-45	23-1・2	B	ⅢKPX351	AC-35	9	3	14	4	打込み		Ⅱ-44	24-7	A	ⅢKPX395	AA-41	5	2	10	7	打込み	
Ⅱ-45	23-1・2	B	ⅢKPX353	AC-35	4	1	12	7	打込み		Ⅱ-44	24-7	A	ⅢKPX396	AA-41	6	2	9	7	打込み	
Ⅱ-45	23-1・2	B	ⅢKPX354	AC-35	8	2	15	6	打込み		Ⅱ-44	24-7	A	ⅢKPX397	AA-41	6	2	7	10	打込み	
Ⅱ-45	23-1・2	B	ⅢKPX356	AB-36	5	2	12	13	打込み		Ⅱ-44	24-7	A	ⅢKPX399	AA-41	5	2	10	12	打込み	
Ⅱ-46	23-1・2	B	ⅢKPX360	Z-38	7	4	21	9	打込み		Ⅱ-44	24-7	A	ⅢKPX410	AA-40	4	3	11	6	打込み	
Ⅱ-47	23-1・2	B	ⅢKPX362	Z-38	10	5	8	18	打込み		Ⅱ-44	24-6	A	ⅢKPX411	AA-41	5	2	15	2	打込み	
Ⅱ-47	23-1・2	B	ⅢKPX364	Z-38	7	2	8	3	打込み		Ⅱ-44	24-7	A	ⅢKPX412	AA-41	5	2	10	0	打込み	
Ⅱ-47	23-1・2	B	ⅢKPX366	Y-38	7	2	22	4	打込み		Ⅱ-44	24-7	A	ⅢKPX413	AA-41	8	4	9	4	打込み	
Ⅱ-47	23-1・2	B	ⅢKPX367	Z-38	8	6	10	19	打込み		Ⅱ-44	24-7	A	ⅢKPX414	AA-41	5	3	13	0	打込み	
Ⅱ-47	23-1・2	B	ⅢKPX369	Z-39	6	3	12	7	打込み		Ⅱ-44	24-7	A	ⅢKPX415	AA-40	5	3	11	3	打込み	

## 第7節 集中出土遺物

集中区や遺構に伴わず単独で出土した土器集中はⅢPB-01・02・08・10の4ヶ所である。また礫集中ではⅢSB-02がⅢPB-03と接合関係にあるため同一掲載している。この他ⅢSB-04がある。復元個体は擦文文化期後期が主体であり、破片の文様構成から住居跡や集中区より出土する土器とほぼ同時期と考えられる。以下、詳細を記すが、土器集中土の土器実測図に関しては包含層で掲載する。

### 1. 土器集中

#### ⅢPB-01 (図Ⅱ-48、54-2、図版25-1・2・48-3)

U-42区のⅢb層中位で検出した。75×62cmの楕円形を呈する範囲から一括土器がまとまった状態で出土した。破片数は62点で集中の範囲以外とは接合していない。本集中は西側低位面に位置し、約5mにⅢF-01・02、ⅢSB-02が、約10m南側にはⅢPB-02を検出している。2はⅦ群B3c類の甕で、口縁部は緩やかに外反し口唇部断面形は角状である。底部付近の括れる部分と底部変換点までが他の土器に比べ長い。口縁部には浅い横走沈線文と3段の刻み、瘤状貼付文に馬蹄形押捺文が施文されるものが6ヶ所認められる。胴部は馬蹄形押捺文の付された貼付圍繞文で区画され、縦位沈線文と樹枝状文で充填される。外面はハケメ調整で底部付近では縦方向のミガキも見られる。内面は黒色処理されており、縦のミガキが施された後、口縁部付近は横方向のミガキ調整である。口縁部付近の外面には炭化物の付着が見られる。

#### ⅢPB-02 (図Ⅱ-48、54-3、図版25-3・4・48-2)

V-42区、Ⅲb層中位で80×52cmの楕円形を呈する範囲から破片数63点が一括出土し、V-43・44区のⅢb層中位・下位から出土した3点も接合した。出土位置はⅢPB-01で述べたように西側低位面で周辺に関連遺構は認められない。3はⅦ群B3c類の甕で、口唇部断面形は丸状、口縁部は緩やか

に外傾している。底部変換点から大きく開くため、寸胴な印象がある。口縁部には2条の浅い横走沈線文と矢羽根状文が施されている。胴部文様帯は2本1対の不連続な横走沈線文と矢羽根状文、縦位～斜位の沈線文が充填されている。内外面ともにハケメ調整後にミガキが施されており、ハケメの残る部分は僅かである。外面は上から下へミガキが施される。器厚は全体に薄手である。

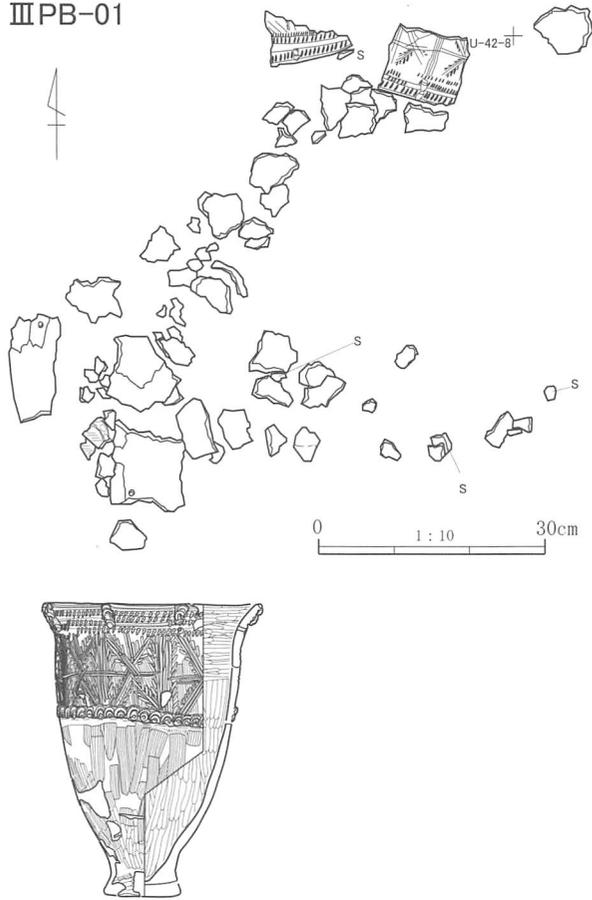
### ⅢPB-08 (図Ⅱ-48、54-1、図版25-7・48-1)

Y-37・38区で200×144cmの楕円形を呈する範囲に散在した状態で40点の破片が出土した。検出層位はⅢb層中位である。集中区1が西側10m、杭列跡Bが北側5m程に位置するが関係は不明である。1はⅦ群B3c類の甕で口唇部断面形は丸状、口縁部は「く」の字状に外傾する。底部変換点は強く括れ張り出し、胴部はやや膨らみを帯びている。口縁部には矢羽根状文が3段施文され、上段の矢羽根状文の列に等間隔で瘤状貼付文が付される。胴部文様帯は瘤状貼付文に馬蹄形押捺文を付したものが6ヶ所見られ、これらを繋ぐように横走沈線文が巡る。この瘤状貼付文の配置は口縁部と共通する部分に付されているようだが、欠損しているため明確ではない。胴部文様帯下位は、馬蹄形押捺文が付された囲繞貼付文で区画され、連続する斜行沈線とほぼ等間隔に直行する3本1組の沈線文が施される。外面は縦のハケメ調整が施され、底部付近では下方向のケズリも見られる。内面は黒色処理されており、縦のミガキが施された後、口縁部付近は横方向にミガキ調整される。

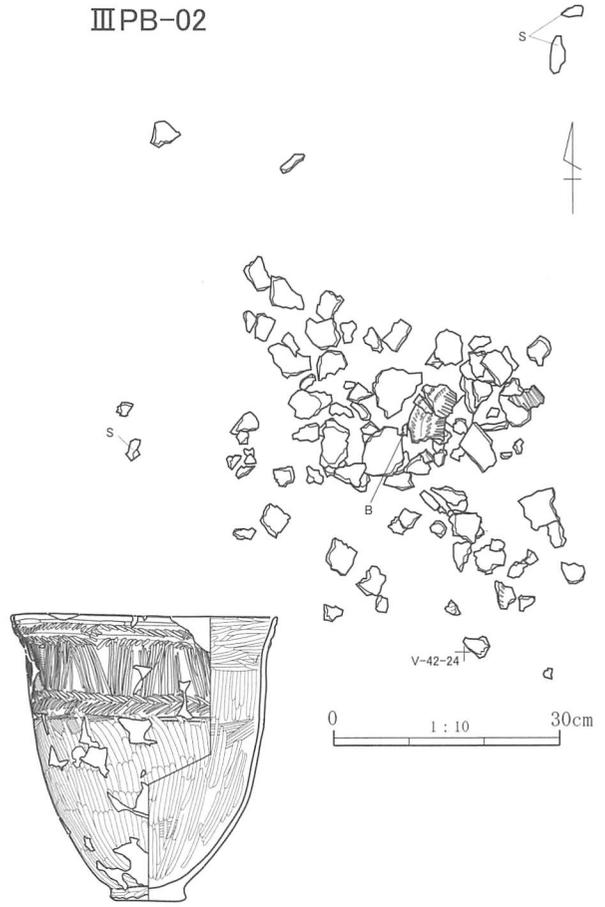
### ⅢPB-10 (図Ⅱ-48、54-4、図版25-8・48-4)

AA-36区で横倒しに押し潰された状態で一括出土した。破片数は139点でAC-35・36区から出土した9点の破片も接合した。検出層位はⅢb層下位である。土器の取り上げ終了後、精査したところ下層でB-Tmが検出された。4はⅦ群B3c類の甕で、口唇部断面形は丸状、口縁部は「く」の字状に外傾している。底部変換点は強く括れ底面は丸みを帯びているため倒立では安定しない。底面に木葉痕のような圧痕と指頭と思われる調整痕がある。口縁部には縦位の沈線文と刻みが4～5段認められる。刻みは棒状工具を用い、端部を斜めに押し当てるようにして連続施文している。胴部は横走・縦位・斜位沈線文で区画し、これに沿って口縁部と同じ工具で刻みを配置している。外面の調整は胴部文様帯までハケメ、胴下半部は縦ミガキである。内面は黒色処理されており、縦のミガキが施された後、口縁部分が横ミガキされている。ハケメによる調整がごく一部に残っている。(荻野)

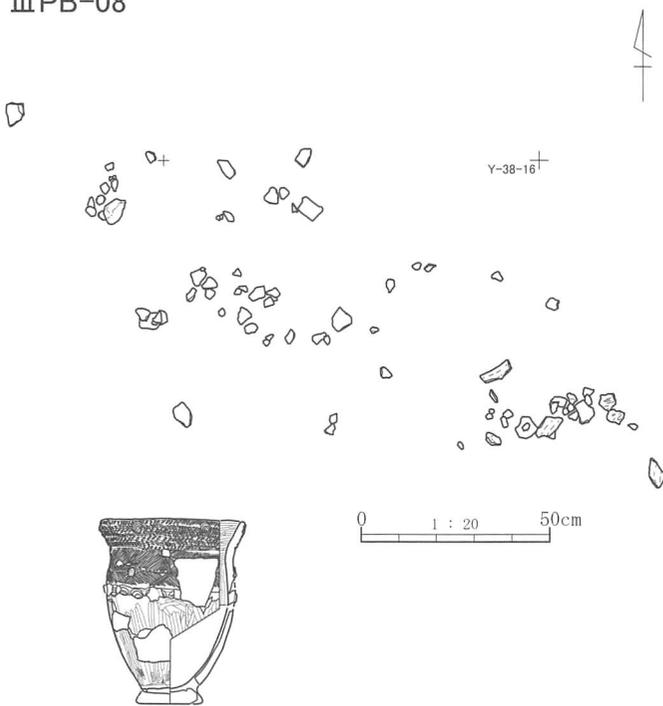
ⅢPB-01



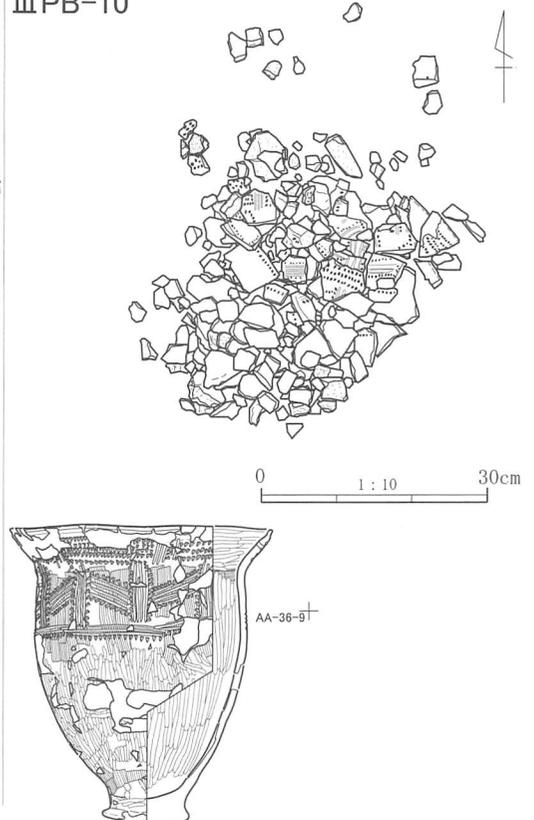
ⅢPB-02



ⅢPB-08



ⅢPB-10



図II-48 ⅢPB-01・02・08・10 平面図

## 2. 礫集中及び周辺の遺構

### ⅢSB-02・ⅢPB-03・ⅢF-01・02

ここで取り扱う遺構は現場段階で同一時期の可能性が高いと判断した礫集中と焼土であるが、整理作業において北東側で検出したⅢPB-03の土器片と一部接合関係にあることが分かり、ここでまとめて報告するものである。なお、集中区として取り扱っていない理由としてはⅢPB-03とⅢSB-02の間に連続した遺物分布や獣骨集中などが認められないため、あくまでも個々の集中遺物の接合関係にとどまると判断したためである。

#### ⅢSB-02 (図Ⅱ-49～52 図版 26-3・4・7)

S-42、T-42・43区のⅢb層掘り下げ時に、礫が多く出土している地点を確認した。周辺の精査を行ったところ、Ⅲb層中位より小型の棒状礫が主体となる礫集中を確認したため、ⅢSB-02と付番して調査を行った。礫集中の基底面を捉える目的でトレンチを設定し、断面観察または必要に応じて写真撮影も行った。断面図作成後、微細図による記録を行い遺物を取り上げた。また、同一面で炭化物を検出したので、土壌サンプルを採取した。フローテーションの結果、サケ属の椎骨破片、魚網の部位不明骨、哺乳網の部位不明骨及びキビ、ササ属、サクラ属。

**出土遺物** (図Ⅱ-51・52) 3・4は砂岩のたたき石である。3はⅢB2類としたもので、棒状礫端部中央に円形の敲打痕を有しているが、敲打痕が浅いため使用頻度が低いと考えられる。4は大型の板状礫を素材とし、側面部に敲打痕を有し、その周辺には敲打による大きな剥離が残されている。重量が1280gあるため手持ちの石器としてはやや重い、使用痕からたたき石に分類した。5・6は加工痕のある礫で、5は棒状礫の先端及び側面に剥離が認められるが、剥離後の連続した調整は認められない。6は表面の敲打痕が風化していることから縄文時代のものと考えられるたたき石を素材とし、端部に再加工を施している。出土した完形・略完形の礫は121点で、平均値は長軸72.5mm、短軸37.7mm、厚さ19.9、重量64.6gで、泥岩、砂岩の棒状礫が主体となる。

#### ⅢPB-03 (図Ⅱ-49・50 図版 25-5・6)

T-41区のⅢb層掘り下げ時に土器片が集中して出土したため、これをⅢPB-03として設定した。ⅢSB-02出土の土器片と接合する資料が確認されたため、整理段階でそれぞれ単独の集中遺物であったが、共伴関係にあるためここで掲載する。

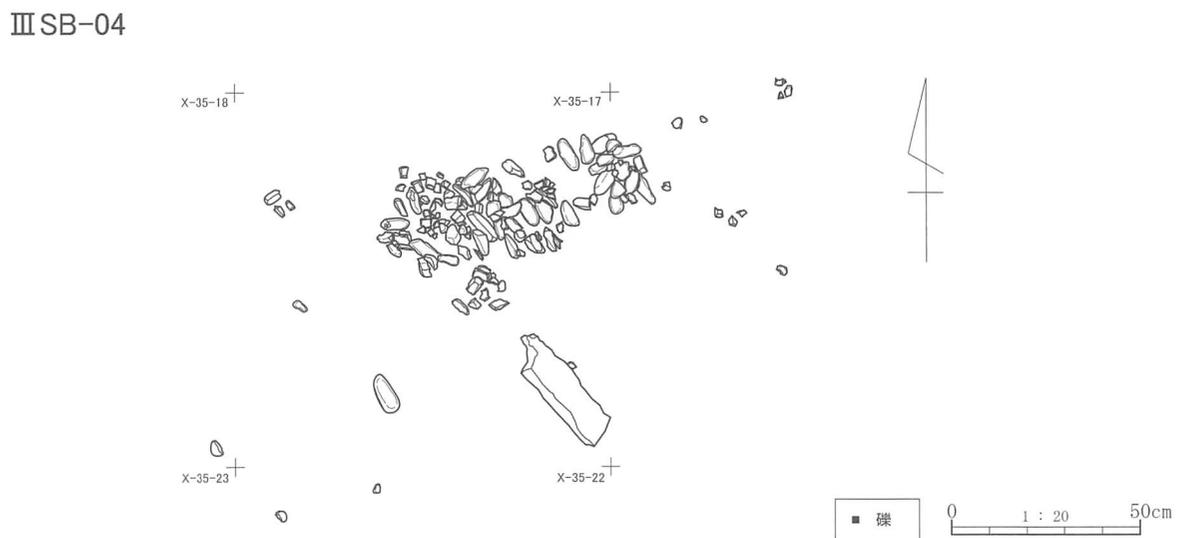
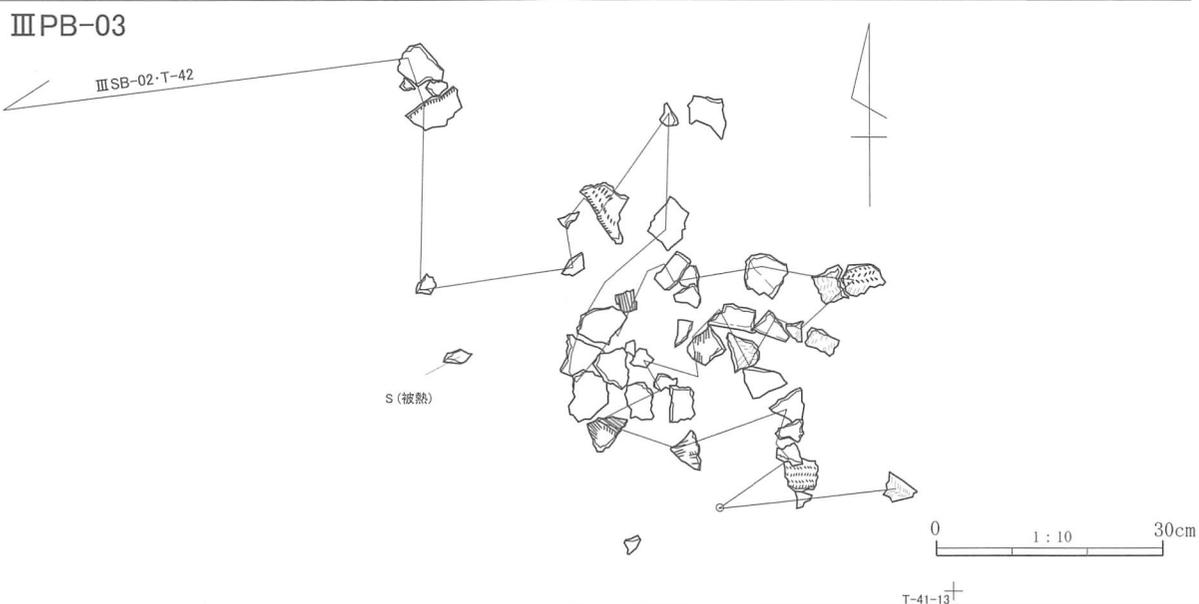
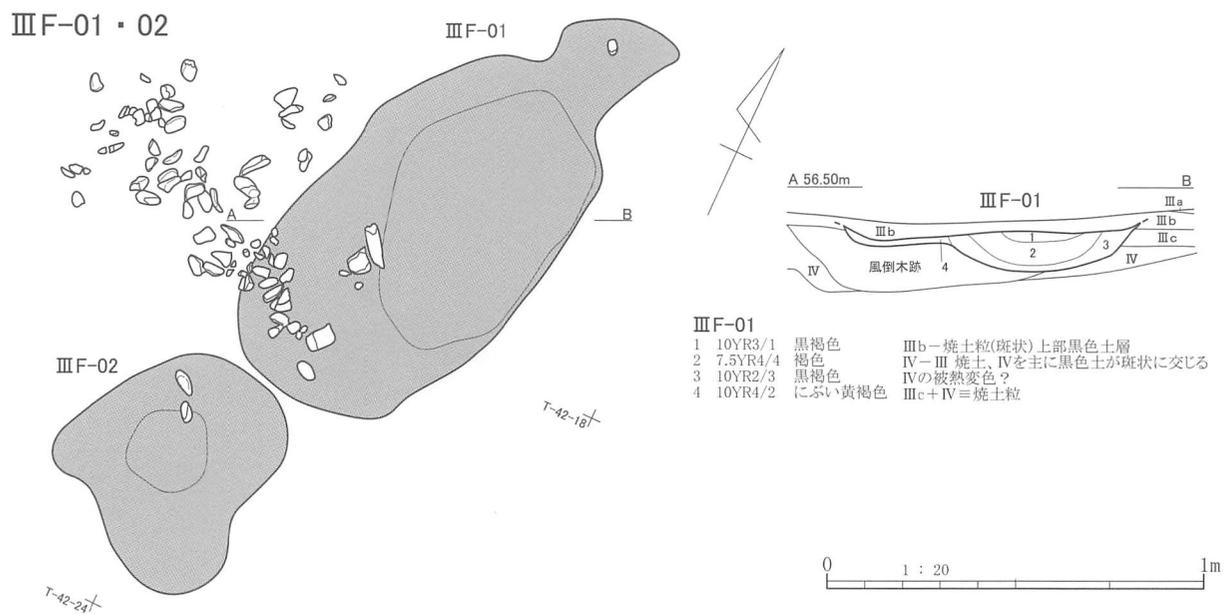
**出土遺物** (図Ⅱ-51-1・2) 1は胴部下半まで復元されたⅦ群B3c類の甕で、口唇部は丸状、口縁部は外傾して「く」字状に開く。口縁部には矢羽根状文が2段施さる。胴部文様帯には単位の短い縦方向の沈線を十数本単位でまとめ、縁辺に刻みを施す。これらを上下2段に格子状になるように配していることから、複段を意識するモチーフと思われる。2は細い棒状工具で矢羽根状文とその下位には「X」字状に沈線文が付される。

#### ⅢF-01・02 (図Ⅱ-50 図版 26-1・2)

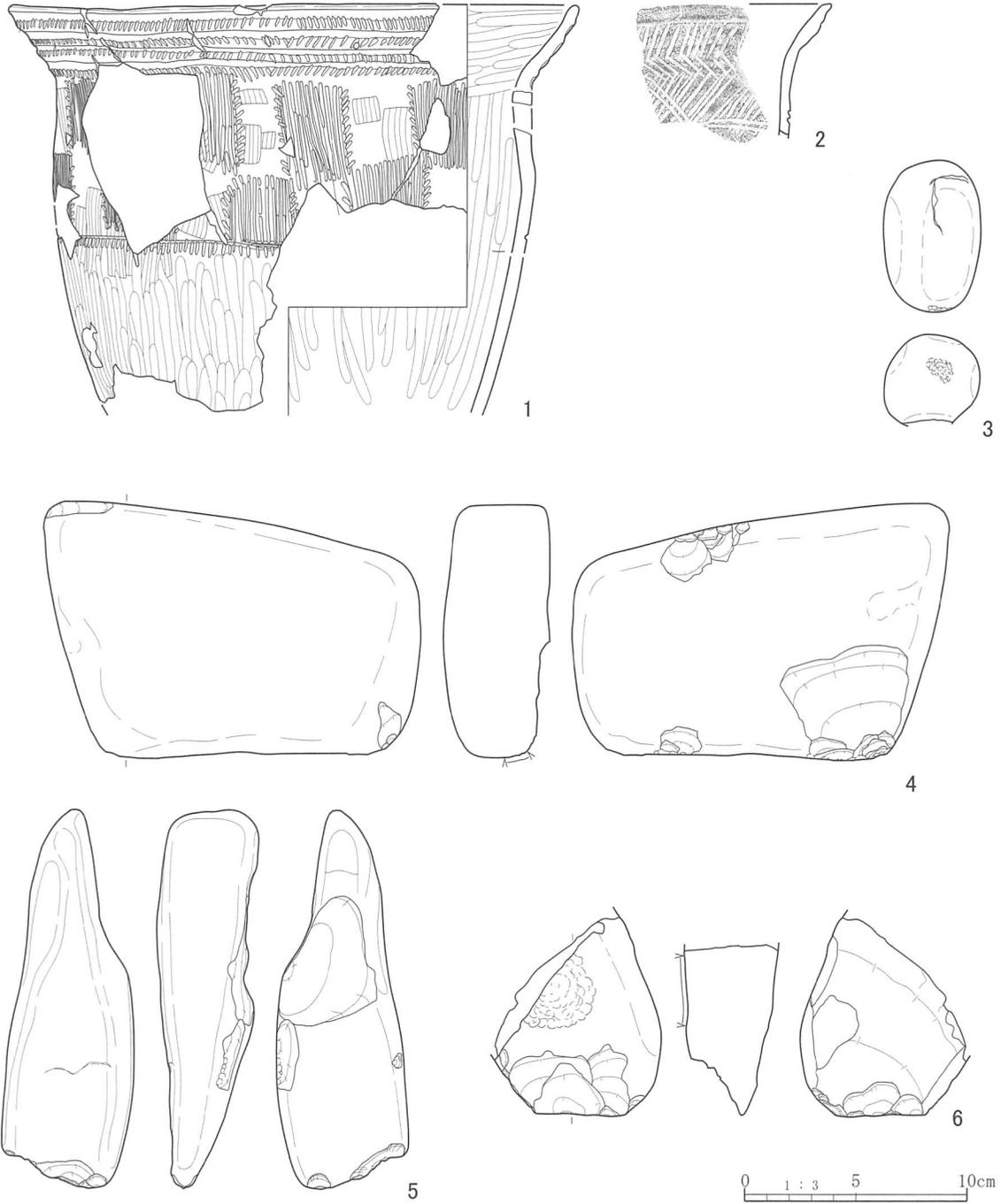
ⅢSB-02のトレンチ調査時には焼土は確認出来なかったが、ⅢSB-02を面的に精査したところ、礫分布範囲内にⅢF-01・02が検出された。これらの遺構が同時期であることを積極的に示す接合等の資料はなかったが、当遺跡が単純遺跡であることを踏まえ、整理の段階で同時期のものと認定した。焼土直上の礫には被熱していない個体も含むが、遺構埋没の段階で礫の移動があったものと考えている。本遺構は断面観察では焼骨片や炭化物は認められず、色調も黒色土に近い暗さであるため、継続的に使用されていない焼土の可能性も考えられる。また、ⅢF-02は断面図の記録を行っていない



図 II-49 III SB-02・III PB-03平面及び土器接合線図



図Ⅱ-50 ⅢF-02・ⅢPB-03・ⅢSB-04 平面及び断面図



図II-51 III SB-02 出土遺物(1)

表II-51 III F-01・02属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・ 骨片	備考
						長軸	短軸	厚さ		
II-49・50	26-1	III F-01	T-42	III bM	不整形	136.0	60.0	10.0	-	
II-49・50	26-2	III F-02	T-42	III bM	不整形	62.0	60.0	-	-	

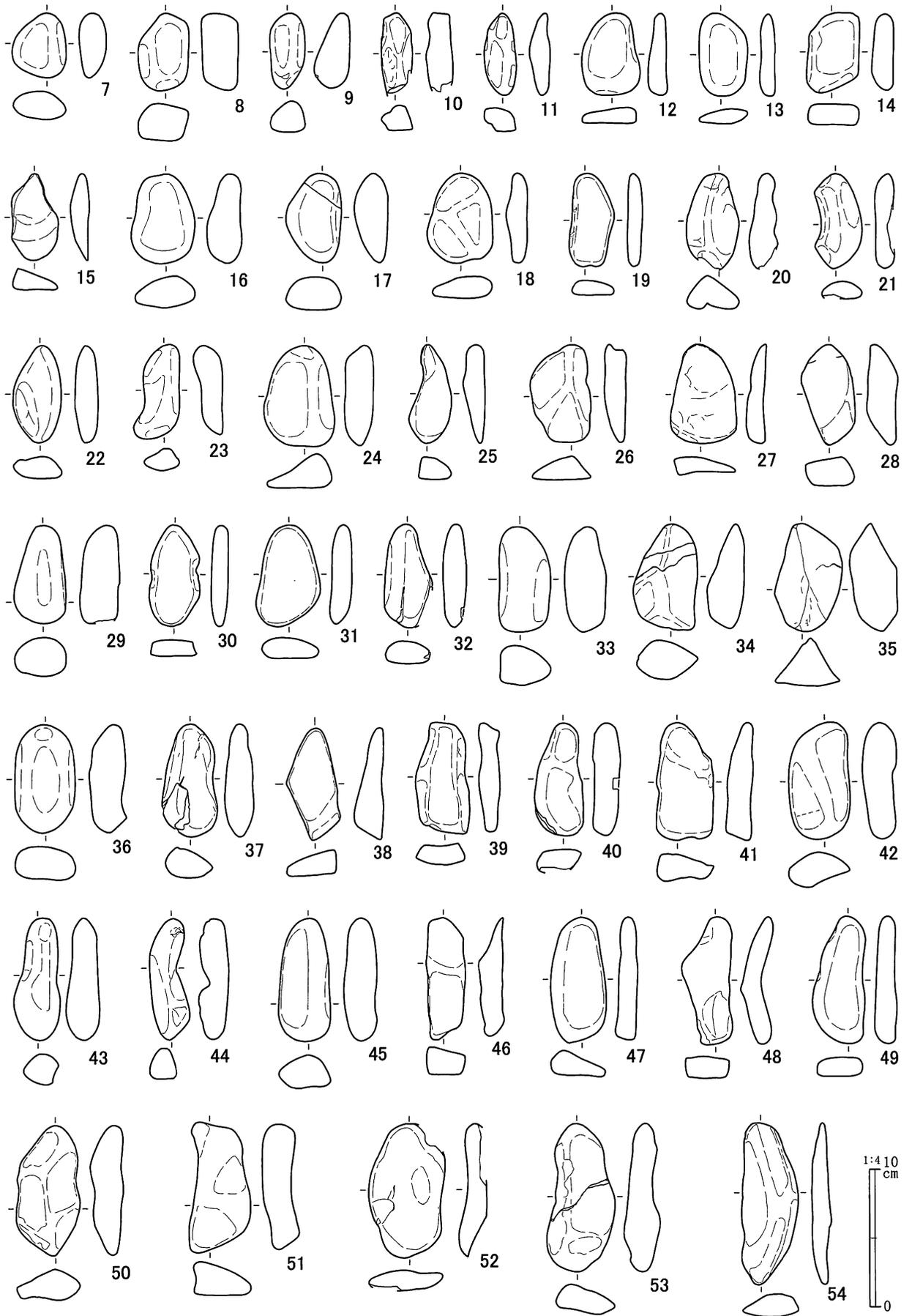


図 II-52 III SB-02 出土遺物 (2)

いが、ⅢF-01 同様の色調である。遺構の性格は礫集中と焼土が近接、一部重なり合っていることから住居跡の可能性も考えられたが、遺物取り上げ後、周囲をジョレンで掘削し柱穴の検出を試みた。ⅢKP-08 が検出されたのみで、住居ではないと判断し調査を終了した。フローテーションの結果はⅢF-01 から哺乳綱の部位不明骨片及びキハダ科の炭化種子、果実片、不明の炭化種子、ⅢF-02 からサケ科の椎骨、微細片及びブドウ科の炭化種子片、不明の炭化種子が得られている。(松井)

3. 礫集中

ⅢSB-04 (図Ⅱ-50・53 図版26-5・6・8)

X-35 区のⅢb 層掘り下げ時に礫が多く出土したため、ⅢSB-04 と付番して周辺の精査を行った。礫集中は 138×88cm の範囲で小型の棒状礫が主体となり、長さ約 30 cm の大型棒状礫 1 点を伴う。ⅢSB-04 内において、礫基底部と同レベルに分布する B-Tm を検出したが、散逸しているため範囲や堆積の記録を行っていないが、写真のみ記録している(写真図版26-6)。B-Tm の検出によって遺構の時期は 10c 前葉以降であると思われる。フローテーションの結果、不明の炭化種子が得られている。

出土遺物(図Ⅱ-53) 1 は砂岩製のたたき石の破片で、端部に浅い敲打痕が認められる。出土した完形・略完形の礫は 42 点で、平均値は長軸 73.7 mm、短軸 34.8 mm、厚さ 18.8mm、重量 107.1g で、砂岩の棒状礫が主体となる。

表Ⅱ-52 ⅢPB・ⅢSB属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			備考
						長軸	短軸	厚さ	
Ⅱ-48	25-1・2	ⅢPB-01	U-42	ⅢbM	不整形	75	62	-	
Ⅱ-48	25-3・4	ⅢPB-02	V-42	ⅢbM	不整形	80	58	-	
Ⅱ-48	25-5・6	ⅢPB-03	T-41	ⅢbM	不整形	87	40	-	
Ⅱ-48	25-7	ⅢPB-08	Y-37・38	ⅢbM	不整形	200	144	-	
Ⅱ-48	25-8	ⅢPB-10	AA-36	ⅢbL	不整形	56	45	-	
Ⅱ-49	26-3・4・7	ⅢSB-02	S-42・ T-42・43	ⅢbM	楕円形	289	192	-	
Ⅱ-50	26-5・6・8	ⅢSB-04	X-34・35 Y-35	ⅢbL	楕円形	138	88	-	

表Ⅱ-53 ⅢSB-02出土土器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点数	器種	部位	器面調整		文様	備考
									外側	内側		
									口縁/頸部/ 胴部/底側面	口縁/頸部/ 胴部	口縁部/ 文様帯	
Ⅱ-51-1	47-1-1	SP04A	ⅦB3	ⅢPB-03	ⅢbM	4	甕	口縁部～ 胴部下半	ナデ・ハケメ /ミガキ	ミガキ/ミガキ	矢羽根状文/ 沈線文・刻み	
				ⅢSB-02		2						
				T-41		40						
Ⅱ-51-2	47-1-2	SP16A	ⅦB3	ⅢSB-02	ⅢbM	2	甕	口縁部	ナデ/ミガキ	ミガキ	矢羽根状文/ 沈線文	

表Ⅱ-54 ⅢSB-02・04出土石器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	遺構/ グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
								長軸	短軸	厚さ			
Ⅱ-51-3	47-1-3	-	3033	たたき石	ⅢB2	ⅢbM	ⅢSB-02	66.0	45.1	(41.9)	(185.0)	Sa.	
Ⅱ-51-4	47-1-4	-	3163	たたき石	I B2	ⅢbM	ⅢSB-02	156.7	111.3	46.8	1280.0	Sa.	
Ⅱ-51-5	47-1-5	-	3159	加工痕のある礫	I A3	ⅢbM	ⅢSB-02	171.0	56.2	42.3	422.5	Sa.	
Ⅱ-51-6	47-1-6	-	3265	加工痕のある礫	B	ⅢbM	ⅢSB-02	(89.5)	(74.2)	(42.8)	(296.0)	Sa.	
Ⅱ-53-1	47-3-1	-	7085	たたき石	-	ⅢbL	ⅢSB-04	(57.3)	(37.7)	(38.5)	(78.2)	Sa.	

表Ⅱ-55 ⅢSB-02出土礫属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
-	-	-	3254	ⅢbM	完形	28.1	-44.4	27.0	-10.7	13.5	-6.4	1.0	-1.0	13.4	-	Sa.	
-	-	-	3167	ⅢbM	完形	35.4	-37.1	31.3	-6.4	13.0	-6.9	1.1	-0.9	13.8	-	Mud.	
-	-	-	3045	ⅢbM	完形	43.7	-28.8	35.1	-2.6	10.6	-9.3	1.2	-0.8	13.7	-	Mud.	
Ⅱ-52-7	-	-	3255	ⅢbM	完形	45.4	-27.1	38.8	1.1	19.1	-0.8	1.2	-0.8	39.6	-	Sa.	
-	-	-	3215	ⅢbM	略完形	(45.6)	-26.9	39.1	1.4	17.5	-2.4	1.2	-0.8	(32.1)	-	Sa.	
-	-	-	3259	ⅢbM	完形	51.9	-20.6	39.5	1.8	13.4	-6.5	1.3	-0.7	36.0	○	Sa.	
-	-	-	3257	ⅢbM	完形	52.0	-20.5	37.5	-0.2	14.3	-5.6	1.4	-0.6	21.6	-	Mud.	
Ⅱ-52-8	-	-	3034	ⅢbM	完形	53.7	-18.8	33.9	-3.8	25.9	6.0	1.6	-0.4	77.4	-	Sa.	
Ⅱ-52-9	-	-	3169	ⅢbM	完形	53.7	-18.8	23.7	-14.0	24.8	4.9	2.3	0.3	35.6	-	Sa.	
-	-	-	3104	ⅢbM	完形	54.1	-18.4	31.9	-5.8	21.3	1.4	1.7	-0.3	42.3	-	Sa.	
-	-	-	3025	ⅢbM	完形	54.3	-18.2	28.6	-9.1	12.7	-7.2	1.9	-0.1	26.2	-	Sa.	
Ⅱ-52-10	-	-	3161	ⅢbM	略完形	(54.8)	-17.7	18.4	-19.3	20.9	1.0	3.0	1.0	(24.8)	-	Mud.	
-	-	-	3249	ⅢbM	完形	56.2	-16.3	32.3	-5.4	7.4	-12.5	1.7	-0.3	14.5	-	Sa.	
-	-	S105	3081 3082	ⅢbM	完形	57.0	-15.5	29.2	-8.5	31.5	11.6	2.0	0.0	75.2	-	Mud.	
-	-	-	3206	ⅢbM	完形	57.2	-15.3	38.4	0.7	20.0	0.1	1.5	-0.5	51.9	-	Sa.	
-	-	-	3123	ⅢbM	完形	57.6	-14.9	34.9	-2.8	20.4	0.5	1.7	-0.3	52.0	-	Sa.	
Ⅱ-52-11	-	-	3029	ⅢbM	完形	57.6	-14.9	21.8	-15.9	15.6	-4.3	2.6	0.6	18.7	-	Mud.	
-	-	-	3049	ⅢbM	略完形	(57.8)	-14.7	(36.5)	-1.2	10.4	-9.5	1.6	-0.4	(28.2)	-	Mud.	
-	-	-	3204	ⅢbM	完形	57.9	-14.6	34.6	-3.1	19.3	-0.6	1.7	-0.3	48.0	-	Sa.	
Ⅱ-52-12	-	-	3085	ⅢbM	完形	58.3	-14.2	41.1	3.4	13.4	-6.5	1.4	-0.6	44.5	-	Sa.	
Ⅱ-52-13	-	-	3026	ⅢbM	完形	59.7	-12.8	34.6	-3.1	11.7	-8.2	1.7	-0.3	32.7	-	Sa.	
-	-	-	3256	ⅢbM	完形	59.9	-12.6	34.8	-2.9	16.2	-3.7	1.7	-0.3	43.3	-	Sa.	
-	-	-	3250	ⅢbM	完形	60.8	-11.7	45.1	7.4	25.9	6.0	1.3	-0.7	111.3	-	Sa.	
Ⅱ-52-14	-	-	3171	ⅢbM	完形	61.5	-11.0	37.1	-0.6	15.8	-4.1	1.7	-0.3	50.1	-	Sa.	
Ⅱ-52-15	-	-	3160	ⅢbM	完形	61.6	-10.9	35.7	-2.0	16.9	-3.0	1.7	-0.3	33.1	-	Mud.	
-	-	-	3084	ⅢbM	完形	61.7	-10.8	43.0	5.3	17.6	-2.3	1.4	-0.6	46.6	-	Mud.	
Ⅱ-52-16	-	-	3237	ⅢbM	完形	61.9	-10.6	45.5	7.8	25.3	5.4	1.4	-0.6	69.9	-	Sa.	
-	-	-	3194	ⅢbM	完形	61.9	-10.6	37.5	-0.2	22.5	2.6	1.7	-0.3	62.1	-	Con.	
-	-	-	3147	ⅢbM	完形	62.1	-10.4	25.2	-12.5	16.7	-3.2	2.5	0.5	30.0	-	Mud.	
-	-	-	3188	ⅢbM	完形	62.7	-9.8	39.2	1.5	17.8	-2.1	1.6	-0.4	44.4	-	Mud.	
Ⅱ-52-17	-	S117	3266 3267	ⅢbM	完形	63.1	-9.4	37.9	0.2	24.8	4.9	1.7	-0.3	75.9	-	Sa.	
-	47-2	S108	3164 3165 3166	ⅢbM	完形	63.5	-9.0	37.9	0.2	11.7	-8.2	1.7	-0.3	30.3	-	Sa.	
-	-	-	3044	ⅢbM	略完形	(63.6)	-8.9	40.6	2.9	13.8	-6.1	1.6	-0.4	(38.2)	-	Mud.	
Ⅱ-52-18	-	-	3211	ⅢbM	完形	64.1	-8.4	49.1	11.4	16.2	-3.7	1.3	-0.7	58.0	-	Sa.	
-	-	-	3217	ⅢbM	完形	65.1	-7.4	35.9	-1.8	20.1	0.2	1.8	-0.2	59.5	-	Sa.	
-	-	-	3207	ⅢbM	完形	65.7	-6.8	38.2	0.5	17.6	-2.3	1.7	-0.3	59.1	-	Sa.	
Ⅱ-52-19	-	-	3059	ⅢbM	完形	66.4	-6.1	28.5	-9.2	10.2	-9.7	2.3	0.3	29.9	-	Sa.	
-	-	-	3060	ⅢbM	略完形	(66.4)	-6.1	32.1	-5.6	25.9	6.0	2.1	0.1	(58.0)	-	Mud.	
-	-	-	3235	ⅢbM	完形	66.9	-5.6	34.3	-3.4	10.6	-9.3	2.0	0.0	30.8	-	Sa.	
-	-	-	3100	ⅢbM	略完形	67.0	-5.5	28.8	-8.9	21.6	1.7	2.3	0.3	(42.4)	-	Mud.	
-	-	-	3220	ⅢbM	完形	67.2	-5.3	37.3	-0.4	22.8	2.9	1.8	-0.2	55.2	-	Sa.	
Ⅱ-52-20	-	-	3170	ⅢbM	略完形	(67.6)	-140.1	30.7	-7.0	29.6	9.7	-2.2	-4.2	(47.8)	-	Sa.	
Ⅱ-52-21	-	-	3262	ⅢbM	略完形	67.9	-4.6	34.6	-3.1	14.5	-5.4	2.0	0.0	(38.6)	-	Sa.	
-	-	-	3138	ⅢbM	完形	68.2	-4.3	39.3	1.6	21.7	1.8	1.7	-0.3	76.1	-	Sa.	
-	-	-	3114	ⅢbM	完形	68.2	-4.3	32.5	-5.2	11.2	-8.7	2.1	0.1	23.8	-	Mud.	
-	-	-	3223	ⅢbM	完形	69.2	-3.3	46.4	8.7	23.5	3.6	1.5	-0.5	73.2	-	Sa.	
Ⅱ-52-22	-	-	3260	ⅢbM	完形	69.3	-3.2	32.1	-5.6	16.8	-3.1	2.2	0.2	46.2	-	Sa.	
Ⅱ-52-23	-	-	3113	ⅢbM	完形	69.6	-2.9	25.0	-12.7	21.0	1.1	2.8	0.8	40.6	-	Sa.	
Ⅱ-52-24	-	-	3070	ⅢbM	完形	69.7	-2.8	46.6	8.9	25.8	5.9	1.5	-0.5	94.2	-	Sa.	
-	-	-	3172	ⅢbM	完形	69.7	-2.8	31.8	-5.9	23.2	3.3	2.2	0.2	69.2	-	Sa.	
Ⅱ-52-25	-	-	3110	ⅢbM	完形	69.8	-2.7	28.3	-9.4	18.2	-1.7	2.5	0.5	32.1	-	Sa.	
-	-	S107	3128 3133	ⅢbM	完形	70.1	-2.4	37.9	0.2	23.6	3.7	1.8	-0.2	68.2	-	Mud.	
Ⅱ-52-26	-	-	3246	ⅢbM	完形	70.5	-2.0	37.6	-0.1	20.4	0.5	1.9	-0.1	51.3	-	Sa.	
-	-	-	3152	ⅢbM	完形	70.5	-2.0	26.3	-11.4	20.2	0.3	2.7	0.7	51.2	-	Sa.	
-	-	-	3162	ⅢbM	完形	70.5	-2.0	31.4	-6.3	20.5	0.6	2.2	0.2	42.1	-	Gra.	
Ⅱ-52-27	-	-	3168	ⅢbM	完形	70.7	-1.8	45.6	7.9	14.0	-5.9	1.6	-0.4	41.0	-	Mud.	
Ⅱ-52-28	-	-	3232	ⅢbM	完形	70.7	-1.8	34.4	-3.3	22.7	2.8	2.1	0.1	66.5	-	Sa.	
-	-	-	3236	ⅢbM	完形	70.8	-1.7	30.7	-7.0	21.8	1.9	2.3	0.3	42.2	-	Sa.	
Ⅱ-52-29	-	-	3216	ⅢbM	略完形	(70.8)	-1.7	38.1	0.4	28.1	8.2	1.9	-0.1	(95.7)	-	Sa.	
-	-	-	3205	ⅢbM	完形	71.1	-1.4	36.0	-1.7	16.1	-3.8	2.0	0.0	56.0	-	Sa.	
-	-	-	3143	ⅢbM	完形	71.3	-1.2	32.0	-5.7	14.9	-5.0	2.2	0.2	37.9	-	Sa.	
Ⅱ-52-30	-	-	3230	ⅢbM	完形	72.0	-0.5	34.2	-3.5	11.1	-8.8	2.1	0.1	44.7	-	Sa.	

表II-55 III SB-02出土礫属性表(続き)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
-		S112	3213 3214	IIIbM	完形	72.8	0.3	44.6	6.9	21.2	1.3	1.6	-0.4	71.0	-	Sa.	
II-52-31		-	3233	IIIbM	完形	73.1	0.6	42.3	4.6	15.6	-4.3	1.7	-0.3	62.1	-	Sa.	
-		-	3191	IIIbM	完形	73.2	0.7	30.4	-7.3	20.4	0.5	2.4	0.4	46.0	-	Sa.	
-		-	3242	IIIbM	完形	73.3	0.8	32.0	-5.7	29.9	10.0	2.3	0.3	81.4	-	Mud.	
-		-	3111	IIIbM	完形	73.3	0.8	25.0	-12.7	20.9	1.0	2.9	0.9	45.8	-	Mud.	
II-52-32		-	3032	IIIbM	略完形	73.5	1.0	(32.0)	-5.7	16.9	-3.0	2.3	0.3	(43.0)	-	Mud.	
II-52-33		-	3077	IIIbM	完形	73.6	1.1	37.0	-0.7	29.3	9.4	2.0	0.0	104.7	-	Sa.	
-		-	3054	IIIbM	完形	73.9	1.4	52.6	14.9	15.0	-4.9	1.4	-0.6	58.5	-	Sa.	
-		-	3146	IIIbM	完形	74.1	1.6	50.3	12.6	18.4	-1.5	1.5	-0.5	80.6	-	Sa.	
-		S109	3177 6135	IIIbM	完形	74.2	1.7	46.8	9.1	28.3	8.4	1.6	-0.4	125.4	-	Sa.	
-		S114	3221 3222	IIIbM	略完形	75.2	2.7	(33.6)	-4.1	17.2	-2.7	2.2	0.2	(42.6)	-	Sa.	
-		-	3109	IIIbM	完形	75.5	3.0	38.8	1.1	20.9	1.0	1.9	-0.1	51.5	-	Mud.	
II-52-34		S101	3052 3053 3057	IIIbM	完形	75.8	3.3	45.0	7.3	28.9	9.0	1.7	-0.3	92.7	-	Mud.	
II-52-35		-	3115	IIIbM	完形	75.8	3.3	36.3	-1.4	33.3	13.4	2.1	0.1	79.4	-	Mud.	
II-52-36		-	3118	IIIbM	完形	76.0	3.5	42.9	5.2	24.8	4.9	1.8	-0.2	119.4	-	Sa.	
-		-	3108	IIIbM	完形	76.2	3.7	43.6	5.9	18.5	-1.4	1.7	-0.3	59.7	-	Sa.	
-		-	3155	IIIbM	完形	76.8	4.3	34.1	-3.6	19.7	-0.2	2.3	0.3	52.6	-	Sa.	
-		-	3240	IIIbM	完形	77.2	4.7	43.9	6.2	17.1	-2.8	1.8	-0.2	74.4	-	Con.	
-		-	3031	IIIbM	完形	77.4	4.9	62.4	24.7	14.8	-5.1	1.2	-0.8	126.2	-	Gab.	
-		-	3105	IIIbM	完形	78.4	5.9	53.8	16.1	26.2	6.3	1.5	-0.5	89.4	-	Sa.	
II-52-37		S111	3209 3210	IIIbM	完形	78.7	6.2	39.1	1.4	22.0	2.1	2.0	0.0	73.7	○	Sa.	
-		-	3067	IIIbM	完形	78.9	6.4	46.2	8.5	21.6	1.7	1.7	-0.3	86.8	-	Sa.	
II-52-38		-	3076	IIIbM	完形	79.0	6.5	32.3	-5.4	23.1	3.2	2.4	0.4	48.0	-	Mud.	
-		-	3121	IIIbM	略完形	79.0	6.5	49.8	12.1	20.7	0.8	1.6	-0.4	(54.8)	-	Mud.	
II-52-39		-	3218	IIIbM	完形	79.2	6.7	36.1	-1.6	14.9	-5.0	2.2	0.2	54.6	-	Sa.	
-		-	3095	IIIbM	完形	79.5	7.0	45.5	7.8	29.2	9.3	1.7	-0.3	123.4	-	Sa.	
-		-	10250	IIIbL	完形	80.0	7.5	38.6	0.9	25.1	5.2	2.1	0.1	99.1	-	Sa.	
-		-	3103	IIIbM	完形	80.0	7.5	48.1	10.4	17.3	-2.6	1.7	-0.3	88.5	-	Sa.	
-		-	3268	IIIbM	完形	80.2	7.7	27.0	-10.7	14.2	-5.7	3.0	1.0	42.5	-	Sa.	
II-52-40		S102	3055 3058	IIIbM	完形	80.8	8.3	34.2	-3.5	18.1	-1.8	2.4	0.4	62.1	-	Sa.	
-		-	3157	IIIbM	完形	81.5	9.0	30.1	-7.6	23.9	4.0	2.7	0.7	59.8	-	Sa.	
II-52-41		-	3270	IIIbM	完形	82.6	10.1	41.2	3.5	21.9	2.0	2.0	0.0	89.8	-	Con.	
II-52-42		-	3158	IIIbM	完形	83.1	10.6	42.5	4.8	21.2	1.3	2.0	0.0	117.9	-	Sa.	
-		-	3096	IIIbM	完形	84.3	11.8	33.2	-4.5	21.8	1.9	2.5	0.5	77.5	-	Sa.	
-		-	3269	IIIbM	完形	85.3	12.8	45.8	8.1	15.6	-4.3	1.9	-0.1	96.2	-	Sa.	
-		-	3202	IIIbM	完形	85.7	13.2	48.0	10.3	25.2	5.3	1.8	-0.2	137.1	-	Sa.	
II-52-43		-	3046	IIIbM	完形	85.7	13.2	31.4	-6.3	25.8	5.9	2.7	0.7	72.3	-	Sa.	
II-52-44		-	3193	IIIbM	完形	85.8	13.3	20.6	-17.1	22.0	2.1	4.2	2.2	55.8	-	Sa.	
-		-	3079	IIIbM	完形	86.0	13.5	32.0	-5.7	20.5	0.6	2.7	0.7	73.7	-	Mud.	
-		-	3106	IIIbM	完形	86.2	13.7	46.3	8.6	21.0	1.1	1.9	-0.1	112.0	-	Sa.	
-		-	3097	IIIbM	完形	86.8	14.3	43.7	6.0	16.5	-3.4	2.0	0.0	84.4	-	Sa.	
II-52-45		-	3080	IIIbM	完形	87.6	15.1	31.7	-6.0	23.6	3.7	2.8	0.8	113.0	-	Ssh.	
-		-	3195	IIIbM	完形	87.7	15.2	40.2	2.5	20.6	0.7	2.2	0.2	70.7	-	Mud.	
II-52-46		-	3156	IIIbM	完形	87.8	15.3	27.9	-9.8	21.0	1.1	3.1	1.1	47.4	-	Mud.	
-		-	3074	IIIbM	略完形	87.9	15.4	43.7	6.0	21.0	1.1	2.0	0.0	(79.3)	-	Mud.	
-		-	3212	IIIbM	完形	88.4	15.9	53.8	16.1	29.1	9.2	1.6	-0.4	155.1	-	Sa.	
II-52-47		-	3203	IIIbM	完形	88.6	16.1	39.5	1.8	19.3	-0.6	2.2	0.2	76.6	-	Sa.	
-		-	3151	IIIbM	完形	88.9	16.4	35.4	-2.3	24.2	4.3	2.5	0.5	89.1	-	Sa.	
II-52-48		-	3101	IIIbM	完形	90.6	18.1	33.7	-4.0	17.5	-2.4	2.7	0.7	59.4	-	Sa.	
II-52-49		-	3140	IIIbM	完形	91.4	18.9	37.1	-0.6	17.4	-2.5	2.5	0.5	74.3	-	Sa.	
-		-	3238	IIIbM	完形	93.2	20.7	42.3	4.6	17.0	-2.9	2.2	0.2	86.7	-	Sa.	
II-52-50		-	3107	IIIbM	完形	93.6	21.1	46.6	8.9	21.8	1.9	2.0	0.0	81.6	-	Mud.	
II-52-51		-	3043	IIIbM	完形	94.3	21.8	44.2	6.5	23.3	3.4	2.1	0.1	130.4	-	Sa.	
II-52-52		-	3062	IIIbM	略完形	95.3	22.8	55.9	18.2	17.6	-2.3	1.7	-0.3	(78.6)	-	Tu.	
-		-	3030	IIIbM	完形	96.2	23.7	56.8	19.1	23.1	3.2	1.7	-0.3	209.5	-	Gab.	
-		-	3134	IIIbM	完形	103.0	30.5	43.8	6.1	16.9	-3.0	2.4	0.4	94.2	-	Sa.	
II-52-53		S104	3073 3252	IIIbM	略完形	105.7	33.2	49.7	12.0	25.0	5.1	2.1	0.1	(95.1)	-	Sa.	
-		-	3061	IIIbM	完形	113.2	40.7	33.6	-4.1	22.9	3.0	3.4	1.4	77.4	-	Mud.	
II-52-54		-	3099	IIIbM	完形	116.4	43.9	39.7	2.0	18.4	-1.5	2.9	0.9	70.7	-	Mud.	
						72.5		37.7		19.9			64.6				

※121点

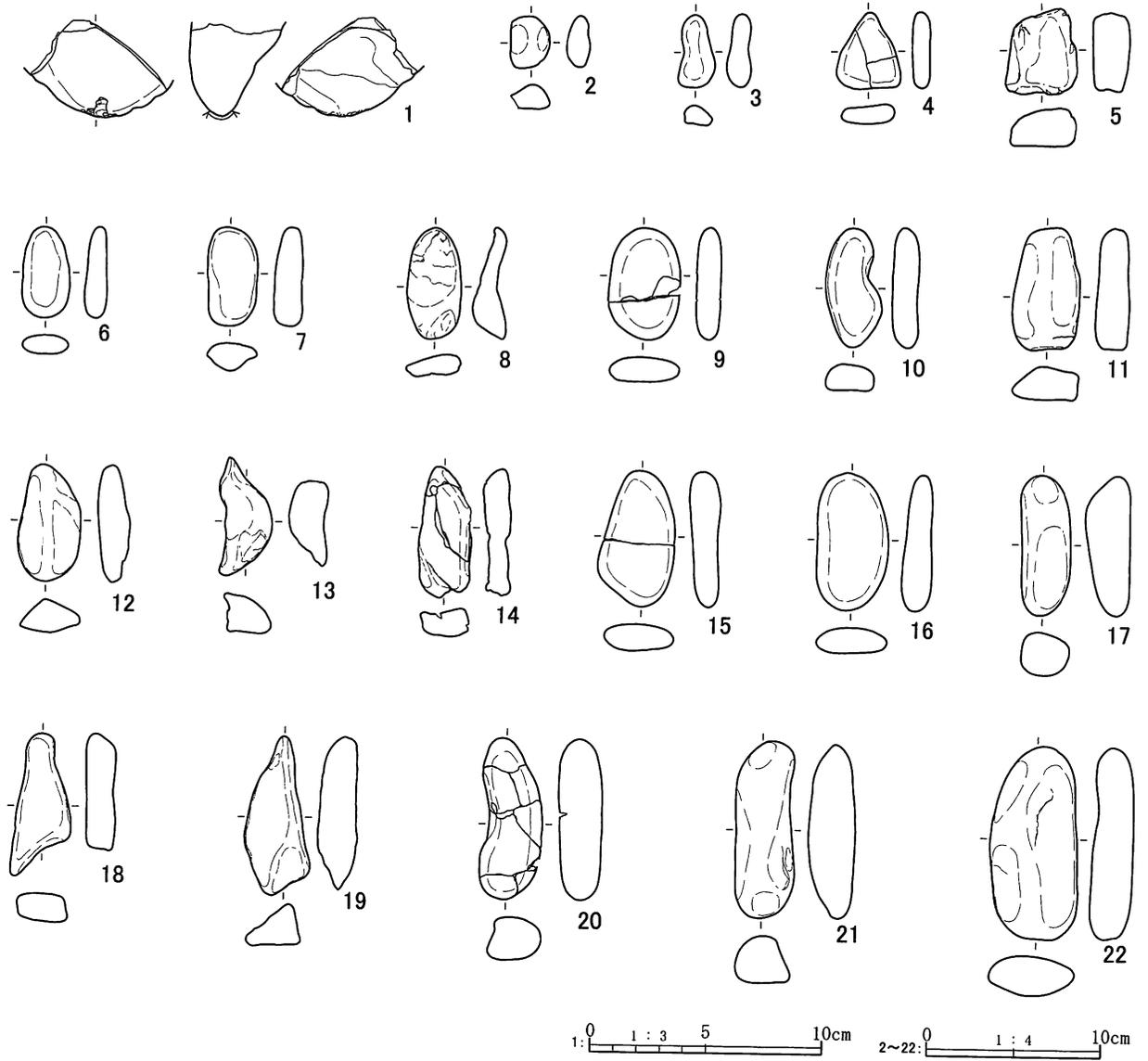


図 II-53 III SB-04出土遺物

表II-56 III SB-04出土礫属性表

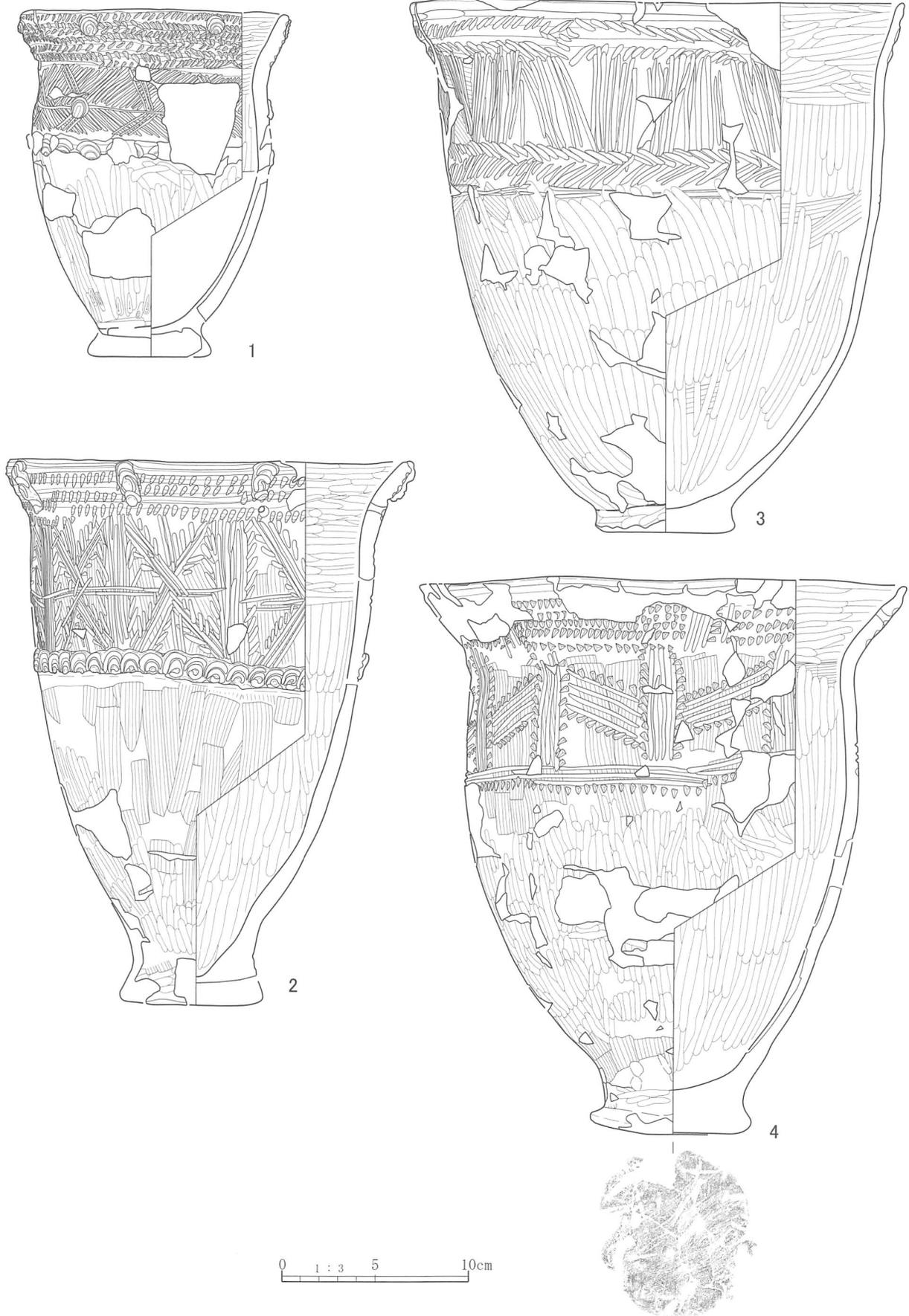
挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
						長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差						
-	-	-	7089	IIIbL	完形	26.5	-47.2	18.7	-16.1	8.5	-10.3	1.4	-0.7	4.5	-	Sa.	
-	-	-	7083	IIIbL	完形	28.9	-44.8	19.7	-15.1	13.4	-5.4	1.5	-0.6	8.7	-	Gra.	
II-53-2	-	-	7091	IIIbL	完形	29.4	-44.3	23.2	-11.6	13.3	-5.5	1.3	-0.8	9.9	-	Sa.	
-	-	-	7094	IIIbL	完形	40.2	-33.5	35.6	0.8	5.9	-12.9	1.1	-1.0	10.8	-	Mud.	
II-53-3	-	-	7109	IIIbL	完形	40.8	-32.9	20.9	-13.9	14.0	-4.8	2.0	-0.1	13.2	-	Sa.	
II-53-4	-	S199	7080 7081 7149	IIIbL	完形	44.3	-29.4	36.0	1.2	10.2	-8.6	1.2	-0.9	21.0	-	Sa.	
II-53-5	-	-	7072	IIIbL	完形	45.9	-27.8	39.5	4.7	19.5	0.7	1.2	-0.9	46.5	-	Mud.	
II-53-6	-	-	7092	IIIbL	完形	52.9	-20.8	27.9	-6.9	12.2	-6.6	1.9	-0.2	21.9	-	Sa.	
II-53-7	-	-	7117	IIIbL	完形	56.2	-17.5	27.3	-7.5	16.9	-1.9	2.1	0.0	31.8	-	Sa.	
-	-	-	7192	IIIbL	完形	61.0	-12.7	37.3	2.5	17.9	-0.9	1.6	-0.5	47.3	-	Sa.	
II-53-8	-	-	7161	IIIbL	完形	61.1	-12.6	30.9	-3.9	23.8	5.0	2.0	-0.1	29.0	-	Mud.	
II-53-9	-	S214	7187 7189	IIIbL	略完形	62.2	-11.5	40.2	5.4	14.1	-4.7	1.5	-0.6	(49.0)	-	Sa.	
-	-	-	7073	IIIbL	完形	64.3	-9.4	31.5	-3.3	12.6	-6.2	2.0	-0.1	41.0	-	Sa.	
-	-	-	7093	IIIbL	完形	65.6	-8.1	38.8	4.0	13.2	-5.6	1.7	-0.4	41.3	-	Sa.	
II-53-10	-	-	7077	IIIbL	完形	66.0	-7.7	33.1	-1.7	14.7	-4.1	2.0	-0.1	41.4	-	Sa.	
II-53-11	-	-	7191	IIIbL	完形	66.3	-7.4	41.4	6.6	19.4	0.6	1.6	-0.5	72.3	-	Sa.	
II-53-12	-	-	7159	IIIbL	完形	66.5	-7.2	26.6	-8.2	23.1	4.3	2.5	0.4	46.9	-	Sa.	
II-53-13	-	-	7168	IIIbL	完形	66.8	-6.9	29.2	-5.6	22.9	4.1	2.3	0.2	41.2	-	Sa.	
-	-	S216	7210 7645	IIIbL	完形	67.4	-6.3	32.6	-2.2	26.3	7.5	2.1	0.0	69.1	-	Sa.	
-	-	S210	7160 7165 7166 7173	IIIbL	略完形	67.9	-5.8	26.2	-8.6	22.9	4.1	2.6	0.5	(40.8)	-	Mud.	
-	-	-	7180	IIIbL	完形	69.1	-4.6	36.9	2.1	20.3	1.5	1.9	-0.2	71.1	-	Sa.	
-	-	-	7176	IIIbL	完形	69.1	-4.6	34.0	-0.8	16.3	-2.5	2.0	-0.1	46.6	-	Sa.	
-	-	-	7615	IIIbL	完形	71.6	-2.1	37.1	2.3	19.1	0.3	1.9	-0.2	62.3	-	Sa.	
-	-	-	7186	IIIbL	完形	71.9	-1.8	40.5	5.7	19.4	0.6	1.8	-0.3	64.8	-	Sa.	
-	-	-	7148	IIIbL	略完形	(72.8)	-0.9	33.1	-1.7	19.0	0.2	2.2	0.1	(51.1)	-	Sa.	
II-53-14	-	S215	7190 7201 7638-1	IIIbL	略完形	73.8	0.1	28.3	-6.5	15.3	-3.5	2.6	0.5	(35.5)	-	Mud.	
-	-	-	7185	IIIbL	完形	74.3	0.6	39.4	4.6	14.6	-4.2	1.9	-0.2	48.5	-	Sa.	
II-53-15	-	S211	7169 7197	IIIbL	略完形	75.4	1.7	42.5	7.7	17.4	-1.4	1.8	-0.3	(68.9)	-	Sa.	
-	-	-	7121	IIIbL	完形	75.5	1.8	34.1	-0.7	14.8	-4.0	2.2	0.1	51.2	-	Sa.	
-	-	S204	7114 7120 7122 7603	IIIbL	完形	77.2	3.5	32.3	-2.5	24.8	6.0	2.4	0.3	62.9	-	Mud.	
II-53-16	-	-	7199	IIIbL	完形	77.4	3.7	41.5	6.7	14.4	-4.4	1.9	-0.2	67.6	-	Sa.	
-	-	-	7179	IIIbL	完形	77.6	3.9	39.1	4.3	22.6	3.8	2.0	-0.1	93.1	-	Sa.	
-	-	-	7125	IIIbL	完形	77.8	4.1	31.5	-3.3	22.9	4.1	2.5	0.4	63.9	-	Sa.	
II-53-17	-	-	7116	IIIbL	完形	79.2	5.5	27.5	-7.3	25.8	7.0	2.9	0.8	76.7	-	Sa.	
-	-	-	7188	IIIbL	完形	79.8	6.1	29.0	-5.8	12.7	-6.1	2.8	0.7	36.1	-	Sa.	
II-53-18	-	-	7195	IIIbL	完形	82.7	9.0	40.1	5.3	16.3	-2.5	2.1	0.0	53.0	-	Sa.	
-	-	-	7184	IIIbL	完形	89.1	15.4	34.8	0.0	17.4	-1.4	2.6	0.5	79.8	-	Sa.	
II-53-19	-	-	7155	IIIbL	完形	90.0	16.3	34.8	0.0	19.6	0.8	2.6	0.5	66.8	-	Sa.	
II-53-20	-	S207	7133 7142 7145 7146 7147 7156	IIIbL	略完形	91.4	17.7	30.1	-4.7	24.7	5.9	3.0	0.9	(104.0)	-	Sa.	
II-53-21	-	-	7153	IIIbL	完形	105.0	31.3	33.9	-0.9	26.6	7.8	3.1	1.0	120.7	-	Sa.	
II-53-22	-	-	7113	IIIbL	完形	109.8	36.1	48.5	13.7	23.8	5.0	2.3	0.2	171.0	-	Sa.	
-	-	-	7221	IIIbL	完形	325.0	251.3	96.0	61.2	56.0	37.2	3.4	1.3	2316.0	-	Sa.	
						73.7		34.8		18.8				107.1			

※ 42 点

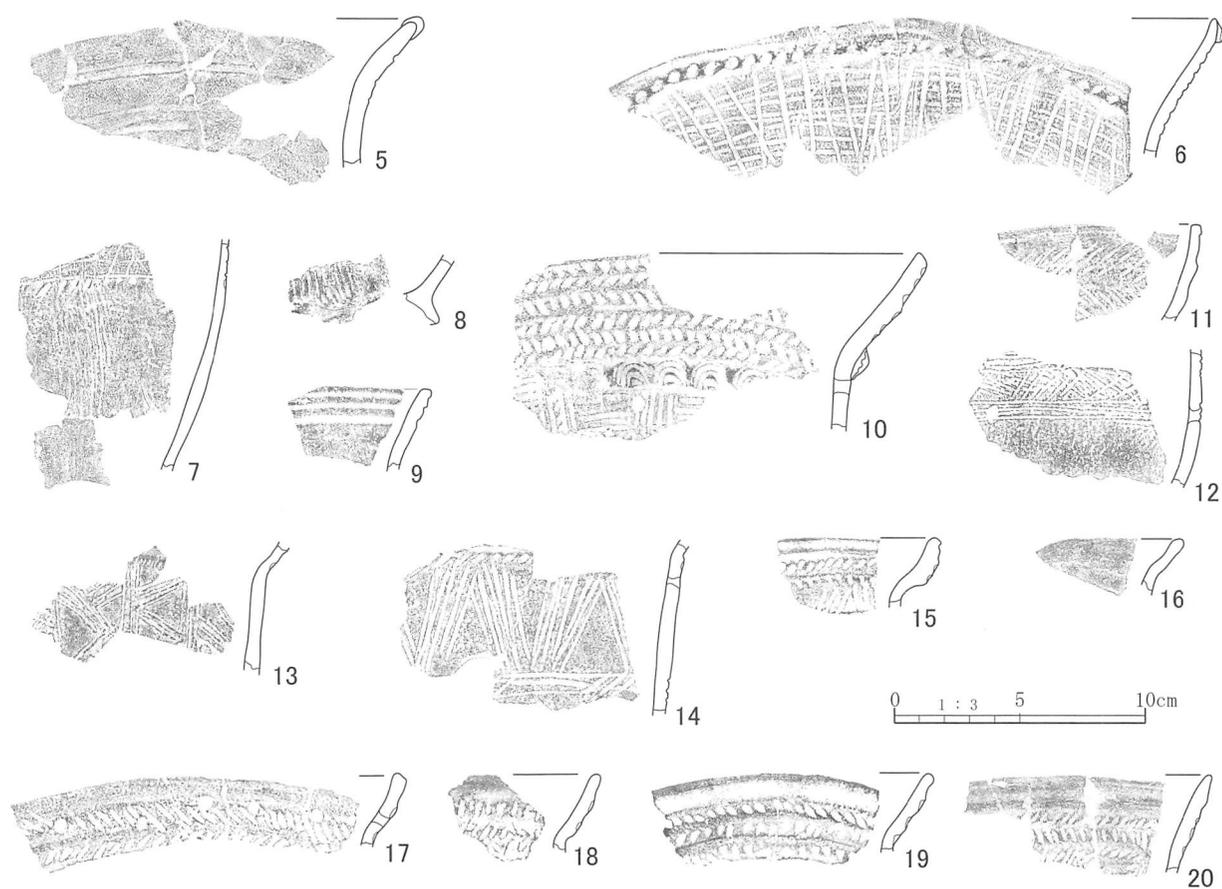
## 第8節 擦文文化期包含層出土遺物（図Ⅱ-54・55・57～59 図版49～51）

### 1. 土器（図Ⅱ-54・55 図版49）

5～20はⅦ群B3類に属する甕である。5は緩やかに外反する口縁部破片、口唇部は丸状で間隔は不明だが小突起が1ヶ所貼付されている。口縁部に2条の浅い横走沈線が施されている。6は緩やかに外傾し、口唇部は僅かに立ち上がり尖状である。口縁部直下に圍繞貼付文を巡らし、斜位の連続した刻みが施される。口縁部文様帯は横走沈線文地に縦方向に施文している。7・8は同一個体の胴部と底部片で、7は縦位、横位、斜位方向に浅く細い沈線文が施され、横走沈線文下位には連続した斜位の刻みが認められる。胴部には幅6mm程度の木口面を縦方向に引いた調整痕も一部見られる。9は道南系の擦文土器に類似する口縁部片である。口唇部はやや角状、口縁部直下に3条の横走沈線が施される。10は口縁部が「く」の字状に外傾し、口縁部文様帯には矢羽根状文が3段付される。頸部屈曲部分には圍繞貼付帯に馬蹄形押捺文が巡る。胴部には数本一組の沈線文が縦横に施される。11は僅かに内湾する口縁部片で、口唇部は隅丸角状、外側に折り返した後ナデ整形している。口縁部は浅い段状沈線上に浅く細い沈線文によって矢羽根状文のモチーフが認められる。12は「X」字状に沈線文を施した後に、上下を横走沈線文で区画している。13は3条1対の「く」字状沈線文の方向を交互にしながら施文し、間を縦位沈線文で区画している。頸部変換点は浅い刻みが連続して施される。14は鋸歯状文を付した後、横走沈線文で区画している。15～20は口縁部片で、15は口唇部隅丸角状、口縁部は直立して立ち上がる。文様構成は矢羽根状文とその下位に鋸歯状文が見られる。16～20は口縁部が緩やかに外傾している。16は破断面に縦方向の沈線文が僅かに認められるが、その他は横方向のミガキ調整のみである。17～20は同様の矢羽根状文構成であるが、19が木口面を押し当てるのに対し、それ以外は棒状工具によって短い沈線文を作出している。20は文様施文後、横方向のナデが認められ、器表面の文様が潰れる。 (荻野)



図II-54 擦文文化期包含層出土土器 (1)



図Ⅱ-55 擦文文化期包含層出土土器 (2)

表Ⅱ-57 擦文文化期包含層出土土器属性表

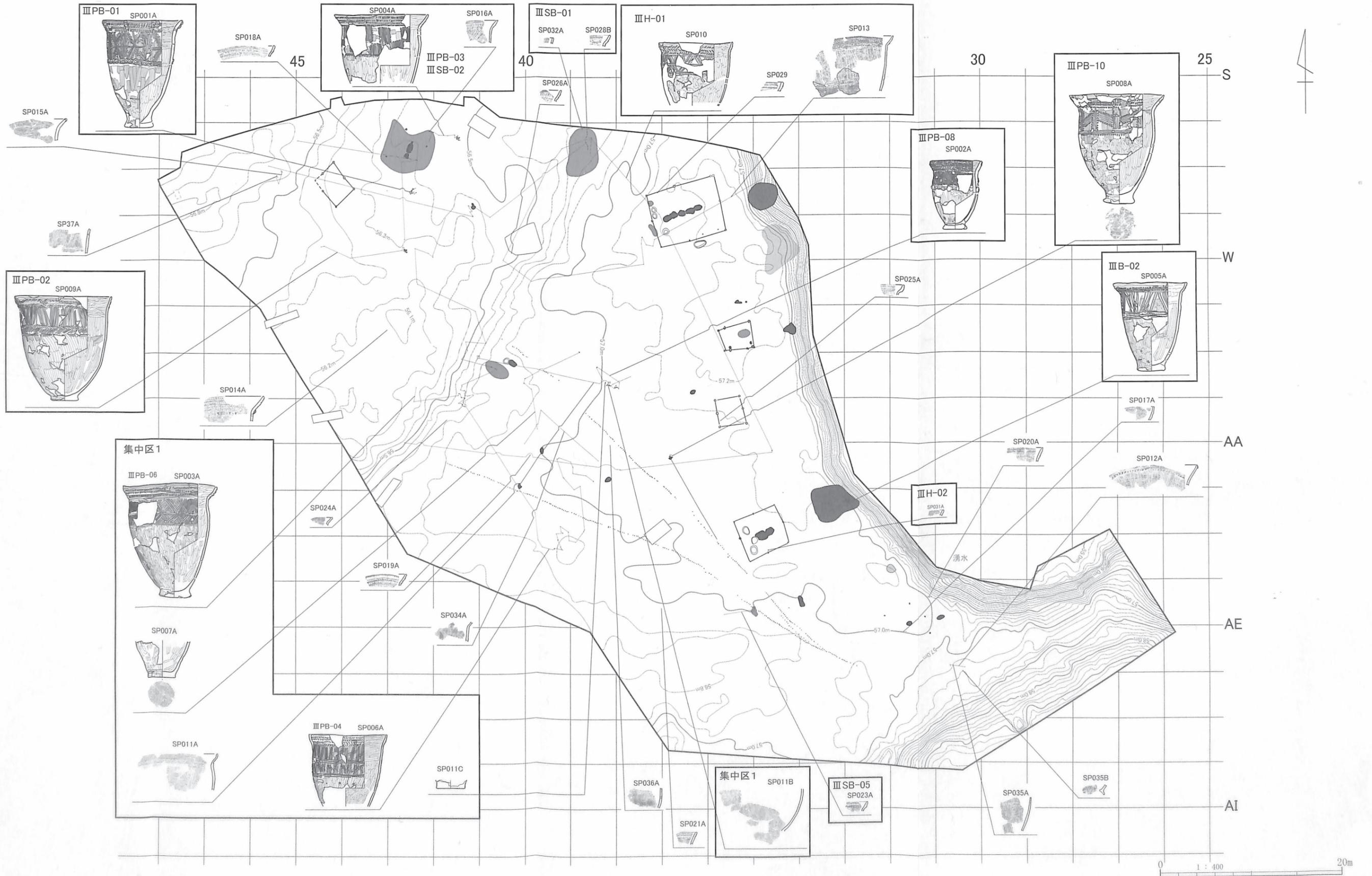
挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点 数	器 種	部位	器面調整		文 様	備 考
									外側	内側		
									口縁/頸部 /胴部/底側面	口縁/頸部 /胴部	口縁部/ 文様帯	
Ⅱ-54-1	48-1	SP002 A	VIB3	ⅢPB-08 /U-42	ⅢbM	40	甕	口縁～ 底部	ミガキ/ 底部付近ケズリ	ミガキ/ミガキ	矢羽根状文/ 沈線文・ 瘤状貼付文・ 貼付圍繞帯文+ 馬蹄形押捺文	内面黒色処理
Ⅱ-54-2	48-3	SP001 A	VIB3	ⅢPB-01 /U-42	ⅢbM	62	甕	口縁～ 底部	ハケメ/ミガキ	ミガキ/ミガキ	刻み/瘤状貼付 文/貼付圍繞帯 文・沈線文・ 樹枝状文	内面黒色処理
Ⅱ-54-3	48-2	SP009 A	VIB3	ⅢPB-02	ⅢbM	63	甕	口縁～ 底部	ミガキ/ミガキ	ミガキ/ミガキ	矢羽根状文/沈 線文・短刻線文	内面黒色処理 底面ミガキ
				V-43	ⅢbM	2						
				V-44	ⅢbL	1						
Ⅱ-54-4	48-4	SP008 A	VIB3	ⅢPB-10	ⅢbL	139	甕	口縁～ 底部	ハケメ/ハケメ・ミガ キ	ミガキ/ハケメ・ミガ キ	刻み/沈線文・ 刻み	内面黒色処理 底面調整痕
				AA-36	Ⅲa	8						
				AC-35	ⅢbL	1						
Ⅱ-55-5	49-5	SP015 A	VIB3	U-45	ⅢbL	8	甕	口縁部	ナデ/ハケメ	ミガキ	沈線文/-	-
Ⅱ-55-6	49-6	SP012 A	VIB3	AE-30	Ⅲa/ ⅢbM	3	甕	口縁部	ナデ	ハケメ・ミガキ	貼付圍繞帯文+ キザミ・沈線文	-
Ⅱ-55-7	49-7	SP035 A	VIB3	AE-30	KR	2	甕	胴部	ミガキ	ミガキ	沈線文+刻み	内面黒色処理
Ⅱ-55-8	49-8	SP035 B	VIB3	AE-30	ⅢbM	1	甕	底部	ハケメ/ミガキ	ミガキ	-	内面黒色処理
Ⅱ-55-9	49-9	SP021 A	VIB3	AD-37	ⅢbM	1	甕	口縁～ 頸部	ナデ	ミガキ	沈線文	内外炭化物付 着、道南系土 器、胎土分析
Ⅱ-55-10	49-10	SP014 A	VIB3	X-43	ⅢbL	1	甕	口縁～ 頸部	ナデ	ミガキ	矢羽根状文/貼 付圍繞帯文+馬 蹄形押捺文・沈 線文・刻み	胎土分析
Ⅱ-55-11	49-11	SP017A	VIB3	AE-31	ⅢbL	3	甕	口縁部	ミガキ	ミガキ	矢羽根状文	内面炭化物付 着、胎土分析
Ⅱ-55-12	49-12	SP036 A	VIB3	AA-38	KR	1	甕	胴部	ミガキ	ミガキ	沈線文	内面炭化物付 着、胎土分析
Ⅱ-55-13	49-13	SP034 A	VIB3	Z-39	ⅢbL/ ⅢbM	4	甕	頸～胴部	ミガキ	ミガキ	沈線文・刻み	内面黒色処理
Ⅱ-55-14	49-14	SP037 A	VIB3	U-45	ⅢbL	2	甕	頸～胴部	ミガキ	ミガキ/ミガキ	沈線文	内面黒色処理 胎土分析
Ⅱ-55-15	49-15	SP025 A	VIB3	Z-35	ⅢbU	1	甕	口頸～ 頸部	ナデ	ミガキ	矢羽根状文/ 沈線文	内面黒色処理
Ⅱ-55-16	49-16	SP024 A	VIB3	Z-41	ⅢbL	1	甕	口頸～ 胴部	ミガキ/ミガキ	ミガキ	沈線文	内面黒色処理
Ⅱ-55-17	49-17	SP018 A	VIB3	T-42	ⅢbL	2	甕	口縁部	ミガキ	ミガキ	矢羽根状文	内面黒色処理
				T-44	ⅢbU	1		口縁部				
				V-42	ⅢbM	2		口縁部				
Ⅱ-55-18	49-18	SP026 A	VIB3	AD-35	ⅢbL	2	甕	口縁部	ミガキ	ミガキ	矢羽根状文	内面黒色処理
Ⅱ-55-19	49-19	SP019 A	VIB3	AA-39	ⅢbM	2	甕	口縁部	ミガキ	ミガキ	矢羽根状文	内面黒色処理
Ⅱ-55-20	49-20	SP020 A	VIB3	AD-31	ⅢbL	5	甕	口縁部	ミガキ	ミガキ	矢羽根状文・ 沈線文	内面黒色処理

## 2. 礫石器 (図Ⅱ-57・58 図版 50・51-1)

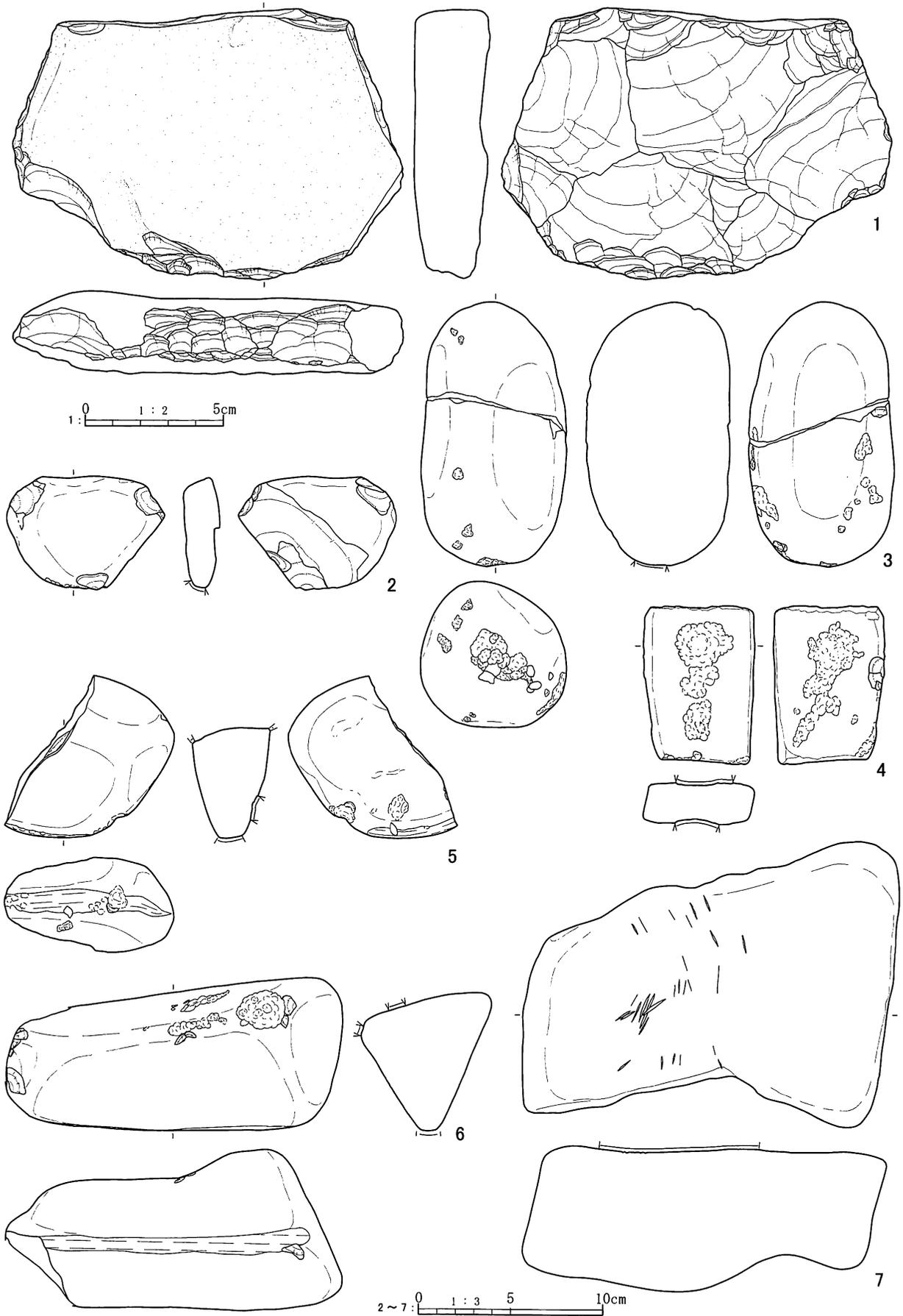
包含層からは火打石1点、たたき石33点、すり石2点、台石7点、滑沢面のある礫4点、線状痕のある礫1点、加工痕のある礫38点出土している。1は淡緑色の石英片岩で大型の扁平礫を素材とした火打石である。長軸下側縁には両面からの細かい剥離が残されているが、刃部としての刃角が鈍角であるため利器としての刃部形成剥離とは異なり、石材の種類と合わせて火打石と思われる。今回の調査ではⅢH-01から同様の特徴をもつ火打石が2点出土しているが、火打金に相当する金属製品は確認されていない。また、すべての焼土を採取しフローテーションにかけたが、同一石質を持つ石英片岩の碎片は含まれていなかった。2～4はたたき石である。2は扁平礫を素材にしたもので、三角形の頂点に敲打痕を有する。3は花崗岩製で、下端部を主に使用している。同石質のたたき石はⅢH-01からも出土している。4は砂岩製で、敲打痕を観察すると図の正面では下から上に向かって新しく敲打されている。裏面では新旧関係は読み取れない。5は砂岩製で、側縁に擦痕と敲打痕が認められる。断面図に示しているが、石器破断面の縁辺部には幅1mm未満の研磨された面が観察され、破損後に稜に丸味をつけ握りやすくすることを目的としていると考えている。6は全体的に磨滅しており、敲打の新旧は読み取れなかった。縄文時代早期に見られる断面三角形のすり石に類似しているが、プライマリーなⅢ層より出土しているため、本章にて掲載している。7は滑沢面のある礫で、平坦面のやや窪んだ範囲に滑沢面とこれを切る線状痕が観察された。滑沢面が確認できた石器は4点出土しているが、滑沢面のみを残す石器はなく、敲打痕や線状痕を併せもつ。8は砂岩製台石で、表裏面と側面稜に敲打痕が残されている。9は花崗岩製の台石で素材の凸部分に点々と敲打痕が残されている。10は線状痕のある礫で、不定形で厚みのある礫を素材とし、表裏面に敲打痕と線状痕が残されている。下部は細くなっており、使用痕が顕著ではないことから把握部の可能性も考えられる。11～15は加工痕のある礫で、11は砂岩製、端部付近に敲打痕が見られ、先端を一部剥離加工している。12・13は縁辺に連続する剥離加工が施されており、鋭い縁辺が形成されているが、使用による摩耗等は見られない。14・15は破断面縁辺部に剥離が認められる。(松井)

## 3. 金属製品 (図Ⅱ-59 図版 51-2)

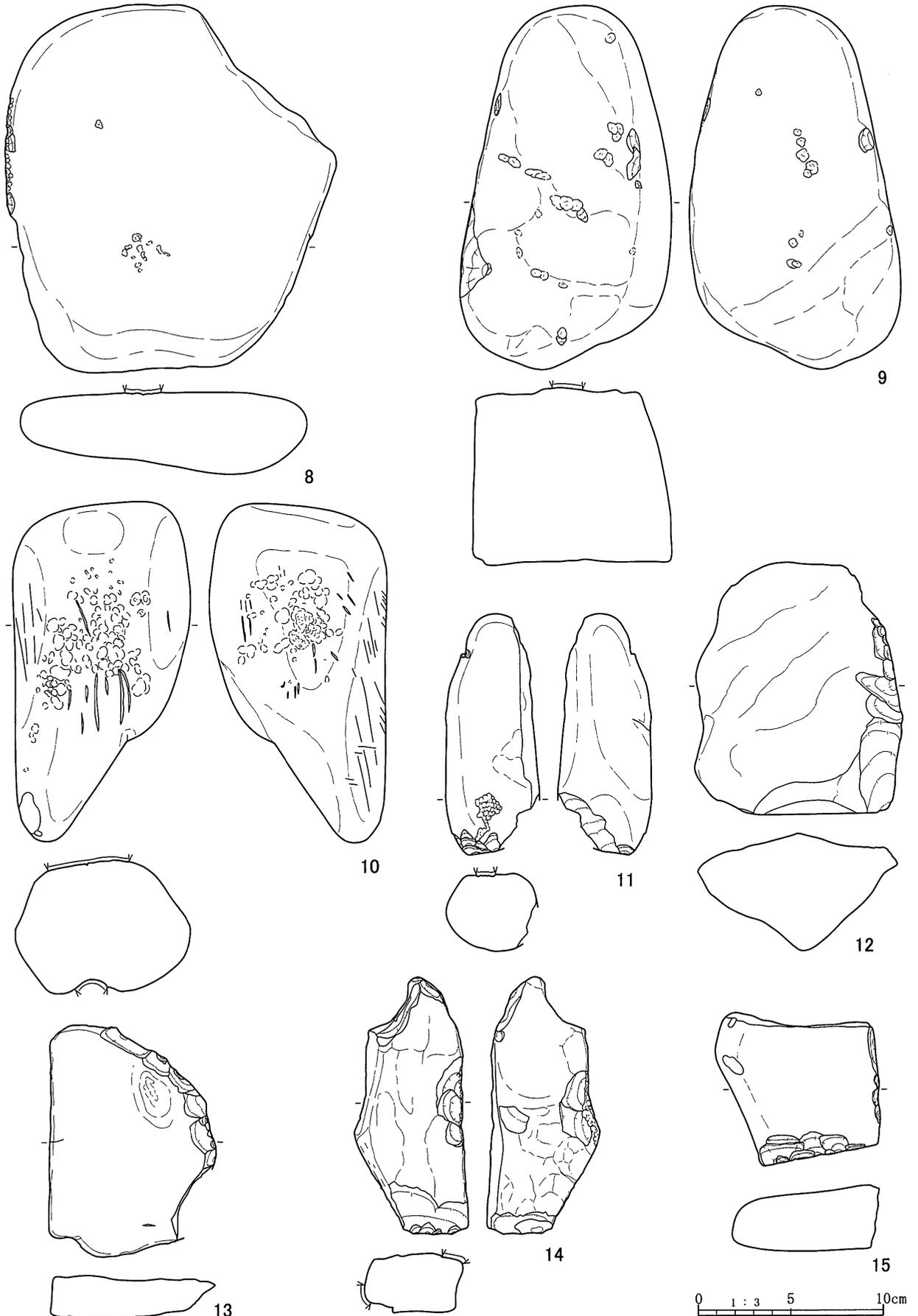
遺跡からは7点の金属製品が出土した。そのうち1点は擦文文化期のⅢB-02から出土したもので、ここでは包含層出土の6点について述べる。図Ⅱ-59-1は平棟平造りの刀子で、切先を欠損している。両区で茎の断面形は長方形、目釘穴は無い。口金が残存し本体に癒着している。2は刀の切先部分である。3・4は茎片で3は目釘穴部分で折損している。5は環状錫鉛製品で、分析結果を参照されたい(第Ⅵ章6節)。内径で10.5mmを計る。直径約4mmの棒状の素材を円形に折り曲げている。現場出土段階にて脆弱であることが予想されたため、5～10%に希釈したパラロイドB-72を段階的に濃度を高め、数回塗布し補強を行った。形状は異なるが錫鉛製品は町内のヲチャラセナイ遺跡、オニキシベ2遺跡、富里2遺跡でも出土している。6は筒状の鉄製品で、板状の素材を折り曲げて作成されたものと考えられる。両端部を約5mm重ね合わせており、長軸17mm、内径で8mm、厚さは約2～3mm。用途については、「比較的細い柄にヤスなどの金属製品を固定するための金具の可能性はある」と岩手県立博物館の赤沼英男氏に御教示頂いた。(荻野)



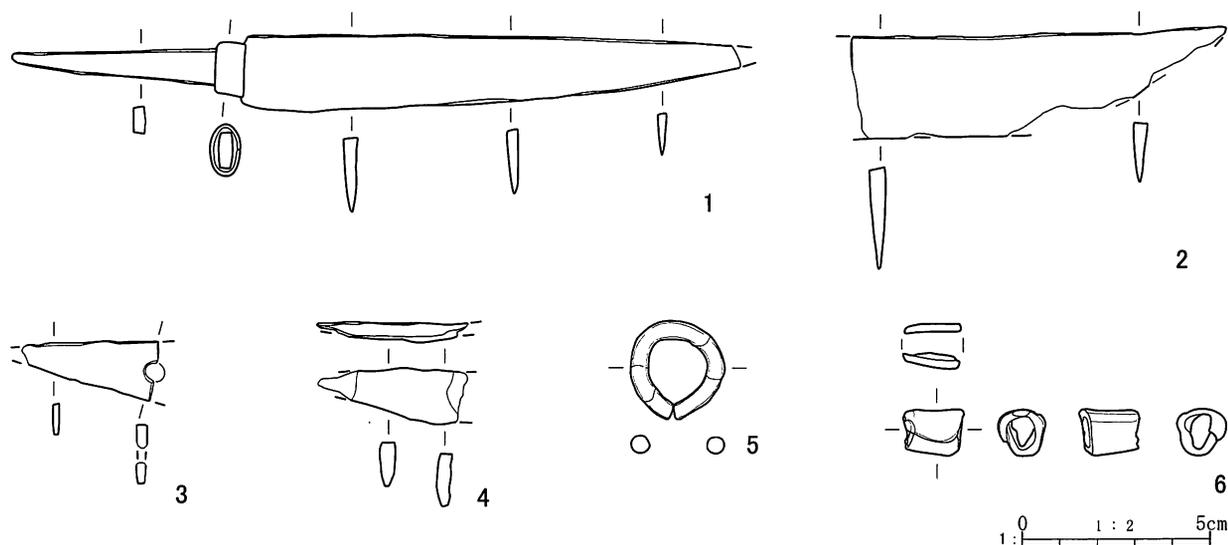
図II-56 擦文文化期土器接合線図



図II-57 擦文文化期包含層出土礫石器 (1)



図Ⅱ-58 擦文文化期包含層出土礫石器 (2)



図II-59 擦文文化期包含層出土金属製品

### 第9節 擦文文化期の調査成果と課題

主体となるのは擦文文化期後期の、住居跡2軒と同時期と考えられる獣骨集中、遺物集中などを検出した。これらの遺構群の立地や位置関係、長軸方向などは、近隣の上幌内モイ遺跡やオニキシベ2遺跡、ヲチャラセナイ遺跡における発掘調査結果で得られた中世アイヌ文化期の遺構群と共通し、厚真川の upstream 方向、またはほぼ同じ方向にある鬼岸边川合流点に存在する標高 150.7mの天神山が意識された可能性がある。獣骨集中や遺物集中もいわゆる神窓方向に存在しており、中世アイヌ文化期の遺構、遺構群との認識に違和感が無い。しかし、住居床面を整地し、掘り上げ土を伴うなど、中世アイヌ文化期の住居跡とは異なる要素もある。さらに、出土している土器群が、擦文終末期に近いことからこれらの遺構群は、次の中世アイヌ文化期への移行期にあたるものと思われる。あえて言うならば、中世アイヌ文化期の住居構造や方位観念は、この地域においてという限定の枠ではあるものの、擦文文化期後期には成立していた可能性を示唆する良好な資料群と言えよう。

遺物においては2つのタイプの擦文土器が出土しており、出土状態などからは区別することはできなかった。周辺の上幌内モイ遺跡やオニキシベ2遺跡では数個体が単体で出土しているに過ぎず、空白時期の新たな追加資料となった。これらが従来どおりの編年に従った12世紀代の前半と後半の新旧2時期のものか、同時期存在で地域差を含む2系統の土器群であるか、今後、検討を進めていきたい。また、その中では馬蹄形圧痕文を有する東北北部で出土する擦文土器との類似性もあり、太平洋沿岸域における地域間交流、編年の検討資料ともなる。なお、今回の資料群には高坏が1点も出土していないことから、これまでの発掘調査成果と合わせて土器文化の終焉プロセスも迫る可能性がみえてきた。

上記の遺構や擦文土器から、これまでの上幌内モイ遺跡(10世紀後半～11世紀)の円形周溝遺構や土坑墓などの遺構群や「集中区」、須恵器や土師器、銅鉦や鍛冶・発火技術などの各種搬入・渡来遺物・技術なども踏まえて、この地域の擦文文化の盛行と変容によるアイヌ文化の初源を検討するうえで重要な資料群と言えよう。(乾)

表Ⅱ-58 擦文文化期包含層出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構/ グリッド	規模(mm)			重量 (g)	材質	備考
								長軸	短軸	厚さ			
Ⅱ-57-1	50-1	-	9074	火打石	-	ⅢbL	AC-32	138.8	96.3	26.3	520.0	Qu-Sch.	
Ⅱ-57-2	50-2	-	5994	たたき石	ⅡA1	ⅢbM	U-42	83.6	60.7	19.7	(112.5)	Sa.	
Ⅱ-57-3	50-3	ST-32	5736 16190	たたき石	ⅢB2	ⅢbL	V-44	141.5	74.2	79.1	1335.0	Gra.	
Ⅱ-57-4	50-4	-	4120	たたき石	I A1	ⅢbL	V-41	(81.4)	57.7	25.3	(207.5)	Sa.	
Ⅱ-57-5	50-5	-	9118	すり石	A	ⅢbL	AD-33	96.4	61.3	48.9	348.0	Sa.	
Ⅱ-57-6	50-6	-	9476	すり石	A	ⅢbL	AD-31	186.0	86.0	80.6	1700.0	Ch-Gab.	
Ⅱ-57-7	50-7	-	5943	滑沢面の ある礫	-	ⅢbM	AD-37	205.0	154.0	92.0	3350.0	Sa.	
Ⅱ-58-8	51-1-8	-	5971	台石	-	ⅢbM	X-37	200.0	185.0	40.3	2000.0	Sa.	
Ⅱ-58-9	51-1-9	-	1773	台石	-	Ⅲa	V-36	196.0	109.3	108.0	359.0	Gra.	
Ⅱ-58-10	51-1-10	-	8265	台石	-	Ⅲc	V-36	180.0	90.0	70.0	1410.0	Sa.	
Ⅱ-58-11	51-1-11	-	9504	加工痕の ある礫	A	ⅢbL	AE-31	129.4	46.9	43.2	(272.5)	Sa.	
Ⅱ-58-12	51-1-12	-	9070	加工痕の ある礫	A	ⅢbL	AC-32	136.0	115.0	53.8	1005.0	Bl-Sch.	
Ⅱ-58-13	51-1-13	-	7824	加工痕の ある礫	A	Ⅲc	X-35	122.8	(87.8)	27.3	(310.0)	Sa.	
Ⅱ-58-14	51-1-14	-	1612	加工痕の ある礫	B	Ⅲa	AC-35	138.2	56.2	32.4	(322.5)	Sa.	
Ⅱ-58-15	51-1-15	-	2526	加工痕の ある礫	D	ⅢbM	T-44	(87.0)	(82.0)	36.7	(340.0)	Sa.	
Ⅱ-59-1	51-2-1	-	3544	小刀	-	Ⅲa	W-41	19.5	2.2		41.0	Fe.	締め金具付き
Ⅱ-59-2	51-2-2	-	7450	小刀片	-	1	ⅢKP-01	10.1	2.8		40.6	Fe.	先端のみ
Ⅱ-59-3	51-2-3	-	8505	小刀茎片	-	ⅢbL	U-37	3.8	1.7		6.5	Fe.	目釘穴で折損
Ⅱ-59-4	51-2-4	-	9643	小刀茎片	-	ⅢbL	AD-37	4.0	2.2		6.0	Fe.	
Ⅱ-59-5	51-2-5	-	8534	環状錫製品	-	ⅢbL	AE-31	2.5	2.5		4.0	Pb. Sn.	
Ⅱ-59-6	51-2-6	-	9514	不明	-	ⅢbL	AE-33	1.7	1.2		5.8	Fe.	

## 第三章 続縄文文化期の調査

調査区中央部北側と南側の2ヶ所から続縄文文化期の遺物が出土した。層位はいずれもⅢc層に属する。北側からは深鉢土器が、南側からは浅鉢形土器が出土し、他にも後北C2・D式に相当する破片2個体が出土した。石器類では二等辺三角形の無茎石鏃やスクレイパーなどが少量出土している。土器集中以外の遺構は検出されていない。続縄文文化期の遺物は土器199点、剥片石器6点、礫石器6点、石製品1点、剥片類18点、礫211点、総計441点である。

### 第1節 続縄文文化期集中遺物及び包含層出土遺物

#### 1. 土器集中 (図Ⅲ-2、3-1a・1b・2 図版52-1a・1b・2)

土器集中はⅢPB-07・09の2ヶ所である。

ⅢPB-07は80×58cmの楕円形の範囲に74点の土器片が出土した。口縁部から底部までの破片がまとまって出土したが、接合作業の結果、口縁から底部まで一貫しては接合せず、1a・1bに分けて図示した。

ⅢPB-09は長軸1mの楕円形の範囲から35点の土器片が出土し微細な破片以外は全て接合した。

**出土遺物** 1a・1bはⅥ群A1b類の深鉢で、口縁部は緩やかに開き、底部は上げ底である。口唇には棒状工具による突引文が連続して施される。地文にRL斜行縄文がやや疎密に施され、口縁部には口唇に施された突引文と同じ施文具で横走沈線が3条施される。

2はⅥ群A1b類に相当する完形の浅鉢で、底部から直線状に開く器形である。片口状の袢りが1ヶ所あり、それに相対するように焼成前穿孔が3ヶ所見られる。口縁部はやや外傾し、口唇には突引文(内)が施される。地文にLR帯縄文が横位に、間には口唇の突引文と同じ施文具で突引文(外)が施される。底部は底面が丸みを帯び張り出す上げ底で、底面には帯縄文を施文後、十字とこれらを繋ぐ沈線文が施されている。

#### 2. 包含層出土遺物 (図Ⅲ-3-3~10 図版52-3~10)

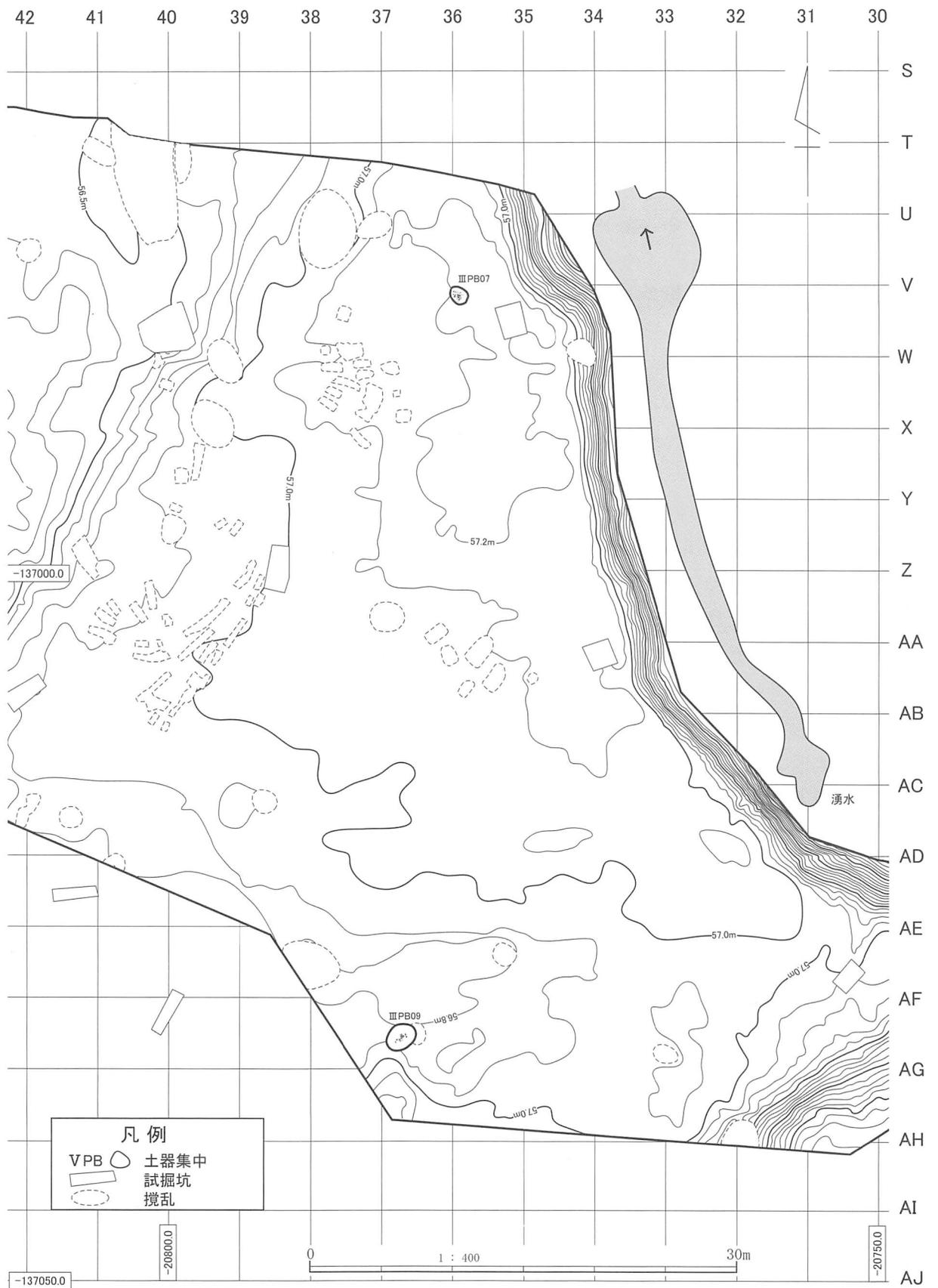
3・4はⅥ群C4類に相当する土器片である。3は胴部片で、弧状に施された微隆起線の間、帯縄文と三角列点文が施されている。4は口縁部から胴下半部にかけての破片で、残存する口縁部形状から片口形土器の破片と考えられる。無文で焼成は良く、胎土に砂粒をやや多く含む。

5・6は二等辺三角形を呈する無茎石鏃で、基部は僅かに湾入する。7は五角形を呈する石鏃で、平基である。8は縦長の剥片を用いたサイドスクレイパーで、岩碎面を残している。9は石核で、背面に転礫面を残す。転礫の半割面を打面として縦長剥片を数枚剥離している。5~9は黒曜石製。

10は滑石を素材とした石製品で、全面研磨調整されている。平面形は長方形で右側縁が弧状に張り出す。穿孔は見られず装飾品の未製品と考えられる。(荻野)

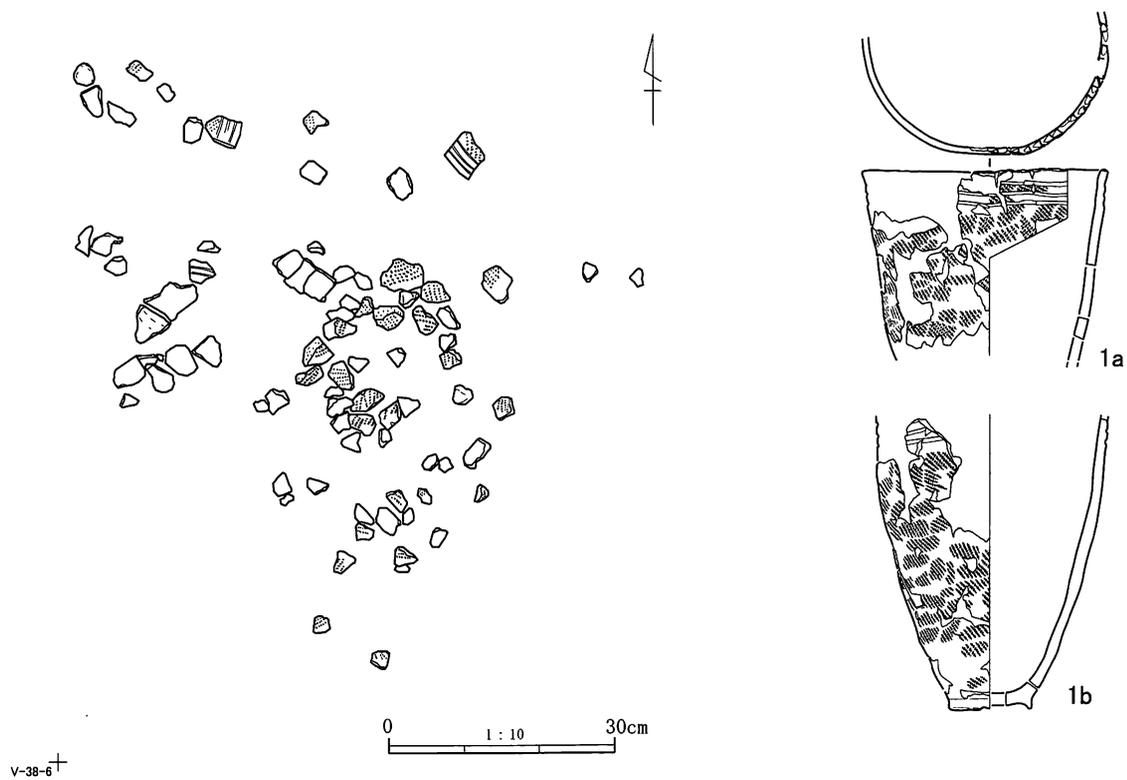
表Ⅲ-1 土器集中属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			備考
						長軸	短軸	厚さ	
Ⅲ-1・2	-	ⅢPB-07	V-35・36	Ⅲc	不整形	80	58	-	
Ⅲ-1・2	-	ⅢPB-09	AF-36	Ⅲc	不整形	95	47	-	

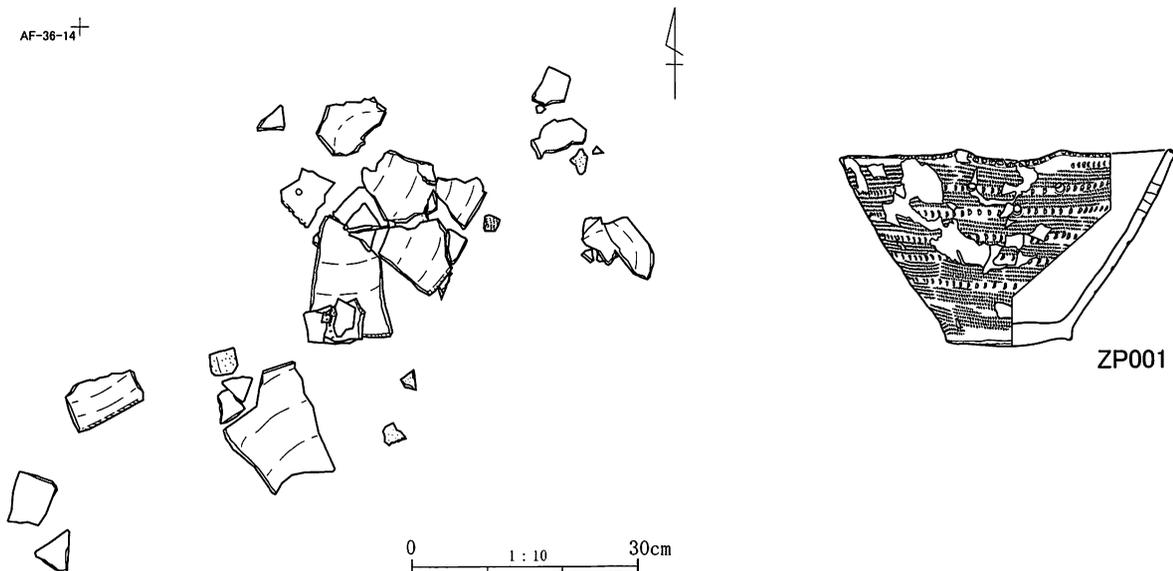


図Ⅲ-1 続縄文文化期遺構配置図

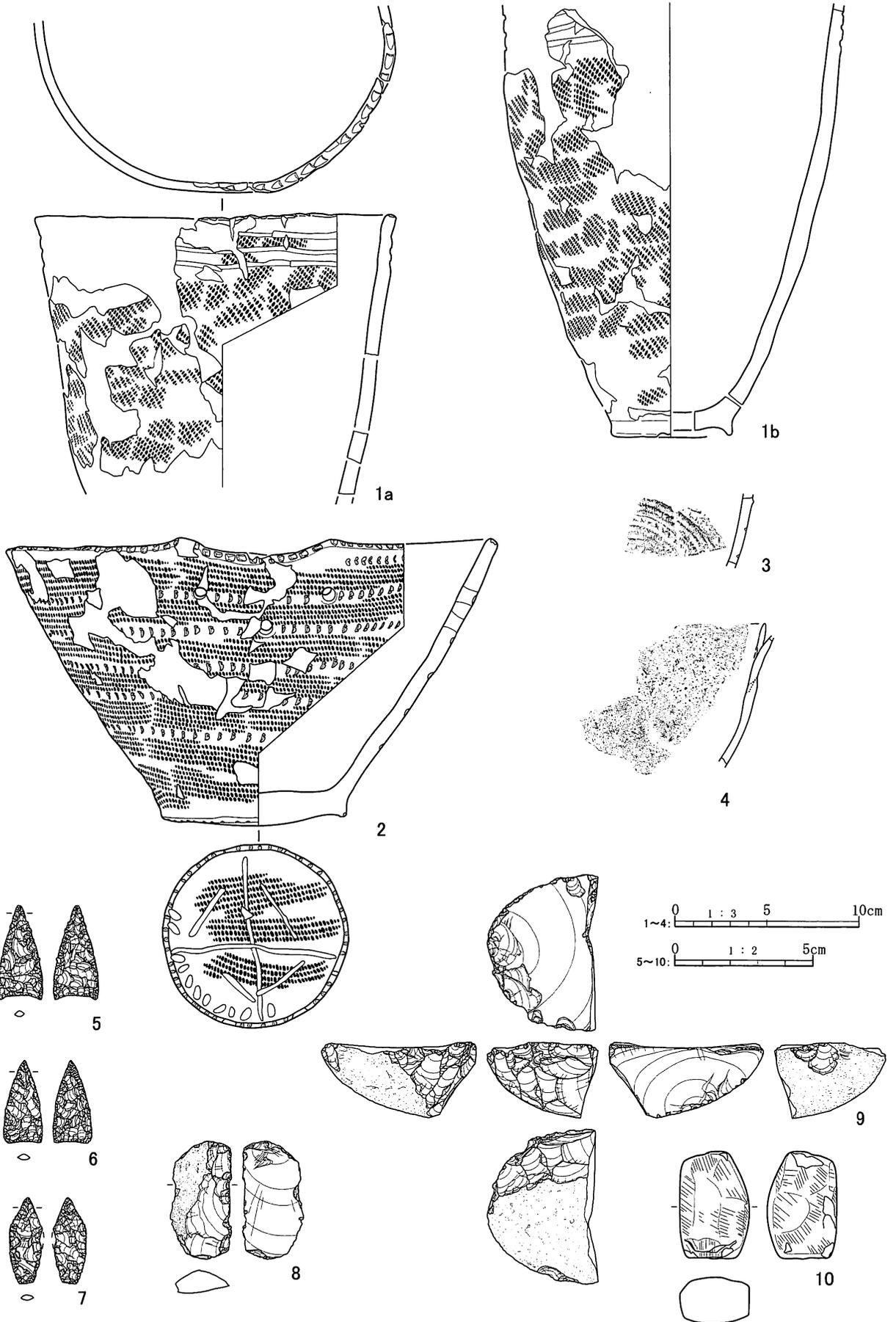
ⅢPB-07



ⅢPB-09



図Ⅲ-2 ⅢPB-07・09 平面図



図Ⅲ-3 続縄文文化期包含層出土遺物

表Ⅲ-2 続縄文文化期包含層出土土器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	部位	器形等	文 様	胎土	備考
							口縁-口唇/胴部 /底側面-変換点 -底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面		
Ⅲ-3-1a	52-1a	ZP002A	VIA1b	ⅢPB07 /W-35	Ⅲc	口縁部 ~胴部	平縁-隅丸角状 /外傾	突引文(外)-横走沈線 /-ミガキ(ヨコ)/RL斜行 縄文-ミガキ(タテ)	φ1mm ↓ 砂粒 少量混入	
Ⅲ-3-1b	52-1b	ZP002B	VIA1b	ⅢPB07 /W-35	Ⅲc	胴部~ 底部	外傾/角状-上げ底	横走沈線/RL斜行縄文	φ1mm ↓ 砂粒 少量混入	
Ⅲ-3-2	52-2	ZP001A	VIA1b	ⅢPB09 /AF-36	Ⅲc	口縁部 ~底部	片口状挟り・平縁・外 傾/外傾/角状張り出 し-丸底	突引文(内)/RL帯縄文・ 突引文(外)/刻み/RL帯 縄文・沈線文	φ1mm ↓ 砂粒 少量混入	焼成前穿孔、3カ所
Ⅲ-3-3	52-3	ZP004A	VIC4	Y-36	ⅢbL	胴部	外傾	RL帯縄文・微隆起線・刺 突文-ナデ	φ1mm ↓ 砂粒 少量混入	
Ⅲ-3-4	52-4	ZP003A	VIC4	AD-31・32	Ⅲc	口縁部 ~胴部	平縁・片口状の張り 出し-尖状/外傾	ミガキ(タテ)-ナデ	φ2mm ↓ 砂粒 やや多く混入	

表Ⅲ-3 続縄文文化期包含層出土石器・石製品属性表

挿図 番号	図版 番号	遺物 番号	層位	グリッド	遺物名	分類	計測値(mm)			重量 (g)	材質	備考
							長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-3-5	52-5	16755	ⅢbL	AC-40	ポイント	A2b	33.7	15.2	3.5	1.8	Obs.	
Ⅲ-3-6	52-6	16756	ⅢbL	AD-39	ポイント	A2b	29.4	14.1	4.1	1.5	Obs.	
Ⅲ-3-7	52-7	7759	Ⅲc	X-39	ポイント	A4	31.4	(11.9)	3.1	(1.0)	Obs.	略完形
Ⅲ-3-8	52-8	9952	ⅢbL	AD-32	スクレイパー	C1	42.9	21.4	8.1	7.8	Obs.	
Ⅲ-3-9	52-9	9075	ⅢbL	AC-32	石核	-	36.9	24.4	55.1	53.2	Obs.	赤色 転礫面有
Ⅲ-3-10	52-10	7847	Ⅲc	Y-33	石製品	-	37.8	25.8	16.3	27.1	Tul.	

## 第IV章 縄文時代の調査

樽前cテフラより下層の黒色腐植土より出土する遺構、遺物を対象としている。時期は縄文時代早期から晩期に至るまで、前期を除く各時期の遺物が出土している。検出した遺構は、竪穴式住居跡1軒、集中区1ヶ所、土坑15基、Tピット18基、土器集中16ヶ所、礫集中1ヶ所、剥片集中3ヶ所である。これらの遺構は東側段丘縁辺部から約20mの位置に沿った高位面に、帯状に分布している。

住居跡は調査区の北側から1軒検出した。床面から柏木川式土器の大型の破片が出土している。AC-32区周辺でVa層から縄文後期末葉～晩期初頭の土器集中や焼骨片集中を含む集中区1を検出した。隣接する湧水に係わる集中区と思われる。Tピットの多くは標高56.5m前後、西側の低位面に立地し、56.6mと56.4～56.5mの等高線に沿う2列が見られる。Tピットは溝状タイプが主体を占めている。土坑は長軸1m弱、検出面からの深さ0.5m以下の楕円形のものが主体で坑底面に杭跡が見られるものもある。土器集中の時期は縄文早期（コッタロ式・中茶路式）、中期（厚真1式・柏木川式・北筒式）、後期（余市式・手稲式・御殿山式）、晩期（東三川I式・ママチI群）であり、余市式がやや多いものの各時期にわたって、この段丘面が利用されていたことが伺える。石器類は剥片石器、礫石器が各種出土し、本地域では出土例が少ない石錘が2点出土している点の特記される。V・VI層から出土した遺物は土器4,207点、剥片石器227点、礫石器287点、土製品16点、剥片類7,813点、礫3,472点、他8点、総計16,030点である。（荻野）

### 第1節 竪穴住居跡

VH-01（図IV-2・3 図版27-1～4 53-1）

位置：V-36、W-35・36区 平面形：不整楕円形 規模：368×244cm

**確認・調査** III層調査中に浅い窪みとして認められ、住居の可能性を考えて東西方向にトレンチを掘削した。当初IIIH-01に隣接することからIII層の竪穴住居の可能を考えたが、IIIb層が自然堆積し、さらにV層まで掘り下げたところ、床面と壁の立ち上がりを確認したので、V層の竪穴住居跡であることを確認した。遺構調査を一旦中止し、III層調査完了後、IV層を重機で除去した後に再開した。住居跡中央から南西には現生の木根が密集してトレンチの掘り下げが困難であったため、東側半分を掘り下げて南北方向の土層断面の記録を行った。その後、南東側の掘り下げを行ったが当初の予測よりも壁面が南東側へ広がり、南東側の床面に一括土器が出土するとともに壁面の立ち上がりも確認した。覆土で出土した胴部から底部にかけての土器を取り上げ後、床面出土の遺物を残したまま床面の精査を行い、炉跡及び柱穴を検出した。柱穴の調査を行った後完掘写真の撮影を行い、炉跡の調査と遺物の取り上げ、平面図等の実測を行い、調査を終了した。

**形態** 平面形は不整楕円形で、北西-南東方向に長軸を持つ。長軸方向両側が張り出し、側縁は東側が直線的で、西側がやや張り出している。

**堆積状況** 壁はVc層上面からVII層まで約15cm掘り込まれている。覆土はVb層が厚く堆積し、壁際にはVc・VI・VII層に起因する再堆積土が流入している。床面近くまではVb層主体の土壌が堆積している。なお、住居跡の周辺には遺物をやや多く含むVb層が堆積していたが、明瞭な掘り上げ土については検出できなかった。



図IV-1 縄文時代遺構配置図

表IV-1 縄文時代遺構群一覧表

遺構名	規模(cm)		グリッド	層位	付属・関連遺構	備考
	長軸	短軸				
VH-01	368	244	V-36,W-35・36	Vc	HF01・02、HP01～03	
集中区1	920	520	AC-31・32 AD-31・32	Va	VPB-01	
					VPB-07	
					VBB-01	
TP-01	128	84	AD-37	VI		杭跡2
TP-02	208	80	T-40	VI		
TP-03	(272)	(64)	S-40・41	VI		
TP-04	304	60	T-41・42	VI		
TP-05	256	56	T・U-42	VI		
TP-06	268	56	U-42・43	VI		
TP-07	136	76	AE-34	VI		杭跡3
TP-08	204	48	T-44・45	VI		
TP-09	336	76	AB・AC-32	VI		
TP-10	328	80	U-42・43	VI		
TP-12	236	116	AC・AD-26・27	VI		
TP-13	296	96	U-39	VI		
TP-14	236	92	AD-39	VbL		
TP-15	192	68	U-45	VI		
TP-16	192	68	U・V-46	VI		
TP-17	264	60	V-46・W-45・46	VI		
TP-18	236	44	V-44・45	VI		杭跡1
TP-19	160	128	Z-33	VI		
VP-01	86	60	AD-27	VI		
VP-02	(148)	(84)	X-41・42	Vb	VPB-08	IV群1類の土器を伴う
VP-03	124	68	T-40	VI		TP-02より新
VP-04	100	62	V-41	VI		
VP-05	88	48	T-44	VI		杭跡3
VP-06	80	44	U-44	VI		
VP-08	84	56	AE・AF-35	Vb		
VP-09	84	48	S-44	Vb		VP-10より新
VP-10	(32)	(28)	S-44	Vb		VP-9より古
VP-11	104	62	AC-33	Vb		
VP-12	88	44	X-42	VI		
VP-13	96	56	W-35	VI		
VP-14	96	62	W-34	VI		
VP-15	76	44	Z-43	Vb		
VP-16	104	52	V-44	VI		
VPB-02	72	55	AE-34	VbU		
VPB-03	56	25	AF-35	VbU		
VPB-04	40	28	AD-35	VbU		
VPB-05A	110	105	AA・AB-35	VbU		
VPB-05B	90	70	AA・AB-35	VbU		
VPB-07						集中区1
VPB-08	40	38	X-41・42	VP-02覆土	VP-02	
VPB-09	75	66	U-43	Va・VbU		
VPB-10	210	110	Y・Z-40	Va・VbU		
VPB-11	215	105	Y-37	VbU		
VPB-12	130	120	W-37	VbU		
VPB-13	180	150	U・V-38	Va・VbU		

表IV-1 縄文時代遺構群一覧表(続き)

遺構名	規模(cm)		グリッド	層位	付属・関連遺構	備考
	長軸	短軸				
VPB-14	100	70	AG-35	Va		
VPB-15	250	130	AC-34	VI		
VPB-16	270	150	U・V-36・37	VbU		
VPB-17	106	81	Z-35・36	VbL		
VPB-18	144	69	X-36	VbU		
VPB-19	205	155	W-36・37	VbU		
VFCB-01	120	74	AB-35	VbL		
VFCB-02	98	36	V-39	VbL		
VFCB-03	100	64	T-36	Va		
VSb-01	60	54	X-39	VbL		

**炉跡及び柱穴** 住居の長軸上に2ヶ所の炉跡を検出した。北側に位置するHF02は平面長軸40cmの楕円形で、層厚8cmの焼土が見られる。南側のHF01は平面32cmの円形で、浅く掘り込まれた中に炭化物のみを検出した。焼土は見られず、掻き出された可能性が高い。柱穴はHF01の両脇で長軸と直行して2ヶ所とHF02の南西側に1ヶ所検出した。柱穴は一部Ⅷ層まで掘り込んでいる。HP03と対になる北東側床面を精査したが柱穴は検出できなかった。

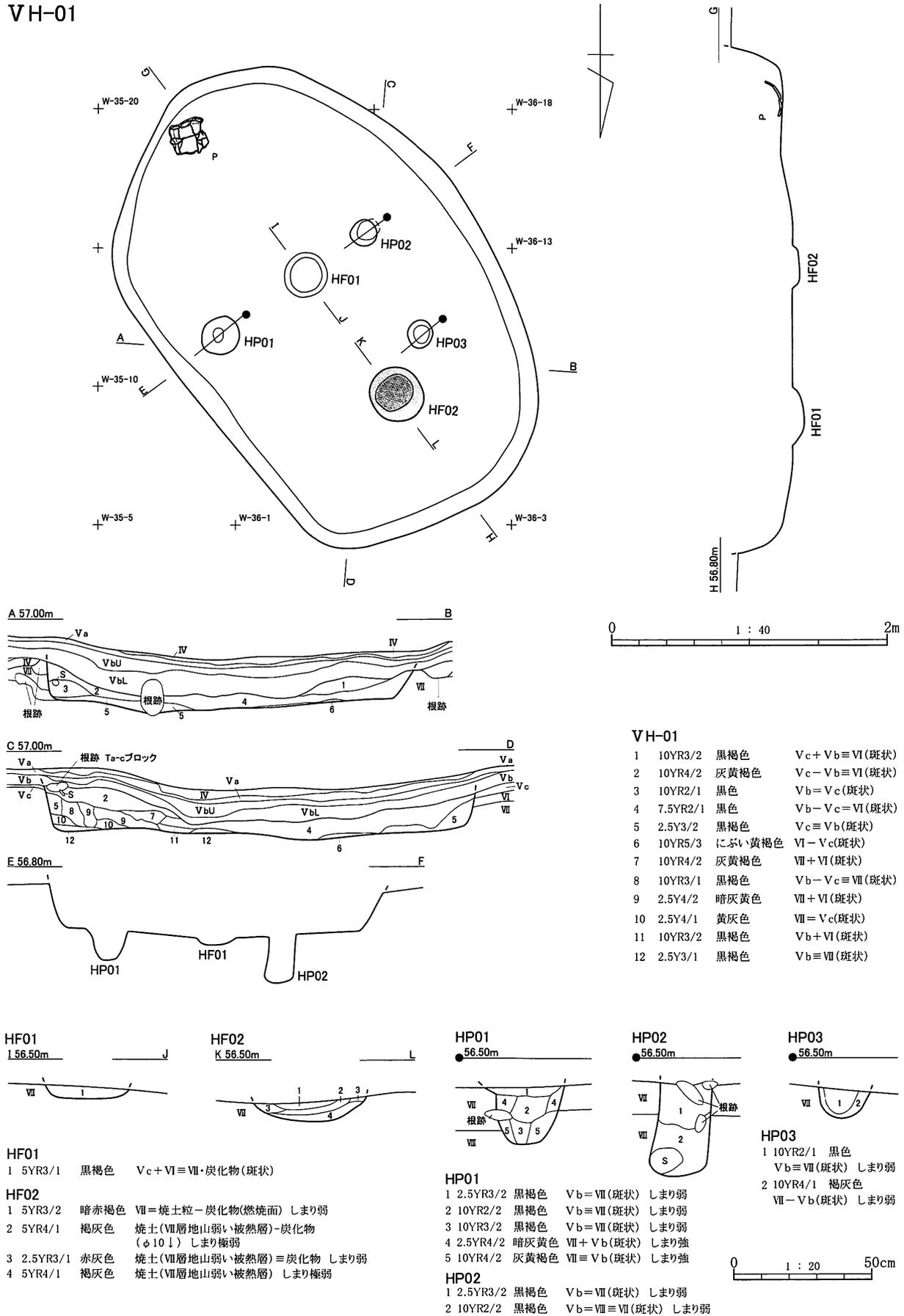
**遺物出土状態** 床面の遺物は壁際から出土したものがほとんどで、南東壁際から深鉢形土器の一括土器が出土した他に、図示した3～9の遺物が出土した。炉に近い北西側の床面からは遺物が出土していない。

**出土遺物** 1はⅢ群B2類に属する底部を欠く深鉢。口縁は平縁で頸部はくびれ、胴部が張り出す。口唇部断面形は丸状である。頸部に1条の貼付帯が巡り、口縁部に弧状の短かい貼付帯が付され、貼付帯上には縄原体の押捺が施される。弧状の貼付帯の間には縦位の半截竹管沈線文、貼付帯下には同じ施文具によると思われる弧状の沈線文が施される。地文にLR斜行縄文が横回転で施される。胎土は極少量の繊維を含み、焼成はやや不良で脆い。口縁部外面には炭化物が厚く付着する。2a・2bはⅢ群B2類の胴下半部から底部破片で、地文にLR斜行縄文が施される。底内面の中央に高さ1cmの突起が付けられる。3はⅢ群B1類に相当する胴部破片でLR斜行縄文を地文とし、刻みの付いた弧状貼付帯が見られる。4・5はスクレイパーで、4は縦長剥片を素材に左右の側縁全体の6割ほどの範囲に刃部を作出している。5は上部が欠損しており、おそらく縦長剥片が素材であったと思われる。正面左側に刃部を作出しており、調整の進行によりやや湾入する。6はRFである。いずれも黒曜石製である。7は両刃の磨製石斧で被熱による火はねが見られる。8・9はたたき石で、8は扁平礫の両腹面に浅い敲打痕を有し、下部は欠損している。9は扁平礫の両腹面に擦痕と磨滅した敲打痕が見られる。敲打は平坦面中央ではなく、縁辺に集中する。また、正面左側面にも敲打痕が観察され、被熱している。(1～3: 荻野 4～9: 松井)

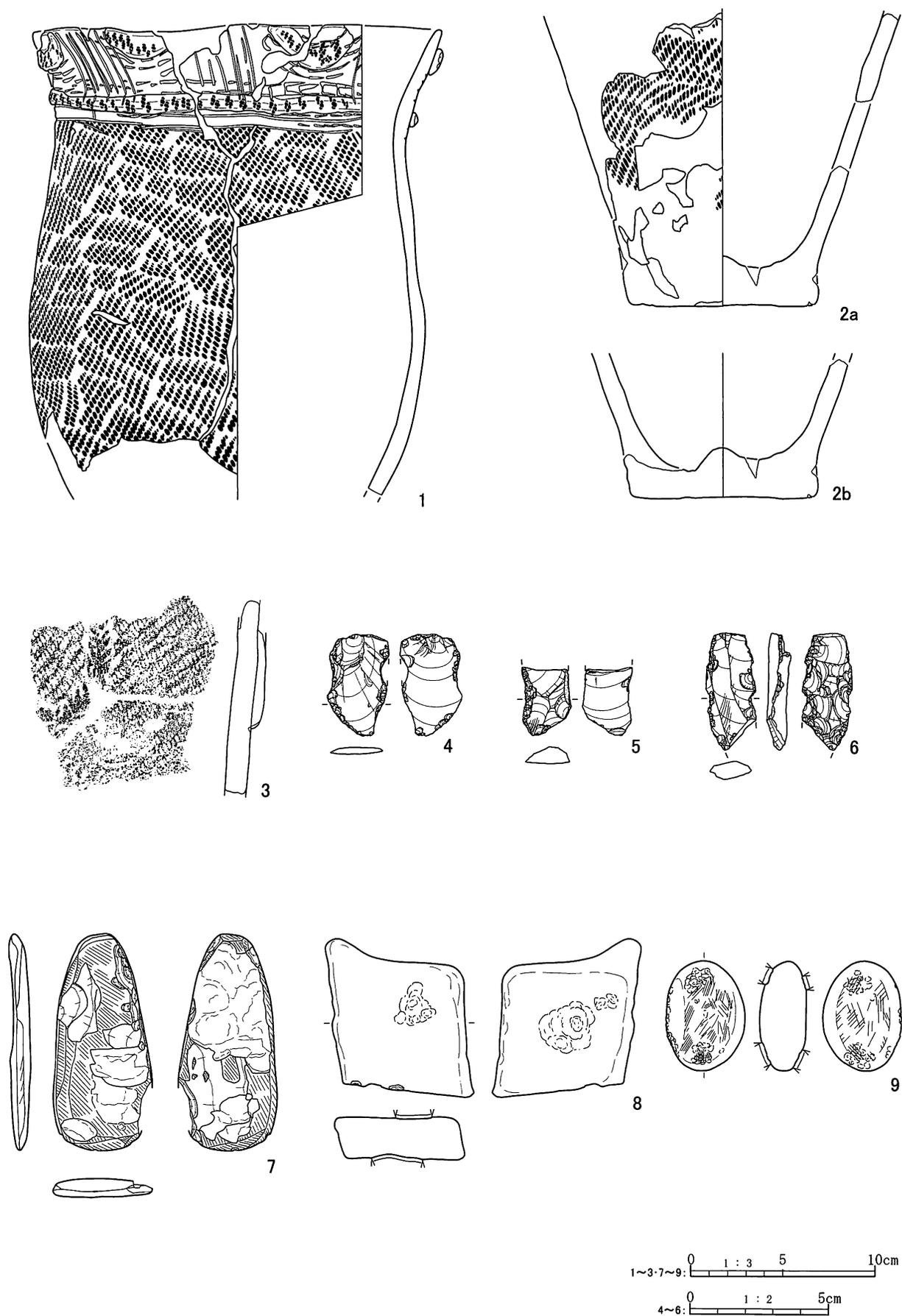
**時期** 床面出土土器から縄文時代中期柏木川式期と考えられる。

(荻野)

VH-01



図IV-2 VH-01平面及び断面図



図IV-3 VH-01 出土遺物

表IV-2 VH-01属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	長軸方向	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ(cm)	備考
						長軸	短軸	長軸	短軸		
IV-2	27-1~4	VH-01	V-36 W-35・36	Vc	N-54° W	368	244	324	212	40	

表IV-3 VH-01付属炉属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模 (cm)			灰・骨片の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
IV-2	-	HF01	W-36	2	円形	32	32	4	-	
IV-2	-	HF02	W-36	2	楕円形	40	36	8	-	

表IV-4 VH-01柱穴属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	規模 (cm)			傾き(度)	備考
			上端	下端	深さ		
IV-2	27-5	HP01	28	4	40	0	
IV-2	27-6	HP02	20	16	68	6	
IV-2	27-7	HP03	20	12	20	0	

表IV-5 VH-01出土土器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点数	部位	器形等	文様	胎土	備考
								口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点- 底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面		
IV-3-1	53-1-1	JP001A	ⅢB2	VH-01	2	14	口縁部 ~胴部	平縁・外傾-丸状/ 外反~内湾気味に 外傾	ナデ-貼付帯+縄に よる刻み・半截竹管沈 線文(縦位・弧状)-ナ デ(ヨコ)/隆起線+縄 による刻み・半截竹管 沈線文・RL斜行縄文	砂粒を微 量含む	
IV-3-2a,b	53-1-2	JP001B	ⅢB2	VH-01	1	14	胴部 ~底部	外傾/角状張り出し -平底(内面突起)	LR斜行縄文-ナデ (ナナメ)/ナデ-ナデ	砂粒を少 量含む	
IV-3-3	53-1-3	JP032B	ⅢB1	VH-01 W-36	1 VbL	2 1	胴部	外傾	隆起線+矢羽状刻 み・LR斜行縄文-ミガ キ(タデ)	砂粒を少 量含む	

表IV-6 VH-01出土石器属性表

挿図番号	図版番号	遺物番号	層位	グリッド	遺物名	分類	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
							長軸	短軸	厚さ			
IV-3-4	53-1-4	13327	2	W-36	スクレイパー	C1a	36.2	23.3	3.9	(3.0)	Obs.	
IV-3-5	53-1-5	13347	2	W-36	スクレイパー	C1b	(24.0)	17.7	5.9	(2.2)	Obs.	
IV-3-6	53-1-6	13325	2	W-36	RF	-	(42.0)	17.5	8.6	(5.2)	Obs.	
IV-3-7	53-1-7	13321	2	W-36	磨製石斧	A1b	77.9	(31.8)	6.1	(20.3)	Gr-Mud.	被熱
IV-3-8	53-1-8	13320	2	W-36	たたき石	VI	79.4	71.2	29.9	194.0	Sa.	
IV-3-9	53-1-9	13322	2	W-35	たたき石	ⅢA3	58.6	41.8	24.9	77.5	Tu.	被熱

## 第2節 集中区

調査区東側の段丘縁辺部で焼骨片集中と2ヶ所の土器集中を確認した。土器の接合作業の結果、一定の範囲が捉えられ、層位も同一であることからこれらを一括して「集中区1」として扱う。

**集中区1** (図IV-4・5 図版28-1・54-1)

位置：AC-31・32、AD-31・32区 平面形：楕円形 規模：920×520 cm

長軸方向：N-21° -W 関連遺構：焼骨片集中 VBB-01 土器集中 VPB-01・07

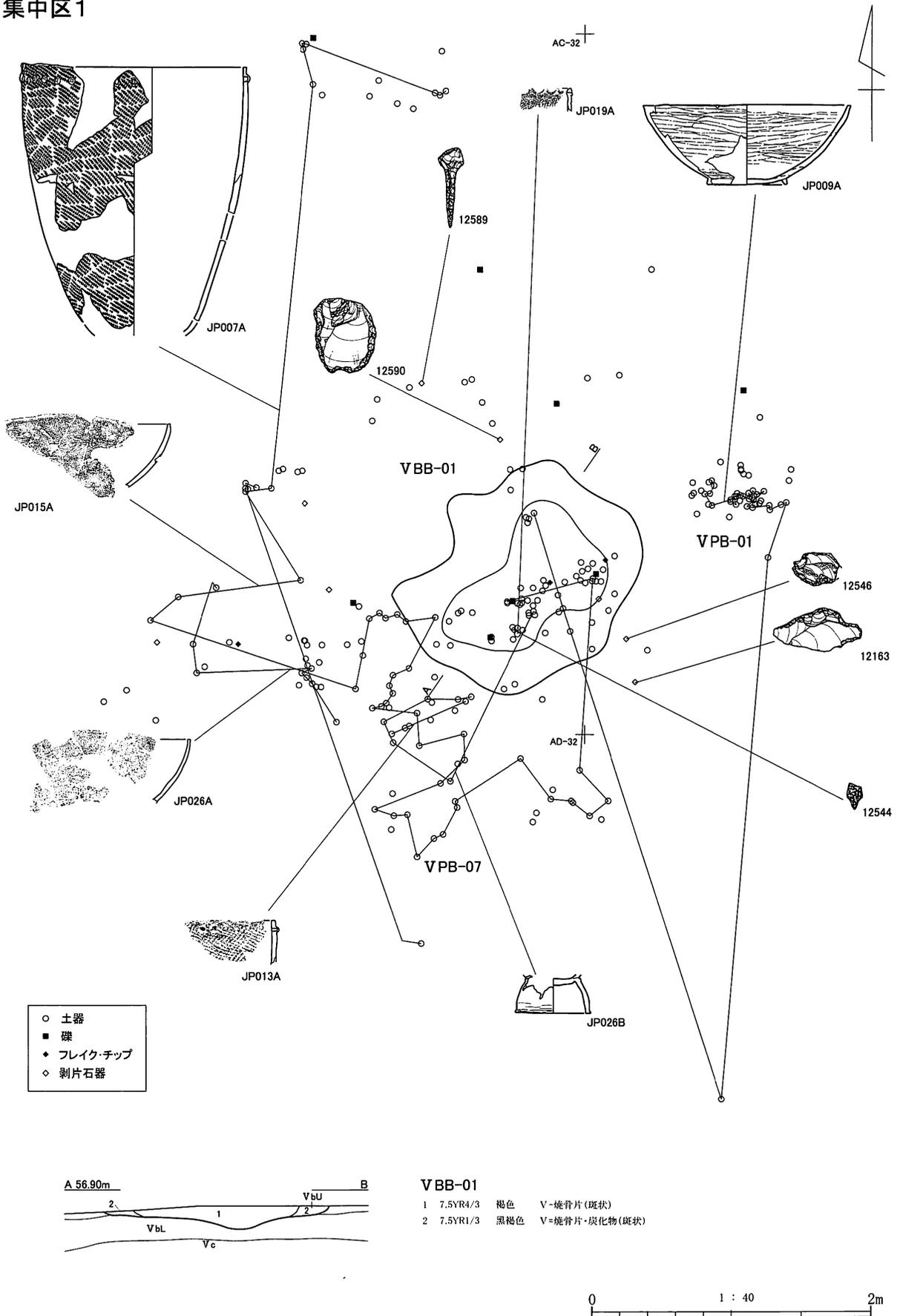
**確認・調査** 調査区東側の段丘縁辺部においてVa層上面を調査中に2ヶ所の土器集中を検出し、周辺の精査をしていたところ焼骨片集中も1ヶ所検出した。遺物は大半がVa層で、一部はVb層上位からも出土している。周辺の土器を検出した段階で写真撮影を行い、次に焼骨片集中の調査を行った。骨片の混じる土壌はフローテーション用に全て採取し、遺物の取り上げを行い調査終了した。

**焼骨片集中** VBB-01の規模は180×148 cmの楕円形で最大厚16 cm、長軸方向はN-70° Eである。Vb層を主体とした土層に焼骨片が斑状に混じり、縁辺には炭化物も混入する。焼骨片はシカの四肢骨が主体で、一部歯冠も確認されている。また僅かながら小型の哺乳類や魚類の骨も確認された(VI章第2節)。炭化種子ではキハダ属の果実片・種子片、クルミ属が検出された(VI章第3節)。その他、土製品や石鏃やフレイクなども多く出土した。

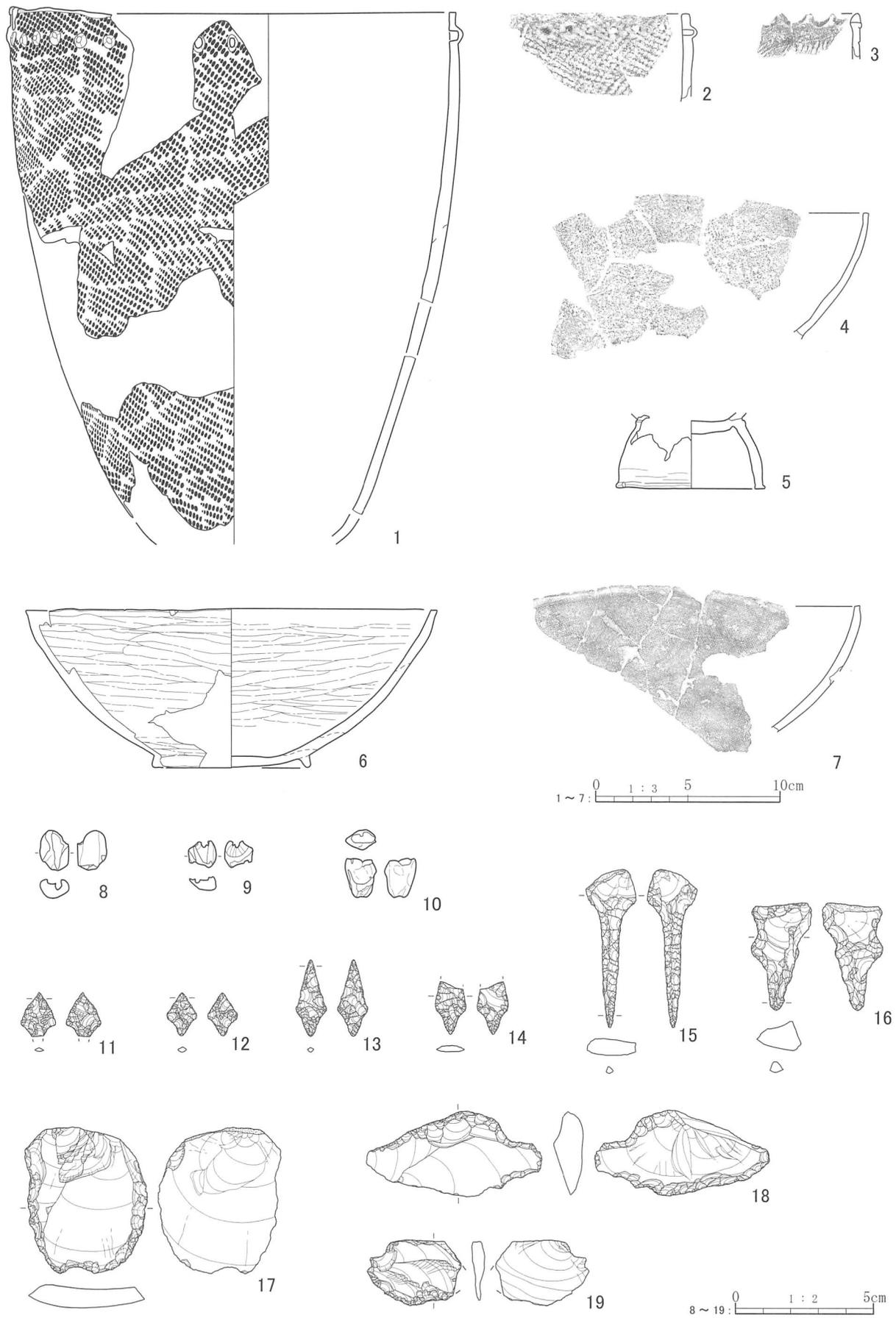
**土器集中** VBB-01の東にVPB-01が、また西に接してVPB-07が位置し、これら2ヶ所の土器を合わせて復元した。接合作業の結果、個体の一部はVBB-01内出土のものとも接合している。周辺からは、他に同時期の土器4個体が出土した。

**出土遺物** 1は底部を欠く深鉢。平縁で口唇部断面形は角状である。RL斜行縄文を地文とし、口縁部には内側からの突瘤が巡る。2は1と類似した口縁部破片。地文は羽状縄文が施されている。3は口唇部に棒状工具による刻みが施され、口縁は連続した小波状をなす。口縁部直下の無文帯下部にはLR斜行縄文が施される。4・5は同一個体と思われる無文の台付鉢である。口唇部はヘラミガキによって角状に成形されている。6はほぼ完形の鉢で器表面に横位のヘラミガキが顕著に見られる。底部に短い高台が付く。7は6と似た器形で、器面はヘラミガキが顕著で光沢を帯びる。8～10はVBB-01のフローテーションサンプル内から検出した焼成粘土塊である。11～14は黒曜石製のポイントで有茎鏃である。11・12は鏃身部が小さく、いずれも被熱している。13・14は鏃身部が大きく、いずれも側縁の調整は細かい。15・16は頁岩の石鏃で、柄と機能部は明瞭に区別される。15の機能部は細かな押圧剥離によって形成され、側縁は直線状をなす。機能部断面形の下部はやや丸みを帯びる菱形で、先端部の磨滅はほとんど観察されない。16は15と比べて柄・機能部共に厚みがあり、機能部断面は三角形を呈する。部分的に剥離によって調整がなされる。先端部の磨耗著しく、稜が減っているのが観察された。17～19はスクレイパーである。17は赤色チャートを素材としたラウンドスクレイパーである。両側縁は丸みを帯びているが、下部は湾入する形態を呈する。なお、赤色のチャートの利用は本遺跡ではこの1点以外確認されなかった。18は黒色でガラス質安山岩製のサイドスクレイパーである。横長剥片を素材とし、正面の打面側の縁辺、及び裏面下端部に刃部が作出されるが、この剥離により柄のような尖状部と刃部が作出される。石材の利用は遺跡ではこの1点以外確認されなかった。17あるいは18の石材の石核は出ておらず、遺跡外において剥片剥離が行われた可能性がある。

集中区1



図IV-4 集中区1遺物接合分布及び断面図



図IV-5 集中区1出土遺物

表IV-7 集中区1出土土器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点数	部位	器形等	文様	胎土	備考
								口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点- 底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面		
IV-5-1	54-1	JP007A	IVD1	VBB-01	Va	2	口縁部 ~胴部	平縁・直立-角状/内 湾気味に外傾	ナデ-IO刺突文・RL斜行 縄文-ナデ(ヨコ)/RL斜 行縄文-ナデ(ナナメ)	砂粒(φ 1mm↓)を少 量含む	
						24					
						8					
						10					
						3					
				VbU	5						
IV-5-2	54-2	JP013A	IVD1	VPB-07	Va	2	口縁部	平縁・直立-角状	ヘラミガキ-IO刺突文・ RL斜行縄文(一部格子 目状)-ヘラミガキ	砂粒(φ 1mm↓)を微 量含む	
IV-5-3	54-3	JP019A	VA1	VBB-01	Va	2	口縁部	波状・直立-角状	ヘラミガキ-貼付帯・沈 線・RL斜行縄文-ナデ (ヨコ)		
IV-5-4	54-4	JP026A	VA1	VPB-07	Va	5	口縁部 ~胴部	平縁・やや内湾-角状 /外傾	ヘラミガキ-ヘラミガキ(ヨ コ)-ヘラミガキ(ヨコ)/ヘ ラミガキ(ヨコ)-ヘラミガ キ(ヨコ)	砂粒(φ 1mm↓)を少 量含む	
						2					
						VbL					
IV-5-5	54-5	JP026B	VA1	VPB-07	Va	5	底部	くの字状屈曲?-内 湾・角状・高台	凹線-ヘラミガキ(ヨコ)- ヘラミガキ-丸底	砂粒(φ 1mm↓)を少 量含む	IV-5-4と同一 個体?
						1					
						VbU					
IV-5-6	54-6	JP009A	VA1	VPB-01	Va	27	口縁部 ~底部	平縁・やや内湾-角状 /外傾/屈曲-張り出 し・尖状-丸底	ヘラミガキ-ヘラミガキ(ヨ コ)-ヘラミガキ(ヨコ)/ヘ ラミガキ(ヨコ)-ヘラミガ キ(ヨコ)/ヘラミガキ(ヨ コ)-ヘラミガキ- ヘラミガキ	砂粒(φ 2mm↓)を少 量含む	
						2					
						AD-31					
IV-5-7	54-7	JP015A	VA1	AC-32	Va	4	口縁部 ~胴部	平縁・やや内湾-角状 /内湾	ヘラミガキ-凹線-ヘラミ ガキ(ヨコ)-ヘラミガキ(ヨ コ)/ヘラミガキ(ヨコ)-ヘ ラミガキ(ヨコ)	砂粒(φ 1mm↓)を少 量含む	
						2					

表IV-8 集中区1出土遺物属性表

挿図番号	図版番号	遺物番号	層位	グリッド	遺物名	分類	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
							長軸	短軸	厚さ			
IV-5-8	54-8	24607	Va	VBB-01	焼成粘土塊	-	(13.0)	(10.0)	(4.0)	(0.7)	-	
IV-5-9	54-9	24608	Va	VBB-01	焼成粘土塊	-	(10.0)	(9.0)	(3.0)	(0.3)	-	
IV-5-10	54-10	24609	Va	VBB-01	焼成粘土塊	-	(12.0)	(9.0)	(5.0)	(0.7)	-	
IV-5-11	54-11	20774	Va	VBB-01	ポイント	A3a	(16.0)	12.5	2.9	(0.4)	Obs.	基部欠 被熱
IV-5-12	54-12	20775	Va	VBB-01	ポイント	A3a	15.2	10.8	2.5	0.3	Obs.	被熱
IV-5-14	54-13	20779	Va	VBB-01	ポイント	A3b	18.9	10.9	2.3	0.4	Obs.	先端欠
IV-5-13	54-14	12544	Va	VBB-01	ポイント	A3b	27.3	11.1	3.7	0.7	Obs.	
IV-5-15	54-15	12589	Va	VPB-07	石錐	B	56.5	18.0	6.9	3.9	Sh.	
IV-5-16	54-16	20780	Va	VBB-01	石錐	B	40.2	21.9	10.4	7.0	Sh.	先端摩耗
IV-5-17	54-17	12590	Va	VPB-07	スクレイパー	B1	53.5	43.8	9.8	25.9	Cha.	
IV-5-18	54-18	12163	VbU	VPB-07	スクレイパー	C1a	62.8	31.9	10.6	16.6	Gl-And.	
IV-5-19	54-19	12546	Va	VBB-01	スクレイパー	C1a	33.7	27.0	5.8	3.8	Obs.	

19は黒曜石のスクレイパーで、横長剥片を素材とし、下端部に刃部が作出される。

(1~10: 荻野 11~19: 松井)

**時期及び性格** シカを主体とした焼骨片集中を中心に、長軸9m程の範囲の同一層位面に土器や石器が集中していた。深鉢・鉢・台付鉢などの土器が出土し、石鏃やスクレイパーなどの石器が残されていた。当該時期の住居跡は発見されていないが、湧水に隣接するこの地点をある一定期間作業場などとして利用したものと推測する。出土した土器の特徴から縄文後期末葉晩期初頭とした。

(荻野)

### 第3節 Tピット (図IV-6～11 図版 29～33)

Tピットの報告に当たって、遺跡内の地形で調査区西側を低位面、東側平坦部を高位面として記述する。Tピットは遺跡北西側の56.3～56.8mの低位面で12基、遺跡南東側56.8m以上の高位面から6基検出している。それぞれの位置については図IV-1を参照されたい。

#### 確認・調査

調査に当たっては人力あるいは重機によってVI層上面まで掘り下げた後、プランの確認を行った。そのため、掘り上げ土を検出できたTピットはない。その後、短軸方向に半截し、断面図作成、完掘、完掘後の写真撮影、平面図及びエレベーション図の作成をもって調査終了とした。確認面において黒色プランではなく、黄褐色の洪水堆積物の落ち込みを検出したところもある。

低位面においては(TP-02～06・08・10・13・15～18)、坑底面付近で湧水・水没するTピットがあったため、排水ポンプで排水作業を行いながら掘り下げ及び写真撮影を行った。高位面においても同様の手順で調査を行ったが(TP-01・07・09・12・14・19)、坑底面はVII層と基盤礫を含むIX層との間に位置し、湧水はなかった。

#### 形態分類

Tピットの形態分類は坑底面平面形の長短比及び杭穴の有無を基準とする『苫小牧東部工業地帯の遺跡群II』(苫小牧市埋蔵文化財調査センター 1987)での分類案を基に、長短比数値に若干の変更を加えた厚幌1遺跡(厚真町教育委員会 2004)での分類を補足し、細分を含め8タイプに分けた。

A型：長短比が8以上で、長さに比して幅が狭い溝状のタイプ。

A1a型 長軸が2m以上のもの(杭穴がないもの)

A1b型 長軸が2m以上のもの(杭穴があるもの)

A2a型 長軸が2m未満のもの(杭穴がないもの)

A2b型 長軸が2m未満のもの(杭穴があるもの)

B型：長短比が4以上、8未満のもので、長楕円形のタイプ。

B1型 杭穴がないもの

B2型 杭穴があるもの

C型：長短比が4未満のもので、楕円形から円形に近いタイプ。

C1型 杭穴がないもの

C2型 杭穴があるもの

#### 形態

分類毎の検出数はA1a型12基、A2a型2基、C1型2基、C2型2基である。地形区分毎の内訳は、低位面ではA1a型10基、A2a型2基、高位面ではA1a型2基、C1型2基、C2型2基である(表IV-9)。低位面では、溝タイプのA型が多い。高位面では小判タイプのC型が多くなりA型は少なくなる傾向が見られる。

杭穴を伴うTピットは、C2型の2基である(TP-01・07)。杭穴はIX層に構築されており、深さは平均14cmで、深いもので20cmを測る。TP-01は2本、TP-07は3本の杭穴をもつ。A型は杭穴を伴わない。

#### 堆積状態

特筆すべき事項は、洪水堆積物の検出である。Vb層上位に相当する層位において、洪水堆積物がスポット的に検出された(図I-9を参照)。洪水堆積物は、遺跡東側の段丘縁辺部と遺跡西側の

低位面で検出された。覆土中の洪水堆積物の厚さによって、Tピットは3類されると思われる。

- ① 洪水堆積物が堆積しないもの (TP-01・02・03・04・05・08・09・10・13・14・17)
- ② 洪水堆積物がわずかに堆積するもの (TP-06・07)
- ③ 洪水堆積物が厚く堆積するもの (TP-12・15・16・18・19)

この分類を通して遺構の相対的な時期差について考える一助としたい。

①に分類されたものは11基となる。内訳は、低位面ではA1a型7基、高位面ではA1a型2基、C1型1基、C2型が1基となった。まず、低位面に位置するにも関わらずA1a型のTピットには洪水堆積物が含まれていないものがある。このため、A型の内、①のTピットが相対的に古い時期のものであること、及び洪水堆積物が発生した時点で既にTピットが埋没していたことを示すと思われる。

②に分類されたものは2基となる。内訳は、低位面では、A1a型1基、高位面ではC2型1基。堆積厚は6～10cmを測る。洪水堆積物が発生した時点で、Tピットはほぼ埋没し、窪地として当時の地表面に残っていたものと思われる。

③に分類されたものは5基となる。内訳は、低位面ではA1a型が2基、A2a型が2基、高位面ではC1型が1基となる。堆積厚は20cm～44cmを測る。洪水堆積物が発生した時点でTピットは深い落ち込みとして当時の地表面に残っていたものと思われる。

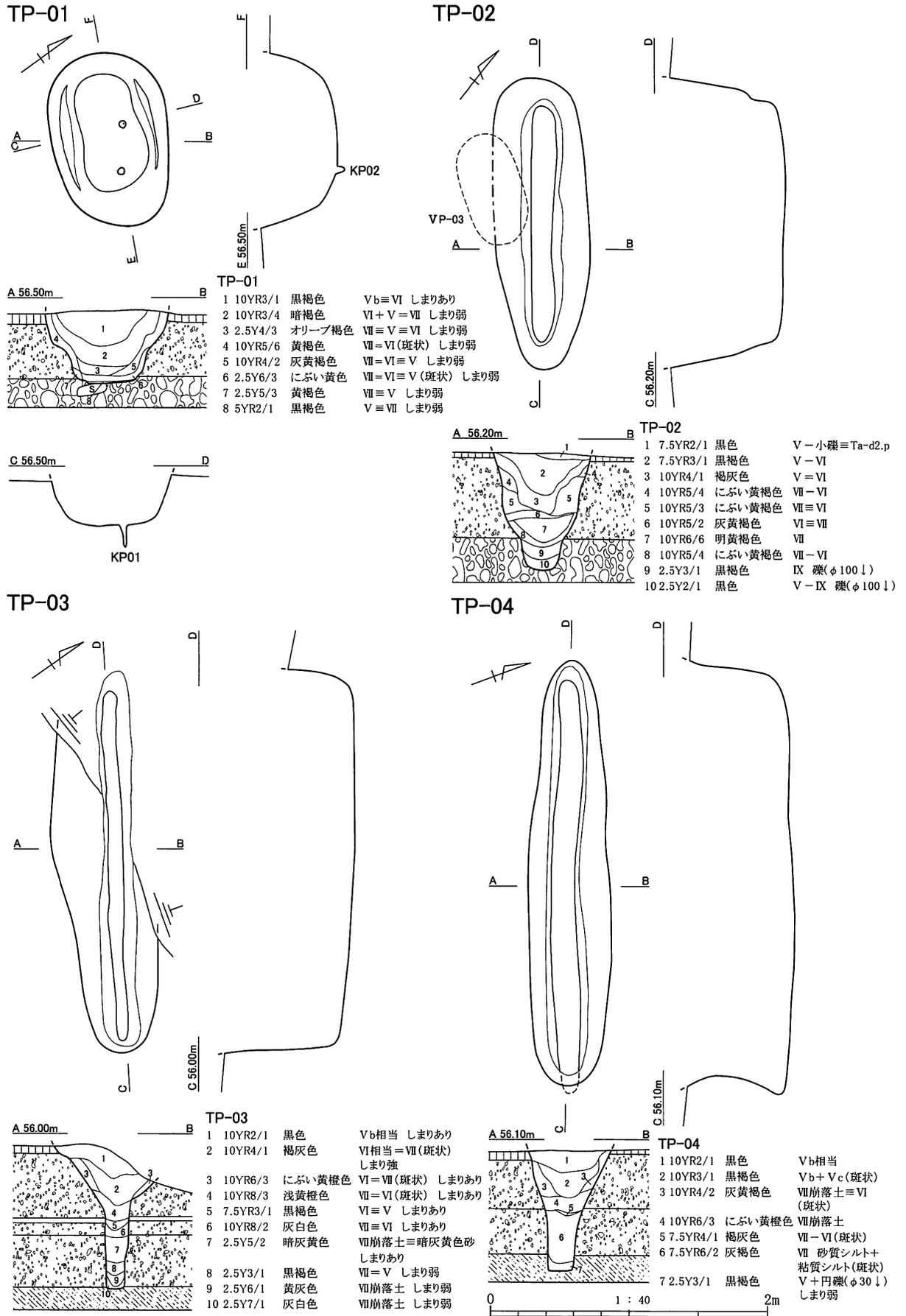
低位面に位置するTピットの堆積状態を検討すると3時期の構築時期が考えられる。1期は、①の堆積を持ち、遺跡の北側に位置するTP-02・03・04・05・08・10・13の構築、2期は②の堆積を持つTP-06そして3期は、③の堆積を持ち、若干南西方向に地点を移動したTP-15・16・18の構築となる。

#### 分布・配列

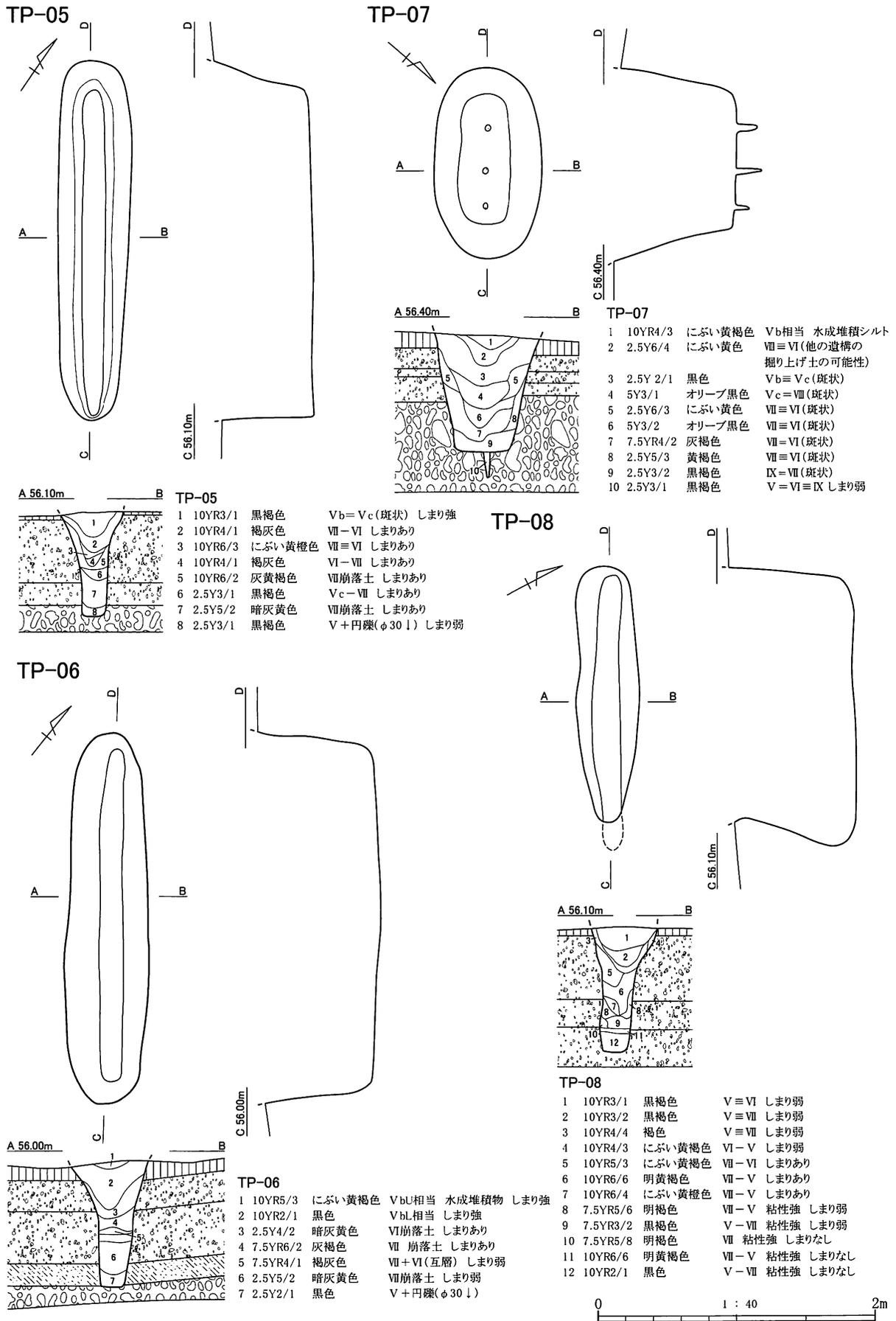
①低位面に北東—南西方向、厚真川側から山地に直線状に分布する。A1a型のTP-03・04・05・17の4基が並んでいる。TP-06及び18も同一線上に並ぶが、TP-05と06の間隔が狭くなることと、洪水堆積物の検討から05が古く06が新しいという結果が出ていることを考慮し、06は同一の構成には含まない。また、TP-18は洪水堆積物を厚く含んでおり、同時期とは考えられないことから同一の構成には含まなかった。

②低位面北西部に位置するTP-15・16の2基からなる。両者はA2a型で洪水堆積物を厚く含んでおり、同一の構成と考える。TP-08は同一線上に並ぶが、洪水堆積物の厚さがより薄いことから同一の構成には含まなかった。

(松井)

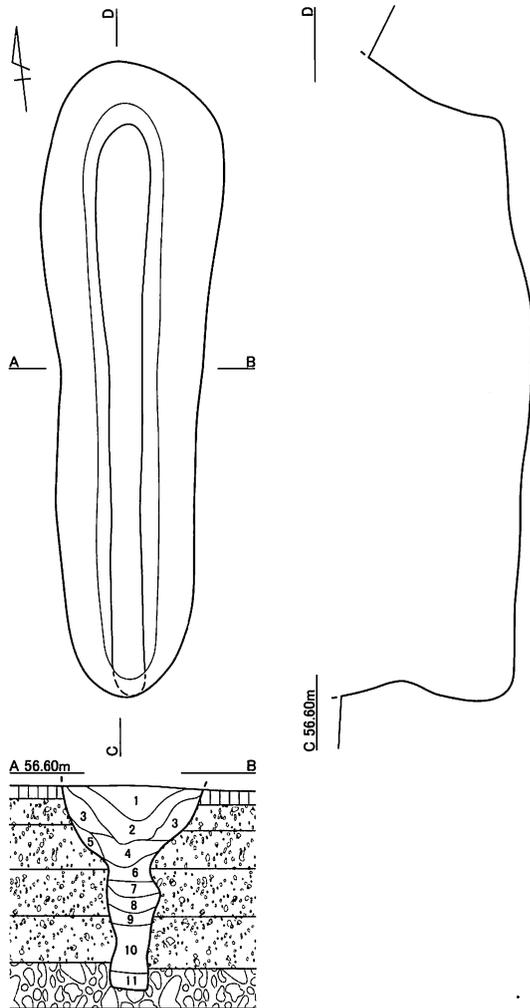


図IV-6 TP-01 ~ 04 平面及び断面図



図IV-7 TP-05 ~ 08 平面及び断面図

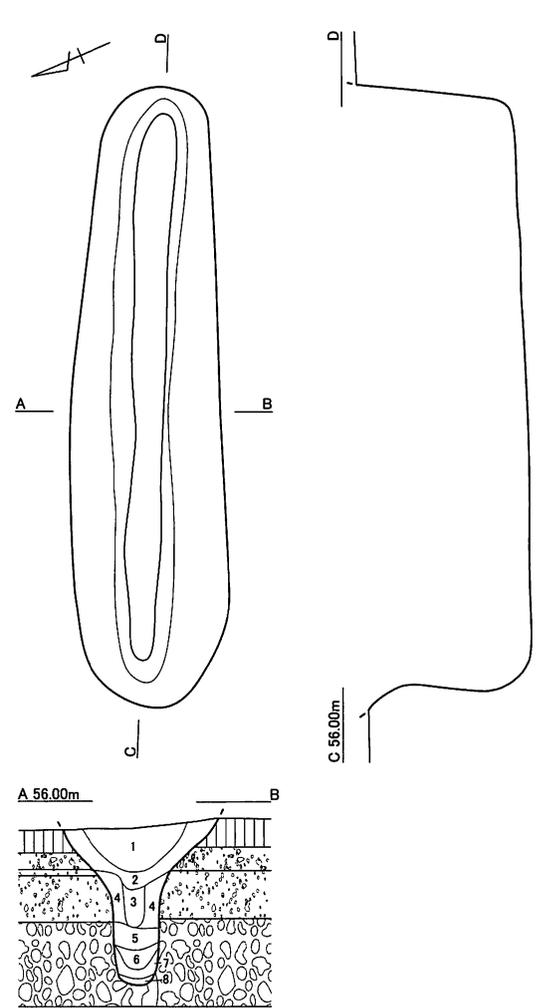
TP-09



TP-09

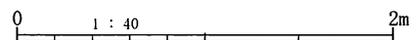
- |    |          |        |                     |               |
|----|----------|--------|---------------------|---------------|
| 1  | 10YR3/1  | 黒褐色    | Vc 粘性弱              | しまり弱          |
| 2  | 10YR3/3  | 暗褐色    | Vc=VI 粘性あり          | しまり弱          |
| 3  | 10YR5/6  | 黄褐色    | VI=Vc(均一)           | 粘性あり しまり弱     |
| 4  | 10YR5/4  | にぶい黄褐色 | VII砂質土=VI(斑状)       | 粘性あり しまり弱     |
| 5  | 10YR6/6  | 明黄褐色   | VII砂質土              | 崩落土 粘性弱 しまりあり |
| 6  | 10YR6/8  | 明黄褐色   | VII粘質土-Vc           | 粘性強 しまりなし     |
| 7  | 10YR5/3  | にぶい黄褐色 | VII粘質土-砂質シルト-Vc(斑状) | 粘性強 しまりなし     |
| 8  | 10YR5/6  | 黄褐色    | VII砂質土-Ta-d再堆       | 粘性弱 しまりあり     |
| 9  | 10YR6/4  | にぶい黄橙色 | Ta-d再堆-VII粘質シルト     | 粘性あり しまりあり    |
| 10 | 7.5YR4/6 | 褐色     | Ta-d-VII粘質土         | 粘性強 しまりあり     |
| 11 | 10YR2/2  | 黒褐色    | V-Ta-d再堆積           | 粘性強 しまりあり     |

TP-10

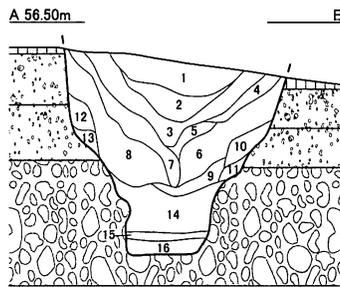
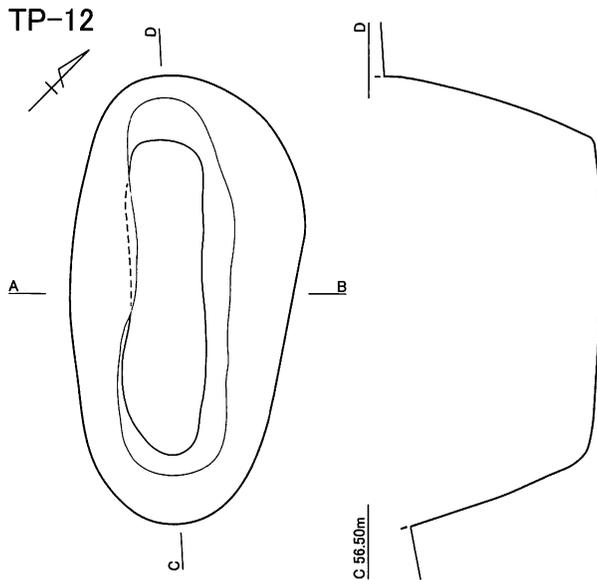


TP-10

- |   |          |        |            |       |
|---|----------|--------|------------|-------|
| 1 | 10YR2/1  | 黒色     | V=VI(斑状)   | しまりあり |
| 2 | 10YR5/2  | 灰黄褐色   | VI=V(斑状)   | しまりあり |
| 3 | 10YR7/2  | にぶい黄褐色 | VII=VI(斑状) | しまりあり |
| 4 | 2.5Y7/2  | 灰黄色    | VII崩落土(斑状) | しまりあり |
| 5 | 7.5YR5/3 | にぶい褐色  | VII=IX(斑状) | しまり弱  |
| 6 | 7.5YR5/4 | にぶい褐色  | IX+VII(斑状) | しまり弱  |
| 7 | 5YR4/3   | にぶい赤褐色 | VII崩落土     | しまり弱  |
| 8 | 2.5Y3/1  | 黒褐色    | V          | しまり弱  |

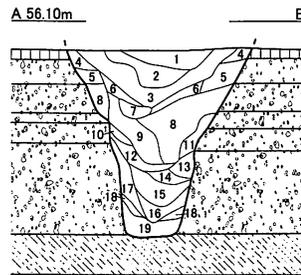
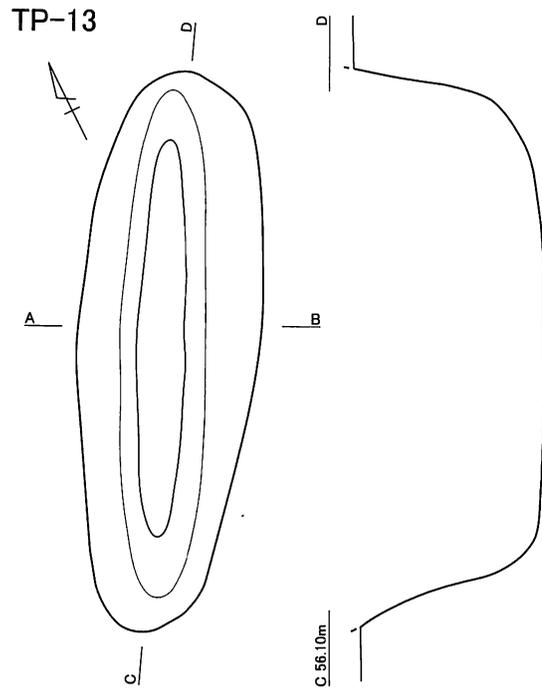


図IV-8 TP-09・10 平面及び断面図



TP-12

- |    |          |        |                   |      |           |
|----|----------|--------|-------------------|------|-----------|
| 1  | 10YR6/4  | にぶい黄褐色 | 水成堆積物             | 粘性なし | しまり強      |
| 2  | 10YR7/4  | にぶい黄褐色 | 水成堆積物≡V(斑状)       | 粘性あり | しまり弱      |
| 3  | 10YR2/1  | 黒色     | V                 | 粘性あり | しまりあり     |
| 4  | 10YR4/3  | にぶい黄褐色 | VII砂質≡V(均一)       | 粘性なし | しまり強      |
| 5  | 10YR4/3  | にぶい黄褐色 | VII砂質≡V(均一)       | 粘性なし | しまりあり     |
| 6  | 10YR5/4  | にぶい黄褐色 | VII砂質≡水成堆積物(斑状)   | 粘性あり | しまりあり     |
| 7  | 10YR4/3  | にぶい黄褐色 | VII粘質≡V(均一)       | 粘性あり | しまりあり     |
| 8  | 7.5YR5/6 | 明褐色    | VII粘質≡V(斑状)       | 粘性あり | しまりあり     |
| 9  | 10YR6/6  | 明黄褐色   | VII砂質≡砂礫層・Ta-d    | 粘性強  | しまり弱      |
| 10 | 7.5YR6/6 | 橙色     | VII砂質≡砂礫層・Ta-d    | 粘性弱  | しまりあり 崩落土 |
| 11 | 7.5YR6/6 | 橙色     | VII砂質≡砂礫層・Ta-d    | 粘性強  | しまり弱 崩落土  |
| 12 | 10YR6/4  | にぶい黄褐色 | VII粘質≡V(斑状)       | 粘性あり | しまり強 崩落土  |
| 13 | 7.5YR5/4 | にぶい褐色  | VII粘質≡砂礫・Ta-d(均一) | 粘性強  | しまりあり 崩落土 |
| 14 | 7.5YR5/4 | にぶい褐色  | 砂礫層≡VII           | 粘性あり | しまり強      |
| 15 | 10YR2/1  | 黒色     | 砂礫・Ta-d≡V(斑状)     | 粘性強  | しまりなし     |
| 16 | 10YR4/4  | 褐色     | IX=粘質シルト(均一)      | 粘性強  | しまりなし     |



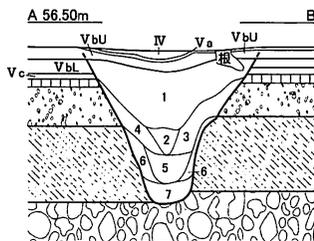
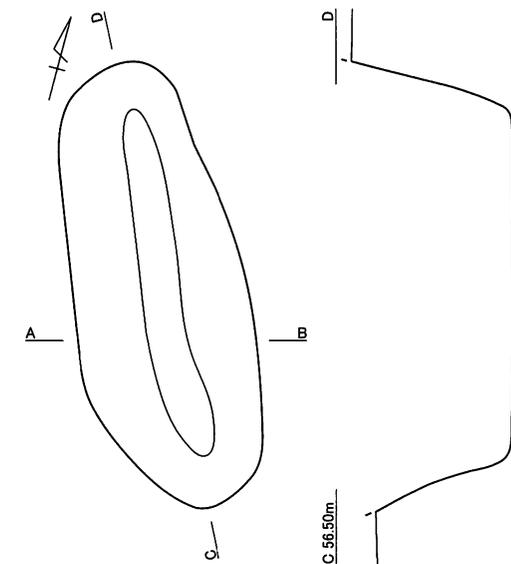
TP-13

- |    |           |        |                     |       |
|----|-----------|--------|---------------------|-------|
| 1  | 10YR1.7/1 | 黒色     | VbL相当               | しまりあり |
| 2  | 2.5Y3/2   | 黒褐色    | Vb-Vc(均一)           | しまり弱  |
| 3  | 2.5Y3/1   | 黒褐色    | Vb≡Vc(斑状)           | しまり弱  |
| 4  | 7.5YR4/1  | 灰色     | VI≡Vc(斑状)           | しまり弱  |
| 5  | 2.5Y5/2   | 暗灰黄色   | VI=VII(均一)          | しまり弱  |
| 6  | 10YR4/1   | 褐色     | VI=VII(均一)          | しまり弱  |
| 7  | 2.5Y2/1   | 黒色     | Vb≡VI(斑状)           | しまり弱  |
| 8  | 10YR6/3   | にぶい黄褐色 | VIIローム≡Vc(斑状)       | しまり弱  |
| 9  | 2.5Y4/1   | 黄灰色    | VI≡VII(斑状)          | しまり弱  |
| 10 | 10YR4/4   | 褐色     | Ta-dp再堆積の流れ込み       | しまりあり |
| 11 | 10YR5/3   | にぶい黄褐色 | VII≡Ta-dp(斑状)       | しまり弱  |
| 12 | 10YR4/3   | にぶい黄褐色 | VI=Ta-dp(斑状)        | しまり弱  |
| 13 | 7.5YR4/2  | 灰褐色    | Ta-dp+Ta-d1スコリア(斑状) | しまり弱  |
| 14 | 10YR5/2   | 灰黄褐色   | VIIローム+VII(斑状)      | しまり弱  |
| 15 | 10YR3/1   | 黒褐色    | Vb=VI(斑状)           | しまり弱  |
| 16 | 10YR8/2   | 灰白色    | VIIローム=Ta-dp(斑状)    | しまり弱  |
| 17 | 10YR7/3   | にぶい黄褐色 | VIIローム=Ta-dp砂(斑状)   | しまり弱  |
| 18 | 10YR4/3   | にぶい黄褐色 | Ta-dp+Ta-dp砂(斑状)    | しまりあり |
| 19 | 2.5Y4/2   | 暗灰黄色   | Ta-d1スコリア≡Ta-dp(斑状) | しまりあり |



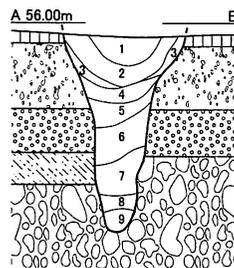
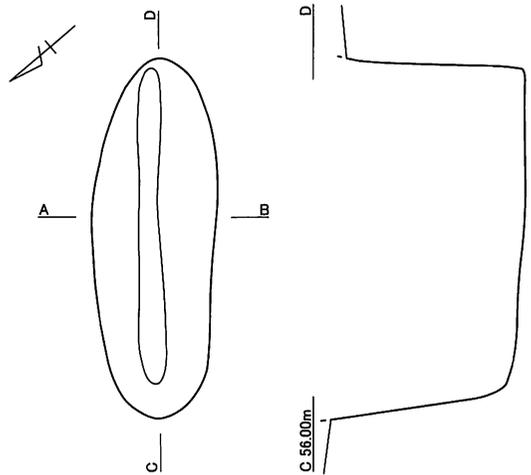
図IV-9 TP-12・13平面及び断面図

TP-14



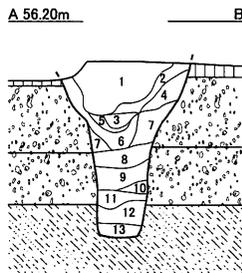
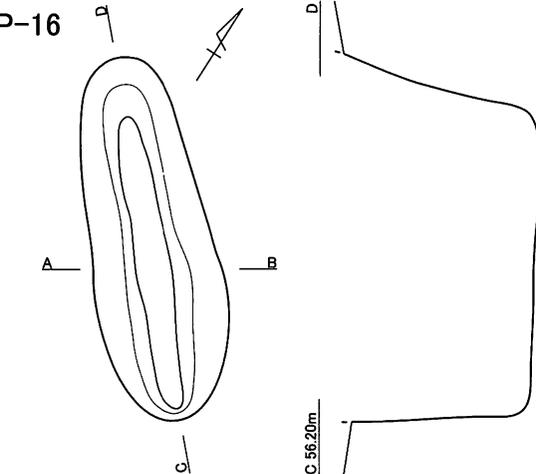
- TP-14
- |   |          |     |               |
|---|----------|-----|---------------|
| 1 | 7.5YR2/1 | 黒色  | VbL≡VII       |
| 2 | 7.5YR3/1 | 黒褐色 | V=VII         |
| 3 | 7.5YR4/4 | 褐色  | VII-V≡Ta-dローム |
| 4 | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | VII-V         |
| 5 | 7.5YR4/3 | 褐色  | VII≡V≡Ta-dローム |
| 6 | 7.5YR4/4 | 褐色  | VII≡V≡Ta-dローム |
| 7 | 10YR4/4  | 褐色  | VII≡Ta-dローム   |

TP-15



- TP-15
- |   |          |        |              |      |       |
|---|----------|--------|--------------|------|-------|
| 1 | 10YR4/3  | にぶい黄褐色 | 水成堆積≡V(均)    | 粘性なし | しまり強  |
| 2 | 10YR3/1  | 黒褐色    | 水成堆積-V(均)    | 粘性弱  | しまり強  |
| 3 | 10YR5/3  | にぶい黄褐色 | VII=V(斑状)    | 粘性弱  | しまり強  |
| 4 | 10YR5/4  | にぶい黄褐色 | VII≡V(斑状)    | 粘性あり | しまり強  |
| 5 | 10YR4/2  | 灰黄褐色   | V=VII(均一)    | 粘性あり | しまり強  |
| 6 | 10YR5/4  | にぶい黄褐色 | VII≡V(均一)    | 粘性あり | しまり強  |
| 7 | 10YR5/4  | にぶい黄褐色 | VII≡V(均一)    | 粘性強  | しまり強  |
| 8 | 10YR4/6  | 褐色     | VII≡V(均一)    | 粘性強  | しまりなし |
| 9 | 7.5YR5/6 | 明褐色    | VII 礫(φ20以下) | 粘性強  | しまりなし |

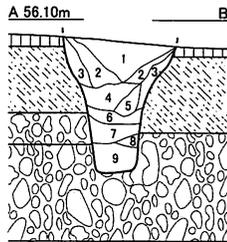
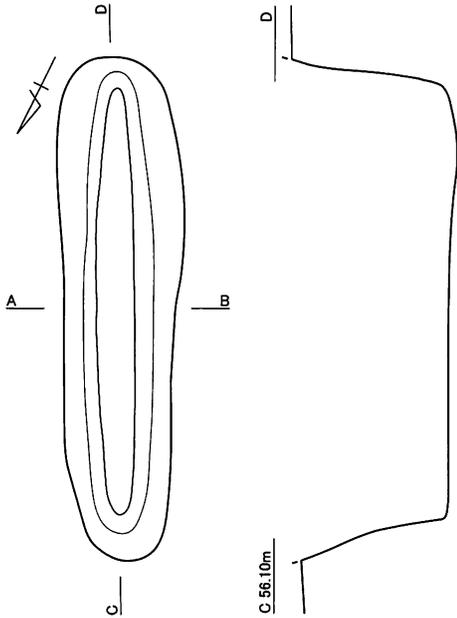
TP-16



- TP-16
- |    |          |        |             |      |       |
|----|----------|--------|-------------|------|-------|
| 1  | 10YR2/1  | 黒色     | V≡洪水堆積物(均一) | 粘性弱  | しまりあり |
| 2  | 10YR5/3  | にぶい黄褐色 | VI=V(斑状)    | 粘性なし | しまりあり |
| 3  | 10YR3/2  | 黒褐色    | VII-V(均一)   | 粘性弱  | しまり弱  |
| 4  | 10YR6/4  | にぶい黄褐色 | VII≡V(斑状)   | 粘性なし | しまりあり |
| 5  | 10YR6/3  | にぶい黄褐色 | VII≡V(斑状)   | 粘性なし | しまりあり |
| 6  | 10YR6/3  | にぶい黄褐色 | VII≡V(斑状)   | 粘性なし | しまりあり |
| 7  | 10YR7/4  | にぶい黄褐色 | VII≡V(斑状)   | 粘性なし | しまり強  |
| 8  | 10YR7/6  | 明黄褐色   | VII≡V(斑状)   | 粘性あり | しまりあり |
| 9  | 10YR5/3  | にぶい黄褐色 | VII≡V(均一)   | 粘性あり | しまりあり |
| 10 | 10YR4/1  | 褐灰色    | V≡砂礫層(均一)   | 粘性あり | しまり弱  |
| 11 | 7.5YR2/1 | 黒色     | V=VII(斑状)   | 粘性強  | しまりなし |
| 12 | 7.5YR4/4 | 褐色     | VII粘質=V(均一) | 粘性強  | しまりなし |
| 13 | 7.5YR3/2 | 黒褐色    | 粘質シルト=V(斑状) | 粘性強  | しまりなし |

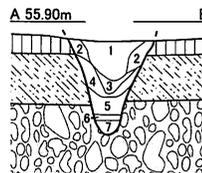
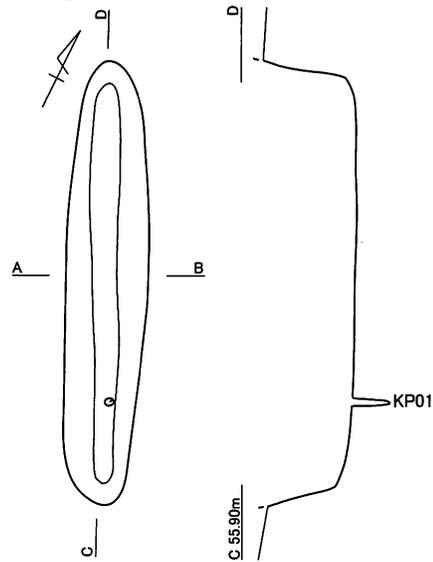
図IV-10 TP-14 ~ 16 平面及び断面図

TP-17



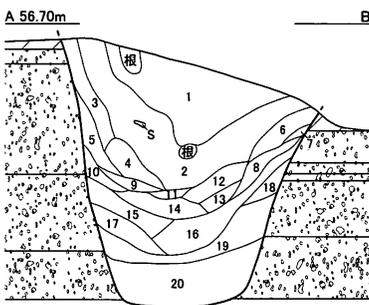
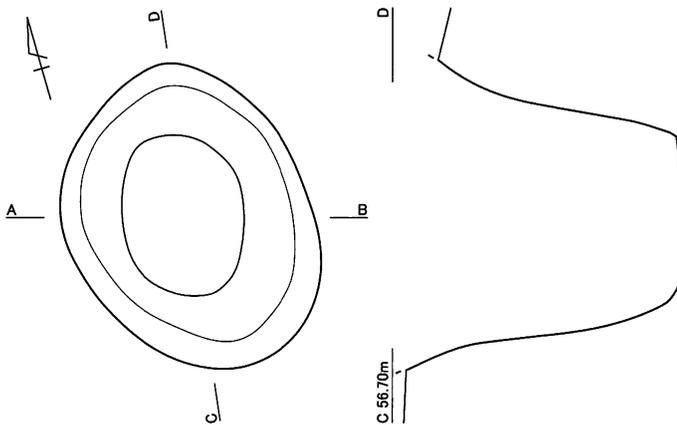
- |   |          |        |                       |       |
|---|----------|--------|-----------------------|-------|
| 1 | 2.5Y2/1  | 黒色     | V ≡ VI (斑状)           | しまりあり |
| 2 | 2.5Y3/1  | 黒褐色    | V + VI (斑状)           | しまりあり |
| 3 | 10YR7/3  | にぶい黄褐色 | VI - VII (斑状)         | しまりあり |
| 4 | 10YR8/2  | 灰白色    | VII ≡ VI (斑状)         | しまりあり |
| 5 | 10YR4/1  | 褐灰色    | V - VII (斑状)          | しまりあり |
| 6 | 10YR7/2  | にぶい黄褐色 | VII ≡ VI ≡ Ta-dp (斑状) | しまりあり |
| 7 | 10YR6/3  | にぶい黄褐色 | VII - Ta-dp (斑状)      | しまり弱  |
| 8 | 10YR6/2  | 灰黄褐色   | VII ≡ Ta-dp (斑状)      | しまり弱  |
| 9 | 7.5YR3/1 | 黒褐色    | V + Ta-dp = シルト (斑状)  | しまりあり |

TP-18



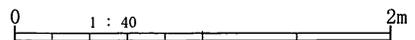
- |   |         |        |                |      |       |      |
|---|---------|--------|----------------|------|-------|------|
| 1 | 10YR3/1 | 黒褐色    | V - 洪水堆積物 (均一) | 粘性弱  | しまり有  |      |
| 2 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | V ≡ VI (斑状)    | 粘性なし | しまり強  |      |
| 3 | 10YR5/3 | にぶい黄褐色 | V ≡ VI (均一)    | 粘性なし | しまり強  |      |
| 4 | 10YR6/4 | にぶい黄褐色 | V - VII (均一)   | 粘性なし | しまり強  |      |
| 5 | 10YR6/3 | にぶい黄褐色 | VII ≡ V (均一)   | 粘性なし | しまり強  |      |
| 6 | 10YR3/2 | 黒褐色    | シルト ≡ V (均一)   | 礫含む  | 粘性強   | しまり強 |
| 7 | 10YR5/2 | 灰黄褐色   | 礫層 = V (均一)    | 粘性あり | しまりなし |      |

TP-19



TP-19

- |    |          |        |                                       |                   |
|----|----------|--------|---------------------------------------|-------------------|
| 1  | 10YR2/3  | 黒褐色    | VbU (洪水堆積物) = 礫 (φ 10)                |                   |
| 2  | 10YR2/2  | 黒褐色    | VbL = VII (均一) = 礫 (砂岩・亜角 φ 50)       |                   |
| 3  | 10YR3/4  | 暗褐色    | VII - VbL (均一)                        |                   |
| 4  | 10YR3/3  | 暗褐色    | VbL = VII (均一) = シルト (斑状) (φ 5 ↓)     |                   |
| 5  | 2.5Y4/6  | オリーブ褐色 | VII - VbL (斑状 φ 5 ↓)                  |                   |
| 6  | 7.5YR3/3 | 暗褐色    | VII = VbL (均一)                        | ※シルトは酸化して赤褐色を呈する  |
| 7  | 10YR4/4  | 褐色     | VII = VbL (均一)                        |                   |
| 8  | 7.5YR4/3 | 褐色     | VII = VbL (均一)                        | ※6に似るが赤化シルトが斑状に入る |
| 9  | 10YR3/4  | 暗褐色    | VII = VbL (均一)                        |                   |
| 10 | 10YR4/4  | 褐色     | VII = VbL (均一) ※シルトはやや赤化              |                   |
| 11 | 10YR2/2  | 黒褐色    | VII = VbL (均一) = 赤化シルト (斑状 φ 5)       |                   |
| 12 | 10YR4/3  | にぶい黄褐色 | 赤化シルト - VbL (ブロック φ 3) = VII (斑状 φ 5) |                   |
| 13 | 10YR2/3  | 黒褐色    | VbL = VII (斑状 φ 10)                   |                   |
| 14 | 10YR3/4  | 暗褐色    | VbL - VII (均一)                        |                   |
| 15 | 10YR3/3  | 暗褐色    | VbL - VII (均一)                        |                   |
| 16 | 10YR4/6  | 褐色     | VII = Ta-dp                           |                   |
| 17 | 10YR4/6  | 褐色     | VII = Vc (均一) = Ta-dp                 |                   |
| 18 | 7.5YR3/4 | 暗褐色    | Ta-d2再 = Ta-dp                        |                   |
| 19 | 5Y3/1    | オリーブ黒色 | Ta-d2再 = VII = Ta-dp                  |                   |
| 20 | 7.5YR5/8 | 明褐色    | φ 200 ↓ の円礫を含む                        | しまり強              |
|    |          |        | Ta-d2再 - Ta-dp = シルト                  |                   |
|    |          |        | φ 200 ↓ の円礫を含む                        | しまりなし             |



図IV-11 TP-17 ~ 19 平面及び断面図

表IV-9 TP-01~10・12~19属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	分類	グリッド	調査 面層 位	平面形	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ (cm)	長軸方向	杭 跡	重 複	調査面 長短比	坑底 面長 短比
						調査面 /坑底面	長軸	短軸	長軸	短軸						
IV-6	29-2~5	TP-01	C2	AD-37	VI	楕円形/ 楕円形	128	84	84	44	52	N-72° W	2	-	1.5	1.9
IV-6	30-1・2	TP-02	A1a	T-40	VI	長楕円形/ 長楕円形	208	80	164	16	84	N-43° W	-	-	2.6	10.3
IV-6	30-3・4	TP-03	A1a	S-40・ 41	VI	長楕円形/ 長楕円形	(272)	(64)	252	12	104	N-61° W	-	-	4.3	21.0
IV-6	30-5	TP-04	A1a	T-41・42	VI	長楕円形/ 長楕円形	304	60	300	16	88	N-71° W	-	-	5.1	18.8
IV-7	30-6・7	TP-05	A1a	T・U- 42	VI	長楕円形/ 長楕円形	256	56	224	16	74	N-35° W	-	-	4.6	14.0
IV-7	30-8・9	TP-06	A1a	U-42・ 43	VI	長楕円形/ 長楕円形	268	56	248	16	92	N-35° W	-	-	4.8	15.5
IV-7	31-1~3	TP-07	C2	AE-34	VI	楕円形/ 楕円形	136	76	92	36	84	N-50° E	3	-	1.8	2.6
IV-7	31-4・5	TP-08	A1a	T-44・ 45	VI	長楕円形/ 長楕円形	204	48	196	20	88	N-65° W	-	-	4.3	9.8
IV-8	31-6・7	TP-09	A1a	AB・ AC-32	VI	長楕円形/ 長楕円形	336	76	304	16	108	N-6° E	-	-	4.4	19.0
IV-8	31-8・9	TP-10	A1a	U-42・ 43	VI	長楕円形/ 長楕円形	328	80	288	16	82	N-67° W	-	-	4.1	18.0
IV-9	32-1・2	TP-12	C1	AC・AD -26・27	VI	楕円形/ 長楕円形	236	116	164	44	104	N-43° W	-	-	2.0	3.7
IV-9	32-3・4	TP-13	A1a	U-39	VI	長楕円形/ 長楕円形	296	96	208	28	98	N-30° E	-	-	3.1	7.4
IV-10	32-5・6	TP-14	A1a	AD-39	VbL	長楕円形/ 長楕円形	236	92	184	20	80	N-27° W	-	-	2.6	9.2
IV-10	32-7・8	TP-15	A2a	U-45	VI	長楕円形/ 長楕円形	192	68	168	12	104	N-50° W	-	-	2.8	14.0
IV-10	33-1・2	TP-16	A2a	U・V- 46	VI	長楕円形/ 長楕円形	192	68	156	20	94	N-45° W	-	-	2.8	7.8
IV-11	33-3・4	TP-17	A1a	V-46・ W-45・ 46	VI	長楕円形/ 長楕円形	264	60	228	20	68	N-28° W	-	-	4.4	11.4
IV-11	33-5・6	TP-18	A1a	V-44・ 45	VI	長楕円形/ 長楕円形	236	44	212	12	48	N-26° W	1	-	5.4	17.7
IV-11	33-7・8	TP-19	C1	Z-33	VI	楕円形/ 楕円形	160	128	90	68	132	N-17° W	-	-	1.3	1.3

#### 第4節 土坑(図IV-12~14 図版 34~36)

15基検出している。報告に当たり、標高56.8mの西側を低位面、東側を高位面として記述する。低位面では9基、高位面では6基の土坑が検出されている。低位面に位置する土坑の中には、形態の類似、列状をなす分布が読み取れるものがある。これらは同時期に構築された可能性があるため、グループとして報告する。その他の形態や分布にまとまりのないものは個別に記載する。

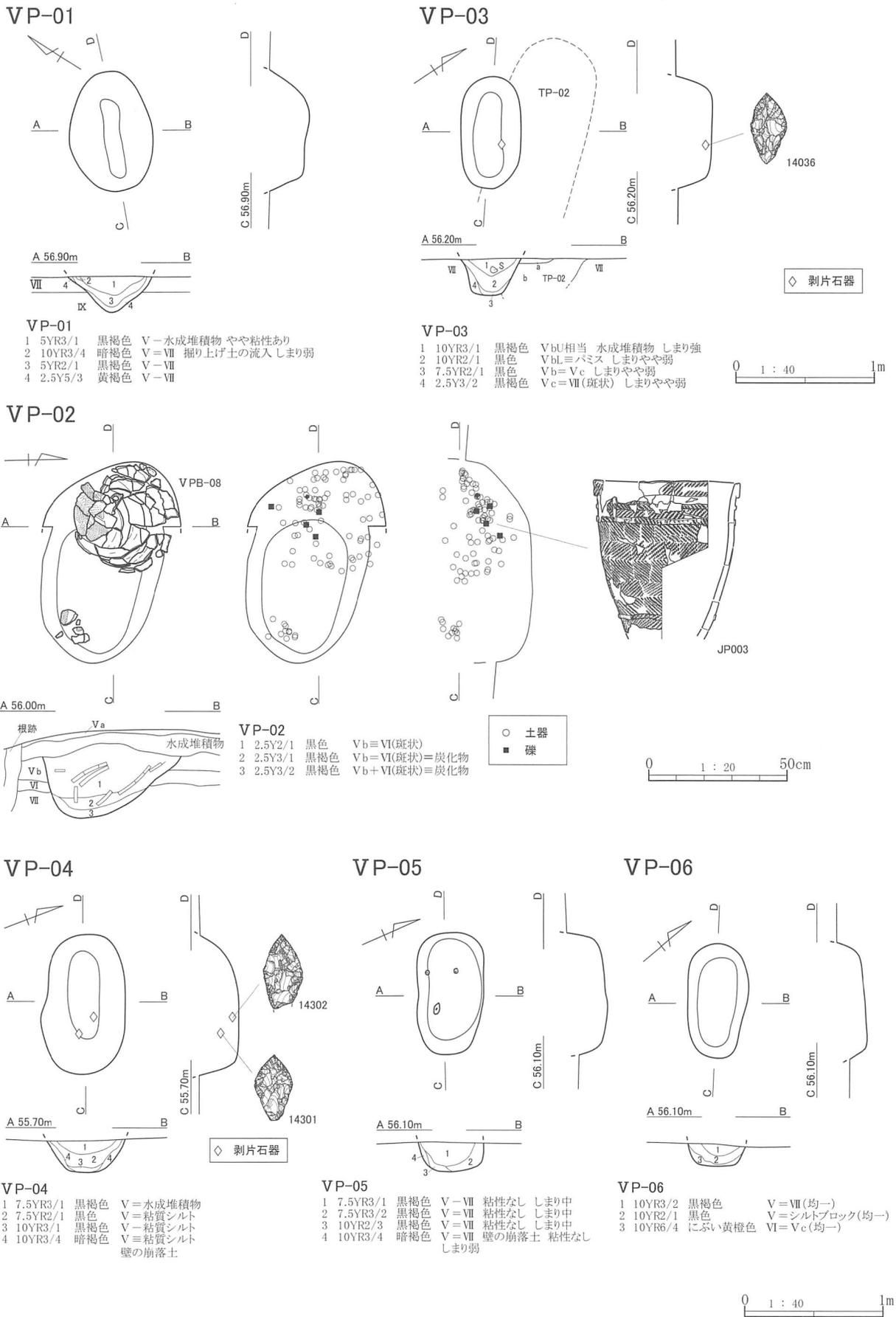
①VP-05・06・09・10・16の5基で遺跡北東部に位置し、北北東-南南西に軸をもち、長さ16.4mの列をなす。形態は楕円形あるいは隅丸長方形を呈し、坑底面は水平でやや丸い角を有し、垂直に立ち上がる。土坑の長軸は100cm前後、短軸40~50cm、深さ20~30cmである。VP-05は杭穴を2本もつ。堆積状態には、黒褐色土と遺構の崩落土を含むもの(VP-05・06)と、黒色土、洪水堆積物を含むもの(VP-09・10・16)の2種類ある。なお、VP-09・10は切り合っており09が新しいと判断されるのだが、どちらの土坑が本来的にこのグループに属していたのかを判断することは難しかったため、どちらもまとめて報告した。

②VP-03・04・12・15の4基で、遺跡北東部に位置し、北北東-南南西に軸をもち、長さ43.0mの列をなす。軸が①のグループとは平行し、土坑の形態も類似しているが、個々の間隔が異なる。形態は、楕円形あるいは隅丸長方形を呈し、坑底面は15を除いて水平で、明瞭な角をもち立ち上がる。長軸80~100cm、短軸40~60cm、深さ16~32cmである。堆積状態は、全て下層に黒褐色覆土上部に洪水堆積物を約8cm含む。VP-03はTP-02を切る。また、VP-03・04からは剥片石器が出土している。次に特筆すべきものとしてVP-02の報告を行う。

VP-02はX-41区のV層掘り下げ時に、西側のX-42区との境界付近に多数の土器片が出土しているのが確認されたため、これをVPB-08として設定した。周辺の精査を行ったところ、土器集中の直下に土坑があり、これをVP-02として設定した。土器集中と土坑の位置関係を把握できるようにトレンチを設定し断面観察を行ったところ、同一個体の土器片が坑底面付近からも出土し、土坑と土器集中を同時期のものと認定した。X-42区の掘り下げを行い、土器が土坑西壁に傾くように検出していたことを確認、写真撮影した。その後、断面図作成、土器集中の微細図作成、遺物取り上げをした後、完掘、平面図作成、エレベーション図を作成し調査終了とした。

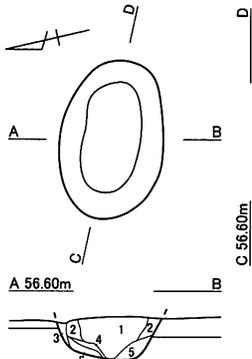
#### 出土遺物(図IV-14 図版 53-2-1~4)

1はIV群A1a類の口縁部から胴部下半までの深鉢形土器である。胴部は緩やかに外傾、口縁部はほぼ垂直に立ち上がる。口縁部は平縁で口唇部は隅丸角状である。地文は異原体羽状縄文で、口縁部直下に幅広の貼付帯、その下に細い貼付帯が2条巡り、これら2本の貼付帯を繋ぐように縦方向に貼付帯が認められる。また、貼付帯は胴部下半にも認められる。2はVP-03出土から出土した黒曜石のポイントで、基部は明瞭で基部端が尖る。両面が調整されているが、裏面には古い剥離面が半分残る。周囲は細かな剥離で丁寧に調整される。3・4はVP-04から出土した黒曜石のポイントで、3は基部が明瞭なもの。4は基部が明瞭で基部端が平らとなる。2~4は基部形態が若干異なるものの大きさや基本形態が同じタイプであり、肉眼による石質も類似する。同一のグループに区分される土坑から出土していることもあり、同時期のものと思われる。(松井)



図IV-12 VP-01 ~ 06 平面及び断面図

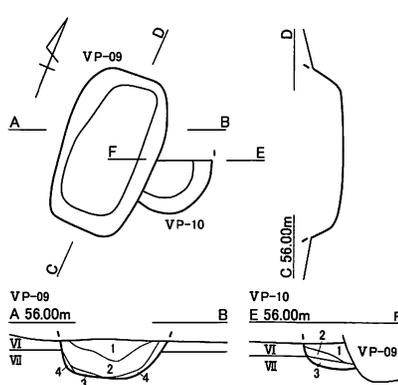
VP-08



VP-08

- 1 10YR3/1 黒褐色 V≡シルト岩(均一)
- 2 10YR2/1 黒色 V≡シルト岩(均一)
- 3 10YR6/3 にぶい黄褐色 V≡シルト岩(均一)
- 4 10YR5/2 灰褐色 Vc≡シルトブロック

VP-09・10



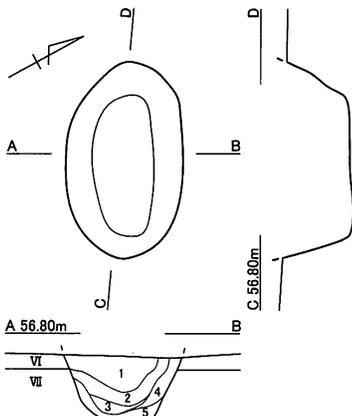
VP-09

- 1 10YR4/1 褐灰色 V-水成堆積シルト 粘性なし  
しまり中
- 2 10YR2/1 黒色 V-VII 粘性やや弱 しまり中
- 3 10YR3/3 暗褐色 V-VII 粘性やや弱 しまり弱
- 4 10YR4/4 褐色 V-VII 壁の崩落土 粘性やや弱  
しまり弱

VP-10

- 1 7.5YR3/4 暗褐色 V-水成堆積の粘質シルト  
Va主体の粘土質シルト層  
粘性なし しまり弱
- 2 7.5YR3/2 黒褐色 V-VI(均一) 流れ込み  
粘性強 しまり弱
- 3 10YR6/6 明黄褐色 黄褐色シルト-Vc(均一) 粘性強  
流れ込み しまりなし

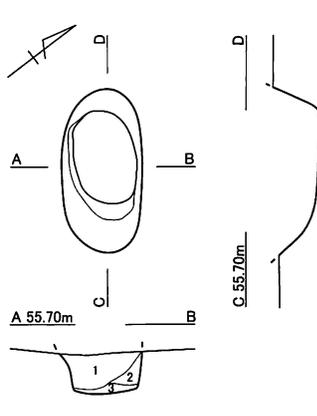
VP-11



VP-11

- 1 10YR2/1 黒色 V 粘性なし しまり中
- 2 10YR3/3 暗褐色 V-VI(均一) 粘性弱 しまり中
- 3 10YR3/4 暗褐色 V-VI(均一) 粘性弱 しまり中
- 4 10YR5/4 にぶい黄褐色 VI-VII(均一) 粘性弱 しまり中
- 5 10YR2/1 黒色 V-VII(均一) 粘性なし しまり中

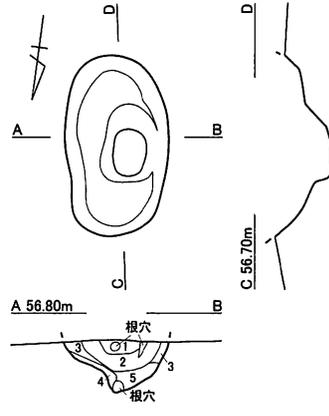
VP-12



VP-12

- 1 10YR3/2 黒褐色 V水成粘土質シルト層  
≡シルトブロック(均一)
- 2 10YR3/4 暗褐色 粘土質シルト≡V層(均一)
- 3 10YR3/3 暗褐色 V水成粘土質シルトブロック  
=VII(均一)

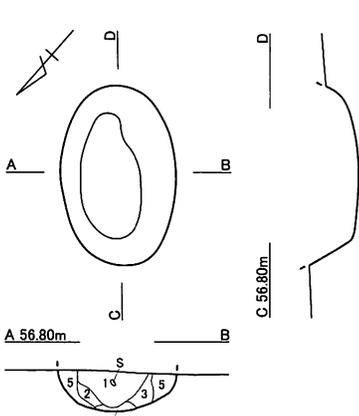
VP-13



VP-13

- 1 10YR3/2 黒褐色 Vbu
- 2 10YR2/2 黒褐色 VbL
- 3 10YR3/3 暗褐色 Vc=VI(斑状 10mm↓)粘質
- 4 10YR4/4 褐色 VII=Vc(斑状 10~20mm)粘質
- 5 10YR3/4 暗褐色 VII-Vc(均一)粘質

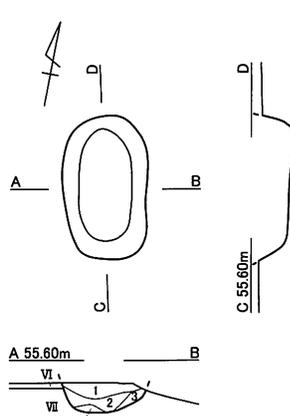
VP-14



VP-14

- 1 10YR3/3 暗褐色 Vb=VII(斑状 5mm↓)  
粘質 しまり中
- 2 10YR3/4 暗褐色 Vb=VII(斑状 10mm↓)  
粘質 しまり弱
- 3 10YR3/4 暗褐色 Vb=VII(均一) 粘質 しまり弱
- 4 10YR4/4 褐色 Vb-VII(ブロック 20mm↓)  
粘質 しまり弱
- 5 10YR4/4 褐色 VII=VI(均一) 粘質 しまり弱

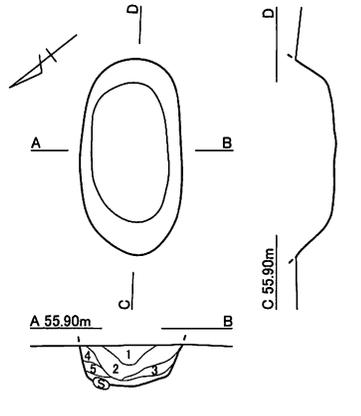
VP-15



VP-15

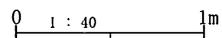
- 1 10YR4/1 褐灰色 V=洪水堆積(均一) しまり有  
粘性なし
- 2 10YR3/1 黒褐色 V=VII(均一) しまり弱 粘性あり
- 3 10YR3/2 黒褐色 V=VII(均一) しまり弱 粘性あり
- 4 10YR4/1 褐灰色 VII=V(均一) しまりなし 粘性強

VP-16



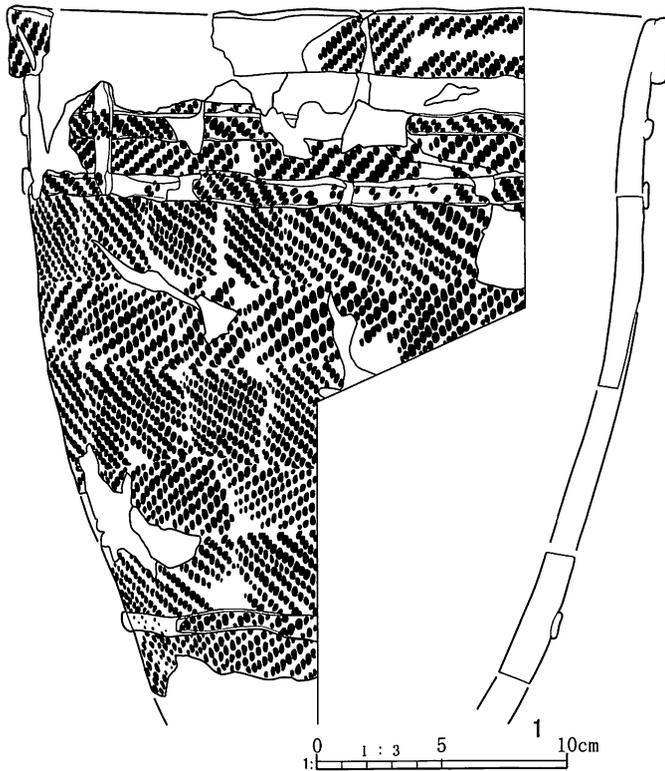
VP-16

- 1 10YR4/2 灰黄褐色 V≡洪水堆積(均) しまり有  
粘性弱
- 2 10YR3/2 黒褐色 V=VI(均) しまり弱 粘性あり
- 3 10YR4/6 褐色 V=VII(均) しまり有 粘性弱
- 4 10YR3/2 黒褐色 V=VII(斑状) しまり有 粘性あり
- 5 10YR3/1 黒褐色 V=VII(斑状) しまり有 粘性あり

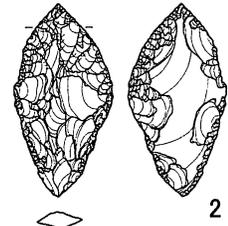


図IV-13 VP-08 ~ 16 平面及び断面図

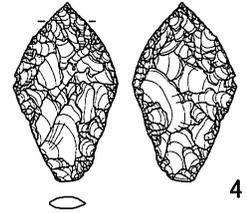
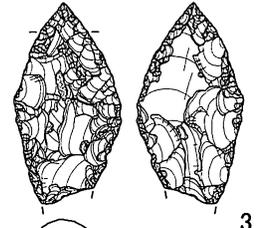
VP-02



VP-03



VP-04



0 1 2 5cm  
2~4

図IV-14 VP-02 ~ 04 出土遺物

表IV-10 VP-01~16属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形 調査面/ 坑底面	調査面規模 (cm) 坑底面規模 (cm)					長軸方向	調査面 長短比	坑底面 長短比	出土 遺物	備考
						長軸	短軸	長軸	短軸	深さ (cm)					
IV-12	34-1・2	VP-01	AD-27	VI	楕円形/ 長楕円形	86	60	60	20	28	N-35° E	1.4	3.0	-	
IV-12	34-3・4	VP-02	X-41・ 42	Vb	楕円形/ 長楕円形	(148)	(84)	128	60	44	N-72° W	1.8	2.1	○	IV群1の類 土器を伴う
IV-12	34-5・6	VP-03	T-40	VI	楕円形/ 長楕円形	124	68	94	32	34	N-7° W	1.8	2.9	○	TP-02より 新
IV-12	-	VP-04	V-41	VI	楕円形/ 長楕円形	100	62	64	16	22	N-55° W	1.6	4.0	○	
IV-12	34-7・8	VP-05	T-44	VI	楕円形/ 長楕円形	88	48	72	32	24	N-69° W	1.8	2.3	○	柱穴3
IV-12	35-1・2	VP-06	U-44	VI	楕円形/ 楕円形	80	44	64	28	16	N-49° W	1.8	2.3	-	
IV-13	35-3・4	VP-08	AE・AF- 35	Vb	楕円形/ 楕円形	84	56	56	32	22	N-64° W	1.5	1.8	○	
IV-13	35-5・6	VP-09	S-44	Vb	隅丸長方形/ 隅丸長方形	84	48	72	36	20	N-1° E	1.8	2.0	○	VP-10と 切り合い
IV-13	35-5・6	VP-10	S-44	Vb	(円形)/ (円形)	(32)	(28)	(24)	(20)	12	-	(1.1)	(1.2)	-	VP-09と 切り合い
IV-13	35-7・8	VP-11	AC-33	Vb	長楕円形/ 長楕円形	104	62	68	32	32	N-52° W	1.7	2.1	○	
IV-13	36-1・2	VP-12	X-42	VI	楕円形/ 長楕円形	88	44	52	26	20	N-57° W	2.0	2.0	-	
IV-13	-	VP-13	W-35	VI	楕円形/ 楕円形	96	56	26	18	32	N-10° W	1.7	1.4	○	
IV-13	36-3・4	VP-14	W-34	VI	楕円形/ 長楕円形	96	62	64	40	20	N-41° W	1.5	1.6	○	
IV-13	36-5・6	VP-15	Z-43	Vb	楕円形/ 長楕円形	76	44	60	28	16	N-16° W	1.7	2.1	-	
IV-13	36-7・8	VP-16	V-44	VI	長楕円形/ 長楕円形	104	52	70	32	22	N-55° W	2.0	2.2	-	

表IV-11 VP出土土器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点数	部位	器形等	文様	胎土	備考
								口縁-口唇/胴部 /底側面-変換点 -底面	口唇-口縁-内面/胴部 -内面/底側面-底面		
IV-14-1	53-2-1	JP003A	IVA1a	VP-02/ VPB-08	1 VbU	7 39	口縁部 胴部	平縁・直立- 隅丸角状/外傾	ナデ・貼付帯1A+LR斜行 縄文-ナデ/異原体羽状縄 文+貼付帯2+RL斜行縄 文-ナデ	砂粒(φ 3mm ↓)を 多量に含む	

表IV-12 VP出土剥片石器属性表

挿図 番号	図版 番号	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構	グリッド	計測値 (mm)			重量 (g)	材質	備考
								長軸	短軸	厚さ			
IV-14-2	53-2-2	14036	ポイント	B1a	2	VP-03	T-40	50.7	26.1	6.9	6.7	Obs.	
IV-14-3	53-2-3	14302	ポイント	B1	1	VP-04	V-41	(52.7)	27.1	7.0	(9.2)	Obs.	基部欠
IV-14-4	53-2-4	14301	ポイント	B1b	1		V-41	46.8	27.6	6.6	7.0	Obs.	

## 第5節 集中出土遺物

遺物集中は土器集中 17ヶ所、剥片集中 3ヶ所、礫集中 1ヶ所を検出した。

### 1. 土器集中 (図IV-15~19 図版 28-2・37・38)

VPB-01 と VPB-07 は集中区 1 に、VPB-08 は VP-02 と合わせて報告した。単独で検出された土器集中の時期別分類は下記のとおりである。

#### I 群土器を伴う土器集中 : (VPB-15 図IV-18 下段)

VPB-15 は調査区南東部の段丘縁辺部からやや離れた AC-34 区、VI層で検出。240×150cm の範囲に同一個体の破片が出土した。時期は I 群 B3 類 (中茶路式) に属する。土器の破断面が磨耗していて接合可能なものは少なく、わずかに口縁部破片を図示した (図IV-22-9)。

#### III 群土器を伴う土器集中 : (VPB-05A・05B・17 図IV15 下段・IV-19 下段左)

VPB-05A・05B は AA-36 区の Vb 層上位を調査中に検出。当初、南西-北東方向に 2 m 程の長軸の一つの範囲で検出したが、出土した土器の地文の違いや平面的な分布状況から、平面規模 110×105cm の VPB-05A と 90×70cm の VPB-05B に分けた。VPB-05B 出土の口縁部破片 2 点を図示している (図IV-22-21・22)。VPB-05A からは口縁部付近に円形刺突文のある破片が出土しているが小片のため図示していない。時期は III 群 B1 類 (萩ヶ岡 1・2 式、天神山式) に属する。

VPB-17 は調査区中央部の Z-35 区で検出した。土器は Vb 層上位から下位にかけて出土した。時期は III 群 A2 類 (円筒土器上層 c、d 式) に並行し、厚真 1 式土器 (赤石 1999) に相当する (図IV-22-16)。下位から出土したものは木根による押し込みの可能性もある。長軸 50 cm 程の大型礫に接し 100×40cm の範囲に土器片が出土しているが、礫との関係は不明。集中範囲に接して U フレイクと砂岩製の台石が出土している。

#### IV 群土器を伴う土器集中 : (VPB-04・09・10・11・12・13・14・16・18・19)

VPB-04・12・13・14・16・19 は IV 群 A1a 類 (古手の余市式) に相当する土器が出土した土器集中である。

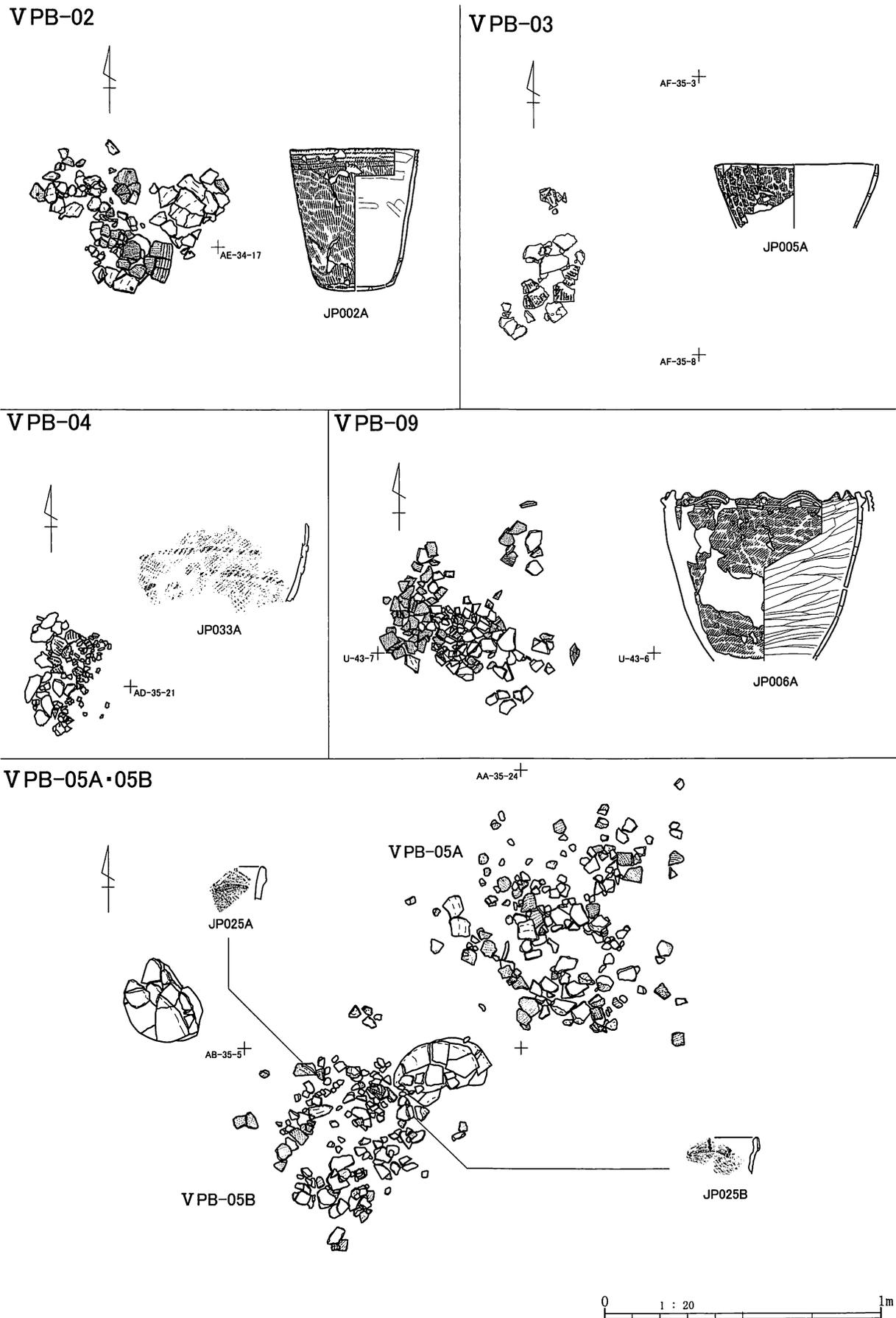
VPB-04 は調査区のやや南、AC-35 区の Vb 層上位で検出した (図IV-15-中段左)。40×30cm の範囲に土器片が密集している。時期は IV 群 A1a 類に属する (図IV-23-29)。

VPB-11 は調査区中央部の Y-37 区、Vb 層上位で検出した (図IV-16 下段)。180×100cm の範囲に角礫と共に土器片 (図IV-23-32) が広がり、範囲内から加工痕のある礫 (図IV-20-1) が出土している。

VPB-16 は調査区南東端の V-36 区の Vb 層上位で検出した (図IV-19 上段)。土器片は中央部、60×50cm の範囲に密集し、周辺には礫と土器片が出土している。時期は IV 群 A1a 類に属する (図IV-23-28)。

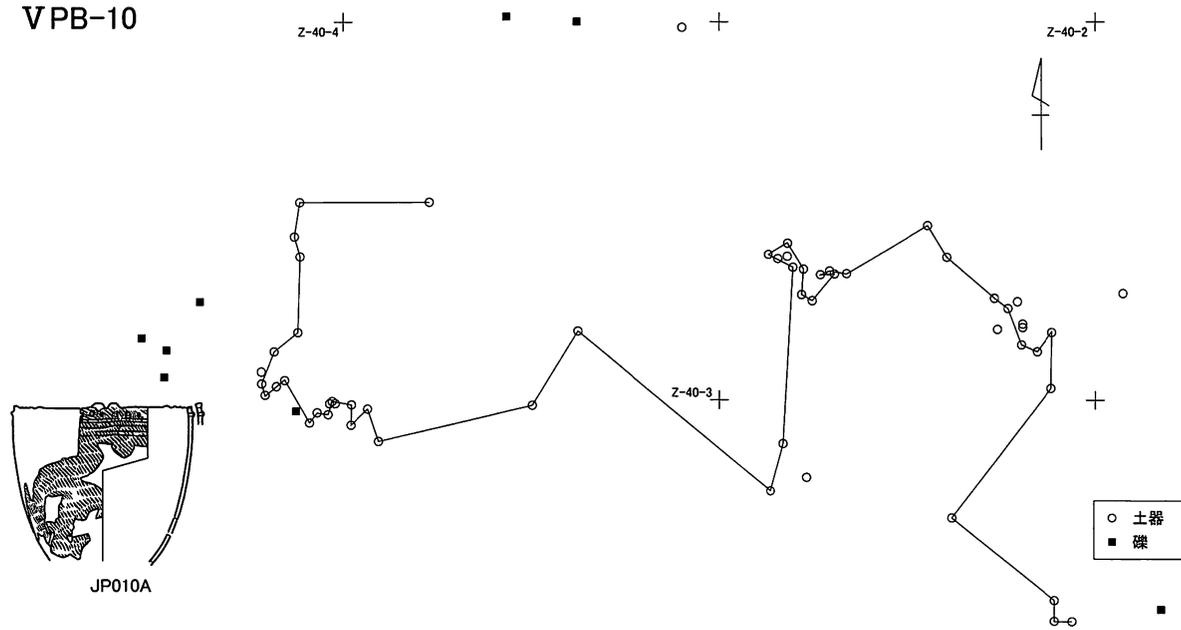
VPB-12・19 は W-36・37 区の Vb 層上位で検出した (図IV-17 上段)。VPB-12 は 40×30cm の範囲で口縁部から胴部片と胴部片がまとまって出土した。VPB-12 の東 1 m 程に位置し 100×100 cm の範囲で土器片のまとまりが見られたため VPB-19 を付番した。接合作業の結果胴部の細片のみであったので図は掲載していない。時期は IV 群 A1a 類に属する (図IV-23-27・30)。

VPB-13 は V-38 区、Vb 層上位で検出した (図IV-18 上段)。100×50cm の土器片集中範囲に接して北側に礫が点在し、東側の同一層位面で片岩製の磨製石斧が 1 点出土した (図IV-20-2)。出土

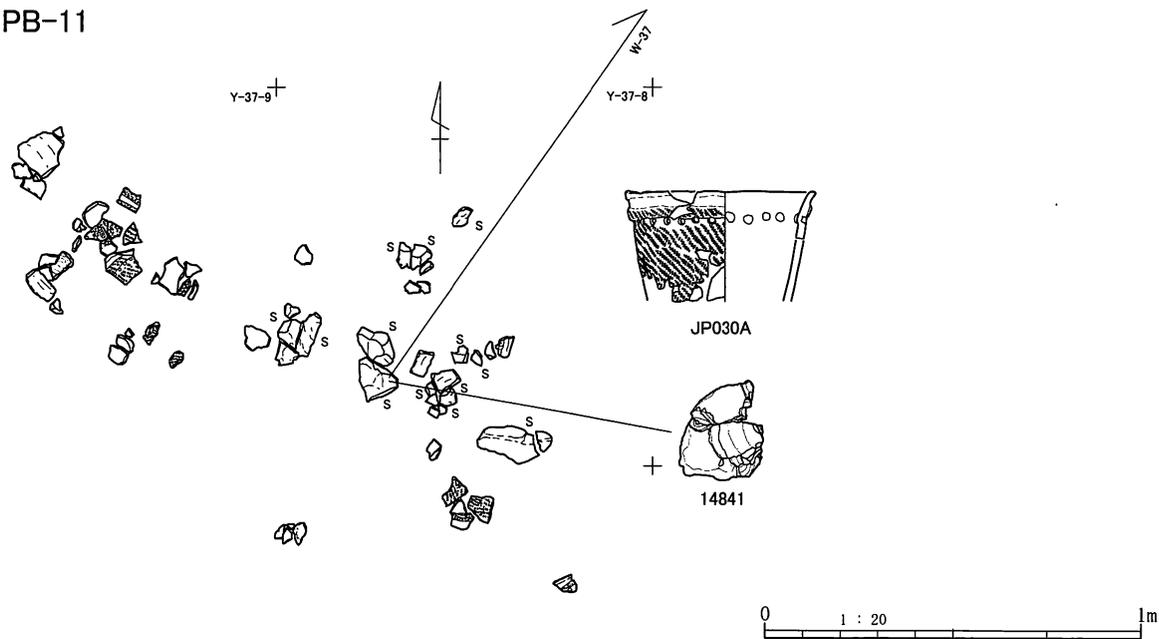


図IV-15 VPB-02~05A・05B・09 平面図

VPB-10



VPB-11



図IV-16 VPB-10・11 平面図

した土器は胴部細片のみのため図示できなかった。

VPB-18は調査区中央部 X-36区、Vb層上位から150×70cmの範囲から検出した(図IV-19-下段右)。IV群C2類(手稻式)に属する(図IV-24-35)。

VPB-10は調査区中央部 Z-40区、Vb層上位、240×150cmの範囲で出土した(図IV-16上段)。後期末葉、IV群D1類(御殿山式相当)の土器集中である(図IV-24-36)。

VPB-14は調査区の北端部 AG-36区、Va層主体に80×40cmの範囲で出土した(図IV-17下段)。VPB-10同様、後期後葉の土器集中である(図IV-24-37)。

**V群土器を伴う土器集中：(VPB-02・03・09)**

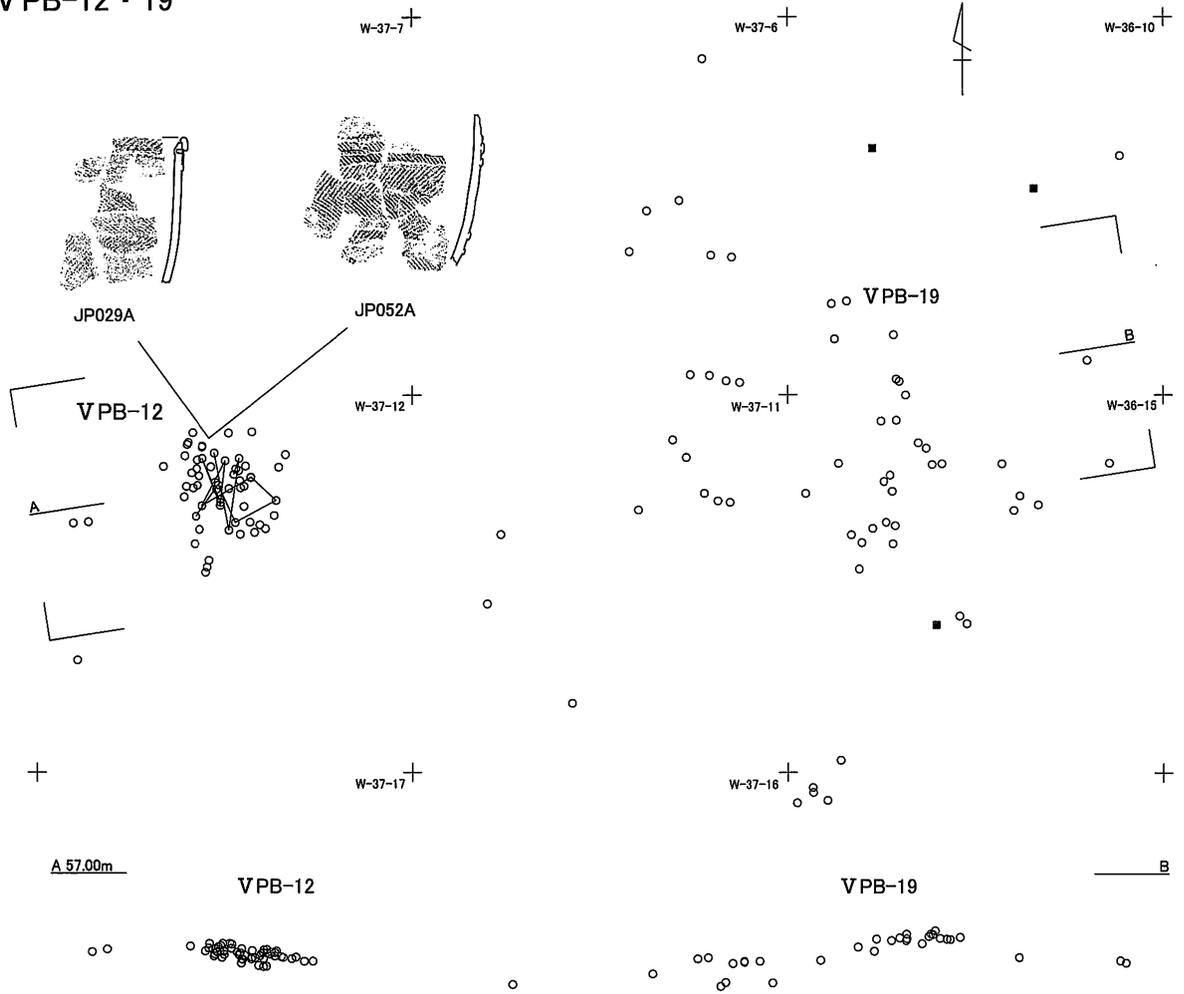
VPB-02・03は調査区南側のVa層を調査中に出土したもので、02は60×60cm(図IV-15上段左)、03は60×30cmの範囲にまとまって出土した(図IV-15上段右)。VPB-03から出土した土器はV群A類(図IV-25-42)、VPB-02はV群B類(図IV-25-47)に分類され、VPB-02が若干新しいと思われる。VPB-09は調査区北西部U-43区の低位面で検出した。90×70cmの範囲でVa層から出土している。V群A類に属する。(荻野)

**出土石器：**(図IV-20) 1は加工痕のある礫、素材礫は花崗岩の亜角礫で遺構外のW-37区から出土した礫と接合している。破断面は正面右側縁及び下縁部を裏面から剥離している。2は片岩製の磨製石斧で、節理面のある礫を剥離した横長の素材を利用し、縁辺を細かく剥離調整した後、研磨されている。平面形は短冊形を呈し、刃部周辺はよく研磨され、身部と明瞭な稜を残す。一方で、他の部分は研磨が顕著でなく、断面形はややいびつな長方形で素材形状を大きく残す。3は黒曜石のUFで、剥片素材を利用し、縁辺に細かな剥離を残す。4は砂岩製の石皿で、板状礫の平坦面に皿状の窪みを2ヵ所有し、長軸方向に沿う擦痕が観察される。正面下側の窪みには敲打後の研磨が認められる。右側縁は欠損している。他に図示していないがRFが1点出土している。(松井)

**表IV-13 土器集中属性表**

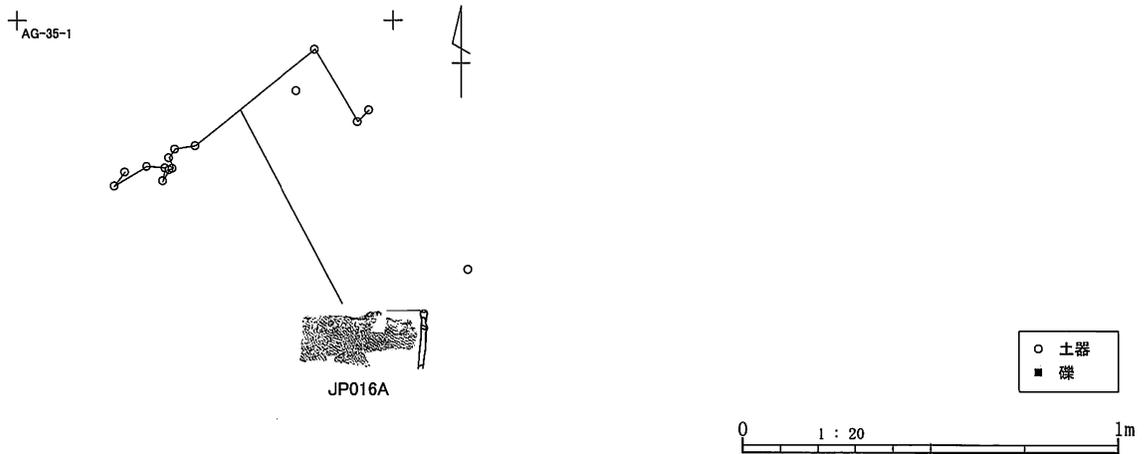
挿図番号	図版番号	遺構名	個体名称	分類	グリッド	層位	備考
IV-4	28-2	VPB-01	JP009A	VA1	AC-31	Va	集中区1
IV-15	37-1・2	VPB-02	JP002A	VB2	AE-34	VbU	
IV-15	37-3	VPB-03	JP005A	VA	AF-35	VbU	
IV-15	-	VPB-04	JP033A	IVA1a	AD-35	VbU	
IV-15	37-4	VPB-05A	JP025A	III B1	AA・AB-35	VbU	
		VPB-05B	JP025B				
IV-4	28-3	VPB-07	JP013A・JP26A・B・JP027A	IVA1	AC-31・32、AD-31・32	VbU	集中区1
IV-12	34-3	VPB-08	JP003A	IVA1a	X-41・42・43	I	VP-02覆土
IV-15	37-6	VPB-09	JP006A	VA	U-43	Va・VbU	
IV-16	37-7・8	VPB-10	JP010A	VA1	Y・Z-40	VbU	
IV-16	38-1	VPB-11	JP008A	IVA1a	Y-37	VbU	
IV-17	38-2	VPB-12	JP029A・JP052A	IVA1a	W-37	VbU	
IV-18	38-3	VPB-13	-	IVA1a	U・V-38	Va・VbU	
IV-17	38-4	VPB-14	JP016A	IVA1	AG-35	Va	
IV-18	-	VPB-15	JP043A	I B3	AC-34	VI	
IV-19	38-5	VPB-16	JP034A	IVA1a	U・V-36・37	VbU	
IV-19	38-6	VPB-17	JP004A	III A2	Z-35・36	VbL	
IV-19	38-7・8	VPB-18	JP011A	IVC2	X-36	VbU	
IV-17	-	VPB-19	-	IVA1a	W-36・37	VbU	

VPB-12・19



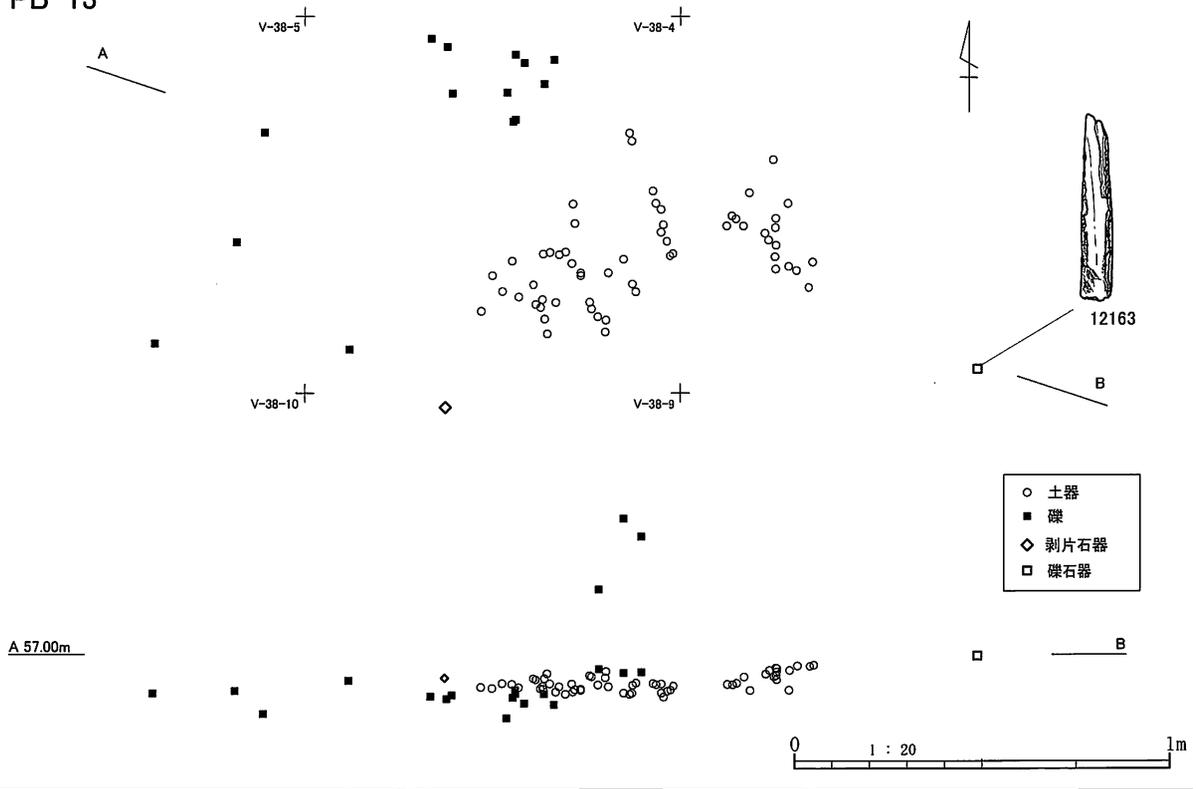
※Vb 層上位出土遺物のみを表記している。  
 ※細片で接合資料が無い場合、VPB-19の出土遺物は未掲載。

VPB-14

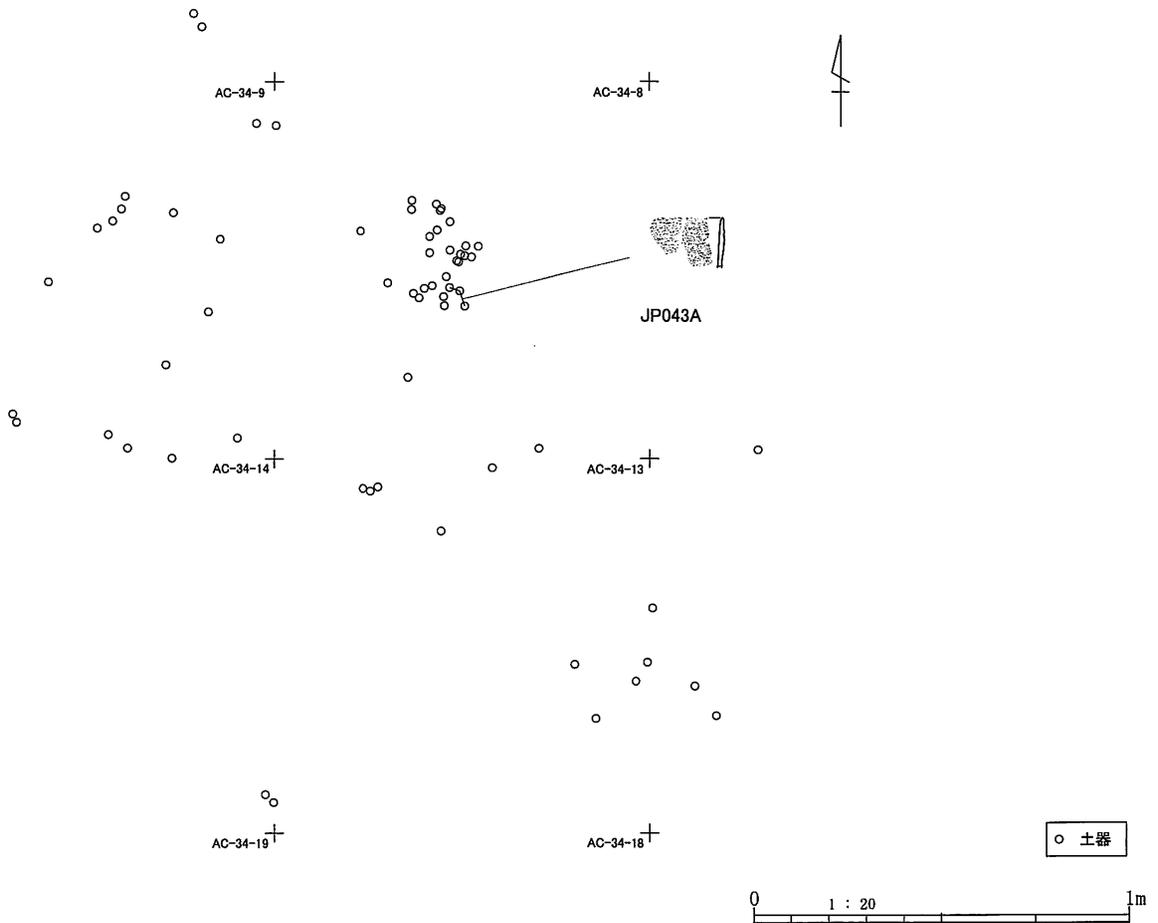


図IV-17 VPB-12・19・14平面図

VPB-13

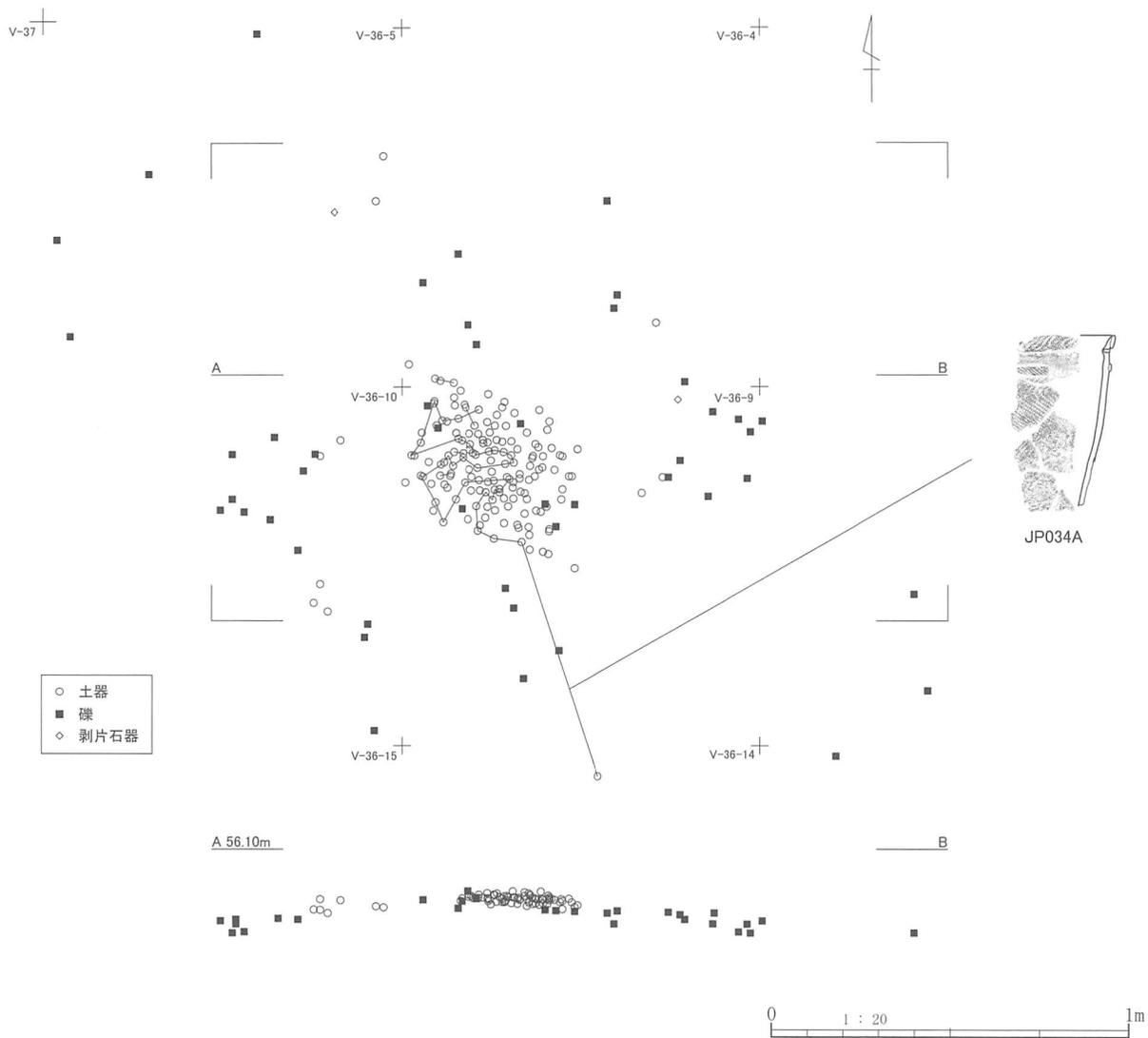


VPB-15

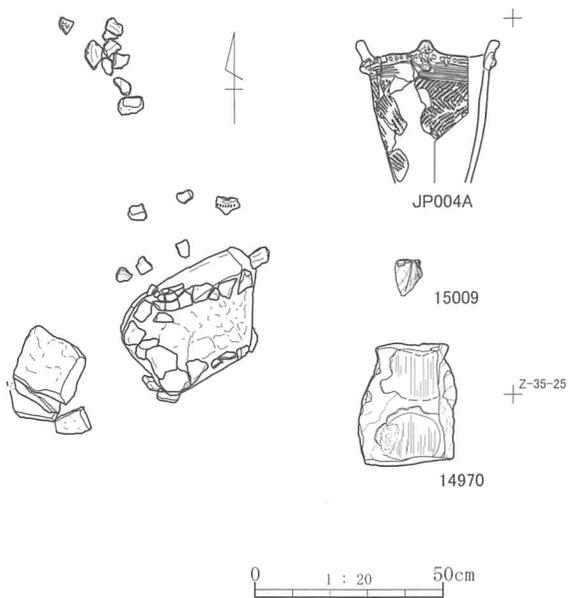


図IV-18 VPB-13・15 平面図

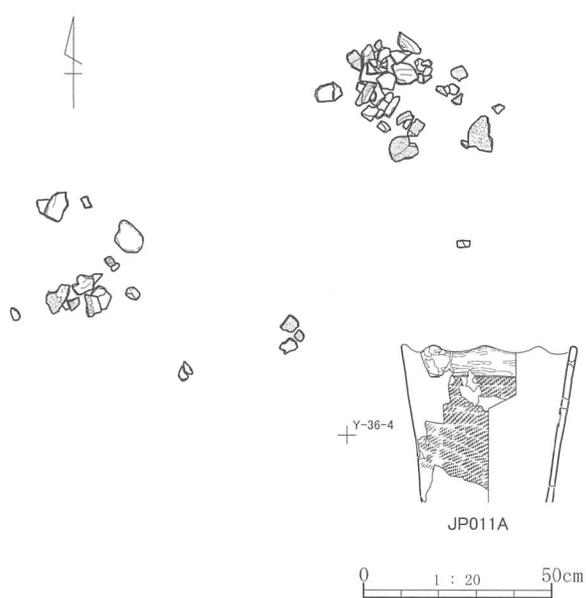
VPB-16



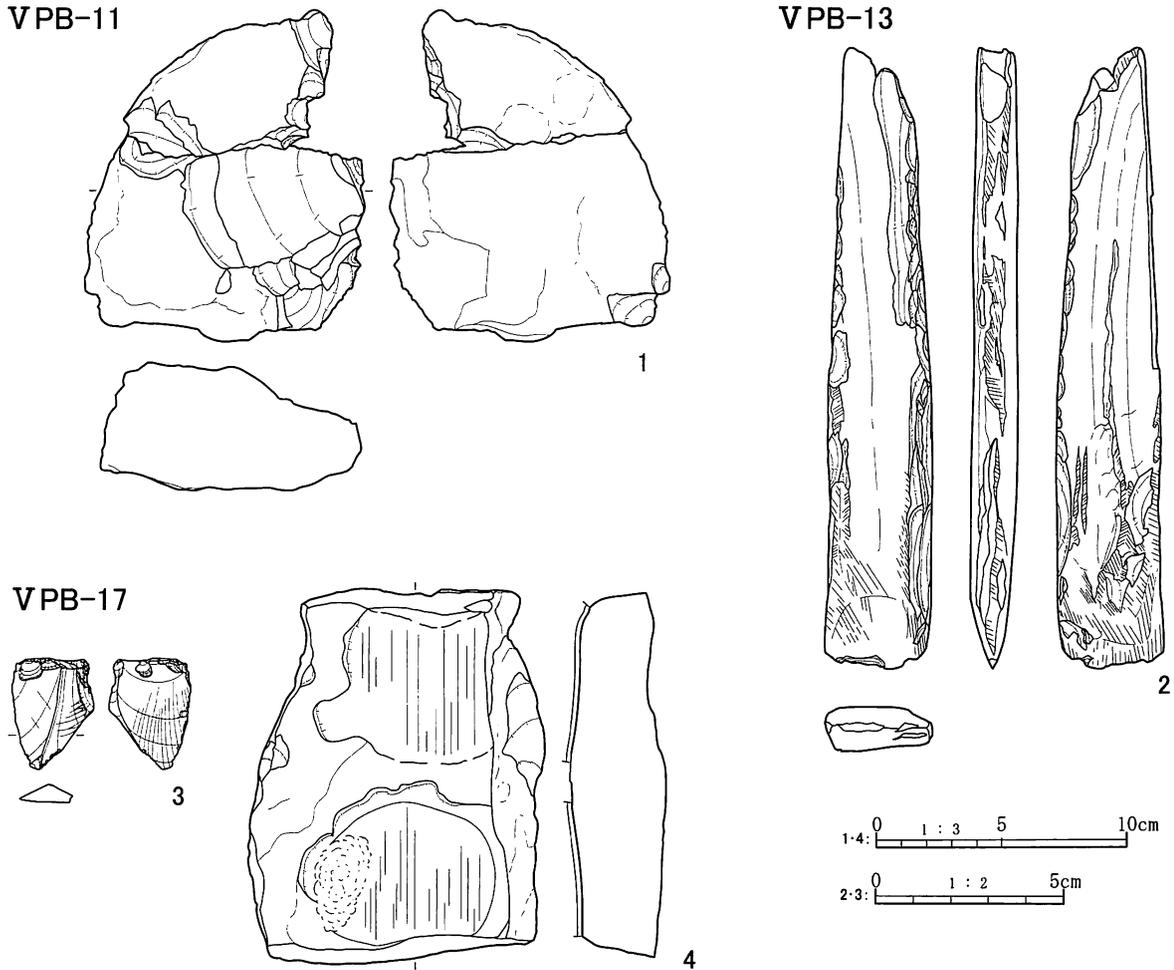
VPB-17



VPB-18



図IV-19 VPB-16~18 平面図



図IV-20 VPB-11・13・17 出土石器

表IV-14 VPB出土石器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量 (g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
-	-	-	12081	RF	B	VbU	VPB-05B	AB-35	27.6	27.4	7.9	4.2	Obs.	
IV-20-1	55-1-1	ST28	14841	加工痕のある礫	B	VbU	VPB-11	Y-37	(122.0)	(106.7)	(45.5)	(866.0)	Qu.	被熱
			13947			VbL	-	W-37						
IV-20-2	55-1-2	-	13444	磨製石斧	A2c	VbU	VPB-13	V-38	156.1	27.7	11.3	96.1	Sch.	
IV-20-3	55-1-3	-	15009	UF	B	Vc	VPB-17	AB-34	31.1	21.8	9.8	4.2	Obs.	
IV-20-4	55-1-4	-	14970	石皿	-	VbL		Z-36	(143.7)	(112.3)	(38.5)	(930.5)	Sa.	

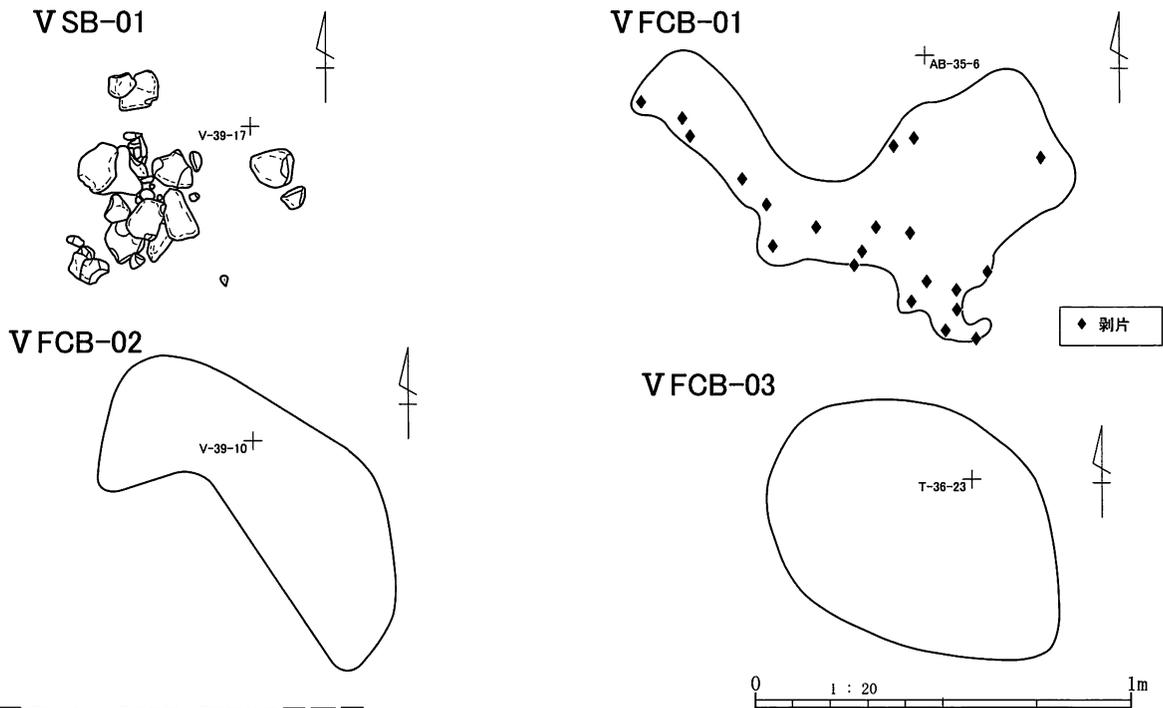
2. 礫集中 (図IV-21)

VSB-01 は調査区中央部の X-39 区で検出された (図IV-21)。範囲は 60×54cm。砂岩の板状礫が主体で、被熱礫は 1 点のみである。周囲から遺構は検出されておらず、単独のものである。

3. 剥片集中 (図IV-21)

VFCB-01 は AB-36 区を掘り下げ時にフレイクチップが多く出土する地点を検出した。範囲は 120×74cm。出土範囲を平面図に記録した後、2 cm 以上のフレイクチップは出土地点を記録し、それ以外は一括で取り上げた。

VFCB-02 は V-39 区に位置し、隣接する試掘坑壁面にフレイクチップが多く確認されていた。範囲は 98×36cm。出土範囲を平面的に記録した後、一括で取り上げた。図示することができなかったが、黒曜石の石核が 1 点出土している。



図IV-21 VSB・VFCB平面図

表IV-15 VSB-01属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	平面形	層位	規模 (cm)			備考
						長軸	短軸	厚さ	
IV-21	39-7	VSB-01	X-39	楕円形	VbL	60	54	-	

表IV-16 VSB-01出土礫属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値 (mm)						長短 比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被熱	材質	備考
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
-	-	-	13636	VbL	完形	145.0	20.2	78.5	-10.8	27.0	-4.4	1.8	0.4	380.0		Sa.	
-	-	-	13644	VbL	完形	133.0	8.2	94.2	4.9	31.3	-0.1	1.4	0.0	475.0		Sa.	
-	-	-	13645	VbL	略完形	132.8	8.0	112.6	23.3	34.0	2.6	1.2	-0.2	(475.0)	○	Sa.	
-	-	-	13635	VbL	完形	107.4	-17.4	85.2	-4.1	37.3	5.9	1.3	-0.1	360.0		Sa.	
-	-	-	13637	VbL	完形	105.6	-19.2	75.8	-13.5	27.4	-4.0	1.4	0.0	270.0		Sa.	
						124.8		89.3		31.4				392.0			

※5点

表IV-17 剥片集中属性表

挿図 番号	図版 番号	関連遺構	グリッド	層位	平面形	規模 (cm)		フレイク・チップ		備考
						長軸	短軸	石材	点数	
IV-21	38-8	VFCB-01	AB-35	VbU	楕円形	120	74	Obs.	1011	
IV-21	-	VFCB-02	V-39	VbL	楕円形	98	36	Obs.	1045	
IV-21	38-9	VFCB-03	T-36	Va	楕円形	100	64	Obs.	3481	
								Sh.	8	

## 第6節 縄文時代包含層出土遺物

縄文時代の土器片はV・VI層から4,207点が出土している。時期は早期・中期～晩期である。出土量は多い順に後期・晩期・中期・早期で、前期の土器は出土しなかった。掲載土器の個別については一覧表に記載しているので、ここでは概略について述べる。

### 1. 土器

#### I 群土器 (図IV-22-1～15 図版 55-2-1～15)

早期後半のコッタロ式に相当するもの(1・2)、中茶路式に相当するもの(3～14)、東釧路IV式に相当するもの(15)がある。コッタロ式土器は数も少なく、中茶路式土器とは分布を異にする(図IV-37)。中茶路式土器は遺跡中央部から北にかけて多く出土した。当該期の土器集中VPB-15はこうした分布の南に位置する。8～11には極めて細い微隆起線が貼付される。8・10・11は微隆起線間に羽状構成の捺糸文が施されている。13・14は代わりに結節回転文が施文されている。これらの土器は、新千歳空港関連の発掘調査により中茶路式の新しい段階と思われる。

#### III 群土器 (図IV-22-16～24 図版 56-16～24)

中期中葉に相当する円筒土器上層系の厚真1式に相当するもの(16)、円筒土器上層c式もしくはそれ以降のもの(17～19)、萩ヶ岡2式相当のもの(20)、榎林式に相当するもの(21・22)、柏木川式に相当するもの(23)、北筒式に相当するもの(24)がある。

III群の土器片は調査区中央部、住居跡VH-01、VPB-05A・B、VPB-17周辺から出土しているが、同時に存在していたのではなく、VPB-17→VPB-05A・B→VH-01の順に推移している。24は口縁にOI刺突文が巡る、北筒式土器の範疇に入るものである。

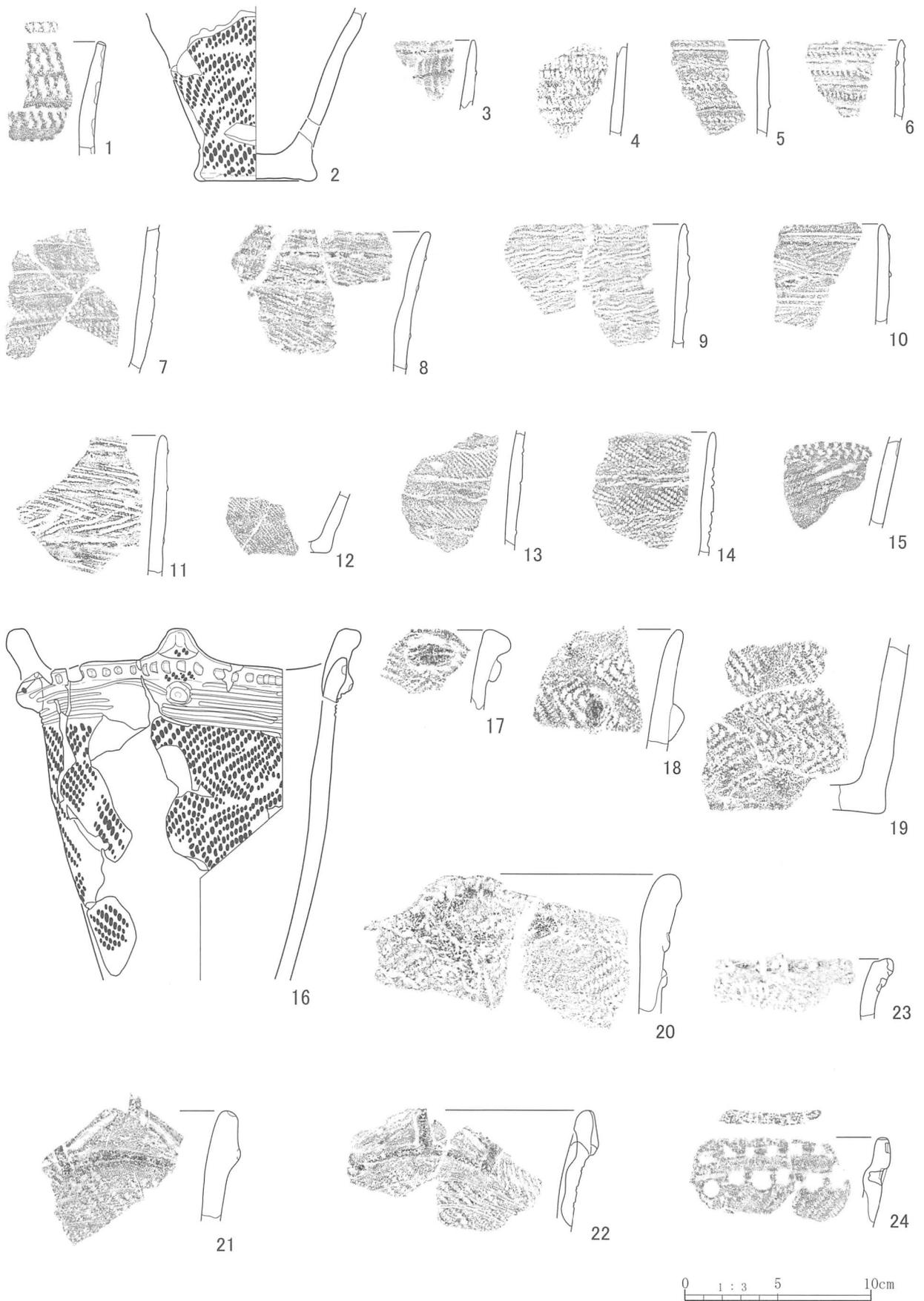
#### IV 群土器 (図IV-23-25～24-37 図版 56-25～58～37)

後期前葉の古手の余市式に相当するものが多く(25～33)ある。口縁部に貼付帯が施され、口唇部が角状又は内削ぎの切り出し刃状となっている。このうち25、32、33は粒径1.5mm以上の石英結晶を多量に含む「富良野盆地系土器」である。口縁部の貼付帯や円形刺突文の形態など、道央部に分布する余市式とは異なることから細分すべき資料であるが、搬入系資料で出土点数も少量であることから本群にまとめた。34は道南の後期前葉に相当するものである。後期中葉(手稲式)相当のものは1個体のみ出土した(35)。後期後葉に相当するものは(36～37)、突瘤文・貼瘤文を特徴とする三ツ谷式・御殿山式の範疇に入るものと思われる。

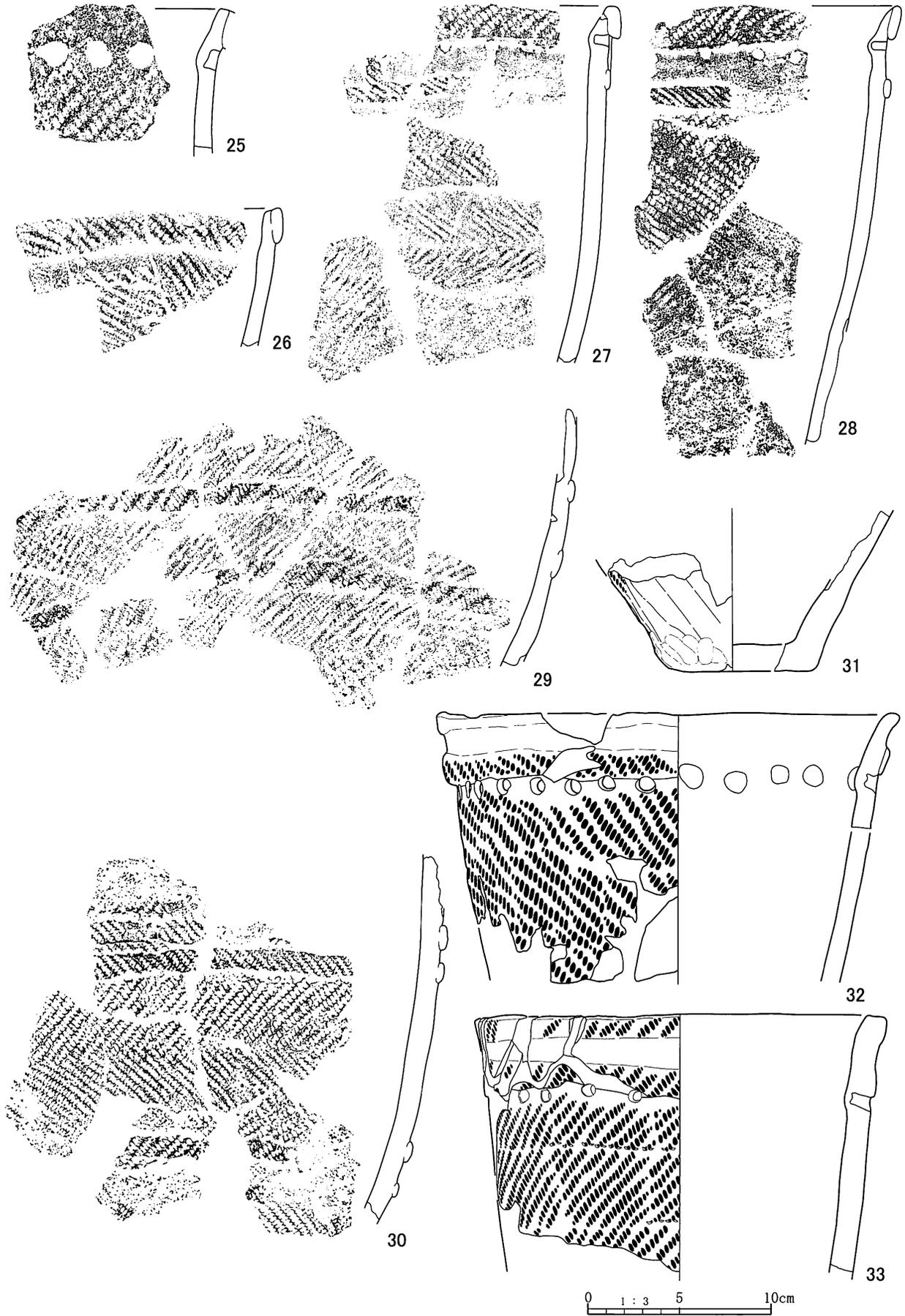
#### V 群土器 (図IV-24-38～25-47 図版 58-38～59-47)

晩期前葉の土器は三叉文や爪形文を特徴とする東三川I式(38～42)に含まれる。44～46は調査区の北端部分に集中して発見された。三叉文は「安行3a式」に特徴的な文様であり、大洞B式期相当のものと考えられる。ただ、46の口縁部と胴下半部に見られる粗い縄文と口縁部から同上半部に見られる細かな縄文が同一個体に施文されることは、「安行3a式」や大洞B式土器には見られない特徴である。43・47は地文の縄文が縦走するもので晩期中葉のママチI群に相当すると考えられる。

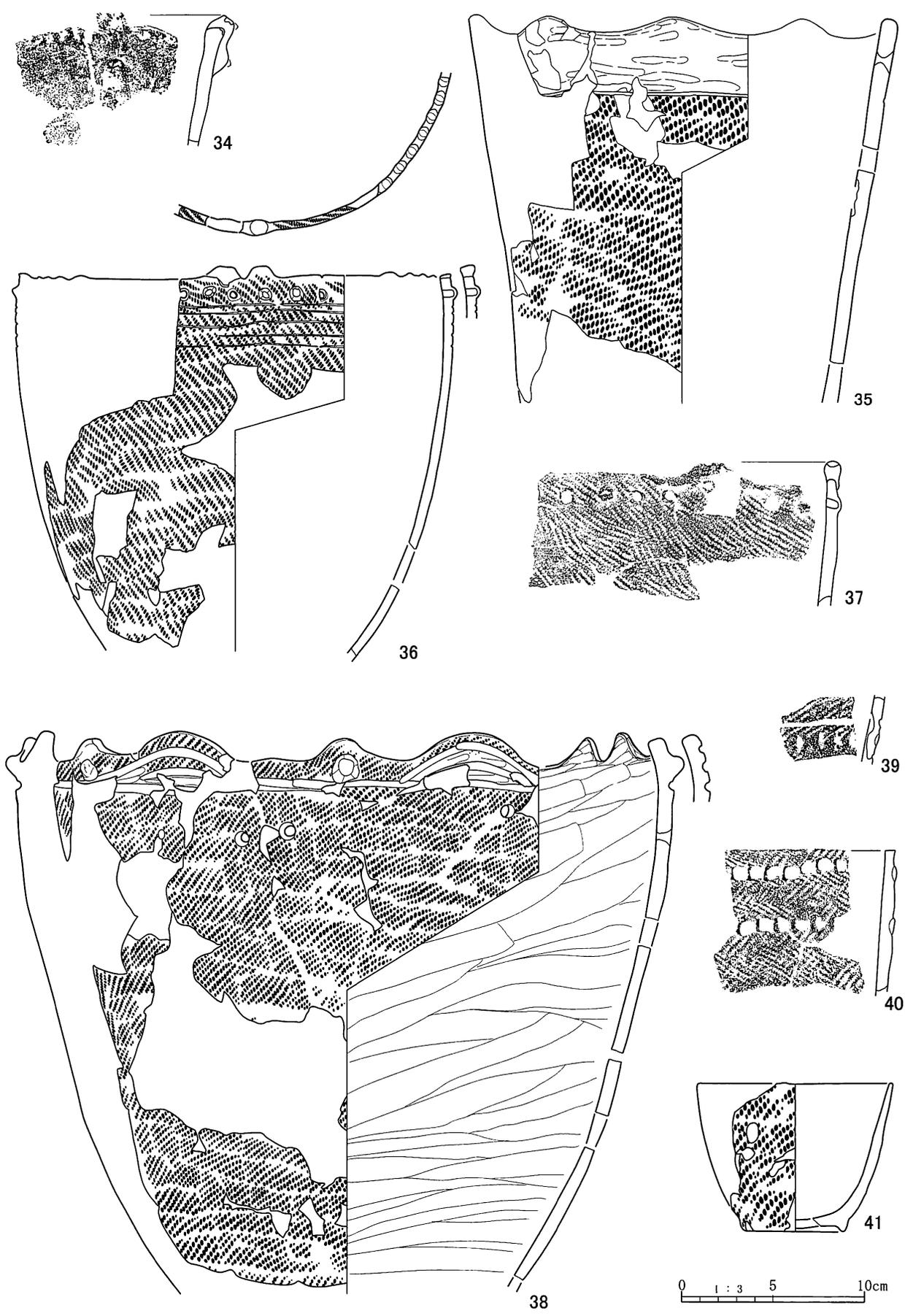
(荻野)



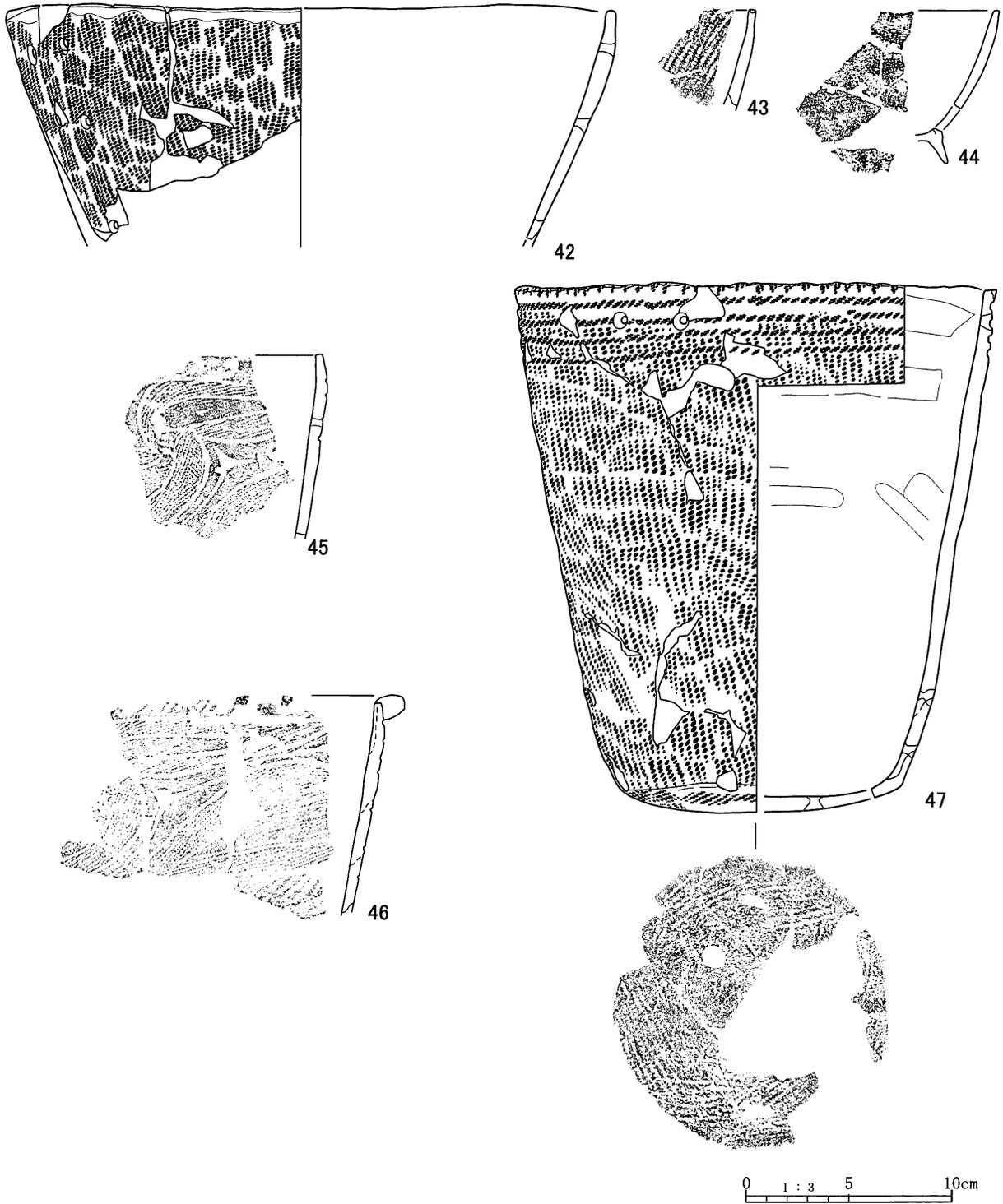
図IV-22 縄文時代包含層出土土器(1)



図IV-23 縄文時代包含層出土土器(2)



図IV-24 縄文時代包含層出土土器 (3)



図IV-25 縄文時代包含層出土土器 (4)

表IV-18 縄文時代包含層出土土器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点 数	部位	器形等	文 様	胎土	備考
								口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点 -底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/底側面-底 面-内面		
IV-22-1	55-2-1	JP023A	I B2	AD-31	Vc	2	口縁部	平縁・やや外反-角状	棒状工具による刻み-LR短縄文-ナデ	φ1mm ↓ 砂粒少量混入	
IV-22-2	55-2-2	JP028A	I B2	U-36	VbU	6	胴部 ~底部	外傾/「く」の字状張り出し-隅丸角状-上げ底	LR縄文(ヨコ回転)-ヘラナデ/LR縄文(ヨコ回転)-ヘラナデ	繊維微量、φ1mm ↓ 砂粒少量混入	
IV-22-3	55-2-3	JP039A	I B3	V-34	VI	1	口縁部	平縁・やや外反-尖状	LR短縄文・微隆起線文-ヘラナデ	φ1mm ↓ 砂粒少量混入	
IV-22-4	55-2-4	JP037A	I B3	V-34	VbL	2	胴部	外傾	絡糸体圧痕文-ヘラナデ	φ2mm ↓ 石英・砂粒多量混入	富良野盆地系
IV-22-5	55-2-5	JP036A	I B3	W-35	VbU VI	2	口縁部	平縁・ほぼ直立-尖状	RL絡糸体圧痕文・微隆起線文-ヘラナデ	φ1mm ↓ 砂粒中量混入	
IV-22-6	55-2-6	JP038A	I B3	AC-35	VI	1	口縁部	平縁・やや外反-尖状	絡糸体圧痕文・微隆起線文-ヘラナデ	φ1mm ↓ 砂粒少量混入	
IV-22-7	55-2-7	JP044A	I B3	V-38	VI	3	胴部	外傾	絡糸体圧痕文・横走沈線文・微隆起線文-ヘラナデ	φ1mm ↓ 砂粒少量混入	
IV-22-8	55-2-8	JP035A	I B3	Z-37	Vc	4	口縁部 ~胴部	平縁・外反-丸状	L燃糸回転文・微隆起線文-ヘラナデ	φ1mm ↓ 砂粒少量混入	
IV-22-9	55-2-9	JP043A	I B3	VPB-15	VI	3	口縁部 ~胴部	平縁・やや外反-尖状	L燃糸回転文・微隆起線文-ヘラナデ	φ1~4mm ↓ 円礫・砂粒少量混入	
IV-22-10	55-2-10	JP041A	I B3	W-40	VbL	2	口縁部 ~胴部	平縁・ほぼ直立-尖状	R燃糸圧痕文・微隆起線文・R燃糸回転文・R燃糸圧痕文-ヘラナデ	φ1mm ↓ 砂粒少量混入	
IV-22-11	55-2-11	JP040A	I B3	W-39	Vc	1	口縁部 ~胴部	平縁・ほぼ直立-尖状/外傾	R燃糸回転文・微隆起線文/異原体羽状縄文-ヘラナデ	φ1mm ↓ 砂粒少量混入	
IV-22-12	55-2-12	JP042A	I B3	V-34	VI	1	底部	外傾/隅丸角状-平底	RL斜行縄文-ヘラナデ	φ1mm ↓ 砂粒中量混入	
IV-22-13	55-2-13	JP045A	I B3	W-39	Vc	2	胴部	やや外傾	RL斜行縄文・微隆起線文・ミガキ-ヘラナデ	φ1mm ↓ 砂粒中量混入	
IV-22-14	55-2-14	JP021A	I B3	AE-29	VbL	1	口縁部 ~胴部	平縁・ほぼ直立-尖状/外傾	ミガキ-RL結節縄文-ナデ-ヘラミガキ(タテ)/RL結節縄文-ナデ	φ3mm ↓ 砂粒少量混入	
IV-22-15	55-2-15	JP024A	I B4	AB-32	Vc	1	胴部	やや外傾	短縄文・絡糸体圧痕文-ナデ	φ3mm ↓ 砂粒やや多く混入	
IV-22-16	56-16	JP004A	III A2	VPB-17	VbL VbU	10 5	口縁部 ~胴下部	突起-丸状・外反/やや外傾	ナデ-貼付帯・突引文(内)-ヘラナデ/半截竹管押引文・結束第1種羽状縄文-ナデ		
IV-22-17	56-17	JP054A	III A2	Z-35	VbL	1	口縁部	突起-丸状・外反/やや外傾	ナデ-貼付帯(突起部)・LR斜行縄文-ナデ	φ1mm ↓ 砂粒やや多く混入	
IV-22-18	56-18	JP055A	III A2	Z-38	VbL	1	胴部	平縁-丸状・外傾/外傾	ナデ-縦貼付帯・結束第1種羽状縄文-ナデ	φ1mm ↓ 砂粒やや多く混入	
IV-22-19	56-19	JP053A	III A2	X-36 AA-38	VbL Vc	1 1	胴部 底部	やや外傾/やや外傾-角状/やや上げ底	結束第1種羽状縄文-ナデ/無文-ナデ	φ1mm ↓ 砂粒やや多く混入	IV-26-18と同一個体?
IV-22-20	56-20	JP032A	III B1	W-36	VbU	2	口縁部	突起-丸状・やや外反/やや外傾	一部刻み・ナデ-貼付帯+刻み・LR斜行縄文-ヘラミガキ(ヨコ)/貼付帯+刻み・LR斜行縄文-ミガキ(ナメ)?	φ1mm ↓ 砂粒少量混入・少量の繊維含む	
IV-22-21	56-21	JP025A	III B1	VPB-05B	VbU	1	口縁部	突起-隅丸角状・やや外傾/やや外傾	貼付帯・沈線-ミガキ/隆起線・RL斜行縄文-ミガキ(ヨコ)	φ1mm ↓ 砂粒やや多く混入	
IV-22-22	56-22	JP025B	III B1	VPB-05B	VbU	2	口縁部	突起-外削・外反	貼付帯・沈線文・燃糸文-ナデ?/半截竹管押引文・RL斜行縄文-ナデ	φ1mm ↓ 砂粒やや多く混入	内面剥落
IV-22-23	56-23	JP057A	III B1	V-36	VbU	2	口縁部	平縁・やや外反-隅丸角状	刻み・押引文(外)-ナデ/押引文(内)・LR斜行縄文-ナデ	φ1mm ↓ 砂粒極少量混入	
IV-22-24	56-24	JP056A	III B3	AB-36	VbU	2	口縁部	平縁・隅丸角状・やや外傾	刻み・押引文(内)・隆起帯+刻み・O刺突文・刻み・LR斜行縄文-ナデ	φ1mm ↓ 砂粒少量混入・繊維少量混入	
IV-23-25	56-25	JP051A	IV A1a	X-37	Va	1	口縁部 ~胴部	平縁-角状・外反/やや外傾	貼付帯(剥落)・O円形刺突-ナデ/LR斜行縄文-ナデ	φ2mm ↓ 砂粒多量混入	富良野盆地系
IV-23-26	56-28	JP049A	IV A1a	U-37	VbL	3	口縁部 ~胴部	平縁-隅丸角状・やや外傾/外傾	貼付帯-RL縄文-ナデ?/RL斜行縄文-ナデ?	φ2mm ↓ 砂粒多く混入	
IV-23-27	56-27	JP029A	IV A1a	VPB-12	VbU	10	口縁部 ~胴部	平縁-丸状・内削・外反/やや外傾	貼付帯-LR縄文-貼付帯(タテ)+RL縄文・無文帯・O刺突文・貼付帯+RL縄文-ナデ(ヨコ)/LR・RL斜行縄文(羽状)-ナデ(ナメ)	φ3mm ↓ 砂粒やや多く混入	

表IV-18 縄文時代包含層出土土器属性表(続き)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点 数	部位	器形等	文 様	胎土	備考
								口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点 -底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/底側面-底 面-内面		
IV-23-28	56-26	JP034A	IVA1a	VPB-16	VbU	6	口縁部 ~胴部	平縁-丸状・内削・外反/や や外傾	貼付帯+LR縄文-ナデ(ヨコ)/無 文帯・O刺突文・貼付帯+LR縄 文/LR・RL斜行縄文(羽状)-ナデ (タテ・ナナム)	φ3mm ↓ 砂粒やや 多く混入	
IV-23-29	57-29	JP033A	IVA1a	VPB-04	VbU	12	胴部	やや内湾気味に外傾	貼付帯+LR縄文・LR斜行縄文- ナデ(タテ)	φ3mm ↓ 砂粒やや 多く混入	
IV-23-30	57-30	JP052A	IVA1a	VPB-12	VbU	6	胴部	やや内湾気味に外傾	貼付帯+LR縄文・LR+RL斜行 縄文(羽状)-ナデ(ナナム)	φ3mm ↓ 砂粒やや 多く混入	
IV-23-31	57-31	JP050A	IVA1a	T-U-37	VbL	4	胴部 ~底部	外傾-隅丸角状-平底	RL斜行縄文/ケズリ(タテ)-RL縄 文-ナデ	φ3mm ↓ 砂粒多く 混入	内面一部剥落
IV-23-32	57-32	JP030A	IVA1a	VPB-11	VbU	4	口縁部 ~胴部	平縁-丸状・外反/外傾	凹縁・貼付帯+RL斜行縄文・O 刺突文-ナデ/RL斜行縄文-ナデ	φ2mm ↓ 砂粒・石 英多量混入	富良野盆地系
IV-23-33	57-33	JP008A	IVA1a	Y-37	VbU	31	口縁部 ~胴部	平縁-隅丸角状-やや外傾	貼付帯+LR斜行縄文・凹縁・貼 付帯+LR斜行縄文-ミガキ(ヨコ) /O刺突文・LR斜行縄文-ミガキ (ナナム)	φ3mm ↓ 砂粒・石 英多量混入	富良野盆地系
IV-24-34	58-34	JP022A	IVA	Z-38	VbL VbU	3	口縁部 ~胴部	小突起-内削・張り出し/外 反-外傾	縦貼付帯・円形刺突文-突引 文(内)-ナデ(ヨコ)/ミガキ(ヨコ)- ミガキ(ナナム)	φ3mm ↓ 砂粒やや 多く混入	
IV-24-35	58-35	JP011A	IVC2	VPB-18	VbU	31	口縁部 ~胴部	波状口縁-丸状・外傾/外 傾	ミガキ(ヨコ)・横走沈線-ナデ/LR 斜行縄文-ナデ	φ3mm ↓ 砂粒少量 混入	補修孔有り
IV-24-36	58-36	JP010A	IVD1	VPB-10	VbU	25	口縁部 ~胴下 半部	2個1対の台形状小突起1 対-角状-内湾/外傾	RL縄文・刻み(突起部周辺以外) -IO刺突文・横走沈線・RL斜行縄 文-ナデ/RL斜行縄文-ナデ	φ3mm ↓ 砂粒やや 多く混入	内面剥落
IV-24-37	58-37	JP016A	IVD1	VPB-14	Va	4	口縁部 ~胴部	山形小突起・角状・やや内 湾/やや外傾	突起上刻み・ヘラによるナデ-IO 刺突文・LR斜行縄文-ナデ/LR斜 行縄文-ナデ	φ1mm ↓ 砂粒少量 混入	
IV-24-38	58-38	JP006A	VA	VPB-09	Va	53	口縁部 ~胴下 半部	大小突起(交互)-内湾/外 傾	ヘラナデ-ボタン状貼付文(小突 起部)・弧状沈線(大突起部)・ 横走沈線・LR斜行縄文-ヘラナ デ/LR斜行縄文-ヘラナデ	φ2mm ↓ 砂粒やや 多く混入	補修孔有り
IV-24-39	59-39	JP018A	VA	AB-34	VbU	1	胴部	やや外傾	横走沈線文・爪形文・LR斜行縄 文-ナデ	φ1mm ↓ 砂粒少量 混入	
IV-24-40	59-40	JP017A	VA	U-37	KR	4	口縁部 ~胴部	平縁-角状/やや外傾	爪形文・異原体羽状縄文-ヘラナ デ/異原体斜行縄文-ヘラナデ	φ2mm ↓ 砂粒多量 に混入	
IV-24-41	59-41	JP027A	VA	T-39	Va	6	口縁部 ~底部	平縁-角状・外傾/内湾/尖 状-上げ底	ナデ-LR斜行縄文・ミガキ-ナデ /LR斜行縄文・ミガキ-ナデ/ナ デ	φ1mm ↓ 砂粒少量 混入	
				Y-37	VbL	1	胴部				
					Vc	2	胴部 ~底部				
IV-25-42	59-42	JP005A	VA	VPB-03	VbU	7	口縁部 ~胴部	平縁-隅丸角状・やや内湾 /外傾	ヘラナデ-RL縄文(縦回転)-ヘラ ナデ/RL縄文(縦回転)-ヘラナデ	φ1mm ↓ 砂粒やや 多く混入	補修孔有り・内面炭化物付 着
IV-25-43	59-43	JP020A	VA	AE-30	KR	1	口縁部	平縁-角状/外傾	刻み-LR斜行縄文-ミガキ(ヨコ)	φ1mm ↓ 砂粒少量 混入	
IV-25-44	59-44	JP031A	VA	T-36	KR	4	胴部 ~底部	平縁?-角状/外傾/くの字 状/高台	ヘラミガキ-ミガキ(ヨコ)-ミガキ(ヨ コ)/ミガキ(タテ)-ミガキ(ヨコ)/ミ ガキ(ヨコ)-ナデ	φ1mm ↓ 砂粒やや 多く混入	
				U-37	IIIa	1	口縁部				
IV-25-45	59-45	JP014B	VA2	Y-37	Vc	3	口縁部 ~胴部	平縁-角状・内湾/外傾	ヘラミガキ-ボタン状貼付(剥落)・ 粗いLR縄文?-ヘラミガキ/人組 文・三叉文・短沈線文・磨消縄文 (LR細かい)-ヘラミガキ	φ1mm ↓ 砂粒極少 量混入	補修孔有り
IV-25-46	59-46	JP014A	VA2	S-39	Va	11	口縁部 ~胴部	平縁-角状・内湾/外傾	ヘラミガキ-ボタン状貼付(2個1 対)・粗いLR縄文/人組文・三叉 文・磨消縄文(LR細かい)-ヘラミ ガキ/粗いLR斜行縄文-ヘラミガ キ	φ1mm ↓ 砂粒少量 混入	59-39と 同一個体?
				Y-37	Vc	1					
				X-38	VbL	1					
				U-37	IIIa	1					
IV-25-47	59-47	JP002A	VB2	VPB-02	VbU	83	口縁部 ~底部	平縁-角状外傾/外傾/張り 出し-丸底	細による刻み-縄線文-ナデ/RL 縄文(縦回転)/LR縄文-ナデ	φ3mm ↓ 砂粒少量 混入	補修孔有り

## 2. 剥片石器(図IV-26 図版 60)

縄文時代の文化層で出土した剥片石器は遺構・包含層含め全 227 点で、最も多く出土したのが RF・UF84 点。スクレイパー48 点及びポイント A (石鏃) 44 点、ポイント B (石槍) 34 点出土した。今回の報告では定型的な石器を優先的に図示した。

### ポイント類

#### 石鏃 (1～9)

長軸 4 cm 未満のものを石鏃に分類した。石材は全て黒曜石である。2 は先端部が欠損しているが、本来五角形を呈していたもので縄文時代早期から出土するものと似た形態である。3・4 は無茎で正三角形に近い平面形をもち、3 の基部は浅く湾入し、4 の基部は直線状をなす。5・6 は無茎で二等辺三角形の平面形をもち、基部は浅く湾入する。3～6 は薄く、また側縁稜が直線状となる。7 は有茎で鏃身部から茎部へと緩やかに変化する。8 は有茎で、明瞭な逆刺をもつ。9 は平面形は無茎石鏃を呈すが先端は尖らず、また長軸に対する厚みは他の石鏃より大きい。剥離が粗く中央部に素材面が残り、側面稜は蛇行する。無茎石鏃の未成品であると思われる。

#### 石槍・石銛 (10～13)

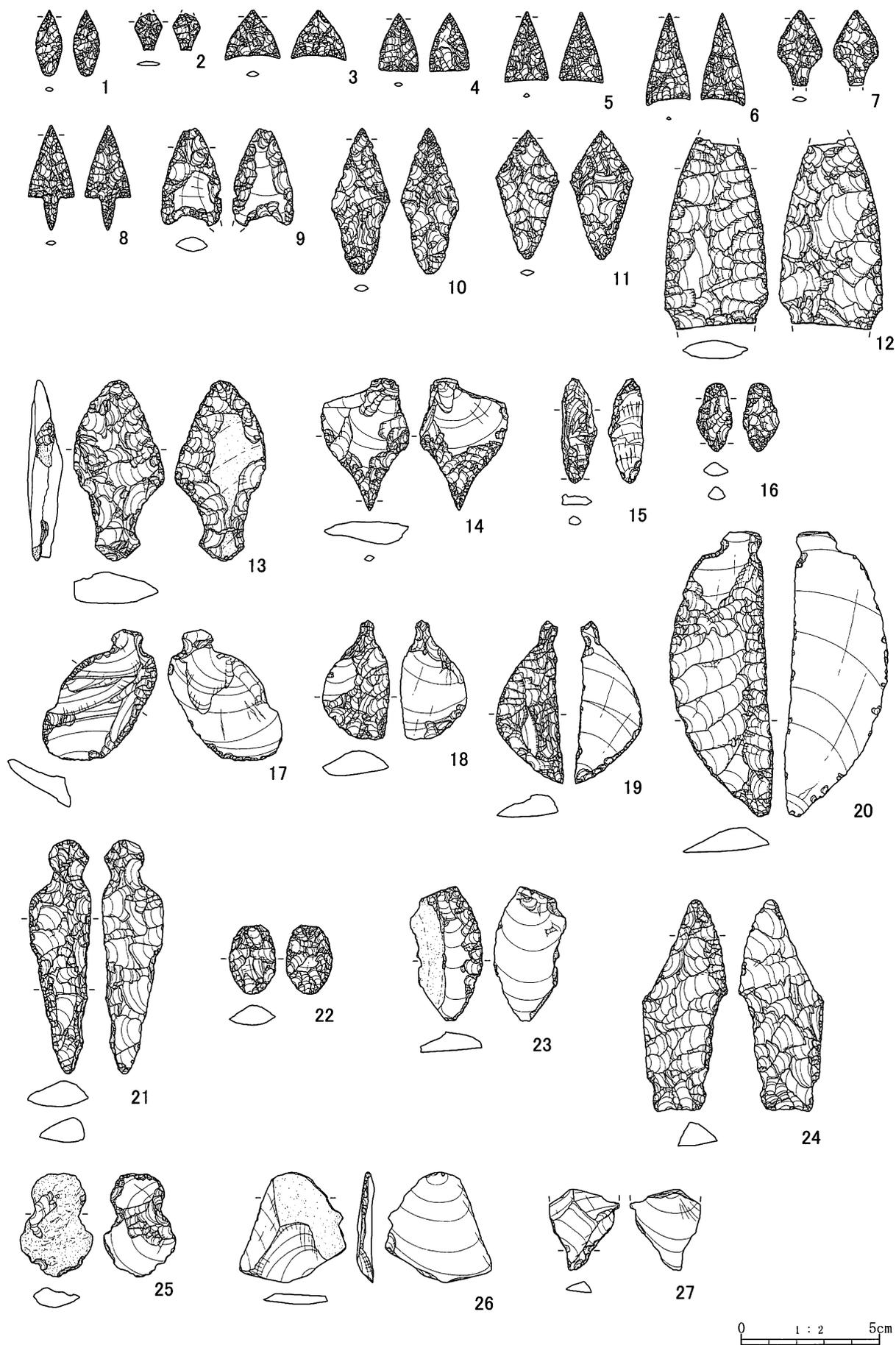
長軸 4cm 以上のものを石槍・石銛に分類した。10・11・13 は黒曜石製、有茎の石槍である。10 は基部端が丸い。右側縁は鏃身部と基部に明瞭な変換点があるが、左側縁は緩やかに変化し若干、左右非対称を呈する。11 は有茎で鏃身部が茎部よりも短くなる。刃部が再加工された可能性がある。12 は攪乱層の中から出土した。縄文時代早期の石槍の特徴をよく残しており、早期に伴うものとして報告する。欠損はあるが明瞭な基部をもち逆刺がある。13 は平面形が左右非対称で、縁辺に微調整は加えられていない。鏃身部の一部に礫面を残している。先端部や茎部も作出されておらず未成品と思われる。

#### 石錐 (14～16)

14 は黒曜石の剥片を素材とし、柄の部分には素材の主剥離面が残されている。柄は大きく、機能部は幅の狭い断面レンズ状で、肉眼観察では使用に伴う摩耗や微細剥離などは見られなかった。15 は頁岩を素材とし棒状の素材を使っている。先端に機能部を作出し縁辺には若干の摩滅が見られる。16 は黒曜石製の石鏃を転用したものと思われ両面から再調整がなされている。機能部の摩耗は著しい。刃部を比較すると、14 は先端が鋭く、15・16 は先端が鈍い。幅、厚さは約 3～4 mm と同等である。

#### スクレイパー (17～25)

17～21 はつまみ付きナイフで、3 種に分類した。19 は縄文時代早期後葉から前期初頭にかけての「松原技法」(秦 1991) が確認される。裏面右側縁下半部には連続した細かな剥離が行われ、打面を作出している。20 は正面に連続した押圧剥離が行われ刃部が形成される。本資料も、松原技法による可能性がある。つまみ付きナイフの刃部とつまみ部分では、刃部の方が浅いノッチである。22 はラウンド・スクレイパーで片面に押圧剥離による刃部調整が施される。23 はサイド・スクレイパーで岩層面を残す。24 は石槍を転用したナイフ・スクレイパーに分類されるもので、正面左側刃部は度重なる刃部再生が施され、大きく変形している。25 は抉入石器、裏面右側に連続した調整痕を残す。正面に転礫面を残す。



図IV-26 縄文時代包含層出土剥片石器

表IV-19 縄文時代包含層出土剥片石器属性

挿図 番号	図版 番号	遺物 番号	グリッド	層位	遺物名	分類	計測値(mm)			重量 (g)	材質	備考
							長軸	短軸	厚さ			
IV-26-1	60-1	11209	AF-33	Vc	ポイント	A1	23.6	9.5	2.6	0.5	Obs.	
IV-26-2	60-2	19677	U-37-3	Vc	ポイント	A1	(13.1)	9.5	1.0	(0.1)	Obs.	
IV-26-3	60-3	16166	Y-41	Vc	ポイント	A2	17.6	19.8	3.1	0.8	Obs.	
IV-26-4	60-4	15236	AB-36	Vc	ポイント	A2	20.9	14.4	2.5	0.6	Obs.	
IV-26-5	60-5	11002	AB-37	VbL	ポイント	A2b	24.8	15.8	3.6	1.0	Obs.	
IV-26-6	60-6	10420	Z-36	VbL	ポイント	A2b	32.1	15.8	4.2	1.5	Sh.	
IV-26-7	60-7	14697	X-40	VbL	ポイント	A3a	27.0	16.1	5.1	1.5	Obs.	
IV-26-8	60-8	13448	W-38	VbU	ポイント	A3b	37.0	16.3	4.2	1.4	Obs.	
IV-26-9	60-9	17130	W-36	VbL	ポイント	A5	35.2	21.9	5.8	4.1	Obs.	
IV-26-10	60-10	13077	U-44	VbU	ポイント	B1a	52.1	21.1	7.1	5.1	Obs.	
IV-26-11	60-11	13366	Y-37	VbU	ポイント	B1b	46.4	22.8	6.2	4.4	Obs.	
IV-26-12	60-12	12044	V-39	KR	ポイント	B1c	(67.9)	37.2	8.1	(23.8)	Sh.	基部先端欠
IV-26-13	60-13	15996	Z-34	VbU	ポイント	B3	64.8	32.7	11.5	19.2	Obs.	未成品
IV-26-14	60-14	14552	AA-40	VbL	石錐	A	47.5	32.7	8.9	8.7	Obs.	
IV-26-15	60-15	20615	AD-32-1	VbL	石錐	C	37.4	13.1	5.8	2.7	Sh.	
IV-26-16	60-16	15318	U-35	VbU	石錐	E	24.4	12.8	4.7	1.4	Obs.	先端摩耗顕著
IV-26-17	60-17	15464	X-36	VbU	つまみ付き ナイフ	A1a	47.5	29.8	8.3	10.1	Sh.	
IV-26-18	60-18	13219	AC-31	VI	つまみ付き ナイフ	A2	42.9	24.3	8.1	8.4	Si.	松原技法
IV-26-19	60-19	14086	U-43	VI	つまみ付き ナイフ	A2	58.5	22.7	7.5	8.1	Sh.	
IV-26-20	60-20	10929	Z-35	VbL	つまみ付き ナイフ	A2	99.6	34.0	6.9	24.5	Sh.	
IV-26-21	60-21	11330	Z-39	VbL	つまみ付き ナイフ	A3	83.5	21.7	8.5	14.6	Sh.	
IV-26-22	60-22	13220	AC-31	VI	スクレイパー	B1	24.8	16.7	6.8	2.6	Obs.	
IV-26-23	60-23	10484	T-37	Vc	スクレイパー	C1a	48.2	25.4	7.8	8.6	Obs.	岩砕面
IV-26-24	60-24	11739	W-35	VbU	スクレイパー	F	76.5	30.1	8.0	18.6	Sh.	ポイント転用
IV-26-25	60-25	16889	AC-31	VbU	スクレイパー	C2a	37.6	26.4	7.1	6.1	Obs.	挟入石器 転 礫面 被熱
IV-26-26	60-26	14688	W-39	VbL	U.F	A	42.1	37.3	5.2	7.4	Sh.	刃潰し
IV-26-27	60-27	11674	V-36	VbU	U.F	A	30.4	24.0	3.5	2.5	Obs.	2期に渡る使用 被熱

## UF・RF (26・27)

26の右側縁には刃潰痕を残す。左側縁の素材部分に細かな剥離があり、刃部と思われる。27は被熱した黒曜石のUFである。被熱前後の剥離が認められる。(松井)

### 3. 礫石器(図IV-27~36 図版 61~64)

#### 磨製石斧(1~7)

27点出土している。石斧は平面形で大別し、横断面形で細分した。刃部の形態については両刃、片刃に分類したが両刃のものが多く見られた。1~3・7が緑色泥岩、4~6が高压変成を受けた黒色あるいは濃紺色の片岩である。1・2は撥形を呈するもので、1は刃部に大きな剥落が見られる。刃部平面形態は尖る。刃部左側には破断面を切る磨滅及び、刃部に直交する線条痕が見られる。2は中央部分で折損している。接合資料の破断面から繰り返し剥離が行われている。3は遺跡から出土した磨製石斧の中では長軸・重量が最も大きい。両刃を呈し、刃部右側に片減りがある。4は全体的に角を意識した作りで、横断面形は方形、片刃で稜を残す。長短比は小さい。5は剥離面を多く残すが、刃部が形成されていることを理由に完成品とした。側面は研磨が行われていないが、直線状の稜を有している。6は長短比が大きく、両刃の石のみに分類される。刃縁の中央左側には顕著な磨滅と直交する線条痕が残る。7は石斧未成品である。刃部側であると思われる端部には礫面が残る、研磨は行われていない。側縁稜は直線的ではなく、製作段階のものと考えられる。

#### たたき石(8~27)

139点出土している。8~10は縦長の扁平で、敲打痕が表裏面、側面、端部に見られる。11~14は棒状礫を素材とする。11は両面及び側面に敲打痕が見られ、深い窪みを残す。13は欠損しているが、原材は棒状礫を用いており、破断面に繰り返し剥離を行っている。15~19は扁平な礫を素材とする。18は側縁に細かな剥離が残されている。19は両側縁に連続した敲打調整が施される。上部には剥離調整が行われる。正面中央には敲打痕が、下面には擦り面が認められる。把握部の調整と思われる。20~22は円盤~球状の礫を素材としている。23~25は礫片を素材としている。23・24は礫片の中央部付近平坦面に敲打痕を有することから北海道式石冠の未成品の可能性もある。26は刃部が作出されていない石斧未成品の転用品、27は砥石の転用品で、下面に敲打痕を有する。右側の破断面に細かな剥離が行われる。

#### すり石(28~34)

26点出土している。28は扁平な断面三角形の素材に、29は断面が四角形の礫に擦り面をもつ。28の擦り面縁辺には擦痕以前の剥離が認められる。30~32は扁平礫が素材となり、31は上面にも擦り面を有する。側面の敲打調整から北海道式石冠の可能性もある。32は擦り面が2面あり、角度を変えて使用されていたことが分かる。33・34は北海道式石冠で、34は擦り面が幅広で、33は擦り面の幅が狭く、使用面には素材礫の破断面が残る。

#### 砥石(35~37)

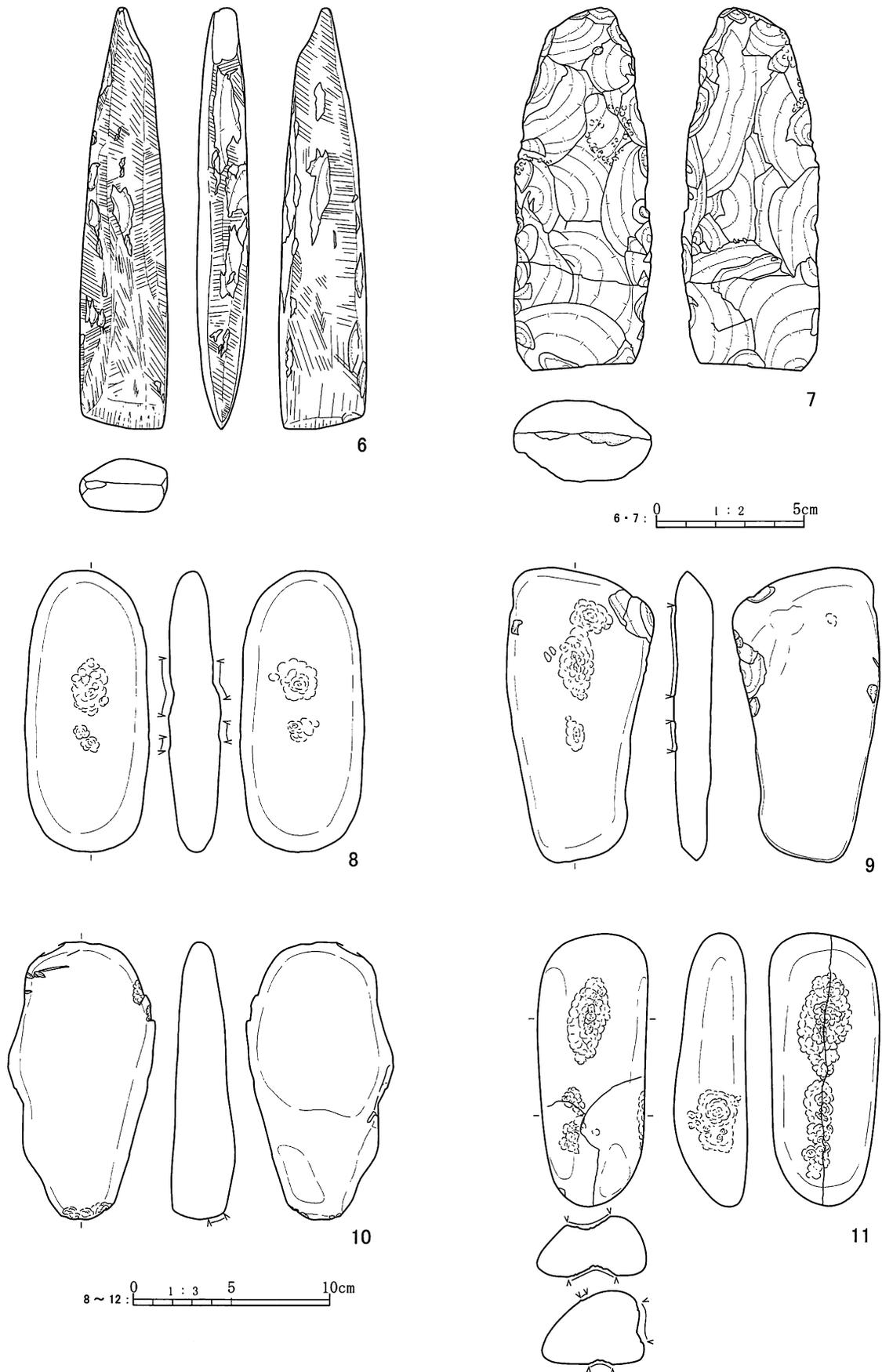
22点出土している。35は一面のみ、36・37は複数面の砥面が確認される。36は5点の破片が接合した四面砥石である。上部には破断面を残す。縁辺は使用により丸味を帯びている。37は両面が大きく窪む。裏面には顕著に磨滅した敲打痕が確認される。

#### 滑沢面のある礫(38・39)

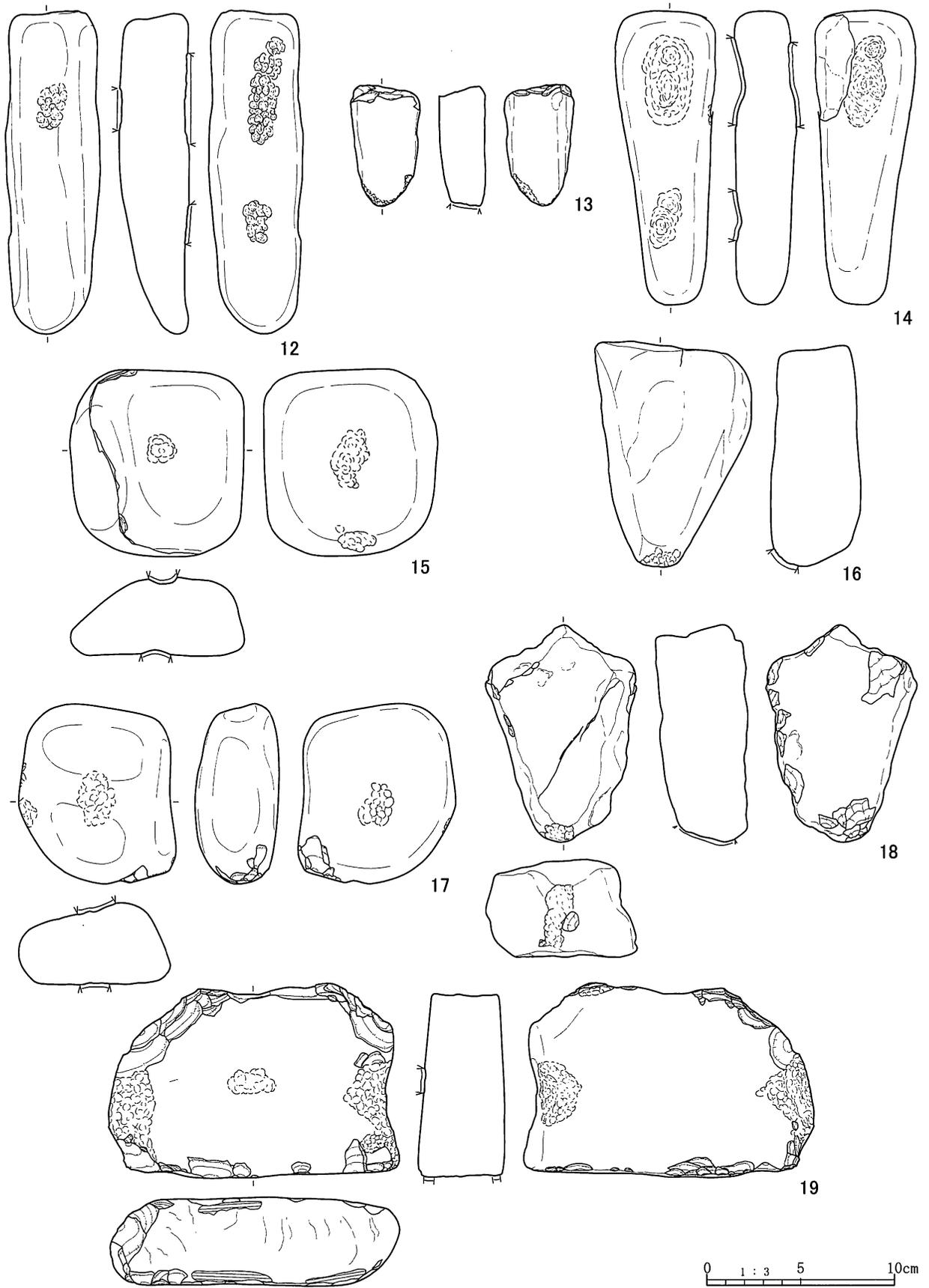
38・39は板状の礫を素材とし、平坦面に滑沢面が形成される。重量から台石、石皿の様に用いられたと思われる。滑沢面は縦長に広がることから、前後あるいは左右の往復運動が行われたと思われる。



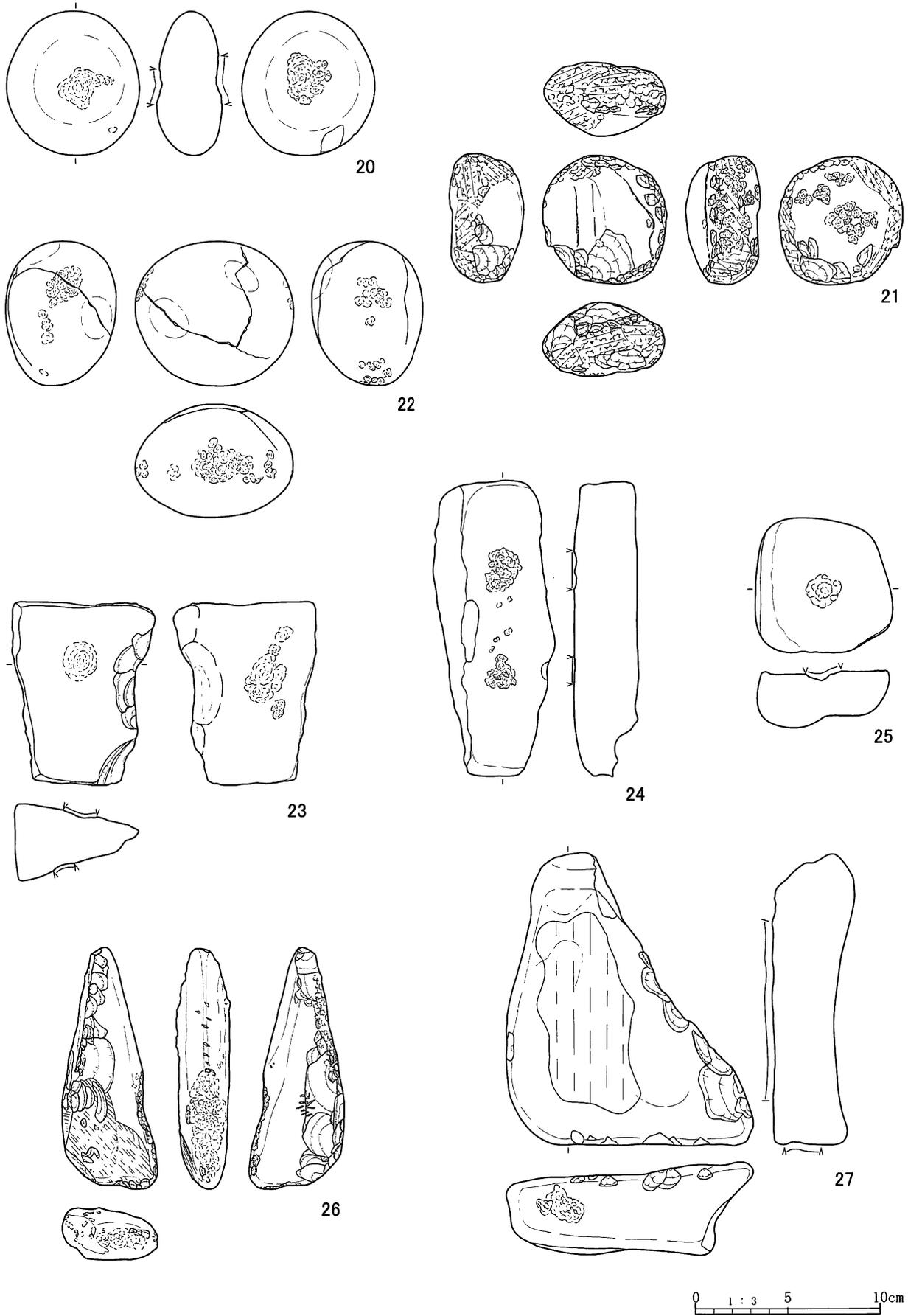
図IV-27 縄文時代包含層出土礫石器(1)



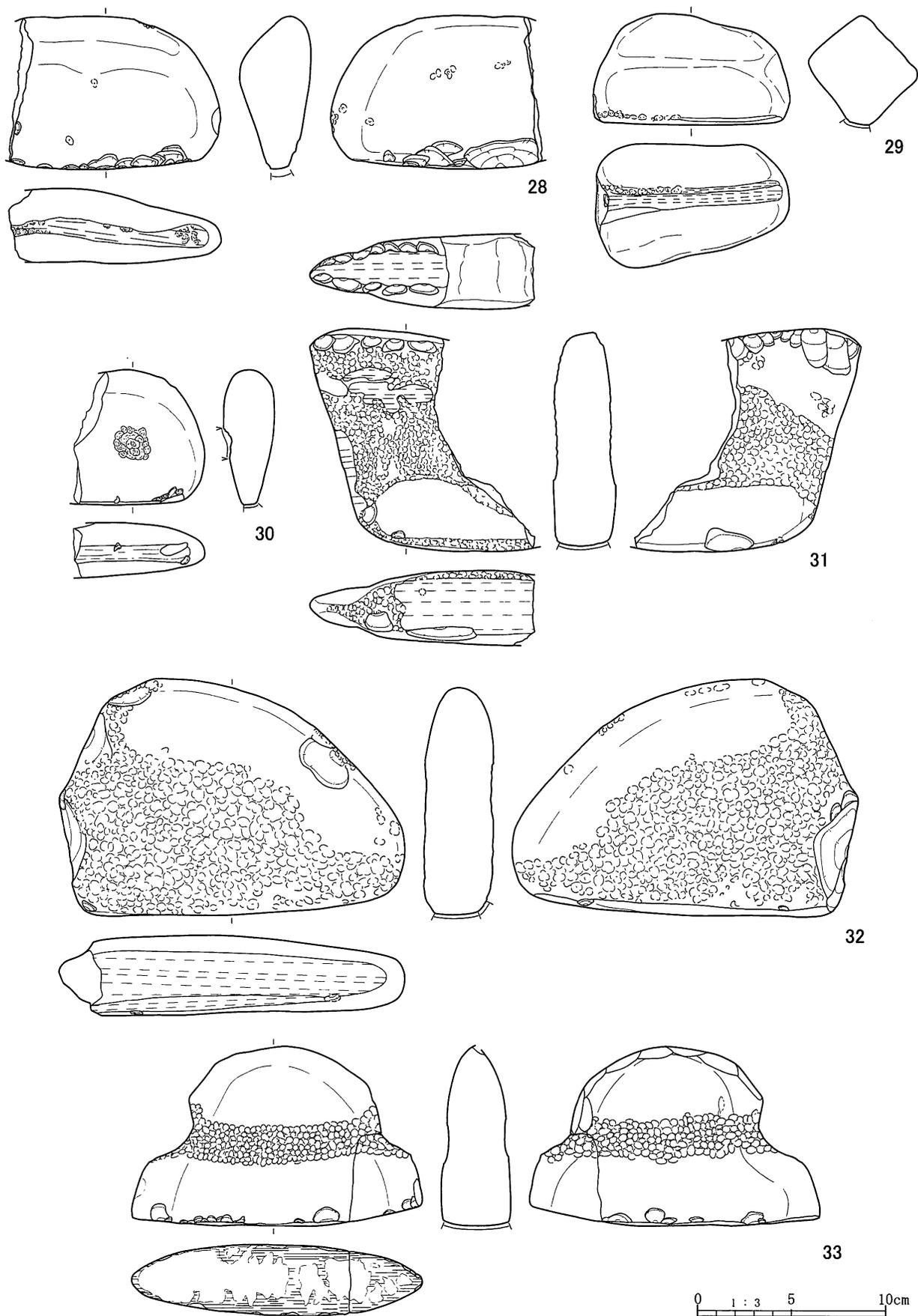
図IV-28 縄文時代包含層出土礫石器(2)



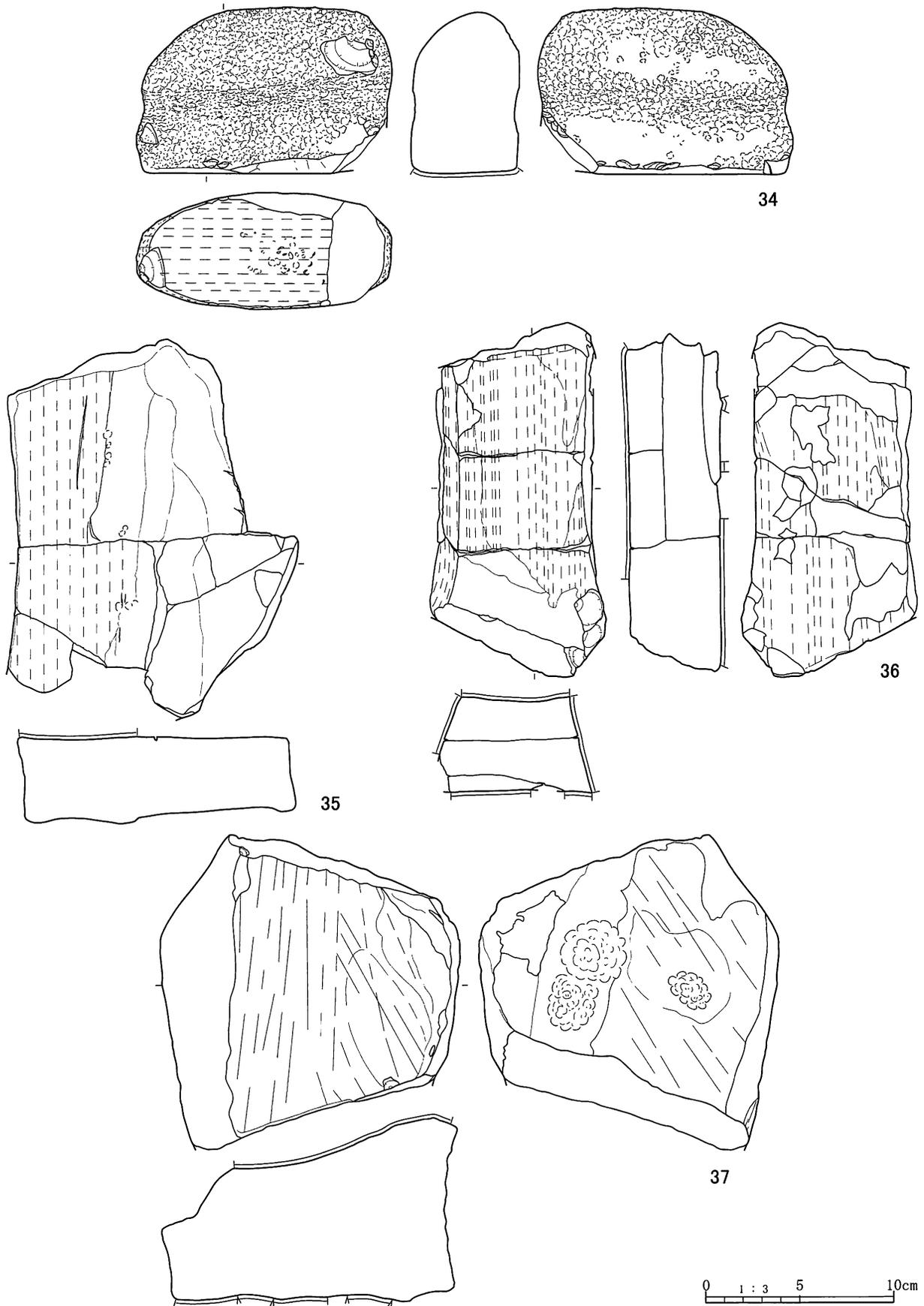
図IV-29 縄文時代包含層出土礫石器 (3)



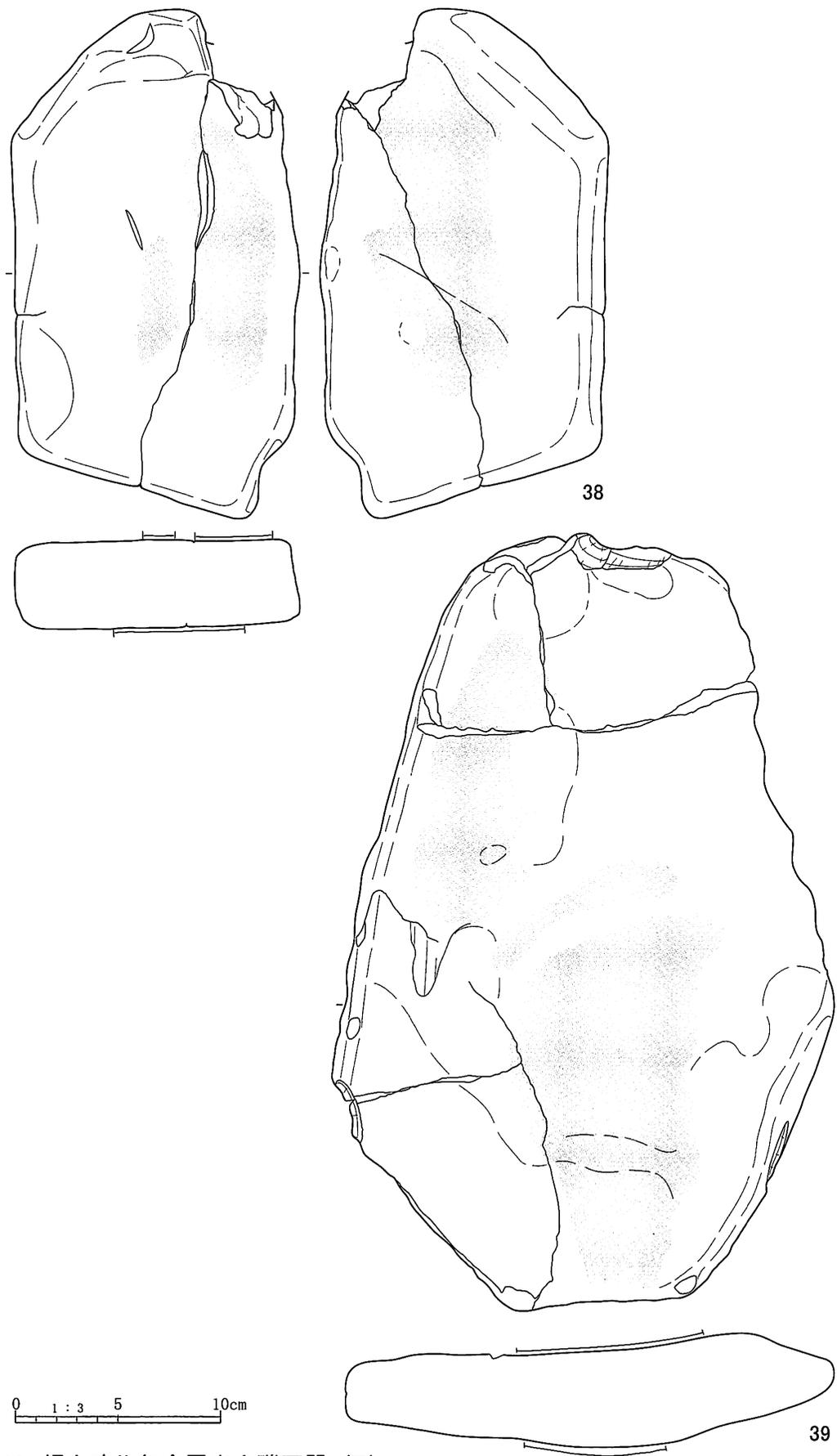
図IV-30 縄文時代包含層出土礫石器(4)



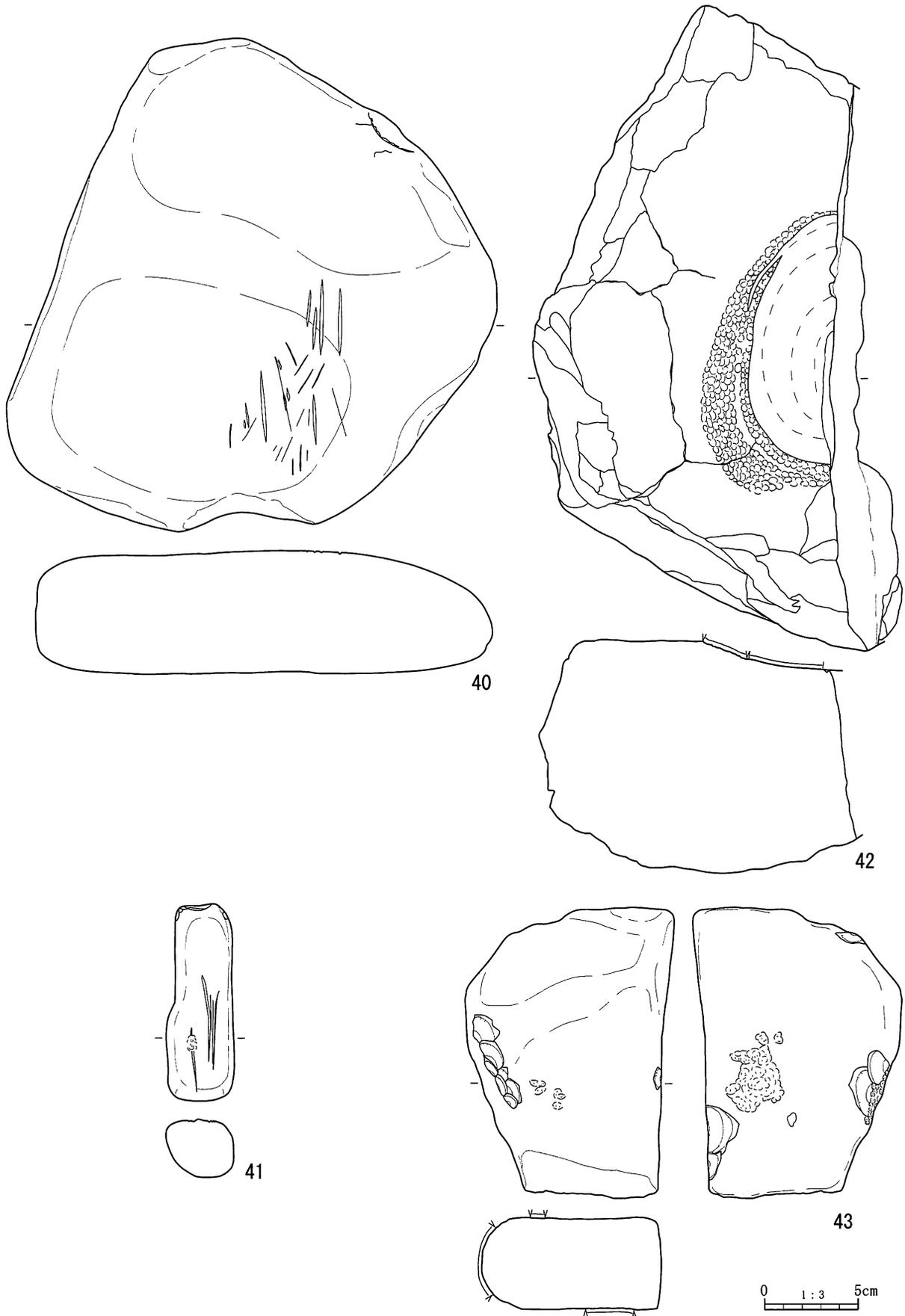
図IV-31 縄文時代包含層出土礫石器 (5)



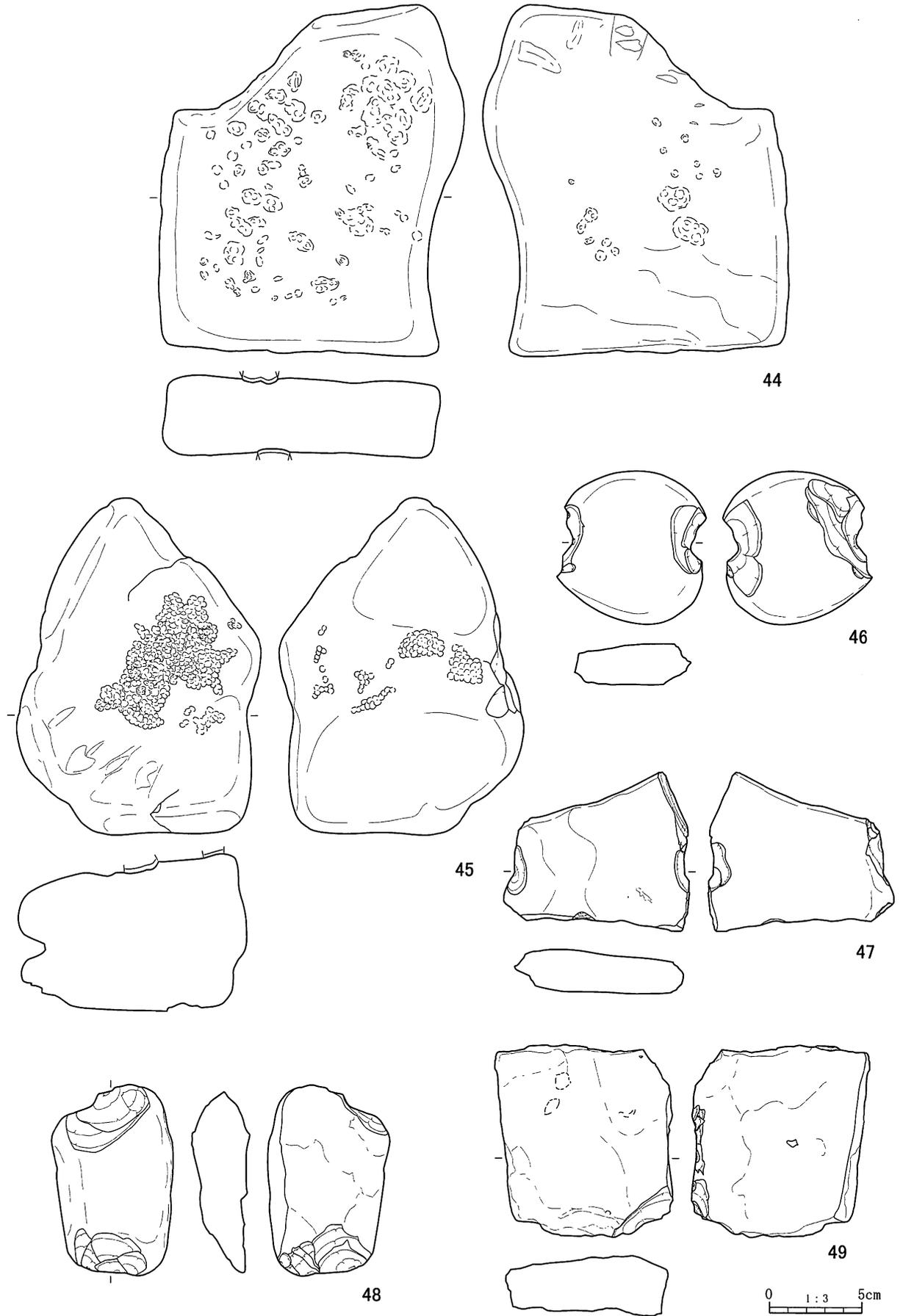
図IV-32 縄文時代包含層出土礫石器 (6)



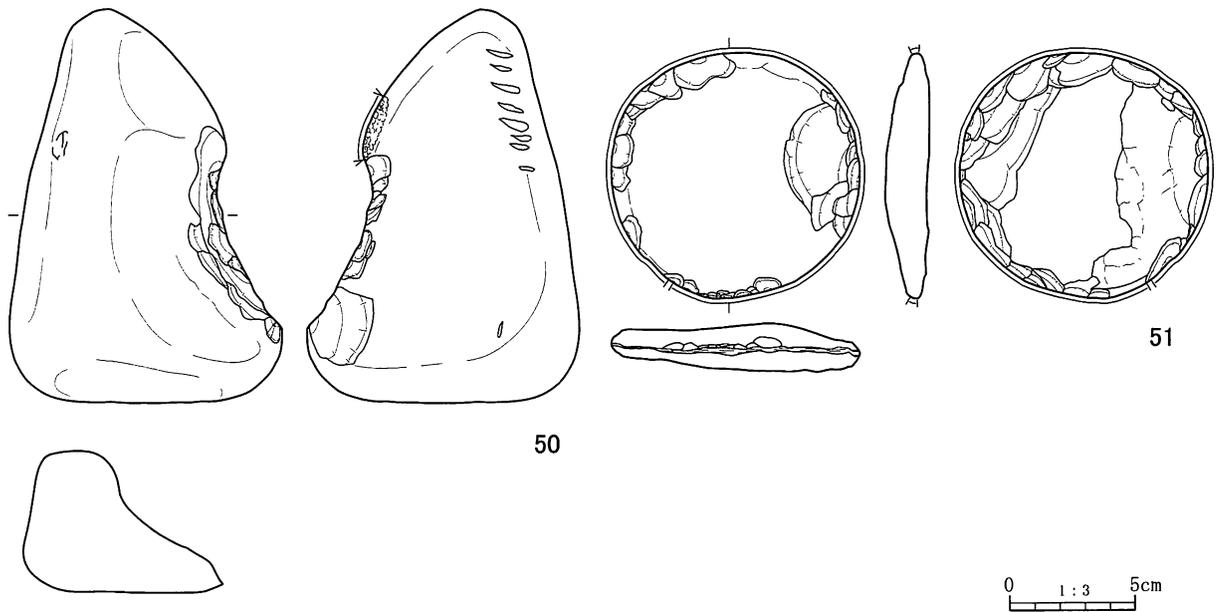
図IV-33 縄文時代包含層出土礫石器 (7)



図IV-34 縄文時代包含層出土礫石器 (8)



図IV-35 縄文時代包含層出土礫石器 (9)



図IV-36 縄文時代包含層出土礫石器 (10)

**線条痕のある礫 (40・41)**

5点出土している。40は扁平な礫の平坦面に線条痕が確認される。線条痕の方向は2方向あるが、長軸方向の線条痕が深く幅広である。41は棒状礫の平坦面に長軸方向の線条痕と敲打痕が残る。

**石皿 (42)**

8点出土している。42は大型で厚みのある礫を素材とし、右半分は欠損している。擦り面の周辺には敲打痕が残る。入念な敲打痕と使用面は擦痕により円形に窪み、内面には明瞭な敲打痕が確認できないが、磨滅しているものと思われる。

**台石 (43～45)**

16点出土している。43は1080gであるため、台石に分類したが、側面に敲打痕があり、手持ちのたたき石として使用された可能性もある。

**石錘 (46・47)**

3点出土している。46は円盤状の礫を素材として、長軸方向に2ヶ所の抉りを作成している。47は礫片を素材としている。

**加工痕のある礫 (48～51)**

39点出土している。48は礫素材の石錘に類似するが、抉りが顕著で無いことから加工痕のある礫としている。49は板状礫の側縁に剥離が認められる。50は不定形の側縁に両面から剥離がなされている。刃部とも思える抉りを作成しており敲打痕を有する。51は砂岩製の礫片を素材として剥離によって円形に整形された後、縁辺全周を擦っている。確認できる擦痕は僅かだが、周縁調整している。石製品の一種と思われるが機能、用途は不明である。(松井)

表IV-20 縄文時代包含層出土礫石器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	グリッド	層位	遺物名	分類	計測値(mm)			重量 (g)	材質	備考
								長軸	短軸	厚さ			
IV-27-1	61-1	ST-35	11659	V-35	VbU	磨製石斧	A1a	136.0	(44.6)	27.4	(244.5)	Gr-Mud.	被熱
			15725	U-37									
IV-27-2	61-2	ST-04	10476	U-35	VbU	磨製石斧	A1b	119.3	41.8	12.4	(95.0)	Gr-Mud.	被熱
			17499										
IV-27-3	61-3	-	16944	Z-41	VbL	磨製石斧	A2a	155.6	51.8	36.7	425.0	Gr-Mud.	
IV-27-4	61-4	-	13071	AD-34	VbU	磨製石斧	A2b	66.0	36.4	7.5	37.8	Sch.	
IV-27-5	61-5	-	15872	U-38	VbL	磨製石斧	A2d	93.6	34.7	11.6	55.0	Sch.	
IV-28-6	61-6	-	15894	Y-34	VbL	磨製石斧	A2c	138.3	29.2	16.8	115.6	Sch.	
IV-28-7	61-7	ST-24	15627	U-36	VbU	磨製石斧	B	122.3	45.5	27.0	185.0	Gr-Mud.	
			15639										
IV-28-8	61-8	-	10446	T-35	VbL	たたき石	I A1	139.2	60.9	26.8	262.5	Sa.	
IV-28-9	61-9	-	12092	AB-33	VbL	たたき石	I A1	142.6	71.1	20.0	297.5	Sa.	
IV-28-10	61-10	-	12955	T-44	Vc	たたき石	I A2	138.4	72.2	30.4	365.0	Sa.	
IV-28-11	61-11	-	10535	T-37	Vc	たたき石	I B1	137.9	53.3	40.0	345.0	Sa.	被熱
IV-29-12	61-12	-	14706	V-35	Vc	たたき石	I B1	174.0	49.0	40.5	478.0	Sa.	
IV-29-13	61-13	-	11349	T-39	VbU	たたき石	I B2	63.2	36.7	24.5	71.5	Tu.	被熱
IV-29-14	61-14	-	15465	X-36	VbU	たたき石	I B3	153.9	47.2	32.2	322.5	Sa.	
IV-29-15	61-15	ST-12	14127	T-35	Vc	たたき石	II A1	96.0	94.0	42.0	542.0	Sa.	
			15693	V-35									
IV-29-16	62-16	-	15370	U-35	VbL	たたき石	II A2	121.0	80.0	47.0	610.0	Sa.	
IV-29-17	62-17	-	16863	AB-42	VbL	たたき石	II A3	95.0	84.0	43.0	461.0	Sa.	
IV-29-18	62-18	-	13948	W-37	VbL	たたき石	II B2	113.0	81.0	52.0	600.0	Qu.	
IV-29-19	62-19	-	17018	Z-34	VbL	たたき石	II B3	151.0	100.0	48.0	1150.0	Sa.	擦面あり
IV-30-20	62-20	-	16795	U-46	Vc	たたき石	III A1	76.8	70.9	35.2	227.0	Sa.	
IV-30-21	62-21	-	15350	W-35	VbL	たたき石	III A3	71.5	66.9	39.2	292.0	Gr-Tf.	被熱
IV-30-22	62-22	-	15468	W-34	VbU	たたき石	III B2	82.9	78.0	60.4	420.0	Sa.	
IV-30-23	62-23	-	15877	Y-34	VbU	たたき石	V	95.1	75.4	40.9	337.5	Sa.	
IV-30-24	62-24	-	11099	Z-37	Vc	たたき石	V	160.0	57.0	36.9	416.5	Sa.	
IV-30-25	62-25	-	16289	V-34	VbL	たたき石	V	81.0	80.0	29.6	191.5	Sa.	
IV-30-26	62-26	-	10798	W-36	VbU	たたき石	VI	125.6	46.1	28.9	237.5	Gr-Mud.	被熱・石斧未成品の転用
IV-30-27	62-27	-	14793	AB-36	VbL	たたき石	VI	152.0	126.0	44.0	890.0	Sa.	砥石の転用
IV-31-28	62-28	-	14103	S-41	VI	すり石	A	(108.0)	79.0	40.6	(450.0)	Sa.	
IV-31-29	62-29	-	14707	V-40	VbL	すり石	B	106.0	52.8	51.7	455.0	Sa.	
IV-31-30	62-30	-	13023	AG-33	VbL	すり石	C1	74.2	(68.7)	28.7	(160.0)	Sa.	
IV-31-31	62-31	-	11013	Z-35	VbL	すり石	C2	(131.0)	(97.6)	38.5	(462.5)	Sa.	
IV-31-32	62-32	-	13394	Y-37	VbL	すり石	C1	(181.0)	124.5	41.3	(1445.0)	Sa.	
IV-31-33	62-33	ST-29	11010	AB-35	VbL	すり石	E	152.4	95.5	36.8	700.0	Sa.	被熱
			17026	AA-34									
IV-32-34	62-34	-	14773	AA-36	VbL	すり石	A	(129.8)	85.2	57.3	(1090.0)	Sa.	被熱
IV-32-35	63-35	ST-14	14940	V-46	VbU	砥石	B	(160.0)	97.0	48.6	(1745.0)	Sa.	
			16318	W-34									
IV-32-36	63-36	ST-09	13160 ~ 13163	V-40	VbU	砥石	B	(182.0)	(90.0)	49.6	(1070.0)	Sa.	
IV-32-37	63-37	-	16987	U-40	VbL	砥石	B	(161.0)	(153.0)	102.0	(2450.0)	Sa.	
IV-33-38	63-38	ST-11	13442	V-38	VbU	滑沢面のある礫	B	248.0	152.0	37.9	(2250.0)	Sa.	
			13985										
IV-33-39	63-39	-	16879	AC-41	VbL	滑沢面のある礫	-	379.0	262.0	49.0	5300.0	Sa.	両面使用
IV-34-40	63-40	-	15390	U-35	VbL	線条痕のある礫	-	262.0	225.0	65.0	5400.0	Sa.	
IV-34-41	64-41	-	16201	U-38	VbL	線条痕のある礫	-	104.0	35.4	29.6	179.7	Sa.	
IV-34-42	64-42	-	14770	Z-36	VbL	石皿	-	352.0	177.0	121.4	9350.0	Sa.	
IV-34-43	64-43	-	15548	W-34	VbU	台石	-	151.1	103.9	48.0	108.0	Sa.	
IV-35-44	64-44	-	10445	T-35	VbU	台石	-	190.0	152.9	45.1	1759.0	Sa.	
IV-35-45	64-45	-	14792-1	AB-36	VbL	台石	-	179.0	128.0	84.9	2400.0	Sa.	
IV-35-46	64-46	-	11408	W-36	Va	石錘	A	82.7	79.6	23.1	195.1	Sa.	
IV-35-47	64-47	-	17084	Z-36	VbL	石錘	B	100.4	86.5	22.6	221.0	Sa.	
IV-35-48	64-48	-	11492	V-36	VbU	加工痕のある礫	B	103.4	65.4	25.2	214.0	Sa.	
IV-35-49	64-49	-	13968	W-37	VbL	加工痕のある礫	C	103.2	94.3	31.6	541.0	Qu.	
IV-36-50	64-50	-	13192	Y-35	Va	加工痕のある礫	-	155.0	110.0	65.9	1042.0	Sa.	
IV-36-51	64-51	-	17122	W-36	VbL	加工痕のある礫	-	98.4	98.0	17.1	167.0	Sa.	被熱



## 第V章 近現代の調査

調査区内で現地表面から確認できた近現代の炭窯跡1基とコンクリート製の柵1基をI層から調査をした。また、III層上面を精査中にI層から掘り込まれた掘立柱建物跡1軒と馬を埋葬した墓坑8基も調査した。

表V-1 近現代遺構群一覧表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模 (cm)			長軸方向	備考
						長軸	短軸	深さ		
V-1・2	-	炭窯跡	AD・AE-27・28	I	隅丸方形	800	550	180	N-15° W	
V-1・3	-	コンクリート柵跡	AE-30	I	長方形	210	135	-	-	
V-1	-	建物跡	V・W-40~42	I	長方形	900	480	-	N-68° E	規模は柱間
V-1	-	IP-01	Z・AA-35	I	隅丸方形	230	130	60	N-42° E	
V-1	-	IP-02	AA-34・35	I	楕円形	85	75	34	N-22° E	
V-1	-	IP-03	AA-35	I	隅丸方形	200	115	57	N-38° E	
V-1	-	IP-04	AA-35	I	隅丸方形	115	95	37	N-11° E	
V-1	-	IP-05	AA-35	I	隅丸方形	130	75	34	N-42° E	
V-1	-	IP-06	AA-36	I	隅丸方形	140	110	36	N-21° W	
V-1	-	IP-07	Z・AA-36	I	隅丸方形	160	90	28	N-43° W	
V-1	-	IP-08	V-40	I	隅丸方形	160	120	71	N-49° E	

### 第1節 建物跡 (図V-1 図版40-1)

掘立柱の建物跡1軒が検出された。主柱穴は東西に12本で、規模は5×2.5間である。柱穴は長方形の掘り方を持ち、深さ80cm程のものが多い。断面で柱痕が確認できたものは、直径約30cmであった。

### 第2節 土坑 (図V-1 図版40-7)

馬の墓が8基検出された。建物跡に接して1基と建物跡から南東に30mの地点に7基がまとまっている。成体8頭と幼体2頭が確認されている(Ⅵ章2節)。大半は解剖学的位置を保ち、解体痕は確認できなかった。木片が出土したものがあるが、腐食のため加工痕の有無などは不明である。他に遺物は出土していない。

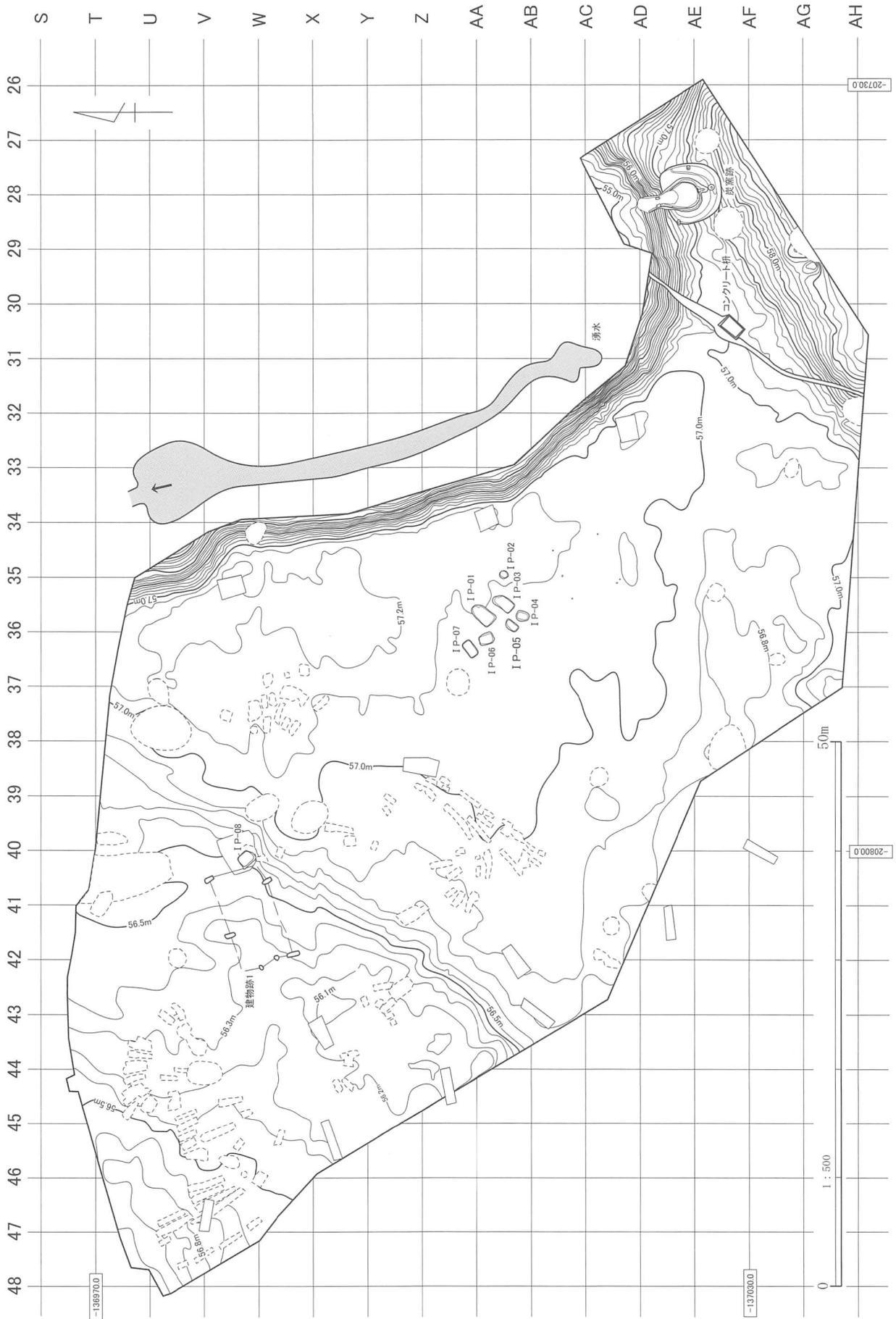
### 第3節 炭窯跡 (図V-2・3 図版40-2~6・図版65)

調査区東端の北向きの斜面に位置している。調査開始前から深い窪みとして確認されていた。窪みの周囲には掘り上げ土が堆積し、直径約5m深さ1m程の掘り込みの中に更に深さ1.2m程の手鏡状の窯本体の掘り込みがある。煙道と焚口部分には切り石が積まれていた。窯の天井を吊っていた金具や針金が出土した。窯の形状は大正頃に普及した「ベコ型」と呼ばれるものに類似している。

### 第4節 コンクリート柵 (図V-4 図版40-8)

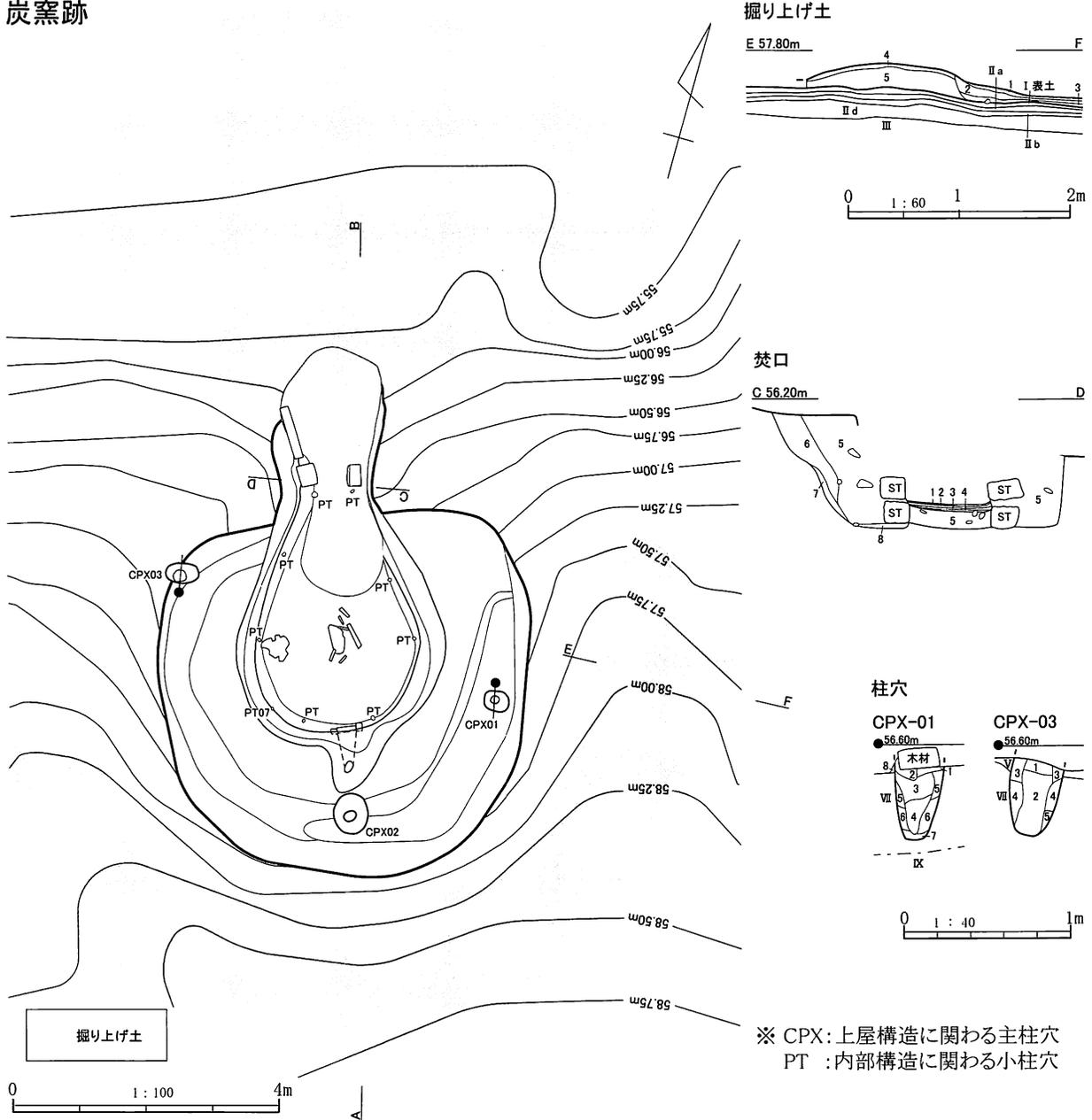
炭窯跡と同様に調査開始前に確認していたもので、炭窯跡の西約15mに位置する。南西の沢から樋などを使った湧水溜めの施設と考えられる。柵構築時の掘り方を切って塩化ビニール製のパイプが引かれている。パイプは現道を挟んだ北側へ50m以上伸びている。炭窯と同時に使用されたものかは不明である。

(荻野)



図V-1 I層遺構配置図

炭窯跡



炭窯跡東側掘り上げ土断面図 EF

- 1 10YR3/1 黒褐色 V≡VII(斑状) しまり中
- 2 10YR4/1 褐灰色 V≡VII(斑状) しまり中
- 3 10YR4/2 灰黄褐色 V+VI≡VII(斑状) しまり中
- 4 10YR5/1 褐灰色 V-VII(斑状) しまり中
- 5 10YR6/3 にぶい黄褐色 III+IV-VII砂利まじり(斑状) しまり弱

炭窯跡焚口断面図 CD

- 1 10YR4/2 灰黄褐色 VII+VIII層=灰層=焼土粒≡炭化物(斑状) しまり中
- 2 10YR5/4 にぶい黄褐色 VIII層+VII(斑状) しまり中
- 3 7.5YR5/8 明褐色 焼土=VII(斑状) しまり中
- 4 10YR5/3 にぶい黄褐色 VII=焼土粒(斑状) しまり中
- 5 10YR5/6 黄褐色 炭窯焚口の構築材-礫(φ70~80) しまり中
- 6 5Y6/1 灰色 IIa=II d
- 7 10YR4/4 褐色 遺構の構築材 しまり中
- 8 10YR6/6 明黄褐色 VII-VIIb=VII 粘性あり しまり強

CPX-01

- 1 10YR3/2 黒褐色 III-IV(均一) しまり弱
- 2 10YR7/3 にぶい黄褐色 VII-III-Ta-b(斑状) しまり弱
- 3 10YR4/1 褐灰色 III+IV≡VII(斑状) しまり弱
- 4 10YR4/2 灰黄褐色 VII+V(ブロック状) しまり弱
- 5 10YR5/3 にぶい黄褐色 VII≡V(斑状) しまり弱
- 6 10YR5/2 灰黄褐色 VII≡V(斑状) しまり弱
- 7 10YR4/2 灰黄褐色 VII≡V(斑状) しまり弱
- 8 10YR4/1 褐灰色 VII-V(斑状) しまり弱

CPX-03

- 1 10YR4/2 灰黄褐色 V+VII-Ta-b(斑状) しまり弱
- 2 10YR3/1 黒褐色 V+VII≡Ta-b(斑状) しまり弱
- 3 10YR5/4 にぶい黄褐色 VII粘質土+VII小礫(斑状) しまり弱
- 4 10YR4/1 褐灰色 V-VII小礫(斑状) しまり弱
- 5 10YR3/1 黒褐色 V=VII小礫(斑状) しまり弱

図V-2 炭窯跡平面及び断面図

炭窯跡

炭窯断面図(S~N)

1	10YR3/1	黒褐色	IIIブロック≡IV(斑状)	16	10YR7/4	にぶい黄褐色	VII=φ20円礫(斑状)しまり強	40	5YR1.7/1	黒色	IX=粘質土 煙道と壁 熱により酸化
2	10YR4/2	灰黄褐色	V-VII(ブロック状)	17	10YR5/2	灰黄褐色	VII+VI=φ30↓円礫(均一)しまり中	41	10YR5/2	灰黄褐色	IX+VII粘質土(均一)
3	10YR5/2	灰黄褐色	Ta-aのブロック	18	10YR2/1	黒色	III=Ta-b≡炭化物(均一)しまり弱	42	N8/0	灰白色	煙道を造るとききの廻り込み内理め戻し土
4	10YR2/2	黒褐色	III=Ta-a, Ta-b≡Ta-c(均一)しまり弱	19	10YR3/1	黒褐色	VII-V=φ10↓円礫(均一)しまり弱	43	7.5YR5/6	明褐色	灰層粘質
5	10YR4/1	褐灰色	Ta-a+II黒(均一)しまり弱	20	10YR1.7/1	黒色	VIII-VII-炭化物(均一)しまり弱	44	7.5YR3/1	黒褐色	焼土=VII(斑状)しまり弱
6	10YR3/2	黒褐色	III-Ta-c≡Ta-b(線状)しまり弱	21	10YR4/1	褐灰色	VII+V=φ20↓円礫(均一)しまり弱	45	7.5YR6/1	褐灰色	VII+IX-炭化材=焼土粒(斑状)しまり弱
7	10YR2/1	黒色	V=VI(斑状)しまり弱	22	7.5YR4/2	灰褐色	V-VII=φ20↓円礫(均一)しまり中	46	7.5YR4/2	灰褐色	灰層=焼土粒≡炭化物(斑状)
8	10YR3/1	黒褐色	III-Ta-b(斑状)CPX-02柱穴埋土しまり弱	23	7.5YR5/2	灰褐色	VII=V=φ20↓円礫(斑状)しまり中	47	10YR4/2	灰黄褐色	VII+IX=炭化物=焼土粒(斑状)しまり中
9	10YR3/1	黒褐色	III-Ta-c(斑状)CPX-02柱穴埋土しまり弱	24	10YR3/1	黒褐色	IX=V(均一)壁上部から流れ込みしまり弱	48	10YR5/4	にぶい黄褐色	VII+IX=灰層=焼土粒≡炭化物(斑状)しまり中
10	10YR3/1	黒褐色	III-Ta-a, Ta-b(斑状)CPX-02柱穴埋土しまり弱	25	10YR2/1	黒色	IX(壁上部の崩落土)しまり弱	49	7.5YR5/8	明褐色	焼土=VII(斑状)しまり中
11	10YR7/4	にぶい黄褐色	VII≡III(斑状)CPX-02柱穴埋土しまり中	27	7.5YR1.7/1	黒色	IX(壁上部の崩落土流れ込み)しまり弱	50	10YR5/3	にぶい黄褐色	VII=焼土粒(斑状)しまり中
12	2.5Y4/1	黄灰色	III+IV≡VII(斑状)CPX-02柱穴埋土しまり弱	28	7.5YR3/1	黒褐色	V-VII=IX(均一)しまり中	51	10YR6/2	灰黄褐色	VII粘質土ブロック
13	2.5Y3/1	黒褐色	III-VII=IV(斑状)CPX-02柱穴埋土しまり強	29	7.5YR5/1	褐灰色	IX-VII粘質土(均一)しまり中	52	10YR3/1	黒褐色	III+VII=Ta-b(斑状)
14	10YR5/3	にぶい黄褐色	VII崩落土しまり弱	30	5YR4/4	にぶい赤褐色	VII粘質土とIX混土(雑土化)窯天井の崩落土しまり強部分と弱部分有り	53	10YR5/3	にぶい黄褐色	窯構築時の廻り上げ土しまり弱
15	10YR4/1	褐灰色	III-IV≡VII(斑状)しまり弱	31	2.5Y4/1	黄灰色	IX(砂礫φ5↓)=焼土粒(斑状)しまり弱	54	7.5YR3/1	黒褐色	VII+VI=Ta-b(斑状)
				32	N8/0	灰白色	灰層≡炭化物 粘質しまり強	55	7.5YR1/1	褐灰色	III=Ta-a=II(斑状)
				33	2.5Y3/1	黒褐色	IX層地山被熱層 窯の底面しまり強				窯構築時の廻り上げ土しまり弱
				34	5Y3/2	オリーブ黒色	IX-焼土(斑状)しまり強				窯構築時の廻り上げ土しまり弱
				35	7.5YR4/3	褐色	IX層地山被熱層				窯構築時の廻り上げ土しまり弱
				36	5YR4/1	褐灰色	VII+IXφ30↓煙道内流れ込みしまり弱				窯構築時の廻り上げ土しまり弱
				37	5YR5/1	褐灰色	VII+IX(均一)しまり非常に弱				窯構築時の廻り上げ土しまり弱
				38	5YR3/1	黒褐色	IX-VII粘質土(均一)しまり中				窯構築時の廻り上げ土しまり弱
				39	5YR2/3	極暗赤褐色	IX-VII粘質土(均一)				窯構築時の廻り上げ土しまり弱

A 59.00m

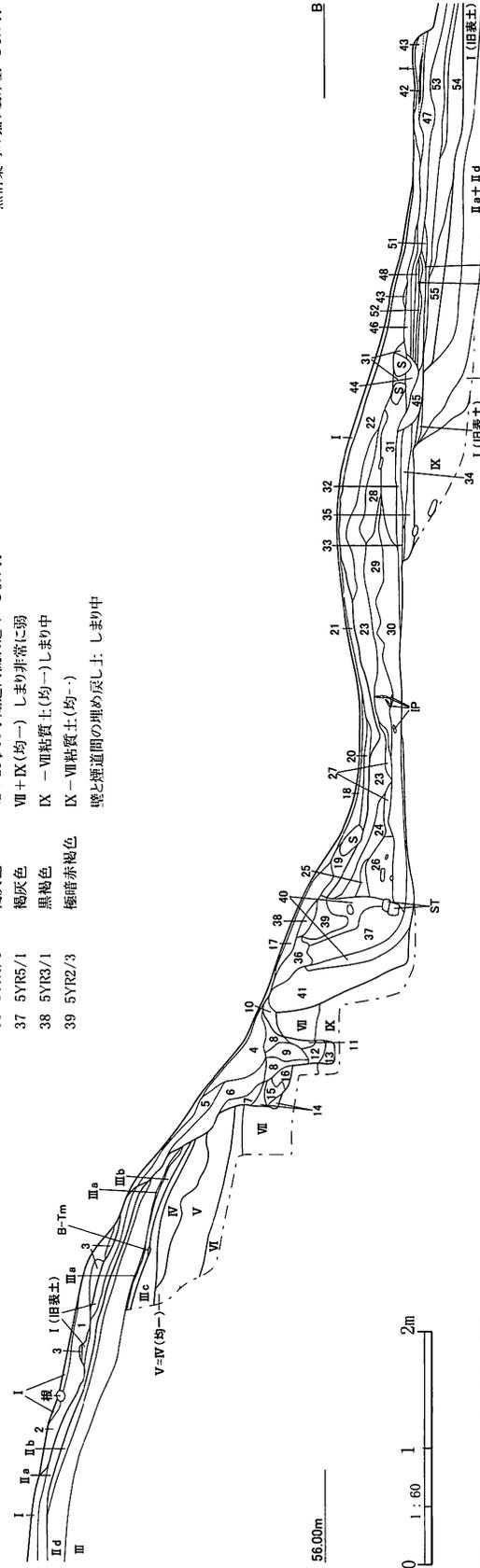
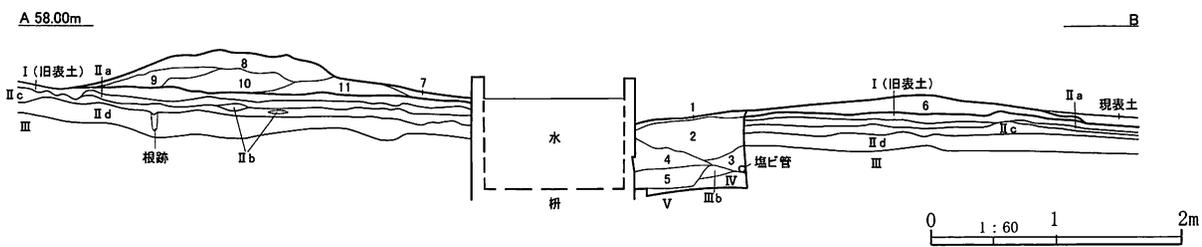
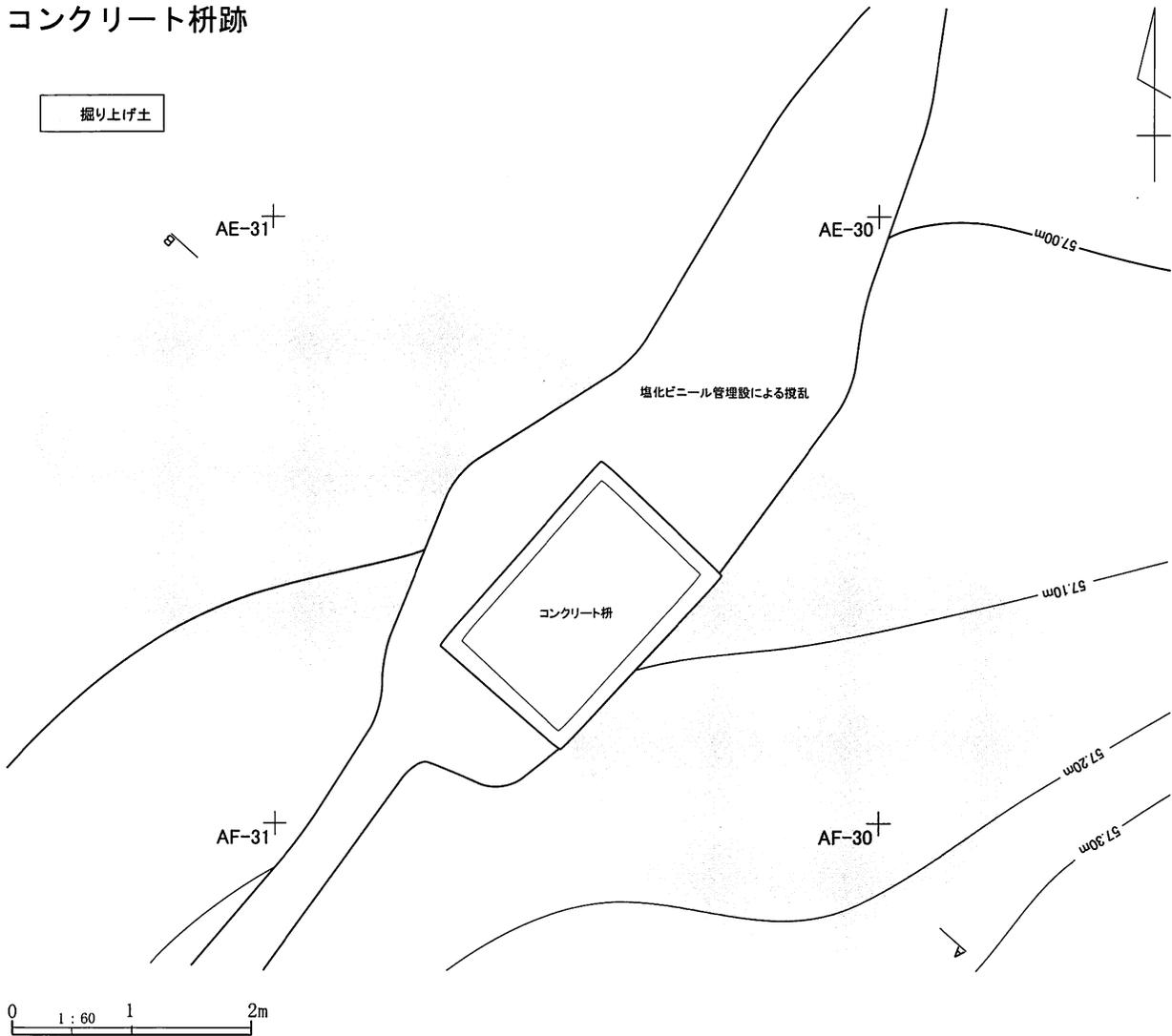


図 V-3 炭窯断面図

コンクリート柵跡



コンクリート柵跡セクション

- 1 10YR2/2 黒褐色 II + 腐植土 塩ビ管の埋土で柵よりも新しい
- 2 10YR3/1 黒褐色 I - II - VII (斑状) 塩ビ管の埋土で柵よりも新しい
- 3 7.5YR2/1 黒色 IV = III = II (斑状) 塩ビ管の埋土で柵よりも新しい
- 4 7.5YR5/1 褐灰色 Ta-b主 I ~ II 混じり(斑状) 柵構築時の掘り込み埋土
- 5 7.5YR3/1 黒褐色 III ~ IVの混じり(斑状) 柵構築時の掘り込み埋土
- 6 10YR3/2 黒褐色 I - II - VII (斑状) 柵構築時の掘り上げ土
- 7 10YR3/1 黒褐色 I ≡ II c(斑状) 腐植土 柵構築時の掘り上げ土
- 8 10YR2/1 黒色 V主 VIIやや多く混じる(斑状) 柵構築時の掘り上げ土
- 9 7.5YR2/1 黒色 IV = V 柵構築時の掘り上げ土
- 10 7.5YR3/2 黒褐色 III = IV ≡ III c(斑状) 柵構築時の掘り上げ土
- 11 7.5YR4/1 褐灰色 I - IV 柵構築時の掘り上げ土

図V-4 コンクリート柵跡平面及び断面図

引用・参考文献

- 相坂兵右衛門 1731 『津軽一統誌』  
 厚真町教育委員会 2001a 『豊川 1 遺跡』  
 厚真町教育委員会 2001b 『鯉沼 2 遺跡』  
 厚真町教育委員会 2004 『厚幌 1 遺跡』  
 厚真町教育委員会 2005 『鯉沼 3 遺跡』  
 厚真町教育委員会 2006a 『上幌内モイ遺跡(1)』  
 厚真町教育委員会 2006b 『鯉沼 3 遺跡(2)』  
 厚真町教育委員会 2007 『上幌内モイ遺跡(2)』  
 厚真町教育委員会 2008 『鯉沼 3 遺跡(3)』  
 厚真町教育委員会 2009a 『上幌内モイ遺跡(3)』  
 厚真町教育委員会 2009b 『ニタップナイ遺跡(1)』  
 厚真町教育委員会 2010a 『厚幌 1 遺跡(2) 幌内 7 遺跡(1)』  
 厚真町教育委員会 2010b 『幌内 5 遺跡(1) 富里 2 遺跡 ニタップナイ遺跡(2)』  
 厚真町教育委員会 2011 『オニキシベ 2 遺跡』  
 厚真町教育委員会 2013a 『フチャラセナイチャシ跡・フチャラセナイ遺跡』  
 厚真町教育委員会 2013b 『オニキシベ 5 遺跡』  
 厚真町教育委員会 印刷中『オニキシベ 6 遺跡』  
 厚真村 1956 『厚真村史』  
 厚真村郷土研究会 1962 『厚真村古代史』厚真村郷土研究会  
 出穂雅実 2006 「第三章第 2 節 ジオアーケオロジー」  
 『上幌内モイ遺跡(1)』厚真町教育委員会  
 扇谷昌康 2003 「穂別のアイヌ語地名」『穂別アイヌ民族  
 文化史』2 穂別町アイヌ民族文化保存会  
 恵庭市教育委員会 1997 『茂漁 4 遺跡』  
 亀井喜久太郎 1956 「厚真出土の土偶」『先史時代』3  
 亀井喜久太郎・池田実 1978 『続厚真町の旧地名を尋ねて』  
 (財)北海道埋蔵文化財センター 2003 『厚真町浜厚真 3 遺跡』北埋調報 186  
 (財)北海道埋蔵文化財センター 2012 『祝梅川小野遺跡(2)・梅川 1 遺跡(2)』北埋調報 297  
 谷元旦 1799 『蝦夷記行』  
 苫小牧市教育委員会 1992 『静川 37 遺跡』  
 苫小牧市埋蔵文化財調査センター 1986 『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅰ』  
 苫小牧市埋蔵文化財調査センター 1987 『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅱ』  
 苫小牧市埋蔵文化財調査センター 1990 『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅲ』  
 苫小牧市埋蔵文化財調査センター 1992 『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅳ』  
 千歳市教育委員会 2006 『イヨマイ 7・8 遺跡』  
 野澤 謙庵 1692 「蝦夷記」『續々群書類従第九』  
 秦 昭繁 1991 「特殊な剥離技法をもつ東日本の石匙  
 -松原型石匙の分布と製作時期について-」『考古学雑誌』  
 第 76 号第 4 号  
 林子平 1785 『三国通覧図説蝦夷国全図』  
 松浦武四郎(吉田常吉編) 1962 『蝦夷日誌 上 東蝦夷日誌』時事通信社  
 松浦武四郎(秋葉実解説・高倉信一郎校訂) 1985 「戊午安都麻日誌」『戊午東西蝦夷山川地理取調日誌』中  
 北海道出版企画センター  
 松野久也・石田正夫 1960 『1:50,000 地質図幅説明書  
 早来』北海道開発庁  
 松前 1643 『新羅之記録』  
 養島栄紀 2005 「松浦武四郎の旅程からみた胆振東部・日  
 高西部の古交通路」『前近代アイヌ民族における交通路の  
 研究(胆振・日高Ⅰ)』環太平洋・アイヌ文化研究所

## 第VI章 自然科学的分析

### 第1節 オニキシベ4遺跡出土資料の放射性炭素年代測定

(株) 加速器分析研究所

#### 1 測定対象試料

オニキシベ4遺跡は、北海道勇払郡厚真町字幌内485-3他に所在し、夕張山地南端部、厚真川上流域の段丘上に位置する。近隣には厚真川と鬼岸边川との合流点がある。測定対象試料は、Ⅲ層1号住居跡内焼土13(上部黒色土)出土炭化種子(ブドウ科)(No.1:IAAA-123130)、同焼土16(ⅢbL)出土炭化種子(ブドウ科)(No.2:IAAA-123131)、Ⅲ層2号住居跡内焼土18(ⅢbL)出土炭化クルミ片(No.3:IAAA-123132)、同焼土19(ⅢbL)出土炭化種子(コナラ属)(No.4:IAAA-123133)、Ⅲ層獣骨集中3(ⅢbL)出土歯(シカ)(No.5:IAAA-123134、No.6:IAAA-123135)の合計6点である(表1)。No.1~4はフローテーションにより回収された。

Ⅲ層1号住居跡、同2号住居跡は、樽前a火山灰(西暦1739年降灰)、樽前b火山灰(西暦1667年降灰)下のⅢb層下位に構築されており、それらの炉跡から炭化種実類が出土した。住居跡の時期を床面出土土器で決めることはできないが、周辺からは擦文文化期後期の土器が出土し、住居跡もその時期と推定されている。Ⅲ層獣骨集中3は、Ⅲb層下位にシカの未被熱骨や歯列、鹿角が堆積していたもので、周辺から擦文文化期後期の土器が出土している。このような出土状況から、これらの住居跡、獣骨集中は12世紀代と推定されている。

#### 2 測定の意義

試料が出土した住居跡と獣骨集中はセット関係にあると推定され、遺構の形態と位置関係の特徴により、擦文文化期からアイヌ文化期への移行期形態の可能性が指摘されるため、そのことを年代測定によって裏づける。

#### 3 化学処理工程

(1) 炭化種子(ブドウ科、コナラ属)、炭化クルミ片の化学処理

- 1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- 2) 酸-アルカリ-酸(AAA: Acid Alkali Acid)処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1mol/l(1M)の塩酸(HCl)を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム(NaOH)水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表1に記載する。
- 3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を発生させる。
- 4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- 5) 精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト(C)を生成させる。
- 6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

(2) 歯の化学処理

- 1) 骨・歯試料はコラーゲン抽出 (Collagen Extraction) を行う (表 1 に「CEx」と記載する)。試料を超純水の入ったガラスシャーレに入れ、ブラシ等を使い、根・土等の付着物を取り除く。試料をビーカー内で超純水に浸し、超音波洗浄を行う。
- 2) 0.2M の水酸化ナトリウム水溶液を試料の入ったビーカーに入れ、試料の着色がなくなるまで、1 時間ごとに水酸化ナトリウム水溶液を交換する。その後、超純水で溶液を中性に戻す。試料を凍結乾燥させ、凍結粉碎用セルに入れ、粉碎する。リン酸塩除去のために試料を透析膜に入れて 1M の塩酸で酸処理を行い、超純水で中性にする。透析膜の内容物を遠心分離し、得られた沈殿物に超純水を加え、90°C に加熱した後、濾過する。濾液を凍結乾燥させ、コラーゲンを得る。
- 3) 抽出した試料を燃焼させ、二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) を発生させる。

以下、(1) の 4) 以降と同じ。

#### 4 測定方法

加速器をベースとした <sup>14</sup>C-AMS 専用装置 (NEC 社製) を使用し、<sup>14</sup>C の計数、<sup>13</sup>C 濃度 (<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)、<sup>14</sup>C 濃度 (<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C) の測定を行う。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOx II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

#### 5 算出方法

- (1)  $\delta^{13}\text{C}$  は、試料炭素の <sup>13</sup>C 濃度 (<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (‰) で表した値である (表 1)。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) <sup>14</sup>C 年代 (Libby Age : yrBP) は、過去の大気中 <sup>14</sup>C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年 (0yrBP) として遡る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期 (5568 年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。<sup>14</sup>C 年代は  $\delta^{13}\text{C}$  によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として表 2 に示した。<sup>14</sup>C 年代と誤差は、下 1 桁を丸めて 10 年単位で表示される。また、<sup>14</sup>C 年代の誤差 ( $\pm 1\sigma$ ) は、試料の <sup>14</sup>C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2% であることを意味する。
- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の <sup>14</sup>C 濃度の割合である。pMC が小さい (<sup>14</sup>C が少ない) ほど古い年代を示し、pMC が 100 以上 (<sup>14</sup>C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合 Modern とする。この値も  $\delta^{13}\text{C}$  によって補正する必要があるため、補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として表 2 に示した。
- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の <sup>14</sup>C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の <sup>14</sup>C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、<sup>14</sup>C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1 標準偏差 ( $1\sigma = 68.2\%$ ) あるいは 2 標準偏差 ( $2\sigma = 95.4\%$ ) で表示される。グラフの縦軸が <sup>14</sup>C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$  補正を行い、下一桁を丸めない <sup>14</sup>C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal09 データベース (Reimer et al. 2009) を用い、OxCalv4.1 較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代

については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。暦年較正年代は、 $^{14}\text{C}$ 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」) という単位で表される。

## 6 測定結果

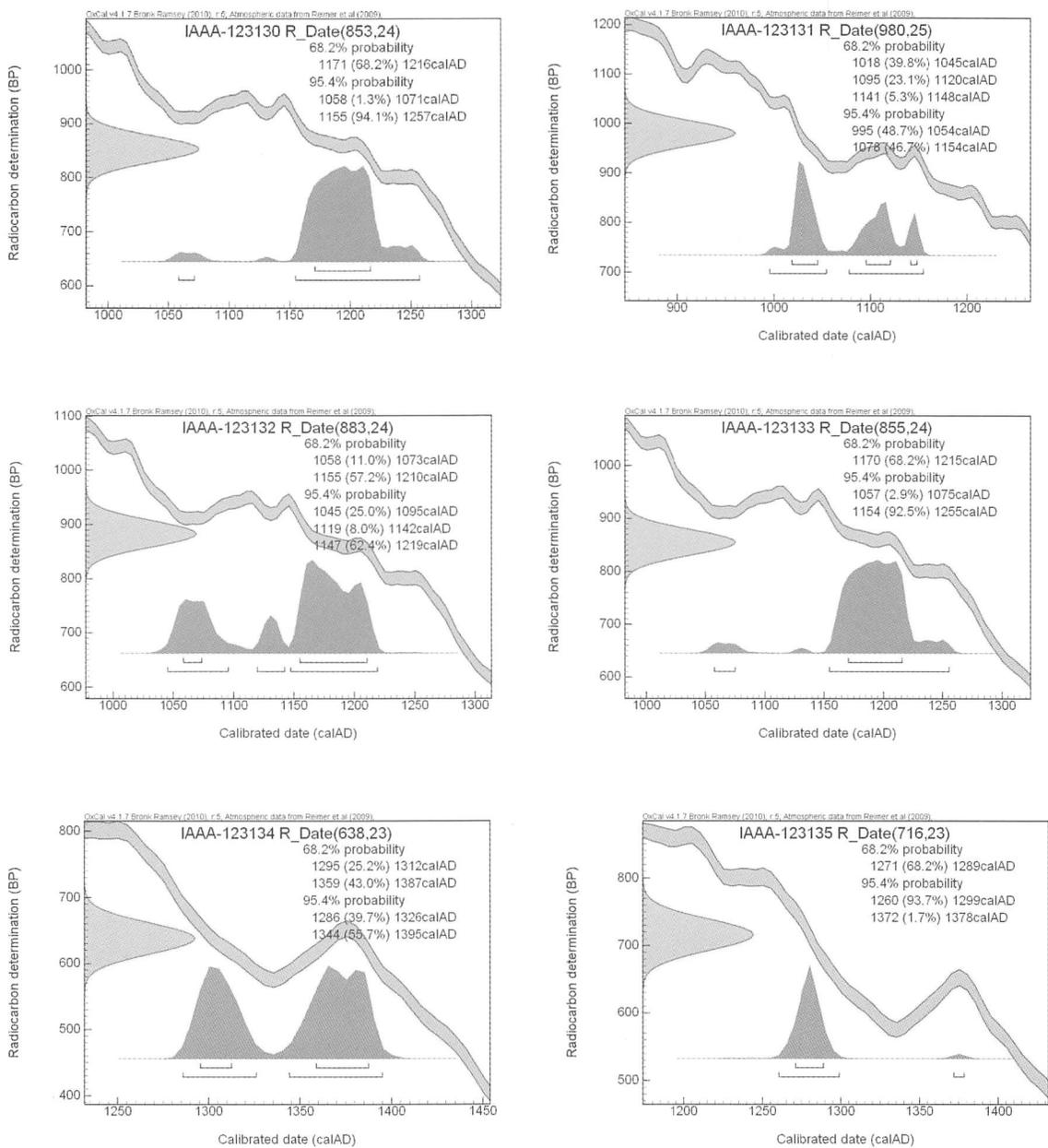
試料の $^{14}\text{C}$ 年代は、Ⅲ層1号住居跡内焼土13(上部黒色土)出土炭化種子(ブドウ科)No.1が $850 \pm 20\text{yrBP}$ 、同焼土16(ⅢbL)出土炭化種子(ブドウ科)No.2が $980 \pm 30\text{yrBP}$ 、Ⅲ層2号住居跡内焼土18(ⅢbL)出土炭化クルミ片No.3が $880 \pm 20\text{yrBP}$ 、同焼土19(ⅢbL)出土炭化種子(コナラ属)No.4が $860 \pm 20\text{yrBP}$ 、Ⅲ層獣骨集中3(ⅢbL)出土歯No.5が $640 \pm 20\text{yrBP}$ 、No.6が $720 \pm 20\text{yrBP}$ である。Ⅲ層1号住居跡から出土した2点、及びⅢ層獣骨集中3から出土した2点の値の間には、各々若干年代差が認められる。他方、Ⅲ層2号住居跡から出土した2点の値は、誤差( $\pm 1\sigma$ )の範囲で重なり、近い年代を示す。

暦年較正年代( $1\sigma$ )は、No.1が1171~1216cal ADの範囲、No.2が1018~1148cal ADの間に3つの範囲、No.3が1058~1154cal ADの間に2つの範囲、No.4が1170~1215cal ADの範囲、No.5が1295~1387cal ADの間に2つの範囲、No.6が1271~1289cal ADの範囲で示される。いずれも擦文文化期後期で12世紀代と推定されているのに対し、No.1~4は矛盾しない値となっているが、No.5、6は推定される時期よりも新しい値となった(臼杵編2007)。

炭化種子(ブドウ科)No.1、2、炭化クルミ片No.3、炭化種子(コナラ属)No.4の炭素含有率はすべて60%以上で、化学処理、測定上の問題は認められない。歯No.5、6のコラーゲン回収率と炭素含有率を確認すると、コラーゲン回収率はNo.5が0.1%、No.6が0.9%、炭素含有率はNo.5が64%、No.6が44%となっている。コラーゲン回収率が0.5%未満の試料は問題があると見なされ(Hedges and van Klinken 1992)、骨や歯の炭素含有率が通常40数%となることを踏まえると、No.5はコラーゲンの保存状態に問題があると判断され、測定結果の信頼性が十分とは言えない。また、No.6についても、コラーゲン回収率が高いとは言えず、年代値の評価には注意を要する。

## 文献

- Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360
- Hedges, R. E. M. and van Klinken, G. J. 1992 A review of current approaches in the pretreatment of bone for radiocarbon dating by AMS, *Radiocarbon* 34(3), 279-291
- Reimer, P. J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 51(4), 1111-1150
- Stuiver M. and Polach H. A. 1977 Discussion: Reporting of  $^{14}\text{C}$  data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363
- 臼杵勲編 2007 科学研究費補助金基盤研究(B)(2) 北海道における古代から近世の遺跡の暦年代 研究成果報告書, 札幌学院大学人文学部



参考 暦年較正年代グラフ

図1 暦年較正グラフ

表1 AMS測定結果

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-123130	No.1	ⅢH-01内ⅢF-13 上部黒色土	炭化種子 (ブドウ科)	AaA	-26.64 ± 0.50	850 ± 20	89.92 ± 0.27
IAAA-123131	No.2	ⅢH-01内ⅢF-16 ⅢbL	炭化種子 (ブドウ科)	AAA	-25.10 ± 0.39	980 ± 30	88.51 ± 0.28
IAAA-123132	No.3	ⅢH-02内ⅢF-18 ⅢbL	炭化クルミ片	AaA	-25.34 ± 0.26	880 ± 20	89.58 ± 0.27
IAAA-123133	No.4	ⅢH-02内ⅢF-19 ⅢbL	炭化種子 (コナラ属)	AAA	-24.87 ± 0.29	860 ± 20	89.90 ± 0.27
IAAA-123134	No.5 B.117	ⅢBB-03 ⅢbL	歯 (シカ)	CEx	-23.72 ± 0.30	640 ± 20	92.35 ± 0.27
IAAA-123135	No.6 (B.248)	ⅢBB-03 ⅢbL	歯 (シカ)	CEx	-22.24 ± 0.36	720 ± 20	91.46 ± 0.27

[#5583]

表2 暦年較正結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用(yrBP)	1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-123130	880 ± 20	89.6 ± 0.26	853 ± 24	1171calAD - 1216calAD (68.2%)	1058calAD - 1071calAD (1.3%) 1155calAD - 1257calAD (94.1%)
IAAA-123131	980 ± 20	88.5 ± 0.27	980 ± 25	1018calAD - 1045calAD (39.8%) 1095calAD - 1120calAD (23.1%) 1141calAD - 1148calAD (5.3%)	995calAD - 1054calAD (48.7%) 1078calAD - 1154calAD (46.7%)
IAAA-123132	890 ± 20	89.5 ± 0.27	883 ± 24	1058calAD - 1073calAD (11.0%) 1078calAD - 1154calAD (46.7%)	1045calAD - 1095calAD (25.0%) 1119calAD - 1142calAD (8.0%) 1147calAD - 1219calAD (62.4%)
IAAA-123133	850 ± 20	89.9 ± 0.26	855 ± 24	1170calAD - 1215calAD (68.2%)	1057calAD - 1075calAD (2.9%) 1154calAD - 1255calAD (92.5%)
IAAA-123134	620 ± 20	92.6 ± 0.27	638 ± 23	1295calAD - 1312calAD (25.2%) 1359calAD - 1387calAD (43.0%)	1286calAD - 1326calAD (39.7%) 1344calAD - 1395calAD (55.7%)
IAAA-123135	670 ± 20	92 ± 0.26	716 ± 23	1271calAD - 1289calAD (68.2%)	1260calAD - 1299calAD (93.7%) 1372calAD - 1378calAD (1.7%)

[参考値]

## 第2節 オニキシベ4遺跡出土動物遺存体

千歳市埋蔵文化財センター

高橋 理

### はじめに

調査は洪水対策や農業用水確保などを兼ね備えた多目的の「厚幌ダム」建設工事に伴うものである。当事業に係る発掘調査は平成14年度から厚真町教育委員会によって継続して行われ、今年度からは（公財）北海道埋蔵文化財センターも調査を実施している。本遺跡の試掘調査は北海道教育委員会によって平成16年に行われている。調査予定面積は3,000 m<sup>2</sup>であったが、調査を進める中で遺構や遺物の分布が調査区外に及ぶことが判明したため西側へ範囲を拡張し、4,103 m<sup>2</sup>となった。オニキシベ6遺跡とは卑近である。

主な遺物包含層はⅢ層であり、Ⅲa、Ⅲb、Ⅲcに細分され、それぞれ近世アイヌ文化期、中世アイヌ文化期から擦文文化期、擦文前期から縄文晩期となっている。Ⅴ層は晩期以前、Ⅵ層から縄文早期の遺物が出土する。さらにⅠ層にウマの墓8基があり、今回報告する。

筆者に分析の機会を与えられた厚真町教育委員会各位に心より御礼申し上げます。

### 出土動物

出土した動物骨はシカとウマのみであった。

表1～3にハンドピック及びフローテーションによって回収された動物を層位・遺構別に示している。スクリーンが施された遺物は、保存状態不良で回収不能であるとの担当者の判断のもとに、骨の種類や位置、写真のみの記録をとった後に破棄したことを示している。この記録がもたらした情報もけっして少なくなく、担当者の措置に敬意を表するところである。それらは次のように分類、整理される。

#### 哺乳綱 Mammalia

##### 奇蹄目 Perissodactyla

##### ウマ科 Equidae

##### ウマ *Equus caballus*

##### クジラ偶蹄目 Cetartiodactyla

##### シカ科 Cervidae

##### ニホンジカ *Cervus nippon*

### 若干のコメント

ウマの体サイズは現代の農耕馬に比べてかなり小型であることが指摘できる。それは千歳市末広遺跡において出土した中近世のウマ遺体（未発表）のサイズに近い。また、今回特筆すべきは、2体の幼体が含まれていることである。下顎の臼歯はすべて乳臼歯であり、四肢骨骨端はすべて未癒合であることから、生後まもなく何らかの理由で死亡し、成獣とともに埋葬されたものであろう。骨病変は確認されない。また、すべての上顎骨、前肢骨には金属器による解体痕跡がないことから、あるいは何らかの流行病によって一度に死亡したか、あるいは殺処分されたのではなかろうか。町

史の近現代編を渉猟する必要があるだろう。

なお、ウマ成獣の末節骨（蹄骨）には蹄鉄の装着痕は確認されない。

シカは椎骨・骨盤がまったく認められず、四肢骨も非常に少ないことが指摘される。主たる出土部位は頭部に限定される。上顎・下顎歯とも認められ、前頭骨角突起をともなう角があることから、頭骨がもっとも多く遺跡内に持ち込まれたものと考えられる。下顎後臼歯の摩耗指数からは、3～5歳の成獣が主体的であったことがわかる。乳歯をともなう幼体は含まれていない。

#### 参考文献

- 大泰司紀之 1980 「遺跡出土ニホンジカの下顎骨による性別・年齢・死亡時期査定法」『考古学と自然科学』 13, pp.51-73
- Carden,R.F. and Hayden,T.J.2002  
Epiphyseal Fusion in the Postcranial Skeleton as an Indicator of Age at Death of European Fallow Deer(*Dama dama dama*, Linnaeus, 1758)  
*9th ICAZ Conference, Durham 2002*  
*Recent Advance in Ageing and Sexing Animal Bones*, 227-236 Oxbow Books
- Perdue,J.R. 1983 Epiphyseal closure in white-tailed deer. *Journal of Wildlife Management* 47(4),1207-1213.

表1 ハントピック法動物遺存体同定一覧表 擦文文化期

遺構/ グリッド	層位	No.	出土 動物	部 位	L/R	点数	備 考
IIIb-01	IIIbM	232	シカ	中節骨		1	
IIIb-01	IIIbM	233	不明	部位不明		4	
IIIb-01	IIIbM	234	不明	部位不明		4	被熱
IIIb-01	IIIbM	235	不明	部位不明		5	被熱
IIIb-01	IIIbM	236	哺乳綱	部位不明		多数	
IIIb-01	IIIbM	237		不明			
IIIb-01	IIIbM	238	哺乳綱	部位不明		多数	
IIIb-01	IIIbM	239	哺乳綱	部位不明		多数	
IIIb-01	IIIbM	240		不明			
IIIb-01	IIIbM	241	シカ	基節骨 遠位端		1	
IIIb-01	IIIbM	242	シカ	中手・中足骨 遠位端一部		1	
IIIb-01	IIIbM	243	シカ	中手骨近位端背側	?	1	
IIIb-01	IIIbM	244	シカ	下顎M2・3	L	2	W.I.M2:2,M3:4 歯根有
IIIb-01	IIIbM	245	哺乳綱	寛骨 一部	?	1	
IIIb-01	IIIbM	247		不明			
IIIb-01	IIIbM	248	哺乳綱	部位不明		多数	下層出土下顎歯 をサンプル採取
IIIb-01	IIIbM	249	シカ	機骨 近位端背側	L	1	
IIIb-01	IIIbM	250	シカ	機骨 近位端背側	L	1	
IIIb-01	IIIbM	260	シカ	中足骨近位端背側	?	1	
IIIb-01	IIIbM	261	哺乳綱	部位不明		2	
IIIb-01	IIIbM	262	シカ	中手・中足骨 遠位滑車一部	?	1	
IIIb-01	IIIbM	263	哺乳綱	長管骨		2	
IIIb-01	IIIbM	264	シカ	下顎M3	L	1	W.I.:6
IIIb-01	IIIbM	265	哺乳綱	部位不明		2	
IIIb-01	IIIbM	266	シカ	中手骨?			骨角器(中柄) B. 400と接合
IIIb-01	IIIbM	267		不明			
IIIb-01	IIIbM	268	シカ	下顎M3	L	1	W.I.不明 歯根有
IIIb-01	IIIbM	269	哺乳綱	長管骨骨幹	?	1	
IIIb-01	IIIbM	270	哺乳綱	部位不明		10	
IIIb-01	IIIbM	271	シカ	末節骨?近位端?		2	
IIIb-01	IIIbM	272	不明	部位不明		2	
IIIb-01	IIIbM	273	シカ	下顎頰	L	1	
IIIb-01	IIIbM	273	シカ	脛骨 骨幹	?	1	
IIIb-01	IIIbM	273	シカ	中節骨		1	完形
IIIb-01	IIIbM	273	シカ	基節骨 遠位端		1	
IIIb-01	IIIbM	274	哺乳綱	長管骨		1	
IIIb-01	IIIbM	275	哺乳綱	大腿骨 小転子部	R	1	
IIIb-01	IIIbM	276	シカ	下顎臼歯		1	
IIIb-01	IIIbM	277	シカ	下顎臼歯歯冠		1	
IIIb-01	IIIbM	277	シカ	中節骨 遠位端		1	
IIIb-01	IIIbM	278	シカ	下顎M1	R	1	W.I.:5
IIIb-01	IIIbM	279	シカ	中足骨 骨幹背側	?	1	
IIIb-01	IIIbM	280	不明	部位不明		3	
IIIb-01	IIIbM	281	哺乳綱	部位不明		多数	
IIIb-01	IIIbM	282	シカ	脛骨 骨幹後面	?	1	
IIIb-01	IIIbM	283	シカ	機骨 近位端	L	1	被熱一点有
IIIb-01	IIIbM	284	シカ	上顎片+歯			
IIIb-01	IIIbM	285	哺乳綱	部位不明		多数	
IIIb-01	IIIbM	286	シカ	上顎M1・2	L	2	W.I.M1:6,M2:6 あるいは未萌出
IIIb-01	IIIbM	287	哺乳綱	部位不明		4	
IIIb-01	IIIbM	288	シカ	臼歯歯冠 破片		5	
IIIb-01	IIIbM	289	シカ	下顎M1	L	1	W.I.5
IIIb-01	IIIbM	289	哺乳綱	長管骨		1	
IIIb-01	IIIbM	290	シカ	中手・中足骨遠位滑車 一部		1	
IIIb-01	IIIbM	290	シカ	上腕骨遠位滑車一部	L	1	
IIIb-01	IIIbM	290	哺乳綱	部位不明		多数	
IIIb-01	IIIbM	291	シカ	下顎M1	L	1	W.I.6
IIIb-01	IIIbM	291	シカ	臼歯歯冠 破片		5	
IIIb-01	IIIbM	292	シカ	大腿骨 顆上窩部破片	L	1	
IIIb-01	IIIbM	296	シカ	臼歯歯冠 破片		3	
IIIb-01	IIIbM	297	哺乳綱	部位不明		1	
IIIb-01	IIIbM	298	シカ	上腕骨 遠位端	L	1	
IIIb-01	IIIbM	299	不明	部位不明		3	
IIIb-01	IIIbM	300	シカ	中手・中足骨遠位滑車 一部		1	
IIIb-01	IIIbM	300	哺乳綱	部位不明		多数	
IIIb-01	IIIbM	304	不明	部位不明		3	
IIIb-01	IIIbL	305	シカ	下顎M1	L	1	W.I.7あるいは 未萌出
IIIb-01	IIIbM	306	不明	部位不明		4	
IIIb-01	IIIbM	307	不明	部位不明		2	

遺構/ グリッド	層位	No.	出土 動物	部 位	L/R	点数	備 考
IIIb-01	IIIbM	308	不明	部位不明		9	
IIIb-01	IIIbM	309	不明	部位不明		4	
IIIb-01	IIIbM	310	シカ	臼歯歯冠 破片		4	
IIIb-01	IIIbM	311	哺乳綱	部位不明		4	
IIIb-01	IIIbM	314	不明	部位不明		4	
IIIb-01	IIIbM	315	哺乳綱	部位不明		4	
IIIb-01	IIIbM	319	シカ	中手・中足骨遠位端		1	
IIIb-01	IIIbL	336	不明	部位不明		1	
IIIb-01	IIIbL	337	シカ	歯冠 破片		7	
IIIb-01	IIIbL	338	シカ	臼歯歯冠 破片		3	
IIIb-01	IIIbL	339	シカ	下顎M3	L	1	W.I.:4
IIIb-01	IIIbL	340	シカ	臼歯歯冠 破片		8	
IIIb-01	IIIbL	341	シカ	臼歯歯冠 破片		6	
IIIb-01	IIIbL	342	不明	部位不明		4	
IIIb-01	IIIbL	343	シカ	下顎M3	R	1	W.I.:5
IIIb-01	IIIbL	344		不明			
IIIb-01	IIIbL	345		不明			
IIIb-01	IIIbL	346	シカ	下顎M3	L	1	W.I.:6or7
IIIb-02	IIIbL	293	シカ	上顎臼歯歯冠		2	
IIIb-02	IIIbL	317	シカ	下顎臼歯 破片		多数	
IIIb-02	IIIbL	318	シカ	下顎PM3,M2・3	R	3	W.I.M2:5,M3:6
IIIb-02	IIIbL	321	シカ	臼歯歯冠 破片		3	
IIIb-02	IIIbL	322	シカ	歯冠片			所在不明
IIIb-02	IIIbL	323		不明			粉状
IIIb-02	IIIbL	324		不明			粉状
IIIb-02	IIIbL	325		不明			粉状
IIIb-02	IIIbL	327	シカ	下顎臼歯 歯冠		1	
IIIb-02	IIIbL	328	シカ	下顎M3	L	1	W.I.:7 破片多数
IIIb-02	IIIbL	329	哺乳綱	部位不明		多数	
IIIb-02	IIIbL	330	シカ	下顎臼歯歯冠破片		10	
IIIb-02	IIIbL	331	不明	部位不明		多数	
IIIb-02	IIIbM	395	シカ	臼歯歯冠 破片		4	
IIIb-02	IIIbM	396	シカ	臼歯歯冠 破片		2	
IIIbB-01	IIIbM	294	シカ	歯冠片			粉状
IIIbB-01	IIIbM	295		不明			粉状
IIIbB-03	IIIbL	7	シカ	歯冠 破片		多数	
IIIbB-03	IIIbL	8	シカ	角? 破片		多数	
IIIbB-03	IIIbL	9	哺乳綱	部位不明		1	
IIIbB-03	IIIbL	10	シカ	歯冠 破片		1	
IIIbB-03	IIIbL	11	シカ	下顎?歯冠 破片		多数	
IIIbB-03	IIIbL	12	不明	部位不明		2	
IIIbB-03	IIIbL	13	哺乳綱	部位不明		3	
IIIbB-03	IIIbL	14	シカ	角幹	?	多数	落角か不明
IIIbB-03	IIIbL	15	シカ	角 破片		多数	土壌サンプル採取
IIIbB-03	IIIbL	16	哺乳綱	部位不明 破片		6	
IIIbB-03	IIIbL	17	シカ	角? 破片		1	
IIIbB-03	IIIbL	18	シカ	角 破片			
IIIbB-03	IIIbL	19	シカ	不明		8	
IIIbB-03	IIIbL	20	シカ	上顎後臼歯	LR	2	他に破片多数
IIIbB-03	IIIbL	21	シカ	角幹		1	風化進む
IIIbB-03	IIIbL	22	シカ	歯冠 破片		多数	
IIIbB-03	IIIbL	23	シカ	角幹下部 (角坐骨上位)	?	1	
IIIbB-03	IIIbL	24	シカ	前頭骨 破片		多数	
IIIbB-03	IIIbL	25	シカ	上顎後臼歯歯冠	R	6	摩擦中程度
IIIbB-03	IIIbL	26	シカ	下顎後臼歯歯冠破片		多数	
IIIbB-03	IIIbL	27	シカ	歯冠片			
IIIbB-03	IIIbL	28	シカ	上顎M1	R	1	摩擦進む
IIIbB-03	IIIbL	29		不明			
IIIbB-03	IIIbL	30	シカ	歯冠片			所在不明
IIIbB-03	IIIbL	31	シカ	歯冠片			
IIIbB-03	IIIbL	32		不明			粉状
IIIbB-03	IIIbL	33		不明			粉状
IIIbB-03	IIIbL	34	シカ	歯冠 破片		7	
IIIbB-03	IIIbL	35	シカ	歯冠 破片		19	一括取り上げ
IIIbB-03	IIIbL	36	シカ	歯冠 破片			一括取り上げ
IIIbB-03	IIIbL	37	シカ	歯冠 破片			一括取り上げ
IIIbB-03	IIIbL	38	不明	部位不明		8	
IIIbB-03	IIIbL	39	哺乳綱	部位不明		1	
IIIbB-03	IIIbL	40	哺乳綱	部位不明		1	
IIIbB-03	IIIbL	41	不明	部位不明			
IIIbB-03	IIIbL	42	不明	部位不明		1	一括取り上げ
IIIbB-03	IIIbL	43	不明	部位不明			一括取り上げ
IIIbB-03	IIIbL	44	シカ	歯冠 破片		6	
IIIbB-03	IIIbL	45		不明			粉状
IIIbB-03	IIIbL	46	シカ	肩甲骨 肩甲頸部	L	1	
IIIbB-03	IIIbL	47	シカ	角 破片		1	落角
IIIbB-03	IIIbL	48	シカ	臼歯歯冠 破片		多数	

遺構/ グリッド	層位	No.	出土 動物	部 位	L/R	点数	備 考
III BB-03	III bL	49		不明			粉状
III BB-03	III bL	50	不明	部位不明		5	
III BB-03	III bL	51	シカ	歯冠 破片		14	
III BB-03	III bL	52	シカ	角? 破片		1	
III BB-03	III bL	53	シカ	歯冠 破片		6	
III BB-03	III bL	54	シカ	下顎M2	L	1	W.1.5
III BB-03	III bL	54		歯冠破片		5	
III BB-03	III bL	55	シカ	下顎M3	L	1	W.1.7あるいは 未萌出
III BB-03	III bL	55		歯冠 破片		5	
III BB-03	III bL	56	シカ	歯冠 破片		10	
III BB-03	III bL	57	シカ	歯冠 破片		7	
III BB-03	III bL	58	シカ	歯冠 破片		27	
III BB-03	III bL	59	シカ	歯冠 破片		8	
III BB-03	III bL	60	シカ	角 破片		5	風化進む
III BB-03	III bL	61	シカ	下顎M3	L	1	W.1.5
III BB-03	III bL	62	シカ	歯冠 破片		11	
III BB-03	III bL	63	シカ	歯冠 破片		6	
III BB-03	III bL	64	シカ	歯冠 破片		15	
III BB-03	III bL	65	シカ	上顎M2	L	1	No.67と同一
III BB-03	III bL	65		歯冠 破片		多数	
III BB-03	III bL	66	シカ	歯冠 破片		6	
III BB-03	III bL	67		上顎M2	L	1	No.65と同一
III BB-03	III bL	67		歯冠 破片		多数	
III BB-03	III bL	68	シカ	歯冠 破片		12	
III BB-03	III bL	69	シカ	上顎M2	L	1	
III BB-03	III bL	69		歯冠 破片		2	
III BB-03	III bL	70	シカ	角 破片		1	風化進む
III BB-03	III bL	71	シカ	歯冠片			粉状
III BB-03	III bL	72	シカ	下顎M3	R	1	W.1.:5
III BB-03	III bL	73	シカ	臼歯歯冠 破片		多数	
III BB-03	III bL	74	シカ	臼歯歯冠 破片		多数	
III BB-03	III bL	75	シカ	角 骨		1	
III BB-03	III bL	76	シカ	臼歯歯冠 破片		多数	
III BB-03	III bL	77	シカ	臼歯歯冠 破片		多数	
III BB-03	III bL	78	シカ	上顎後臼歯	LR	2	他に破片多数
III BB-03	III bL	79	シカ	歯冠 破片		多数	
III BB-03	III bL	80	シカ	歯冠 破片		多数	
III BB-03	III bL	81	シカ	上顎後臼歯	LR	9(L5, R4)	破片多数
III BB-03	III bL	82	シカ	上顎後臼歯			No.81~88 同一の歯列?
III BB-03	III bL	83	シカ	上顎後臼歯			第三後臼歯? No.81~88同一の 歯列?
III BB-03	III bL	84	シカ	上顎後臼歯			No.81~88 同一の歯列?
III BB-03	III bL	85	シカ	上顎後臼歯			No.81~88 同一の歯列?
III BB-03	III bL	86	シカ	上顎後臼歯			No.81~88 同一の歯列?
III BB-03	III bL	88	シカ	上顎後臼歯			No.81~88 同一の歯列?
III BB-03	III bL	89	シカ	上顎後臼歯		1	
III BB-03	III bL	90	シカ	上顎後臼歯	L	1	AMSサンプル 1点採取
III BB-03	III bL	91	シカ	歯冠 破片		多数	
III BB-03	III bL	92	シカ	歯冠 破片		12	
III BB-03	III bL	93	シカ	上顎後臼歯	L	3	他に破片多数
III BB-03	III bL	94	シカ	上顎後臼歯	L	1	破片多数
III BB-03	III bL	95	シカ	上顎後臼歯	L	3	AMSサンプル 1点採取
III BB-03	III bL	96	哺乳綱	部位不明		4	
III BB-03	III bL	97	シカ	上顎臼歯歯冠破片	L	7	
III BB-03	III bL	98	不明	部位不明		1	
III BB-03	III bL	99	哺乳綱	部位不明		3	
III BB-03	III bL	100	シカ	上顎臼歯	LR	2(1点 ずつ)	他に破片 No.100・101は 同一の歯列?
III BB-03	III bL	101	シカ	上顎臼歯			No.100・101は 同一の歯列?
III BB-03	III bL	102	シカ	上顎?臼歯 破片		多数	
III BB-03	III bL	103	シカ	上顎後臼歯 破片	R	多数	
III BB-03	III bL	104	シカ	上顎後臼歯	R	2	他に破片
III BB-03	III bL	105	シカ	歯冠 破片		多数	
III BB-03	III bL	106		不明			粉状
III BB-03	III bL	107	シカ	上顎歯冠 破片		多数	
III BB-03	III bL	108	シカ	上顎歯冠 破片		11	

遺構/ グリッド	層位	No.	出土 動物	部 位	L/R	点数	備 考
III BB-03	III bL	109	哺乳綱	部位不明		2	
III BB-03	III bL	110	哺乳綱	部位不明		5	
III BB-03	III bL	111	シカ	歯冠 破片		19	
III BB-03	III bL	112	シカ	上顎後臼歯	L	1	
III BB-03	III bL	113	哺乳綱	部位不明		2	
III BB-03	III bL	114		不明			粉状
III BB-03	III bL	115	不明	部位不明		4	
III BB-03	III bL	116	シカ	上顎後臼歯	L	1	
III BB-03	III bL	117	シカ	上顎後臼歯	R	1	他に破片多数
III BB-03	III bL	118					No.117と 一括取り上げ
III BB-03	III bL	119	シカ	側頭骨岩様部	?	1	
III BB-03	III bL	120	シカ	歯冠片			粉状
III BB-03	III bL	121	哺乳綱	長管骨		2	
III BB-03	III bL	122	シカ	側頭骨岩様部	R	1	
III BB-03	III bL	122	シカ	後頭骨底部筋結節部		1	
III BB-03	III bL	123	不明	部位不明		多数	粉状
III BB-03	III bL	124	不明	部位不明		9	
III BB-03	III bL	125	シカ	前頭骨角突起-角坐 骨・角骨	LR?	2	写真有
III BB-03	III bL	126					No.125と同一
III BB-03	III bL	127	哺乳綱	部位不明		1	
III BB-03	III bL	128	哺乳綱	部位不明		1	
III BB-03	III bL	129	シカ	角骨分岐部	L	1	
III BB-03	III bL	130	シカ	角骨 破片		多数	No.131と同一?
III BB-03	III bL	131					No.130と同一?
III BB-03	III bL	132	シカ	下顎後臼歯歯冠	L	1	
III BB-03	III bL	134	シカ	臼歯歯冠 破片		3	
III BB-03	III bL	135	シカ	下顎M3	R	1	W.1.:7
III BB-03	III bL	136	シカ	前頭骨 角突起	LR	2	同一個体
III BB-03	III bL	137	シカ	下顎M1	L	1	W.1.:4?
III BB-03	III bL	138	シカ	上顎後臼歯	R	1	歯根一部有
III BB-03	III bL	139	哺乳綱	部位不明		1	
III BB-03	III bL	140	シカ	上顎M1-3	R	3	歯根有
III BB-03	III bL	140	シカ	上顎M1-??	L	2	歯根有 他に破片
III BB-03	III bL	141	シカ	上顎M1-2	L	2	歯根有
III BB-03	III bL	141	哺乳綱	頭蓋一部		1	
III BB-03	III bL	142	シカ	前頭骨角突起・角坐 骨		2	土壌サンプル 採取
III BB-03	III bL	143	シカ	上顎M1-3	L	3	歯根有 他に細片
III BB-03	III bL	144	シカ	上顎後臼歯		5	
III BB-03	III bL	145	シカ	前頭骨 角突起・角破片	L	1	未落角
III BB-03	III bL	146	シカ	前頭骨 角突起・角破片	R	2	未落角 同一個体?
III BB-03	III bL	147	哺乳綱	部位不明		4	
III BB-03	III bL	148	シカ	上顎PM3-M2	R	3	歯根有 他に細片
III BB-03	III bL	149	シカ	前頭骨角突起・角坐骨・ 角骨 破片	?	多数	
III BB-03	III bL	150	シカ	後頭骨底部 筋結節部		1	
III BB-03	III bL	150	シカ	前頭骨 角突起	?	1	
III BB-03	III bL	151	哺乳綱	部位不明		10	
III BB-03	III bL	152	シカ	角 骨		3	
III BB-03	III bL	153	シカ	肩甲骨 肩甲頭	?	1	
III BB-03	III bL	154	哺乳綱	長管骨		1	切痕有
III BB-03	III bL	155	シカ	長管骨		多数	No.155~157 一括取り上げ
III BB-03	III bL	156	シカ	長管骨			No.155~157 一括取り上げ
III BB-03	III bL	157	シカ	長管骨			No.155~157 一括取り上げ
III BB-03	III bL	158	シカ	落角	LR	2	
III BB-03	III bL	159	シカ	上顎後臼歯	LR	3	
III BB-03	III bL	160	不明	部位不明		多数	
III BB-03	III bL	161	シカ	上顎後臼歯	?	1	
III BB-03	III bL	162	不明	部位不明		8	
III BB-03	III bL	163					試料無し
III BB-03	III bL	164	シカ	中足骨? 骨幹背側		1	No.164~169 一括取り上げ
III BB-03	III bL	165	シカ	中手・中足骨 背側骨幹		多数	No.164~169 一括取り上げ
III BB-03	III bL	166	シカ	中手・中足骨 背側骨幹			No.164~169 一括取り上げ
III BB-03	III bL	167	シカ	中手・中足骨 背側骨幹			No.164~169 一括取り上げ

オニキシベ4遺跡

遺構/ グリッド	層位	No.	出土 動物	部 位	L/R	点数	備 考
III BB-03	III bL	168		中手・中足骨 背側骨幹			フローテーション サンプル採取 No.164~169 一括取り上げ
III BB-03	III bL	169		中手・中足骨 背側骨幹			No.164~169 一括取り上げ
III BB-03	III bL	170	哺乳綱	長管骨		多数	
III BB-03	III bL	171	シカ	角 破片		多数	
III BB-03	III bL	172	シカ	上顎後臼歯	?	多数	No.173と 一括取り上げ AMSサンプル 採取
III BB-03	III bL	173	哺乳綱	部位不明		1	No.172と 一括取り上げ
III BB-03	III bL	175	シカ	上顎後臼歯	R	1	
III BB-03	III bL	176	哺乳綱	部位不明		1	
III BB-03	III bL	177		不明			粉状
III BB-03	III bL	178	シカ	上顎PM2	R	1	サンプル採取
III BB-03	III bL	178	シカ	中足骨 背側骨幹・ 近位骨幹一部		2	
III BB-03	III bL	179	シカ	上顎後臼歯	R	1	
III BB-03	III bL	179	哺乳綱	長管骨		1	
III BB-03	III bL	180	シカ	側頭骨岩様部?	?	1	
III BB-03	III bL	181	シカ	前頭骨角突起・ 角坐	?	1	
III BB-03	III bL	181	シカ	上顎後臼歯	R?	1	
III BB-03	III bL	182	シカ	前頭骨角突起・ 角坐	?	2	
III BB-03	III bL	183	シカ	角 破片		8	
III BB-03	III bL	184	シカ	角 破片		多数	
III BB-03	III bL	185	シカ	角 破片		多数	
III BB-03	III bL	186	シカ	前頭骨角突起	?	1	
III BB-03	III bL	187	シカ	歯冠 破片		多数	
III BB-03	III bL	188	哺乳綱	部位不明		3	
III BB-03	III bL	189	哺乳綱	部位不明		多数	シカ角片?
III BB-03	III bL	190	哺乳綱	部位不明		4	
III BB-03	III bL	191	シカ	角片		7	
III BB-03	III bL	192	哺乳綱	部位不明		2	
III BB-03	III bL	193	不明	部位不明		3	
III BB-03	III bL	194	シカ	歯冠 破片		15	
III BB-03	III bL	195	シカ	臼歯歯冠 破片		6	
III BB-03	III bL	196	シカ	歯冠 破片		3	
III BB-03	III bL	197	シカ	臼歯歯冠 破片		10	
III BB-03	III bL	198	シカ	臼歯歯冠 破片		7	
III BB-03	III bL	199	シカ	歯冠 破片		3	
III BB-03	III bL	199	哺乳綱	部位不明		多数	
III BB-03	III bL	200	シカ	歯冠 破片		1	
III BB-03	III bL	200	哺乳綱	部位不明		多数	
III BB-03	III bL	201	シカ	臼歯歯冠 破片		多数	
III BB-03	III bL	202	シカ	上顎臼歯歯冠 破片		25	
III BB-03	III bL	203	不明	部位不明		10	
III BB-03	III bL	204	シカ	上顎臼歯歯冠	L	2	
III BB-03	III bL	205	シカ?	側頭骨岩様部?	?	1	
III BB-03	III bL	206	シカ?	距骨?	?	1	
III BB-03	III bL	206	シカ	臼歯歯冠 破片		1	
III BB-03	III bL	207	シカ	歯冠 破片		5	
III BB-03	III bL	208	シカ	歯冠 破片		3	
III BB-03	III bL	218	シカ	前頭骨角突起		1	
III BB-03	III bL	219		不明			粉状
III BB-03	III bL	220	シカ	臼歯歯冠 破片		多数	
III BB-03	III bL	221	シカ	歯冠 破片		5	
III BB-03	III bL	222		不明			粉状
III BB-03	III bL	223		不明			粉状
III BB-03	III bL	224	シカ	臼歯歯冠 破片		多数	No.316と同じ
III BB-03	III bL	225	シカ	臼歯歯冠 破片		多数	
III BB-03	III bL	228	不明	部位不明 細片		多数	
III BB-03	III bL	230	シカ	歯冠 破片		2	
III BB-03	III bL	231	シカ	臼歯歯冠 破片		3	
III BB-03	III bL	252	シカ	臼歯歯冠 破片		9	
III BB-03	III bL	253		不明			粉状
III BB-03	III bL	254	シカ	臼歯歯冠 破片		多数	
III BB-03	III bL	255		不明			粉状
III BB-03	III bL	256		不明			粉状
III BB-03	III bL	257	不明	部位不明		2	
III BB-03	III bL	258	シカ	臼歯歯冠 破片		1	
III BB-03	III bL	259	シカ	臼歯歯冠 破片		多数	
III BB-03	III bM	316	試料なし	不明			試料なし

遺構/ グリッド	層位	No.	出土 動物	部 位	L/R	点数	備 考
III BB-03	III bL	430	シカ	頭蓋骨岩様部	LR	2	
III BB-03	III bL	430	シカ	前頭骨角突起・ 角脛骨・角 破片	?	多数	
III BB-03	III bL	431	シカ	下顎M1-3	L	3	W.1.M1:4,M2:6、 M3:5M2は別個体
III BB-03	III bL	431	シカ	上顎後臼歯	L	3	破片多数
III H-01	III bM	217	シカ	歯冠片			
III H-01	III bM	356	資料なし	下顎 歯冠片			試料無し
KR-25	-	226	シカ	臼歯歯冠 破片		6	
KR-25	-	227	シカ	上顎臼歯歯冠破片		1	
KR-25	-	251	試料なし	上顎M2?		1	試料なし
TR-07	III b	428	シカ	臼歯歯冠 破片		多数	トレンチ出土
V-42	III bM	1	哺乳綱	部位不明		1	焼骨片
T-39	III bM	2	シカ	歯冠 破片		7	
X-40	III bM	3	シカ	歯冠 破片		12	
X-40	III bM	4	哺乳綱	大腿骨? 破片		多数	
X-40	III bM	5	シカ	上腕骨 遠位端	R	1	
X-40	III bM	5	哺乳綱	脛骨 遠位端	?	1	シカ?
AB-38	III bM	6	シカ	角 角坐		1	落角
AF-36	III bM	209	シカ	角		1	
AF-35	III bM	210	シカ	歯冠 破片		多数	
AG-35	III bM	211	シカ	歯冠 破片		多数	
AF-35	III bM	212	シカ	下顎M2	L	1	W.1.3?
AF-35	III bM	213	シカ	同上			No.212と出土 一括で取り上げ
AF-35	III bM	214	シカ	下顎臼歯	L	1	W.1.不明
AG-35	III bM	215	シカ	下顎M3	L	1	W.1.不明
V-37	III bM	216	シカ	歯冠 破片		多数	
V-34	III bM	301	シカ	下顎M2:3	R	1	W.1.不明
V-34	III bM	302	シカ	臼歯歯冠 破片		多数	
V-34	III bM	303	シカ	臼歯歯冠 破片		多数	
V-34	III bL	313		不明			所在不明
AA-33	III bL	320	シカ	臼歯歯冠 破片		5	
AC-33	III bL	332	シカ	下顎M1-2	L	2	W.1.M1:3, M2:4
AC-33	III bL	333	不明	部位不明		6	
AC-33	III bL	334	シカ	下顎臼歯 破片		8	
AC-33	III bL	335	シカ	下顎M2-3?	R	2	W.1.不明
AE-34	III bL	347	シカ	大腿骨小転子部	L	1	
AE-34	III bL	348	哺乳綱	部位不明		4	
AE-34	III bL	349	シカ	距骨	R	1	脛骨滑車 一部欠く
AE-34	III bL	350		不明			
AE-34	III bL	352	哺乳綱	部位不明		2	
AE-34	III bL	353	シカ	角 尖端		1	
AE-34	III bL	354	シカ	下顎PM1-M3	R	1	W.1.M1:2, M2:3,M3:3
AE-34	III bL	354	シカ	下顎M1-3	L	1	W.1.M1:2,M2:2, M3:3
AE-34	III bL	355	哺乳綱	寛骨白一部?	?	1	
AB-32	III bL	357	シカ	臼歯歯冠 破片		8	
AB-32	III bL	358	シカ	臼歯歯冠 破片		4	
AB-32	III bL	359	哺乳綱	部位不明		多数	
AB-32	III bL	360	不明	部位不明		8	細片
AB-32	III bL	361	シカ	臼歯歯冠 破片		1	
AB-32	III bL	362	不明	部位不明		1	
AB-32	III bL	363	哺乳綱	部位不明	?	1	カットマーク
AB-32	III bL	364	シカ	歯冠片			
AB-32	III bL	365	シカ	下顎臼歯歯冠破片		3	
AB-32	III bL	366	哺乳綱	部位不明		5	
AA-33	III bL	367	シカ	歯冠片			粉状
AA-33	III bL	368	シカ	下顎M2:3	L	2	W.1.M2:5
AA-33	III bL	369	シカ	上腕骨 遠位端	L	1	
AA-33	III bL	370	シカ	臼歯歯冠 破片		多数	
AG-34	III bL	371	シカ	下顎PM3?	R?	1	
AF-33	III bL	372	シカ	歯冠 破片		多数	
AE-33	III bL	373	哺乳綱	部位不明		4	
AE-33	III bL	374	シカ	下顎M3	R	1	W.1.:7あるいは 未萌出
AE-33	III bL	375	シカ	距骨	?	1	
AE-33	III bL	376	シカ	脛骨	?	1	
AE-33	III bL	377	哺乳綱	部位不明		多数	
AE-33	III bL	378	シカ?	肩甲骨? 肩甲骨?	?	1	小型の個体
AE-33	III bL	379	不明	部位不明		26	
AE-33	III bL	380	シカ	臼歯歯冠 破片		11	
AE-33	III bL	381	シカ	臼歯歯冠 破片		多数	
AE-33	III bL	382	シカ	臼歯歯冠 破片		多数	
AE-33	III bL	383	シカ	歯冠 破片		15	
AE-33	III bL	384	シカ	歯冠 破片		8	

遺構/ グリッド	層位	No.	出土 動物	部 位	L/R	点数	備 考
AE-33	IIIbL	385	シカ	角 尖端		1	
AE-33	IIIbL	386	シカ	白歯歯冠 破片		7	
AE-33	IIIbL	387	シカ	白歯歯冠 破片		5	
AE-33	IIIbL	388	不明	部位不明		5	
AE-33	IIIbL	389	哺乳綱	長管骨		1	
AE-33	IIIbL	390	シカ	白歯歯冠 破片		多数	
AE-33	IIIbL	391	シカ	白歯歯冠 破片		12	
AE-33	IIIbL	392	シカ	白歯歯冠 破片		8	
AD-33	IIIbM	393	シカ	白歯歯冠 破片		多数	
AD-33	IIIbM	394	シカ	歯冠 破片		3	
U-34	IIIbL	397	不明	部位不明		4	
U-34	IIIbL	398	哺乳綱	機骨? 骨幹	?	1	
U-34	IIIbL	399	シカ	上顎M1	L	1	
U-34	IIIbL	400	シカ	中手骨?(中柄) +不明骨片			骨角器(中柄) B.266と接合
U-34	IIIbL	401	哺乳綱	部位不明		7	
U-34	IIIbL	402	シカ	基節骨 遠位端		1	
U-34	IIIbL	402	シカ	距骨?脛骨滑車	?	1	
U-34	IIIbL	403	不明	部位不明		1	
U-34	IIIbL	404	哺乳綱	大腿骨 遠位骨幹	?	1	シカ?
U-34	IIIbL	405	シカ	下顎M3	L	1	W.I.6 歯根有
U-34	IIIbL	406	哺乳綱	長管骨		多数	
U-34	IIIbL	407	哺乳綱	長管骨		多数	
U-34	IIIbL	408	哺乳綱	長管骨		多数	
U-34	IIIbL	409	哺乳綱	長管骨		多数	
U-35	IIIbL	410	シカ	中足骨 骨幹背側		1	
AE-36	IIIbL	411	シカ	中足骨 骨幹背側		2	
AE-36	IIIbL	412	哺乳綱	部位不明		3	
AD-37	IIIbL	413	シカ	白歯歯冠 破片		9	
AD-34	IIIbL	414	シカ	白歯歯冠 破片		5	
AD-34	IIIbL	415	シカ	白歯歯冠 破片		多数	
AD-34	IIIbL	416	シカ	白歯歯冠 破片		多数	
AD-34	IIIbL	417	シカ	白歯歯冠 破片		多数	
AD-34	IIIbL	418	シカ	白歯歯冠 破片		多数	
AD-34	IIIbL	419	シカ	白歯歯冠 破片		多数	
AD-34	IIIbL	420	シカ	白歯歯冠 破片		多数	
AD-35	IIIbL	421	シカ	白歯歯冠 破片		8	
AD-35	IIIbL	422	シカ	白歯歯冠		1	
U-37	KR	423	シカ	白歯歯冠 破片		多数	攪乱
X-40	IIIbL	424	シカ	歯冠 破片		多数	
V-44	IIIbL	425	哺乳綱	部位不明		多数	細片 被熱
AE-40	IIIbL	426	シカ	角 破片		1	
AE-40	IIIbL	427	シカ	角 破片		1	
不明	不明	429	哺乳綱	部位不明		多数	取り上げ番号不明
不明	不明	432	シカ	角? 破片		多数	取り上げ番号不明
不明	不明	433	哺乳綱	部位不明		2	取り上げ番号不明
不明	不明	434	シカ	上腕骨 遠位端	L	1	取り上げ 番号不明 B288に混入

表2 ハンドピック法動物遺存体同定一覧表 近現代

遺構/ グリッド	層位	No.	出土 動物	部 位	L/R	点数	備 考
I P-01A	I	435	ウマ	下顎骨I-3,PM1-M3	L	1	他にR:I1-3
I P-01A	I	436	ウマ	上腕骨	L	1	
I P-01A	I	437	ウマ	橈骨	L	1	
I P-01A	I	438	ウマ	手根骨基節・ 中節種子骨		1	写真有
I P-01A	I	438	ウマ	三角骨	L	1	
I P-01A	I	439	ウマ	手根骨蹄種子骨		1	
I P-01A	I	440	ウマ	手根骨月状骨	L	1	
I P-01A	I	441	ウマ	手根骨月状骨	L	1	
I P-01A	I	442	ウマ	手根骨有頭骨	L	1	
I P-01A	I	443	ウマ	手根骨有鈎骨	L	1	
I P-01A	I	444	ウマ	中手骨	L	1	
I P-01A	I	445	ウマ	基節骨		1	
I P-01A	I	446	ウマ	中節骨		1	
I P-01A	I	447	ウマ	末節骨		1	
I P-01B	I	448	ウマ	下顎骨pM1-3?	R	1	
I P-01B	I	449	ウマ	脛骨?	?	1	
I P-01B	I	450	ウマ	上腕骨	L	1	
I P-01B	I	451	ウマ	中手骨	L	1	
I P-01B	I	453	ウマ	中手骨	L	1	
I P-01B	I	454	ウマ?	部位不明	?	1	
I P-02	I	456	ウマ	下顎骨pM1-3	L	1	
I P-02	I	457	ウマ	尺橈骨	L	1	
I P-02	I	458	ウマ	中手骨	L	1	
I P-02	I	459	ウマ	中手骨未癒合 遊離遠位端	L	1	
I P-02	I	460	ウマ?	手根骨未癒合 遊離骨端		1	
I P-02	I	461	ウマ?	手根骨未癒合 遊離骨端		1	
I P-02	I	462	ウマ	手根骨部位不明		1	
I P-02	I	463	ウマ	手根骨部位不明		1	
I P-02	I	464	ウマ?	手根骨未癒合 遊離骨端		1	
I P-02	I	465	ウマ	手根骨部位不明		1	
I P-02	I	466	ウマ	基節骨		1	
I P-02	I	467	ウマ	中節骨		1	
I P-02	I	468	ウマ	末節骨		1	
I P-03	I	469	ウマ	下顎骨I-3,C, PM1-M3	L	1	写真有
I P-03	I	470	ウマ	上腕骨	L	1	
I P-03	I	471	ウマ	尺橈骨	L	1	
I P-03	I	472	ウマ	手根骨月状骨	L	1	
I P-03	I	473	ウマ	手根骨舟状骨	L	1	
I P-03	I	474	ウマ	手根骨小多角骨	L	1	
I P-03	I	475	ウマ	手根骨種子骨	L	1	
I P-03	I	476	ウマ	手根骨種子骨	L	1	
I P-03	I	477	ウマ	手根骨有鈎骨	L	1	
I P-03	I	478	ウマ	手根骨豆状骨	L	1	
I P-03	I	479	ウマ	手根骨有頭骨	L	1	
I P-03	I	480	ウマ	手根骨蹄種子骨		1	写真有
I P-03	I	481	ウマ	中手骨	L	1	
I P-03	I	482	ウマ	基節骨		1	
I P-03	I	483	ウマ	中節骨		1	
I P-03	I	484	ウマ	末節骨		1	
I P-04	I	485	ウマ	下顎骨pM1-3	R	1	
I P-04	I	486	ウマ	基節骨		1	近位端を欠く
I P-04	I	487	ウマ?	基節骨未癒合 遊離近位端?		1	
I P-04	I	488	ウマ?	部位不明		1	
I P-04	I	489	ウマ?	部位不明	?	1	
I P-04	I	490	ウマ	中手骨遠位端		1	
I P-04	I	491	ウマ?	部位不明未癒合 遊離骨端	?	1	
I P-04	I	492	ウマ?	未癒合遊離骨端	?	1	
I P-04	I	493	ウマ?	部位不明	?	1	
I P-04	I	494	ウマ	中節骨		1	
I P-04	I	495	ウマ?	部位不明		1	
I P-04	I	496	ウマ	尺橈骨	L	1	
I P-04	I	497	ウマ	中手骨	L	1	
I P-05	I	498	ウマ	下顎骨pM1-3	R	1	幼体
I P-05	I	499	ウマ	橈骨未癒合 遊離遠位端	L	1	
I P-05	I	500	ウマ	中節骨未癒合 遊離近位端		1	
I P-05	I	502	ウマ	手根骨有頭骨	L	1	
I P-05	I	503	ウマ	手根骨月状骨	L	1	
I P-05	I	504	ウマ	基節骨未癒合遊離 近位端		1	
I P-05	I	505	ウマ	橈骨未癒合遊離 近位端	L	1	

遺構/ グリッド	層位	No.	出土 動物	部 位	L/R	点数	備 考
I P-05	I	506	ウマ	手根骨豆状骨	L	1	
I P-05	I	507	ウマ	手根骨舟状骨	L	1	
I P-05	I	508	ウマ	尺橈骨	L	1	
I P-05	I	509	ウマ	中手骨	L	1	
I P-05	I	510	ウマ	基節骨		1	
I P-05	I	511	ウマ	中節骨		1	
I P-05	I	512	ウマ	末節骨		1	
I P-06	I	513	ウマ	下顎骨 PM1-M3	L	1	
I P-06	I	514	ウマ	上腕骨	L	1	
I P-06	I	515	ウマ	手根骨有頭骨	L	1	写真有
I P-06	I	516	ウマ	手根骨舟状骨	L	1	写真有
I P-06	I	517	ウマ	手根骨豆状骨	L	1	写真有
I P-06	I	518	ウマ	手根骨種子骨		1	写真有
I P-06	I	519	ウマ	手根骨三角骨	L	1	写真有
I P-06	I	520	ウマ	手根骨月状骨	L	1	写真有
I P-06	I	521	ウマ	手根骨有鈎骨	L	1	写真有
I P-06	I	522	ウマ	尺橈骨	L	1	
I P-06	I	523	ウマ	中手骨	L	1	
I P-06	I	524	ウマ	基節骨		1	
I P-06	I	525	ウマ	中節骨		1	
I P-07	I	526	ウマ	下顎骨PM2-M3	L	1	切歯有
I P-07	I	527	ウマ	上腕骨	L	1	
I P-07	I	528	ウマ	手根骨月状骨	L	1	
I P-07	I	529	ウマ	手根骨舟状骨	L	1	
I P-07	I	530	ウマ	手根骨有頭骨	L	1	
I P-07	I	531	ウマ	手根骨種子骨		1	
I P-07	I	532	ウマ	尺橈骨	L	1	
I P-07	I	533	ウマ	手根骨三角骨	L	1	
I P-07	I	534	ウマ	手根骨小多角骨	L	1	写真有
I P-07	I	535	ウマ	手根骨有鈎骨	L	1	
I P-07	I	536	ウマ	中手骨	L	1	
I P-07	I	537	ウマ	基節骨		1	
I P-07		538					欠番
I P-08	I	539	ウマ	下顎骨 PM1-M3	L		
I P-08	I	540	ウマ	上腕骨	L	1	
I P-08	I	541	ウマ	尺橈骨	L	1	
I P-08	I	542	ウマ	手根骨有頭骨	L	1	
I P-08	I	543	ウマ	手根骨舟状骨	L	1	
I P-08	I	544	ウマ	手根骨豆状骨	L	1	
I P-08	I	545	ウマ	手根骨有鈎骨	L	1	
I P-08	I	546	ウマ	種子骨	Lの LR	2	
I P-08	I	547	ウマ	手根関節			
I P-08	I	548	ウマ	手根骨小多角骨	L	1	
I P-08	I	549	ウマ	手根骨小多角骨	L	1	
I P-08	I	550	ウマ	第二・三・四中手骨	L	1	
I P-08	I	552	ウマ	第二指骨		1	
I P-08	I	553	ウマ	第三指骨		1	

表3 フローテーション法動物遺存体同定表  
擦文文化期

遺構種別	遺構名	層位	層位備考	動物	出土部位	左右	点数	備考		
擦文期 住居 (IIIH-01) 関連遺構	III F-12	III bL	灰層?	魚網	頸椎?	-	1	コイ科魚類?		
				シカ	中手骨 骨幹背側	?	1	破片		
				哺乳綱	部位不明	-	67	他に細片		
	III F-13	III bL	地山 被熟層?	上部 黒色土	シカ	第二・五指趾 基節骨遠位端	?	-	-	
				コイ科	椎骨破片	-	5	-		
				サケ属	椎骨破片	-	1	-		
				サケ科	鰭棘破片	-	2	-		
				コイ科	椎骨破片	-	1	-		
				サケ属	椎骨破片	-	1	-		
	III F-14	III bL	地山 被熟層?	上部 黒色土	哺乳綱	部位不明	-	6	他に細片	
				哺乳綱	部位不明	-	8	他に細片		
	III F-15	III bL	ピット 埋土	上部 黒色土	サケ科?	部位不明破片	-	3	-	
				魚網	頸椎破片	-	1	-		
				サケ科	鰭棘破片	-	6	-		
	III F-16	III bL	地山 被熟層?	2	灰層?	サケ属	椎骨破片	-	3	他に細片
				サケ科	鰭棘破片	-	23	-		
				サケ属	歯	-	1	-		
				サケ属	椎骨破片	-	13	-		
不明				部位不明	-	19	-			
コイ科				椎骨破片	-	2	-			
III F-16B	III bL	地山 被熟層?	シカ	種子骨	-	2	-			
			哺乳綱	部位不明	-	25	他に細片多数			
			サケ属	椎骨破片	-	1	-			
			サケ科	頸椎破片	-	1	-			
III F-17	III bL	-	サケ科	鰭棘他破片	-	31	-			
			シカ	種子骨	-	1	-			
			哺乳綱	部位不明	-	9	他に細片			
III BB-03	III bM	-	シカ	歯冠破片	-	7	-			
			哺乳綱	部位不明	-	5	他に細片			
擦文期 住居 (IIIH-02) 関連遺構	III F-18	III bL	-	哺乳綱	部位不明	-	11	微細片		
				サケ属	椎骨破片	-	2	-		
	III F-19	III bL	地山 被熟層?	サケ科	鰭棘	-	2	-		
				シカ	中手・中足骨 近位端破片	?	1	-		
				哺乳綱	部位不明	-	11	他に細片多数		
				コイ科	椎骨破片	-	1	-		
				サケ属	椎骨破片	-	1	-		
				イトウ?	椎骨破片	-	1	-		
	III P-08	III bL	-	魚網	椎骨破片	-	2	-		
				哺乳綱	部位不明	-	15	他に細片多数		
III BB-02	III bL	-	コイ科	椎骨破片	-	1	-			
			哺乳綱	部位不明	-	14	他に細片			
擦文期 集中区1	III P-01	1	-	シカ?	末節骨 遠位端?	?	1	-		
				哺乳綱	部位不明	-	多数	-		
	III F-08	III bU	灰層?	魚網	部位不明	-	32	-		
				哺乳綱	部位不明	-	7	他に破片		
	III F-01	III bL	-	哺乳綱	部位不明	-	11	-		
				哺乳綱	部位不明	-	20	細片		
	III F-02	III bL	-	サケ属	椎骨破片	-	4	微細片		
				哺乳綱	管骨 (四肢骨)	?	5	他に細片		
	III F-03	III bL	地山 被熟層?	サケ科	椎骨破片	-	1	他に微細片		
				哺乳綱	部位不明	-	10	他に細片		
	III F-05	III b	-	哺乳綱	部位不明	-	58	他に細片		
				哺乳綱	部位不明	-	15	他に微細片		
III F-07	III bL	地山 被熟層?	上部 黒色土	魚網	鰭棘	-	1	微細片		
			魚網	鰭棘	-	36	微細片			
			哺乳綱	部位不明	-	6	他に微細片			
III F-09	III bM	-	不明	部位不明	-	12	微細片			
			サケ属	椎骨破片	-	1	破片			
III F-10	III bL	-	魚網	椎骨破片	-	1	細片			
			哺乳綱	部位不明	-	7	他に細片			
			魚網	部位不明	-	12	微細片			
III F-21	III bL	-	哺乳綱	部位不明	-	8	他に細片			
			不明	部位不明	-	1	-			
III F-22	III bM	-	コイ科?	椎骨破片	-	2	-			
			哺乳綱	部位不明	-	17	他に細片多数			

遺構種別	遺構名	層位	層位備考	動物	出土部位	左右	点数	備考
擦文期 礫集中	III SB-01	III bM	-	シカ	歯冠破片	-	52	-
				シカ	末節骨? 遠位端一部	-	1	-
				哺乳綱	部位不明	-	28	-
	III SB-02	III bM	-	サケ属	椎骨破片	-	1	-
				魚網	部位不明	-	10	-
				哺乳綱	部位不明	-	20	他に細片

表4 フローテーション法動物遺存体同定表  
縄文時代

遺構種別	遺構名	層位	層位備考	動物	出土部位	左右	点数	備考
縄文期 焼骨片 集中	V BB-01	Va	-	魚網	部位不明	-	5	-
				小型 哺乳綱?	種子骨一部?	-	1	-
				シカ	関節突起	R	1	-
				シカ	関節突起	L?	1	-
				シカ	歯冠破片	-	3	-
				シカ	種子骨	-	4	-
				シカ	末節骨遠位端	-	2	-
				シカ	末節骨近位端	-	6	-
				シカ	中節骨遠位端 一部	-	5	-
				シカ	基節骨遠位端 破片	-	2	-
				シカ	基節骨近位端	-	2	-
				シカ	中節骨 あるいは 基節骨遠位端	-	6	-
				シカ	第二・五指趾 末節骨近位端	-	1	-
				シカ	第二・五指趾 基節骨近位端 一部	-	1	-
				シカ	中手・中足骨 遠位滑車一部	-	7	-
				シカ	中手・中足骨 近位端一部	-	1	-
				縄文期包舎類	AE-32	V bU	-	哺乳綱
				哺乳綱	部位不明	-	38	-

### 第3節 オニキシベ4遺跡出土の植物種子

Project Seeds 考古植物研究会

椿坂恭代

#### 1. 遺跡の所在と性格

遺跡の名称：オニキシベ4遺跡 (J-13-89)

所在地：北海道勇払郡厚真町字幌内

発掘調査期間：平成24年5月9日～同年10月31日

発掘調査面積：4,103m<sup>2</sup>

調査担当者：乾哲也、荻野幸男、奈良智法

遺跡の年代：縄文時代早期・中期～晩期、続縄文文化期、擦文文化期

遺跡の立地：オニキシベ4遺跡は、厚真川河口から約30kmの厚真川上流域、厚真町市街地から北東約15kmの夕張産地南端部に位置する。厚真川と鬼岸辺川との合流点に近接する標高56.27m～58.8mの河岸段丘上に立地する。

#### 検出遺構

Ⅲ層：擦文文化期 住居跡2軒、集中区1ヶ所（炉跡、獣骨集中、土器集中、礫集中含む）、掘立柱建物跡3軒、土坑1基、屋外炉13ヶ所、杭列跡3条、土器集中5ヶ所、礫集中3ヶ所。

Ⅴ層：縄文時代中期堅穴住居跡1軒、集中区1ヶ所、Tピット18基、土坑15基、土器集中16ヶ所、礫集中1ヶ所、剥片集中2ヶ所。

その他の詳細については本編を参照していただきたい。

#### 2. 扱った資料

分析対象として扱った資料は、平成24年度に調査した遺構からのものである。Ⅲ層（擦文文化期後期）とⅤ層（縄文時代後晩期）の遺構から土壌を採取し、フローテーション処理を行い、その後、第1次選別で炭化植物種子などを抽出し送付されてきたものである。資料は実体顕微鏡で観察と撮影を行った。検出された植物種子の出土表は第1・2表に示しておく。

#### 3. 検出された植物種子

オオムギ *Hordeum vulgare* L. (図版1-1a：ⅢF-07から出土)

擦文文化期の遺構（ⅢF-07）から1粒出土。果実は紡錘状楕円形。腹面中央には縦溝があり、背面はほぼ平らで楕円形の胚がある。資料は腹面、背面に残る穎の剥離の痕跡が見られないことと、粒形の特徴からみて裸性のオオムギである（1988 椿坂）。ⅢF-14の遺構から出土したオオムギは煮沸による変形が大きく詳細な分類は出来なかった。計測値はL4.10×W4.00×T2.30 (mm)

ヒエ属 *Echinochloa* Beauv. (図版1-2a：ⅢF-18から出土)

擦文文化期の遺構（ⅢF-18）から1粒出土。穎果は広楕円形。背面には果長の2/3ほどを占める楕円形の大きな胚がある。その反対側の腹面にはへら型状のへソがある（1993 椿坂）。出土種子は内・外穎のとれた穎果の状態で出土。粒形の特徴から栽培型ヒエ *Echinochloa utilis* Ohwi et Yabunoとして分類される。計測値はL1.70×W1.35×T0.90 (mm)

**キビ *Panicum miliaceum* L.** (図版1-3a : IIIF-18から出土)

擦文文化期の遺構 (III F-14・18、III SB-02) から合わせて5粒出土。穎果はやや球形または広卵形。背面には果長の1/2ほどの胚があり、その反対側の腹面にはへら形状のヘソがある (1993 椿坂)。出土種子はすべて内・外穎のとれた穎果の状態出土。計測値はL2.00×W1.60×T1.35 (mm)

**シソ属 *Perilla* L.** (図版1-4a : III P-08から出土)

擦文文化期の遺構 (III F-03・18・19、III P-08) から合わせて4粒出土。種子は扁平球形で種子の表面に大きな網目状の模様がある。エゴマ *Perilla frutescens* Britton var. *japonica* Haraかシソ *Perilla frutescens* Britton var. *acuta* Kudoのいずれであるかは、両者とも形態と表皮の構造が類似している部分が多く分類は困難である。計測値はL1.70×W1.45×T1.25 (mm)

**ササ属 *Sasa Makino et Shibata*** (図版1-5a : III F-13から出土)

擦文文化期の遺構 (III F-02・03・13・14・19、III SB-02) から合わせて10粒と7片出土。果実は狭卵形でやや扁平で先端は細く尖っている。背面はわずかに曲線をなし、果実下部に半円形の小さな胚がある。腹面はよく湾曲する。これらの特徴はササ属 *Sasa Makino et Shibata*の種子と判断される。いずれも被熱による変形を受けている。計測値はL4.80×W2.70×T2.60 (mm)

**タデ科 POLYGONACEAE** (図版1-6 : III F-14から出土)

擦文文化期の遺構 (III F-14・18) から出土。瘦果は三角状紡錘形。タデ科種子は形態の類似した種類が多いため、詳細な分類は困難である。計測値はL2.10×W1.20 (mm)

**キハダ属 *Phellodendron* Rupr.** (図版1-7・8 : III F-14から出土)

擦文文化期の遺構 (III F-01・07・08・13・14・18、III P-01・08) からと縄文時代後晩期の遺構 (VBB-01) から出土。果実は球形で中に5の小核があり、各1個の種子を含む。種子は半横広卵形で表皮に浅い凹みによる網目模様がある。これらの特徴からキハダ *Phellodendron amurense* Rupr. と判断される。7の計測値はL7.20×W6.2 (mm)、8 : L3.60×W2.70×T1.60 (mm)

**ブドウ科 VITIDACEAE** (図版1-9a : III F-18から出土)

擦文文化期の遺構 (III F-02・03・13・14・16・18・19) から出土。堅果は広倒卵形。背面は円みがあり、倒へら形の凹みがある。腹面の中央に稜をなし稜の両側に針形の凹みがある。これらの特徴からブドウ属に分類される。形態の類似した種子にヤマブドウ *Vitis coignetiae* Pulliat、サンカクズル *Vitis flexuosa* Thunb.、エビヅル *Vitis ficifolia* Bunge var. *lobata*、があるが、サンカクズル、エビヅルの分布域は北海道の南部に限られているという。したがって、形態の特徴からヤマブドウ *Vitis coignetiae* Pulliatであろう。計測値はL4.50×W3.80×T2.50 (mm)

**サクラ属 *Prunus* L.** (図版2-10a : III F-18から出土)

擦文文化期の遺構 (III F-18・III SB-02) から出土。核は広楕円形。腹面には縦にベルト状の隆条があり核面は粗面である。サクラ属の形態を示す。出土資料は保存状態が悪いので詳細な分類はできなかった。計測値はL4.20×W3.80 (mm)

**ミズキ属 *Cornus* L.** (図版2-11a : III BB-02から出土)

擦文文化期の遺構 (III F-02) から出土。核は偏球形で浅い縦溝があり先に穴がある。この特徴からミズキ *Cornus controversa* Hemsleyと判断される。計測値はL3.00 (mm)

**ミツバウツギ科 STAPHYLEACEAE** (図版2-12 : III F-18から出土)

擦文文化期の遺構(ⅢF-18)から出土。種子の側面は倒卵形。その下部には横楕円形で深く凹んだ大きいヘソがある。このような特徴からミツバウツギ属 *Staphylea* Linn. と判断される。計測値はL4.10×W3.20 (mm)

**モクレン科 MAGNOLIACEAE** (図版2-13a: ⅢF-03から出土)

擦文文化期の遺構(ⅢF-03・07・22・19、ⅢH-01)から出土。種子は腎臓状横楕円形でやや扁平。背面は円みがあり種皮は平滑で光沢は弱い。出土資料は破片であったので詳細な分類は出来なかった。形態からはコブシ *Magnolia kobus* DC. に似る。計測値はL6.50×W7.50 (mm)

**コナラ属 QUERCUS L.** (図版2-14a・15a: ⅢF-14から出土)

擦文文化期の遺構(ⅢF-18・14・19、ⅢSB-02)から子葉の細片とヘソが出土。子葉は長楕円形で表面には縦条がある。このような形態を持つ種類にはミズナラ *Quercus crispula* Blume,、コナラ *Quercus serrata* Thunb.、カシワ *Quercus dentata* Thunb. などがある。出土子葉は細片で詳細な分類は出来なかった。14aの計測値はL9.20 (mm)、15aの計測値はL2.40×W2.20 (mm)

**クルミ属 Juglans L.** (図版2-16: ⅢSB-02から出土)

擦文文化期の遺構(ⅢF-03・10・14・19・13・16・18・19、ⅢSB-02)からと縄文時代後晩期の遺構(VBB-01・VF-01)から出土。内果皮はすべて細片である。核表面には縦に浅い溝状の模様がある。これらの特徴からオニグルミ *Juglans sieboldiana* Maximと判断される。破片のため計測はしていない。

**冬芽** (図版2-17: ⅢF-18から出土)

擦文文化期の遺構(ⅢF-20・18)から出土。現生の比較資料がないので、詳細な分類は出来なかった。計測値はL2.40×W1.80 (mm)

**不明1** (図版2-18a・21: ⅢF-18・19から出土。20a: ⅢF-18から出土。)

18aの資料: 擦文文化期の遺構(ⅢF-19)から1粒出土。種子の形態と大きさはイネに似ているが、胚のある部分は大きく欠けており、胚の確認が出来なかった。また、種子表面の組織もイネと異なることから、不明と判断した。計測値はL3.60×W2.20×T1.60 (mm)

その他、19a, 20a, 21の不明資料は現生の比較資料がないので同定できなかったものを図示しておく。19aの計測値はL3.40×W1.10×T1.00 (mm)、20a: L4.40×W3.00×T2.60 (mm)、21: L3.40×W1.80×T1.40 (mm)

**菌類?** (図版2-22a: ⅢSB-02から出土)

擦文文化期の遺構(ⅢF-03・ⅢSB-02)から出土。表面は乳頭状の突起があり、その大きさは個体によって異なる。種子や堅果類ではないようであるが、その実態は不明である。破片のため計測はしていない。

その他にヒエかキビのいずれであるが、変形と破損で分類できなかったので不明ミレットとして扱った。また、保存状態が窮めて悪いので、分類できなかった資料を不明2、不明炭化物として扱った。

#### 4. 若干のコメント

擦文文化期の層準からはオオムギ（裸性）、ヒエ属、キビ、シソ属がセットになる栽培雑穀が検出された。野生植物は草本のタデ科と木本類のササ属、キハダ属、ブドウ科、サクラ属、ミズキ属、ミツバウツギ科、モクレン科、コナラ属、クルミ属、冬芽が検出された。いずれも、集落の周辺に認められる草本と木本類で可食性、あるいは利用可能のものが多い。

今回の調査で、裸性オオムギが検出されたので、北海道におけるオオムギの出土状況を見て行くこととする。

日本出土のオオムギには形態的にみて長粒（皮性）と短粒（裸性）の二種類が知られている。北海道ではこの二種類が地域を異にして存在する（椿坂 1998）。皮性オオムギの分布は南西部、石狩低地帯中央地区に限られ、これには小型のコムギが共伴するというパターンが普通である。裸性オオムギの分布は、道東、道北部のオホーツク文化、擦文文化に限られており、コムギの共伴例はない。その後の調査で北海道石狩低地帯中央部の擦文文化後期の遺跡（吉崎 1989）、石狩低地帯南部の東縁に位置する厚真町域の中世の遺跡にも散見するようになる（吉崎・椿坂 2004）。

ここに厚真町の遺跡から検出されたオオムギの出土状況を見ると、平成14・15年度の調査で厚幌1遺跡の炭化物集中遺構から約880粒回収され、すべて裸性のオオムギでコムギは共伴していない。そのオオムギの年代測定値は西暦13世紀から14世紀に相当する年代が出ており、考古学的所見の推定年代より古くなるという結果であった。その後の調査で擦文文化・アイヌ文化期から裸性オオムギ、コムギのセットで検出され、裸性オオムギの検出例ではコムギは伴わないというパターンであることから、こうした現象は資料の増加を待って検討する事とした（椿坂 2009）。

その後の調査から、オオムギ、コムギのデータが蓄積され、この地域におけるオオムギ、コムギの出現時期の確認が必要になってきた。厚幌1遺跡のオオムギ以外は年代測定を行っていないので、擦文文化期、アイヌ文化期から検出されているオオムギ、コムギの年代測定の実施をお願いしたい。こうした、確認作業を実施することにより、この地域におけるオオムギ、コムギの在り方が見えてくると考えている。

野生植物の中で、ササ属種子とキハダ種子が多く検出された。ササ属は、数十年に一度しか結実しないという植物であるにもかかわらず、縄文時代後期～中・近世、オホーツク文化の遺跡から検出されている状況である。

ササ属種子の利用については、知里によるとこの種子は炊いて飯にしたり、粉末にして団子にした例があるという（知里 1993）。こうした利用例と出土状況から見て食糧資源の一部としていたものと考えられる（2009 山田・椿坂）。

キハダ属はアイヌ民族の利用例から、食用として、秋にこのキハダ果実を大量に採集するという。採集した果実は乾燥して蓄えておき、冬になって特別の料理に使った。その一例から昆布とささげ豆とをいっしょに煮て、どろどろになったところに、果実を入れこれを混ぜ、それが煮える頃にもち栗を一つかみ入れる。さらにこの中にヒルガオの根やオウバユリの鱗茎などを入れてごった煮にする。この料理をSikerpe-rataskepあるいはSikerpeという。その他に薬用としても利用されていた。そして、食用以外にも宗教儀礼上にとって重要な素材であった。アイヌ民族は、キハダは金、ミズキは銀、ハンノキは銅に相当するランクの貴重なものであるとしていた。最も位の高い尊い神に捧

げる木弊は、キハダで製作していたと伝えられている。例えば北海道東部の美幌では熊送りの時にだけこのキハダで作った木弊が捧げられたという(知里 1993)

今回、分析した資料の中でササ属、キハダ属は民族学的な事例を基に検討できる良好な資料を得ることが出来た。

縄文時代後晩期の層準からはキハダ属とクルミ属が少数検出されただけであった。縄文時代の各時期から検出された資料を検討すると、遺跡によってはかなり炭化植物の出土量に隔たりがあり、その原因は不明である。縄文時代の土壌サンプリングについては、いろいろな立場から再検討する必要がある。

#### 引用文献

椿坂恭代

1998「オオムギについて」『道を辿る』245-246 石附喜三男先生を偲ぶ本刊行委員会

1993:「アワ・ヒエ・キビの同定」『先史時代と関連科学』261-281

吉崎昌一先生還暦記念論集刊行会

吉崎昌一

1989「K441遺跡北34条地点出土の植物種子」『K441遺跡北34条地点』70-79、161-163

札幌市文化財調査報告書 XXXVII 札幌市教育委員会

吉崎昌一・椿坂恭代

2004「北海道勇払郡厚幌1遺跡から出土した炭化植物種子」『厚幌1遺跡』241-256 厚幌ダム建設に関わる一般道切り替え工事に伴う埋蔵文化財調査報告書 厚真町教育委員会

椿坂恭代

2009「上幌内モイ遺跡出土の植物種子について」『上幌内モイ遺跡(3)』第2分冊 29-42

厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書3 厚真町教育委員会

知里真志保

1993:「知里真志保著作集」別巻I 分類アイヌ語辞典 植物編・動物編 193-196 平凡社

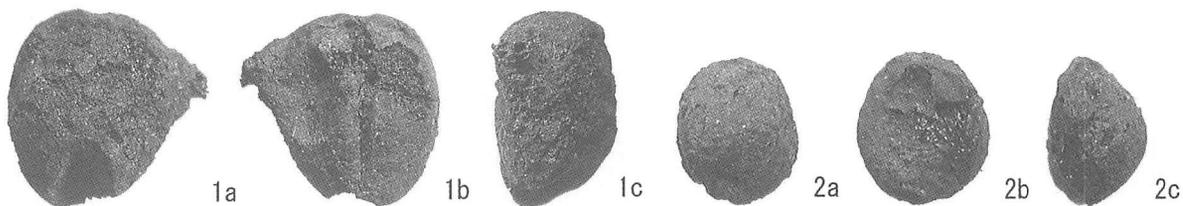
山田悟郎・椿坂恭代

2009:「遺跡から出土したササ属種子について」『北海道開拓記念館研究紀要』37号 13-22

北海道開拓記念館



図版1



オオムギ背面

腹面

側面

ヒエ属背面

腹面

側面



キビ背面

腹面

側面

シソ属背面

腹面

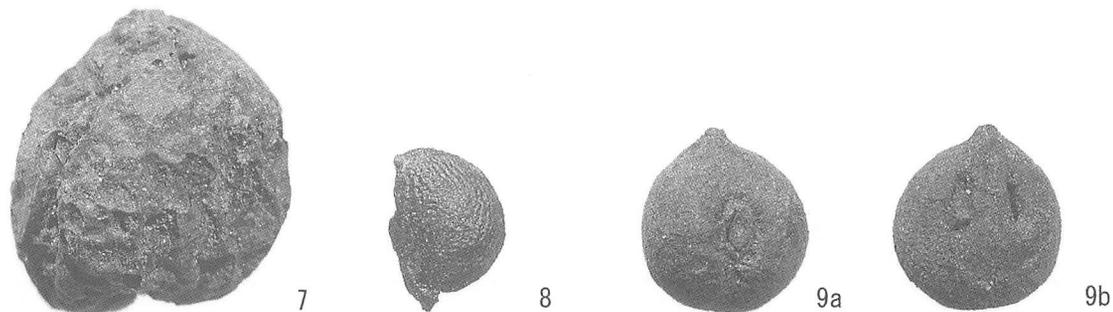


ササ属背面

腹面

側面

タデ科



キハダ属果実

キハダ属種子

ブドウ科背面

腹面

図版2



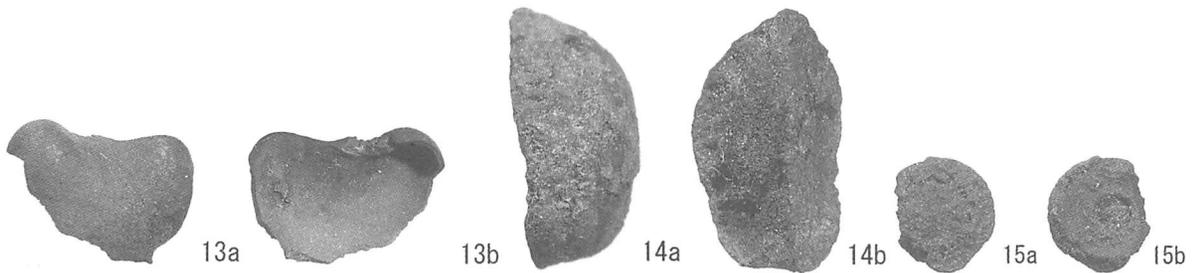
サクラ属表面

内面

ミズキ属表面

内面

ミツバウツギ科



モクレン科表面

内面

コナラ属子葉表面

内面

コナラ属ヘソ

内面



クルミ属内果皮片



冬芽

不明1

腹面

側面



不明1

側面

不明1

側面

不明1

菌類?

内面

## 第4節 オニキシベ4遺跡における花粉分析

アースサイエンス株式会社

岡 孝雄 五十嵐八枝子

### 1. 調査箇所

勇払郡厚真町字幌内 483-3、485-3・10「オニキシベ4遺跡 (J-13-89)」。

### 2. 業務の目的と内容

オニキシベ4遺跡では、擦文文化期後期 (12世紀) の住居跡2軒とこれらに伴う礫や、獣骨の送り場跡と思われる集中区が検出されている。

従来の道内の発掘調査ではアイヌ文化期への移行期に関わる遺跡の調査例はほとんど存在しない。この遺構群の検出はその初例であり、アイヌ文化の成立に関わる貴重な遺跡のため、この遺跡を取り巻く環境的変遷を考慮するためのデータを得ることを目的とする。

また、この遺跡付近では縄文時代後期初頭に発生したと考えられる直下型地震による土石流堆積物 (地滑り) も確認されており、この災害の直前・直後でダム水没地域の遺跡数の増減が判明しつつある。この災害と因果関係にある環境変化について検討するデータを得ることも目的とする。

### 3. 現地サンプリング (遺跡とその近傍の検土杖およびコアサンプラーによる事前調査を含む)

花粉分析試料の採取は、縄文時代中頃以降を対象とし、Ta-c 火山灰下位の腐植層、Ta-c~Ta-b 間の腐植層に対応した、周辺水域湿原で泥炭または有機質泥を採取することが当初の計画であった。そのため、実際の業務が冬期に入ることから、予察的に10月31日に、発掘サイト東側下の流路 (水域) および林地において、検土杖調査を試み、発掘サイト内でも、北東端の境界発掘断面とその下のピットの柱状観察を行った。さらに、これらの予備的な調査でのサンプリングが、十分な成果を得られなかったことから、12月12日に、北東端の境界発掘断面で改めて、腐植層を対象として、サンプリングを行った。

なお、これらとは別に、夏期の7月31日には、炭窯跡付近で、発掘箇所の柱状観察を行っており、その成果も収録した。

#### ①発掘サイト北東側の流水域・林地での検土杖調査とサンプリング (2012年10月31日)

図1に示す3点 (No. 1~No. 3) において検土杖調査を実施した。検土杖は水を含有した泥炭、泥、泥混じり細粒砂などに対しては挿入が容易であるが、礫質部では挿入不能となり、地層の確認はできなくなる。各孔で深度1.7~2m程度で、粗粒な砂質あるいは礫質部に達し、挿入が困難となったものと判断される。

各柱状図を対比した結果から、下位より、i) 泥質極細~細粒砂層 (厚さ1m±)、ii) 中~粗粒軽石層 (15~20cm; Ta-cでNo. 2・No. 3孔で検出)、iii) 火山灰質砂層 (25~90cm; 極細~粗粒と変化が激しくときに泥混じり・軽石質)、iv) 軽石層 (12cm; スコリア混じりの粗~極粗粒でTa-b)、v) 腐植質軽石質砂層 (25cm程度) の層序が確認できる。i層の下位には、①と同様に段丘礫層が存在すると予想される。このように、Ta-bおよびTa-c火山灰は存在するもの、部分的であり、腐植~泥炭層の発達は乏しかった。とりあえず、i層がやや泥質であることから、それに期待してコアサンプラーによるサンプリングを試みたが、iiiの火山灰質砂層にはばまれ途中で困難となり、断

念するに至った。

#### ②建物跡3西側（発掘サイト北西端）での発掘断面の観察（2012年10月31日）

発掘サイトの境界の断面と、その下位のピット部分で、観察を行い柱状図を作成し、サンプリングを試みた。

下位より、i) 砂礫層（段丘礫層；厚さ45cm+）、ii) 黄褐色砂質泥層（50cm）、iii) 腐植層、iv) スコリア混じり中～粗粒褐色降下軽石層（10cm±；Ta-c）、v) 砂質腐植層（10cm±、極細粒）、vi) 粗～極粗粒白色降下軽石層（7cm±；Ta-b）およびvii) 盛土（40cm、攪乱）である。柱状サンプルを採取し、それとは別に花粉分析用に遺跡発掘層序を確認しながら、試料採取を行ったが、花粉分析用には量が足りない判断され、分析には供しなかった。

#### ③建物跡3南南西側壁面でのサンプリング（2012年12月12日）

花粉分析の対象は、③で示したTa-c下位の腐植層、およびTa-c～Ta-b間の腐植層であり、特にTa-cの下位の腐植層中に地震性地滑りによるせき止め沼の決壊に関連したとされる洪水堆積物が挟まれることからその前後での環境変化・植生変化の解明を目的にしている。

そのため、P1（VI層—漸移層—上部）、P2（VI層最上部）、P3（Vc層）、P4（Vb層の中部下）、P5（洪水堆積物）、P6（Va層—Ta-cの直下—）、P7（IIIc層上部）、P8（IIIb層中部）、P9（IIIa層—Ta-b直下—）の9試料を採取した。採取にあたっては、水平方向に十分な量の確保に努めた

## 4. 花粉分析

### （1）試料

試料は遺跡壁面から採取したP-1～P-9の9点である。試料の層相はP-1:淡褐色粘土、P-2:黒色粘土、P-3:黒色粘土、P-4:黒色粘土、P-5:黒色粘土、P-6:黒色砂質粘土、P-7:黒ボク土、P-8:黒ボク土、P-9:火山灰混じり粘土である。

このうちのP-7とP-8の黒ボク土は、経験上花粉を含まない堆積物であることから、この2点を除いた7試料について分析を行った。

### （2）試料の分析法

各試料200gについて、次の操作で処理を行った。

1. 試料が粘土質であるため、よく粉碎したあと50%のフッ化水素酸を試料の倍量加えてよく攪拌し、ドラフト内で24時間放置して鉱物質を除去した。

2. フッ化水素酸を除去した後、2度水洗いを行った。

3. 10%の苛性カリ液を加えて24時間放置した後、上液を捨てる作業を数回繰り返してフミン酸を取り除いた。

4. 比重2の塩化亜鉛溶液を加えてよく攪拌した後、2000回転/分で1時間遠心分離した。

5. 浮遊物を集めて2回水洗いした。

6. 酢酸を加えて30分湯煎（80℃）で加熱した後、アセトリシス液（無水酢酸：硫酸の9：1混合液）により、試料中の多糖類を分解した。

7. 蒸発皿に残渣をいれ、水を加えて約15分後に静かに上液を捨てる作業を繰り返して細粒物を除いた。

8. 残渣をとり、水を除去して、プレパラートを作成した。

### (3) 分析結果

7 試料はすべて炭質物（燃焼炭微粒子）を豊富に含むものの、花粉や胞子はきわめて僅かか、あるいは全く含んでいなかった。含まれる炭質物の形状は試料によってやや異なる。

P1 は花粉や胞子はまったく含まず、不定形の炭質物のみを含む（写真1）。

P2 も花粉・胞子はまったく含まず、球形や不定形の炭質物のみを含む（写真2）。

P3 は花粉・胞子はまったく含まず、大小さまざまな長方形の炭質物を含む（写真3）。

P4 は長方形や不定形などの炭質物が多い（写真4）が、トウヒ属の花粉1個（写真5）や珪酸体と思われるものを少数含む。

P5 は球形の炭質物を多く含む（写真6）が、全く炭化していない単溝型のシダ胞子（写真7）や褐色のゼンマイ（写真8）やヒカゲノカズラの胞子（写真9）が含まれた。

P6 は炭質物は少なく、褐色の不定形の残渣が多く、花粉・胞子は全く含まなかった（写真10）。

P9 は不定形の炭質物の密集体であるが、菌類胞子（写真12）やコナラ属の花粉（写真11）1個が含まれていた。

### (4) 考 察

花粉、胞子は酸化バクテリアにより分解されやすいため、湿原や湖底、海底など水中に堆積した場合には化石として保存されるが、その他の環境に堆積した場合には分解してしまい保存されない。本試料は黒色を呈しているが、泥炭のようなフミン酸を含む水中堆積物ではなく、黒色微粒炭による着色である。阪口（1987）によると、黒ボク土は人類による燃焼炭であり、人の野焼き・山焼きにより発生した炭が集積したものと見られている。

分析した7試料のうち、P4、P5、P9の3試料中には新鮮な花粉や胞子が僅かだが含まれている。これらはおそらく、露頭壁面に空中を浮遊していた花粉・胞子が付着したものと考えられる。

### (5) まとめと問題点

あらかじめ、Ta-b および Ta-c 火山灰（降下軽石）の間およびそれらの上下位の腐植土様部分を花粉分析の対象とすることを計画した。しかし、最初に意図した、水域付近では、Ta-b の存在は確認したが、Ta-c の存在は確認できず、Ta-b の下位には厚さ 0.5~1m 前後の軽石・火山灰質の砂層が存在していた。恐らく、これは流水により、遺跡周辺の火山灰物質が再堆積したものである。そのため、花粉分析に適した泥炭・泥質物のコアは採取できなかった。次善の策として、遺跡発掘サイト壁面の腐植土様部分から試料を採取し、花粉分析を試みたが、花粉分析の考察（4）で述べたように、人類による燃焼炭と見なされる黒ボク土のため、二次的な付着物（混入）以外には花粉化石は全く見いだされなかった。隣接の厚幌1遺跡でも同様な層準について花粉分析が試みられている（厚真町教育委員会，2004）。ここでも黒ボク状の腐植土からの花粉化石の検出は一般的には困難であったが、Ta-b の直下のⅢa層で200個以上の花粉個数をえており、V層の一部でも検出している。そのため、発掘断面の広範囲でのサンプリングの吟味も必要であったかもしれない。

今回は現地での正式な調査期間が厳冬期のため、河川周辺などより適切な場所で花粉化石の含有する可能性のある堆積物を採取することは困難であった。条件が許せば、あらためて、雪解けをまって、本遺跡周辺で適切なサンプリングを行ない、花粉分析に再チャレンジを試みたいと考える。なお、本遺跡の近傍に限定しないのであれば、富里2遺跡の東側の河川堆積物（沖積層）中で、局所的に発達した泥炭層を対象とすれば極めて精度の高い解析、環境復元が可能になると考えられる。

参考文献

厚真町教育委員会（2004）：厚幌1遺跡—厚幌ダム建設に係わる一般道道切替工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一．386P.

厚真町教育委員会（2010）：幌内5遺跡（1）、富里2遺跡、ニタツプナイ遺跡（2）—国営土地改良事業勇払東部（二期）地区厚幌導水路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書3一．304P.

阪口 豊（1987）黒ボク土文化。科学，57，352-361.

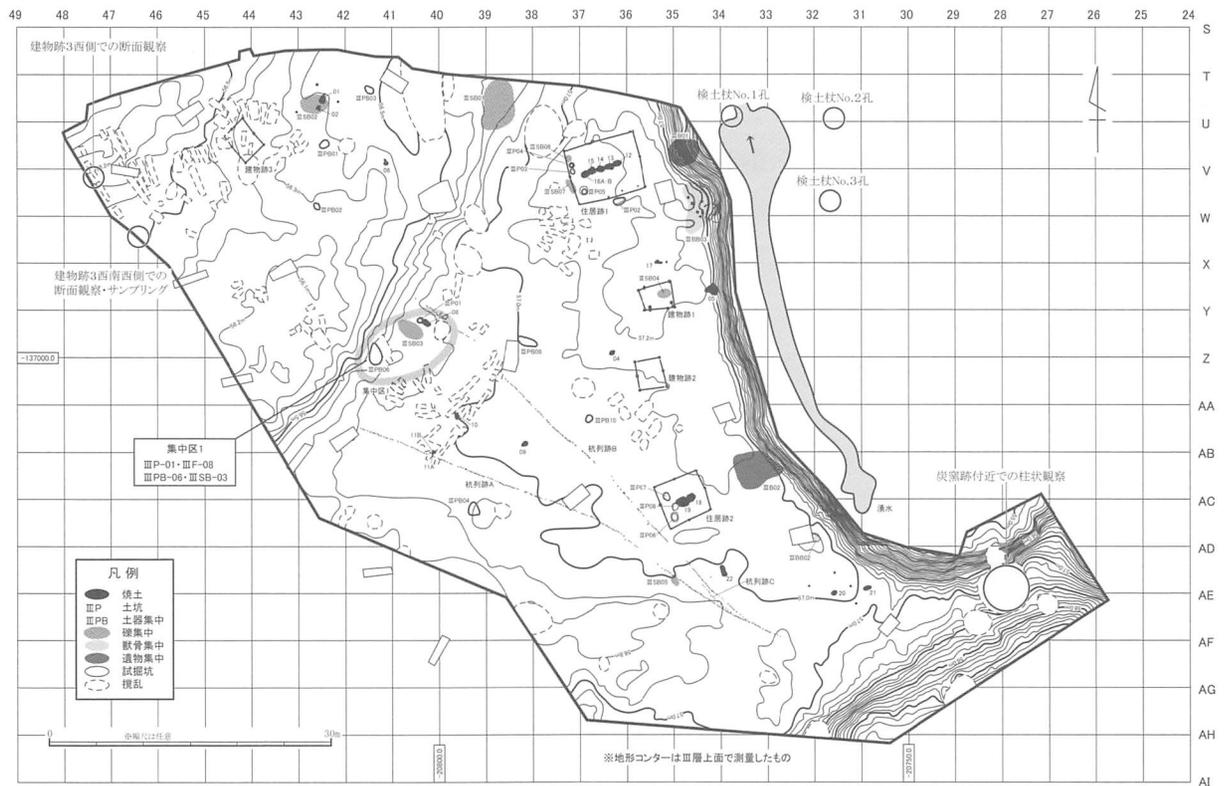


図1 オニキシベ4遺跡 発掘サイト遺構配置図と柱状図作成・サンプリング地点

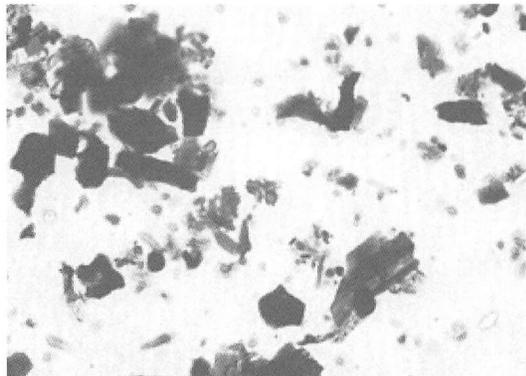


写真1 試料 P1中の微粒炭 (200倍)

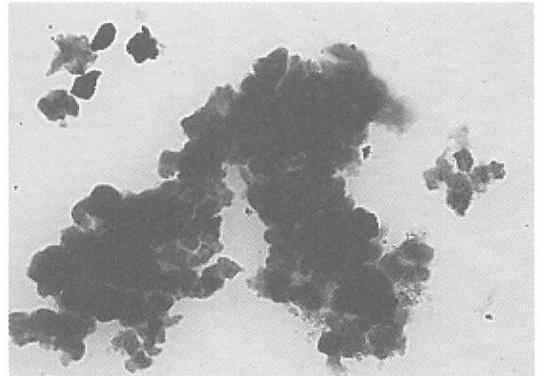


写真2 試料 P2中の微粒炭 (200倍)

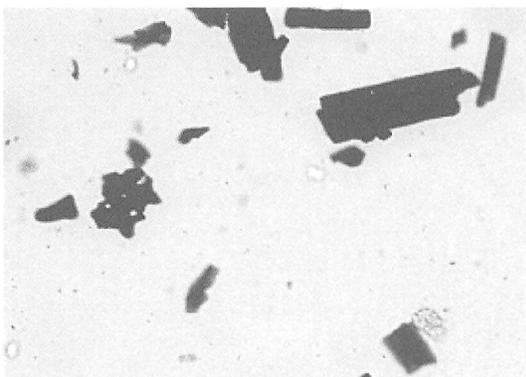


写真3 試料 P3中の微粒炭 (200倍)

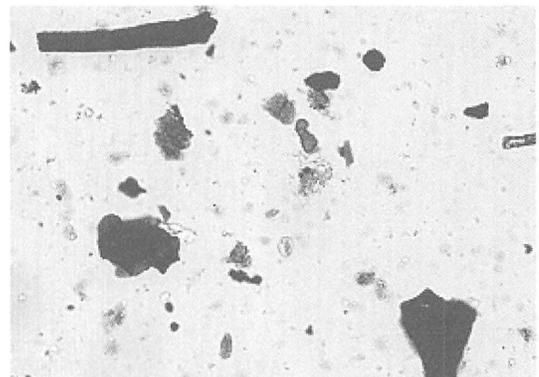


写真4 試料 P4中の鏡下写真 (400倍)



写真5 試料 P4中のトウヒ属 (400倍)

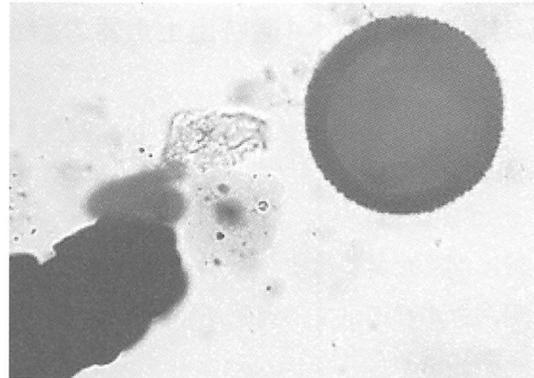


写真6 試料 P5中の微量炭 (200倍)

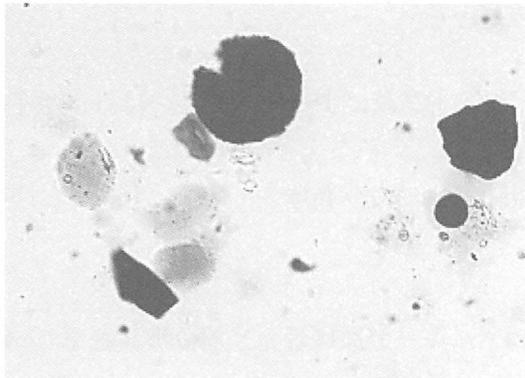


写真7 試料 P5中の単溝型シダ孢子 (400倍)

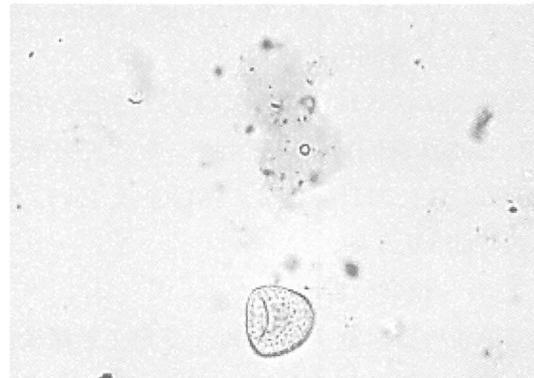


写真8 試料 P5中のゼンマイ孢子 (400倍)



写真9 試料 P5中のヒカゲノカズラ属 (400倍)

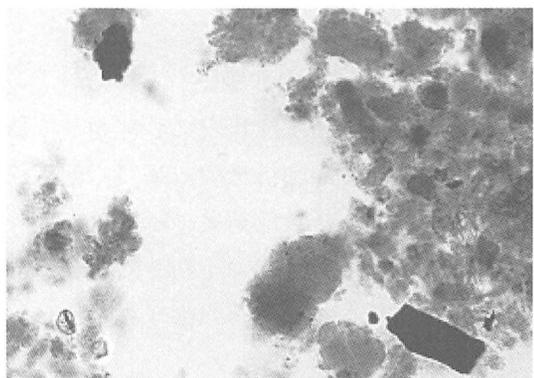


写真10 試料 P6中の微粒炭 (400倍)

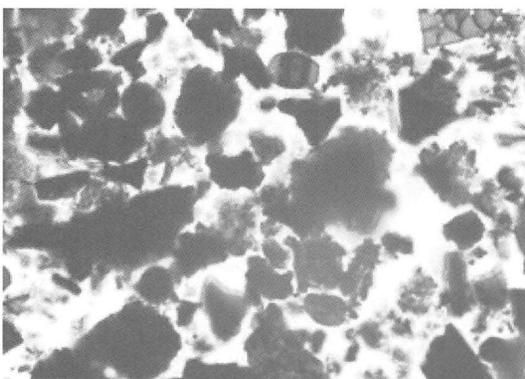


写真11 試料 P9 中の鏡下写真  
菌類孢子を含む (400倍)



写真12 試料 P9中の鏡下写真  
コナラ属花粉を含む (400倍)

## 第5節 オニキシベ4遺跡出土土器の胎土分析

(株)第四紀地質研究所

井上 巖

### 1 実験条件

#### 1-1 試料

分析に供した試料は表1の胎土性状表に示す通りである。

X線回折試験に供する遺物試料は洗浄し、乾燥したのちに、メノウ乳鉢にて粉碎し、粉末試料として実験に供した。

化学分析は土器をダイヤモンドカッターで小片に切断し、表面を洗浄し、乾燥後、試料表面をコーティングしないで、直接電子顕微鏡の鏡筒内に挿入し、分析した。

#### 1-2 X線回折試験

土器胎土に含まれる粘土鉱物及び造岩鉱物の同定はX線回折試験によった。測定には日本電子製JDX-8020X線回折装置を用い、次の実験条件で実験した。

Target: Cu, Filter: Ni, Voltage: 40kV, Current: 30mA, ステップ角度: 0.02°

計数時間: 0.5秒。

#### 1-3 化学分析

元素分析は日本電子製5300LV型電子顕微鏡に2001型エネルギー分散型蛍光X線分析装置をセットし、実験条件は加速電圧: 15KV、分析法: スプリント法、分析倍率: 200倍、分析有効時間: 100秒、分析指定元素10元素で行った。

### 2 X線回折試験結果の取扱い

実験結果は表1胎土性状表に示す通りである。

表1右側にはX線回折試験に基づく粘土鉱物及び造岩鉱物の組織が示してあり、左側には、各胎土に対する分類を行った結果を示している。

X線回折試験結果に基づく粘土鉱物及び造岩鉱物の各々に記載される数字はチャートの中に現われる各鉱物に特有のピークの強度を記載したものである。

#### 2-1 組成分類

##### 1) Mont-MiCa-Hb 三角ダイヤグラム

図1に示すように三角ダイヤグラムを1~13に分割し、位置分類を各胎土について行い、各胎土の位置を数字で表した。

Mont, Mica, Hbの三成分の含まれない胎土は記載不能として14にいれ、別に検討した。三角ダイヤグラムはモンモリロナイト(Mont)、雲母類(Mica)、角閃石(Hb)のX線回折試験におけるチャートのピーク強度をパーセント(%)で表示する。

モンモリロナイトは $\text{Mont}/(\text{Mont}+\text{Mica}+\text{Hb})\times 100$ でパーセントとして求め、同様にMica, Hbも計算し、三角ダイヤグラムに記載する。

三角ダイヤグラム内の1~4はMont, Mica, Hbの3成分を含み、各辺は2成分、各頂点は1成分よりなっていることを表している。

位置分類についての基本原則は図1に示す通りである。

## 2) Mont-Ch, Mica-hb 菱形ダイヤグラム

図2に示すように菱形ダイヤグラムを1~19に区分し、位置分類を数字で記載した。記載不能は20として別に検討した。

モンモリロナイト(Mont)、雲母類(Mica)、角閃石(Hb)、緑泥石(Ch)の内、

a) 3成分以上含まれない、b) Mont, Chの2成分が含まれない、

c) Mica, Hbの2成分が含まれない、の3例がある。

菱形ダイヤグラムはMont-Ch, Mica-Hbの組合せを表示するものである。Mont-Ch, Mica-HbのそれぞれのX線回折試験のチャートの強度を各々の組合せ毎にパーセントで表すもので、例えば、 $\text{Mont}/\text{Mont}+\text{Ch} \times 100$ と計算し、Mica, Hb, Chも各々同様に計算し、記載する。

菱形ダイヤグラム内にある1~7はMont, Mica, Hb, Chの4成分を含み、各辺はMont, Mica, Hb, Chのうち3成分、各頂点は2成分を含んでいることを示す。

位置分類についての基本原則は図2に示すとおりである。

## 3) 化学分析結果の取り扱い

化学分析結果は酸化物として、ノーマル法(10元素全体で100%になる)で計算し、化学分析表を作成した。化学分析表に基づいて第6図 $\text{SiO}_2\text{-Al}_2\text{O}_3$ 図、第7図 $\text{Fe}_2\text{O}_3\text{-TiO}_2$ 図、第8図 $\text{K}_2\text{O-CaO}$ 図の各図を作成した。これらの図をもとに、土器類を元素の面から分類した。

## 3 X線回折試験結果

## 3-1 タイプ分類

第1表胎土性状表にはオニキシベ4遺跡出土土器とともに対比試料のヲチャラセナイ遺跡、上幌内モイ遺跡、厚幌1遺跡、平取町額平川2遺跡、苫小牧市美沢東6遺跡より出土した土器と富良野市・上五区碎石場の原石と再堆積土が記載してある。

第3表組成分類表に示すように土器と原土はA~Iの9タイプが検出された。

Aタイプ：Hb, Chの2成分を含み、Mont, Micaの2成分に欠ける。

Bタイプ：Hb1成分を含み、Mont, Mica, Chの3成分に欠ける。

Cタイプ：Mica, Hb, Chの3成分を含み、Mont1成分に欠ける。

Dタイプ：Mica, Hbの2成分を含み、Mont, Chの2成分に欠ける。

Eタイプ：Mica, Hb, Chの3成分を含み、Mont1成分に欠ける。

組成的にはCタイプと類似するが、検出強度が異なる。

Fタイプ：Mica, Hb, の2成分を含み、Mont, Chの2成分に欠ける。

組成的にはDタイプと類似するが、検出強度が異なる。

Gタイプ：Mica, Chの2成分を含み、Mont, Hbの2成分に欠ける

Hタイプ：Mica1成分を含み、Mont, HB, Chの3成分に欠ける。

Iタイプ：Mont, Mica, Hb, Chの4成分にかける。

第3表に示すように、オニキシベ4遺跡出土土器はFタイプが8個、Hタイプが5個でこの2タイプで構成され、統一性が認められる。

## 3-2 石英(Qt)-斜長石(Pl)の相関について

土器胎土中に含まれる砂の粘土に対する混合比は粘土の材質、土器の焼成温度と大きな関わりがあ

る。土器を制作する過程で、ある粘土にある量の砂を混合して素地土を作るということは個々の集団が持つ土器制作上の固有の技術であると考えられる。

自然の状態における各地の砂は固有の石英と斜長石比を有している。この比は後背地の地質条件によって各々異なってくるものであり、言い換えれば、各地の砂はおのおの固有の石英と斜長石比を有していると言える。

第5図Qt-P1図に示すようにQtの強度が小の領域から大の領域にかけて7グループと”その他“に分類された。

Qt-1 : Qt が 380~700、PI が 0~330 の領域に分布する。

ヲチャラセナイ遺跡の土器が集中する。

Qt-2 : Qt が 760~900、PI が 420~550 の領域に分布する。

ヲチャラセナイ遺跡の土器が集中する。

Qt-3 : Qt が 100~1600、PI が 200~720 の領域に分布する。

ヲチャラセナイ遺跡、厚幌1遺跡の土器、上幌内モイ遺跡の縄文早期~後期の土器、厚幌1遺跡の縄文後期の土器、苫小牧市美沢東6遺跡の土器と上五区碎石場の原石と再堆積土とオニキシベ4遺跡の7と10の2個が共存する。

Qt-4 : Qt が 1650~2000、PI が 200~800 の領域に分布する。

オニキシベ4遺跡の土器が集中し、ヲチャラセナイ遺跡と上幌内モイ遺跡の土器が共存する。

Qt-5 : Qt が 2100~2600、PI が 0~550 の領域に分布する。

オニキシベ4遺跡の土器が集中する。

Qt-6 : Qt が 1200~1400、PI が 1000~1200 の領域に分布する。

額平川2遺跡と上五区採石場の原石が共存する。

Qt-7 : Qt が 2400~2700、PI が 740~1100 の領域に分布する。

ヲチャラセナイ遺跡の15と上五区採石場の原石が共存する。

その他 : ヲチャラセナイ遺跡の14の土器はQtの値が8252と異常に高く、異質である。上五区碎石場の44ほどの領域にも属さない。

#### 4 化学分析結果

表2化学分析表にはオニキシベ4遺跡の土器とともに対比試料のヲチャラセナイ遺跡、上幌内モイ遺跡、厚幌1遺跡、平取町額平川2遺跡、苫小牧市美沢東6遺跡より出土した土器と富良野市・上五区碎石場の原石と再堆積土が記載してある。

分析結果に基づいて第6図SiO<sub>2</sub>-Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>図、第7図Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>-TiO<sub>2</sub>図、第8図K<sub>2</sub>O-CaO図を作成した。

##### 4-1 SiO<sub>2</sub>-Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>の相関について

第6図SiO<sub>2</sub>-Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>図を基準として、オニキシベ4遺跡の土器、対比試料のヲチャラセナイ遺跡、上幌内モイ遺跡、厚幌1遺跡、平取町額平川2遺跡、苫小牧市美沢東6遺跡より出土した土器と富良野市・上五区碎石場の原石と再堆積土を含めてI~Vの5タイプと”その他“に分類した。

Iタイプ : SiO<sub>2</sub>が44~55%、Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>が30~38%の領域に分布する。

ヲチャラセナイ遺跡の土器と上幌内モイ遺跡の縄文中期～後期の土器、厚幌 1 遺跡の縄文後期の土器が共存する。

II タイプ : SiO<sub>2</sub> が 51～57%、Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub> が 26～31%の領域に分布する。

ヲチャラセナイ遺跡の土器が集中し、上幌内モイ遺跡の縄文早期の土器、厚幌 1 遺跡の縄文早期と後期の土器、美沢東 6 遺跡の縄文中期の土器、額平川 2 遺跡の縄文後期の土器が共存する。

III タイプ : SiO<sub>2</sub> が 59～66%、Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub> が 22～29%の領域に分布する。

オニキシベ 4 遺跡の土器が集中し、ヲチャラセナイ遺跡の土器が共存する。

IV タイプ : SiO<sub>2</sub> が 66～70%、Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub> が 20～22%の領域に分布する。

オニキシベ 4 遺跡の土器が集中し、ヲチャラセナイ遺跡の土器が共存する。

V タイプ : SiO<sub>2</sub> が 67～76%、Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub> が 12～17%の領域に分布する。

上五区砕石場の原石と再堆積土が集中し、ヲチャラセナイ遺跡の 11 の土器が共存する。

その他 : オニキシベ 4 遺跡の 6 は SiO<sub>2</sub> が 80%と高く異質である。ヲチャラセナイ遺跡の 7 は SiO<sub>2</sub> が 51.5%、Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub> が 17.02%、8 は SiO<sub>2</sub> が 50.82%、Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub> が 5.26%でこの 2 個ほどの領域にも属さず異質である。

#### 4-2 Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>-TiO<sub>2</sub> の相関について

第 7 図 Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>-TiO<sub>2</sub> 図に示すように、Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub> の領域によって 5 グループと”その他“に細分された。

Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub> : 1-Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub> が 1.5～5.2%、TiO<sub>2</sub> が 0.2～0.9%の領域に分布する。

上五区砕石場の原石と再堆積土が集中し、ヲチャラセナイ遺跡の 11 の土器がと共存する。

Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub> : 2-Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub> が 3.4～7.2%、TiO<sub>2</sub> が 0.8～1.3%の領域に分布する。

オニキシベ 4 遺跡の土器が集中する。

Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub> : 3-Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub> が 5.6～8.6%、TiO<sub>2</sub> が 0.5～1.2%の領域に分布する。

オニキシベ 4 遺跡の 7、12 とヲチャラセナイ遺跡と厚幌 1 遺跡の縄文早期、美沢東 6 遺跡の縄文中期の土器、額平川 2 遺跡の縄文晩期の土器が共存する

Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub> : 4-Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub> が 10.5～16%、TiO<sub>2</sub> が 0.4～1.2%の領域に分布する。

ヲチャラセナイ遺跡の土器と上幌内モイ遺跡の縄文早期と後期の土器、厚幌 1 遺跡の縄文後期が共存する。

その他 : オニキシベ 4 遺跡の 15 は TiO<sub>2</sub> の値が高く、どの領域にも属さない。ヲチャラセナイ遺跡の 13 は Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub> が 18.59%と値が高く、異質である。

#### 4-3 K<sub>2</sub>O-CaO の相関について

第 8 図 K<sub>2</sub>O-CaO 図に示すように K<sub>2</sub>O と CaO の値によって 4 グループと”その他“に分類した。

K<sub>2</sub>O : 1-K<sub>2</sub>O が 0.～1.6%、CaO が 0.15～1.4%の領域に分布する。

ヲチャラセナイ遺跡の土器が集中し、対比試料の上幌内モイ遺跡、厚幌 1 遺跡、額平川 2 遺跡、美沢東 6 遺跡の土器が共存する。

K<sub>2</sub>O:2-K<sub>2</sub>O が 1.6~2.6%、CaO が 0.5~1.3%の領域に分布する。

オニキシベ4遺跡の土器が集中する。ヲチャラセナイ遺跡の土器が共存する。

K<sub>2</sub>O:3-K<sub>2</sub>O が 5.6~6.6%、CaO が 0.8~2.1%の領域に分布する。

上五区碎石場の原石と再堆積土が集中し、ヲチャラセナイ遺跡の土器が共存する。

K<sub>2</sub>O:4-K<sub>2</sub>O が 0.5~1.6%、CaO が 1.6~2.0%の領域に分布する。

ヲチャラセナイ遺跡の土器が集中する。

”その他“：オニキシベ4遺跡の4は2グループに近く、同じグループに入るのであろう。上五区碎石場-46はどの領域にも属さず、上五区碎石場の中では異質である。

## 5 まとめ

X線回折試験と蛍光X線分析結果に基づいて、オニキシベ4遺跡の土器と対比試料のヲチャラセナイ遺跡、上幌内モイ遺跡、厚幌1遺跡、平取町額平川2遺跡、苫小牧市美沢東6遺跡より出土した土器と富良野市・上五区碎石場の原石と再堆積土を表3タイプ分類表と表4組成分類表に示すように分類した。

- 1) 表3組成分類表に示すように、オニキシベ4遺跡の土器はFタイプが16個中8個、Hタイプが5個でほとんどがこの2タイプに属し統一性がある。ヲチャラセナイ遺跡の土器胎土はA~Iの9タイプのうち、GとHタイプを除く7タイプに分類された。ヲチャラセナイ遺跡の中で最も多く検出されたのはIタイプで15個の分析のうち5個が該当し、次いでAタイプの4個、Bタイプの2個、C、D、E、Fの各1個である。
- 2) 第5図Qt-P1図に示すように、Qtの強度が小さい領域~大きい領域にかけて7グループに分散し、多種にわたる。Qt-4とQt-5のグループにはオニキシベ4遺跡の土器が集中し、タイプ分類の結果と合致し、統一性がある。
- 3) 第3表組成分類表に示すように、オニキシベ4遺跡の土器は「Ⅲタイプ・Qt-4」「Ⅲタイプ・Qt-5」の2タイプに集中する。ヲチャラセナイ遺跡の土器と対比試料の上幌内モイ遺跡、厚幌1遺跡、平取町額平川2遺跡、苫小牧市美沢東6遺跡より出土した土器と富良野市・上五区碎石場の原石と再堆積土との組成分類では16タイプに分類された。ヲチャラセナイ遺跡の土器は15個の分析で13タイプに分散し、多種にわたることを意味する。

以上の結果から明らかなように、オニキシベ4遺跡の土器は「Ⅲタイプ・Qt-4」「Ⅲタイプ・Qt-5」の2タイプに集中し、他の遺跡の土器とは明瞭に区分される。オニキシベ4遺跡の土器の7と10の土器はヲチャラセナイ遺跡の土器の領域にあり、関連性があるように見受けられる。ヲチャラセナイ遺跡の土器は15個の分析で13タイプに分類され、多種にわたることが分かる。上幌内モイ遺跡の土器も多種にわたり、ヲチャラセナイ遺跡の土器と同様の傾向が認められる。

表1 擦文土器胎土分析試料一覽

分析No.	個体名称	部位	時期	遺構名	同一個体 種別番号	備考
O-1	SP-003B	口縁部	擦文後期後半	包含層	II-31-1	沈線太、調整ミガキ
O-2	SP-004C	口縁部	擦文後期後半	包含層	II-51-1	沈線中、調整ミガキ
O-3	SP-009C	胴部	擦文後期後半	包含層	II-54-3	沈線太、調整ミガキ
O-4	SP-010I	口縁部	擦文後期後半	包含層	II-6-1	沈線細、調整ミガキ
O-5	SP-011G	胴部	擦文後期後半	III PB-08	II-31-2~4	沈線細、調整ミガキ
O-6	SP-013D	口縁部	擦文後期後半	包含層	II-6-3	沈線細、調整ミガキ
O-7	SP-014	口縁部	擦文後期後半	包含層	II-55-10	沈線中、馬蹄形貼付文
O-8	SP-016B	口縁部	擦文後期後半	包含層	II-51-2	沈線細
O-9	SP-020B	胴部	擦文後期後半	包含層	II-55-20	沈線細、調整ミガキ
O-10	SP-021	口縁部	擦文後期	包含層	II-55-9	
O-11	SP-034B	胴部	擦文後期後半	包含層	II-55-13	沈線細
O-12	SP-036	胴部	擦文後期後半	包含層	II-55-12	沈線細、調整ミガキ
O-13	SP-037	胴部	擦文後期後半	包含層	II-55-14	沈線中、調整ミガキ
O-14	比較資料ヲチSP-60B	口縁部	擦文後期後半	-	-	沈線中、調整ミガキ
O-15	比較資料ヲチSP-50	口縁部	擦文後期後半	-	-	沈線細
O-16	比較資料ヲチSP-52	胴部	擦文後期後半	-	-	沈線中、調整削毛目

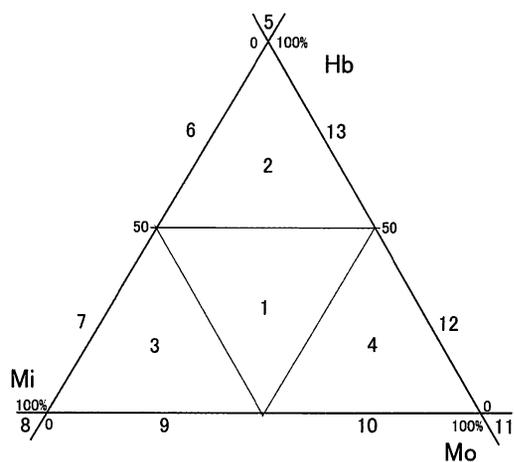
表2 胎土性状表

試料 タイプ	組成分類										化学分析表																	
	Mo-Mf-Ilb	Mo-Ch, Mf-Ilb	Mont	Mica	Ilb	Ch(Fe)	Ch(Mg)	Qt	Pl	Crist	Mullite	K-fels	Halloy	Kaol	Pyrite	Au	ガラス	Na2O	MgO	Al2O3	SiO2	K2O	CaO	TiO2	MnO	Fe2O3	NiO	Total
O-1	7	20	-	122	88	-	-	1909	269	-	-	-	-	-	-	-	-	1.29	0.00	24.67	64.70	2.16	0.73	1.26	0.01	5.18	0.00	100.00
O-2	8	20	-	130	-	-	2080	316	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.44	0.00	24.09	65.69	2.52	0.52	1.06	0.30	4.27	0.11	100.00
O-3	8	20	-	121	-	-	1890	793	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.70	0.00	28.26	60.98	1.82	0.85	1.02	0.31	5.06	0.00	100.00
O-4	8	20	-	125	-	-	1824	389	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.83	0.00	20.89	66.06	2.16	1.57	1.06	0.73	5.41	0.29	100.00
O-5	7	20	-	146	88	-	2224	109	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.24	0.00	26.98	62.75	1.98	0.60	1.03	0.02	5.16	0.25	100.01
O-6	7	20	-	86	79	-	2483	297	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.98	0.00	26.51	59.97	1.60	0.47	0.93	0.94	8.59	0.00	99.99
O-7	6	20	-	107	117	-	1506	416	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.71	0.00	20.52	69.84	2.02	0.54	0.97	0.35	3.50	0.55	100.00
O-8	7	20	-	106	72	-	2585	128	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.20	0.00	26.16	61.08	2.28	0.93	1.25	0.00	6.79	0.32	100.01
O-9	7	20	-	114	85	-	1924	541	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.54	0.00	28.29	61.77	1.87	0.71	1.00	0.09	4.74	0.00	100.01
O-10	B	5	20	-	77	-	1494	376	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.21	0.00	28.09	59.69	2.33	0.89	1.22	0.20	5.61	0.76	100.00
O-11	C	6	10	-	106	146	-	103	298	-	-	-	-	-	-	-	-	1.38	0.00	24.56	60.34	1.98	1.01	1.10	1.15	8.48	0.00	100.00
O-12	F	7	20	-	111	87	-	2216	550	-	-	-	-	-	-	-	-	2.61	0.00	24.49	63.73	1.95	0.56	1.18	0.18	5.30	0.00	100.00
O-13	H	8	20	-	113	-	2325	94	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.77	0.00	23.62	62.73	2.45	1.12	1.20	0.16	6.96	0.00	100.01
O-14	H	8	20	-	96	-	1682	583	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.09	0.00	26.17	61.29	1.83	1.10	1.72	0.36	6.41	0.00	100.00
O-15	F	7	20	-	129	86	-	2431	740	-	-	-	-	-	-	-	-	0.97	0.00	24.74	64.76	2.46	0.60	1.09	0.10	4.88	0.39	99.99
O-16	F	7	20	-	141	84	-	2173	341	-	-	-	-	-	-	-	-											

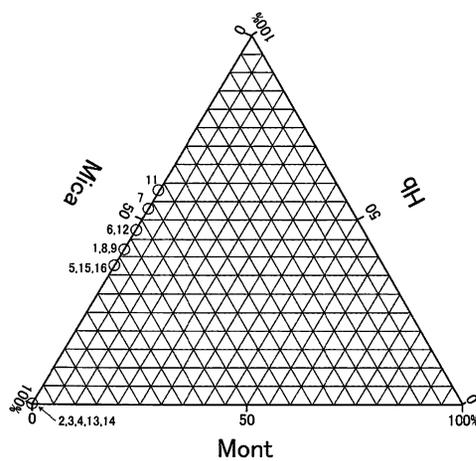
Mont:モンモリロナイト Mica:雲母類 Ilb:角閃石 Ch:緑泥石(Ch:Fe 二次反応) Qt:石英 Pl:斜長石 Crist:クristバライト  
Mullite:ムライト K-fels:カリ長石 Halloy:ハロイサイト Kaol:カオリナイト Pyrite:黄鉄鉱 Au:普通銅石 Py:紫鉄輝石

表3 組成分類表

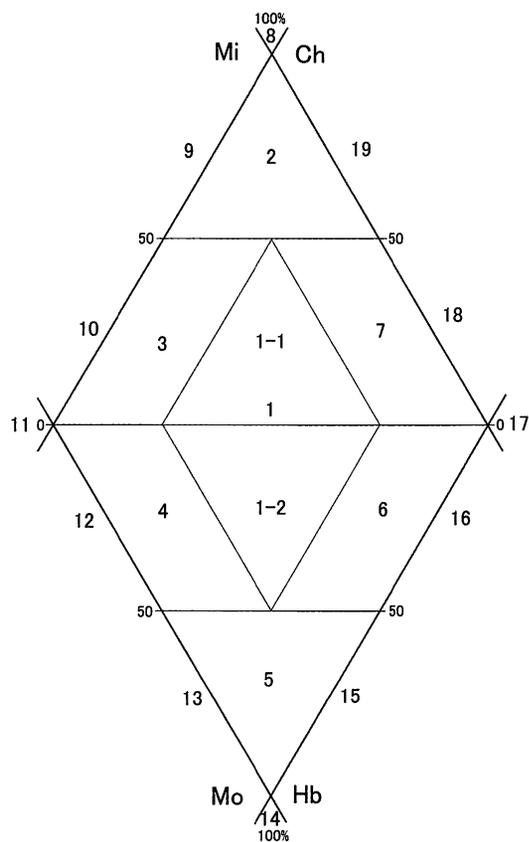
試料 No	タイプ 分類	備 考			
		器形	時期	型式	遺跡名
Iタイプ、Qt-2					
厚真-14	G	深鉢	縄文後期初頭	余市式	厚真町・上幌内モイ遺跡
S-1	I	深鉢	縄文時代前期後葉	円筒土器下層d2式	21年度ヲチャラセナイ遺跡
Iタイプ、Qt-3					
厚真-2	F	深鉢	縄文早期後葉	中茶路式	厚真町・上幌内モイ遺跡
厚真-12	G	深鉢	縄文後期初頭	余市式	厚真町・上幌内モイ遺跡
厚真-13	G	深鉢	縄文後期初頭	余市式	厚真町・上幌内モイ遺跡
厚真-23	H	深鉢	縄文早期終末	東釧路IV式	厚真町・厚幌1遺跡
S-9	A	深鉢	縄文時代前期後葉	シュブノツナイ式	21年度ヲチャラセナイ遺跡
S-13	A	深鉢	縄文時代後期前葉	円筒土器下層d2式	21年度ヲチャラセナイ遺跡
Iタイプ、Qt-4,9					
厚真-24	G	深鉢	縄文後期初頭	余市式	厚真町・厚幌1遺跡
S-14	I	深鉢	縄文時代後期前葉	円筒土器下層d2式	21年度ヲチャラセナイ遺跡
IIタイプ、Qt-1					
S-4	I	深鉢	縄文時代前期後葉	円筒土器下層d2式	21年度ヲチャラセナイ遺跡
IIタイプ、Qt-3					
厚真-1	G	深鉢	縄文早期後葉	中茶路式	厚真町・上幌内モイ遺跡
S-2	I	深鉢	縄文時代前期後葉	円筒土器下層d2式	21年度ヲチャラセナイ遺跡
S-6	C	深鉢	縄文時代前期後葉	大麻V式	21年度ヲチャラセナイ遺跡
S-12	I	深鉢	縄文時代後期前葉	円筒土器下層d2式	21年度ヲチャラセナイ遺跡
S-15	F	深鉢	縄文時代後期前葉	円筒土器下層a式	21年度ヲチャラセナイ遺跡
IIタイプ、Qt-6					
厚真-27	H	深鉢	縄文晩期中～後葉	ママチ I 群	平取町・額平川2遺跡
厚真-27	H	深鉢	縄文晩期中～後葉	ママチ I 群	平取町・額平川2遺跡
S-3	B	深鉢	縄文時代前期後葉	円筒土器下層d2式	21年度ヲチャラセナイ遺跡
IIIタイプ、Qt-3					
厚真-25	A	深鉢	縄文後期初頭	余市式	厚真町・厚幌 I 遺跡
厚真-26	H	深鉢	縄文中期後葉	柏木川式	苫小牧市・美沢東6遺跡
S-5	D	深鉢	縄文時代前期後葉	大麻V式	21年度ヲチャラセナイ遺跡
O-7	D	深鉢	擦文後期後半		24年度オニキシベ4遺跡7
O-10	B	深鉢	擦文後期後半		24年度オニキシベ4遺跡10
IIIタイプ、Qt-4					
O-1	F	深鉢	擦文後期後半		24年度オニキシベ4遺跡1
O-2	H	深鉢	擦文後期後半		24年度オニキシベ4遺跡2
O-3	H	深鉢	擦文後期後半		24年度オニキシベ4遺跡3
O-9	F	深鉢	擦文後期後半		24年度オニキシベ4遺跡9
O-11	C	深鉢	擦文後期後半		24年度オニキシベ4遺跡11
O-14	H	深鉢	擦文後期後半		24年度オニキシベ4遺跡14
IIIタイプ、Qt-5					
O-5	F	深鉢	擦文後期後半		24年度オニキシベ4遺跡5
O-12	F	深鉢	擦文後期後半		24年度オニキシベ4遺跡12
O-13	H	深鉢	擦文後期後半		24年度オニキシベ4遺跡13
O-16	F	深鉢	擦文後期後半		24年度ヲチャラセナイ遺跡16
IIIタイプ、Qt-7					
O-15	F	深鉢	擦文後期後半		24年度ヲチャラセナイ遺跡15
IVタイプ、Qt-4					
S-10	B	深鉢	縄文時代後期前葉	タブコブ式	21年度ヲチャラセナイ遺跡
O-4	H	深鉢	擦文後期後半		24年度オニキシベ4遺跡4
IVタイプ、Qt-5					
O-8	F	深鉢	擦文後期後半		24年度オニキシベ4遺跡8
Vタイプ、Qt-1~8					
厚真-43	H	原土・岩	十勝熔結凝灰岩	軽石	富良野市・上五区採石場
厚真-42	F	原土・岩	十勝熔結凝灰岩		富良野市・上五区採石場
厚真-45	D	原土・岩	十勝熔結凝灰岩	再堆積	富良野市・上五区採石場
S-11	E	深鉢	縄文時代後期前葉	北筒IV～V式?	H21年度ヲチャラセナイ遺跡
厚真-41	H	原土・岩	十勝熔結凝灰岩		富良野市・上五区採石場
厚真-46	C	原土・岩	十勝熔結凝灰岩	再堆積	富良野市・上五区採石場
厚真-44	D	原土・岩	十勝熔結凝灰岩	再堆積	富良野市・上五区採石場
VIタイプ、Qt-1					
S-7	A	深鉢	縄文時代前期後葉	大麻V式	21年度ヲチャラセナイ遺跡
S-8	A	深鉢	縄文時代前期後葉	大麻V式	21年度ヲチャラセナイ遺跡
VIタイプ、Qt-5					
O-6	F	深鉢	擦文後期後半		24年度オニキシベ4遺跡6



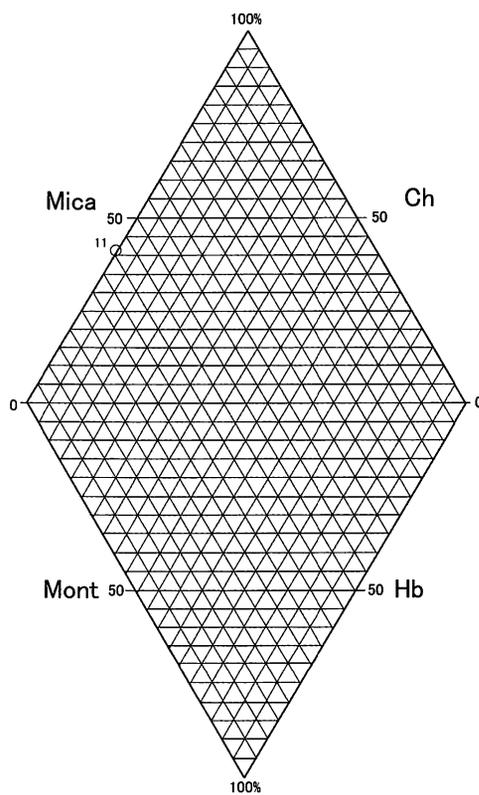
第 1 図 三角ダイアグラム位置分類図



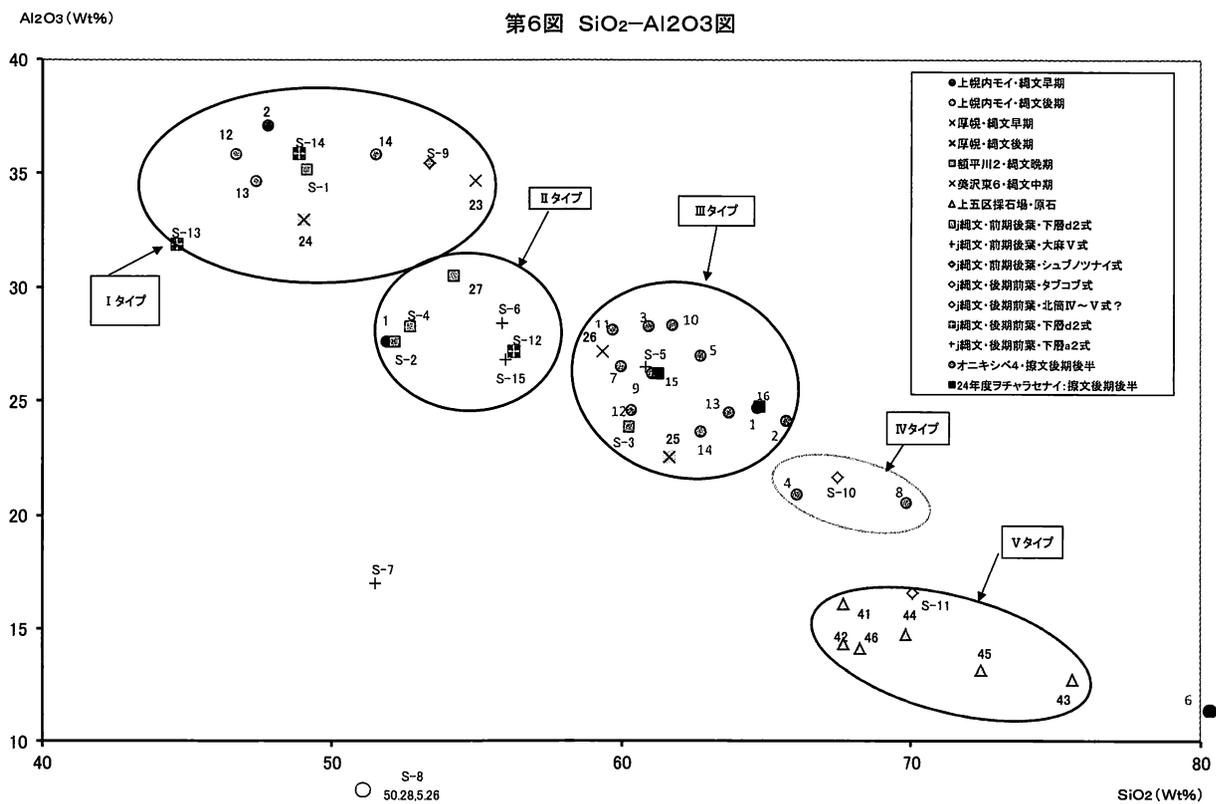
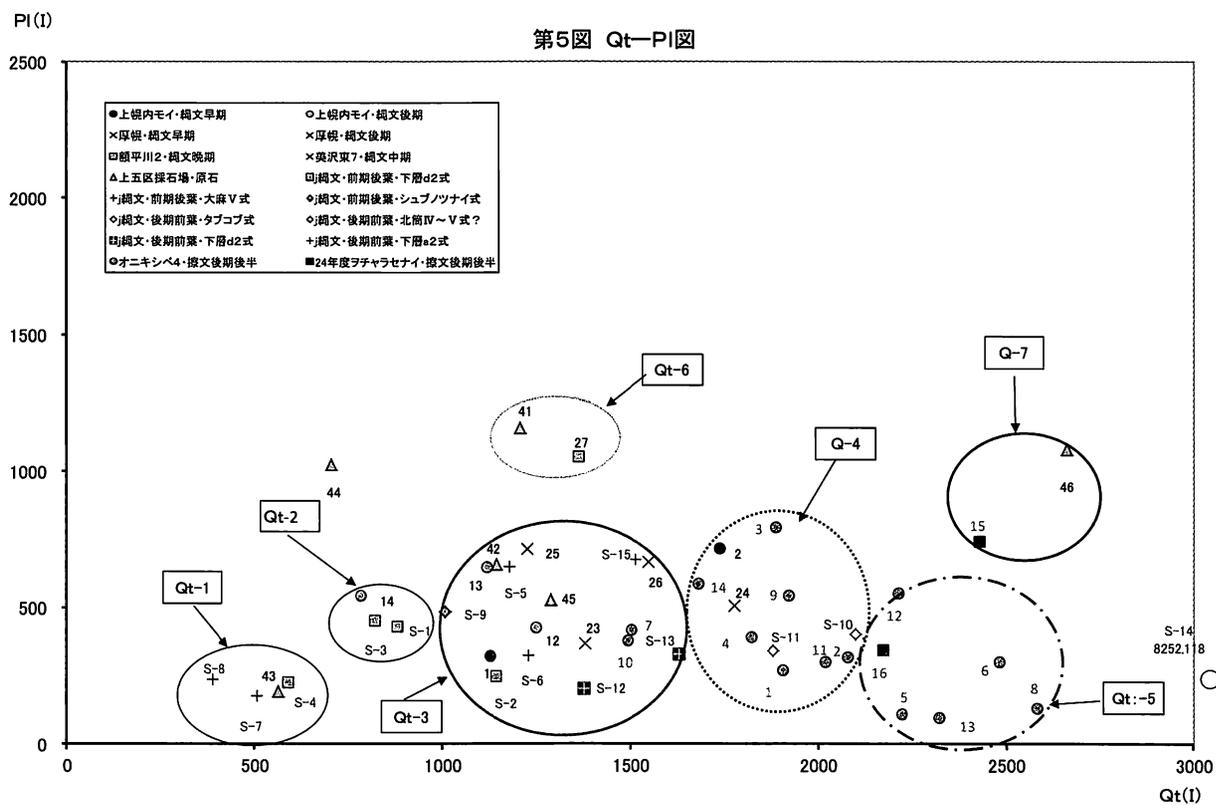
第 3 図 Mo-Mi-Hb 三角ダイアグラム



第 2 図 菱形ダイアグラム位置分類図

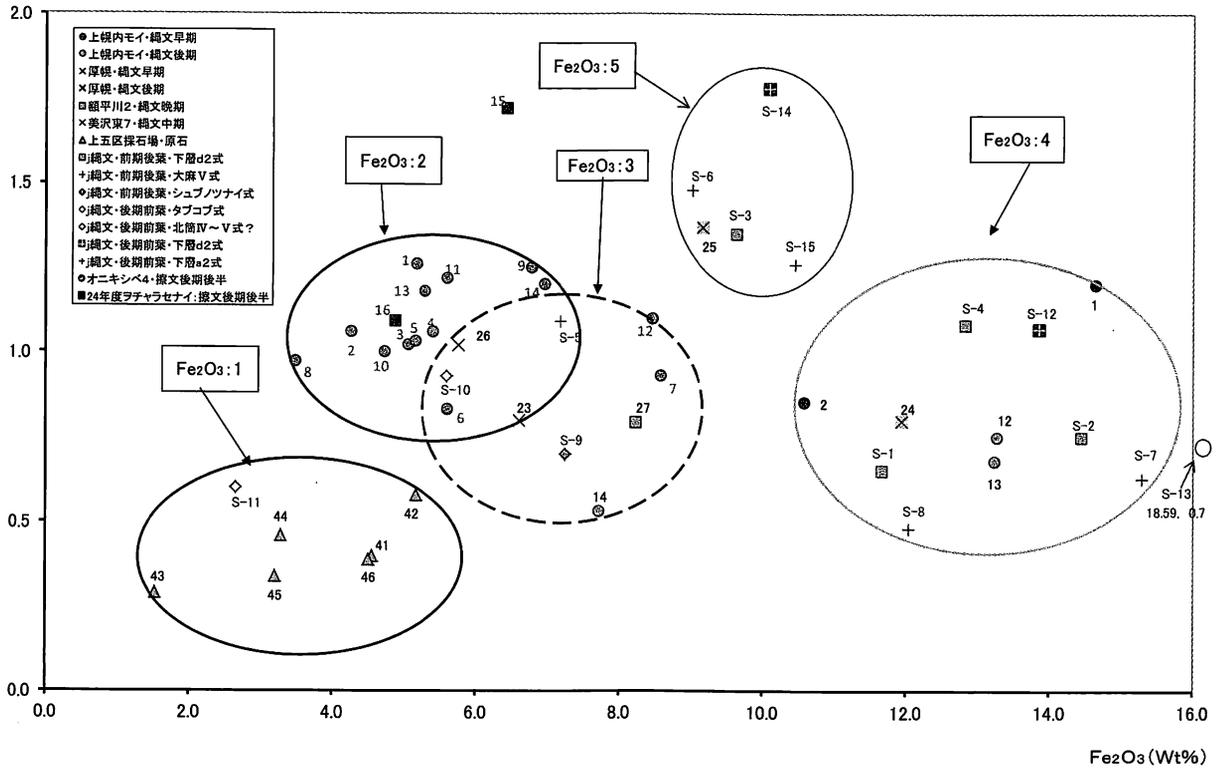


第 4 図 Mo-Ch, Mi-Hb 菱形ダイアグラム



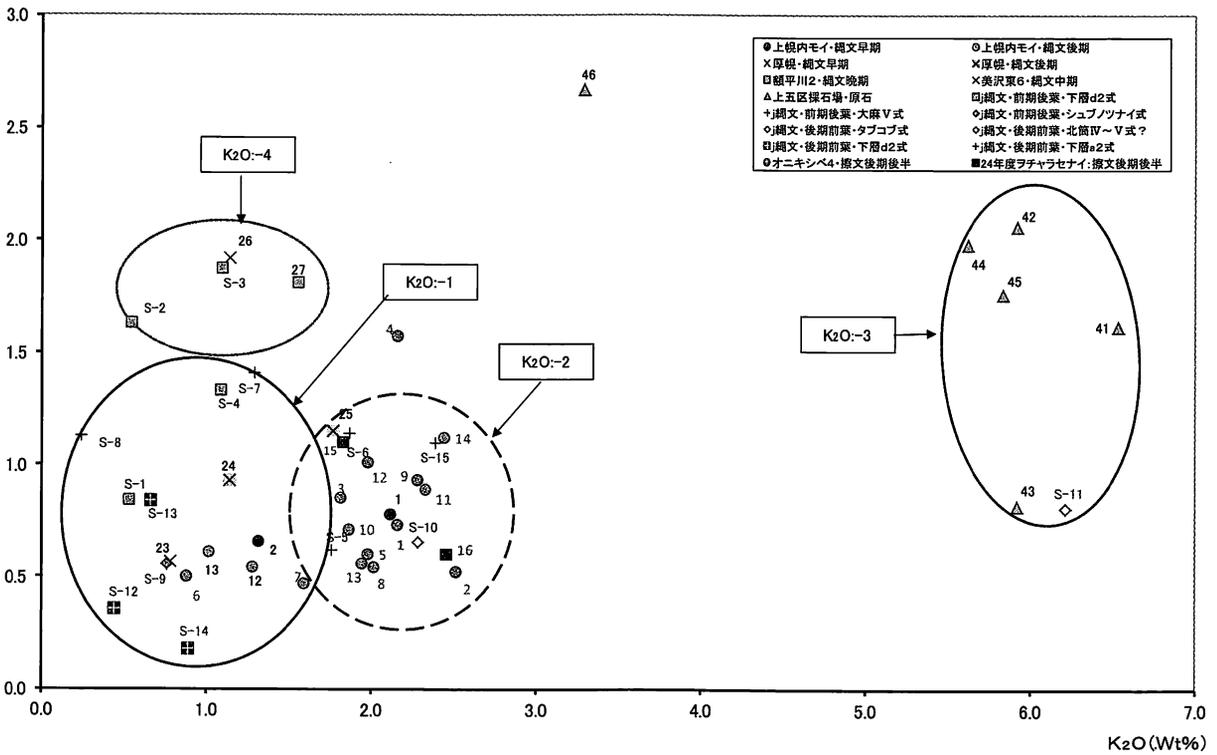
TiO<sub>2</sub> (Wt%)

第7図 Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>-TiO<sub>2</sub>図

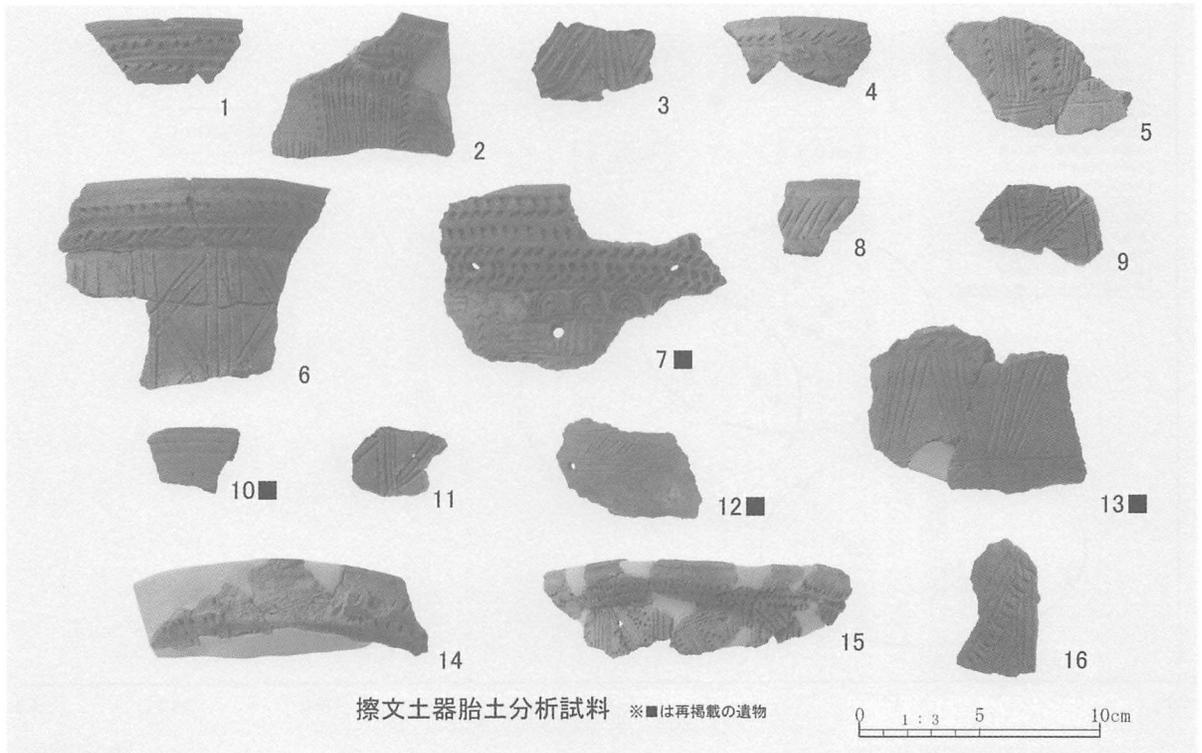


CaO (Wt%)

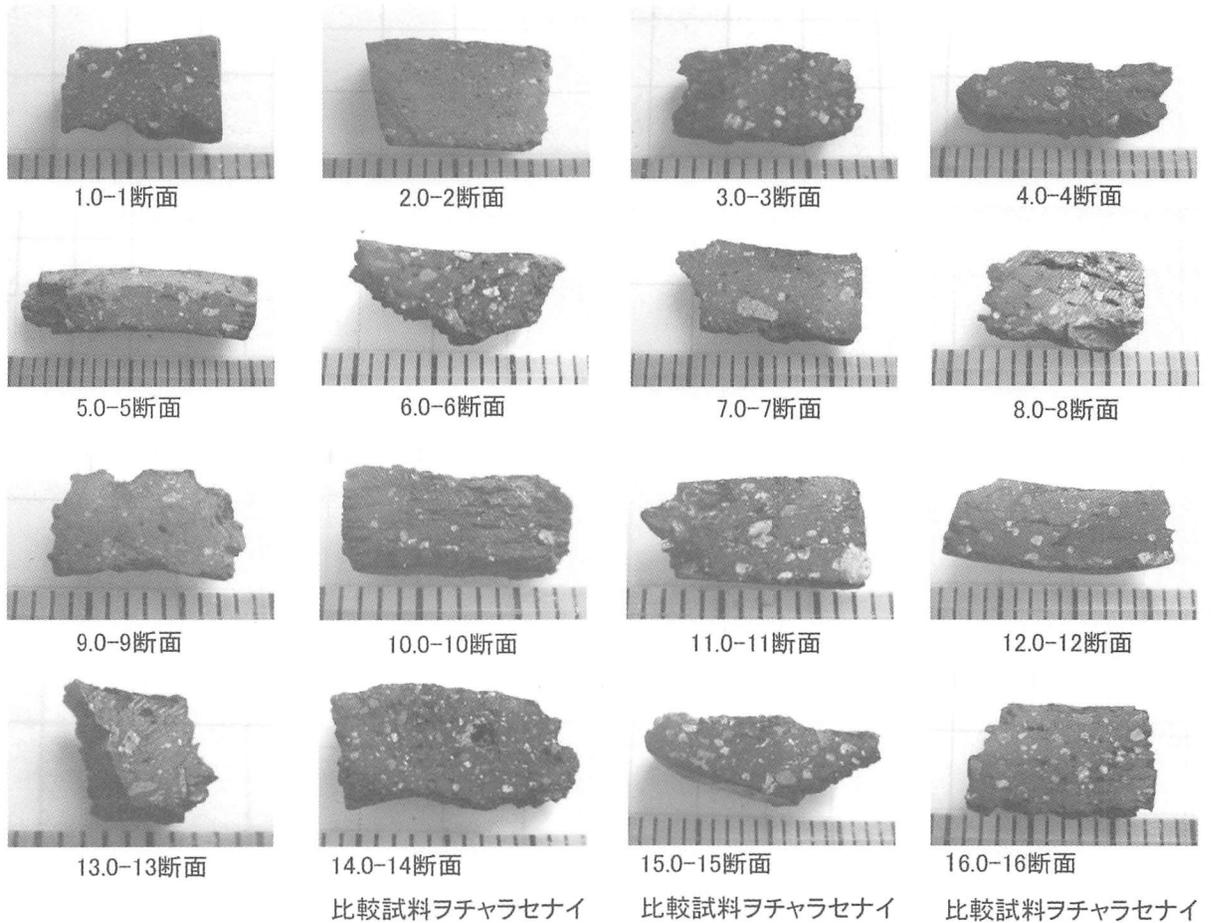
第8図 K<sub>2</sub>O-CaO図



図版1



図版2



## 6節 オニキシベ4遺跡出土環状金属製品の自然科学的調査結果

岩手県立博物館

赤沼 英男

### 1 はじめに

北海道勇払郡厚真町に所在するオニキシベ4遺跡は、厚幌ダム建設に伴い平成24年度に発掘調査が行われた。調査の結果、擦文文化期後期と推定される遺物包含層から環状金属製品が出土した。類似資料は隣接するヲチャラセナイ遺跡の13～14世紀に比定される遺構からも見出されている。擦文文化期後期からアイヌ文化期初頭に、厚真町に他地域から環状金属製品がもたらされた可能性を考えることができる。当該資料を自然化学的方法で調査しその組成を明らかにすることによって、その来歴を解明するうえでの重要な情報が得られる可能性がある。以下に調査結果を報告する。

### 2 調査資料および調査方法

調査した資料は環状金属製品(遺物番号8534)で、出土層位、出土遺物および遺構配置などから擦文文化期後期(12世紀後半)と推定されている<sup>1)</sup>。3片に破断した状態で検出され{図1(1) $a_1$ }、保存処理によって図1(1) $a_2$ の状態に修復された。調査には保存処理の過程で図1 $a_1$ に示す矢印の箇所から採取できた微小試料を用いた。採取した資料表面に固着する土砂を顕下で除去した後、肉眼観察で錆化がそれほど進んでいないと判断される部位の表面を覆う錆を、エメリー紙を使って取り除いた。摘出した試料をエチルアルコール、アセトンに浸し超音波洗浄処理した。洗浄した試料を約130℃で2時間乾かし、エポキシ樹脂に埋め込みエメリー紙で荒研磨、ダイヤモンドペーストを使って仕上げ研磨した後、研鏡面をEPMA(JXA-8230)分析した。

### 3 調査結果

摘出した試料のマクロ組織には多数の空隙や亀裂がみられる{図1(1) $b_1$ }。領域(Reg. 1)内部のEPMA 反射電子組成像(BEI)は金属光沢を呈する領域、やや灰色を呈する領域、灰色領域、および暗灰色領域によって構成されている{図1(1) $c_{1,2}$ }。EPMAによる定性分析結果および含有元素濃度分布測定によって、金属光沢を呈する領域は鉛(Pb)(わずかに酸化している)、やや灰色を呈する領域は酸化鉛(Pb-O系)、灰色領域は酸化した錫と鉛合金(Sn-Pb-O系)、暗灰色領域は酸化錫を主体とし少量の酸化鉛を含有する領域であることがわかった{図1(1) $d_{1,2}$ 、図1(2) $e_1$ }。マクロ組織には局所的にヒ素(As)および銀(Ag)も点在する{図1(2) $e_1$ }。調査した環状金属製品はSnとPb合金である。ほぼ同様の組成のニンカリはヲチャラセナイ遺跡からも見出されている<sup>2)</sup>。擦文文化期末からアイヌ文化期初頭に、Sn-Pb合金を素材とする装身具がある特定の地域から厚真町にもたらされていたものと推定される。列島内における錫資源の賦存状況を考え合わせるとその供給地域については大陸の可能性はあるが、この点については類似資料の自然科学的調査結果を蓄積しつつ、その解明を図りたい。

#### 註

- 1) 厚真町教育委員会 荻野幸男氏からのご教授による。
- 2) ヲチャラセナイ遺跡出土金属製品については同遺跡発掘調査報告書に掲載予定である。

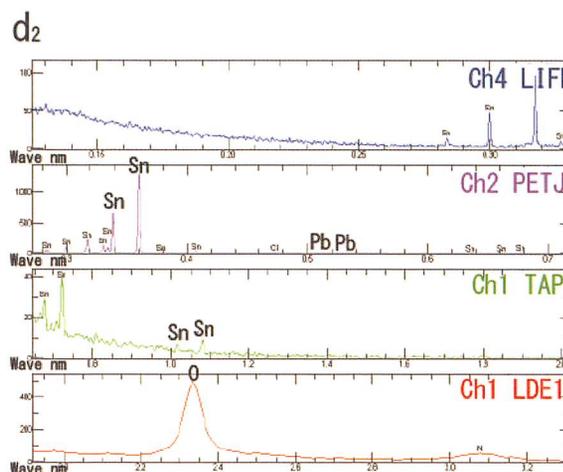
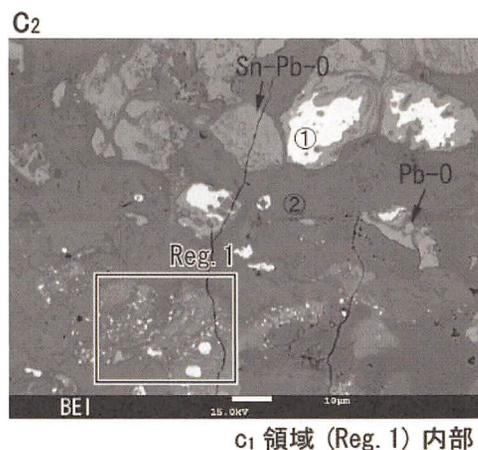
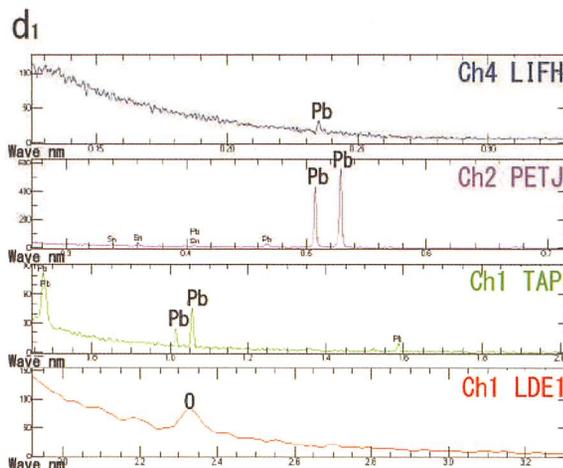
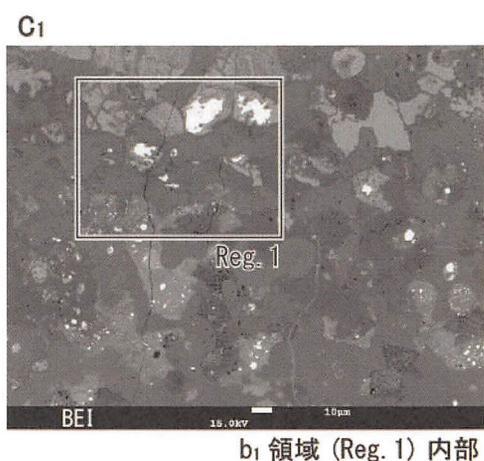
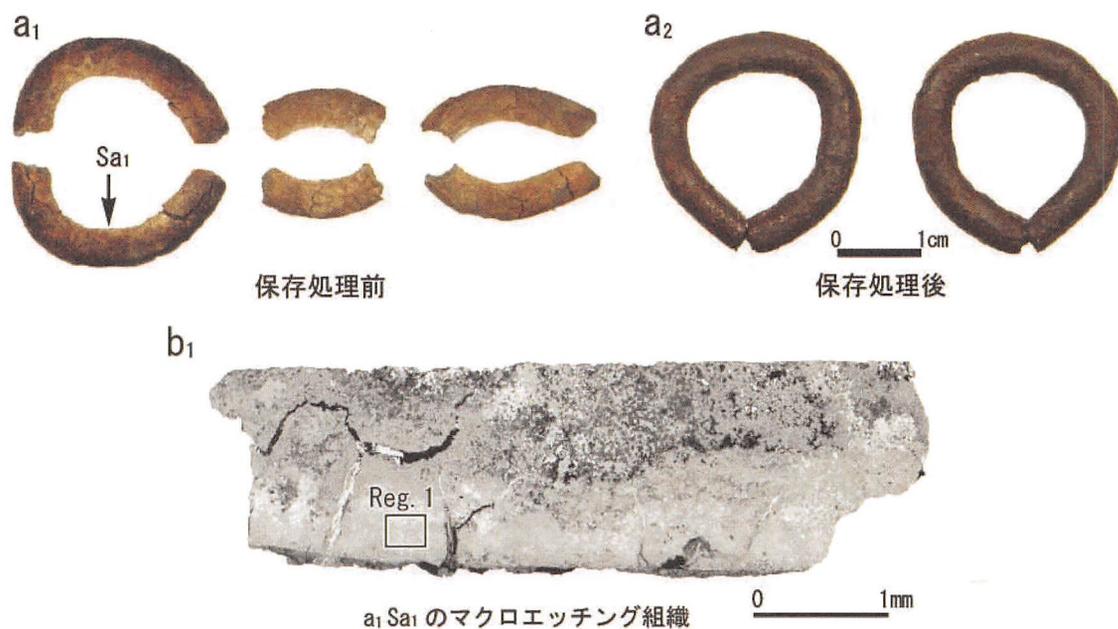
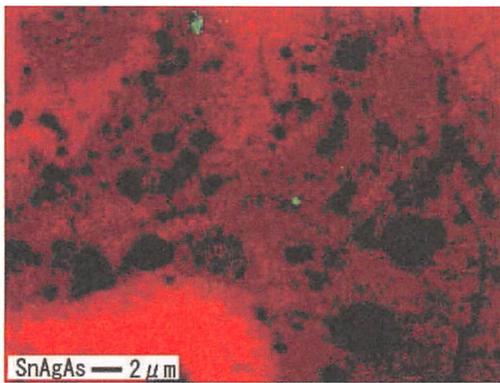
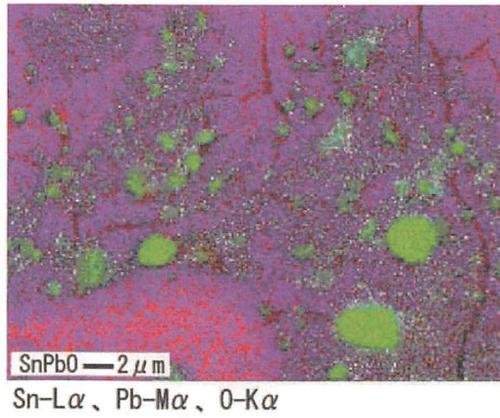
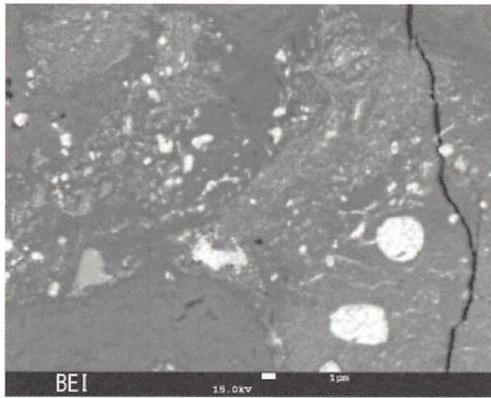


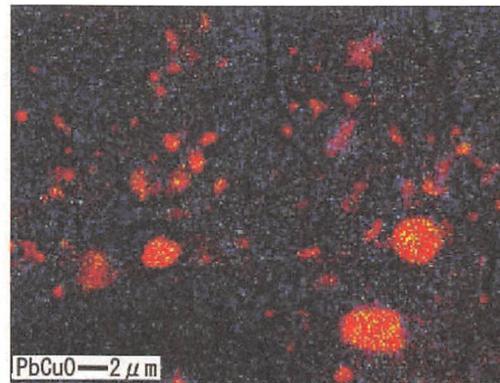
図1(1) 遺物番号8534の組織観察結果

a<sub>1</sub> : 遺物番号8534の外観。矢印は試料抽出位置。b<sub>1</sub> : a<sub>1</sub>Sa<sub>1</sub>から抽出した試料のマクロ組織。  
 c<sub>1</sub>-2 : b<sub>1</sub>領域 (Reg. 1) 内部のEPMA反射電子組成像 (BEI)。d<sub>1</sub>-2 : それぞれc<sub>2</sub>領域①、②のEPMAによる定性分析結果。

e<sub>1</sub>



Sn-Lα、Ag-Lα、As-Lα



Pb-Mα、Cu-Kα、O-Kα

図1(2) 遺物番号8534の組織観察結果

e<sub>1</sub> : 図1(1) c<sub>2</sub>領域 (Reg. 1) 内部のEPMA反射電子組成像 (BEI) と含有される元素濃度分布の複合カラーマップ。

## 7節 オニキシベ4遺跡出土礫・石器の石材同定

アースサイエンス株式会社  
加藤孝幸 米島真由子

### 同定結果

石材を肉眼、ルーペ、簡易実体鏡、マグネットを併用して観察した。結果を表1に示す。

### 考 察

#### 1. 各石材の供給源

以下に石材の同定結果に基づき、両遺跡をまとめてそれぞれの由来について地質学的に言えることを示す。

##### (1) 珪化岩（ジャスパー様岩）

珪化岩としたものは、石英を主体とする珪酸分( $\text{SiO}_2$ )が元の岩石を著しく交代した岩石である。すなわち、何らかの源岩を基にしているが、具体的には詳細不明のものである。色調は白色、灰白色、黒灰色、赤色など。赤色（や緑色）のものはとくにジャスパーと呼ばれることがある。なお、赤色細粒のものは、ときに赤色チャートと酷似するものがあるので注意が必要である（チャートは変形組織や石英脈を伴う）。珪化岩は火山活動に伴う熱水変質作用を受けた岩石であるので、源岩は火山周辺に分布する凝灰質岩などのことが多いと考えられる。赤色は石英のほかに、微細な赤鉄鉱が生成しているためである。

このような珪化岩は北海道では石狩低地帯以西の中新世～鮮新世の火山岩類分布地域に散在して分布する。また、火山活動のある地域であれば、その他の道内各地にも存在する可能性があり、産地の特定は困難である。

##### (2) 珪質頁岩

硬質頁岩と区別するために用いる。地質学的に硬質頁岩と呼ばれている地質は渡島半島の八雲層やその相当層あるいは道東などにも分布するが、これらの多くはパリパリと割れ易く、石器の石材としては不適なものである。

石器の石材として使用されているものは、一般の硬質頁岩とは明らかに異なり、加工し易い等方均質である。したがって、これをとくに「珪質頁岩」と呼ぶ。珪質頁岩は少なくとも渡島半島では、中新世の八雲層やその相当層が貫入岩の接触変質を受けた場所にもみ分布する。また、化学分析により、産地をある程度絞り込める可能性がある（森町教育委員会 編 2006）。

このような珪質頁岩は変形の進んでいない泥岩（すなわち、付加体以外の）に貫入岩がある場所という条件があれば生成するので、渡島半島と同様の作業が全道について必要であろう。

##### (3) 蛇紋岩

蛇紋岩は東方の神居古潭帯に広く分布する。しかし、より西方の夕張市紅葉山から厚真川支流のショロマ川上流にかけての中新世の滝の上層分布域にも蛇紋岩の小岩体が分布する。

##### (4) 青色片岩

青色片岩としたものは、非常に高圧の条件で形成された岩石である。これは神居古潭帯に産する。厚真町の近傍では夕張岳やそれから続く、占冠西部地域の蛇紋岩メランジュ中に産する。三石の蛇紋岩メランジュ中にも知られている。

## (5) 石英片岩

石英片岩は神居古潭峡谷地域や神居古潭帯蛇紋岩中の捕獲ブロックとして、所々に分布する。

## (6) 玄武岩(緑色岩化)、ドレライト(緑色岩化)、チャート、酸性凝灰岩(変形)

これらは一般に付加体で強く変形作用を受けた岩石で、神居古潭帯やその周辺、イドンナップ帯に分布する。

## (7) 変はんれい岩

変成作用を受けたはんれい岩の多くは日高変成帯やポロシリオフィオライト帯に分布するが、神居古潭帯にも少量認められる。

## (8) 角閃岩

角閃岩は日高変成帯(褐色角閃石角閃岩)、ポロシリオフィオライト帯(緑色角閃石角閃岩)、神居古潭帯の幌加内～美英地域、蛇紋岩中の捕獲ブロックとして分布する。

## (9) 花崗岩類

花崗岩類は日高変成帯に分布する。道内で、それ以外は石狩低地帯より西側、とくに渡島半島に分布する。

## (10) デイサイト～流紋岩

石狩低地帯より西側に所々分布している。

## (11) 玄武岩～ドレライト

緑色岩化の進んでいない玄武岩ないしドレライトは、岩脈として各地に見られる。例えば、紅葉山には古第三紀の幌内層に貫入するドレライト岩脈がある。

## 2. 厚真町の遺跡に出土する「石英質岩」について

石英の集合体(「石英質岩」とする)について、肉眼鑑定を行った。石英はありふれた鉱物であり、一般にその供給源の推定は困難である。

そこで、ここでは①「石英質岩」そのものの観察を行い、それに加えて、②「石英質岩」に付着する周囲の岩石についての観察を行って、分類を試みた。結果を表3に示す。

これによると、「石英質岩」は①石英岩(脈、プール、粒間充填状などフラクチャーや晶洞に石英が成長したと考えられるもの)、②メノウ(やはり空洞に微細な石英やオパールなどが縞状に沈澱したもの)、③珪化岩(凝灰岩などある岩石を交代して微細な石英などが生成したもの)に分けられる。

また、これらの周囲の岩石(母岩)の種類は①凝灰岩や凝灰質砂岩、②安山岩となる。これらの岩石の出所を絞り込むためには周囲の地質を編集し、あるいは関連ありそうな河川で石英質岩採取(できるだけ母岩つき)を試みるなどの作業と調査が必要である。

## 引用文献

森町教育委員会 編(2006):『茅部郡 森町 埋蔵文化財調査報告書 鷲ノ木4遺跡<分冊>』「自然科学等による諸分析 IV 石質鑑定 アースサイエンス(株)」。

表1 オニキシベン4遺跡石材同定結果

No.	遺跡名	遺構/グランド	遺物番号	細分類	遺物名	層位	石材	記載	備考
1		III B-01	8795	S	-	IIIbM	石英片岩	白色部(石英)と暗赤色部(紅簾石または赤鉄鉱)が縞状。	棒状
2		III H-01	7915	S	-	IIIbM	チャート	淡桃色。	不定形
3		III H-01	7958	S	-	IIIbL	花崗岩	細粒な花崗岩。白色(斜長石)と灰色部(石英)のゴマ塩状。	不定形
5		III H-01	8014	S	-	IIIbL	石英岩	石英の集合体。石英の脈やプールの脈が縞となったものであろう。	-
6		III H-01	8190	ST	たたき石	床面	蛇紋岩	-	円盤 図II-7-9
4		III H-01	8278	S	-	床面	珪質頁岩	黒褐色および白色。珪質頁岩は角礫化し、その間を石英が充填。	不定形
7		III SB-02	10123	S	-	床面	花崗岩	細粒な花崗岩。白色(斜長石)と灰色部(石英)のゴマ塩状。一部破碎される。	棒状
8		III SB-02	3030	S	-	IIIbM	変はんれい岩	淡褐色部と黒色部の縞状。斜長石、輝石、角閃石が認められる。	棒状
9		III SB-02	3031	S	-	IIIbM	変はんれい岩	淡褐色部と黒色部の斑状〜縞状。やや細粒。	円盤
10		III SB-02	3035	S	-	IIIbM	珪質頁岩	暗灰色。原岩は黒色泥岩。白色の石英脈が数条入る。	棒状
11		V BB-01	24728	FC	-	Va	珪化岩	帯緑灰色。原岩不明。ジャズバー。	-
13		T-39	6454	ST	加工痕のある礫	IIIc	ドレライト	暗灰色。	欠板状 被熱
12		T-39	6455	S	-	IIIc	ドレライト	暗灰色。淡褐色の斜長石が、チャンバラ状に分布。	円盤
14		U-35	15676	S	-	V	角閃岩	褐色部、黒色部と淡褐色部の斑状。やや変質作用を被る。	-
15		U-36	15628	ST	たたき石	VbU	変はんれい岩	帯緑灰色に変質。	I B2 壳
16		U-44	6124	S	-	IIIbL	変はんれい岩	淡褐色部と黒色部が斑状。斜長石、輝石が認められる。	円盤
18		V-36	13191	S	-	Va	珪化岩	白色。原岩は凝灰岩と考えられるが、詳細不明。	-
17		V-36	14640	S	-	VbL	珪化岩	白色、褐色、黒色の斑状。火山礫凝灰岩起源の強珪化岩。	-
19		V-40	1862	S	-	IIIbM	角礫岩	黒色。角礫化する。角礫は泥岩あるいは火山ガラスの可能性があるが、詳細不明。	棒状
20		V-41	1966	S	-	IIIbM	変はんれい岩	黒色の角閃石が定向配列する。角閃岩化。	円盤
22	オニキシベン4	W-36	14723	S	-	VbU	変はんれい岩	細粒な変はんれい岩。淡褐色部と黒色部がゴマ塩状。斜長石を含む。風化作用を被り、ややボロボロ。	-
21		W-36	16102	S	-	VbL	変はんれい岩	淡褐色部と黒色部が斑状。斜長石(風化)、輝石、角閃石が認められる。	-
23		W-37	13938	S	-	VbL	角閃岩	褐色角閃石?。やや粗粒であり、はんれい岩源か。	-
24		X-35	10882	S	-	VbL	花崗岩	主として石英と長石からなる。苦鉄質鉱物は風化し、不明。包有物を含む。	-
25		X-36	7019	S	-	IIIbL	蛇紋岩	白褐色。メッシュ状の構造。針状鉱物の脈が数条生成。磁石によくつく。	棒状
26		Y-34	15894	ST	磨製石斧	VbL	青色片岩	-	A2C 図IV-33-6
27		Y-36	6339	S	-	IIIbM	デイスサイト	-	不定形
28		Y-37	5217	S	-	IIIbM	玄武岩	黒褐色。斜長石斑晶あり。石英の斜長石はチャンバラ状。	-
29		Y-42	4292	S	-	IIIbL	角礫岩	褐色。原岩は凝灰岩か?幅4cm程度の石英脈(白色)が入る。	不定形
30		Z-34	16933	S	-	VI	流紋岩	石英斑晶が多い。	-
31		AA-37	14350	S	-	Vc	中粒砂岩	変形を受ける。	-
32		AA-42	16566	S	-	IIIbL	ドレライト	帯緑灰色。白色の斜長石がチャンバラ状に配列。	棒状
33		AA-46	5715	S	-	IIIbM	珪質頁岩	黒色。原岩は黒色泥岩。石英の細脈が入る。	不定形
34		AB-35	14938	S	-	VI	ドレライト	帯緑灰色。	-
35		AB-36	14727	S	-	VbU	酸性凝灰岩	帯緑灰色。変形。付加体の一部を構成していたものであろう。	-
36		AC-31-4	20510	FC	-	Va	珪化岩	帯緑灰色。半透明。	-
37		AC-36	9230	S	-	IIIbM	蛇紋岩	褐色。メッシュ状の組織。石英脈が多数生成し、最大幅10mm。	棒状
38		AD-33	9131	S	-	IIIbM	変はんれい岩	灰色部(斜長石)、黒色部(輝石など)の斑状。	円盤
39		AD-34	9584* 15629	S	-	IIIbL	凝灰岩	淡黄灰色。斜長石を含む。	棒状

表2 オニキシベ4遺跡出土破碎礫片のうち「石英質岩」同定結果

分類記号	分類名称	個数
I A	石英岩脈(源岩不明)	169
I B	(凝灰岩?)角礫岩の粒間を埋める石英岩	3
I C	凝灰岩の割れ目を充填する石英岩(脈、プール)	8
I D	玄武岩の割れ目を充填する石英岩(脈、プール)	2
I E	凝灰質砂岩の割れ目を充填する石英岩(脈、プール)	19
I F	(玄武岩入り)凝灰岩中のメノウ入り石英岩	9
I G	四角い斜長石入りの珪化岩(安山岩源)、全体としては石英岩で壁は安山岩源の珪化岩、安山岩中の石英岩	2
II	メノウ	37
III A	珪化岩(源岩不明)	21
III B	珪化岩(凝灰岩源)	4
合計		274